

# 人文社会学科 人間論コース

開設科目	哲学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。 / 検索キーワード 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神

授業の一般目標 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋哲学の基本問題を理解する。 思考・判断の観点：哲学的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。

成績評価方法（総合） 試験による。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 /  
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点：その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）心の哲学、特に、「私」に心的状態を付与する場合と、「他者」に付与する場合に一見した違いの解釈について考察する。

成績評価方法（総合）レポートもしくは試験による。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上枝美典				

授業の概要 英米系分析的宗教哲学入門。キリスト教を代表とする西洋的有神論を主として分析哲学の視点から批判的に考察する。全知と人間の自由の問題、神の存在論証、信仰と理性の問題など。

授業の一般目標 西洋的有神論の基本的な議論を理解し、宗教について自ら考えていくための基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋的有神論および無神論の基本的な議論を理解する。 思考・判断の観点：簡単な論理学の知識を具体的な問題に適用できるようになる。 関心・意欲の観点：宗教を歴史文化の一部として捉えるための距離感を獲得する。

授業の計画（全体） 別に指定する教科書の全十二章を、一回に一章のペースで論じる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 序章 内容 受講に関する一般的な注意。宗教哲学についての概説
- 第 2 回 項目 論理実証主義の宗教批判 内容 科学と宗教の関係について
- 第 3 回 項目 宗教の心理学的解釈 内容 フロイトの宗教批判について
- 第 4 回 項目 悪の問題の論理構造 内容 悪の存在に基づく無神論について
- 第 5 回 項目 自由意志による弁護 内容 悪の問題に対する伝統的な弁護論について
- 第 6 回 項目 神の基本性質 内容 西洋的有神論における神の基本性質と自由の関係について
- 第 7 回 項目 自由と責任 内容 全知全能と人間の自由について
- 第 8 回 項目 宇宙論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（1）
- 第 9 回 項目 目的論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（2）
- 第 10 回 項目 存在論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（3）
- 第 11 回 項目 信仰の倫理 内容 クリフォードによる信仰の倫理的問題点の指摘
- 第 12 回 項目 信仰という選択 内容 ジェイムズによる信仰の弁護
- 第 13 回 項目 合理性の行方 内容 信仰を現代認識論の観点から再評価する
- 第 14 回 項目 有神論と無神論 内容 ドーキンスなどの無神論について
- 第 15 回 項目 終章 内容 宗教哲学の将来へ向けて

成績評価方法（総合） レポート 7 割、出席 3 割。

教科書・参考書 教科書：「神」という謎（第二版）、上枝美典、世界思想社、2007 年

備考 集中授業

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 取り上げた哲学的議論を理解する。 思考・判断の観点： 取り上げた問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 前期は、主に日本語訳をもちいて学生がテキストを分担してレジюмеを作成、発表した後、ディスカッションを行います。

成績評価方法（総合） 授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：取り上げた二次文献の議論を理解する。 思考・判断の観点：取り上げた文献について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）各自が二次文献を一つ（ないし複数）担当し、要約を作成して授業中に発表する。

成績評価方法（総合）授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	西洋哲学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学、倫理学を専門分野とする3,4年生が各自の卒論のテーマに関する研究の発表を行います。

授業の一般目標 各人が卒論テーマに関する研究を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：発表の趣旨を理解する。 関心・意欲の観点：他人の発表内容に関心を持つ。

授業の計画(全体) 3,4年生が各回一人または二人ずつ、レジユメを作成した上で30分程度発表する。その後、教員と参加者でディスカッション。

成績評価方法(総合) 授業内での発表もしくはレポートによる。

メッセージ 哲学、倫理学の3,4年生は全員参加してください。

連絡先・オフィスアワー 932-1466 yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	青山 拓央				

授業の概要 因果性と可能性についての哲学的問題を扱います。テキストはデイヴィッド・ルイスの翻訳書や、『言語哲学大全』第二巻・第三巻などを予定していますが、出席者と相談の上、より短い論文を読む場合もあります。小論文(レポート)執筆のための、論理的なアドバイスも行ないます。

授業の一般目標 因果性と可能性について、現代哲学の諸説を学ぶとともに、自分自身の問題意識を文章化することを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 因果性と可能性についての哲学的問題を、解説・検討します。

思考・判断の観点： 既存の学説を参考に、自分自身の考えをまとめ、レポート化します。 関心・意欲の観点： 活発なディスカッションへの参加を期待します。

授業の計画(全体) 講義の半分は関連分野の研究解説に当て、残りの半分では、ディスカッションを通して、新たな問題の検討を試みる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方
- 第 2 回 項目 因果性の哲学 概説 1 内容 導入
- 第 3 回 項目 因果性の哲学 概説 2 内容 ヒューム的問題
- 第 4 回 項目 因果性の哲学 概説 3 内容 デイヴィッド・ルイス以後
- 第 5 回 項目 レポート指導 1 内容 論証についての解説
- 第 6 回 項目 可能性の哲学 概説 1 内容 導入
- 第 7 回 項目 可能性の哲学 概説 2 内容 クリプキとルイス
- 第 8 回 項目 可能性の哲学 概説 3 内容 九鬼の偶然論
- 第 9 回 項目 レポート指導 2 内容 具体的なトピック
- 第 10 回 項目 発展的問題 1 内容 決定論
- 第 11 回 項目 発展的問題 2 内容 自由意志
- 第 12 回 項目 発展的問題 3 内容 時間論
- 第 13 回 項目 レポート指導 3 内容 提出レポートの最終チェック
- 第 14 回 項目 補足 内容 レポート回収
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 提出レポートをもとに評価を行ないます。レポートの具体的な作成方法については、授業中に説明します。ディスカッションへの参加意欲も評価の参考材料とします。

教科書・参考書 参考書： 講義中に紹介します。

開設科目	倫理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 「善と悪」「正義」「幸福」「社会契約」「自由」等に関する西洋倫理思想史上の諸見解を批判的に検討しつつ、「倫理」をめぐる私たちの思考のうちに潜む謎を、謎として浮上させる。

授業の一般目標 「善悪」「幸福」「自由」をめぐる私たちの理解の根本前提をあらためて問いなおす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 西洋倫理思想史に関する基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「倫理」の基盤に関する原理的な思考をみずから展開する。

授業の計画（全体） 教科書を批判的に読解していく。

成績評価方法（総合） 期末試験および授業内レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書： 倫理とは何か 猫のインジヒトの挑戦, 永井 均, 産業図書, 2003 年

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 毎週水曜日 12:50 ~ 14:20

開設科目	西洋倫理学史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 近代の西洋倫理学史における重要テキストのひとつカント『道徳形而上学の基礎づけ』(1785年)を読む。

授業の一般目標 理性の理念としての「道徳法則」に基づいて、自由、人格、義務等の諸概念を整理しながら、私たちの誰もが従うべき「定言命法」を定式化しようとするカントの考察を、テキストに即して紹介し、その要諦を解釈していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 自由、人格、義務等の諸概念に関するカントの考察の要点を理解する。 2 「定言命法」とは何かを理解する。 思考・判断の観点： 1 「道徳法則」なるものの可能性について批判的に考察する。 2 . 倫理にとって「理性」あるいは「ratio」とは何なのか、批判的に考察する。

授業の計画(全体) 課題テキストの重要部分を紹介しながら、カント的考察の道筋を再構成し、ありうべき解釈を遂行していく。

成績評価方法(総合) 期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 参考書：『道徳形而上学原論』, カント, 岩波文庫, 1976年; 『プロレゴメナ、人倫の形而上学の基礎づけ』, カント, 中公クラシックス, 2005年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上野修				

授業の概要 17世紀最大の哲学者のひとりスピノザ (Baruch/Benedictus de Spinoza 1632-1677) の倫理思想について講義します。上野修『スピノザの世界 神あるいは自然』(講談社現代新書)をテキストとして用います。原典の邦訳を横に置いておくといいでしょう。『知性改善論』、『エチカ』はいずれも岩波文庫に入っています。

授業の一般目標 1. スピノザの倫理学・哲学の内容を理解すること。 2. スピノザの思想から生き方のヒントを得ること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. スピノザの思想の諸要点を理解できるようになること。 2. スピノザの考え方について人に話せるようになること。 思考・判断の観点: 1. 例示されるスピノザの文章を実際に読み、難読テキストの読解能力を養う。 2. スピノザの思想を実例として、事物を愛する実践能力を養う。

授業の計画(全体) 1. スピノザの企て(『知性改善論』) 2. 神あるいは自然(『エチカ』第一部) 3. 精神の起源(『エチカ』第二部) 4. 自由(『エチカ』第三部から第五部)

成績評価方法(総合) 授業終了後のレポートによる。

教科書・参考書 教科書: 『スピノザの世界 神あるいは自然』, 上野修, 講談社現代新書, 2005年 / 参考書: 『エチカ 倫理学(上)』, スピノザ, 岩波文庫, 1975年; 『エチカ 倫理学(下)』, スピノザ, 岩波文庫, 1975年; 『知性改善論』, スピノザ, 岩波文庫, 2000年

備考 集中授業

開設科目	倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ヘーゲルの『精神現象学』を読む。ドイツ語原文および英訳ならびに各種の日本語訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討し、読み進める。

授業の一般目標 ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：“Phaenomenologie des Geistes”，G.W.Hegel, Suhrkamp, 1986年；『精神の現象学』，ヘーゲル(金子武蔵訳)，岩波書店，2002年；『精神現象学』，G.W.F.ヘーゲル(櫻山欽四郎訳)，平凡社，1997年 / 参考書：『ヘーゲルの精神現象学』，金子武蔵，筑摩書房，1996年；『ヘーゲル「精神現象学」入門』，加藤尚武編，有斐閣，1996年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ヘーゲルの『精神現象学』を読む。ドイツ語原文および各種の日本語訳ならびに英訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討し、読み進める。

授業の一般目標 ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：“Phaenomenologie des Geistes”, G.W.Hegel, Suhrkamp, 1986年；『精神の現象学』,ヘーゲル(金子武蔵訳),岩波書店,2002年；『精神現象学』,G.W.F.ヘーゲル(櫻山欽四郎訳),平凡社,1997年 / 参考書：『ヘーゲルの精神現象学』,金子武蔵,筑摩書房,1996年；『ヘーゲル「精神現象学」入門』,加藤尚武編,有斐閣,1996年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ベルクソンの『創造的進化』を読む。

授業の一般目標 ベルクソン『創造的進化』の精密な読解を通じ、人間がどのような生き物である（または、あり得る）のか、を、原理的に考察するための指針を得る。

授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法（総合） 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：『創造的進化』，ベルクソン，白水社，2001年；原書（フランス語）のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20



開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ベルクソンの『創造的進化』を読む。

授業の一般目標 ベルクソン『創造的進化』の精密な読解を通じ、人間がどのような生き物である（または、あり得る）のか、を、原理的に考察するための指針を得る。

授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法（総合） 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：『創造的進化』, ベルクソン, 白水社, 2001 年；原書（フランス語）のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 人間論コースの哲学・倫理専攻学生のためのコロキウムを行う。卒業論文の完成に向けて、毎週、担当者が、研究・考察の途中経過を報告する。

授業の一般目標 よい論文を完成させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：よく調べる。 思考・判断の観点：よく考える。 関心・意欲の観点：他人の議論に耳を傾ける。「自分には関係ない」などと無関心を決め込まない。素朴さを恥じることなく、正直に質問する。 態度の観点：問題の急所を、恐れることなく掘り進む。冷笑的な態度をとらない。 技能・表現の観点：モノローグではなくダイアローグを心がける。

授業の計画(全体) 毎週、担当者が研究・考察の途中経過を報告して、出席者全員参加の討論を行う。

成績評価方法(総合) 研究考察の授業内報告と討論への貢献度で評価する。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 毎週水曜日 12:50～14:20

開設科目	中国哲学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木 智見				

**授業の概要** まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。/ 検索キーワード 古代中国、四書五経、諸子百家、考古学、神話学、甲骨文、金文、木簡、

**授業の一般目標** 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的文脈に即して理解できるようにする。ただし、今年度は文献資料の分析・紹介に重点を置く。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：中国古代について全般的な知識を獲得する。漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ、思考・判断の観点：中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ 関心・意欲の観点：いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化があったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。

**授業の計画（全体）** 新石器時代に関しては神話ならびに考古学、夏殷周については甲骨金文、春秋戦国については木竹簡、秦漢以降については帛書といった新出土史料を詳しく解説して時代状況を明らかにしたうえで、経書や諸子などの文献史料の内容を解釈・説明する。

**成績評価方法（総合）** 基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する。

**教科書・参考書** 教科書：プリント配布 / 参考書：先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001年；中国考古の重要発見, 高木智見, 日本エディタースクール, 2003年；伝統中国の歴史人類学, 高木智見, 知泉書館, 2005年；講義の中で指示

**メッセージ** 原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。

**連絡先・オフィスアワー** 人文学部5階 火曜日16時から17時

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の戦争の具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。画像石などの図像資料を多用することによって、この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。 / 検索キーワード 古代中国、国家共同体、君主、戦争、武器、図像

授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する。 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。

授業の計画（全体） 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。

成績評価方法（総合） レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 特になし / 参考書： 先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001 年 ; 授業の中で指示する

メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 火曜日16時から17時 時

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 晓芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。前期の授業科目は、国家形成期における大型環濠・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしばり、中国古代都城の特質を考える。/ 検索キーワード 陰陽死生 都城と陵墓 景観と方位 宇宙観 天・地・人・神

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体） ・本授業は、古代中国における都城と陵墓の考古学資料を時代順に整理・紹介し、文献考察や史料批判を加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に描き出すとともに、それぞれの時代特徴と思想的な背景を認識し、古代中国人の世界観と創造力を探求しようとするものである。

成績評価方法（総合） レポート提出：問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし、授業時に指示する。 / 参考書：授業時のプリント配布 楊寬『中国古代制度史研究』上海古籍出版社、1993

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	黄 晓芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。後期の授業科目は膨大な古代陵墓の発掘資料を総合的に考察・分析し、中国葬送儀礼の伝統と変革を史的展開を探り、中国人の他界観を考える。 / 検索キーワード 陰陽死生 宇宙観 天・地・人・神 都城と陵墓 景観と方位

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体）本授業は、まず、考古学発掘資料に基づき、中国古代陵墓の地上・地下の構造、副葬品の組成や装飾墳墓の特徴について、時期列に整理・考察し、中国古代陵墓の伝統と変遷を明らかにする。続いて、文献資料の考察を加えて、古代中国人の死生観を探究しようとするものである。

成績評価方法（総合）前期と同じ

教科書・参考書 教科書：前期と同じ / 参考書：授業時のプリント配布 楊寛『中国古代陵寝制度史研究』上海古籍出版社、1985年 黄晓芬『中国古代葬制の伝統と変革』勉誠社、2000年

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田 哲之				

授業の概要 上海博物館蔵戦国楚竹書(上博楚簡)は、上海博物館が1994年に香港の文物市場から購入した竹簡1200余簡からなる80余種の出土古文献の総称である。授業ではその中から儒家系文献を取り上げ、竹簡の復原や分析の方法などについて講述する。/ 検索キーワード 上海博物館蔵戦国楚竹書・戦国楚簡・孔子・論語

授業の一般目標 中国思想史研究における出土古文献の意義を理解し、戦国楚簡研究の方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 戦国楚簡の字体や形制について、基礎的な知識を習得する。

授業の計画(全体) 上博楚簡の概要を紹介し、儒家系文献を中心に検討を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 出土古文献研究の意義
- 第2回 項目 上博楚簡の概要(1)
- 第3回 項目 上博楚簡の概要(2)
- 第4回 項目 上博楚簡の釈読と復原(1)
- 第5回 項目 上博楚簡の釈読と復原(2)
- 第6回 項目 上博楚簡の釈読と復原(3)
- 第7回 項目 『中弓』における説話の変容(1)
- 第8回 項目 『中弓』における説話の変容(2)
- 第9回 項目 『中弓』における説話の変容(3)
- 第10回 項目 『中弓』における説話の変容(4)
- 第11回 項目 『弟子問』の文献的性格(1)
- 第12回 項目 『弟子問』の文献的性格(2)
- 第13回 項目 『弟子問』の文献的性格(3)
- 第14回 項目 『弟子問』の文献的性格(4)
- 第15回 項目 出土古文献研究の課題

成績評価方法(総合) 中国思想史研究において出土古文献を扱うための基礎的知識の習得。

教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: 文字の発見が歴史をゆるがす, 福田哲之, 二玄社, 2003年; 諸子百家 再発見, 浅野裕一・湯浅邦弘編, 岩波書店, 2004年; 竹簡が語る古代中国思想, 浅野裕一編, 汲古書院, 2005年; 古代思想史と郭店楚簡, 浅野裕一編, 汲古書院, 2005年; 上博楚簡研究, 湯浅邦弘編, 汲古書院, 2007年

備考 集中授業



開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 司馬遷の『史記』を精読する。昨年に引き続き、孔子世家を読む。テキストは瀧川亀太郎の『史記会注考証』を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。 / 検索キーワード 史記、孔子 春秋時代 歴史、思想 人物

授業の一般目標 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得したい。 思考・判断の観点：一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。 関心・意欲の観点：いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画(全体) 史記の原文、歴代の注釈を順に読み進めていく。史記の原史料とかつての日本人が行った訓読読みの資料を配布して、毎週、議論しながら少しずつ読み進めていく。進度は、原史料に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。一字の解釈で2時間使うことも考えられる。

成績評価方法(総合) 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする

教科書・参考書 教科書：テキストはプリントを配布します / 参考書：授業の中で指示

メッセージ 古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜15時から16時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 適当な中国思想史の文献を選び、たび重ねて読むことにする。例えば、1993年湖南省荊門市で発見された『郭店楚墓竹簡』には、『礼記』緇衣篇や『五行』と類似する内容など、儒家系史料が豊富に含まれている。それらを伝世の儒家系文献とを精読・対照することによって、戦国時代における儒家思想の位置について考える。 / 検索キーワード 漢字・漢語・中国文化

授業の一般目標 中国思想史の文献を繰り返し精読し、史料の読み解く力を少しずつ身につけることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古代漢語の語彙と文法を習得し、史料解読の方法を少しずつ身に付けることができる。 思考・判断の観点：古典の面白さを理解することができる。

授業の計画(全体) 適当な中国思想史の文献を選び、たび重ねて読解する。中国思想文化史において、習得すべきさまざまな事柄(漢字・文法・文体・文化知識)を古典の読む練習を通じて整理・説明していく。

成績評価方法(総合) レポート提出：古典の読解力、文章の表現力を見て総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

開設科目	中国思想演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。 / 検索キーワード 中国語、思想、歴史、文学

授業の一般目標 中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。やさしく書かれたテキストを用いる予定であるが、ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得する 思考・判断の観点： 中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。 関心・意欲の観点： 中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画（全体） 中国語の論文を順に読み進めていく。資料を配布して、毎週、議論しながら、なるべく多くの文章を丁寧に読み進めていく。ただし進度は、文章に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。

成績評価方法（総合） 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する

教科書・参考書 教科書： プリント配布

メッセージ 読む文章は、受講生と話し合っ決めて決めるつもりですが、第一候補は疑古派の研究法に関する文章を考えています。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 高木研究室 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。/検索キーワード 卒論、資料収集、構想、討論

授業の一般目標 与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。3年生は、先輩の論文作成作業の進め方を間近で観察し、様々な教訓を得て、実際の作成作業に生かす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らのテーマを確定することが出来る。史料状況を明確に把握する。過去の研究の蓄積を把握、消化する。 思考・判断の観点：自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。 関心・意欲の観点：自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。

授業の計画(全体) 学生諸君の様々な条件により、授業の進め方は様々に変わってくる。しかし、5月中には、テーマを具体化して、論文の骨組みを作り、夏休みにそれについて各自が研究する。10月には論文の構想を明確化して、それ以降、軌道修正などを行い、12月半ばで9割の完成度を目指す。

成績評価方法(総合) 日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：授業の中で指示

メッセージ 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。

連絡先・オフィスアワー 5階 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期と同じ / 検索キーワード 前期と同じ

授業の一般目標 前期と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画(全体) 前期と同じ

成績評価方法(総合) 前期と同じ

教科書・参考書 教科書：特になし / 参考書：授業中に指示

メッセージ 前期と同じ

連絡先・オフィスアワー 5階 火曜日15時から16時

開設科目	日本倫理思想史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 古代・中世日本仏教思想史 - 昨年度は「神」を核に、古代日本における倫理思想を学びました。今年度は「仏法」を核として、古代・中世日本における倫理思想を学びます。テキストに沿って伝来・土着・成熟の諸相を追いながら、「神」と異なるもう一つの原理としての「仏法」とは何であったか、考えていきます。 / 検索キーワード 日本仏教史

授業の一般目標 仏教史の流れに即して、古代・中世日本倫理思想の一端に触れること。

授業の計画(全体) 基本的にテキストの叙述に沿って進みます。受講者には、あらかじめテキストの該当箇所に目を通して授業に臨むこと、授業の終わりに小レポートを書いて提出することが課せられます。なお、週単位の授業計画については初回授業時にお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的なことがらについての知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書: 『日本倫理思想史』(第二刷), 佐藤正英, 東京大学出版会, 2004年; 山口大学生協ブックセンターにて販売。定価 2,730 円。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本倫理思想史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤 一				

授業の概要 近世の倫理思想 近世日本の倫理思想の諸相を概観します。指定教科書にしたがって、「武士の思想」「儒学の思想」「国学の思想」「庶民の思想」等を対象とします。/ 検索キーワード 日本近世の倫理思想

授業の一般目標 日本の過去の倫理思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

授業の計画(全体) 指定教科書の叙述にしたがって進めます。受講者は、予め、該当箇所を読んできてください。内容は、『三河物語』と『葉隠』、「朱子学の移入」「陽明学派」「古学の勃興」「国学の成立」「本居宣長」「近松門左衛門」「西川如見」「石田梅岩」等です。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に 10 分程度を費やして、授業内レポートを課します(40 点)。期末試験を実施します(60 点) レポート提出に替えることもあります。

教科書・参考書 教科書：『日本倫理思想史』, 佐藤正英, 東京大学出版会, 2003 年 / 参考書：『日本文化の歴史』, 尾藤正英, 岩波新書, 2000 年; 適宜、複写資料を配付します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50~14:20



開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

**授業の概要** 荻生徂徠の思想 前年度後期に続き、荻生徂徠(1666～1728)の思想を考察します。徂徠は近世儒学思想の高峰、分水嶺です。儒学の政治的側面をクローズアップしましたので、「日本のマキャベリ」と言われることもあります。儒学者ですので、マキャベリほどあられもないことは言いません。また、漢文だけではなく和文の著作もあって、当時の世態・人情を活写しています。徂徠を考察していると、現代の問題が見えてきます。 / 検索キーワード 荻生徂徠、近世儒学思想、古文辞学

**授業の一般目標** 徂徠の思想を理解します。そのことによって、徂徠の思想と自らの思想とを比較し、以て自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

**授業の計画(全体)** 徂徠の『答問書』、『政談』、『学則』、『辨道』、『辨名』、『論語徴』等を考察します。

**成績評価方法(総合)** 学期末にレポートを課します(100%)。

**教科書・参考書** 教科書：使用しません(適宜、複写資料を配付します)。 / 参考書：『近世日本社会と儒教』, 黒住真, ぺりかん社, 2003年 『複数性の日本思想』, 黒住真, ぺりかん社, 2006年 他は授業の際に、適宜、紹介します。

**メッセージ** 徂徠ははじめてという学生諸君にもわかるように、学期初めは概要を解説します。

**連絡先・オフィスアワー** 研究室:人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 中世日本における世界観・人間観の一側面 - 昨年度は神道説話集をもとに、中世日本の「神」観念の一端を扱いました。今年度は、同じ中世でも「仏法」に関わる思想を探り上げます。はじめに、古代以来、仏・菩薩・天・人間・神がどのような存在として捉えられていたか、それぞれの時間的在りように焦点をあて、教説よりむしろ物語を通して得られた実感的理解を探ります。次いで、平安末期以降、動乱の世という現実にあふれた仏法的知性が、世界と人間の営為の全体をどのように捉えていったか、見ていきます。難解といわれるテキストですが、『愚管抄』をできるだけゆっくり読み、必要に応じて他のテキストを参照したいと思います。

授業の一般目標 まず、仏法における人間観・超越観について基本的知識をもつこと。さらに、中世の具体的な現実と出会う中で、世界と人為の全体を捉えるどのような見方が生まれたか、テキストに即して理解すること。

授業の計画(全体) 毎回何かしらテキストを読み、テキストに即して考えます。はじめ数週は仏教説話集や経典を、のち『愚管抄』や『平家物語』の抜粋を探り上げる予定です。テキストは前週に予め配付し予習してきていただく場合もあれば、当日配付する場合があります。毎授業時間の終了時に課す小レポートでは、理解した(もしくは理解しきれなかった)当日の授業内容について、まとめを書いていただきます。なお、週単位の授業計画については初回授業時にお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的な知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書: プリントを配付します。/ 参考書: 『愚管抄を読む』講談社学術文庫 1381, 大隅和雄, 講談社, 1999年; 『慈円 北畠親房』中公バックス 日本の名著 9(現在品切中), 永原慶二編, 中央公論新社, 1983年; 他の参考文献については授業中に随時紹介します。

メッセージ 『愚管抄』については、注のみで現代語訳のないテキストを用います。しばしば晦渋といわれる文章でもあり、できるだけゆっくり読み進めますが、自発性と根気をもって取り組んでくださることを期待します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4階 410 研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 近世日本思想文献を読む 近世日本思想の基本的文献を何冊か読みます。はじめに、昨年度に読む余裕がなかった山本常朝『葉隠』の聞書一、二を読みます。その他には、大道寺友山『武道初心集』、西川如見『町人囊』、荻生徂徠『徂來先生答問書』、貝原益軒『大疑録』等を予定しています(後期の予定も含まれます)。文献の選択については、受講者からの希望も考慮します。/ 検索キーワード 近世日本思想、葉隠

授業の一般目標 文献を内在的に読む姿勢を養います。相手の見解が自らの見解と異なるとき、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度を身につけることが目標です。

授業の計画(全体) まず、『葉隠』を6～8回で読む予定です。他については、受講者の希望を考慮します。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書: テキストは、初回の授業の際に指示します。/ 参考書: 講義の際に、適宜、紹介します。

メッセージ 文献を内在的に読む姿勢を、くれぐれもお忘れなきよう。相手の見解が自らの見解と異なるとき、批判を先立てずに、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度は、生活の基本ではないでしょうか。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー: 木曜日 12:50～14:20  
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 近世日本思想文献を読む 前期から引き続き近世日本思想の基本的文献を何冊か読みます。前期を参照してください。後期からの参加でも、すこしも差し支えはありません。文献の選択については、受講者からの希望も考慮します。 / 検索キーワード 近世日本思想

授業の一般目標 前期を参照してください。

授業の計画(全体) 前期を参照してください。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書：前期を参照してください。 / 参考書：講義の際に、適宜、紹介します。

メッセージ 文献を内在的に読む姿勢を、くれぐれもお忘れなきよう。相手の見解が自らの見解と異なる時、批判を先立てずに、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度は、生活の基本ではないでしょうか。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20  
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

**授業の概要** 『宝物集』を読む 平康頼編，鎌倉時代成立の仏教説話集『宝物集』を読みます。全体は、清涼寺釈迦堂に参籠する人々が、一夜、この世の宝とは何かをさまざまに論じ、仏法こそ宝との結論に至るまで、また、とある僧が六道の苦相を描き、成仏の十二の方法を示す語り、から構成されます。参籠者と僧との対話は、鬼界が鳥流罪から帰還・上洛した男によって傍聴・筆録されるという体裁です。仏法の術語、歴史的人物等の固有名詞、和歌や漢詩など多く含む文章は、はじめは読むのにちょっと難儀するかもしれませんが。注(現代語訳はありません)を参照しながら、一回あたりの分量は少なめに、ゆっくり慣れていきたいと思えます。前期は全七巻のうち、巻第四途中までを扱う予定です。/検索キーワード 宝物集

**授業の一般目標** 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

**授業の計画(全体)** 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします(あるいは、授業前に提出していただき、議論の材料として用いるかもしれません)。

**授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 04/9 導入
- 第 2 回 項目 04/16 pp.03-14 内容 「釈迦像の由来」まで
- 第 3 回 項目 04/23 pp.14-23 内容 「玉は宝にあらず」まで
- 第 4 回 項目 04/30 pp.23-38 内容 「子は宝にあらず」まで
- 第 5 回 項目 05/07 pp.38-49 内容 巻第一終わりまで
- 第 6 回 項目 05/14 pp.51-66 内容 「飛花落葉」まで
- 第 7 回 項目 05/21 p.66-75 内容 「修羅道」まで
- 第 8 回 項目 05/28 pp.75-91 内容 「死苦」まで
- 第 9 回 項目 06/04 pp.91-106 内容 巻第二終わりまで
- 第 10 回 項目 06/11 pp.107-132 内容 「愛別離苦」まで
- 第 11 回 項目 06/18 pp.132-140 内容 「求不得苦」まで
- 第 12 回 項目 06/25 pp.140-148 内容 巻第三終わりまで
- 第 13 回 項目 07/09 pp.149-160 内容 「道心おこし難し」まで
- 第 14 回 項目 07/16 pp.160-168 内容 「出家の功德」まで
- 第 15 回 項目 期末レポート

**成績評価方法(総合)** (1) 授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

**教科書・参考書** 教科書: 『宝物集 閑居友 比良山古人霊託』(新日本古典文学大系 40), 小泉弘ほか校注, 岩波書店, 1993 年; 大学生協ブックセンターにて販売。定価 4,515 円。

**メッセージ** 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 『宝物集』を読む 前期に引き続き、平康頼編、鎌倉時代成立の仏教説話集『宝物集』を読みます。前期シラバスを参照して下さい。後期は巻第四途中から巻第七を扱い、読了後は同じ教科書所収の他の作品を読む予定です。/ 検索キーワード 宝物集

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします(あるいは、授業前に提出していただき、議論の材料として用いるかもしれません)。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 10/01 導入
- 第 2 回 項目 10/08 pp.168-191 内容 巻第四終わりまで
- 第 3 回 項目 10/15 pp.193-212 の 2 行目 内容 「持戒」前半
- 第 4 回 項目 10/22 pp.212 の 3 行目-231 内容 「持戒」後半
- 第 5 回 項目 10/29 pp.231-253 内容 巻第五終わりまで
- 第 6 回 項目 11/05 pp.255-273 内容 「刹利居士の懺悔」まで
- 第 7 回 項目 11/12 pp.273-289 内容 「真如実相観」まで
- 第 8 回 項目 11/19 pp.289-305 内容 巻第六終わりまで
- 第 9 回 項目 11/26 pp.307-321 内容 「善知識」まで
- 第 10 回 項目 12/03 pp.321-331 内容 「法華経」まで
- 第 11 回 項目 12/10 p.332-352 内容 巻第七終わりまで
- 第 12 回 項目 12/17 内容 『閑居友』上巻 1～10
- 第 13 回 項目 12/24 内容 『閑居友』上巻 11～21
- 第 14 回 項目 01/14 内容 『閑居友』下巻 1～11
- 第 15 回 項目 期末レポート

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『宝物集 閑居友 比良山古人霊託』(新日本古典文学大系 40), 小泉弘ほか校注, 岩波書店, 1993 年; 大学生協ブックセンターにて販売。定価 4,515 円。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 「卒業論文執筆のための演習」 日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポート相互に批評します。

授業の一般目標 論文執筆の作法を身につけることを目指します。 日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。 学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者にかかれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。

授業の計画(全体) 論文執筆作法、また研究作法の書物を数冊読みます。 受講生は、自らのテーマについての研究成果を発表します。 他の受講生は、その成果発表に質問をします。

成績評価方法(総合) 各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。 その成果を文章化する期末レポートを課します。

教科書・参考書 教科書：未定。過去には、ウンベルト・エーコ『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』(而立書房、1991) 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001)等々を読みました。 / 参考書：参考文献リストを配付します。

メッセージ テキストを内在的に理解するのが基本です。

連絡先・オフィスアワー 大抵の時間は研究室にいますので、いつでもどうぞ。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 前期を参照

授業の一般目標 前期を参照

授業の計画(全体) 前期を参照

成績評価方法(総合) 前期を参照

教科書・参考書 教科書：前期を参照 / 参考書：前期を参照

連絡先・オフィスアワー 前期を参照



開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 井原西鶴を読む 元禄の頃の井原西鶴の『西鶴置土産』『武道伝来記』等を読み、近世の人間観、世界観を探ります。 / 検索キーワード 井原西鶴

授業の一般目標 先入見を超え、テキストに内在的に読む姿勢を養います。

授業の計画(全体) 『西鶴置土産』から取りかかります。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書：初回の授業の際に指示します。 / 参考書：初回の授業の際に文献紹介をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中にお知らせします。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想, 精密な推論, 広い視野, 有機的な関心, 明晰な文章, 等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中にお知らせします。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 『古事記』を読む 昨年度、日本倫理思想史の授業で『古事記』上巻前半を扱いました。『古事記』について、誰でもその挿話のいくつかは知っているものの、通読したことのある方、全体像を思い描くことのできる方は多くないようでした。この授業では半期で上・中・下巻を通読し、大まかではあってもテキスト全容を知り、その思想について基本的理解をもてるようになるよう、めざします。

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします(ただし、受講者数によっては方法を変更するかもしれません)。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 09/30 導入
- 第 2 回 項目 10/07 上巻 内容 pp.17-38
- 第 3 回 項目 10/14 同上 内容 pp.38-58
- 第 4 回 項目 10/21 同上 内容 pp.58-78
- 第 5 回 項目 10/28 同上 内容 pp.78-96
- 第 6 回 項目 11/04 同上 内容 pp.96-107
- 第 7 回 項目 11/11 中巻 内容 pp.108-128
- 第 8 回 項目 11/18 同上 内容 pp.128-147
- 第 9 回 項目 11/25 同上 内容 pp.147-165
- 第 10 回 項目 12/02 同上 内容 pp.165-183
- 第 11 回 項目 12/09 同上 内容 pp.183-203
- 第 12 回 項目 12/16 下巻 内容 pp.204-225
- 第 13 回 項目 01/13 同上 内容 pp.225-245
- 第 14 回 項目 01/20 同上 内容 pp.245-271
- 第 15 回 項目 期末レポート

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読, 自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢, および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『古事記』新潮日本古典集成, 西宮一民校注, 新潮社, 1979年; 山口大学生協ブックセンターにて販売。3,570円。/ 参考書: 『古事記注釈』全8巻、ちくま学芸文庫, 西郷信綱, 筑摩書房, 2007年; 『古事記』新編日本古典文学全集1, 山口佳紀、神野志隆光訳, 小学館, 1997年; 『古事記日本書紀必携』別冊国文学(現在品切中), 神野志隆光編, 學燈社, 1996年; 『日本神話がわかる。』(アエラムック72), 朝日新聞社, 2001年; 他の参考文献は随時授業中に紹介します。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを確定し、報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい(テキストについて確認し、予習用紙等を受け取り、予習をして授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	宗教学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 前期の宗教学概論は、「現代世界における宗教の実態と変容」をテーマとする。テキスト資料にある宗教の事例をもとに、宗教的な現象と表象の「理解」を試みる。個々の事例を、宗教学における古典理論と現代的な枠組みの両方から捉え、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて体系的・本質的に考察する。 / 検索キーワード 宗教、世界宗教、民間信仰、民俗宗教、アニミズム、自然崇拜、自然宗教、創唱宗教、聖俗

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と宗教現象全般について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行いが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教を見る視点と枠組み
- 第 2 回 項目 現代ヨーロッパの宗教（1）
- 第 3 回 項目 現代ヨーロッパの宗教（2）
- 第 4 回 項目 現代アメリカの宗教
- 第 5 回 項目 現代インドの宗教
- 第 6 回 項目 現代中国の宗教（1）
- 第 7 回 項目 現代中国の宗教（2）
- 第 8 回 項目 現代タイの宗教
- 第 9 回 項目 現代インドネシアの宗教
- 第 10 回 項目 現代日本の宗教（1）
- 第 11 回 項目 現代日本の宗教（2）
- 第 12 回 項目 現代イスラム教
- 第 13 回 項目 現代ロシアの宗教
- 第 14 回 項目 現代ラテン・アメリカの宗教
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．レポートを4回課す（4月、5月、6月、7月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第5回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：世界の諸宗教 II, ニニアン・スマート, 教文館, 2002年；上記の教科書を用いるが、状況次第では、部分的なコピーまたはPDFファイルを配布することもある。 / 参考書：必要に応じて授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホーム  
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部  
413号室

開設科目	宗教学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 後期の宗教学概論「宗教学の古典理論と現代的応用」をテーマとする。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて体系的・本質的に考察する。／検索キーワード 宗教、世界宗教、民間信仰、民俗宗教、アニミズム、自然崇拜、自然宗教、創唱宗教、トーテミズム、自殺、ウェーバー、デュルケーム、ユング、聖俗、カリスマ、無意識、ヌミノーズ、ヌーメン、ヒエロファニー、元型、祖型、呪術、シャーマニズム

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と宗教現象全般について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と呪術（1）
- 第 2 回 項目 宗教と呪術（2）
- 第 3 回 項目 シャーマニズム
- 第 4 回 項目 宗教経験
- 第 5 回 項目 宗教心理（1）
- 第 6 回 項目 宗教心理（2）
- 第 7 回 項目 社会現象として見る宗教（デュルケーム宗教論）その 1
- 第 8 回 項目 社会現象として見る宗教（デュルケーム宗教論）その 2
- 第 9 回 項目 聖なるものとして見る宗教（エリアーデ宗教論）その 1
- 第 10 回 項目 聖なるものとして見る宗教（エリアーデ宗教論）その 2
- 第 11 回 項目 社会的行為として見る宗教（ウェーバー宗教論）その 1
- 第 12 回 項目 社会的行為として見る宗教（ウェーバー宗教論）その 2
- 第 13 回 項目 マルクス宗教論
- 第 14 回 項目 アニミズムからアニメ
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．レポートを 4 回課す（10 月、11 月、12 月、1 月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第 5 回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホーム  
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部  
413号室



開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 前期の宗教学特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、男性の力を上回る神妃や女神が常に伴うのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？ / 検索キーワード 宗教、女性、ジェンダー、女神

授業の一般目標 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教とは何か？」および「宗教と女性の関係とは？」という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教とジェンダーにまつわる現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教とジェンダー現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教とジェンダー現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教とジェンダー現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教とジェンダー現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と女性（およびジェンダーと性差）の課題。
- 第 2 回 項目 女子割礼
- 第 3 回 項目 優生学と不妊手術
- 第 4 回 項目 中世の魔女狩りに見る「宗教と女性」問題
- 第 5 回 項目 「女性的宗教」の起源（女神崇拜、母なる大地、など）
- 第 6 回 項目 日本における女性シャーマン
- 第 7 回 項目 柳田国男による日本の「宗教と女性」
- 第 8 回 項目 現代日本における社会と生活から見る「宗教と女性」
- 第 9 回 項目 日本の新宗教に見る「宗教と女性」
- 第 10 回 項目 「女性性の表現」と「現代組織」の問題
- 第 11 回 項目 女性の聖性に介入する科学（人工授精、代理母・代理出産、デザイナーベビー、など）その 1
- 第 12 回 項目 女性の聖性に介入する科学（人工授精、代理母・代理出産、デザイナーベビー、など）その 2
- 第 13 回 項目 現代映画に見る女性性（女性の聖性）とジェンダー問題
- 第 14 回 項目 「宗教と女性」について総括する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．レポートを 4 回課す（4 月、5 月、6 月、7 月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第 5 回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホームページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 後期の宗教学特殊講義は「宗教と芸術」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象には芸術の要素が含まれ、またおよそすべての芸術には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教も芸術も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないのか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教と芸術はどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教と芸術はどこへ、どのように、なぜ変容するのか？ / 検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、造形、デザイン、アポリジニ、バリ、ケルト、イコン、演劇、アニメ、放浪芸、様式、文脈

授業の一般目標 「宗教と芸術」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「芸術」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と芸術現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と芸術現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教と芸術現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教と芸術現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教と芸術現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教と芸術現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い、関連の映像を用いながら、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と芸術の課題
- 第 2 回 項目 宗教と芸術の結晶としての祭り
- 第 3 回 項目 宗教と芸術における「様式」と「文脈」
- 第 4 回 項目 アポリジニの宗教と芸術
- 第 5 回 項目 造形芸術における宗教性（1）
- 第 6 回 項目 造形芸術における宗教性（2）
- 第 7 回 項目 ロシア正教会におけるイコン
- 第 8 回 項目 デザイン芸術における宗教性
- 第 9 回 項目 ケルトの宗教と芸術
- 第 10 回 項目 バリの宗教と芸術
- 第 11 回 項目 ジャワのワヤン劇における宗教性
- 第 12 回 項目 歌舞伎における宗教性
- 第 13 回 項目 演劇と宗教、放浪芸における宗教性
- 第 14 回 項目 現代アニメの宗教性
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1 . 出席は10回を単位取得の条件とする。 2 . レポートを4回課す（10月、11月、12月、1月） 3 . 学期末の試験期間中に最終回（第5回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホーム  
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部  
413号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川瀬 貴也				

授業の概要 現代社会はいわゆる既成宗教の力が衰退したといわれて久しいが、実は「心理療法( psychotherapy )」や「精神分析 psychoanalysis ( 的な知 )」にその「面影」が見て取れる。この講義では、いわゆる「宗教」と心理学/精神分析の類似点、相違点、その歴史的淵源などを調べつつ、現在の我々を囲む「心理学化する社会」をリフレクシヴに考察する端緒としていきたい。/ 検索キーワード 宗教、心理学、精神分析、セラピー、癒し、

授業の一般目標 近代～現代社会における「宗教」と「精神分析( 的な知 )」のありかたを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業で取り扱う概念や思想的できごとの把握。

授業の計画( 全体 ) この講義では、宗教が担っていた役割がだんだん心理療法・精神分析に委譲されてきたという視点から、それぞれの相違点・類似点、その歴史的淵源などを調べつつ、現在の我々を囲繞する「心理療法 = 宗教」融合的な世界観を考察していきたい。また、一方で「マインド・コントロール」と呼ばれるものが「宗教( カルト )」を説明する際に用いられている。心理学的な見地からの「宗教」の意味付けについても考察していきたいと思っている。

授業計画( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 精神分析前史
- 第 2 回 項目 メスメリズム
- 第 3 回 項目 フロイト
- 第 4 回 項目 ユング
- 第 5 回 項目 集合的無意識と神話
- 第 6 回 項目 司牧型権力
- 第 7 回 項目 認知的不協和理論
- 第 8 回 項目 マインドコントロール
- 第 9 回 項目 トラウマ理論
- 第 10 回 項目 癒し・ヒーリング
- 第 11 回 項目 スピリチュアリティ
- 第 12 回 項目 セラピー文化
- 第 13 回 項目 「カルト」問題
- 第 14 回 項目 心理療法と「宗教」
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 ( 総合 ) 期末レポート

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する / 参考書： 『西欧精神医学背景史』, 中井久夫, みすず書房, 1999 年

連絡先・オフィスアワー t-kawase@kpu.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** この授業で扱う資料は、映像資料である。内容は、日常生活の諸側面（都会の暮らし、農村・漁村の暮らし、現代の教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、科学と倫理の問題、新宗教の教団、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など）に及ぶ。取り上げる時代と地域は、主に現代日本である。こうした資料に対し、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か？」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。／検索キーワード 宗教、宗教学、聖性、聖俗

**授業の一般目標** 宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避免的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということ、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えられるようになること。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画（全体）** 毎回の授業は、（１）一人の発表者によるプレゼンテーション（２０分～３０分）と、（２）ディスカッションしながらの講師による解説、からなる。資料はDVDの媒体として、発表者には一週間前に渡し、他の参加者は、演習室（人文４１２号室）に共同視聴用のDVDを一枚おいておくので、時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習すること。なお、（１）のプレゼンテーションは、淡々と活字のレジメを読み上げる方式になってはいけない。文字通り、演出しながら（板書やパワーポイントを含む）話題を説明（披露）すること。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 宗教を見る視点と枠組み
- 第 2 回 項目 第 1 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 3 回 項目 第 2 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 4 回 項目 第 3 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 5 回 項目 第 4 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 6 回 項目 第 5 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 7 回 項目 第 6 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 8 回 項目 第 7 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 9 回 項目 第 8 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 10 回 項目 第 9 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 11 回 項目 第 10 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 12 回 項目 第 11 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 13 回 項目 第 12 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 14 回 項目 総括 内容 全体を振り返って、個々の解釈・読み・分析を通して、宗教を理解する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

**成績評価方法（総合）** 1 .一人の参加者が行うプレゼンテーションは1回または2回とする（評価の5割を占める）。 2 .ディスカッションには積極的に参加すること（評価の2割を占める）。 2 .最終レポートを学期末の試験期間中に提出する（評価の3割を占める）。 3 .出席は10回を単位取得の条件とする。

教科書・参考書 教科書：上記の通りの映像資料が教科書となる。 / 参考書：必要な場合に適宜コピーを配布する。

メッセージ 授業の解説はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** この授業で扱う資料は、映像資料である。内容は、日常生活の諸側面（都会の暮らし、農村・漁村の暮らし、現代の教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、科学と倫理の問題、新宗教の教団、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など）に及ぶ。取り上げる時代と地域は、主に現代日本である。こうした資料に対し、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か？」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。／検索キーワード 宗教、宗教学、聖性、聖俗

**授業の一般目標** 宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避免的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということ、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えられるようになること。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画（全体）** 毎回の授業は、（１）一人の発表者によるプレゼンテーション（２０分～３０分）と、（２）ディスカッションしながらの講師による解説、からなる。資料はDVDの媒体として、発表者には一週間前に渡し、他の参加者は、演習室（人文４１２号室）に共同視聴用のDVDを一枚おいておくので、時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習すること。なお、（１）のプレゼンテーションは、淡々と活字のレジメを読み上げる方式になってはいけない。文字通り、演出しながら（板書やパワーポイントを含む）話題を説明（披露）すること。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 宗教を見る視点と枠組み
- 第 2 回 項目 第 1 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 3 回 項目 第 2 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 4 回 項目 第 3 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 5 回 項目 第 4 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 6 回 項目 第 5 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 7 回 項目 第 6 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 8 回 項目 第 7 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 9 回 項目 第 8 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 10 回 項目 第 9 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 11 回 項目 第 10 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 12 回 項目 第 11 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 13 回 項目 第 12 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 14 回 項目 総括 内容 全体を振り返って、個々の解釈・読み・分析を通して、宗教を理解する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

**成績評価方法（総合）** 1. 一人の参加者が行うプレゼンテーションは 1 回または 2 回とする（評価の 5 割を占める）。 2. ディスカッションには積極的に参加すること（評価の 2 割を占める）。 2. 最終レポートを学期末の試験期間中に提出する（評価の 3 割を占める）。 3. 出席は 10 回を単位取得の条件とする。



教科書・参考書 教科書：上記の通りの映像資料が教科書となる。 / 参考書：必要な場合に適宜コピーを配布する。

メッセージ 授業の解説はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学研究実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。ただし研究実習として、個別テーマのほかに、全員の共通テーマを定める。個別テーマは共通テーマの一環となってもよい。共通テーマは参加者と相談して決めるが、およそ山口県内の宗教現象や信仰文化・伝統に関することを取りあげる。調査の実施方法に関しても、参加者と相談して決める。一つの選択は、各自が独自で行う方式である。もう一つの選択は、夏休み期間中に参加者全員が県内の一定の地域を拠点とする場所に調査に出向き、周辺地域で行われるさまざまな宗教現象(祭り、神楽、放浪芸、年間行事、例祭、個々の宗教意識等)を観察・記録する、という方式である。個別テーマにしても共通テーマにしても、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、調査の準備段階からデータ収集とプレゼンテーションの段階まで、教員が関わって指導する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

**授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教現象を研究・調査するスキルを身につけ、それを記述・表現する力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画(全体)** 授業は全14回行う。方式は参加者と個別テーマ・共通テーマを話し合ってから決める。

**成績評価方法(総合)** 1.出席は10回を単位取得の条件とする。 2.プレゼンテーションは各参加者に2回行ってもらう予定である(初回と2回目の間に一ヶ月以上の期間をあける)。 3.プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する(毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する)。 4.学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

**教科書・参考書** 教科書：用いない。 / 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する。

**メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる(大歓迎)。

**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	宗教学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

**授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画（全体）** 授業は全 14 回行い、毎回の授業では、二つのプレゼンテーションを行う。

**成績評価方法（総合）** 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．プレゼンテーションは各参加者に 2 回行ってもらう予定である（初回と 2 回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。 3．プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3 回に一度の発言を期待する）。 4．学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

**教科書・参考書** 教科書：用いない。 / 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する。

**メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）

**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

人文社会学科 地域歴史文化論コース

開設科目	史学概論 V	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 歴史学とはどういう学問であるかという問題について、「ありのまま」に認識することは可能か、その場にいれば全てを理解できるか、歴史は必ず進歩するものか、歴史は繰り返すか、偉人・偉業はどのような条件がそろったとき成立するか、個人を歴史学はどう描くべきか、歴史が展開される場は国家だけか、などという問題を投げかけながら、時には学生諸君に小論文を書いてもらいつつ、担当教員が講義を行っていく。 / 検索キーワード 歴史学、歴史、歴史叙述、歴史的事実、間主観性、現在と過去との対話

授業の一般目標 歴史学とはどういう学問であるかを、担当教員の示す諸点を考慮に入れた上で自分なりに理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人間の認識における間主観性と歴史学という学問の性格について理解する。 思考・判断の観点：歴史学の根本について思考する。 関心・意欲の観点：人間の認識、歴史学の根本など根元的な問題に関心を持つ。

授業の計画（全体） 歴史学とはどんな学問かというテーマについて、トピック的にいくつかの問題を取り上げ、受講生の小論文を交えながら、担当教員が論じていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 内容 (1) 授業の概要 (2) 「史学概論」とは何か
- 第 2 回 項目 「ありのまま」に認識することは可能か 内容 歴史における事実の選択性と間主観性
- 第 3 回 項目 歴史と歴史学 内容 (1) 歴史と歴史学 (2) 歴史的事実
- 第 4 回 項目 その場にいれば全てを理解できるか 内容 歴史学と時間的距離
- 第 5 回 項目 発展の学としての歴史学と比較文化論的歴史学 内容 (1) 発展の学としての歴史学 (2) 比較文化論的歴史学
- 第 6 回 項目 歴史は必ず進歩するものか 内容 進歩史観批判
- 第 7 回 項目 「歴史に学ぶ」か 内容 (1) 歴史に学ぶこと (2) 歴史は繰り返すか (3) 歴史に学べるか
- 第 8 回 項目 歴史学と善悪 内容 歴史学と善悪の判断
- 第 9 回 項目 個人と社会 1 内容 「偉人」「偉業」が成立する条件
- 第 10 回 項目 個人と社会 2 内容 歴史学は個人をどう描くべきか
- 第 11 回 項目 歴史を考える「場」 内容 歴史を考える空間スケール
- 第 12 回 項目 史料との対し方 内容 史料との対し方
- 第 13 回 項目 歴史学と隣接諸科学 内容 隣接諸科学と、総合の学としての歴史学
- 第 14 回 項目 環境・技術と歴史 内容 自然・社会・文化と技術
- 第 15 回 項目 試験 内容 論説試験

成績評価方法（総合） 授業中に書いてもらう小論文と学期末試験の際に書いてもらう小論文の合計で判定する。

教科書・参考書 教科書：なし。必要に応じてプリントを配付する。 / 参考書：不確定性原理：運命への挑戦（ブルーバックス；B-1385）新装版，都筑卓司著，講談社，2002年；個人的知識：脱批判哲学をめざして，マイケル・ボラニー著；長尾史郎訳，ハーベスト社，1985年；歴史とは何か，E.H. カー，岩波書店，1963年；『新しい科学論』，村上陽一郎，講談社，1979年；歴史学概論，増田四郎，講談社，1994年；地中海，F. ブローデル，藤原書店，1991年；史学概論，林健太郎，有斐閣，1970年

メッセージ 史学概論とは歴史学に関する哲学と方法論、そして史学史をあわせたものです。本授業では前二者を中心とします。受講生にはこうした問題に関する思考を重ねられることを要求します。

連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー  
木曜 5/6 時限

開設科目	日本史概論 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史の概論を講義する。日本近世の中世や近代との論理的対比、日本近世社会の歴史的特色・特質、政治・経済・社会のあり方などを、萩藩に具体例をとりながら講義を行う。 / 検索キーワード 日本近世史・歴史学

授業の一般目標 日本近世社会について、基本的な知識を得る。日本近世社会について、大まかに説明できるようになる。歴史学の方法について、基本的な知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：歴史学の方法を知ることによって、歴史の見方を学ぶ。日本近世史についての基本的知識を得る。 技能・表現の観点：得た知識を書くことが出来る。

授業の計画（全体） 日本近世史について、骨格の部分から説明し、ついで具体的な分野に及んでいく。

成績評価方法（総合） 期末試験の内容を評価する。授業内容の要点を正確に理解しているか、それを適切に表現できているか、を評価する。

連絡先・オフィスアワー 月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本史概論 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 日本史のなかでも特に近現代史の分野は、直接的に私たちの現在の生活や社会の有り様の背景となる分野です。つまり、現在を生きる私たちは、実は近現代史と一括される「歴史」という現在の延長にあるのです。そうした歴史観念を踏まえつつ、日本史を学ぶことの不可欠性に留意しながら、特に明治国家成立からアジア太平洋戦争終了期までを中心に講義をします。 / 検索キーワード 戦争 近代化 日本とアジア

授業の一般目標 個々の歴史事実は、言うならば歴史の点に過ぎません。歴史事実の集積として歴史という面があるのです。歴史事実を繋ぐ歴史過程の把握こそ、本授業の目標としたいと思います。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 歴史事実への関心が、次の歴史事実の関心へとステップアップする知識・理解を深めることで、歴史が単なる過去の事実の羅列ではないことを学習していきます。 思考・判断の観点： 歴史と自己との距離をどう縮めていくか考え抜いて貰いたい。私たちは歴史の人間であり、歴史的存在であることを思考することが重要です。

授業の計画(全体) 特に日本近現代史を講義領域とします。授業計画としては、I) 明治近代国家の生成と展開、II) 台湾出兵・日清・日露戦争と帝国日本の成立、III) 第一次世界大戦と大正デモクラシー、 ) 満州事変から日中全面戦争へ、V) 日中戦争の延長としての日英米戦争、 ) 日本の敗戦と国体護持の六つに区分して講義を進めていきます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 I) 明治近代国家の生成と展開 (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 (3)
- 第 4 回 項目 II) 台湾出兵、日清・日露戦争と帝国日本の成立 (1)
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 III) 第一次世界大戦と大正デモクラシー (1)
- 第 8 回 項目 同上 (2)
- 第 9 回 項目 同上 (3)
- 第 10 回 項目 ) 満州事変から日中全面戦争へ (1)
- 第 11 回 項目 同上 (2)
- 第 12 回 項目 V) 日中戦争の延長としての日英米戦争 (1)
- 第 13 回 項目 同上 (2)
- 第 14 回 項目 ) 日本の敗戦と国体護持 (1)
- 第 15 回 項目 同上 (2)

成績評価方法(総合) 基本的には論述試験となりますが、毎回授業後に講義メモを提出して貰います。また、課題レポートを課すこともあります。これらの成果を総合的に判断して成績評価をします。

教科書・参考書 教科書：日清・日露戦争, 原田敬一, 岩波書店・新書, 2007 年; アジア・太平洋戦争, 吉田裕, 岩波書店・新書, 2007 年; 侵略戦争 歴史事実と歴史認識, 纈纈厚, 筑摩書房・新書, 1999 年 / 参考書：日本近代史概説, 纈纈厚他, 三省堂, 2003 年

メッセージ 歴史を通して私たちの現在を問い直す

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel.083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)



開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 近世史料を原本で読解する醍醐味を味わう。

授業の計画(全体) 最初の3コマくらいは、平仮名のくずし字に慣れる。4コマ目から毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで積文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: くずし字解読辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; くずし字解読辞典(毛筆版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1999年; くずし字用例辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; 古文書解読辞典を各自持つこと。例えば、児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版) 同編『くずし字用例辞典』など。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 1．近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1．1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば読解できる。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2．近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の計画(全体) 毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。前期よりも少し難度の高い史料の写真版を用いる。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで釈文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書：古文書読解辞典を各自持つこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

**授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

**思考・判断の観点：** 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点：** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

**成績評価方法(総合)** 1 , 学期末試験期間に試験を実施する。 2 . 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

**教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。 / 参考書：なし。

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

**授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

**思考・判断の観点：** 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点：** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

**成績評価方法(総合)** 1 , 学期末試験期間に試験を実施する。 2 . 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

**教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。 / 参考書：なし

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 (1) 中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。(2) 中世の古文書について、内容解釈力を養う。(3) 中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世のくずし字をある程度判読できる。(2) 中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点：古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講者が読解を分担して原稿を事前に作成し、それに基づいて検討する。検討後は、各自で復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する（片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける）。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) 『くずし字用例辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥6,090) (2) 『くずし字解読辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥2,310) いずれかの購入が望ましい。(1) のひき方は、漢和辞書に近い。(2) は、一筆目の形からひくことができる。私見では(1) がおすすめ。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）、日本史関係辞書（例えば『角川日本史辞典』など）、日本史年表（例えば歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 (1) 中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。(2) 中世の古文書について、内容解釈力を養う。(3) 中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世のくずし字をある程度判読できる。(2) 中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点：古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講者が読解を分担して原稿を事前に作成し、それに基づいて検討する。検討後は、各自で復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する（片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける）。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) 『くずし字用例辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥6,090) (2) 『くずし字解読辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥2,310) いずれかの購入が望ましい。(1) のひき方は、漢和辞書に近い。(2) は、一筆目の形からひくことができる。私見では(1) がおすすめ。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）、日本史関係辞書（例えば『角川日本史辞典』など）、日本史年表（例えば歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「萩藩前期の藩財政と山代紙」について講義を行う。まず、17世紀前半期と後半期の萩藩財政について、概要を説明する。ついで、17世紀萩藩財政のなかでの山代紙の位置づけを行い、当該期の山代紙制を藩財政の観点から具体的に明らかにしていく。/検索キーワード 萩藩、藩財政、山代紙

授業の一般目標 1. 藩財政の構造的理解を目指す。 2. 藩財政の主要要素の理解と相互の連関把握を目指す。 3. 藩内主要産業の一つである山代紙の具体的理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 藩財政の主要要素である、生産・年貢・流通・物価・江戸出費・家臣団の再生産などを具体的に理解する。 2. 山代紙制を前期藩財政の観点から理解する。 思考・判断の観点： 1. 藩財政の主要要素間の連関をどのようにしたら捉えることができるか、考える。 技能・表現の観点： 1. 授業内容を正確に理解し、書くことができる。

授業の計画(全体) 17世紀前半期と後半期の藩財政の概要を説明し、かつ主要要素とその連関の仕方を解明する。ついで藩財政のなかでの山代紙の位置づけを行い、各論に入って行く。

成績評価方法(総合) 学期末に試験にかえてレポートを提出し、その内容によって評価する。

教科書・参考書 参考書：史料レジュメを適宜配布する。

連絡先・オフィスアワー 月曜と金曜の昼休み。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に宮都に関わる様々な観点から述べることにする。／検索キーワード 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

**授業の一般目標** 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。思考・判断の観点：授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。関心・意欲の観点：歴史及び歴史学への興味・関心をいただく。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画（全体）** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることにする。

**成績評価方法（総合）** 1．学期末にレポートを提出する。2．レポートの分量と内容については別途指示する。

**教科書・参考書** 参考書：授業中に適宜指摘する。

**メッセージ** 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また受講のためにノートパソコンが必携である。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。本年度は引き続き「葬」について、特に墓と墓地の問題について宮都毎に話します。 / 検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

**授業の一般目標** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。  
**思考・判断の観点**：史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。  
**関心・意欲の観点**：古代貴族社会に関心・興味を抱く。 **態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでないと思われず。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

**成績評価方法(総合)** 1 . 学期末にレポートを提出する。 2 . レポートの分量と内容については別途指示する。

**教科書・参考書** 参考書：授業中に適宜指摘する。

**メッセージ** 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また受講のためにノートパソコンが必携である。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー：一応、月・木の 5 時 40 分～ 6 時 40 分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 講義題目「中世の大内氏権力と寺社(仮)」 室町戦国期の大内氏は、山口を本拠とし、中国地方の西部から九州地方の北部にわたる諸国の守護となって、一大勢力を誇った。こうした守護権力は、分国内外の寺社とどのように関係したか。やがて戦乱が激しくなると、それらの関係はどのように変化したか。これらの問題について、史料を読みすすめながら検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) 序論 中世の政治権力と宗教、(1)大内氏の氏寺氏神と菩提寺群、(2)大内氏とその分国内寺社、(3)大内氏と周防国国衙領、(4)15世紀後半における大内氏と寺社、(5)16世紀における大内氏と寺社、むすびにかえて

成績評価方法(総合) 出席状況、授業内コメント票の記入内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 講義題目「治承寿永の内乱と寺社勢力(仮)」前年度は、平安時代末期における寺社勢力の動向に関して、保元の乱以降、鹿ヶ谷事件までの時期を中心に検討した。そこで今年度はこれにひきつづき、「治承寿永の内乱」(いわゆる源平合戦)の時期における寺社勢力の動向について検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) 序論、(1) 以仁王の乱と寺社勢力、(2) 福原遷都と寺社勢力、(3) 平氏政権による大寺院焼討ち、(4) 源義仲と寺社勢力、(5) 源頼朝と寺社勢力、むすびにかえて、

成績評価方法(総合) 出席状況、授業内コメント票の記入内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤田達生				

授業の概要 【日本中・近世移行期の国家と権力】 室町幕府崩壊期から江戸幕府成立期までの国家の変容を論じ、通説的見解を再検討する。 / 検索キーワード 天下思想・本能寺の変・惣無事令・幕藩体制

授業の一般目標 【歴史学研究の意義について議論する】 織田信長・豊臣秀吉・徳川家康のめざした国家像を良質の史料をもとに検討しながら、歴史学研究の魅力を感じとる。

授業の計画(全体) 国家統合と地域分権をテーマとする。具体的には、(1) 信長の天下思想の意義 (2) 秀吉の「惣無事令」批判 (3) 「藩」成立論 について論じる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 織田信長論 室町幕府・守護体制と環伊勢海地域( 1 )
- 第 2 回 項目 織田信長論 - 思想家として( 2 )
- 第 3 回 項目 織田信長論 - 思想家として( 3 )
- 第 4 回 項目 織田信長論 - 本能寺の変( 4 )
- 第 5 回 項目 室町幕府 - 本能寺の変( 5 )
- 第 6 回 項目 豊臣秀吉論 秀吉神話( 1 )
- 第 7 回 項目 豊臣秀吉論 秀吉神話( 2 )
- 第 8 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判( 3 )
- 第 9 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判( 4 )
- 第 10 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判( 5 )
- 第 11 回 項目 幕藩体制成立史論 幕府成立過程( 1 )
- 第 12 回 項目 幕藩体制成立史論 幕府成立過程( 2 )
- 第 13 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義( 3 )
- 第 14 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義( 4 )
- 第 15 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義( 5 )

成績評価方法(総合) 出席と試験とで評価する。

教科書・参考書 教科書：『江戸時代の設計者』、藤田達生、講談社、2006年；『秀吉神話をくつがえす』、藤田達生、講談社、2007年 / 参考書：『日本中・近世移行期の地域構造』、藤田達生、校倉書房、2000年；『日本近世国家成立史の研究』、藤田達生、校倉書房、2001年

メッセージ あらかじめ教科書を読んでいただきたい。

備考 集中授業

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	水本 邦彦				

授業の概要 日本近世史のうち社会経済史の集中講義を行う(予定)。

授業の一般目標 日本近世社会の特質を具体的に理解する。

成績評価方法(総合) 試験によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。 / 検索キーワード 史料講読、法制史料、萩藩

授業の一般目標 1．萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世の法制について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。 / 検索キーワード 萩藩、政治史史料、史料講読

授業の一般目標 1．萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世政治史の課題について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。 2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書に関する自由記述コメント： / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（14）概要：『勘仲記』の輪読をおこなう。前年度にひきつづき、弘安6（1283）11月条以降の記事を検討する予定。『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、摂関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象とし、輪読をおこなってきた。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 (1) 史料の読解力を養う。(2) 日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。(3) 関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世の史料を読解できる。(2) 中世の史料を読解するために必要な知識を得る。思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。関心・意欲の観点：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。技能・表現の観点：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画（全体）受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法（総合）定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。 / 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトを活用すれば、史料中の語を検索することが可能である。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む(15) 概要：前期にひきつづき、『勘仲記』の輪読をおこなう。『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象とし、輪読をおこなってきた。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 (1) 史料の読解力を養う。(2) 日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。(3) 関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世の史料を読解できる。(2) 中世の史料を読解するために必要な知識を得る。思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。関心・意欲の観点：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。技能・表現の観点：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画(全体) 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。/ 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトを活用すれば、史料中の語を検索することが可能である。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 日本近現代史関係の資料を読み解く力を養成します。そのなかには、手紙や日記など個人が残した資料をも含みます。そのためには、その人物の歴史的立場への関心が不可欠です。 / 検索キーワード 歴史と事実 歴史と資料 歴史と体験

授業の一般目標 出席者が順番に声を出して資料を購読する機会を用意します。正しい読み方と内容理解が伴って初めて、資料が何を語りかけてくるか理解できるはずです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 場合によっては漢和辞典など必携となります。漢字の知識を増やす良い機会となるでしょう。 思考・判断の観点： 資料の背後に隠された意味や、行間に潜む内容を掘り出すには、絶え間ない注意力・思考力が求められます。 関心・意欲の観点： 歴史事象や人物の思想や行動へのトータルな関心と知的好奇心が必要です。そのために様々な工夫を凝らしながら、資料にアクセスできる技量をも身につけます。

授業の計画(全体) 日本近現代史関係の最も必要とされる基本資料を精選して読んでいきます。最初は、『西園寺公と政局』や『山県有朋意見書』などを通読していきます。後半は、少し的を絞って、特定の資料や個人の手紙文などの読解も予定しています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『山県有朋意見書』(原書房刊)を読む(1)
- 第 2 回 項目 同上(2)
- 第 3 回 項目 同上(3)
- 第 4 回 項目 同上(4)
- 第 5 回 項目 同上5
- 第 6 回 項目 『西園寺公と政局』を読む(1)
- 第 7 回 項目 同上(2)
- 第 8 回 項目 同上(3)
- 第 9 回 項目 同上(4)
- 第 10 回 項目 同上(5)
- 第 11 回 項目 外交資料を読む(1)
- 第 12 回 項目 同上(2)
- 第 13 回 項目 同上(3)
- 第 14 回 項目 田中義一文書を読む(1)
- 第 15 回 項目 同上(2)

成績評価方法(総合) 原則として出席者各人による音読を求めますので、その内容も重要な評価点となります。ペーパー形式による習熟度も評価の対象とします。

教科書・参考書 参考書： 外交資料 日本の膨張と侵略, 山田朗編, 日本出版社, 1997 年; 日本近代史概説, 纈纈厚他, 三省堂, 2003 年

メッセージ 歴史に刻まれた事実を資料で掘り出してみよう

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel.083.933.5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 基本的に前期の継続とします。 / 検索キーワード 歴史認識 近代化 戦争

授業の一般目標 基本的に前期の継続とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 田中義一文書 (1) (前期の継続)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 宇垣一成関係文書 (1)
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 (4)
- 第 8 回 項目 木戸幸一関係文書 (1)
- 第 9 回 項目 同上 (2)
- 第 10 回 項目 同上 (3)
- 第 11 回 項目 日本近代史資料読解の方法と意義 (1)
- 第 12 回 項目 同上 (2)
- 第 13 回 項目 同上 (3)
- 第 14 回 項目 同上 (4)
- 第 15 回 項目 同上 (5)

成績評価方法（総合） 前期と同じ

メッセージ 歴史は未来を語る

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel 083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点: 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した評価を行う。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 時代背景についての理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点: 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を培う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味する。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。 思考・判断の観点：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点：卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点：卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

**成績評価方法(総合)** 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

**教科書・参考書** 教科書：なし / 参考書：なし

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

**授業の一般目標** よりよい卒業論文の作成を目指す。

**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：卒業論文作成に必要な日本古代史に関するより高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点**：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点**：1, 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。2, 先学の研究を十分に咀嚼して自らの問題設定との関係を明確に把握できる力をつける。 **態度の観点**：卒業論文の作成を通じて、学問上の常識や通説を疑い、かつそれを明確に指摘しうる姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

**成績評価方法（総合）** 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2 . レポートの分量については別途指示する。

**教科書・参考書** 教科書：なし / 参考書：なし

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての専門家意識を育む。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には事前連絡を要する(但し緊急事態の場合は事後承諾)。連絡先の電話や E-mail は研究室名簿参照。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての専門家意識を育む。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には事前連絡を要する(但し緊急事態の場合は事後承諾)。連絡先の電話や E-mail は研究室名簿参照。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 日本近現代史研究の歴史研究全体の中に占める位置につき、最初何回に分けて説明する。

授業の一般目標 何よりも日本近現代史への関心を引き出すために、比較的アクセスしやすい資料や文献を紹介する。また、先行研究の紹介を内容別、テーマ別に説明する。これを参考にしつつ、歴史資料や文献への親近感を持てるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：歴史は知識・理解が全てではなく、歴史を論ずるうえでの初歩的な前提である。しかし、多領域にわたる歴史分野において最低限の知識・理解の力は不可欠であり、その点を留意しながら基礎的な歴史用語や歴史事実の確認を行っていく。思考・判断の観点：歴史的な思考・判断の力の養成は、歴史論文の叙述において必要不可欠である。それをどう身につけていくのかについて充分留意しながら、文献・資料を通して訓練していく。

授業の計画（全体）当初何回は「研究状況の現段階」と題して説明を行い、研究テーマ探しの一助とする。その後、出席者各人が研究テーマを可能な限り早期に設定し、関連する文献や資料の収集・リストアップなど鋭意進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本近現代史研究の現状について (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 以下、順次各人の報告（適時小講義の時間も入れていく）
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）各人が行う研究成果報告及び提出されたレジュメ、さらには報告への質疑応答の内容などで評価する。

教科書・参考書 参考書：十五年戦争小史, 江口圭一, 青木書店, 1986 年

メッセージ 君は歴史に何を語らせるのか

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel 083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 日本近現代史の歴史過程を通して、出席者各人が研究テーマを設定し、順次研究報告を行う。  
最初の何回は現在における研究状況を先行研究を紹介しながら説明し、テーマ設定のための参考とする。  
/ 検索キーワード 歴史認識 歴史事実 歴史過程

授業の一般目標 自ら資料を収集・読解していくなかで歴史研究の大切さと、その有用性を認識できるようにすること。そのために、資料への接近方法をあらゆる角度から説明し、それに対応しながら歴史論文の叙述方法を習得していくことに心がける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 歴史の知識や理解は、歴史叙述の第一歩に過ぎないことを踏まえながら、資料や文献から、どこまで知識・理解が獲得されるか、常に自問しながら学んでいく。 思考・判断の観点： 資料や文献から獲得された知識・理解は、絶え間ない思考と判断の力によって、初めて血肉化される。その点で知識・理解 思考・判断という相互補完性を特に強く意識して欲しい。 関心・意欲の観点： 思考・判断はあくまで歴史への関心・意欲、そして、歴史から学び取ろうとする動機が不可欠である。その点で関心・意欲が深まるための工夫や智恵をも配慮しつつ、演習を創っていく。

授業の計画（全体） 原則として出席者の研究テーマに従い、順次報告を行っていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本近現代史研究の現状と先行研究の説明 (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 以下、順次出席者の研究報告
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 報告内容、特にレジュメの提出を求めます。最終的には歴史論文の執筆へとステップアップしていきますが、その成果を主な評価対象とする。

教科書・参考書 参考書： 近代日本政軍関係の研究, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年

メッセージ 歴史を学び、時代を語る

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel 083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	東洋史概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 日本人たちは、中華料理を食べたことはあっても、古代の中国人がどんな生活を送っていたかということについてはあまり知らないように思われます。わたくしは、秦の始皇帝と漢の武帝時代における人々の衣(服装)・食(料理)・住(住宅)・行(交通)を中心として古代中国人の生活史を紹介したいと計画しています。 / 検索キーワード 秦漢・衣・食・住・行

授業の一般目標 本講義は、王朝と中国古代社会との関係という論題から論じ、漢民族・漢文化の成立史における王莽の新朝は重要な一環として紹介する。伝統的な歴史学者のなかには新朝の存在を認めず、不評判する考えに反し、具体的な史例によって客観的な歴史観の特徴を説明できる目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国古代における帝国に関する知識を説明できる。 思考・判断の観点：人間の社会・王朝・歴史との間にある関係の重要性を指摘できる。 関心・意欲の観点：受講生は社会改革への関心を一層喚起するのを寄与できる。 態度の観点：討論の参加でき、質問の応答を協調できる。

授業の計画(全体) 15コマの授業によって、衣(服装)・食(料理)・住(住宅)・行(交通)という古代中国人の生活史を紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 鴻門の会から見た飲食生活
- 第 2 回 項目 「折角」にした服装のファッション
- 第 3 回 項目 穴居と巢居のどちらか住みやすい
- 第 4 回 項目 新幹線の開通と駅伝
- 第 5 回 項目 「秦磚漢瓦」で作られた都市
- 第 6 回 項目 「奇貨可居」と市場管理の風景
- 第 7 回 項目 「月令」による農業生産
- 第 8 回 項目 昼寝と「房中術」の人体衛生
- 第 9 回 項目 なぜ離婚率高かったか
- 第 10 回 項目 辺境地方での一日生活
- 第 11 回 項目 死んだらどうなるのか
- 第 12 回 項目 海と砂漠のシルクロード
- 第 13 回 項目 古代気候の温室化
- 第 14 回 項目 まとめ 漢水・漢字・漢文化
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席(30%) + 試験(70%)

開設科目	東洋史概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 中国明清時代の社会・経済の歴史について概説する。 / 検索キーワード 銀経済、社会の集団化、流動化、社会経済史

授業の一般目標 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。 思考・判断の観点： 歴史の動きについて、社会・経済的要因という層位から思考する。 関心・意欲の観点： 歴史の動きの表層の奥にある要因に関心を持つ。

授業の計画（全体） 明清時代の歴史について、社会・経済的要因を中心に概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 アジア・東アジア・中国 内容 ・歴史を考える場を設定する。 ・明清時代の社会経済史を検討する意義を明らかにする。
- 第 2 回 項目 明清時代の政治史 内容 明清時代の大まかな政治史について講義し、まかな時間的な流れを理解させる。
- 第 3 回 項目 明初の社会 内容 明初、里甲制が文字どおりに実施されていた「固い」社会を検討する。
- 第 4 回 項目 銀経済の進展 内容 明代発展しつつあった銀経済を検討し、「固い」社会の溶解を理解させる。
- 第 5 回 項目 賦・役銀納化の進展 1 内容 里甲制の変質から十段法・門銀・丁銀まで税役徴収・納入の銀納化について講義する。
- 第 6 回 項目 賦・役銀納化の進展 2 内容 一条鞭法・地丁銀制の施行まで、税役徴収・納入の銀納化について講義する。
- 第 7 回 項目 商工業の発展 1 内容 銀経済の結果でもあり要因でもある商工業の発展、とくに手工業の発展について講義する。
- 第 8 回 項目 商工業の発展 2 内容 流通経済の発展と商人の集団化について検討する。
- 第 9 回 項目 郷紳支配の拡大 内容 流動化した新しい社会の地域エリートとしての郷紳と、それを支えた社会のあり方を検討する。
- 第 10 回 項目 予備日 内容 授業の進捗状況に応じて弾力的に（質問等も）
- 第 11 回 項目 人口の増大と開発 内容 清代の人口爆発とそれを支えた山区の開発について検討する。
- 第 12 回 項目 移住と宗族 内容 開発の結果ひきおこされる移住と、その単位となる宗族形成の活発化について検討する。
- 第 13 回 項目 民衆反乱 内容 社会的弱者の集団化と蜂起、社会の軍事化について検討する。
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 社会の流動化と集団化
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 小論文形式による試験

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書： なし。授業の都度プリントを配布する。 / 参考書： 世界の歴史 12 明清と李朝の時代、岸本美緒、宮嶋博史、中央公論新社、1998 年； 中国の歴史 9 海と帝国、上田信、講談社、2005 年； 中国民衆叛乱史（東洋文庫）3・4、谷川道雄、森正夫編、平凡社、1978 年； 明清社会経済史研究、小山正明、東京大学出版会、1992 年； 中国の社会、ロイド・E. イーストマン著；上田信、深尾葉子訳、平凡社、1994 年； 明清交替と江南社会： 17 世紀中国の秩序問題、岸本美緒著、東京大学出版会、1999 年 東アジアの「近世」、岸本美緒、山川出版社、1998 年 清朝中期史研究、鈴木中正、愛知大学国際問題研究所、1952 年 明清社会経済史研究、百瀬弘、研文出版、1980 年 移住民の秩序、山田賢、名古屋大学出版会、1995 年 その他、著書・論文多数。授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 室、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限



開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年前の甲骨文の発見と等しい価値を有し、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代( BC.220 ~ AD.220 )の出土文字資料 簡牘が大量に発見されたのは、中国歴史学上に画期的な時代をもたらしました。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところ文字史料が発見されていません。これとは違い、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介しようとするものです。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明するという目標です。

成績評価方法 (総合) レポート + 宿題 + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年；龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容は、受講生にある程度の中国語能力を要求するので、本講義において受講生の中国語の読解レベルが一層高くなることを目指しております。

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代( BC.220 ~ AD.220 ) の出土文字資料 簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介したいものである。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

成績評価方法 (総合) レポート + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年; 龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容によって、受講生にはある程度の中国語能力を要求されているので、受講生の中国語の読解レベルは一層高くなることを目指しております。

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 前年度に引き続き清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という定点から見た商品流通について明らかにする。今年度は長江中流域を中心とする。/ 検索キーワード 常関、徴税報告、商品流通、米、内陸 沿岸間の商品流通、内陸地域の発展

授業の一般目標 ( 1 ) 清代の商品流通について一応の知識を得る。( 2 ) 清代における長江の中流域の発展について知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の商品流通について一応の知識を得る。清代における長江の中流域の発展について知識を得る。 思考・判断の観点： 清代中後期における長江流域の発展について史料に基づいて考える。

授業の計画(全体) 長江中流域を中心して清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という定点から見た商品流通について検討していく。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： なし。授業中にプリントを配布する。 / 参考書： 清代史の研究, 安部健夫, 創文社, 1971 年; 清代中国の物価と経済変動, 岸本美緒, 研文出版, 1997 年; 清代の市場構造と経済政策, 山本進, 名古屋大学出版会, 2002 年; 明清時代の商人と国家, 山本進, 研文出版, 2002 年; その他、参考論文については授業中に紹介する。

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	アジア文化交流史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森川哲雄				

授業の概要 「14～18世紀のモンゴル史の諸問題」モンゴル帝国崩壊後、18世紀までのモンゴリアを中心とした政治、歴史、文化について講義する。／検索キーワード モンゴル帝国、大元、チベット仏教、夷俗記、モンゴル年代記

授業の一般目標 アジアの東部地域の歴史を考察するときには一般的に中国を中心にして記すことが多いが、それと隣接しながら全く価値観の異なる世界であり、また、世界史の上でも大きな意義を持ったモンゴル世界の歴史的意味について理解をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前近代のモンゴリアの様々な様相について理解を得る。 思考・判断の観点：多様な価値観を持つ世界が存在することを理解する。

授業の計画(全体) モンゴル帝国崩壊後、18世紀までのモンゴリアを中心とした政治、歴史、文化について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 世界史におけるモンゴル帝国の意義
- 第 2 回 項目 モンゴル帝国継承国家論(1) 内容 モンゴル帝国崩壊後の中央ユーラシア世界の歴史(14～17世紀)
- 第 3 回 項目 モンゴル帝国継承国家論(2) 内容 中央ユーラシア世界の歴史(18～20世紀)
- 第 4 回 項目 「大元」の継承(1) 内容 14～17世紀のモンゴル政権と「大元」の問題(1)
- 第 5 回 項目 「大元」の継承(2) 内容 14～17世紀のモンゴル政権と「大元」の問題(2)
- 第 6 回 項目 チベット仏教とモンゴル文化 内容 チベット仏教の再流入とモンゴルの文化について
- 第 7 回 項目 17世紀のモンゴル人の生活 内容 肖大亨『夷俗記』の記述
- 第 8 回 項目 17世紀のモンゴル人の風俗 内容 肖大亨『夷俗記』の記述
- 第 9 回 項目 清朝のモンゴル支配(1) 内容 17～18世紀のモンゴリアの再編
- 第 10 回 項目 清朝のモンゴル支配(2) 内容 清朝のモンゴル支配の浸透
- 第 11 回 項目 モンゴル年代記(1) 内容 モンゴル年代記の概要
- 第 12 回 項目 モンゴル年代記(2) 内容 モンゴル年代記の内容
- 第 13 回 項目 モンゴルから見た中華世界(1) 内容 「北アジア世界」の位置
- 第 14 回 項目 モンゴルから見た中華世界(2) 内容 モンゴル人は中華世界をどのように認識していたか
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の内容をまとめる。

成績評価方法(総合) 授業終了後にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業中にプリントを配布する。／参考書：ロシアとアジア草原, 佐口透, 吉川弘文館, 1966年; 世界史の誕生, 岡田英弘, 筑摩書房, 1992年; 世界史歴史大系 中国史4 明・清, 神田信夫編, 山川出版社, 1999年; 中央ユーラシア史, 小松久男編, 山川出版社, 2000年; モンゴルの歴史, 宮脇淳子, 刀水書房, 2002年; モンゴル年代記, 森川哲雄, 白帝社, 2007年 他

備考 集中授業

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教官はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が史料を読み、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 漢口叢談校釈，范カイ著・江浦ら校釈，湖北人民出版社，1990 年；テキストのコピーを配布する。／参考書： 乾隆漢陽府志，陶士 等，，1747 年； 乾隆漢陽県志，劉嗣孔等，，1748 年； 光緒漢陽県志，濮文昶等，，1884 年； 民国夏口県志，侯祖ヨ等，，1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また 予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落 は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス  
アワー：木曜日 5/6 時限



開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教員はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期試験の答え合わせと史料解題 内容 前期試験の答え合わせおよび解説 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が担当部分について発表し、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 漢口叢談校釈, 范カイ著・江浦ら校釈, 湖北人民出版社, 1990 年； テキストのコピーを配布する。 / 参考書： 乾隆漢陽府志, 陶士 等, 1747 年； 乾隆漢陽県志, 劉嗣孔等, 1748 年； 光緒漢陽県識, 濮文昶等, 1884 年； 民国夏口県志, 侯祖ヨ等, 1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業は その能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻し ようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。 上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途 脱落は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス  
アワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 担当教員が受講学生に適当なテキストを選び、それを学生が中心になって読み進めることを契機として当時の社会に関する問題について議論・検討していく。具体的な読解史料は受講予定学生との相談によって決める。 / 検索キーワード 史料、読解、検討、議論、社会像

授業の一般目標 中国近世史料の基礎的な読解力、史料解釈の方法を会得し、当時の社会について考える力を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国近世の史料に関する基礎的な知識を獲得する。中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：中国近世の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。 態度の観点：史料から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：中国近世史料を扱う基礎的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 読解する史料について解説する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布する。 / 参考書：参考史料、参考文献については授業中において適宜指定する。

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 担当教員が受講学生に適当なテキストを選び、それを学生が中心になって読み進めることを契機として当時の社会に関する問題について議論・検討していく。具体的な読解史料は受講予定学生との相談によって決める。 / 検索キーワード 史料、読解、検討、議論、社会像

授業の一般目標 中国近世史料の基礎的な読解力、史料解釈の方法を会得し、当時の社会について考える力を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国近世の史料に関する基礎的な知識を獲得する。中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：中国近世の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。 態度の観点：史料から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：中国近世史料を扱う基礎的な技能を獲得する。

授業の計画(全体) 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 読解する史料について解説する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法(総合) 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布する。 / 参考書：参考史料、参考文献については授業中において適宜指定する。

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋史概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 今年の西洋史概説では、黒人、インディアン、ラティーノ、女性、アジア系の歴史に重きをおきながら、1年を通して建国期からクリントン政権期までのアメリカ社会を考察する。

授業の一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ史・アメリカ文化の特徴を説明できる 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける 関心・意欲の観点：歴史、わけてもマイノリティの歴史に興味をもつ 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (1) 内容 ヒップホップの歴史と現代アメリカ社会
- 第 3 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (2) 内容 映画 Tupac Ressurrection 鑑賞
- 第 4 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (3) 内容 黒人社会の分極化
- 第 5 回 項目 小レポート批評会 授業外指示 小レポート提出
- 第 6 回 項目 植民地期のアメリカと独立革命 内容 アメリカ合衆国憲法の史的意義
- 第 7 回 項目 比較奴隷制史とアンテベラム南部 内容 南北戦争以前の南部社会
- 第 8 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問メモを提出
- 第 9 回 項目 南北戦争
- 第 10 回 項目 南部再建期 内容 南北戦争の「戦後処理」
- 第 11 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問メモを提出
- 第 12 回 項目 『金ぴか時代のアメリカ』 内容 東南欧系移民の歴史と労働運動
- 第 13 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 内容 黒人運動指導者のヴィジョンとその対立
- 第 14 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 (2) 内容 ディベート
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) (1) 小レポートを求めるときがある (2) 授業末にレポートの提出を求める

教科書・参考書 参考書：参考文献については、授業中適宜指示する。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	川上 耕平				

授業の概要 本講義は、第二次世界大戦以降のアメリカ政治・外交を素材として、現代史への興味を深めていくことを目的とするが、必要に応じて、政治学や国際関係といった社会科学の知見を援用することも考えている。講義の進め方としては、戦後のアメリカ史を時系列的に漏れなく詳述するのではなく（もちろん基本的な歴史的流れが理解できるように配慮する）特定のトピックに限定してそれを重点的かつ多角的に論じていくスタイルをとる。特に、史料公開の進展とともに通説的な見解が徐々に訂正されている領域もあるので、できるだけ新しい学説や見方を紹介する。

授業の一般目標 「西洋史」という名の講義であるが、年号やこまごまとした用語を暗記するのではなく、マクロな流れや構造を把握することにつとめてほしい。その意味で、歴史学における「社会科学」的な思考を重視していきたいが、「社会科学」ということばに対して明確なイメージをもてない学生には、高根正昭『創造の方法学』（講談社現代新書、1979年）のような本を一読することを薦めておく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：戦後アメリカの政治・外交を知ることによって、現代史の基本的視座を獲得する。 思考・判断の観点：歴史に限らず、ある現象の原因をさぐるという「問い」の基本的構造を、「変数」「仮説」「命題」といった社会科学的な用語で考えられるようになってほしい。 態度の観点：授業中の私語については、退室を命じるなど厳格な措置をとることもあるので、そのつもりで講義にのぞむこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 開講にあたって 内容 スケジュール、テキストの説明、および「社会科学」としての国際関係論の典型的事例として、K. ウォルツの方法論（およびその批判）などを紹介する。
- 第 2 回 項目 冷戦の起源（1） 第二次大戦の終結と米ソ対立 内容 戦時中は同盟国であった米ソが、戦後なぜ対立するようになったのか。第二次大戦、太平洋戦争に遡って「冷戦の起源」がどこにあったのかを考える。
- 第 3 回 項目 冷戦の起源（2） 戦後国際秩序の形成 内容 主に戦後国際経済の展開に重点を置き、IMF-GATT 体制について「埋め込まれた自由主義」という視点から考える。
- 第 4 回 項目 ヨーロッパにおける冷戦の展開 内容 「二重の封じ込め」、「招かれた帝国」といったキーワードから、主に戦後のドイツの処遇をめぐる問題や NATO の結成を中心に検討する。
- 第 5 回 項目 アジアにおける冷戦の展開（1） 朝鮮戦争 内容 アジア冷戦の軸は米中対立であったが、その契機となった朝鮮戦争について、ソ連側の史料公開で明らかになった最近の研究などから考える。
- 第 6 回 項目 アジアにおける冷戦の展開（2） 日本：占領から講和・独立へ 内容 講和条約によって独立した日本に、なぜそのまま米軍基地が置かれることになったのか。「吉田ドクトリン」をキーワードに検討する。
- 第 7 回 項目 アジアにおける冷戦の展開（3） ベトナム戦争 内容 東南アジアにおけるドミノ化を警戒するアメリカの懸念が引き金となったベトナム戦争について検討する。
- 第 8 回 項目 冷戦の変容（1） キューバ危機 内容 核兵器が人類に及ぼすインパクトを世界に知らしめ、後に核管理の重要性を認識させることになったキューバ危機について検討する。
- 第 9 回 項目 冷戦の変容（2） 中ソ対立と多極化 内容 一枚岩とみられていた東側陣営内部の対立や、西側同盟国フランスのゴーズムズムについて検討する。
- 第 10 回 項目 冷戦の変容（3） 米中和解 内容 米中接近について最近の研究をふまえて説明するが、この動きを理解する上で日本の動向が重要であるため、沖縄返還や日中国交回復にも言及する。
- 第 11 回 項目 補論・「ホテル・カリフォルニア」と 1970 年代のアメリカ 内容 イーグルスのヒット曲「ホテル・カリフォルニア」（1976年）における歌詞を通じて、アメリカ社会の変容を検討する。 授業外指示 事前に課題の提出を要求する。



- 第12回 項目「新冷戦」の時代 内容 ソ連のアフガニスタン侵攻によって再び対立が顕著となった米ソの関係について、軍拡競争などの面から検討する。
- 第13回 項目 冷戦の終焉 内容 ゴルバチョフ大統領という個人の理念が冷戦構造を変化させた過程を、東欧革命、ドイツ統一などを通じて検討する。
- 第14回 項目 冷戦後の世界(1) 湾岸戦争 内容 冷戦期におけるアメリカと中東の関係を検討しながら、湾岸戦争が勃発した背景を検討する。
- 第15回 項目 冷戦後の世界(2) 9.11テロとイラク戦争 内容 9.11テロ事件以降顕著となったアメリカ＝「帝国」論と、グローバリゼーションの関係について考察する。

成績評価方法(総合) 詳細は講義の冒頭で説明をするが、全講義終了後の試験、課題提出、出席点を含めて総合的に評価する。なお、出席回数が不足している場合、受験を認めないこともある。

教科書・参考書 教科書：アメリカの世界戦略, 菅英輝, 中央公論新社, 2008年 / 参考書：アメリカの政治・外交に関する良書は多いので、講義でそのつど紹介していく。

メッセージ 現代史については、すでにある程度の知識を身につけている学生も多いと思われるが、そうした従来の通説的な理解を相対化するような講義にしていきたい。なお、講義の情報量が多いため、スケジュールどおりに進まない可能性もある。

備考 集中授業

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。

授業の一般目標 専制正治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まり、まもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の一般目標の点について知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ロシアとヨーロッパの歴史について強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 1
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 2
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 1 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 2 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 3 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリストたち
- 第 11 回 項目 スラブ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェン「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴開放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100点。無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点。

教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。 こうした 問題を考えてみたい。

授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観 点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィキ
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905 年革命
- 第 7 回 項目 1917 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 10 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回

## 第 30 回

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。遅刻マイナス 2 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	南川高志				

**授業の概要** 講義テーマ「地中海のローマ帝国と森のローマ帝国 西洋古代世界の新たな解釈の試み」  
**概要**「よく知られているように、ローマ帝国は古代イタリアの一都市国家から出発して、地中海周辺地域を中心に巨大な帝国を築き、長く統治した。しかし、古代ギリシア人と異なり、ローマ人は故地イタリアや地中海を離れて内陸部にも進出し、今日のイギリスやドイツにまで支配領域を広げた。そこには、地中海周辺の「海のローマ帝国」「イタリアのローマ帝国」とは性格を異にする「森のローマ帝国」が形成されたのである。この講義では、一般に知られている地中海周辺のローマ帝国の社会や文化について論じるだけでなく、帝国境界に存在した「森のローマ帝国」にも力点を置いて、ローマ帝国の性格や歴史的意義について検討する。イギリスやドイツに残る遺跡・遺物の写真などを紹介し、あるいはまた古代人の書き残した記録を日本語訳で紹介しつつ、具体的にローマ帝国に接近することを試みる。

**授業の一般目標** この講義では、まずは古代のローマ帝国の実態を受講生が正確に理解し、それを通じて西洋史の古代の実相とローマ帝国の歴史的意義を明確に認識することが目標である。しかし、それに留まらず、古代の世界帝国ローマを、「未開の土地に文明をもたらす帝国」として長らく解釈してきた欧米の学界や欧米の思潮についても、19～20世紀のヨーロッパの歩みと関連させて理解することを目標としたい。

**授業の計画（全体）** 本講義は、15時限の集中講義として実施します。

**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 「ローマ帝国」とは何か 内容 帝国の統治構造と社会の仕組み
- 第 2 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 1） 内容 日常生活：住居と衣服
- 第 3 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 2） 内容 日常生活：食事と娯楽
- 第 4 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 3） 内容 日常生活：娯楽
- 第 5 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 4） 内容 教育と娯楽（1）
- 第 6 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 5） 内容 教育と娯楽（2）
- 第 7 回 項目 森のローマ帝国（その 1） 内容 帝国中核地域と辺境属州の関係
- 第 8 回 項目 森のローマ帝国（その 2） 内容 ブリテン島の場合（1）
- 第 9 回 項目 森のローマ帝国（その 3） 内容 ブリテン島の場合（2）
- 第 10 回 項目 森のローマ帝国（その 4） 内容 ブリテン島の場合（3）
- 第 11 回 項目 森のローマ帝国（その 5） 内容 ブリテン島の場合（4）
- 第 12 回 項目 森のローマ帝国（その 6） 内容 ガリア、ゲルマニアの場合（その 1）
- 第 13 回 項目 森のローマ帝国（その 7） 内容 ガリア、ゲルマニアの場合（その 2）
- 第 14 回 項目 ローマ史研究の歩みと解釈の変遷 内容 近現代ヨーロッパの歩みとローマ帝国解釈の変容
- 第 15 回 項目 講義のまとめと筆記試験 内容 講義全体のまとめと修得度の調査

**成績評価方法（総合）** 授業の最終回で、講義全体のまとめをした後、講義内容に即した筆記試験をおこないます。

**教科書・参考書** 教科書：教科書は使いませんが、古代ローマ人の残した記録の日本語訳したものや地図などをプリントで配布します。／参考書：海のかなたのローマ帝国, 南川高志, 岩波書店, 2003 年；古代のイギリス, P・サルウェイ, 岩波書店, 2005 年；参考書は、上にかかげた 2 冊以外にも授業中随時紹介します。必ずしも購入する必要はありません。

**メッセージ** 受講にあたって、西洋史に関する特別の知識は必要ありません。はるかに時を隔てた古代世界と、私たちが生きている 21 世紀の現代とが、全く無関係ではないということを認識できる柔軟な頭脳と、異なる価値観の世界を理解できる瑞々しい感性の持ち主を期待しています。

**備考** 集中授業

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。/ 検索キーワード アメリカ、黒人。社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 アメリカ黒人社会の現状の概説
- 第 3 回 項目 「長い公民権運動論」の考察 内容 公民権運動に関する史学史論の整理
- 第 4 回 項目 南部公民権運動 (1) 内容 南部公民権運動に関する概説
- 第 5 回 項目 南部公民権運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 6 回 項目 南部公民権運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 7 回 項目 ブラック・ナショナリズム (1) 内容 ブラックナショナリズムの概説 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 8 回 項目 ブラック・ナショナリズム (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 9 回 項目 ブラック・ナショナリズム (3) 内容 史料に基づいた考察
- 第 10 回 項目 冷戦と公民権運動 内容 冷戦構造がアメリカ内政に及ぼした影響の解説
- 第 11 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (1) 内容 都市暴動解釈の歴史の概説
- 第 12 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (2) 内容 デトロイト都市研究史概説
- 第 13 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 14 回 項目 60年代を歴史化すること 内容 前期の講義のまとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：'Takin' to the Streets, Alexander Boom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003 年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	近藤 淳子				

授業の概要 20 世紀のアメリカ外交史を考察する。建国時のアメリカ外交の基本方針は経済を主体とするもので軍事的要因を否定するものであった。だが、第 2 次世界大戦後のアメリカは軍事大国となり、21 世紀はアメリカ主導の戦争が展開されている。この授業では、20 世紀の国際環境の中でアメリカが軍事大国化した経済・政治。文化的背景について調べていく。/ 検索キーワード 外交、戦争と平和、国際関係。

授業の一般目標 アメリカ外交史を通してアメリカ人の戦争と平和に対する価値観、及び 20 世紀の国際関係についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 外交の理念と実践に深くかかわる軍事・経済・政治的要因だけでなく文化的価値観を理解する力を養う。 思考・判断の観点： 歴史的事実に立脚した歴史解釈を形成していく力を身につける。 関心・意欲の観点： 現在の国際紛争に関心を持つことの重要性に対する認識を深める。 態度の観点： プレゼンテーションを準備し実践することによって自己の歴史解釈を表現する力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アメリカ外交の特質 内容 アメリカの外交の仕組みと外交理念の特長について学ぶ。 授業外指示 権力政治と道義外交について調べる。
- 第 2 回 項目 アメリカの建国から大国へ 内容 アメリカの伝統的外交理念の確立から経済大国としてアメリカが国際社会に台頭するまでの歴史の変遷を学ぶ。 授業外指示 米西戦争、シオドア・ルーズヴェルト大統領の力の外交を調べる。
- 第 3 回 項目 第一次世界大戦とウィルソン外交 内容 国際連盟の設立へ導いたウィルソンの世界観とは何かを考察すれ。 授業外指示 ウィルソンの「14 か条の平和原則」とパリ講和会議について調べる。
- 第 4 回 項目 戦間期の国際関係とアメリカの外交思想 内容 戦間期の平和思想について考察する。また、満州事変をめぐるアジア情勢がアメリカ外交に与えた影響について学ぶ。 授業外指示 ワシントン軍縮会議、スティムソン・ドクトリンについて調べる。
- 第 5 回 項目 日米戦争 内容 日米両国の戦争に対する価値観の違いについて学ぶ。 授業外指示 日米交渉、ブレトンウッズ体制、国際連合について調べる。
- 第 6 回 項目 原爆外交 内容 原爆製造から投下までのアメリカの決断と、戦後の核実験が国際世論に与える影響について考察する。 授業外指示 広島・長崎への原爆投下の原因と結果について調べる。
- 第 7 回 項目 冷戦とトルーマン外交 内容 冷戦の起源について考察し、アジアの冷戦に朝鮮戦争が持つ意義について学ぶ。 授業外指示 憂鬱 録 茲 砲 弔 い 督 瓦 戮 襦
- 第 8 回 項目 アイゼンハワー外交 内容 米ソ関係を基軸とする冷戦構造の確立について学ぶ。 授業外指示 大量報復戦略、核抑止論について調べる。
- 第 9 回 項目 キューバ危機とケネディ外交 内容 アメリカとキューバの関係を中心に核兵器使用の可能性について考察する。 授業外指示 キューバ・ミサイル危機、部分的核実験停止条約について調べる。
- 第 10 回 項目 ベトナム戦争のジョンソン外交 内容 ベトナム戦争に敗北したアメリカが抱える諸問題、とくにアメリカ人の反戦運動について考察する。 授業外指示 ベトナム戦争とイラク戦争を比較し、その相違点を調べる。
- 第 11 回 項目 ニクソン外交と米中関係 内容 キッシンジャー外交を主軸として米中国交回復を果たした米中両国の外交方針について学ぶ。 授業外指示 キッシンジャー外交と周恩来外交について調べる。
- 第 12 回 項目 カーターの人権外交 内容 ハードパワーが支配する国際社会の中で人権外交や道義外交は実践可能なのかをカーター外交を通して考察する。 授業外指示 イラン革命と米大使館人質事件について調べる。

- 第 13 回 項目 レーガンの力の外交 内容 「悪の帝国」論を掲げてパワーポリティクスを実践したレーガン大統領の外交を学ぶ。授業外指示 冷戦の終結をもたらしたものは何かを調べる。
- 第 14 回 項目 プレゼンテーション(1) 内容 各人が選んだ課題についてプレゼンテーションする。
- 第 15 回 項目 プレゼンテーション(2) 内容 各人が選んだ課題についてプレゼンテーションする。

教科書・参考書 教科書：未定、

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：kondo@fis.ypu.jp



開設科目	西洋史学講読(英語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 *Reviews in American History* に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。/ 検索キーワード 英語、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 論文の主な論点を早くつかめるようになる。 思考・判断の観点: 論文の構造、論理を理解できるようになる

授業の計画(全体) できれば前期・後期通年での受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakクシヨン 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)
- 第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)
- 第 4 回 項目 論文読解 (1)
- 第 5 回 項目 論文読解 (2)
- 第 6 回 項目 論文読解 (3)
- 第 7 回 項目 論文読解 (4)
- 第 8 回 項目 論文読解 (5)
- 第 9 回 項目 論文読解 (6)
- 第 10 回 項目 論文読解 (7)
- 第 11 回 項目 論文読解 (8)
- 第 12 回 項目 論文読解 (9)
- 第 13 回 項目 史料読解 (1)
- 第 14 回 項目 史料読解 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。

教科書・参考書 教科書: 翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997年; 教科書販売場所: 大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 学生諸君はおそらくドイツ語を学び始めたばかりであろうから、史料ではなく、一般的なドイツの歴史書を読んでいく。テキストは宗教改革前夜のドイツを概観した Heinrich Pleticha(Hrsg.): Deutsche Geschichte. Bd.5. Das aufgehende Mittelalter.1378-1517(Gutersloh, 1987) である。

授業の一般目標 ドイツ語文献読解力の向上を第一の目標としている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) ドイツ語読解力を高める。(2) 14世紀末から16世紀初めまでのドイツの歴史の大筋を理解する。

授業の計画(全体) テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験(独和辞典持込可)を行なう。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点とする。遅刻マイナス2点)。

教科書・参考書 教科書: 上記のとおり。 / 参考書: 適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 前期と同じ。

授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。

成績評価方法(総合) 試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点)。

教科書・参考書 教科書： 前期と同じ(続き) / 参考書： 適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読(フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。

授業の一般目標 辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。これが第1の目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) フランス語の読解能力を高める。(2) ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。

授業の計画(全体) テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験(仏和辞典持込可)を行なう。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席は一回につきマイナス5点。遅刻はマイナス2点)

教科書・参考書 教科書: 上記のとおり。 / 参考書: 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階409、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail;amak@yamaguchi-ac.jp)

開設科目	西洋史学講読(フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ。

授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点)。

教科書・参考書 教科書：前期と同じ(続き) / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。

授業の一般目標 学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 毎回1人または2人の学生に発表してもらう。期末試験は実施しないが、最後に各自のそれまでの研究のまとめと今後の展望を記したレポートを提出してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。  
 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。

成績評価方法（総合） 3年生：平常点 90 点。レポート 10 点。 4年生：平常点 100 点。 無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。 遅刻マイナス 2 点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 3, 4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告を行う。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する/検索キーワード ゼミ、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 早く良い先行研究を見つける方法を会得し、良い「問い」のたてかたを学ぶ (3) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 日本語論文を読む
- 第 3 回 項目 日本語論文を読む
- 第 4 回 項目 日本語論文を読む
- 第 5 回 項目 日本語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 英語論文を読む
- 第 10 回 項目 英語論文を読む
- 第 11 回 項目 英語論文を読む
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

成績評価方法(総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分



人文社会学科 社会情報論コース

開設科目	社会学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、現代社会学の礎を築いたともいえる M. ウェーバーや E. デュルケムの学説や、産業化・近代化、脱工業化と消費社会化、グローバル化と階層構造の変容（階層格差の拡大）といった現代産業社会の構造と変動について、詳しい資料を配付しながら説明する。／検索キーワード 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会、グローバル化

授業の一般目標 (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。(3) 現代社会が抱える諸問題に関心を向ける。

授業の計画(全体) 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。ほぼ隔週で、授業中に(10分程度で)ごく簡単なレポートを書いてもらう予定である(そのために特に準備をしておく必要はありませんので、安心してください)。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展(2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展(3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層(2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 グローバル化のなかの現代社会
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 社会学講義, 富永健一, 中央公論新社, 1995年 / 参考書: 社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997年; 現代社会学講義, 佐藤慶幸, 有斐閣, 1999年; 社会学(第4版), A. ギデンズ, 而立書房, 2004年; はじめて学ぶ社会学, 土井文博ほか, ミネルヴァ書房, 2007年; できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

メッセージ 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。特に1年生の人にとっては、少し難しい内容が含まれているかもしれませんが、これから謎を少しずつ解き明かしていくつもりで、どうかひるまずに受講してください。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学とは何か、社会学の方法としての社会調査とは何かを、現代社会の社会問題を考えながら学んでいく。

授業の一般目標 社会学とはどのような学問であるか、社会学の基礎知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会学、社会調査の知識を身につける 思考・判断の観点：社会的ものの味方ができる 関心・意欲の観点：社会問題に関心を持つ 態度の観点：社会に対して関心を持つ

授業の計画（全体）社会学と社会学の方法としての社会調査の概要を、身近な社会である、家族や地域社会から全体社会を考えながら学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る家族の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 6 回 項目 現代家族の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 7 回 項目 統計調査にみる地域社会の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 8 回 項目 都市社会のモノグラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 9 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナースァイティ） 内容 参与観察の実際
- 第 10 回 項目 現代都市の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 11 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 12 回 項目 社会移動と生活構造 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 生活意識と生活問題 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査

成績評価方法（総合）授業の進捗段階ごとに行う小レポートと、出席、試験を総合的にみて評価する。

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 地域社会を、多様な主体から構成されるネットワーク型社会としてとらえ、具体的には、企業と地域社会の共存共栄の可能性について考察する。 / 検索キーワード 企業の社会的責任 (CSR)、企業の社会貢献活動、ステークホルダー、NPO、アートNPO、地域社会、まちづくり

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動と、それに呼応し、連携した市民の活動の実態分析から、現代社会の仕組みと問題点を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業組織の社会貢献活動についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：地域社会に立地する企業と市民活動に目を向ける 態度の観点：身近な地域社会の実態を知る

授業の計画 (全体) 企業の社会的活動と地域社会における市民活動を、具体的な事例をみながら理解し、地域社会と企業の望ましい共存のあり方を探る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近代産業社会と社会学の成立
- 第 2 回 項目 近代化と企業活動
- 第 3 回 項目 企業組織と企業家の経営理念
- 第 4 回 項目 企業の社会貢献活動
- 第 5 回 項目 企業メセナ活動の現況
- 第 6 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 7 回 項目 企業組織とNPOの連携
- 第 8 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会
- 第 9 回 項目 山口県における企業活動の現況
- 第 10 回 項目 山口県における企業の社会貢献活動 (1)
- 第 11 回 項目 山口県における企業の社会貢献活動 (2)
- 第 12 回 項目 防府市における企業の社会貢献活動
- 第 13 回 項目 防府市民の企業評価
- 第 14 回 項目 企業組織と地域社会 (1)
- 第 15 回 項目 企業組織と地域社会 (2)

成績評価方法 (総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ、三浦典子、ミネルヴァ書房、2004年；その他適宜紹介する

メッセージ できれば前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 現代社会における、企業の社会貢献活動と地域活性化・まちづくりを事例として取り上げ、企業組織とコミュニティの共存可能性について考察する / 検索キーワード 企業の社会貢活動、企業メセナ、企業市民性、まちづくり、NPO, アートNPO, 地域活性化、ネットワーク型社会

授業の一般目標 まちづくりに対する企業の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地域社会における企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会貢献活動やまちづくりについて関心を持つ 態度の観点：身近なまちづくりに目を向け、地域社会への参加意欲を高める

授業の計画(全体) 地域社会の活性化に対する企業の関わりを、企業の社会社会的責任や社会貢献活動に視点を置いて明らかにし、企業組織と地域社会との共存の可能性を探る

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業の社会的責任と社会貢献活動
- 第 2 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 3 回 項目 企業家の社会貢献(1)
- 第 4 回 項目 企業家の社会貢献(2)
- 第 5 回 項目 企業メセナ活動
- 第 6 回 項目 地域メセナの活動と展開
- 第 7 回 項目 企業メセナとまちづくり(1)
- 第 8 回 項目 企業メセナとまちづくり(2)
- 第 9 回 項目 企業メセナとまちづくり(3)
- 第 10 回 項目 文化によるまちづくり
- 第 11 回 項目 地域活性化への企業の貢献(1)
- 第 12 回 項目 地域活性化への企業の貢献(2)
- 第 13 回 項目 市民活動とグラウンドワーク
- 第 14 回 項目 ネットワーク型社会を考える(1)
- 第 15 回 項目 ネットワーク型社会を考え(2)

成績評価方法(総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004年; その他適宜紹介する

メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 戦後日本社会の急激な変容ぶりは、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当て、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。 / 検索キーワード 戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容

授業の一般目標 (1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。(2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。

思考・判断の観点: 1. 戦争や平和が国家による恣意的な判断によってのみ結果されるものではなく、そこに民衆の意識が介在していることが指摘できる。2. 戦争や平和の内実を決定するものは、民衆自身であることが自覚できる。 関心・意欲の観点: 1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。2. 21世紀が再び戦争の時代であるとする認識を持つ。 態度の観点: 1. 既存の歴史認識や社会認識の有り様に疑問を持つ。2. 他者との言語や文章を媒体とするコミュニケーションに関心を持つ。

授業の計画(全体) 戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、纈纈厚著『侵略戦争 歴史事実と歴史認識』(筑摩書房、1999年刊)など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本人の戦争観の変容(1) 内容 1) 戦争観の転換を迫る者 2) 日本人の戦争観の実際 3) 時代と戦争観の変容 授業外指示 テキスト『侵略戦争』の精読と配布レジュメによる事前学習(以下、毎回同様の指示をする)
- 第 2 回 項目 日本人の戦争観の変容(2) 内容 4) 戦争観の形成と政治的文化的状況 5) 戦争認識を阻害するもの
- 第 3 回 項目 時代の変容と戦争認識の変容 内容 1) 1950年代の特色 2) 風化の政治的時代的背景と原因
- 第 4 回 項目 アジア太平洋戦争の総括をめぐって 内容 1) 「太平洋戦争の呼称をめぐって」 2) 解放戦争論の登場
- 第 5 回 項目 戦後の戦争と日本人 内容 1) 朝鮮戦争論 2) ベトナム戦争論
- 第 6 回 項目 日本再軍備をめぐる国論の動き 内容 1) 戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2) 日米安保の受容過程
- 第 7 回 項目 戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 内容 1) 戦争責任論 2) 過去の克服
- 第 8 回 項目 軍隊慰安婦問題への反応 内容 1) いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2) アジア民衆の対日批判
- 第 9 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(1) 内容 1) 教科書問題 2) 歴史修正主義グループの意味
- 第 10 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(2) 内容 3) 歴史修正主義批判の展開 4) 教科書問題への世論の動き
- 第 11 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観(1) 内容 1) 戦後日本人の戦争観の変容から現代の戦争への視点を探る

- 第 12 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観( 2 ) 内容 2 ) 現代の戦争観を通して保守化・右傾化する日本人の政治歴史意識の実際を検証する
- 第 13 回 項目 総括と補論( 1 ) 内容 1 ) 歴史は乗り越えられないのか～歴史の克服と清算の問題に触れて～
- 第 14 回 項目 総括と補論( 2 ) 内容 2 ) 歴史創造の主体と客体という問題
- 第 15 回 項目 総括と補論( 3 ) 内容 3 ) 社会科学は何処まで政治から自由であるのか
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法(総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：『侵略戦争』, 纈纈 厚, 筑摩書房, 1999 年；有事体制論, 纈纈 厚, インパクト出版会, 2004 年；現代の戦争, 纈纈厚他, 岩波書店, 2003 年；戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年；文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年 / 参考書：検証・新ガイドライン安保体制, 纈纈厚, インパクト出版会, 1998 年；周辺事態法, 纈纈厚, 社会評論社, 2000 年；現代政治の課題, 纈纈厚, 北樹出版, 2001 年；有事法制とは何か, 纈纈厚, インパクト出版会, 2002 年；有事法制の罫にだまされるな, 纈纈厚, 凱風社, 2002 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制, 纈纈厚, 凱風社, 2006 年

メッセージ 現代社会に内在する矛盾をどこまで指摘可能か思考せよ

連絡先・オフィスアワー 纈纈厚 koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM 1:00-2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 現代の政治社会における人間の所在と位置について考察していく。そこでは国家と人間、社会と人間、組織と人間などを大きなテーマとして設定しつつ、現代社会における人間の営みの理想型を模索していく。 / 検索キーワード 政治的人間 政治の人間化 国家・社会と人間

授業の一般目標 「人間は政治的かつ社会的な存在」である限り、私たちは政治とは無縁で有り得ない。まらば、政治社会にあって、これと豊かにコミットしていくための処方箋が不可欠である。本講義は、言うならばその処方箋探しの場となるであろう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：この社会に生きる全ての人間は「政治的人間」あることを理解する。すなわち、複雑化する一方の現代社会にあって、政治との正面からの向き合いなしには、自らの生存も精神も、そして、思想や行動の自由を獲得できないことを自覚することである。 思考・判断の観点：他者同調型ではなく、自立・自由・自治の観点からする思考・判断が、いまほど求められている時代はないがゆえに、そのための学習の深化を期待したい。 関心・意欲の観点：あらゆる社会事象に鋭い嗅覚を持って対峙し、的確な選択を実行するためには、あらゆる事象への関心を抱き、解析する意欲を内在化させる方法を発見することである。 態度の観点：自らが得た知識・情報の的確性を確認するためには他者との相互的交流が不可欠である。その意味で積極的に他者との関わりを持続すべきことの大切さを身につけたい。 技能・表現の観点：自ら取得した知識・情報を他者に向けて発信するための表現能力の向上が強く求められている。書く力、読む力、伝える力をあらゆる機会を通して獲得すべきである。

授業の計画（全体） 多義にわたるテーマ及び課題を提示していくので、毎回レジユメを配布していく。受講生諸君は講義に臨むにあたって事前にレジユメの精読が求められる。レジユメと講義と自らの思考という循環によって、政治社会に果敢にコミットし、豊かなコミュニケーション能力を獲得して欲しい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家・社会・組織と人間の関わり方とは 内容 国家とは何かをめぐって
- 第 2 回 項目 「政治社会」とはどのような社会を言うのか 内容 国家・社会とのスタンスの取り方
- 第 3 回 項目 企業社会と人間を結ぶもの 内容 企業社会の中で
- 第 4 回 項目 企業国家と日本人 内容 日本株式会社を超えて
- 第 5 回 項目 近代化・資本主義化と人間 内容 上からの近代化と共同体秩序の形成
- 第 6 回 項目 国家主義・愛国主義・愛郷主義と人間 内容 ファシズム・イデオロギーへの取り込み
- 第 7 回 項目 戦後民主主義の変容と展望 内容 戦後民主主義は人間を解放したか
- 第 8 回 項目 自由・安全・平等の思想と観念のゆくへ 内容 動員・統制・管理の思想と観念との対抗
- 第 9 回 項目 高度経済成長と成長神話のなかで 内容 大国ナショナリズムの形成から私生活主義まで
- 第 10 回 項目 競争社会と差別社会の諸相 内容 競争と差別が生み出される戦後日本の意識
- 第 11 回 項目 学歴社会と階層社会の実態 内容 高度学歴社会化と階層社会化の帰結
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（1） 内容 政治と人間の対抗と融合をめぐって
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（2） 内容 政治と人間の対抗融合をめぐって
- 第 14 回 項目 全体の纏めと討論（1）
- 第 15 回 項目 全体の纏めと討論（2）
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回



- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学, 纈纈厚, , 2005 年 / 参考書：『侵略戦争』, 纈纈厚, 筑摩書房, 1999 年；有事体制論, 纈纈厚, インパクト出版会, 2004 年；現代の戦争, 纈纈厚他, 岩波書店, 2003 年；文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年；近代日本政軍関係の研究, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年；現代日本のリズムとストレス, 加藤哲郎, 花伝社, 1996 年

メッセージ 君は、政治の解体と創造への道程をどうつけるのか

連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguti-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 P M 1:00 - 2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥田 敦				

授業の概要 「イスラーム法 (シャリーア・イスラーミーヤ)」について、日本法あるいは西欧法との比較を念頭に置きながら、その一般的な性質、法源、個々の法領域、歴史などを紹介する。イスラーム法は、10 億を越えるとされるイスラーム教徒の法であり、国民国家あるいは主権国家を基本的な構成単位とすることなしに成立する法秩序であって、民族や人種あるいは習慣や伝統の違いを乗り越える仕組みを有している。したがって、イスラーム法についての正しい認識は、世界の 5 ～ 6 人にひとりが属するイスラーム教徒の共同体およびその法のありように対する理解を正すばかりでなく、全地球規模での公益を公平かつ公正に分配することが求められるこれからの国際社会の法を構築を考える上でも欠かすことができない。アラビア語の専門用語の紹介・解説も積極的に行ないながら、現代を代表するムスリム法学者の見解に依拠しつつイスラーム法の世界を概観したい。また、必要に応じて、イスラーム神学の知見やグローバル化時代のイスラーム圏の文化社会についての紹介も行う。

授業の一般目標 「イスラーム法 (シャリーア・イスラーミーヤ)」について、日本法あるいは西欧法との比較を念頭に置きながら、その一般的な性質、法源、個々の法領域、現代的な問題などを、アラビア語の専門用語の紹介・解説も積極的に行ないながら、現代を代表するムスリム法学者の見解に依拠しつつ、概観していく。イスラーム法は、現在 13 億とも 17 億ともされるイスラーム教徒の法である。イスラーム世界の現実を垣間見ればわかるように、この法は十分に守られているとは言えない。しかしながら、シャリーアは、本来的には、国民国家あるいは主権国家を基本的な構成単位とすることなしに成立する法秩序であって、民族や人種あるいは習慣や伝統の違いを乗り越える仕組みを有している。したがって、イスラーム法についての正しい認識は、イスラーム教徒の共同体およびその法が何を目指しているのか明らかにし、彼らの共同体およびその法のありように対する理解を正してくれる。さらに、全地球規模での公益を公平かつ公正に分配することが求められるこれからの国際社会の法を構築を考える上でシャリーアの正しい理解は不可欠である。シャリーアが何であるのかにとどまらず、シャリーアを学ぶことによって自分たちの法や社会のかかえる問題や然るべき変化の方向性について考える機会になってくれればと思う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イスラーム法への招待 内容 イスラーム法研究の必須性と必要性
- 第 2 回 項目 シャリーアとは (1) 内容 シャリーア・ふいくふ・カーヌーン・フクムの語義とともに立法者をアッラーとする法について
- 第 3 回 項目 イスラーム法の法源論 (1) 内容 法源論の特徴とクルアーンについて
- 第 4 回 項目 イスラーム法の法源論 (2) 内容 クルアーンとスンナについて
- 第 5 回 項目 イジュティハードの必要性 内容 イジュティハードおよびイジュティハード的法源について
- 第 6 回 項目 イスラーム法の目的 内容 法の目的論と「福利」の概念について
- 第 7 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (1) 内容 一般的性質による法の把握。「天啓性」について
- 第 8 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (2) 内容 「倫理性」「現実性」について
- 第 9 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (3) 内容 「人道性」「調和性」「包括性」について
- 第 10 回 項目 イスラーム法の諸領域 (1) 内容 イバーダートについて
- 第 11 回 項目 イスラーム法の諸領域 (2) 内容 所有権・契約などについて
- 第 12 回 項目 イスラーム法における人と人権 (1) 内容 イスラームにおける人とは
- 第 13 回 項目 イスラーム法の人と人権 (2) 内容 イスラームにおける人権について
- 第 14 回 項目 イスラーム法におけるジハード 内容 ジハードについて考える
- 第 15 回 項目 イスラーム法の現代的意義 内容 グローバル化時代のシャリーアの在り方について

教科書・参考書 教科書：講義ごとにレジュメを配布します。 / 参考書：イスラームの人権, 奥田敦, 慶應義塾大学出版会, 2005 年

備考 集中授業

開設科目	コミュニティ論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 「都市と貧困」をテーマに、近現代都市における貧困、階層格差の問題と、都市下層の生活実態や共同性の位相、さらには都市下層社会の変容について、社会学的な調査記録や調査データに依拠しながら、概観していく。 / 検索キーワード 都市下層、スラム、シカゴ学派、社会調査、社会事業、寄せ場、ホームレス

授業の一般目標 (1) 近現代の欧米や日本における都市化を、都市下層社会の変容という視点から見つめ直すことによって、都市化過程の重層的な理解を促す。(2) 現代社会における階層格差のありようを、社会学的なデータに基づいて理解し、都市問題、社会問題に対する関心を深める。

授業の計画(全体) 都市と貧困との関係、および都市下層社会の諸相、都市下層調査の変遷などを概観する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 都市と貧困
- 第 3 回 項目 イギリス産業都市における貧困
- 第 4 回 項目 同上(続き)
- 第 5 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフに見る都市下層社会
- 第 6 回 項目 同上(続き)
- 第 7 回 項目 近代日本の都市下層(1) 内容 貧民窟調査の記録
- 第 8 回 項目 同上(2) 内容 「細民調査」と「月島調査」
- 第 9 回 項目 同上(3) 内容 草間八十雄と都市下層調査
- 第 10 回 項目 同上(4) 内容 社会事業の展開
- 第 11 回 項目 現代日本の都市下層(1) 内容 「バタヤ社会」の形成と消滅
- 第 12 回 項目 同上(2) 内容 都市化と新興宗教
- 第 13 回 項目 同上(3) 内容 寄せ場とホームレス
- 第 14 回 項目 同上(4) 内容 ホームレス、ワーキングプアと現代の貧困
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験(論述式) 50% 出席 40% 小レポート・授業参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。 / 参考書: シカゴ社会学の研究, 宝月誠ほか, 恒星社厚生閣, 1997年; 日本の下層社会, 横山源之助, 岩波書店(文庫), 1985年; 月島調査(復刻版), 内務省衛生局, 光生館, 1970年; ホームレス自立支援システムの研究, 麦倉哲, 第一書林, 2006年; 現代の貧困, 岩田正美, 筑摩書房(新書), 2007年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 / 検索キーワード 近代化、都市化、官僚制化、グローバル化、都市コミュニティ、企業組織、現代家族

授業の一般目標 現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会の研究に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会の現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画（全体） テキストや参考文献を分担して、レポートし、その研究課題について議論していく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究テーマ中間 報告
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 社会学研究の方法と現代社会の問題を考える する

成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 / 検索キーワード 近代化、都市化、社会変動、現代社会 社会問題

授業の一般目標 現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会と社会問題に関する現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画（全体） 参考文献についてレポートし、研究課題について議論していく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究課題中間報告会
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 現代社会と社会 変動を総括 する

成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 グローバル化の中で生じている地域社会の変容と諸問題を取りあげ、その現状を分析する。地域社会学の研究成果をとりまとめた文献を読みながら、受講生による報告、討論によって授業を進めていく。並行して、4年生には各自の卒論テーマに基づく報告をしてもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。/ 検索キーワード グローバル化、ネットワーク社会、世界都市、移動、地域社会、地場産業、災害、ローカルガバナンス、卒業論文

授業の一般目標 (1) グローバル化というマクロ社会変動の特質について理解を深める。(2) グローバル化のもとで生じている欧米やアジア、日本の地域社会の変動、および地域の諸問題について、地域社会学の視点から理解する。(3) 卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する(4年生)

授業の計画(全体) 以下のテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。4年生には、各自の卒論のテーマに基づく研究成果を披露してもらう。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方について
- 第 2 回 項目 ポストモダンとしての地域社会
- 第 3 回 項目 世界システムと世界都市の論理
- 第 4 回 項目 ネットワーク社会とメディア公共圏
- 第 5 回 項目 世界の移動と定住の諸過程
- 第 6 回 項目 トランスナショナルリズムの展開をもたらす地域社会
- 第 7 回 項目 移動と生活・潜在能力の発達
- 第 8 回 項目 グローバリゼーションとイタリア地域社会の非営利協同事業組織の展開
- 第 9 回 項目 グローバリゼーションと日本の地場産業
- 第 10 回 項目 地域形成主体としての女性
- 第 11 回 項目 地域形成主体としての「弱者」
- 第 12 回 項目 「災害(多発)社会」と人間生活の再生
- 第 13 回 項目 地域生活、ローカルガバナンス、公共性
- 第 14 回 項目 いくつものもうひとつの地域社会へ
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業参加度 40% 課題レポート(必須) 20%

教科書・参考書 教科書: グローバリゼーション/ポスト・モダンと地域社会(地域社会学講座2), 古城利明、新原道信、広田康生, 東信堂, 2006年 / 参考書: 地域社会学の視座と方法(地域社会学講座1), 似田貝香門ほか, 東信堂, 2006年; 地域社会の政策とガバナンス(地域社会学講座3), 岩崎信彦、矢澤澄子ほか, 東信堂, 2006年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する

メッセージ 初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

**授業の概要** 21 世紀の日本は、大地震をはじめとする自然災害が多発する時代に入ったと言われている。この演習では、災害社会学の入門書（テキスト）を読みながら、災害に強い地域社会とはどのような社会であり、そのような社会を形成するためには何が必要なのかという点について考察を加える。内外の災害事例から、特に災害後の地域社会の復旧・復興過程および地域再生のプロセスに焦点を合わせ、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業を進めていく。また、3 年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告もしてもらう。／検索キーワード 災害、被災コミュニティ、復旧・復興、震災復興、火山噴火、戦災復興、水害からの復興、大火からの復興、都市計画、生活再建

**授業の一般目標**（１）災害社会学の基本的な視点、概念、考え方を理解する。（２）災害後における地域社会の復旧・復興過程の特質と問題点・課題について、具体的な災害事例を参照しながら、理解を深める。（３）各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。

**授業の計画（全体）** 以下のいずれかのテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。併せて、3 年生には、来年度における卒業論文の作成を視野に入れて、各自の研究テーマに基づく報告をしてもらう予定である。

**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 被災地コミュニティにおける復興とは
- 第 3 回 項目 復旧・復興の諸類型
- 第 4 回 項目 近現代における被災地復興
- 第 5 回 項目 生活再建をめぐる現代史的展開と課題
- 第 6 回 項目 震災復興（関東大震災と復興計画）
- 第 7 回 項目 震災復興（都市の復興と新たなコミュニティの形成）
- 第 8 回 項目 震災復興（阪神・淡路大震災と都市インナーエリアの震災復興）
- 第 9 回 項目 火山噴火災害と復旧・復興
- 第 10 回 項目 戦災復興
- 第 11 回 項目 水害からの復興
- 第 12 回 項目 大火からの復興
- 第 13 回 項目 各自の研究テーマにかかわる報告
- 第 14 回 項目 各自の研究テーマにかかわる報告
- 第 15 回 項目 課題レポート

**成績評価方法（総合）** 出席 40 % 報告・授業への参加度 40 % 課題レポート（必須） 20 %

**教科書・参考書** 教科書：復興コミュニティ論入門，浦野正樹・大矢根淳ほか，弘文堂，2007 年；災害社会学入門，大矢根淳、浦野正樹ほか，弘文堂，2007 年 / 参考書：災害危機管理論入門，吉井博明、田中淳ほか，弘文堂，2008 年；参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

**メッセージ** 初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

**連絡先・オフィスアワー メール・アドレス** n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室



開設科目	社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。 / 検索キーワード 卒業論文、社会学

授業の一般目標 受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。

授業の計画(全体) 受講生には、卒業論文作成に必要な資料・データや文献を渉猟した上で、研究報告をしてもらう。報告に対して、受講生全員で質疑と討論を行い、卒業論文の構想と内容を肉付けしていく。また、報告と並行して、実際に卒業論文の執筆に入ってもらおう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方についての説明
- 第2回 項目 受講生による報告 内容 卒業論文の内容に関する報告と質疑応答
- 第3回 項目 同上 内容 同上
- 第4回 項目 同上 内容 同上
- 第5回 項目 同上 内容 同上
- 第6回 項目 同上 内容 同上
- 第7回 項目 同上 内容 同上
- 第8回 項目 同上 内容 同上
- 第9回 項目 同上 内容 同上
- 第10回 項目 同上 内容 同上
- 第11回 項目 同上 内容 卒業論文の目次構成、筋立て
- 第12回 項目 卒業論文の内容に関する個別指導
- 第13回 項目 卒業論文の内容に関する個別指導
- 第14回 項目 卒業論文の内容に関する個別指導
- 第15回 項目 卒業論文の内容に関する口頭試問

成績評価方法(総合) 出席・報告 100%

教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。 / 参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	瀧澤厚				

授業の概要 いま、日本社会はポスト冷戦の時代と言う名の「第二の戦後」を迎えている。1950年代以降の日本社会は、冷戦構造に規定されてきた特殊日本的な社会構造を特質としている。その社会構造のなかで現行憲法の平和主義に形骸化が公然と進められ、安保が憲法に優越する存在としてすら存在してきた。同時に、冷戦構造に後押しされた戦後日本の保守体制と保守思想は、日本社会をして「経済的繁栄」を結果させる一方で、種々の非人権的な諸相を様々な領域で露呈させる要因ともなった。唯一の「冷戦構造の受益者」としての日本人は、冷戦構造を背景として成立した軍事政権の権威主義的支配に苦しめられているアジア民衆との間に埋めがたい距離を創り上げてきた。その日本人も、戦後社会に冷戦構造を支えにもたらされた高度成長経済体制のなか、企業によって支配された日本国家に対置する自己を確立し得ないまま、依然として「市民」としての意識も行動力も持ち得ていない。本演習では、こうした問題意識を念頭に据えつつ、以下のようなテーマで出席者全員で報告と討論を重ねていきたいと思う。/ 検索キーワード 国家 社会 市民

授業の一般目標 出席者が現状分析において明確に自己の見解を表明できるようになること、相互のコミュニケーションに果敢に取り組むスタンスを身につけることを第一の目標としていきたい。そして、論旨が明快な文章執筆能力の向上に資するために新聞記事の解読など並行して進めていく。

授業の計画(全体) 3年次演習の成果として年度末には瀧澤ゼミ誌『現代政治社会学論集』への寄稿を義務づける。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 戦後保守体制論
- 第2回 項目 保守イデオロギーと国家イデオロギー
- 第3回 項目 権威的支配構造と企業社会論
- 第4回 項目 日本株式会社論を超えて
- 第5回 項目 国家暴力装置の実態
- 第6回 項目 現代官僚制の問題点
- 第7回 項目 安保体制・安保構造・安保文化
- 第8回 項目 安保と憲法の強制的共存
- 第9回 項目 戦後国家論の展開
- 第10回 項目 閉塞する戦後日本社会
- 第11回 項目 日本人の国際認識
- 第12回 項目 現代マスコミの課題と展望
- 第13回 項目 マス・メディアとジャーナリズム
- 第14回 項目 情報社会と人権
- 第15回 項目 世論とマスコミ
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回

- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

#### 成績評価方法 (総合) 報告内容と討論への参加態度

教科書・参考書 教科書：現代の戦争, 纈纈厚, 岩波書店, 2002 年；戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制, 纈纈厚, 凱風社, 2006 年 / 参考書：検証・新ガイドライン安保体制, 纈纈厚, インパクト出版会, 1998 年；周辺事態法, 纈纈厚, 社会評論社, 2000 年；現代政治の課題, 纈纈厚, 北樹出版, 2001 年；有事法制とは何か, 纈纈厚, インパクト出版会, 2002 年；有事法制の罫にだまされるな, 纈纈厚, 凱風社, 2002 年

メッセージ 徹底した議論と思考の向こうに見えるものは何か

連絡先・オフィスアワー E-mail [koketu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:koketu@yamaguchi-u.ac.jp)、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 PM 1:00 - 2:30

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	瀬藤厚				

授業の概要 前期での報告を踏まえて、年度末までに以下の日程で瀬藤ゼミ誌『現代政治社会科学論集』に寄稿する小論種の執筆に全力をあげる。従って、後期の報告内容は、小論文の区尾性内容を前提としたものとする。/ 検索キーワード 説得的かつ論理的な論述

授業の一般目標 10月より各自の報告を行う。12月8日(日米開戦日)までに草稿を完成させる。1月28日までに完全原稿を提出する。2月から編集作業を開始し、3月初旬に発行する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 自ら主体的に選択した課題対象にアクセスし、調査・精読などの作業を通して表現する技法を身につける。最終的には小論文(400字で30枚以上)を執筆し、瀬藤ゼミ機関誌『現代政治社会論』に掲載することを課す。 思考・判断の観点: 問題対象にアクセスする場合、借り物ではない自分の思考を徹底する習慣を身につける。 関心・意欲の観点: 常に社会問題全般に目配りし、そこに孕まれた課題や矛盾を切開しようとする動機付けを行う。

授業の計画(全体) 報告内容と小論集で評価する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 報告者のテーマ設定と報告の順番を決定する。
- 第2回 項目 出席者による報告と相互批判(以下同様)
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

メッセージ 書くことの喜びを共に分かち合おう

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 研究室 TEL.933-5278

開設科目	現代政治社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 演習参加者各自の問題意識がクリアに反映された課題を設定し、文献・資料を収集・精読する作業を通して卒業論文の作成を目標とする。 / 検索キーワード 主体的選択 独自の分析

授業の一般目標 社会学領域の論文の執筆活動を通して、将来逞しい「市民」として自立していくための機会とする。そこでは大いなる批判精神や説明能力の習得を求めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 課題選択への前提条件として情報へのアクセスを果敢に行い、知識取得に取り組む姿勢の確保を第一とする。 思考・判断の観点： 主体的に選択した課題の分析を自らの言葉と方法で明らかにし、相互討論を通して自己評価できる能力を身につける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 報告者の順番を決定。
- 第 2 回 項目 以下、順次報告と討論を重ねていく。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

メッセージ 逞しい「市民」への第一歩を！

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	瀬藤厚				

授業の概要 説得的かつ理論的な論文の執筆/検索キーワード 時代への批判精神をどう養うか

授業の一般目標 論文の作成と瀬藤ゼミ誌『現代政治社会論』の発行

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

第1回 項目 各自のテーマ設定と広告順の決定

第2回 項目 以下、報告

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

第16回

第17回

第18回

第19回

第20回

第21回

第22回

第23回

第24回

第25回

第26回

第27回

第28回

第29回

第30回

メッセージ 君は君自身を越えられるか

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 今日の国内外の情報を、日本のメディアだけでなく、外国のメディアでどのように報道されているかについて考え、情報のあり方、文化や視点の違いによる物事の捉えかたの違いを考える。

授業の一般目標 現代社会の諸問題を様々な視点から考察した文章を読み解くなかで、各自が卒業論文のテーマとする課題を見つけてゆくこと

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新聞・雑誌記事を読んで、内容を理解すること。思考・判断の観点：比較考察し、自分を相対化できるようになること。関心・意欲の観点：不明点を積極的に自分で調べること。態度の観点：授業に出席し、議論に積極的に参加すること。発表、提出物など、役割をきちんと果たすこと。技能・表現の観点：口頭発表と文章表現ができること。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 講義1
- 第3回 項目 発表1
- 第4回 項目 討論1
- 第5回 項目 講義2
- 第6回 項目 発表2
- 第7回 項目 討論2
- 第8回 項目 講義3
- 第9回 項目 発表3
- 第10回 項目 討論3
- 第11回 項目 講義4
- 第12回 項目 発表4
- 第13回 項目 討論4
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合) 出席、および授業への参加、ならびに最後のレポートを含めて総合的に判断する。

メッセージ 時事問題(国際問題)に関心をもってください。



開設科目	現代政治社会学演習(3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 3年生対象。卒論執筆のために論文の書き方を学ぶ。実際のテーマ選びと方法論の決定、目次作成などを通して、各自が自らの論の構成を披露し、参加者が質問するなどして詰めて行く。

授業の一般目標 卒業論文のたたき台になるようなレポート作成を目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの論の背景となる一般的知識を獲得し、理解していること。

思考・判断の観点：論理的思考ができること。 関心・意欲の観点：問題意識が明確であること。

態度の観点：自らの研究だけでなく、他人の研究発表にも積極的に関与し、意見を述べること。 技能・

表現の観点：社会科学用語が使いこなせていて、かつ論理的文章表現ができること。

授業の計画(全体) 各自が自分のテーマに関する研究史、研究論文を発表し、自らの研究課題について報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告1
- 第2回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告2
- 第3回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告3
- 第4回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告4
- 第5回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告5
- 第6回 項目 各自の研究発表と討論1
- 第7回 項目 各自の研究発表と討論2
- 第8回 項目 各自の研究発表と討論3
- 第9回 項目 各自の研究発表と討論4
- 第10回 項目 各自の研究発表と討論5
- 第11回 項目 各自の研究発表と討論6
- 第12回 項目 各自の研究発表と討論7
- 第13回 項目 各自の研究発表と討論8
- 第14回 項目 各自の研究発表と討論9
- 第15回 項目 全体討論と今後の予定

成績評価方法(総合) 出席、授業への参加度、期末のレポートによる総合的評価。

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 4年生の卒論演習。

授業の一般目標 問題設定を明確にし、方法論とテーマの整合性を図る。

成績評価方法（総合）出席と卒論予備レポートの提出

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 4年生の卒論演習

授業の一般目標 論理がきちんと展開されていて、論文としての文章がきちんと書けていること

成績評価方法(総合) 出席

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学的社会調査の計画と実査をふまえ、各自で調査調査結果の分析ができるようにする。そのために調査方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。 / 検索キーワード 社会調査、統計的調査、事例調査、調査票作成、フィールド調査

授業の一般目標 問題意識を明確にし、社会調査の計画をし、調査票の作成、聞き取り調査、調査結果の分析をし、レポートを作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会調査の概要について理解する 思考・判断の観点：仮説の検証の方法の有効性を考える 関心・意欲の観点：社会現象を切り取る方法に関心を持つ 技能・表現の観点：社会調査の実践の技術を身につける

授業の計画（全体） 仮説を設定し、それにふさわしい社会調査の方法を決定し、調査の対象を設定し、社会調査を実践する。調査結果の利用を考えながら、調査結果の集計、整理を行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会調査の設計 1 内容 問題の決定と調査方法の検討
- 第 2 回 項目 社会調査の対象 内容 具体的な調査対象の決定
- 第 3 回 項目 社会調査の方法 の 1 内容 先行研究を検討
- 第 4 回 項目 社会調査の方法 2 内容 先行研究の検討 から仮説を設定し調査方法を確定する
- 第 5 回 項目 社会調査の計画 1 内容 調査方法の検討
- 第 6 回 項目 社会調査の計画 2 内容 調査項目の検討
- 第 7 回 項目 社会調査の計画 3 内容 調査項目の作成
- 第 8 回 項目 社会調査の計画 4 内容 調査対象の決定
- 第 9 回 項目 社会調査の実施 1 内容 フィールド調査 の計画
- 第 10 回 項目 社会調査の実施 2 内容 フィールド調査 の実施
- 第 11 回 項目 社会調査の実施 3 内容 フィールド調査 の実施
- 第 12 回 項目 社会調査の実施 4 内容 フィールド調査 の総括
- 第 13 回 項目 調査結果の集約 1 内容 データ処理の方法を学ぶ
- 第 14 回 項目 調査結果の集約 2 内容 データ処理
- 第 15 回 項目 調査結果の集約 3 内容 調査結果のまとめ

成績評価方法（総合） 出席と、社会調査実習への参加、調査結果を取りまとめたレポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：社会調査へのアプローチ：論理と方法 (Minerva text library ; 10), 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999 年; 大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 1999 年

メッセージ 出席と実習への参加を義務とする

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。取り上げるテーマは、「環境問題と住民活動」、「災害と地域社会」、「市民活動と地域社会」、「まちづくりとコミュニティ再生」のいずれかを予定している。調査手法としては、主に聞き取り調査を採用する予定である（テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もありうる）。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、聞き取り調査、調査項目、調査票

授業の一般目標 社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。

授業の計画（全体） 社会調査の一連の過程を実践する。受講生各自で分担して調査データを分析し、調査報告書の形にまとめる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 調査テーマの設定と確認 / 調査スケジュールの検討
- 第 3 回 項目 調査テーマに関する資料収集、事前学習
- 第 4 回 項目 調査テーマに関する資料収集、調査方法の検討、調査倫理について
- 第 5 回 項目 調査項目の検討と抽出
- 第 6 回 項目 調査票の作成
- 第 7 回 項目 調査票の設計と再検討
- 第 8 回 項目 調査スケジュールの検討及びラポール、調査マナーの確認
- 第 9 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 10 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 11 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 12 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 13 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 14 回 項目 調査データの分析 / 報告書目次（案）と執筆分担の決定
- 第 15 回 項目 調査データの分析 / 報告書の執筆

成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査のプロセス・作業への参加） 50 % 授業内での発表 20 % 調査レポート 30 %

教科書・参考書 教科書：テキストは特に使用しない。 / 参考書：社会学小辞典，浜嶋朗ほか，有斐閣，1997年；社会調査へのアプローチ（第2版），大谷信介ほか，ミネルヴァ書房，2005年；「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス，好井裕明，光文社，2006年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会心理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。 / 検索キーワード 社会心理学 コミュニケーション ケータイ

授業の一般目標 1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学入門
- 第 2 回 項目 社会心理学の誕生
- 第 3 回 項目 社会心理学の課題
- 第 4 回 項目 ケータイから学ぶということ
- 第 5 回 項目 メディア変容へのアプローチ
- 第 6 回 項目 都市空間とケータイ
- 第 7 回 項目 ケータイ・コミュニケーションの特性
- 第 8 回 項目 中間考察
- 第 9 回 項目 ケータイに映る「わたし」
- 第 10 回 項目 ケータイ利用から見えるジェンダー
- 第 11 回 項目 ケータイの流行学
- 第 12 回 項目 ケータイとうわさ
- 第 13 回 項目 モバイル社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 青少年とケータイ
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	社会心理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。 / 検索キーワード 調査設計、仮説構成、質問文、標本調査、調査技法

授業の一般目標 (1) 社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。(2) 社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識・技法を修得する

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学と調査 ( 1 ) 内容 社会心理学と社会調査、社会調査はなぜ必要か
- 第 2 回 項目 現代社会と社会調査 内容 現代社会における調査の位置、政策形成と調査
- 第 3 回 項目 社会調査が抱える諸問題 内容 社会調査の現状、情報開示、プライバシー保護
- 第 4 回 項目 調査のための資料の探索 内容 情報の探し方、研究するための情報の入手、情報ソース ( 図書館、大学、マスコミ、政府など ) 統計の所在源、主要な官庁統計
- 第 5 回 項目 社会調査の基本 ( 1 ) 内容 何のための社会調査か、記述と説明、概念構成と概念操作、概念の働き、操作概念
- 第 6 回 項目 社会調査の基本 ( 2 ) 内容 変数とは、概念の変数化、従属変数、独立変数、媒介変数、問題意識と仮説
- 第 7 回 項目 尺度化とその種類 内容 測定の方法、尺度の種類、内的尺度と外的尺度、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度
- 第 8 回 項目 調査票の作り方 ( 1 ) 内容 調査の種類、質問紙調査票、質問文の作成、質問文の種類、ワーディングの問題、作成の注意事項
- 第 9 回 項目 調査票の作り方 ( 2 ) 内容 選択肢の作り方、自由回答、質問文の流れ、制限回答法の長所と短所
- 第 10 回 項目 調査票を作成する 内容 簡単な調査票の作成、ワークショップ形式で作成する。
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 内容 作成した調査票の発表と講評
- 第 12 回 項目 サンプリングの仕方 ( 1 ) 内容 サンプリングの歴史、全数調査と標本調査、調査対象の定義、サンプリングの種類、単純無作為抽出法
- 第 13 回 項目 サンプリングの仕方 ( 2 ) 内容 新しいサンプリング法、標本数の決め方、サンプリングの台帳の利用方法
- 第 14 回 項目 調査票調査とデータ化 内容 調査の流れ、調査法の種類とその長短、データ化の前に必要な作業
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 補足と全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ：論理と方法，大谷信介 [ほか] 編著，ミネルヴァ書房，1999年；社会調査へのアプローチ：論理と方法，大谷信介 [ほか]，ミネルヴァ書房，2005年；大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編『社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）1999年

メッセージ 社会心理学的な調査法の知識を学ぶことばかりでなく、主体的に自分で考える姿勢を身につけてください。

連絡先・オフィスアワー 人文学部辻研究室 ( 309 室 )

開設科目	コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 現在、青少年における「規範意識の低下」が声高に叫ばれている。しかし、この指摘は、はたして本当だろうか？この授業では、規範をめぐるコミュニケーションや道德意識の形成プロセスに焦点を当てながら、社会と個人のダイナミックな関係について考察を深めていく。/ 検索キーワード コミュニケーション、メディア、道德意識

授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーション・モデル(モノ・メタファー)の限界を認識する。 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する。 3. 道德意識の生成と変容に関して、新しいコミュニケーション論の視点から再構築を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 コミュニケーションと規範 内容 講義概略
- 第 4 回 項目 道德意識研究の貧困 内容 調査研究におけるトリック
- 第 5 回 項目 道德的社会化論 1 内容 フロイトとデュルケム
- 第 6 回 項目 道德的社会化論 2 内容 ミードとピアジェ
- 第 7 回 項目 道德的社会化論 3 内容 エリクソンとコールバーグ
- 第 8 回 項目 コールバーグ = ギリガン 論争 1
- 第 9 回 項目 コールバーグ = ギリガン 論争 2
- 第 10 回 項目 類縁化アプローチ 1
- 第 11 回 項目 類縁化アプローチ 2
- 第 12 回 項目 道德意識の 3 位相 1
- 第 13 回 項目 道德意識の 3 位相 2
- 第 14 回 項目 まとめ 1
- 第 15 回 項目 まとめ 2

成績評価方法(総合) 授業外レポート 40 点と学期末試験 60 点の総合点によって評価する。



開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 私たち人間は、時間のなかで毎日の正確をおくっている。この指針には時計の時間が大きな働きをしている。しかし、時計の時間は、天文的な時間に基づいているわけであるが、それとは別に一年の中で決められた祝祭日、休日、日々の労働時間などさまざまな社会的な時間が存在し、この社会的時間のなかでわれわれ人間は生活している。この講義では、社会学において社会的時間の構成や作用などを研究してきた文献を通して時間の社会学の歴史を学び、さらに現在の社会において社会的時間をどのように利用していけばよいかを考えてみたい。/ 検索キーワード 社会的時間、リズム、スピード、生活時間、時間的規則性

授業の一般目標 1) 社会的時間の種類とその成り立ち、働きを理解する。2) デュルケームやマートンなど時間を社会学的研究してきた学者たちの時間社会学の理論と研究成果を学ぶ。3) 現在において社会的時間をどのように利用していけばよいかの考え方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な社会的時間の知識や時間の社会学の知識を学び、理解することができる。思考・判断の観点：社会的に存在する社会的時間現象などを自分自身で考え、それがもつ構造面と機能面を考え、どのような意義があるか判断できる。関心・意欲の観点：社会現象の中での社会的な出来事への関心をもつことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代社会と社会的時間 内容 現代社会の変化を時間という視点で捉え、時間学的課題を考える。
- 第 3 回 項目 デュルケームの時間の社会学(1) 内容 『宗教生活の原初形態』における社会的時間
- 第 4 回 項目 デュルケームの時間の社会学(2) 内容 デュルケームの社会学の中で時間の視点の位置を考える
- 第 5 回 項目 ソローキンの時間の社会学(1) 内容 ソローキンにとって時間とは何であったか。彼の社会学の中で考える。
- 第 6 回 項目 ソローキンの時間の社会学(2) 内容 移動論と社会的時間論
- 第 7 回 項目 アルヴァックスの時間の社会学 内容 集合的記憶とは何か
- 第 8 回 項目 ギュルヴィッチの時間の社会学 内容 多角的な社会的時間の存在
- 第 9 回 項目 マートンの時間の社会学 内容 社会的に期待される持続性とは何か、マートンにとって時間とは何か。
- 第 10 回 項目 ムーアの時間の社会学 内容 社会生活の時間と時間整序
- 第 11 回 項目 ゼルバベルの時間の社会学 内容 時間的規則性、かくれたリズム
- 第 12 回 項目 エリアスの時間の社会学 内容 時間決定と時間体験
- 第 13 回 項目 蔵内数太の時間の社会学 内容 前集団、現集団、後集団
- 第 14 回 項目 時間の社会学の課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

教科書・参考書 参考書：自殺論(中公文庫)、デュルケーム著；宮島喬訳、中央公論社、1985年；社会学論と社会構造、ロバート.K. マートン [著]；森東吾 [ほか] 訳、みすず書房、1961年；宗教生活の原初形態、デュルケーム、岩波書店、1975年

メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室(309室)

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

**授業の概要** 現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。/ 検索キーワード 時間意識、社会的時間、社会的速度、タイミング、持続性、時間政策

**授業の一般目標** (1) 現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。(2) 青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。(3) 時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。思考・判断の観点：自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。関心・意欲の観点：生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。

**授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 講義の狙い 内容 今期の授業の狙いを概説する
- 第 2 回 項目 現代社会の時間論的課題 か 内容 情報化、高齢化、グローバル化、社会的時間の変化と課題
- 第 3 回 項目 時間意識の近代化 内容 機械時計の登場と「時は金なり」
- 第 4 回 項目 現代社会と時間意識 内容 パーチャルの時間感覚
- 第 5 回 項目 若者の時間感覚 内容 モラトリアムの長期化：フリーター、ニート問題と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の時間感覚 内容 生涯現役と長寿化の課題
- 第 7 回 項目 東アジアの時間と時間感覚 内容 直線的時間と円環的時間、文化的時間の問題
- 第 8 回 項目 生活時間の変化 内容 生活時間調査の分析
- 第 9 回 項目 労働時間の変化 内容 ワークライフバランスを求めて
- 第 10 回 項目 社会的時間とタイミング 内容 時機とは何か
- 第 11 回 項目 社会的速度と時間意識 内容 スピードとストレス
- 第 12 回 項目 社会的持続性と時間 内容 人間にとって持続性とは何か
- 第 13 回 項目 時間とコミュニティ 内容 時間によるコミュニティの安定
- 第 14 回 項目 時間政策の課題 内容 新たな政策課題としての時間政策
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

**教科書・参考書** 参考書：辻 正二『高齢者ラベリングの社会学』恒星社厚生閣 2000年 総務庁編『高齢社会白書』平成18年版

**メッセージ** 授業は、資料を使って進行しますが、参考書は最低2冊以上は読むようにしてください。

**連絡先・オフィスアワー** 辻研究室(309室)

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐々木 武夫				

授業の概要 企業経営の環境や、生産技術・熟練などの変化に対応して、経営組織や職業意識がどのように変化していったのかを考えてみる。現在、雇用の安定と人材育成とを特徴とする日本的経営が、雇用の流動化と評価・選択を特徴とする成果主義管理へと移行しつつある。この変化を歴史的に検討してみたい。また、若い世代が選択と評価にもとづくこの変化をどのように考えているのかについても言及してみたい。歴史的あるいは比較社会論の視点から日本的経営論の変化とその背景を考えてみたい。

授業の一般目標 1．職業意識や職業文化の比較により日本社会の特徴を考える。 2．現代の産業構造変化や職業構造の変化を整理する。 3．日本的経営から成果主義管理への変化を考える。

授業の計画(全体) 全体として4つの部分から構成される。一つは日本の工業化と社会変動の特徴。アジアとの比較でも考えてみる。アベグレンの研究を整理してみる。二つは、工業化と経営秩序についての間宏、津田真澁の研究から日本的経営論の特徴を考える。三つめは、能力主義管理の特徴を検討したい。高度経済成長期から石油危機・安定成長期までの変化。トヨタ生産システムの成立。四つめは、グローバル化と平成不況期に提唱された成果主義の現在までの動向とその特徴を検討してみたい

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の目的
- 第 2 回 項目 工業化と社会変動の特徴(1) 内容 近代化論
- 第 3 回 項目 工業化と社会変動の特徴(2) 内容 アベグレン
- 第 4 回 項目 工業化と社会変動の特徴(3) 内容 職業集団 商家同族・松島静雄の研究
- 第 5 回 項目 日本の経営論の特徴(1) 内容 間宏の研究
- 第 6 回 項目 日本の経営論の特徴(2) 内容 津田真澁の研究
- 第 7 回 項目 日本の経営論の特徴(3) 内容 岩田龍子の研究
- 第 8 回 項目 中間のまとめ 内容 日本の経営, < BR > 安定と競争、企業内人生
- 第 9 回 項目 能力主義管理の特徴(1) 内容 経済成長から石油危機へ
- 第 10 回 項目 能力主義管理の特徴(2) 内容 間と津田の研究
- 第 11 回 項目 能力主義管理の特徴(3) 内容 熊沢誠の研究
- 第 12 回 項目 成果主義管理(1) 内容 三つのルーツ
- 第 13 回 項目 能力主義管理(2) 内容 仕事評価、選択性と公正性
- 第 14 回 項目 能力主義管理(3) 内容 問題点と課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：最初の時間に資料配付/参考書：最初の時間に指摘

備考 集中授業

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。 / 検索キーワード マートン、アノミー、ラベリング、構築主義

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

教科書・参考書 教科書：アウトサイダーズ, ベッカー, 新泉社, 1993年; 社会理論と社会構造, マートン,

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。3年生は自分の問題意識の研究領域を発見し、それを深めていくことが課題になります。4年生は卒論の最後の仕上げの研究発表となります。3年生は4年生の卒論研究の問題関心や完成に向けてのプロセスを知ることができますし、4年生は3年生の研究への関与をすることによって自分の研究への広がりをもつことができます。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 1990年代は、バブル経済崩壊後の構造的な長期不況の時期に当たり、しばしば「失われた10年」と呼ばれている。また、この時期には、＜青少年＞や＜若者＞に対するネガティブな言説が流布し、社会問題として取り上げられるようになった。＜ニート＞、＜ゆとり＞、＜就職氷河期＞、＜出会い系＞、＜いきなり型非行＞、＜心の闇＞など、数え上げればきりが無い。しかし、その当時の青少年の実態はどうだったのだろうか？ 仙台高校生調査をもとに、マスコミ言説と実際の社会問題とのギャップを浮き彫りにしていく。こうしたテキストの精読と実際の調査データの分析を通じて、卒論執筆に必要な能力の習得を目指す。 / 検索キーワード 失われた時代、社会構築主義、計量的分析

授業の一般目標 1. 経験的研究をめぐる方法論的問題について把握する。 2. 教育問題をめぐる言説に対する社会構築主義の観点を学ぶ 3. 教育をめぐる政治的・道徳的争点を経験的知見から捉え返す。 4. 近代社会における教育システムの機能と変容を考察する。 5. 卒論執筆のための能力を養成する。

授業の計画(全体) 毎週、教科書の報告2名(1章分)をもとに、全員で議論を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業方法 年間予定 発表・報告方法 討論方法 等々
- 第2回 項目 ガイダンス 内容 辞書 文献検索 テキストの概要
- 第3回 項目 失われた時代 内容 テキスト序章
- 第4回 項目 ゆとり教育 内容 1章
- 第5回 項目 規範意識 内容 2章
- 第6回 項目 進路選択 内容 3章
- 第7回 項目 性別役割意識 内容 4章
- 第8回 項目 社会意識 内容 5章
- 第9回 項目 不公平感 内容 6章
- 第10回 項目 卒論構想発表会 1 内容 卒論構想発表
- 第11回 項目 各人発表
- 第12回 項目 各人発表
- 第13回 項目 各人発表
- 第14回 項目 各人発表
- 第15回 項目 各人発表

教科書・参考書 教科書：失われた時代の高校生の意識, 海野道郎, 有斐閣, 2008年 / 参考書：「若者の性」白書, 日本性教育協会編, 小学館, 2007年 ; 社会統計学, 片瀬一男, 放送大学教育振興会, 2007年

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。 / 検索キーワード 卒論

授業の一般目標 卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ

授業の計画(全体) 毎週4年生1名、3年生2名の報告を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画、卒論 執筆計画について
- 第 2 回 項目 先行研究および 卒論経過報告 内容 発表と討議
- 第 3 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 4 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 5 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 6 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 7 回 項目 中間報告会
- 第 8 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 9 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 10 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 11 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 12 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 13 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 14 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 15 回 項目 最終報告会

開設科目	社会心理学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。 / 検索キーワード フィールドワーク、質的調査と量的調査、質問紙法、サンプリング、抽出法

授業の一般目標 (1) 社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。(2) 調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の狙いと今後の予定のガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ体験(何を調べるかを探す)
- 第 3 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 4 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 5 回 項目 問題意識から仮説構成へ
- 第 6 回 項目 調査票の作成(1)
- 第 7 回 項目 調査票の作成(2)
- 第 8 回 項目 調査票の作成(3)
- 第 9 回 項目 調査地の選定
- 第 10 回 項目 サンプリング及び対象者の選定
- 第 11 回 項目 調査の準備
- 第 12 回 項目 調査の実施1
- 第 13 回 項目 調査の実施2
- 第 14 回 項目 調査の実施3
- 第 15 回 項目 調査の実施4



開設科目	社会心理学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 量的な社会調査を念頭に、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習することで、学生が自ら調査を企画し、実施していく能力とその際に必要な倫理観とを養う。とくにこの後期の授業においては、具体的なデータの入力から加工、集計・分析、報告のプロセスに学習の重点を置くことで、有意義な調査企画・調査票作成が可能になるようにフィードバックしていく学習を目指す。 / 検索キーワード 青少年、道徳意識、類縁化作用

授業の一般目標 1 . 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2 . 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3 . 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。

授業の計画(全体) 授業はいくつかのグループごとに分かれて、毎週、発表・議論する形で進めていく。また統計ソフト SPSS やエクセルの基本的操作についても学ぶ。具体的な授業内容としては、(1) 量的調査全体の流れ、(2) 先行研究の検討、(3) 調査倫理・マナーの学習、(4) 調査データの加工と処理、(5) クロス集計、(6) エラボレーション、(7) 多変量解析、(8) プレゼンテーションの技法、(9) 報告書の作成方法などを含む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査の全体像と実習スケジュールの確認
- 第 2 回 項目 調査倫理と先行研究の検討
- 第 3 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 4 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 5 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 6 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 7 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 8 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 9 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 10 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 11 回 項目 SPSS による因子分析
- 第 12 回 項目 SPSS によるパス解析
- 第 13 回 項目 各人の担当箇所 についての報告 書作成
- 第 14 回 項目 報告書の各班ご との担当部分の 編集、完成
- 第 15 回 項目 報告書編集全体 調整

成績評価方法(総合) 授業参加・プレゼン 40 点と期末レポート 60 点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年

開設科目	社会調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。/ 検索キーワード 測定水準 クロス集計 相関係数

授業の一般目標 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：相関係数と回帰分析の論理と手順を理解する。 思考・判断の観点：エラボレーションによって関連性を検討することができる。 関心・意欲の観点：常識的な因果関係を疑うとともに、新しい因果関係を構想し、積極的にテストする。 態度の観点：社会調査によるデータ収集や処理・分析に対する倫理観を養う。

授業の計画(全体) 社会調査におけるデータの特性や問題について学んだ上で、記述から説明へと分析技法を学んでいく。その際、計算や出力の意味を理解できるように、できるだけ電卓計算で行う課題を課す。偏回帰係数や部分相関係数を用いたエラボレーションの能力を身につけ、多変量解析へと進む学習の基礎を作るのが本講義の到達点である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査はどのように行われるか 授業外指示 テキスト学習課題 1
- 第 2 回 項目 調査データをどう分析するか 授業外指示 テキスト学習課題 2
- 第 3 回 項目 度数分布表を作成する 授業外指示 テキスト学習課題 3
- 第 4 回 項目 度数分布を記述する 授業外指示 テキスト学習課題 4
- 第 5 回 項目 クロス表を作成する 授業外指示 テキスト学習課題 5
- 第 6 回 項目 クロス表を分析する：カイ二乗検定 授業外指示 テキスト学習課題 6
- 第 7 回 項目 2 の平均の差を検定する (1)：正規分布 授業外指示 テキスト学習課題 7
- 第 8 回 項目 2 の平均の差を検定する (2)：t 検定 授業外指示 テキスト学習課題 8
- 第 9 回 項目 複数の平均の差を検定する：分散分析 授業外指示 テキスト学習課題 9
- 第 10 回 項目 2 つの連続変数間関係を推定する (1)：回帰分析の基礎 授業外指示 テキスト学習課題 10
- 第 11 回 項目 2 つの連続変数間関係を推定する (2)：回帰分析の応用 授業外指示 テキスト学習課題 11
- 第 12 回 項目 離散変数間の連関を測定する：相関係数 授業外指示 テキスト学習課題 12
- 第 13 回 項目 多重クロス表を分析する (1)：エラボレーション 授業外指示 テキスト学習課題 13
- 第 14 回 項目 多重クロス表を分析する (2)：エラボレーション 授業外指示 テキスト学習課題 14
- 第 15 回 項目 講義のまとめ：調査報告書・論文の読み方～社会調査の哲学と調査データの読み書きをめぐる倫理 授業外指示 テスト勉強

成績評価方法(総合) 毎週の課題 40 点と期末試験 60 点の総合点による評価。

教科書・参考書 教科書：社会統計学, 片瀬一男他, 放送大学教育振興会, 2007 年 / 参考書：社会統計学, ボーンシュテット & ノーキ, ハーベスト社, 1990 年; 「社会調査」のウソ, 谷岡一郎, 文藝春秋, 2000 年  
メッセージ ルートとメモリー機能のついた電卓を用意すること(関数電卓である必要はない)。数学が苦手でも、四則演算さえできれば、この授業はマスターできます。

開設科目	質的調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会調査のうち、質的調査 (qualitative survey) によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法 (分析方法) などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大きいと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、事例調査、生活史記録、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析

授業の一般目標 社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。

授業の計画 (全体) 質的調査の特徴、技法を概観していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン - 授業の目的・内容と進め方について -
- 第 2 回 項目 1 質的調査とは何か 内容 社会調査における質的調査の位置づけ、質的調査の利用法、質的データの素材
- 第 3 回 項目 1 質的調査とは何か (続き) 内容 質的調査の技法、質的調査のメリットと留意点、調査倫理について
- 第 4 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 内容 聞き取り調査の技法と手順
- 第 5 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 1 : 災害調査の事例から
- 第 6 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 7 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 8 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 9 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 2 : 生活史データの収集と分析
- 第 10 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 11 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 12 回 項目 3 参与観察の方法
- 第 13 回 項目 3 参与観察の方法 (続き) 4 ドキュメント分析の方法
- 第 14 回 項目 4 ドキュメント分析の方法 (続き)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 授業への出席および参加度 40 % 定期試験 30 % 授業内小レポート及び課題レポート 30 %

教科書・参考書 教科書 : 社会調査へのアプローチ (第 2 版), 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 2005 年 / 参考書 : ライフヒストリーを学ぶ人のために, 谷富夫編, 世界思想社, 1996 年 ; 「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス, 好井裕明, 光文社, 2006 年 ; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	比較社会文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。 / 検索キーワード ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

授業の一般目標 日本社会に生きていくと、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。 思考・判断の観点：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える 関心・意欲の観点：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする 態度の観点：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

授業の計画（全体） 基本的に教科書に添って進む。まずことばについて〈われわれ〉が語ってきたこと、をそれぞれの言語的経験に即して議論し、次に言語的近代の成り立ちを考え、それから、言語的近代を超える営みとしての、手話、文学言語、〈国際語〉について考える予定である。なお、内容が多岐にわたっているため、第三章を扱えるかどうかは、授業の進行状況に依拠する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第 2 回 項目 <やさしい言語> <むずかしい> 言語とはどういうことか
- 第 3 回 項目 ことばが<通じる> <通じない> とはどういうことか？
- 第 4 回 項目 ことばが<できる> <できない> とはどういうことか？
- 第 5 回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第 6 回 項目 言語の呼称
- 第 7 回 項目 言語的近代の成り立ちと日本
- 第 8 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程
- 第 9 回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第 10 回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第 11 回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語：手話とろう者について
- 第 12 回 項目 母語以外の言語で執筆する作家たち
- 第 13 回 項目 <国際語> 概念の解体と<国際語> の内実
- 第 14 回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：言語的近代を超えて～<多言語状況>を生きるために～, 山本真弓編著, 明石書店, 2004 年

開設科目	比較社会文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 「民俗学という方法」と題して、明治以降の日本の民俗学発達史に名が残る人々を取り上げ、社会・文化を比較する各人独自の視点を紹介したうえで、民俗の比較を通して日本の社会と文化の歴史や地域性が明らかにできることを具体的資料に基づき解説し、比較のための一方法として、民俗学の方法を学ぶ。 / 検索キーワード 民俗学 人類学 土俗学 民俗 民具 比較法

授業の一般目標 1. 民俗学における比較法について理解する。 2. 文化や社会を理解するうえで、比較という方法がもつ意義を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 日本の民俗学の発展に寄与した人々の業績と特色について説明できる。 2. 民俗学において「比較」がもつ意義について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 社会や文化を互いに比較することと民俗学の方法がどのように関係するか、説明できる。 技能・表現の観点： 1. 学んだ概念・用語を用いて文章が書ける。

授業の計画(全体) (1) 明治以降の日本の民俗学発達史に名が残る人々の業績を、比較する視点を中心に紹介する。(2) 具体的な民俗資料に基づく比較により、日本の社会と文化の歴史や地域性が明らかにできることを説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と進め方の説明
- 第 2 回 項目 民俗学を作った人々(1) 内容 鳥居龍蔵について紹介する
- 第 3 回 項目 民俗学を作った人々(2) 内容 南方熊楠について紹介する
- 第 4 回 項目 民俗学を作った人々(3) 内容 柳田国男について紹介する
- 第 5 回 項目 民俗学を作った人々(4) 内容 折口信夫について紹介する
- 第 6 回 項目 民俗学を作った人々(5) 内容 渋沢敬三について紹介する
- 第 7 回 項目 民俗学を作った人々(6) 内容 宮本常一について紹介する
- 第 8 回 項目 周圏論(1) 内容 方言周圏論について解説する
- 第 9 回 項目 周圏論(2) 内容 民俗周圏論について解説する
- 第 10 回 項目 時間差と地域差の読み方(1) 内容 空間に現れた時間差の解釈について考える
- 第 11 回 項目 時間差と地域差の読み方(2) 内容 空間に現れた時間差の解釈について考える
- 第 12 回 項目 日本の東西差 内容 東西差を見せる民俗について考える
- 第 13 回 項目 比較民俗学 内容 日本内外の民俗比較について考える
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 日本の社会や文化を知るための比較について考える。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験を実施する

成績評価方法(総合) 1. 出席確認は、毎回実施する小テストにより行います。 2. 出席が全体の75%以上ないと、期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は欠届出により認めます。 3. 成績は、小テスト(50%)と期末試験(50%)により評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いない。必要に応じてプリント資料を配付します。 / 参考書：授業中に随時紹介します。紹介された文献は、図書館等で確認してください。

メッセージ 民俗学は文化や社会の事象の比較を通じて、物事を考えます。その方法を紹介して、比較を通じて一定の認識に至る道筋を提示したいと思います。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室。いつでも随時訪ねてください

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 人口移動によって生じる諸問題、たとえば、移民、難民、ディアスポラ、などについて考える。

授業の一般目標 (1) 自らの社会を相対化すること、(2) 現代という時代(今日の状況)を歴史のなかに置いて考えること、(3) 国際的視野にたって、現代社会の課題を見つけること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業内容をきちんと理解できているか。歴史(近現代史)の基本的知識を身に付けているか。 思考・判断の観点： 自分の問題として、自分の身近なところから世界的視野にまで広げて問題を捉えることができているか。 関心・意欲の観点： 近現代の諸問題を自ら発見し、取り組もうとすること。 態度の観点： 出席の有無と質問。

授業の計画(全体) 毎回、授業中にグループでディスカッションするという方法を積極的にとり入れる。

成績評価方法(総合) 基本的に学期末試験による。授業中に課したレポートおよび宿題も参考にする。

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 南アジアの歴史を通して、アジア的価値とは何かを考えていく。

授業の一般目標 (1) 従来の「アジア」観を疑い、「アジア」について根本的に考え直すこと。(2) そのために、非アジア(たとえば、ヨーロッパ。たとえば、アフリカ)などにも同時に関心をもつこと。(3) 「アジア」内部の多様性(たとえば、イスラーム世界、たとえばヒンドゥー世界)を認識すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 自らの(あるいは、日本社会全般に蔓延する)諸「外国」諸「地域」への偏見にとらわれずに、授業内容を理解できているか。 思考・判断の観点: 自らが生きる世界(日本社会と日本がその一部をなす西欧近代の価値を絶対とする世界観)と関連づけて講義内容を捉えることができるか。 関心・意欲の観点: わからないところを積極的に自分で調べるなどして、意欲的に取り組んでいるか。

成績評価方法 (総合) 毎回、授業時間中に小レポートを課し、それらと期末試験を総合して評価する。

メッセージ アジア比較社会論の前期の講義を履修していることが望ましい

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようについて考えることをめざしています。この授業では、「民俗学から見た高度成長」と題して、現在の日本社会の形成に大きな影響を与えた「高度成長」について、民俗をはじめとする諸資料を手がかりにして読み取り、「高度成長とは何であったのか」を考えます。 / 検索キーワード 民俗学 民俗 高度成長

授業の一般目標 1. 高度成長とは、どのように定義されるものか、理解する。 2. 民俗から現代社会を理解する方法について、考える。 3. 民俗または民俗学から見れば、現代社会はどのような社会と捉えられるか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 高度成長の具体相について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 民俗や民俗学の方法に即して、「高度成長」現象はどのように理解されるか、説明できる。 2. 「高度成長」問題の検討に民俗や民俗学はどのように有効であるのか、説明できる。 技能・表現の観点： 1. 学んだ概念・用語を用いて文章が書ける。

授業の計画(全体) (1) 高度成長とは従来どのように説明されているかを理解する。(2) 高度成長に伴い変化した暮らしぶりを具体的に知る。(3) 高度成長の時代の出来事と高度成長時代を象徴するモノを具体的に知ることを通じてこの時代のありようを分析する。(4) 「高度成長」が現代の日本に及ぼしている文化的社会的影響について、民俗学的手法により考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法について説明する
- 第 2 回 項目 高度成長とは(1) 内容 高度成長の定義について検討する
- 第 3 回 項目 高度成長とは(2) 内容 高度成長以前の日本の姿を紹介する
- 第 4 回 項目 高度成長と暮らしの変化(1) 内容 住宅様式の変化の具合を公団住宅の誕生を軸に見る
- 第 5 回 項目 高度成長と暮らしの変化(2) 内容 生活時間の変化について種々の資料で確認する
- 第 6 回 項目 高度成長と暮らしの変化(3) 内容 都市化に伴い水利用が増大した様相を確認する
- 第 7 回 項目 高度成長と暮らしの変化(4) 内容 開発に伴う海と海岸の変化の様相を見る
- 第 8 回 項目 高度成長時代の出来事(1) 内容 東京オリンピックと新幹線開通の社会的影響を知る。
- 第 9 回 項目 高度成長時代の出来事(2) 内容 地方から都市への集団就職と出稼ぎの様相を知る。
- 第 10 回 項目 高度成長時代の出来事(3) 内容 「公害列島」といわれた状況を知る。
- 第 11 回 項目 高度成長時代のモノ(1) 内容 家電製品(三種の神器)の普及がもった意味を考える。
- 第 12 回 項目 高度成長時代のモノ(2) 内容 クルマの普及とそれが与えた影響を考える。
- 第 13 回 項目 高度成長時代のモノ(3) 内容 身体用具の発達普及とその影響を考える。
- 第 14 回 項目 高度成長とは何だったのか 内容 授業内容全体をまとめて、今の暮らしに与えた高度成長の影響について考察する。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験を実施する。

成績評価方法(総合) 1. 出席は、毎回実施する小テストで確認します。 2. 出席は、75%なければ期末試験の受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。 3. 成績は、毎回の小テスト(50%)、期末試験(50%)により評価します。

教科書・参考書 教科書：用いない。必要に応じてプリント資料を配布します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。紹介された文献は、図書館等で確認してください。

メッセージ 今から30年以上前の高度成長時代は、戦後日本の一大転換期でした。農山漁村と都市の双方で見られた急激な変化の様相を具体的に知り省みることで、今の日本とその未来を考える参考にしてください。



連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210室。必要に応じていつでも随時訪ねください。

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、「民俗学から見える過疎地の未来像」と題して、(1)高度成長時代の結果として現われた「過疎地」のその後の30年を振り返り、(2)現状を探り、また(3)これまで国や自治体が取り組んできた過疎対策を振り返り検証したうえで、(4)民俗学者宮本常一の実践活動を中心とした民俗学における「過疎」問題の検討状況を踏まえて、「過疎地の未来像」をどう描くか、考えます。/ 検索キーワード 民俗 民俗学 過疎

授業の一般目標 1 「過疎」に関する定義と具体的事実を広く知る。 2 民俗または民俗学から見れば、「過疎」問題はどのように分析されるか、理解する。 3 「過疎地の未来像」を描くうえで、どのようなことが必要になるのか、考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 「過疎」の定義について説明できる。 思考・判断の観点： 1 民俗や民俗学の方法を通じて、「過疎」現象はどのように理解されるか、説明できる。 2 「過疎」問題の検討に民俗や民俗学はどのように有効であるのか、説明できる。 技能・表現の観点： 1 学んだ概念・用語を用いて文章が書ける。

授業の計画(全体) (1)高度成長時代の結果として現われた「過疎地」のその後の30年間を振り返る。(2)過疎地の現状を資料により具体的に探る。(3)これまで国や自治体が取り組んできた過疎対策を振り返り検証する。(4)民俗学者宮本常一の実践活動を中心とした民俗学における「過疎」問題の検討状況を踏まえて、「過疎地の未来像」をどう描くか、考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法について説明する 明
- 第 2 回 項目 過疎と現代社会(1) 内容 「過疎」の従来の定義を紹介し、高度成長と過疎との関係について歴史を振り返り解説する
- 第 3 回 項目 過疎と現代社会(2) 内容 過疎問題を分析する視点として「家と村」の関係について解説する
- 第 4 回 項目 過疎地の現状(1) 内容 福島県会津地方のA山村の現状を見る
- 第 5 回 項目 過疎地の現状(2) 内容 福島県会津地方のB山村の現状をA山村の場合と比較対照する
- 第 6 回 項目 過疎地の現状(3) 内容 九州山地のC山村の現状を見る
- 第 7 回 項目 過疎地の現状(4) 内容 四国山地のD山村の現状を見る
- 第 8 回 項目 過疎地の現状(5) 内容 山口県の離島の現状を見る
- 第 9 回 項目 過疎地の現状(6) 内容 山口県の山間地農村の現状を見る
- 第 10 回 項目 過疎対策の歩み(1) 内容 過疎法と国の取組を知る
- 第 11 回 項目 過疎対策の歩み(2) 内容 各地の自治体等の取組を知る
- 第 12 回 項目 宮本常一の実践(1) 内容 産業振興に取り組んだ実践活動の内容と特色を具体的に知る
- 第 13 回 項目 宮本常一の実践(2) 内容 文化振興に取り組んだ実践活動の内容と特色を具体的に知る
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 地域をはかるモノサシをどう作るか、価値転換の必要性と可能性について考える。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験を実施

成績評価方法(総合) 1 出席確認は、毎回実施する小テストにより行います。 2 出席が全体の75%以上ないと、期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。 3 成績は、小テスト(50%)と期末試験(50%)により評価します

教科書・参考書 教科書：用いない。必要に応じてプリント資料を配布します。/ 参考書：授業中に適宜紹介します。紹介された文献は、図書館等で確認してください。

メッセージ 過疎は、地方社会の現象として現われているために地方の問題と思われがちですが、そうではなく、都市社会また日本全体の問題でもあること、すなわちみんなに係わる問題だと捉えられるようになってほしいと思っています。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室。必要なときはいつでも随時訪ねください。

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野地恒有				

授業の概要 現代の日本にみられるさまざまな民俗事例を提示することにより、現代における日本・地域における民俗的世界の多様な姿を学び、その具体的な理解を目指す。とくに、海と島をキーワードとして、日本文化の海洋的な性格について論じる。また、民俗学の基本的な考え方、研究法、調査法などについても概説する。

授業の計画(全体) 海と島という自然を相手にくり広げられる生活の姿を、ほぼ毎回ひとつの地域の事例を映像(VHS教材)とOHCを用いて提示して、その事例について民俗学的に説明するとともに、そこから引き出される文化的な問題(とくに海洋的性格)を論じていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 海から見た民俗学という考え方・履修上の注意・授業と試験との関係
- 第 2 回 項目 海の祭り 1 内容 鳥羽市神島のゲーター祭
- 第 3 回 項目 海の祭り 2 内容 能登半島の漂着神
- 第 4 回 項目 海と社会関係 内容 鳥羽市答志島の若者宿
- 第 5 回 項目 ハレと魚食 内容 婚姻儀礼とノシ
- 第 6 回 項目 海と日本文化 1 (小まとめ)
- 第 7 回 項目 海の生活との比較 1 内容 アイヌと鮭の儀礼
- 第 8 回 項目 海の生活との比較 2 内容 宮崎県のイノシシ狩り 1
- 第 9 回 項目 海の生活との比較 3 内容 宮崎県のイノシシ狩り 2
- 第 10 回 項目 海の生活との比較 4 内容 福島県の木地師 1
- 第 11 回 項目 海の生活との比較 5 内容 福島県の木地師 2
- 第 12 回 項目 海の技術 1 内容 伝統的な漁撈技術 1
- 第 13 回 項目 海の技術 2 内容 伝統的な漁撈技術 2
- 第 14 回 項目 海と日本文化 2 (その海洋的性格)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 授業の最後に実施する筆記試験により評価する。

備考 集中授業

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては「技術・技能・職人」を取りあげる。／検索キーワード 文化人類学、生活用具論、自然環境、採集狩猟、農耕、牧畜、諸職

授業の一般目標 人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 人類は移動手段から解放された前肢を使い様々な用具を作り出しました。そして自然をコントロールすることをはじめ、現在の高度文明社会を作り出したわけです。この授業では、物を作り出す技術、身体性を伴う技能、そしてこれらを専門的に行う職人をテーマに構成し話を進めていきます。技術では基本的生業と用具の機能を説明し、現在の私たちの基本が農耕が始まった時期にすでに作られていたことを理解してもらいます。技能は未開社会の事例を示しながら、大切さを理解してもらいます。職人については日本の諸職から事例を挙げて説明し、技術文化の広がりと内容を理解してもらいます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人類の物質文化研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 人類の発生－イマジネーションとロコモーション
- 第 3 回 項目 人類の自然環境への選択と適応
- 第 4 回 項目 採集狩猟と用具
- 第 5 回 項目 農耕と用具
- 第 6 回 項目 牧畜と用具
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 技術に対する考え方
- 第 9 回 項目 技術と技能に対する考え方
- 第 10 回 項目 未開社会の技術と技能
- 第 11 回 項目 漂泊の民を意味する諸職
- 第 12 回 項目 近世の職人（鍛冶）
- 第 13 回 項目 近世の職人（木地師）
- 第 14 回 項目 近代の職人（屋根師）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。出席が 70 % に満たない場合は評価の対象になりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書：その都度紹介します。

メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

連絡先・オフィスアワー Email： hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては都市を取りあげる。/ 検索キーワード 文化人類学、都市人類学、民俗学、建築学

授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 都市は様々な側面から研究されてきました。この授業では文化人類学、民俗学の側面から語られる都市、建築学で語られる都市を取りあげ、まずその視点を紹介することから始めます。どのような展開になるか暗中模索ですが、都市の中の建物と建物とのネガティブな空間としてみられていた、街路に注目する視点とか、新しい都市の中に形成されるエスニックコミュニティに対する視点とかの意味を根底に考えながら話を構成していきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス
- 第 2 回 項目 人類の発生と都市
- 第 3 回 項目 歴史的な都市
- 第 4 回 項目 近代の都市
- 第 5 回 項目 都市人類学の視点
- 第 6 回 項目 都市民俗学の視点
- 第 7 回 項目 建築学の視点
- 第 8 回 項目 街路の持つ機能 1
- 第 9 回 項目 街路の持つ機能 2
- 第 10 回 項目 まとめ
- 第 11 回 項目 都市のエスニックコミュニティ 1
- 第 12 回 項目 都市のエスニックコミュニティ 2
- 第 13 回 項目 都市の祭の機能 1
- 第 14 回 項目 都市の祭の機能 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。出席率が 70 % 以下の場合は評価対象となりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。/ 参考書：大都市の死と生, J・ジェイコブス, 鹿島出版会, 2003 年

メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。都市空間に対する眼が開かれます。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。文化人類学の基本的文献を講読していきます。今回は「狩猟民」エルマン・サーヴィス著(現代文化人類学2)をとりあげます。/検索キーワード 人類 採集狩猟 社会組織 物質文化

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ひとともの基本的関係について説明できる。 思考・判断の観点: 文化相対主義の立場に立った、異文化理解と判断ができる。 関心・意欲の観点: 人々の日常を客観的な目で観察し、記録し、分からない原理は文献によって考える。この連関を繰り返す姿勢が身に付く。 態度の観点: 自らの考えを簡潔にまとめ、発表することができる。他の人との議論の中で自分の意見をまとめることができる。 技能・表現の観点: 講読した内容を的確に要約し、人に伝えるための効果的なプレゼンテーションができる。自分の考えをまとめ人に伝えることができる。

授業の計画(全体) 「狩猟民」エルマン・サーヴィス著(現代文化人類学2)をテキストとして使います。この本は人類の発展の中で最初の段階について書かれたもので、分かりやすく書かれています。学生中心に本を読み進める形で授業を行います。人類の社会組織、物質文化の基本がこの段階で作られたのであり、私たちの暮らしを考えると、以外とその遺産が顔を覗かせます。人類学の入門書をそばに置きながら、授業を進めます。

成績評価方法(総合) 出席を重視します。輪読の発表ではコンピュータによる分かりやすい表示方法を義務づけます。

教科書・参考書 教科書: プリントを配布してテキストとします。/参考書: 適宜紹介します。また、関連資料を配付します。

メッセージ 各自の発表はプレゼンテーションソフトを用い、コンピュータを使用して行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。 / 検索キーワード 文化人類学 文化的ひと ひとともの 物質文化

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。

思考・判断の観点：各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。 関心・意欲の観点：自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。 態度の観点：自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。 技能・表現の観点：効果的な発表手法の基本を理解する。

授業の計画（全体） 前半は物質文化に関する代表的論文を取り上げ輪読していきます。後半は各自の卒論に関連する文献を読み発表し、テーマを絞っていく時間に充てます。

成績評価方法（総合） 出席と授業への積極的態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：講読資料はコピーを作成し配布します。 / 参考書：講読論文に関連する文献、卒論に関連する文献は適宜アドバイスします。

メッセージ 卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00~12:00



開設科目	文化人類学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 ゼミ所属の4年生に対して卒業論文作成に向けて研究の基本的な方法、文献の読み方などを一人一人の進め方に沿いながらアドバイスしていきます。

授業の一般目標 はっきりした卒業論文のテーマ設定、研究の手順設定を学生一人一人が行うこと。

授業の計画(全体) 学生各自がテーマ設定のために文献を選び、内容を報告し、ディスカッションをするというプロセスを繰り返します。

成績評価方法(総合) 出席点と授業への積極的参加態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：特に設けません。 / 参考書：各自の問題意識に沿って教員が紹介します。

メッセージ 卒論のための授業ですから、学生各自が主体的に行動してください。

開設科目	文化人類学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 ゼミ所属の4年生に対して卒業論文作成に向けて研究の基本的な方法、文献の読み方などを一人一人の進め方に沿いながらアドバイスしていきます。

授業の一般目標 はっきりした卒業論文のテーマ設定、研究の手順設定を学生一人一人が行うこと。

授業の計画(全体) 学生各自がテーマ設定のために文献を選び、内容を報告し、ディスカッションをするというプロセスを繰り返します。

成績評価方法(総合) 出席点と授業への積極的な参加態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：特に設けません。 / 参考書：各自の問題意識に沿って教員が紹介します。

メッセージ 卒論のための授業ですから、学生各自が主体的に行動してください。

連絡先・オフィスアワー hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。民俗学の特定テーマを編集したテキストを、受講者と相談のうえ決める。受講者は順次、担当した文章の内容を整理して発表する。受講者はその内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来る。 / 検索キーワード 民俗学 民俗

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を知る。 2. 民俗学のテーマを編集した文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について説明できる。 思考・判断の観点: 1. 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。 態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。 技能・表現の観点: 1. 構成や表現を工夫した分かりやすいレジメを用意することができる。 2. 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 2. レジメを用意して発表を行う。 3. 発表内容に対して、受講生全体で意見等を述べ合い、教員も参加して討論する。 4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定し、レポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨や内容説明をする
- 第 2 回 項目 文献の選定 内容 読むべきテキストを検討し決定する
- 第 3 回 項目 文献の講読(1) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 4 回 項目 文献の講読(2) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 5 回 項目 文献の講読(3) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 6 回 項目 文献の講読(4) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 7 回 項目 文献の講読(5) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 8 回 項目 中間まとめ 内容 読んだ各文献をまとめてテーマに対する理解を深める
- 第 9 回 項目 文献の講読(6) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 10 回 項目 文献の講読(7) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 11 回 項目 文献の講読(8) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 12 回 項目 文献の講読(9) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 13 回 項目 文献の講読(10) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 14 回 項目 全体まとめ(1) 内容 テーマの民俗学的位置づけについて考える
- 第 15 回 項目 全体まとめ(2) 内容 レポートの課題を考える

成績評価方法(総合) 次の観点に留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。 1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。 4. 出席は 80% 以上ないと、レポートの提出ができません。

教科書・参考書 教科書: 受講生全員の希望を聞きながら決める。 / 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 必要があればいつでも研究室を訪ねてください

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。(1) 民俗学の特定テーマを編集したテキストを、受講者と相談のうえ決める。受講者は順次、担当した文章の内容を整理して発表する。受講者はその内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来る。(2) 3年生の受講者は、自分の関心のある独自のテーマについて調べて発表をする。/検索キーワード 民俗学 民俗

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を知る。2. 民俗学の新古典とも称すべき文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について説明できる。思考・判断の観点: 1. 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。技能・表現の観点: 1. 構成や表現を工夫した分かりやすいレジュメを用意することができる。2. 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。2. レジュメを用意して発表を行う。3. 発表内容に対して、受講生全体で意見等を述べ合い、教員も参加して討論する。4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定し、レポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨や内容説明をする
- 第 2 回 項目 文献の選定 内容 読むべきテキストを検討し決定する
- 第 3 回 項目 文献の講読(1) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 4 回 項目 文献の講読(2) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 5 回 項目 文献の講読(3) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 6 回 項目 文献の講読(4) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 7 回 項目 文献の講読(5) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 8 回 項目 文献の講読(6) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 9 回 項目 文献の講読(7) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 10 回 項目 まとめ(1) 内容 各自の発表に基づきテーマについてのまとめをする
- 第 11 回 項目 まとめ(2) 内容 レポートの課題を考える
- 第 12 回 項目 3年生による独自テーマの発表(1) 内容 準備をした内容を発表し意見を述べ合う
- 第 13 回 項目 3年生による独自テーマの発表(2) 内容 準備をした内容を発表し意見を述べ合う
- 第 14 回 項目 3年生による独自テーマの発表(3) 内容 準備をした内容を発表し意見を述べ合う
- 第 15 回 項目 全体まとめ 内容 受講者各自の意見を述べ合い、テーマに関するまとめをする

成績評価方法(総合) 次の観点到留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。4. 出席は80%以上ないと、レポートの提出ができません。

教科書・参考書 教科書: 受講者全員の希望を聞きながら決める。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 必要があればいつでも研究室を訪ねてください

開設科目	民俗学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 卒業論文を作成するための指導を行う。 / 検索キーワード 民俗学 卒業論文

授業の一般目標 卒業論文の課題を設定し、課題解明のための調査研究を積極的に進め、その成果を発表する。

授業の計画(全体) 受講生各自が卒業論文の課題を設定し、課題に関する調査研究を進め、その成果を発表し、討議して研究の内容を深める。

成績評価方法(総合) 課題を明確に設定し、課題解明のための調査研究に積極的に取り組んだか、授業での取組姿勢と発表内容により評価する。

メッセージ 早めの自主的な準備を着実に進めましょう。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民俗学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 卒業論文作成のための指導を行う。

授業の一般目標 前期の授業で設定した卒業論文の課題について、調査研究を深めて、卒業論文にまとめる。

授業の計画(全体) 課題に関する自分の調査研究成果を発表し、発表内容について、全員で討議し、卒業論文を構成していく。

成績評価方法(総合) 課題に即した調査研究を進め、独自の論点を提示できるか、授業への取組姿勢と発表内容により評価する。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗調査を実施するためのテーマと調査項目を用意するとともに、聞き書きや写真撮影法、地図の見方読み方、民具の作図法など、民俗資料を収集する技法を習得することを目的にします。先行文献を参考にして、調査対象地域を決めるとともに、調査対象に関する予備知識を蓄積します。そのうえで、自らの関心にに基づき、調査テーマを決定し、調査項目等の作成を進めて、夏季休暇中に3泊4日程度の現地調査を実施します。/ 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗調査の手順を理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗調査で得られるデータの質について考察する。 関心・意欲の観点: 1. 知りたいと思うテーマを明確に設定する。 2. テーマに接近するための方法をよく考え、準備する。 態度の観点: 1. 調査実施計画の立案に積極的に参加する。 2. 自らの興味を調査の場へ発展させる。 技能・表現の観点: 1. 聞きたいこと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる。

授業の計画(全体) 1. 山口県内の民俗誌・民俗調査報告書を読んで、山口県内の民俗の存在状況を把握する。 2. 関心の持てるおおよそのテーマを各自で検討する。 3. 各自の関心を持つテーマに関する調査上のポイントを整理して発表し、受講生全体の共通知識とする。 4. 各自のテーマに即した調査項目や聞き書きに用いる質問項目、必要に応じてアンケート用紙などの作成を行う。 5. フィールド・ノート の作成法、写真の撮影法、地図の読み方・利用のしかたを解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業担当者による説明 内容 民俗調査実習のねらいとスケジュールの説明
- 第 2 回 項目 調査対象地域の設定(1) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を紹介する。
- 第 3 回 項目 調査対象地域の設定(2) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を整理して発表する。授業外指示 民俗調査報告書を読んでまとめる。探しておく。
- 第 4 回 項目 調査対象地域の設定(3) 内容 各自の発表を踏まえつつ意見交換をして対象地域を決定する。授業外指示 対象地域を検討しておく。
- 第 5 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(1) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 6 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(2) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 7 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(3) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考え、決定する。授業外指示 決まらない場合は、第8回までに決める。
- 第 8 回 項目 調査項目の作成 内容 各自のテーマに応じた調査項目を作成する。授業外指示 完成しない場合は、第9回までに完成させる。
- 第 9 回 項目 質問文案・調査票の作成(1) 内容 各自のテーマ・調査項目に即して必要になる質問文案・調査票を作成する。授業外指示 進捗状況に応じて、第10回に完成するように作業を行なう。
- 第 10 回 項目 質問文案・調査票の作成(2) 内容 質問文案・調査票を全体で検討し、修正等を行い完成させる。授業外指示 完成しない場合は、第11回までに完成させる。
- 第 11 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(1) 内容 フィールドノートの役割・活用法・作成要領、調査データの整理法を説明する。
- 第 12 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(2) 内容 写真撮影法と整理法を解説し、実習する。
- 第 13 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(3) 内容 地図の利用法・略測図の作成法、民具の作図法などを説明し、実習する。

第 14 回 項目 調査項目票の完成 内容 調査項目票を完成させるとともに、調査で実際に試みる方法と調査結果報告の構成（目次）案をまとめる。授業外指示 調査項目票を完成させる。

第 15 回 項目 調査方法と調査結果報告構成案の発表 内容 作成した調査項目票に基づき、実際に試みる調査方法と調査結果報告の構成案（目次案）を各自が順次発表し、全員で検討のうえ実地調査の準備を整える。授業外指示 調査方法と調査結果報告構成案の準備をしておく。

成績評価方法（総合） 1．調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2．各作業が確実に実行できたか。

教科書・参考書 教科書：とくに用いない。適宜，必要な資料をプリントして配布する。 / 参考書：新版 民俗調査ハンドブック, 上野和男 他編, 吉川弘文館, 1987 年；適宜紹介する。

メッセージ 好奇心を形にする授業です。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 いつでも随時訪ねてください



開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。 / 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。 思考・判断の観点: 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。 関心・意欲の観点: 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。 態度の観点: 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。 技能・表現の観点: コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。

授業の計画(全体) 夏休み期間中に行う調査で得たデータをまとめ、報告書にまとめるまでを行います。授業は大きく(1)データの共有化、(2)報告文の作成とデータの図表化、(3)報告書作りのための編集作業の3つに分かれます。(1)では聞き取りデータのカード化からエクセルへの入力までを学びます。(2)では文章表現方法とデータを図又は表の形でまとめ表現する方法を学びます。(3)ではコンピュータの編集ソフトを使い、データの入力とレイアウトの方法について学びます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 民俗調査実習の目標とスケジュールの説明 内容 スケジュール表に沿った説明 授業外指示 コンピュータ等 授業外学習のための機器の確認
- 第 2 回 項目 フィールドデータの処理 内容 調査データのカード化とグルーピングの方法、エクセルへの入力及び検索方法を理解し作業を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 3 回 項目 データ処理のためのコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 テキスト・画像データを扱うソフトの操作を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 4 回 項目 プレゼンテーション技法の理解 内容 経過発表に使うプレゼンテーションソフトの操作 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 5 回 項目 報告内容の企画 内容 個別データの集約化と、これを活用して各自の報告内容の企画を立てる
- 第 6 回 項目 報告テーマとその要旨の発表(1) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備
- 第 7 回 項目 報告文テーマとその要旨の発表(2) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。
- 第 8 回 項目 報告文作成のための補足調査の実施 内容 報告文テーマとその要旨の発表で指摘された疑問点を解決するための現地調査を行う。 授業外指示 事前に各自の調査計画を立て、インフォマントへの事前確認を行う。
- 第 9 回 項目 補足調査データのまとめ 内容 補足調査の結果報告と情報交換を行う。 授業外指示 調査データのエクセルへの追加入力を行う。

- 第10回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(1) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第11回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(2) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第12回 項目 報告書編集のためのフォーマット作成 内容 個別に編集ソフトへの入力を行うためのレイアウト等のフォーマットを作成する。授業外指示 報告文の作成
- 第13回 項目 画像処理・編集・作図作表用のコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 画像・図表のデジタルデータを作成する。編集用ソフトへの画像・図表の入力を行う。授業外指示 報告文の作成
- 第14回 項目 報告書個別編集 内容 各自の報告文を編集する。授業外指示 各自の報告文を完成させる。
- 第15回 項目 報告書編集全体調整 内容 基本フォーマットを確認し、調整を行う。目次に沿って表題、ページ入力を行う。

成績評価方法(総合) 様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の中間報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。

教科書・参考書 参考書：各自がまとめる報告分野にそって適宜指示する。

メッセージ 授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

人文社会学科 博物文化論コース

開設科目	芸術論概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 芸術について考えるための基本的な概念を毎週一つまたは二つ取り上げて説明します。

授業の一般目標 美学の基礎概念について、その歴史的背景を含めて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：美学の基礎概念について、その歴史的背景を含めて説明できるようにする。 思考・判断の観点：美学の基礎概念を用いて、個々の芸術作品の特徴を指摘できるようにする。

授業の計画（全体） 芸術について考えるための基本的な概念を毎週一つまたは二つ取り上げて説明します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美
- 第 2 回 項目 芸術 / 美術 / アート
- 第 3 回 項目 趣味 / キッチン
- 第 4 回 項目 表現 / 解釈
- 第 5 回 項目 模倣 / 創造
- 第 6 回 項目 著作権 / 独創性
- 第 7 回 項目 古典主義 / ロマン主義
- 第 8 回 項目 ゴシック / バロック
- 第 9 回 項目 モダン / ポストモダン
- 第 10 回 項目 作品 / パフォーマンス
- 第 11 回 項目 自然美 / 環境
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末試験と、授業への出席によって評価します。

教科書・参考書 教科書：美学辞典, 佐々木健一, 東京大学出版会, 1995 年

開設科目	芸術論概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 「西欧美術史学」の歴史について概説します。日本の美術史学も西欧美術史学の発展とともに多様に展開してきました。地球時代に日本の大学で美術史を学ぶことの意義を、受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。/ 検索キーワード 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム

授業の一般目標 1. 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。2. 西欧美術史学を相対化して捉える視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西欧美術史学で使用される専門用語のいくつかについて説明ができる。思考・判断の観点：西欧美術史学の古典的な著作を読むにあたり、今日的で批評的な視点で読解し、有用性と問題点をそれぞれ指摘することができる。関心・意欲の観点：自ら美術作品の鑑賞体験と幅広い読書体験とを養うことに努める。

授業の計画（全体）美術史について全般的な見取り図を得るため、最初、西洋美術の流れ、日本近現代美術の流れ、をそれぞれ概括したのち、講義の後半で西欧美術史学の歴史をたどる、という手順で講義を進めます。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 西洋美術史（一）内容 古代・中世
- 第 3 回 項目 西洋美術史（二）内容 ルネサンス
- 第 4 回 項目 西洋美術史（三）内容 近現代
- 第 5 回 項目 日本近現代美術史（一）内容 戦前
- 第 6 回 項目 日本近現代美術史（二）内容 戦後
- 第 7 回 項目 西欧美術史学の歴史（一）内容 列伝史
- 第 8 回 項目 西欧美術史学の歴史（二）内容 様式史
- 第 9 回 項目 西欧美術史学の歴史（三）内容 イコノロジー
- 第 10 回 項目 西欧美術史学の歴史（四）内容 芸術心理学
- 第 11 回 項目 西欧美術史学の歴史（五）内容 芸術社会学
- 第 12 回 項目 西欧美術史学の歴史（六）内容 新しい美術史
- 第 13 回 項目 西欧美術史学とポストコロニアリズム
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合）期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書備考：教科書の指定はありません。ウェブサイト（<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>）から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。/ 参考書：西洋美術史ハンドブック、高階秀爾ほか編、新書館、1997年；カラー版西洋美術史、高階秀爾監修、美術出版社、1990年；美術史学の歴史、ウッド・クルターマン、中央公論美術出版、1996年；美の思索家たち、高階秀爾、青土社、1993年；美術史を語る言葉 22の理論と実践、ロバート・S・ネルソンほか編、ブリュッケ、2002年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に 1990 年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。 / 検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバル化、ビエンナーレ

授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。 思考・判断の観点： 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。 関心・意欲の観点： 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。

授業の計画(全体) 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観し、中盤は毎回 1 つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行います。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展における地球規模化の問題について紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際美術展の歴史(一) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 3 回 項目 国際美術展の歴史(二) 内容 日本参加の経緯
- 第 4 回 項目 国際美術展の歴史(三) 内容 日本の開催事例
- 第 5 回 項目 事例研究(一) 内容 シンガポール・ビエンナーレ
- 第 6 回 項目 事例研究(二) 内容 サンパウロ・ビエンナーレ
- 第 7 回 項目 事例研究(三) 内容 ドクメンタ
- 第 8 回 項目 事例研究(四) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 9 回 項目 中間まとめ 内容 二〇〇八年開催の国際美術展
- 第 10 回 項目 地球規模化する国際美術展(一) 内容 開催数の増加
- 第 11 回 項目 地球規模化する国際美術展(二) 内容 地球規模化を主題とする現代美術
- 第 12 回 項目 地球規模化する国際美術展(三) 内容 展覧会企画者の役割
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト( <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html> ) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流、石井元章著、"ブリュッケ、星雲社(発売)", 1999 年；『12 人の挑戦 大観から日比野まで』, , 茨城新聞社, 2002 年；ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本参加の 40 年, , 国際交流基金ほか, 1995 年；アートマネジメント, 伊東正伸ほか, 武蔵野美術大学出版局, 2003 年；アートが知りたい, 岡部あおみ編, 武蔵野美術大学出版局, 2005 年；記録集 横浜会議 2 0 0 4 「なぜ、国際展か?」, , BankART1929, 2005 年

メッセージ 特殊講義ですので、普通講義よりも専門的な内容になります。国際美術展は講師が専攻している研究課題です。最新の知見をご紹介しますが、その反面講義中に出てくる言葉は耳慣れないものが多くなるでしょう。今年度は、2006 年に調査したシンガポールやサンパウロ、2007 年夏開催のカッセル(ドイツ)やヴェネツィアの国際美術展を紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 に  
て水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

**授業の概要** この講義では、2008 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。 / 検索キーワード 展覧会企画、学芸員、現代美術、近代美術、近代以前の美術、日本美術、欧米美術、アジア美術、非欧米圏の美術

**授業の一般目標** (1) 幅広い分野の作品に親しむ。(2) 各展覧会の企画趣旨について理解する。(3) 美術展や美術館の制度と背景について理解する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** (1) 基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。(2) 企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。 **思考・判断の観点:** 展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。 **関心・意欲の観点:** (1) 県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会は見に行く。(2) 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪ねる。

**授業の計画 (全体)** 企画趣旨についての解説や作品画像の上映によって、毎週 1 つずつ展覧会を紹介します。

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 展覧会紹介 1
- 第 3 回 項目 展覧会紹介 2
- 第 4 回 項目 展覧会紹介 3
- 第 5 回 項目 展覧会紹介 4
- 第 6 回 項目 展覧会紹介 5
- 第 7 回 項目 展覧会紹介 6
- 第 8 回 項目 展覧会紹介 7
- 第 9 回 項目 展覧会紹介 8
- 第 10 回 項目 展覧会紹介 9
- 第 11 回 項目 展覧会紹介 10
- 第 12 回 項目 展覧会紹介 11
- 第 13 回 項目 展覧会紹介 12
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

**成績評価方法 (総合)** 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

**教科書・参考書** 教科書: 教科書の指定はありません。ウェブサイト (<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書: 五感で恋する名画鑑賞術, 西岡文彦, 講談社, 2003 年; なぜ、これがアートなの?, アメリア・アレナス, 淡交社, 1998 年; なにも見ていない, ダニエル・アラス, 白水社, 2002 年; 現代美術館学, 並木誠士ほか編, 昭和堂, 1998 年; 増補版 美の裏方, 朝日新聞マリオン編集部編, ペリかん社, 1993 年

**メッセージ** 美術展を見るのが楽しくなります。

**連絡先・オフィスアワー** 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後



開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 概論では美学の基礎概念を扱うが、特殊講義では毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業の一般目標 代表的な美学者について、その主な学説を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な美学者について、その主な学説を説明することができる。

思考・判断の観点： 代表的な美学者の学説を比較し、その特徴を指摘することができる。 技能・表現の観点： 古代から現代までの美学的著作に触れ、それらを理解するだけでなく、それを踏まえて自ら

思索し、表現できる。

授業の計画（全体） 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 西洋古代の美学者（1） 内容 プラトン
- 第 2 回 項目 西洋古代の美学者（2） 内容 アリストテレス
- 第 3 回 項目 西洋近世の美学者（1） 内容 ヒュームとバーク
- 第 4 回 項目 西洋近世の美学者（2） 内容 ヴィンケルマンとレッシング
- 第 5 回 項目 西洋近世の美学者（3） 内容 デイドロとルソー
- 第 6 回 項目 西洋近代の美学者（1） 内容 カント
- 第 7 回 項目 西洋近代の美学者（2） 内容 シェリングとドイツ・ロマン主義
- 第 8 回 項目 西洋近代の美学者（3） 内容 ヘーゲル
- 第 9 回 項目 現代美学の先駆者（1） 内容 ニーチェ
- 第 10 回 項目 現代美学の先駆者（2） 内容 ハイデガー
- 第 11 回 項目 現代美学の先駆者（3） 内容 ベンヤミン
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末の試験

教科書・参考書 教科書：適宜コピーを配付する / 参考書：美の変貌, 当津武彦（編）, 世界思想社, 1988 年

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 概論では美学の基礎概念を扱うが、特殊講義では毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業の一般目標 代表的な美学者について、その主な学説を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な美学者について、その主な学説を説明することができる。

思考・判断の観点： 代表的な美学者の学説を比較し、その特徴を指摘することができる。 技能・表現の観点： 古代から現代までの美学的著作に触れ、それらを理解するだけでなく、それを踏まえて自ら思索し、表現できる。

授業の計画（全体） 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 西洋現代の美学者（1） 内容 アドルノと批判理論
- 第 2 回 項目 西洋現代の美学者（2） 内容 バルトと構造主義
- 第 3 回 項目 西洋現代の美学者（3） 内容 デリダと脱構築
- 第 4 回 項目 西洋現代の美学者（4） 内容 ダントーと分析美学
- 第 5 回 項目 古代日本の美学者 内容 未定
- 第 6 回 項目 中世日本の美学者 内容 未定
- 第 7 回 項目 近世日本の美学者 内容 未定
- 第 8 回 項目 近代日本の美学者（1） 内容 未定
- 第 9 回 項目 近代日本の美学者（2） 内容 未定
- 第 10 回 項目 近代日本の美学者（3） 内容 未定
- 第 11 回 項目 現代日本の美学者 内容 未定
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末の試験。

教科書・参考書 教科書： 適宜コピーを配付する。 / 参考書： 美の変貌, 当津武彦（編）, 世界思想社, 1988 年

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 (1) 自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。(2) 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。 思考・判断の観点：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。 関心・意欲の観点：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。

授業の計画(全体) 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 研究発表 6
- 第 8 回 項目 研究発表 7
- 第 9 回 項目 研究発表 8
- 第 10 回 項目 研究発表 9
- 第 11 回 項目 研究発表 10
- 第 12 回 項目 研究発表 11
- 第 13 回 項目 研究発表 12
- 第 14 回 項目 研究発表 13
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 研究発表、他の発表者への質問・意見、討議への参加、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。 / 参考書：各自の研究テーマに応じて紹介・指示します。

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 (1) 自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。(2) 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。 思考・判断の観点：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。 関心・意欲の観点：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。

授業の計画(全体) 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 研究発表 6
- 第 8 回 項目 研究発表 7
- 第 9 回 項目 研究発表 8
- 第 10 回 項目 研究発表 9
- 第 11 回 項目 研究発表 10
- 第 12 回 項目 研究発表 11
- 第 13 回 項目 研究発表 12
- 第 14 回 項目 研究発表 13
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 研究発表、他の発表者への質問・意見、討議への参加、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。 / 参考書：各自の研究テーマに応じて紹介・指示します。

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 受講者による報告と討論による演習であり、卒業論文執筆のための準備。

授業の一般目標 研究主題を決める、研究計画をたてる、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる、限られた時間で研究成果をプレゼンテーションする、論文を執筆する、といった研究のための基本的な技術を習得する。また、報告者と他の受講者で建設的な議論ができるよう訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究主題についての知識を身につける。 思考・判断の観点：自らの研究主題について、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる。他の受講者の報告と自らの研究の関係を明確にする。 関心・意欲の観点：自分の研究主題について、十分に先行研究を参照すると同時に、独自の議論を展開するように努める。 態度の観点：質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論が形成されるよう貢献する。 技能・表現の観点：プレゼンテーションの基本的な技術を実践できるようになる。論文の書き方を習得する。

授業の計画（全体） 受講者の関心のある主題を踏まえて、第一回の授業で計画を決める。

成績評価方法（総合） 自らの研究報告、議論への参加、学期末レポートによって評価する。

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 受講者による報告と討論による演習であり、卒業論文執筆のための準備。

授業の一般目標 研究主題を決める、研究計画をたてる、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる、限られた時間で研究成果をプレゼンテーションする、論文を執筆する、といった研究のための基本的な技術を習得する。また、報告者と他の受講者で建設的な議論ができるよう訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究主題についての知識を身につける。思考・判断の観点：自らの研究主題について、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる。他の受講者の報告と自らの研究の関係を明確にする。関心・意欲の観点：自分の研究主題について、十分に先行研究を参照すると同時に、独自の議論を展開する。態度の観点：質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論が形成されるよう貢献する。技能・表現の観点：プレゼンテーションの基本的な技術を実践できるようになる。論文の書き方を習得する。

授業の計画（全体） 受講者の関心のある主題を踏まえて、第一回の授業で計画を決める。

成績評価方法（総合） 自らの研究報告、議論への参加、学期末レポートによって評価する。

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 美学・美術史研究室の学生を対象としています。ブログサイトの立ち上げと、インターネットを活用した研究資料の収集を経て、ウィキペディアへの書き込みを目標とした実習です。/ 検索キーワード ブログ、ウィキ、インターネット、OCR

授業の一般目標 インターネットを活用して、自分の研究テーマに関する考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ブログ、ウィキ、タブブラウザ、メーリングリスト、ポータルサイト、PDF、HTML、OCR などインターネット関連の用語が理解でき、研究に活用できる。 思考・判断の観点：自らの研究課題に対する考察を深める。 関心・意欲の観点：ブログによる研究日誌を定期的に更新する。 技能・表現の観点：(1) インターネットを活用した研究資料の収集ができる。(2) ウィキペディア上の関連項目への貢献。

授業の計画(全体) 各自ブログサイトを立ち上げてもらいます。その後、Firefox の導入方法、検索サイトや作品画像の入手方法等を解説しながら、各自の研究テーマについて資料の収集作業を行ってもらいます。最終的には、ウィキペディア上の自分が貢献できる項目に対する書き込み結果を印刷したものを提出してもらいます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1 内容 ブログサイトの立ち上げ
- 第 3 回 項目 実習指導 2 内容 Firefox の導入
- 第 4 回 項目 実習指導 3 内容 検索サイトの活用
- 第 5 回 項目 実習指導 4 内容 電子図書館の活用(一)
- 第 6 回 項目 実習指導 5 内容 電子図書館の活用(二)
- 第 7 回 項目 実習指導 6 内容 PDF の収集
- 第 8 回 項目 中間発表 内容 友人のブログへのコメント記入
- 第 9 回 項目 実習指導 7 内容 スキャナーの利用法
- 第 10 回 項目 実習指導 8 内容 OCR の利用法
- 第 11 回 項目 実習指導 9 内容 ウィキペディアの活用
- 第 12 回 項目 実習指導 10 内容 資料収集・調査研究
- 第 13 回 項目 実習指導 11 内容 ウィキペディアへの書き込み
- 第 14 回 項目 最終発表
- 第 15 回

成績評価方法(総合) ブログの更新頻度、内容、活用の工夫、ウィキペディアへの書き込み内容などをともに総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：特に指定はありません。/ 参考書：ウェブ進化論, 梅田望夫, 筑摩書房, 2006 年; 「手帳ブログ」のススメ, 大橋悦夫, 翔泳社, 2006 年; ウィキペディア 完全活用ガイド, 吉沢英明, マックス, 2006 年

メッセージ できるだけ毎日、自分の研究課題について考えをめぐらせ、少しずつでも先へと理解を進めること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

**授業の概要** 美学・美術史研究室の学生を対象としています。ブログサイトの立ち上げと、インターネットを活用した研究資料の収集を経て、ウィキペディアへの書き込みを目標とした実習です。/ 検索キーワード ブログ、ウィキ、インターネット、OCR

**授業の一般目標** インターネットを活用して、自分の研究テーマに関する考察を深める。

**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：ブログ、ウィキ、タブブラウザ、メーリングリスト、ポータルサイト、PDF、HTML、OCR などインターネット関連の用語が理解でき、研究に活用できる。 **思考・判断の観点**：自らの研究課題に対する考察を深める。 **関心・意欲の観点**：ブログによる研究日誌を定期的に更新する。 **技能・表現の観点**：(1) インターネットを活用した研究資料の収集ができる。(2) インターネット用タブブラウザ Firefox が活用できる。(3) ウィキペディア上の関連項目への書き込みを通して知的貢献ができる。

**授業の計画(全体)** 各自ブログサイトを立ち上げてもらいます。その後、Firefox の導入方法、検索サイトや作品画像の入手方法を解説しながら、各自の研究テーマについて資料の収集作業を行ってもらいます。最終的には、ウィキペディア上の自分が貢献できる項目に対する書き込み結果を印刷したものを提出してもらいます。以上の作業を前期で履修済みの学生については、発展学習を指示します。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1 内容 画像の整理=Photoshop Album Mini の活用法
- 第 3 回 項目 実習指導 2 内容 画像のリサイズ=J Trim の活用法
- 第 4 回 項目 実習指導 3 内容 スライドの作成=Power Point の活用法
- 第 5 回 項目 実習指導 4 内容 以下、発展学習
- 第 6 回 項目 実習指導 5
- 第 7 回 項目 実習指導 6
- 第 8 回 項目 中間発表
- 第 9 回 項目 実習指導 7
- 第 10 回 項目 実習指導 8
- 第 11 回 項目 実習指導 9
- 第 12 回 項目 実習指導 10
- 第 13 回 項目 実習指導 11
- 第 14 回 項目 最終発表
- 第 15 回

**成績評価方法(総合)** ブログの更新頻度、内容、活用の工夫、ウィキペディアへの書き込み内容などをともに総合的に評価します。

**教科書・参考書** 教科書：教科書の指定はありません。山口大学美学・美術史研究室のブログ( <http://blog.sonet.ne.jp/art-groove/> ) から先輩方のブログへのリンクをたどって参考にしてください。 / 参考書：ウェブ進化論, 梅田望夫, 筑摩書房, 2006 年 ; 「手帳ブログ」のススメ, 大橋悦夫, 翔泳社, 2006 年 ; ウィキペディア 完全活用ガイド, 吉沢英明, マックス, 2006 年

**メッセージ** できるだけ毎日、自分の研究課題について考えをめぐらせ、少しずつでも先へと理解を進めること。

**連絡先・オフィスアワー** 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後



開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

成績評価方法 (総合) プレゼンテーションと学期末の課題

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

成績評価方法 (総合) 授業中のプレゼンテーションと学期末の課題

開設科目	考古学概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。 / 検索キーワード  
考古学

授業の一般目標 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。

授業の計画（全体） 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期には考古学の発達史や研究法を中心に解説する。後期には日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。

成績評価方法（総合） 定期試験 80%。 授業外レポート 20%

教科書・参考書 教科書： 使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書： 講義の中で文献を紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail： h-murata@yamaguchi-u.ac.jp， オフィスアワー： 水曜日 5・6 時限

開設科目	考古学概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。 / 検索キーワード  
考古学

授業の一般目標 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。

授業の計画（全体） 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて，学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期には考古学の発達史や研究法を中心に解説する。後期には日本列島の旧石器時代，縄文時代，弥生時代，古墳時代の，自然環境，住居，集落，生業，衣類，道具，工芸，交易，埋葬，習俗，宗教について見てゆく。 <留意点> 開講期の設定は半期だが，講義の編成は実質的に通年であるため，通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので，後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。

成績評価方法（総合） 定期試験 80% 授業外レポート 20%

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書：講義の中で文献を紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日 5・6 時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 授業は、講義と演習を取り混ぜた授業スタイルにより構成する。縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。/ 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期は、第1に遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置く。これをベースとして、特定地域や個別遺跡の具体的状況を受講生とともに課題設定して解明してゆく。受講生は、実際の考古資料を、報告書に掲載されている実測図によって実際に取り扱うことで、経験的に考古資料操作の方法を学ぶ。後期は、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの日本列島各地の具体的状況へと視野を拡大する。<留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。講義と演習を取り混ぜた授業スタイルを採用し、受講生の理解のために必要であれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、授業時間内には受講生に頻繁に意見を求めるので、自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 20%，宿題・授業外レポート 60%，授業中の発表・資料操作の成果 20%。

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。/ 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 授業は、講義と演習を取り混ぜた授業スタイルにより構成する。縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。／検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期は、第1に遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置く。これをベースとして、特定地域や個別遺跡の具体的状況を受講生とともに課題設定して解明してゆく。受講生は、実際の考古資料を、報告書に掲載されている実測図によって実際に取り扱うことで、経験的に考古資料操作の方法を学ぶ。後期は、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの日本列島各地の具体的状況へと視野を拡大する。＜留意点＞ 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。講義と演習を取り混ぜた授業スタイルを採用し、受講生の理解のために必要であれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、授業時間内には受講生に頻繁に意見を求めるので、自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 20%，宿題・授業外レポート 60%，授業中の発表・資料操作の成果 20%。

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。／参考書：石器入門事典 - 先土器 - - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限



開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

**授業の概要** 弥生時代の祭祀：弥生時代の人は世界をどのように見ていたのでしょうか。この講義は、弥生時代の祭祀具や宗教遺跡を紹介しながら、弥生時代の人間の観念を理解しようとするものである。まずそのためには、どのような遺跡や遺物に弥生人の超自然観が込められているのか、決定しなくてはならない。しかしこれが実に難しい課題であって、例えば非実用品一つとっても、様々な理解の仕方があるが、弥生時代になると、民俗的な風習から「類推」できる遺物も少なくない。そこで、講義ではむしろそうした民俗事例との関連を紹介しながら、どうしたら考古資料から当時の人間の超自然観に接近できるのかを考えてみよう。 / 検索キーワード 銅鐸・銅剣・銅矛・銅戈・埋納址・農耕儀礼・葬送儀礼・シャーマニズム

**授業の一般目標** 1. 考古学では特殊な遺物である弥生時代の呪術具にどのようなものがあるのか理解する。 2. 弥生時代に特徴的な祭祀遺跡は、どのようなものであるのか、理解する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 考古学の専門用語を修得する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。 **思考・判断の観点：** 具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるというのは、どういうことなのか、根本をまず理解する。 **関心・意欲の観点：** 多様な遺跡・遺物の形態に興味をもつ。 **技能・表現の観点：** 遺跡・遺物の資料提示の仕方を学ぶ。 **その他の観点：** 遺跡の発掘報告書が読みこなせるようになる。

**授業の計画（全体）** 具体的な遺跡や遺物を紹介しながら、その解釈について講義する。特にこの授業では、一般的ではない見解も導入するから、推論の妥当性が主題となる。戦後、著しく研究が進展した武器形木製品の理解に関しては詳細に検討する。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 宗教と呪術 内容 はじめに
- 第 2 回 項目 民俗学・民族学 内容 宗教学への寄与
- 第 3 回 項目 弥生時代の石棒・土偶 内容 縄文時代の信仰の衰退
- 第 4 回 項目 人面土器 内容 再葬墓
- 第 5 回 項目 井戸の祭祀 内容 埋葬法
- 第 6 回 項目 鳥形木製品 内容 シャーマニズム
- 第 7 回 項目 銅剣 内容 副葬品
- 第 8 回 項目 平形銅剣 内容 埋納品
- 第 9 回 項目 銅矛 内容 分布論
- 第 10 回 項目 銅戈 内容 大阪湾型銅戈
- 第 11 回 項目 銅鐸 内容 起源
- 第 12 回 項目 銅鐸 内容 埋納址
- 第 13 回 項目 武器形木製品 内容 分布と形態
- 第 14 回 項目 武器形木製品 内容 古墳時代との関連
- 第 15 回 項目 予備

**成績評価方法（総合）** 授業は専門的な分野であるから、成績は主に受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただき、判定することにする。個々の観点のうち、独創性を含めて得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力の見られないものは評価しない。ただし、受講生が多い場合は、試験によって判定する。

**教科書・参考書** 参考書：授業中に言及する。

**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 遺跡論：考古学を一言で言うならば、遺跡の研究ということに尽きる。遺跡の实在から考えを出発するためには、まず遺跡そのものを知らなくてはならない。この授業は、考古学がどうして遺跡を知り得たのか、また遺跡の何を知り得たのかを、課題として取り上げる。一応、下の表のような計画を持っているが、受講生の希望によっては一つの遺跡を深く追跡することもありうる。 / 検索キーワード 発掘調査報告書

授業の一般目標 1．遺跡の発掘によって、何が明らかになったか、理解する。 2．発掘調査はどのように遂行するのか、自分なりに理解する。 3．考古学における表現方法の特性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学の専門用語を習得する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。 思考・判断の観点：具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるということは、どういうことなのか、根本をまず理解する。 関心・意欲の観点：多様な遺跡・遺物の形態に興味を持つ。 技能・表現の観点：遺物の提示法を修得する。 その他の観点：発掘報告書が読みこなせる。

授業の計画（全体） 遺跡を知る上では様々な方法がある。まずその方法を知ること。次に遺跡を報告する仕方について学ぶ。報告の仕方によって報告の内容が理解できるばあい、またそうでないばあいがある。報告書の作成方針を理解し、よい報告とは何かを習得する。 受講生は課題となる報告書を読み、その内容を理解し、疑問点を指摘しながら、擬似的な発掘体験をする。ただし、受講生の希望によっては、できるだけ一つの遺跡の発掘調査に焦点をあてながら進行することもある。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 考古学の表示方法
- 第 2 回 項目 報告書 内容 遺跡の内容
- 第 3 回 項目 大森貝塚 内容 地図がない欠点
- 第 4 回 項目 岩宿遺跡 内容 発見の感動
- 第 5 回 項目 丹生遺跡 内容 石器の理解
- 第 6 回 項目 福井洞窟遺跡 内容 最古の土器
- 第 7 回 項目 吉胡貝塚 内容 型式と層位
- 第 8 回 項目 登呂遺跡 内容 知識の宝庫
- 第 9 回 項目 唐古遺跡 内容 基準となる報告
- 第 10 回 項目 池田茶臼山古墳 内容 構造の記述
- 第 11 回 項目 桜井茶臼山古墳 内容 墳丘の観察と測量
- 第 12 回 項目 三塚遺跡 内容 豪族の居館
- 第 13 回 項目 ドイツの報告書 内容 地図と分布図
- 第 14 回 項目 フランスの報告書 内容 遺物の分類
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 授業は専門的な分野であるから、成績は主に受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただく。下のような個々の観点のうち、得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力のないものは評価しない。

教科書・参考書 参考書：授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森下 章司				

授業の概要 鏡と古墳時代： 銅鏡の研究は、古墳の編年、政治史復元、信仰や祭祀の研究に大きな役割を果たしてきた。これまでの研究成果について、銅鏡の用語や分類、研究方法について基本的な事柄を紹介するとともに、考古資料を用いた歴史研究の道筋についても考える。 / 検索キーワード 古墳 銅鏡 三角縁神獣鏡 分類研究 型式学的研究方法

授業の一般目標 銅鏡及び古墳時代にかんする考古学的な研究成果について、基本的な知識を身につける。銅鏡を中心とした考古資料に対するアプローチの方法を考えてみる。考古資料を用いた歴史の研究方法について、批判的に吸収・会得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 銅鏡・古墳時代研究について、基本的な成果を説明できる。 思考・判断の観点： 考古学的な研究方法について、その原理や問題点を自分なりに説明・応用できる。 関心・意欲の観点： 身近な古墳・考古資料について、授業で得た知識・方法を用いて検討する力をもつ。 態度の観点： 古墳時代に関する調査結果の報道、著作、論文に関心をもつ。 技能・表現の観点： 理解した内容を文章・絵などで適切に表現できる。

授業の計画(全体) 1 古墳とは(具体例にもとづく紹介) 2 銅鏡とは(用語、特徴) 3 銅鏡の分類 4 銅鏡の研究(文様 銘文 製作技術 編年 製作者 科学分析) 5 小林行雄の研究(伝世鏡論 同範鏡論 同型鏡) 6 三角縁神獣鏡をめぐって 7 銅鏡と古墳研究(古墳編年 実年代比定 政治史研究 対外交渉) 8 銅鏡と考古学研究の問題点(分類 型式学的研究 社会復元の方法) 9 銅鏡研究の新展開 レジюме・資料・ビデオ・その他教材を利用する。

成績評価方法(総合) 授業内容の区切りごとに小レポートを提出(兼出席調査; 40%) 授業終了後にレポート(60%) 質問・意見など積極的な参加態度も評価する。

教科書・参考書 参考書：古鏡(改訂版), 小林行雄, 学生者, 2000年; 三角縁神獣鏡の時代, 岡村秀典, 吉川弘文館, 1999年

備考 集中授業

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 卒業論文作成のための演習である。発表者の研究発表の向上をはかるために、問題の明確さ、資料の実体化、収集・検索能力、説得力、口頭発表の仕方などを修得する。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 調査、分析成果を発表し、卒業論文を完成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の研究を掌握し、学説を承知する。 思考・判断の観点：問題の設定を適切に行ない、資料を実体化する。 関心・意欲の観点：興味をもって、集中して取り組む。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料を図表で正確に表現できる。

授業の計画(全体) 毎回、発表分担者を決めて、当事者は資料を添えて口頭発表する。事情で欠席するばあいは、事前に申し出て、順番を変更することができる。

成績評価方法(総合) 授業中の平常をもって評価・採点する。その時には、自己の能力をフルに活用して問題を解決するかどうか、決め手になり、計画的に課題を消化し、まとめる能力を重視する。また、口頭発表であるから文章能力よりも態度が要素に入るので注意すること。

教科書・参考書 教科書：指定せず / 参考書：発表者個々に指導する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 卒業論文作成のための演習である。問題点の明確化、資料の実体性などに加えて、論文執筆の要領を後期には教示する。/ 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 調査・分析成果を発表し、卒業論文の完成を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：従来の学説・研究を理解する。 思考・判断の観点：問題点を設定できる。 関心・意欲の観点：従来の研究を追跡、検討する。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料の適正化をはかる。

授業の計画(全体) 発表者をあらかじめ決め、各自の研究を口頭発表し、相互に論評する。

成績評価方法(総合) 授業の発表、質問など平常の評価・採点をおこなう。自己の能力をフルに活用して問題探求、設定、解決に向かうかどうかを、重要なポリシーとする。

教科書・参考書 教科書：特になし。/ 参考書：発表者個々に指導する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10～17:40

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

**授業の概要** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

**授業の一般目標** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

**授業の到達目標** / 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

**授業の計画(全体)** 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

**成績評価方法(総合)** 授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。

**メッセージ** 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたいが、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

**連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

**授業の概要** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

**授業の一般目標** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

**授業の到達目標** / 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

**授業の計画(全体)** 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

**成績評価方法(総合)** 授業態度・授業への参加度 10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。

**メッセージ** 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたいが、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

**連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 この授業では、野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量器械の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法の実技を修得する。ただし雨天のばあいは室内作業を実習する。 / 検索キーワード 発掘調査法

授業の一般目標 1. 発掘調査に必要な測量ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 測量の原理を理解する。 思考・判断の観点： 状況に応じた測量法を修得する。 関心・意欲の観点： 実技・作業の身のこなし方に興味をもつ。 態度の観点： \*危険回避行動を身につける。 \*チームワークを修得する。 技能・表現の観点： 線画の表現法を学ぶ。

授業の計画(全体) 考古学のうち、測量分野は座学、独学ができない実践分野で、特に発掘担当者を志望する者はこの実習で教える骨格測量の原理を理解していなければならない。要するに、だれも教えてくれないが、専門職に就けば、知って得する内容を初心者に教えます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 測距 内容 スチール・テープの扱い方
- 第 2 回 項目 測距 内容 レベルによる標高計測
- 第 3 回 項目 測角 内容 トランシユットの扱い方
- 第 4 回 項目 測角 内容 三脚の据え方
- 第 5 回 項目 測角 内容 副尺の読み方
- 第 6 回 項目 測角 内容 上下のネジの操作法
- 第 7 回 項目 測角 内容 内外角による多角測量
- 第 8 回 項目 測角 内容 方位角による多角測量
- 第 9 回 項目 計算法 内容 図根点の作図
- 第 10 回 項目 地形測量 内容 平板の据え方
- 第 11 回 項目 地形測量 内容 等高線の求め方
- 第 12 回 項目 作図 内容 図面の整合法
- 第 13 回 項目 測角 内容 三角法
- 第 14 回 項目 細部測量 内容 やり方の設置
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技が出来るか出来ないかであって、器用・不器用、上手・下手は、個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員出来るようになってほしいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。

教科書・参考書 教科書： 測量学の図書はあるが、測量実技は図書からは学べないので、基本動作を体で覚えること。 / 参考書： 特になし。

メッセージ 考古学専攻の3年生に限る。また、授業前に全員そろって機材を用意しておくこと。さらに授業中には、交通事故などに注意すること。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40



開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

**授業の概要** 考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ（遺構・遺物）である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。 / 検索キーワード 考古学, 石器, 土器, 発掘調査, 資料調査, 実習, 実測

**授業の一般目標** 1. 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 2. 実物の資料化（実物から二次資料への変換）のための技術の初歩を習得する。 3. 二次資料（実測図・写真・拓本）に込められた情報を判読する技術を習得する。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点： A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点： A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。 技能・表現の観点： A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。

**授業の計画（全体）** 【考古遺物の資料化】 1. ガイダンス \_\_\_\_ A. 道具の解説 2. 遺物洗浄 3. 接合・復元 4. 遺物実測 \_\_\_\_ A. 石器 \_\_\_\_ B. 土器 \_\_\_\_ C. 瓦 5. 拓本 6. 写真 7. 報告書作成 \_\_\_\_ A. DTP 全般 8. 考古情報処理 \_\_\_\_ A. 考古学におけるパソコン利用 /// \* 上記は、カリキュラムの概要であるが、資料・天候などの都合のため、上記の順で授業が進行するわけではない。

**成績評価方法（総合）** 宿題・授業外レポート 50%，受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 50%。基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。欠席4回で良。5回で可。7回で不可。また決められた課題を提出しないと評価が著しく低下する。

**教科書・参考書** 参考書：授業の中で紹介する。

**メッセージ** 考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。

**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

言語文化学科 日本語文化論コース

開設科目	日本語学 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 語彙 ~ 日本語の「語彙」について考察する。

授業の一般目標 日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。  
関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画（全体） 日本語学の諸分野のうち、「語彙」に関する問題について取り扱う。 語彙とは  
語彙量 理解語彙と使用語彙 基本語彙と基礎語彙 語種による語彙の類別 和語 漢語  
洋語 語構成による語彙の類別 位相 など

成績評価方法（総合） 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年

開設科目	日本語学 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語および日本文化に関する諸問題をペアワークまたはグループ討議を通して検討する。特に日本語の表記として漢字家族、単語家族など、朗読などを通した日本語の音声などに着目する。/ 検索キーワード 日本語、日本文化、異文化

授業の一般目標 自分一人の考えに閉じこもらずに、他者との意見交換を通して、柔軟な考え方を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語および日本文化に関する知識・理解を深める。表記、語彙拡大、音声表現などに関心を持つ。思考・判断の観点：ステレオ・タイプの考え方を脱して、適切な判断ができるようにする。関心・意欲の観点：日本語・日本文化に関する関心だけでなく、異文化に関する関心を持つようにする。異文化を理解しようとする意欲を育てる。態度の観点：積極的に授業に参加し、自分の意見を恥ずかしがらずに伝えるようにする。技能・表現の観点：簡潔に授業内容にかんする感想・意見・質問をまとめることができる。その他の観点：対人関係を自らすすんでつくるようにする。二人一組、三人一組で設定された問題について検討する。

授業の計画(全体) 構成的グループ・エンカウンターの手法を用いて、日本語と日本文化に関する諸問題をテーマごとにディスカッションする。参加体験型の授業を実施する。

成績評価方法(総合) 出席と小レポート、課題を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 木曜、午前 10 時 30 分～12 時

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴の理解を深める。 / 検索キーワード 音韻変化、音節構造の特徴、日本語音韻史

授業の一般目標 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 思考・判断の観点：日本語の特徴を分析・理解する。 関心・意欲の観点：日本語の意義・価値について再認識する。

授業の計画（全体） 音韻史の資料、音韻変化の分類、日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば、ア行のeとヤ行のje、ア行のoとワ行のwo、ア行のiとワ行のwi、ア行のeとワ行のwe、八行音の音価など。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 2 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 3 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 4 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 5 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 6 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 7 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 8 回 項目 中古～近世の音韻（1）
- 第 9 回 項目 中古～近世の音韻（1）
- 第 10 回 項目 中古～近世の音韻（2）
- 第 11 回 項目 中古～近世の音韻（2）
- 第 12 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 13 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 14 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席。

教科書・参考書 教科書：使用せず。適宜プリントを配布する。 / 参考書：音韻史・文字史（講座国語史；2）、中田祝夫編、大修館書店、1972年；中田祝夫『講座国語史2音韻史』（大修館書店）

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（083-933-5249） オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴についての理解を深める。 / 検索キーワード 音韻変化, 音節構造の特徴, 日本語音韻史

授業の一般目標 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 思考・判断の観点：日本語の特徴を分析・理解する。 関心・意欲の観点：日本語の意義・価値について再認識する。

授業の計画(全体) 音韻史の資料, 音韻変化の分類, 日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば, 八行転呼, 上代特殊仮名遣い, 濁音の確立, 夕行音の音価, サ行音の音価, 拗音と連声, 音便現象など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中古～近世の音韻(4)
- 第 2 回 項目 中古～近世の音韻(4)
- 第 3 回 項目 中古～近世の音韻(5)
- 第 4 回 項目 中古～近世の音韻(5)
- 第 5 回 項目 中古～近世の音韻(6)
- 第 6 回 項目 中古～近世の音韻(6)
- 第 7 回 項目 中古～近世の音韻(7)
- 第 8 回 項目 中古～近世の音韻(7)
- 第 9 回 項目 中古～近世の音韻(8)
- 第 10 回 項目 中古～近世の音韻(8)
- 第 11 回 項目 中古～近世の音韻(9)
- 第 12 回 項目 中古～近世の音韻(9)
- 第 13 回 項目 中古～近世の音韻(10)
- 第 14 回 項目 中古～近世の音韻(10)
- 第 15 回 項目 後期筆記試験

成績評価方法(総合) 定期試験, 質問カード, 出席

教科書・参考書 教科書：使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：音韻史・文字史(講座国語史; 2), 中田祝夫編, 大修館書店, 1972年; 中田祝夫『講座国語史2音韻史』(大修館書店)

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249), オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。 / 検索キーワード 方言の意義、方言の変化、方言の働き

授業の一般目標 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語方言の意義、特徴、変化の姿と分布の意味について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語方言についての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語方言の特徴・意義、変化を再認識する。

授業の計画（全体） 方言の概念規定、方言の意義、方言変化、その働きなどについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 ことばの差
- 第 3 回 項目 方言とは何か
- 第 4 回 項目 方言とは何か
- 第 5 回 項目 方言の意義
- 第 6 回 項目 方言の意義
- 第 7 回 項目 方言の意義
- 第 8 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 9 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 10 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 11 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 12 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 13 回 項目 分権の中にあらわれる方言
- 第 14 回 項目 方言分布の解釈
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席

メッセージ 日本語の方言はかけがえのないことば。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249） オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

**授業の概要** 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り

**授業の一般目標** 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。思考・判断の観点：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。関心・意欲の観点：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。態度の観点：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。技能・表現の観点：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

**授業の計画** (全体) 上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

**成績評価方法** (総合) 主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。

**教科書・参考書** 教科書：未定 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 國分康孝ほか, 図書文化, 1999年; エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part 2, 國分康孝ほか, 図書文化, 2001年

**メッセージ** 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203



開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り、分かち合い

授業の一般目標 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。思考・判断の観点：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、る言葉について、その意味・用法を考える。関心・意欲の観点：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。態度の観点：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。技能・表現の観点：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。

成績評価方法（総合）出席、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part2, 林伸一, 図書文化, 2001年 / 参考書：未定

メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現 ( 1 ) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身につけるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画 ( 全体 ) 待遇表現とは 待遇表現の種類 敬語と待遇表現 人称代名詞 人物の呼称 現代敬語の性格 敬語の持つ効果 敬語の分類 など

成績評価方法 ( 総合 ) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現 (2) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 美化語の用法と形式 丁寧語の用法と形式 尊敬語の用法と形式 謙譲語の用法と形式 丁寧語の用法と形式 準敬語とは 問題となる敬語表現 など

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	米川 明彦				

授業の概要 集団語について先行研究、定義、種類、各集団のことば、造語法、カテゴリー分類、言語意識などから考察し、論じる。また、集団語に関連する俗語、隠語について論じる。 / 検索キーワード 集団語、隠語、俗語

授業の一般目標 1、日本語の位相・多様性を知る。2、ことばの使用の目的と表現について考える。3、日本語研究の方法を学ぶ。4、学生自ら調査・研究するきっかけを与える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 集団語とは何か、ことばは何のためにあるのかなどを知り、理解する。 思考・判断の観点： 集団とことばの関係、言語意識と造語法の関係などを考える。 関心・意欲の観点： いろいろな集団のことばに関心を持ち、調査・研究する意欲を養う。

授業の計画(全体) 上記の目標達成のために講義しつつ、学生に発言を求める。以下に項目と内容を示す。集中講義なので、各週とあるのは、各コマのことである。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語の現状 内容 各種の言語使用調査結果から現状を知る
- 第 2 回 項目 ことばの乱れとは 内容 ことばの「乱れ」の基準は何か考える
- 第 3 回 項目 俗語とは 内容 俗語とは何か分類と種類を述べる
- 第 4 回 項目 俗語とは 内容 俗語の働き、意義、言語意識について考える
- 第 5 回 項目 隠語とは 内容 隠語とは何か、分類と種類を述べる
- 第 6 回 項目 集団語とは 内容 集団語とは何か、先行研究、定義、種類を述べる
- 第 7 回 項目 集団語とは 内容 集団語研究の位置づけとテーマを述べる
- 第 8 回 項目 社会的集団のことば 内容 百貨店、落語家、医療関係者など社会的集団のことばを個別に取りあげる
- 第 9 回 項目 反社会集団のことば 内容 ヤクザ、不良、スリ、泥棒など反社会的集団のことばを個別に取りあげる
- 第 10 回 項目 キャンパス集団のことば 内容 大学などキャンパスに集る集団のことばを取りあげる
- 第 11 回 項目 若者語 内容 若者語の歴史、特徴、背景、造語法を取りあげる
- 第 12 回 項目 意味分類から見た集団語 内容 意味分類から各集団語の特徴を考える
- 第 13 回 項目 造語法から見た集団語 内容 造語法から各集団語の特徴を考える
- 第 14 回 項目 手話 内容 もうひとつの日本の言語である手話の歴史、ろう者の歴史、手話の特徴を述べる
- 第 15 回 項目 「伝え合う」から「通じ合う」へ 内容 コミュニケーションの根底にある相手を理解し、相手から理解されたい「通じ合う心」について述べる

成績評価方法(総合) 出席とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：これも日本語！あれも日本語？，米川明彦，NHK 出版，2006 年 / 参考書：現代若者ことば考，米川明彦，丸善ライブラリー，1996 年；若者ことば辞典，米川明彦，東京堂出版，1997 年；若者語を科学する，米川明彦，明治書院，1998 年；集団語辞典，米川明彦，東京堂出版，2000 年；日本俗語大辞典，米川明彦，東京堂出版，2003 年

メッセージ 集団語・若者語を科学しよう！

連絡先・オフィスアワー 人文学部林伸一研究室 hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 教科書割引購入申込先(7 月 20 日締め切り) 携帯 090 - 6415 - 8203

備考 集中授業

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 万葉集の巻六～十二所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。 / 検索キーワード 万葉仮名、訓読、古辞書、注釈書

授業の一般目標 古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟する。 思考・判断の観点：古辞書の記述と類例とを対照させそれらを分析しながら、万葉仮名で表記された歌謡本文のあるべき訓読を考察する。 関心・意欲の観点：各歌の歌謡本文における万葉仮名表記の意図を考える。

授業の計画（全体） 万葉集の巻八～十二所収の歌の訓読に関して、受講者各自が、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとに相違のある箇所を探し、その当否を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入（資料の扱いの指導）
- 第 2 回 項目 これ以降、万葉集巻六～十二から各人 1 課題を取り上げレポートする（1）
- 第 3 回 項目 学生のレポート（2）
- 第 4 回 項目 学生のレポート（3）
- 第 5 回 項目 学生のレポート（4）
- 第 6 回 項目 学生のレポート（5）
- 第 7 回 項目 学生のレポート（6）
- 第 8 回 項目 学生のレポート（7）
- 第 9 回 項目 学生のレポート（8）
- 第 10 回 項目 学生のレポート（9）
- 第 11 回 項目 学生のレポート（10）
- 第 12 回 項目 学生のレポート（11）
- 第 13 回 項目 学生のレポート（12）
- 第 14 回 項目 学生のレポート（13）
- 第 15 回 項目 学生のレポート（14）

成績評価方法（総合） 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：万葉集 本文篇、佐竹昭広 [ほか] 共著、塙書房、1982 年；万葉集 本文篇、佐竹昭広 [ほか] 共著、塙書房、1982 年

メッセージ 万葉歌人が詠んだ万葉集歌の仮名の訓にたどり着きましょう。その手だてを学んでください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 (933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 前半は前期の継続。後半は『日本言語地図』に見られる方言地図（作成日時の付されていない）の分布を資料として、その分布形成の過程（語彙史）つまり、語彙の相対的な新旧の解明を試みる。／検索キーワード 葉集、方言地図、分布解釈

授業の一般目標 方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横の平面上に分布している。その方言分布の解釈することで、日本語・方言の語史を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史に関心を寄せ、日本語の再発見につなげる。 思考・判断の観点：方言地図の分布をみてそれを分析・解釈する能力を身につける。 関心・意欲の観点：自国の言語への関心を高める。

授業の計画（全体）各自が担当する地図を持ち寄り一人が一枚の地図を読む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 万葉集の学生レポート（1）
- 第 2 回 項目 万葉集の学生レポート（2）
- 第 3 回 項目 万葉集の学生レポート（3）
- 第 4 回 項目 万葉集の学生レポート（4）
- 第 5 回 項目 万葉集の学生レポート（5）
- 第 6 回 項目 万葉集の学生レポート（6）
- 第 7 回 項目 万葉集の学生レポート（7）
- 第 8 回 項目 万葉集の学生レポート（8）
- 第 9 回 項目 方言地図の解釈（1）
- 第 10 回 項目 方言地図の解釈（2）
- 第 11 回 項目 方言地図の解釈（3）
- 第 12 回 項目 方言地図の解釈（4）
- 第 13 回 項目 方言地図の解釈（5）
- 第 14 回 項目 方言地図の解釈（6）
- 第 15 回 項目 方言地図の解釈（7）

成績評価方法（総合）質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：日本言語地図（日文研究室所蔵）、国立国語研究所、大蔵省印刷局；国立国語研究所編『日本言語地図』（人文学部日本語文化論コース研究室所蔵）

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

**授業の概要** 一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。/ 検索キーワード 日本語教育、異文化理解、発表力、表現力

**授業の一般目標** 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。 2、すでに発表された論文でも批判的に読む。 3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。 4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1、引用のしかたを学ぶ 2、参考文献の提示のしかたを学ぶ  
**思考・判断の観点:** 1、先行研究を基に自論を展開できるようにする 2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む  
**関心・意欲の観点:** 1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる 2、振り返りを意欲的に実行する  
**態度の観点:** 1、まじめに課題に取り組む態度を養う。 2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。  
**技能・表現の観点:** 1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する

**授業の計画 (全体)** 上記の目標達成のために対話的に授業を進めていく。分担者が発表し、参加者が検討を加えていく。

**成績評価方法 (総合)** 出席と発表、レポートを重視し、テストはしない。

**教科書・参考書** 教科書: プリント配布

**メッセージ** 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。

**連絡先・オフィスアワー** 木曜、3-4 時限目、人文棟 2 階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。 / 検索キーワード 自己理解、他者理解、異文化理解

授業の一般目標 1、異文化とは何かを考える。 2、自分とは何かを考える。 3、イメージとステレオタイプについて考える。 4、人と出会うということについて考える。 5、人とコミュニケーションすることについて考える。 6、非言語コミュニケーションについて考える。 7、価値観の相違を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する 2、ジョハリの窓について知識と理解を深める 思考・判断の観点： 1、ステレオタイプを崩していく 2、出会いと人生のドラマ 関心・意欲の観点： 1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲 2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲 態度の観点： 1、価値観が違う者への態度 2、多文化共生社会への態度 技能・表現の観点： 1、自己開示、自己表現、自己主張能力 2、質問力

授業の計画（全体） 上記目標を達成するために対話的な授業を行なう。テーマごとの発表をし、内容について検討する。

成績評価方法（総合） 出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 参考書：多文化共生時代の日本語教育，縫部義憲，瀝々社，2002年；多文化共生のコミュニケーション，徳井厚子，アルク，2002年

メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203



開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 古文の文法 ~ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で講読する。

授業の一般目標 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体） テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：古文の文法，馬淵和夫，武蔵野書院，1963年；テキストは現在絶版のため、プリント配布。

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 漢文訓読資料としての、研究室に複製が所蔵されている『呂后本紀第九』(史記)を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、平安中期を中心とした日本語

授業の一般目標 平安時代の漢文訓読資料を訓読することによって、当時の口語の一端に触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢文訓読におけるヲコト点の意義を理解する。 思考・判断の観点：漢文訓読資料によってヲコト点を用いた訓読を解読する。 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史を考える。

授業の計画(全体) 『呂后本紀第九』(史記)の本文を一人数行宛て読み1課題を報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト、資料の説明
- 第 2 回 項目 学生のレポート(1)
- 第 3 回 項目 学生のレポート(2)
- 第 4 回 項目 学生のレポート(3)
- 第 5 回 項目 学生のレポート(4)
- 第 6 回 項目 学生のレポート(5)
- 第 7 回 項目 学生のレポート(6)
- 第 8 回 項目 学生のレポート(7)
- 第 9 回 項目 学生のレポート(8)
- 第 10 回 項目 学生のレポート(9)
- 第 11 回 項目 学生のレポート(10)
- 第 12 回 項目 学生のレポート(11)
- 第 13 回 項目 学生のレポート(12)
- 第 14 回 項目 学生のレポート(13)
- 第 15 回 項目 学生のレポート(14)

成績評価方法(総合) 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：『呂后本紀第九』(史記)の複製本(受講生にお願い：丁寧に扱ってください)

メッセージ 漢字一字一字の読みを明らかにする手だてを一緒に学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 漢文訓読資料として、研究室所蔵の複製本『呂后本紀第九』(史記)を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、中世前期の日本語

授業の一般目標 平安時代の漢文訓読資料を訓読することによって、当時の口語の一端に触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢文訓読におけるヲコト点の意義を理解する。 思考・判断の観点：漢文訓読資料によってヲコト点を用いた訓読を解読する。 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史について考える。

授業の計画(全体) 『呂后本紀第九』(史記)の本文を一人数行宛て読み1課題を報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 学生のレポート(1)
- 第 2 回 項目 学生のレポート(2)
- 第 3 回 項目 学生のレポート(3)
- 第 4 回 項目 学生のレポート(4)
- 第 5 回 項目 学生のレポート(5)
- 第 6 回 項目 学生のレポート(6)
- 第 7 回 項目 学生のレポート(7)
- 第 8 回 項目 学生のレポート(8)
- 第 9 回 項目 学生のレポート(9)
- 第 10 回 項目 学生のレポート(10)
- 第 11 回 項目 学生のレポート(11)
- 第 12 回 項目 学生のレポート(12)
- 第 13 回 項目 学生のレポート(13)
- 第 14 回 項目 学生のレポート(14)
- 第 15 回 項目 学生のレポート(15)

成績評価方法(総合) 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：『呂后本紀第九』(史記)の複製本(受講生にお願い：丁寧に扱ってください)

メッセージ 漢字一字一字の読みを明らかにする手だてを一緒に学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。 / 検索キーワード 文章力、質問力、表現力

授業の一般目標 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用の仕方 2、図や表のタイトルのつけかた 3、参考文献の示し方 思考・判断の観点： 1、一般論と具体例を区別する 2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える 3、説得力のある文章を考える 関心・意欲の観点： 1、自分の関心・意欲を明確にする 2、前向きに困難に対処する 3、目標を立てて動機付けする 態度の観点： 1、積極的に授業に参加する 2、わからないことをそのままにしないで調べる 3、不明な点は質問する 技能・表現の観点： 1、口頭での発表力をつける 2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける 3、コンピューターを使いこなす

授業の計画（全体） 上記の目標達成のため、授業を対話的に進める

成績評価方法（総合） 授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：質問力：話し上手はここがちがう、齋藤孝著、筑摩書房、2003年；齋藤孝（2003）『質問力』筑摩書房

メッセージ 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日：11時～12時 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。 / 検索キーワード 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力

授業の一般目標 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。 2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。 3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。 4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。 5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ 態度の観点：前期に同じ 技能・表現の観点：前期に同じ

授業の計画（全体）上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。

成績評価方法（総合）前期に同じ

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 興味、関心を形にする。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 平安後期物語の語法・語彙 ~ 平安後期物語『堤中納言物語』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体）当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。

成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：堤中納言物語，塚原鉄雄，武蔵野書院；教科書は生協で取り扱う。 / 参考書：堤中納言物語（日本古典文学大系 13），寺本直彦，岩波書店，1957 年；堤中納言物語（新潮日本古典集成 56），塚原鉄雄，新潮社，1983 年；堤中納言物語（日本古典文学全集 10），稲賀敬二，小学館，1972 年；堤中納言物語（新日本古典文学大系），大槻修，岩波書店，1992 年

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 中世日記文学の語法・語彙 ~ 中世成立の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体） 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、平安時代成立の日記文学作品や、中世の他ジャンルの作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：とはずがたり<四>，伊地知鉄男編，笠間書院，1972年；教科書は生協で取り扱う。 / 参考書：とはずがたり（新日本古典文学大系），三角洋一編，岩波書店，1994年；とはずがたり（新潮日本古典集成），福田秀一編，新潮社，1988年；とはずがたり（新編日本古典文学全集），久保田淳編，小学館，1999年；とはずがたり総索引，辻村敏樹編，笠間書院，1992年

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 卒論演習 (1) ~ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。

授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱いかた、参考文献の検索方法。

授業の計画（全体）日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱いかた、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による題目発表を実施する。

成績評価方法（総合）卒業論文に対する取り組みを評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。



開設科目	日本語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 卒論演習(2)~ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。

授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。

授業の計画(全体) 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱い方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による中間発表を実施するとともに、12,000字程度の中間レポートの提出を求める。

成績評価方法(総合) 卒業論文に対する取り組みを評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【古典文学研究の方法論】日本古典文学研究のために必要な基礎知識を講述します。前期は、その方法論編として、トピックに即した主要論文を具体的に紹介しつつ、特に、中世 近世文学研究のための方法論を学びます。

授業の一般目標 古典文学研究のための方法論を理解し、基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 古典文学研究の主要な方法論を理解する。 2. 古典文学研究の基礎知識を習得する。

授業の計画(全体) 「研究史と現在」「作家論と作品論」「ジャンルとスタイル」「成立と伝来」の4つのトピックに沿いながら講述する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakシヨN 内容 授業概要の紹介・評価について
- 第 2 回 項目 研究史と現在 (1) 内容 研究史の出発点・研究史を把握するためのツール集
- 第 3 回 項目 研究史と現在 (2) 内容 『奥の細道』の場合 (1)
- 第 4 回 項目 研究史と現在 (3) 内容 『奥の細道』の場合 (2)
- 第 5 回 項目 作家論と作品論 (1) 内容 作家論の方法と意義 (1)
- 第 6 回 項目 作家論と作品論 (2) 内容 作家論の方法と意義 (2)
- 第 7 回 項目 作家論と作品論 (3) 内容 作品論の方法と意義 (1)
- 第 8 回 項目 作家論と作品論 (4) 内容 作品論の方法と意義 (2)
- 第 9 回 項目 ジャンルとスタイル
- 第 10 回 項目 成立と伝来 (1) 内容 伝本とは何か
- 第 11 回 項目 成立と伝来 (2) 内容 原典復元の方法と意義 (1)
- 第 12 回 項目 成立と伝来 (3) 内容 原典復元の方法と意義 (2)
- 第 13 回 項目 成立と伝来 (4) 内容 異文生成の理由 (1)
- 第 14 回 項目 成立と伝来 (5) 内容 異文生成の理由 (2)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 授業内容に即した論述式期末試験により評価する。ただし、4回の無断欠席で期末試験受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。毎時プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に随時紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【古典文学研究のテクニック】日本古典文学研究のために必要な基礎知識を講述します。後期は、テクニックの習得編として、書誌学とくずし字解読の基本を実践的に学びます。

授業の一般目標 古典文学研究のための基本テクニックを習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 書誌学の基本を理解する。2. さまざまな字母から派生した変体仮名の諸体を理解する。 技能・表現の観点：変体仮名を中心としたくずし字を解読できるようになる。

授業の計画（全体） 「本をかたちづくるもの」「くずし字解読」の2つのトピックに沿って進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業概要の紹介・評価について
- 第 2 回 項目 本をかたちづくるもの (1) 内容 書物の装丁
- 第 3 回 項目 本をかたちづくるもの (2) 内容 書物の大きさ
- 第 4 回 項目 本をかたちづくるもの 内容 版本の歴史と各部
- 第 5 回 項目 くずし字解読 (1) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (1)
- 第 6 回 項目 くずし字解読 (2) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (2)
- 第 7 回 項目 くずし字解読 (3) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (3)
- 第 8 回 項目 くずし字解読 (4) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (4)
- 第 9 回 項目 くずし字解読チェックテスト
- 第 10 回 項目 くずし字解読 (5) 内容 主要漢字編 (1) 敬語・動詞
- 第 11 回 項目 くずし字解読 (6) 内容 主要漢字編 (2) 名詞・その他
- 第 12 回 項目 くずし字解読 (7) 内容 総合演習 (1)
- 第 13 回 項目 くずし字解読 (8) 内容 総合演習 (2)
- 第 14 回 項目 くずし字解読 (9) 内容 総合演習 (3)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 期末試験 (80%) およびくずし字解読チェックテスト (20%) により評価する。ただし、4 回の無断欠席で期末試験受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書：仮名手引, 神戸平安文学会編, 和泉書院, 1981 年 / 参考書：授業中に随時紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学状況について講義する。この時期は、和歌・物語・日記といった異なる文学形態の作品が生み出され、それぞれにおいて個性ある表現世界が展開している。それら平安文学作品の概要と特質について講義する。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 日本文学史において中古と区分される作品群について概要と特質を理解し、その歴史的展開に関する知識を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 日本古典文学作品について概要と特質を説明できる。 2. 日本古典文学作品の歴史的展開について説明できる。

授業の計画（全体） 10世紀前半までの仮名文字による王朝文学の展開について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文学史の問題 内容 「王朝」の語義
- 第 2 回 項目 神話・伝承の世界 内容 古事記・日本書紀・風土記
- 第 3 回 項目 歌謡から歌へ 内容 万葉集
- 第 4 回 項目 仮名ことばの文学 (1) 内容 古今和歌集
- 第 5 回 項目 仮名ことばの文学 (2) 内容 古今和歌集
- 第 6 回 項目 女性仮託の表現 内容 土佐日記
- 第 7 回 項目 物語文学の出現 (1) 内容 竹取物語
- 第 8 回 項目 物語文学の出現 (2) 内容 竹取物語
- 第 9 回 項目 歌物語の展開 (1) 内容 伊勢物語
- 第 10 回 項目 歌物語の展開 (2) 内容 伊勢物語
- 第 11 回 項目 歌物語の展開 (3) 内容 大和物語
- 第 12 回 項目 歌物語の展開 (4) 内容 大和物語
- 第 13 回 項目 女流日記文学の創始 (1) 内容 蜻蛉日記
- 第 14 回 項目 女流日記文学の創始 (2) 内容 蜻蛉日記
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：竹取物語伊勢物語必携，鈴木日出男・編，學燈社，1988年；別冊国文学『王朝女流日記必携』，秋山虔・編，學燈社，1986年；別冊国文学『王朝物語必携』，藤井貞和・編，學燈社，1987年；別冊国文学『古典文学史必携』，久保田淳・編，學燈社，1992年；別冊国文学『古典文学基礎知識必携』，小町谷照彦・編，學燈社，1991年

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学状況について講義する。この時期は、和歌・物語・日記といった異なる文学形態の作品が生み出され、それぞれにおいて個性ある表現世界が展開している。それら平安文学作品の概要と特質について講義する。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 日本文学史において中古と区分される作品群について概要と特質を理解し、その歴史的展開に関する知識を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 日本古典文学作品について概要と特質を説明できる。 2. 日本古典文学作品の歴史的展開について説明できる。

授業の計画（全体） 10世紀後半から11世紀前半までの仮名文字による王朝文学の展開について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 伝奇的な作り物語の展開 (1) 内容 うつほ物語
- 第 2 回 項目 伝奇的な作り物語の展開 (2) 内容 落窪物語
- 第 3 回 項目 文学史の問題 内容 「一条朝」という環境
- 第 4 回 項目 物語文学の達成 (1) 内容 源氏物語
- 第 5 回 項目 物語文学の達成 (2) 内容 源氏物語
- 第 6 回 項目 随筆文学の誕生 (1) 内容 枕草子
- 第 7 回 項目 随筆文学の誕生 (2) 内容 枕草子
- 第 8 回 項目 女流日記文学の展開 (1) 内容 和泉式部日記
- 第 9 回 項目 女流日記文学の展開 (2) 内容 和泉式部日記
- 第 10 回 項目 女流日記文学の展開 (3) 内容 紫式部日記
- 第 11 回 項目 女流日記文学の展開 (4) 内容 紫式部日記
- 第 12 回 項目 女流日記文学の展開 (5) 内容 更級日記
- 第 13 回 項目 歴史物語の登場 (1) 内容 栄花物語
- 第 14 回 項目 歴史物語の登場 (2) 内容 大鏡
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：別冊国文学『王朝女流日記必携』、秋山虔・編、學燈社、1986年；別冊国文学『王朝物語必携』、藤井貞和・編、學燈社、1987年；別冊国文学『古典文学基礎知識必携』、小町谷照彦・編、學燈社、1991年；別冊国文学『古典文学史必携』、久保田淳・編、學燈社、1992年

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 今回私は、講義タイトルを「《最初の夫の死ぬ物語》外伝」と命名し、2001年に上梓した『村上春樹と《最初の夫の死ぬ物語》』のその後を講述したいと思います。以前からこの場で断っていますが、シラバスの入力と実際の講義の間には、タイムラグがあります。昨年は8ヶ月、今年の場合は10ヶ月です。内容的に時事的な問題を取り込む必要がある以上、以下提示する講義内容は、あくまでも予定であることはいうまでもありません。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》とは何か？( 1 )
- 第 3 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》とは何か？( 2 )
- 第 4 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》とは何か？( 3 )
- 第 5 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－韓流篇( 1 )－
- 第 6 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－韓流篇( 2 )－
- 第 7 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－韓流篇( 3 )－
- 第 8 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－華流篇( 1 )－
- 第 9 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－華流篇( 2 )－
- 第 10 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－米国篇( 1 )－
- 第 11 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－米国篇( 2 )－
- 第 12 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－米国篇( 3 )－
- 第 13 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》から《最初の？の死ぬ物語》へ( 1 )
- 第 14 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》から《最初の？の死ぬ物語》へ( 2 )
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配布します。／参考書：適宜、紹介します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』の「桐壺」巻から「花宴」巻にかけて、主要な場面を取り上げ、それらについてどのような研究がなされてきたかを紹介していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「桐壺」巻の分析(1)
- 第 3 回 項目 「桐壺」巻の分析(2)
- 第 4 回 項目 「帚木」巻の分析(1)
- 第 5 回 項目 「帚木」巻の分析(2)
- 第 6 回 項目 「夕顔」巻の分析(1)
- 第 7 回 項目 「夕顔」巻の分析(2)
- 第 8 回 項目 「夕顔」巻の分析(3)
- 第 9 回 項目 「若紫」巻の分析(1)
- 第 10 回 項目 「若紫」巻の分析(2)
- 第 11 回 項目 「若紫」巻の分析(3)
- 第 12 回 項目 「未摘花」巻の分析
- 第 13 回 項目 「紅葉賀」巻の分析
- 第 14 回 項目 「花宴」巻の分析(1)
- 第 15 回 項目 「花宴」巻の分析(2)

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年; 新編日本古典文学全集 源氏物語 全六冊, 阿部秋生ほか, 小学館, 1998 年; 源氏物語 全 10 冊, 玉上琢弥・訳注, 角川文庫ソフィア, 1997 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編集, 勉誠出版, 2005 年; 源氏物語事典, 林田孝和ほか, 大和書房, 2002 年

メッセージ 出席状況 80%未満の者は欠格とする。授業開始後 15 分を過ぎてからの入室は出席として認めない。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要【連歌師の紀行文 宗因『肥後道記』を読む】昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因の紀行文の嚆矢『肥後道記』をとりあげ、その本文を精読する。『肥後道記』は、『土佐日記』『平家物語』『源氏物語』などの古典を豊富に引用している。その古典引用のあり方を子細に検討することを通して、『肥後道記』の主題に迫りたい。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、紀行文、肥後道記、西山宗因

授業の一般目標 1. 連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。2. 近世文学における古典引用の意味を理解する。3. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連歌師 / 俳諧師の文章を精読することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。

授業の計画(全体) (1) 問題提起 『肥後道記』の先行研究とその問題 (2) 『肥後道記』と『土佐日記』 (3) 『肥後道記』と『平家物語』 (4) 『肥後道記』と『源氏物語』 (5) 総括と展望 『肥後道記』の文学性と政治性

成績評価方法(総合) 主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

授業の概要 中世を代表する軍記物語『平家物語』を取り上げて、その文学的特質を解説する。半期という短い期間なので、著名な章段を取り上げて、その読解をもとに『平家物語』の文学的特質を考察していくことにする。また、本文に関係する資料も可能な限り取り上げて、中世の文学研究に必要な基礎資料に関する解説もあわせて行いたい。取り上げる章段は、以下の予定。(祇園精舎、月見、忠度都落、横笛) / 検索キーワード 平家物語 読み本系諸本 語り本系諸本 琵琶法師 平忠度

授業の一般目標 『平家物語』の特質を知ることが第一の目標とする。また、中世文学研究に必要な基礎知識の獲得も第二の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 『平家物語』の特質に関する理解を深める。 『平家物語』研究の現状と課題について理解を深める。 中世文学研究の基礎資料に関する知識を深める。 思考・判断の観点： 『平家物語』の本文を読み解く。 歴史資料を読み解く。 関心・意欲の観点： 『平家物語』に関する興味を深める。 同時代の他の資料への関心を深める。 態度の観点： 注釈の施されていない資料を積極的に読もうとする。 技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。

授業の計画(全体) 資料プリントを使いながら、口頭での解説を中心とした講義形式で授業を進める。ただし、一方通行の授業にならないように、講義中に各自の意見を紙に書いて提出してもらい、次週にそれをもとに授業を進めたりもする。積極的に授業に参加してもらいたい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 講義で使う資料の説明
- 第 3 回 項目 平家物語の成立に関して(一)
- 第 4 回 項目 平家物語の成立に関して(二)
- 第 5 回 項目 平家物語の諸本に関して(一)
- 第 6 回 項目 平家物語の諸本に関して(二)
- 第 7 回 項目 「祇園精舎」の読解
- 第 8 回 項目 「月見」の読解
- 第 9 回 項目 「月見」の問題点
- 第 10 回 項目 「忠度都落」の読解(覚一本)
- 第 11 回 項目 「忠度都落」の読解(延慶本)
- 第 12 回 項目 「忠度都落」の問題点
- 第 13 回 項目 「横笛」の読解
- 第 14 回 項目 「横笛」の問題点
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。

教科書・参考書 教科書：プリントを用いる。 / 参考書：プリントを用いる。

メッセージ 半期という短い期間ですが、『平家物語』の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。お互いに楽しく授業を進めましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等は講義の前後に受け付ける。また、開講時にメールアドレスを伝えるので、メールによる質問も受け付ける。

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は村上春樹の短編集『レキシントンの幽霊』に収められた七つの作品を精読します。

授業の一般目標 本年度の講読は、村上春樹の短編集『レキシントンの幽霊』を精読します。春樹の長篇『ねじまき鳥クロニクル』と相前後して書かれた作品で構成された短編集です。いわゆるデタッチメントからコミットメントへの移行期に書かれた重要な作品集です。その意味を考えながらの熟読玩味を心がけて下さい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家としての村上春樹
- 第 3 回 項目 短編集『レキシントンの幽霊』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『レキシントンの幽霊』精読
- 第 5 回 項目 『緑色の獣』精読
- 第 6 回 項目 『沈黙』精読
- 第 7 回 項目 『氷男』精読
- 第 8 回 項目 『トニー滝谷』精読
- 第 9 回 項目 『七番目の男』精読
- 第 10 回 項目 『めくらやなぎと、眠る女』精読
- 第 11 回 項目 先行研究論文精読
- 第 12 回 項目 先行研究論文精読
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 40 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 40 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：村上春樹『レキシントンの幽霊』(文春文庫) テキストは文栄堂で販売する予定。 / 参考書：追って指示します。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：木曜日午後

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度、後期は三島由紀夫の一連の作品を精読します。衝撃的な死からすでにかなりの時間が経過し、新全集の刊行も終わったのを機に、じっくり読んでみようと思います。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家 三島由紀夫研究
- 第 3 回 項目 『花ざかりの森』精読
- 第 4 回 項目 『詩を書く少年』精読
- 第 5 回 項目 『岬にての物語』精読
- 第 6 回 項目 『真夏の死』精読
- 第 7 回 項目 『憂国』精読
- 第 8 回 項目 『弱法師』精読
- 第 9 回 項目 『春の雪』精読
- 第 10 回 項目 『奔馬』精読
- 第 11 回 項目 『暁の寺』精読
- 第 12 回 項目 『天人五衰』精読
- 第 13 回 項目 映画『春の雪』鑑賞
- 第 14 回 項目 原作小説と映像化作品のあいだに
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合）宿題／授業外レポート＝40％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝40％ 出席＝10％

教科書・参考書 教科書： 短篇の収載が多岐にわたり煩雑ですので、プリント化して配布するか、文庫本で購入していただくか判断に迷っています。追って指示します。／参考書： 追って指示する予定。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『蜻蛉日記』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『蜻蛉日記』上巻を適宜区切り、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・問題点などを載せた資料を作成し、発表することになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 { 1 } ~ { 3 }
- 第 4 回 項目 { 5 } ~ { 10 }
- 第 5 回 項目 { 11 } ~ { 13 }
- 第 6 回 項目 { 16 } ~ { 20 }
- 第 7 回 項目 { 23 } ~ { 29 }
- 第 8 回 項目 { 31 } ~ { 34 }
- 第 9 回 項目 { 38 } ~ { 40 }
- 第 10 回 項目 { 41 } ~ { 42 }
- 第 11 回 項目 { 49 } ~ { 50 }
- 第 12 回 項目 { 51 } ~ { 54 }
- 第 13 回 項目 { 57 } ~ { 60 }
- 第 14 回 項目 { 61 } ~ { 63 }
- 第 15 回 項目 { 65 } ~ { 66 }

成績評価方法(総合) 発表資料・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：蜻蛉日記1(上巻・中巻), 川村裕子, 角川ソファエア文庫, 2003年 / 参考書：新編日本古典文学全集『土佐日記・蜻蛉日記』, 菊地靖彦・木村正中・伊牟田経久, 小学館, 1995年; 新日本古典文学大系『土佐日記・蜻蛉日記・紫式部日記・更級日記』, 今西祐一郎ほか, 岩波書店, 1989年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『和泉式部日記』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『和泉式部日記』を適宜区切り、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・問題点などを載せた資料を作成して発表することになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 「夢よりもはかなき世の中」
- 第 4 回 項目 「はじめてものを思ふあしたは」「あひてもあはで」
- 第 5 回 項目 「まきの戸ぐち」「五月雨のころ」
- 第 6 回 項目 「あかつき起き」
- 第 7 回 項目 「末の松山」
- 第 8 回 項目 「七月のころ」「石山詣で」
- 第 9 回 項目 「霧たる空」「代詠」
- 第 10 回 項目 「手枕の袖」(1)
- 第 11 回 項目 「手枕の袖」(2)「ことの葉ふかく」
- 第 12 回 項目 「山の紅葉」「宿世にまかせて」
- 第 13 回 項目 「うらむらむ心はたゆな」「霜がれのころ」
- 第 14 回 項目 「霜の日雪の日」「この世ならざる契り」
- 第 15 回 項目 「宮邸入り」

成績評価方法(総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：和泉式部日記, 清水文雄, 岩波文庫, 1981 年 / 参考書：新編日本古典文学全集『和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』, 藤岡忠美ほか, 小学館, 1994 年; 新潮日本古典集成『和泉式部日記・和泉式部集』, 野村精一, 新潮社, 1981 年; 王朝女流日記必携, 秋山虔・編, 學燈社, 1989 年; 全講和泉式部日記(改訂版), 円地文子・鈴木一雄, 至文堂, 1985 年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【西鶴『世間胸算用』巻一を読む】元禄五(1692)年刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。前期は、巻一の前半二章「問屋の寛闊女」「長刀はむかしの鞘」を精読したい。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画(全体) 初回と第2回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第3回以降は、「問屋の寛闊女」「長刀はむかしの鞘」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨ ン 内容 発表資料作成の手引き・発表分担決定
- 第 2 回 項目 『世間胸算用』概説
- 第 3 回 項目 発表(1) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(1)
- 第 4 回 項目 発表(2) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(2)
- 第 5 回 項目 発表(3) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(3)
- 第 6 回 項目 発表(4) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(4)
- 第 7 回 項目 発表(5) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(5)
- 第 8 回 項目 発表(6) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(6)
- 第 9 回 項目 発表(7) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(1)
- 第10回 項目 発表(8) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(2)
- 第11回 項目 発表(9) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(3)
- 第12回 項目 発表(10) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(4)
- 第13回 項目 発表(11) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(5)
- 第14回 項目 発表(12) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(6)
- 第15回 項目 発表予備日

成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 世間胸算用, 金井寅之助・松原秀江校注, 新潮日本古典集成 81, 1989年; 世間胸算用, 西島孜哉編, 和泉書院, 1998年; 西鶴影印叢刊『世間胸算用』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。新潮日本古典集成については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書： 授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【西鶴『世間胸算用』巻一を読む】元禄五(1692)年刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。後期は、巻一の後半二章「伊勢海老は春のもみぢ」「芸鼠の文づかひ」を精読したい。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

授業の計画(全体) 初回と第2回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第3回以降は、「伊勢海老は春のもみぢ」「芸鼠の文づかひ」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクシ ョ ン 内容 発表資料作成の手引き・発表分担決定
- 第 2 回 項目 『世間胸算用』概説
- 第 3 回 項目 発表(1) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(1)
- 第 4 回 項目 発表(2) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(2)
- 第 5 回 項目 発表(3) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(3)
- 第 6 回 項目 発表(4) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(4)
- 第 7 回 項目 発表(5) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(5)
- 第 8 回 項目 発表(6) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(6)
- 第 9 回 項目 発表(7) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(1)
- 第10回 項目 発表(8) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(2)
- 第11回 項目 発表(9) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(3)
- 第12回 項目 発表(10) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(4)
- 第13回 項目 発表(11) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(5)
- 第14回 項目 発表(12) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(6)
- 第15回 項目 発表(13)

成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書：世間胸算用, 金井寅之助・松原秀江校注, 新潮日本古典集成 81, 1989年; 世間胸算用, 西島孜哉編, 和泉書院, 1998年; 西鶴影印叢刊『世間胸算用』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。新潮日本古典集成については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書：授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国文研究室・図書館オリエンテーション
- 第 3 回 項目 作家論 夏目漱石 『それから』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『それから』論
- 第 5 回 項目 作家論 堀 辰雄 『風立ちぬ』の成立と背景
- 第 6 回 項目 『風立ちぬ』論
- 第 7 回 項目 作家論 宮沢賢治 『銀河鉄道の夜』の成立と背景
- 第 8 回 項目 『銀河鉄道の夜』論
- 第 9 回 項目 作家論 太宰 治 『斜陽』の成立と背景
- 第 10 回 項目 『斜陽』論
- 第 11 回 項目 作家論 筒井康隆 2 『時をかける少女』の成立と背景
- 第 12 回 項目 『時をかける少女』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：夏目漱石 新潮文庫『それから』、堀辰雄 新潮文庫『風立ちぬ・美しい村』、宮沢賢治 新潮文庫『銀河鉄道の夜』、太宰 治 新潮文庫『斜陽』、筒井康隆 角川文庫『時をかける少女』 / 参考書：適宜、指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。



開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 中也記念館見学(あくまでも予定です。)
- 第 3 回 項目 作家論 芥川龍之介 『地獄変』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『地獄変』論
- 第 5 回 項目 作家論 川端康成 『伊豆の踊子』の成立と背景
- 第 6 回 項目 『伊豆の踊子』論
- 第 7 回 項目 作家論 谷崎潤一郎 『少将滋幹の母』の成立と背景
- 第 8 回 項目 『少将滋幹の母』論
- 第 9 回 項目 作家論 遠藤周作 『沈黙』の成立と背景
- 第 10 回 項目 『沈黙』論
- 第 11 回 項目 作家論 吉行淳之介 『夕暮まで』の成立と背景
- 第 12 回 項目 『夕暮まで』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書: 芥川龍之介 集英社文庫 『地獄変』、川端康成 新潮文庫 『伊豆の踊子』 谷崎潤一郎 新潮文庫 『少将滋幹の母』、遠藤周作 新潮文庫 『沈黙』 吉行淳之介 新潮文庫 『夕暮まで』 / 参考書: 適宜指示します。

メッセージ 読書会でとりあげるについては、受講生と相談の上、取り上げる作品を決定します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 追って指示します。

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を実施します。

授業の一般目標 ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を指導します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 秋山美紗子 村上春樹『未定』
- 第3回 項目 飯国美希 森茉莉『恋人たちの森』
- 第4回 項目 川良一仁『未定』
- 第5回 項目 篠原葉子『未定』
- 第6回 項目 島田美保 森絵都『未定』
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 武田恵里子 樋口一葉『たけくらべ』
- 第9回 項目 中原 卓 宮本 輝『未定』
- 第10回 項目 前田彩子『未定』
- 第11回 項目 宮地貴教『未定』
- 第12回 項目 山田祐未 宮本 輝『未定』
- 第13回 項目 個別指導
- 第14回 項目 個別指導
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 100%

教科書・参考書 教科書: 統一した教科書などは使用しません。/ 参考書: 個別指導します。

メッセージ 卒論のテーマは題目提出(6月末)までは変更可能です。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー:  
追って指示します。

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を実施します。

授業の一般目標 ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を指導します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 秋山美紗子 村上春樹『未定』
- 第3回 項目 飯国美希 森茉莉『恋人たちの森』
- 第4回 項目 川良一仁『未定』
- 第5回 項目 篠原葉子『未定』
- 第6回 項目 島田美保 森絵都『未定』
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 武田恵里子 樋口一葉『たけくらべ』
- 第9回 項目 中原 卓 宮本 輝『未定』
- 第10回 項目 前田彩子『未定』
- 第11回 項目 宮地貴教『未定』
- 第12回 項目 山田祐未 宮本 輝『未定』
- 第13回 項目 個別指導
- 第14回 項目 個別指導
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 100%

教科書・参考書 教科書: 統一した教科書などは使用しません。/ 参考書: 個別指導します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 追って指示します。

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『源氏物語』の研究 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載した資料を作成し、発表に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの発表 (1)
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表 (2)
- 第 4 回 項目 用例調査の結果報告 (1)
- 第 5 回 項目 用例調査の結果報告 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 8 回 項目 研究発表 (1)
- 第 9 回 項目 研究発表 (2)
- 第 10 回 項目 研究発表 (3)
- 第 11 回 項目 研究発表 (4)
- 第 12 回 項目 研究発表 (5)
- 第 13 回 項目 研究発表 (6)
- 第 14 回 項目 研究発表 (7)
- 第 15 回 項目 研究発表 (8)

成績評価方法 (総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999 年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全 5 冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993 年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005 年; 源氏物語評釈 全 14 冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969 年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第 1 回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『源氏物語』の研究。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載した資料を作成し、発表に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの発表(1)
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表(2)
- 第 4 回 項目 用例調査の結果報告(1)
- 第 5 回 項目 用例調査の結果報告(2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集(1)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の収集(2)
- 第 8 回 項目 研究発表(1)
- 第 9 回 項目 研究発表(2)
- 第 10 回 項目 研究発表(3)
- 第 11 回 項目 研究発表(4)
- 第 12 回 項目 研究発表(5)
- 第 13 回 項目 研究発表(6)
- 第 14 回 項目 研究発表(7)
- 第 15 回 項目 研究発表(8)

成績評価方法(総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全6冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全43冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全5冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005年; 源氏物語評釈 全14冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第1回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学を研究対象としている4年生のための演習。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中古文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：中古文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 研究課題に関する先行研究の状況を調査し、研究史として構築する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 文献案内(1)
- 第3回 項目 文献案内(2)
- 第4回 項目 研究課題の確定
- 第5回 項目 問題提起(1)
- 第6回 項目 問題提起(2)
- 第7回 項目 問題提起(3)
- 第8回 項目 先行論文の蒐集(1)
- 第9回 項目 先行論文の蒐集(2)
- 第10回 項目 先行論文の蒐集(3)
- 第11回 項目 先行研究の状況について(1)
- 第12回 項目 先行研究の状況について(2)
- 第13回 項目 先行研究の状況について(3)
- 第14回 項目 問題提起の再検討(1)
- 第15回 項目 問題提起の再検討(2)

成績評価方法(総合) 資料の完成度、発表内容による。

教科書・参考書 教科書：各自に指示する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー morino@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 5・6時限

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 中古文学を研究対象としている4年生のための演習。 / 検索キーワード 中古文学

授業の一般目標 中古文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中古文学を研究するための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：中古文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に中古文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：中古文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 研究課題の進行状況を資料化し、発表していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス
- 第2回 項目 資料の検討(1)
- 第3回 項目 資料の検討(2)
- 第4回 項目 資料の検討(3)
- 第5回 項目 レジュメの作成(1)
- 第6回 項目 レジュメの作成(2)
- 第7回 項目 レジュメの作成(3)
- 第8回 項目 個別発表(1)
- 第9回 項目 個別発表(2)
- 第10回 項目 個別発表(3)
- 第11回 項目 論文要旨の発表(1)
- 第12回 項目 論文要旨の発表(2)
- 第13回 項目 論文要旨の発表(3)
- 第14回 項目 質疑応答
- 第15回 項目 総括

成績評価方法(総合) 資料の完成度と発表内容による。

教科書・参考書 教科書：各自に指示する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 水曜日5・6時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【『大坂独吟集』素玄独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、上巻所収の素玄独吟「松にばかり」百韻の前半二折表（にのおりおもて）までをとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。 / 検索キーワード 『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸 = 俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。2. 意欲的に実作に参加し連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回	項目	イントロダクション・概説（1）	内容	『大坂独吟集』概説・発表分担決定
第 2 回	項目	概説（2）	内容	連句のルール（1）
第 3 回	項目	概説（3）	内容	連句のルール（2） 発表資料作成の手引き
第 4 回	項目	発表（1）	内容	「松にばかり」の巻初折表 1 3 句註釈
第 5 回	項目	発表（2）	内容	「松にばかり」の巻初折表 4 6 句註釈
第 6 回	項目	発表（3）	内容	「松にばかり」の巻初折表 7 裏 1 句註釈
第 7 回	項目	発表（4）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 2 4 句註釈
第 8 回	項目	発表（5）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 5 7 句註釈
第 9 回	項目	発表（6）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 8 10 句註釈
第 10 回	項目	発表（7）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 11 13 句註釈
第 11 回	項目	発表（8）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 14 二折表 2 句註釈
第 12 回	項目	発表（9）	内容	「松にばかり」の巻二折表 3 5 句註釈
第 13 回	項目	発表（10）	内容	「松にばかり」の巻二折表 6 8 句註釈
第 14 回	項目	発表（11）	内容	「松にばかり」の巻二折表 9 11 句註釈
第 15 回	項目	発表（12）	内容	「松にばかり」の巻二折表 12 14 句註釈

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。 / 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石梯三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。



メッセージ 連歌や俳諧の文化は、意外なところでわたしたちの生活に深く根づいています。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、たくさんの再発見があることでしょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【『大坂独吟集』素玄独吟百韻註釈】延宝三(1675)年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻10巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、上巻所収の素玄独吟「松にばかり」百韻の二折裏(にのおりうら)以降をとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。/ 検索キーワード 『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸 = 俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。2. 意欲的に実作に参加し連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画(全体) 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イン트로ダクション・概説(1) 内容 『大坂独吟集』概説・発表分担決定
- 第2回 項目 概説(2) 内容 連句のルール(1)
- 第3回 項目 概説(3) 内容 連句のルール(2) 発表資料作成の手引き
- 第4回 項目 発表(1) 内容 「松にばかり」の巻二折裏1 3句註釈
- 第5回 項目 発表(2) 内容 「松にばかり」の巻二折裏4 6句註釈
- 第6回 項目 発表(3) 内容 「松にばかり」の巻二折裏7 9句註釈
- 第7回 項目 発表(4) 内容 「松にばかり」の巻二折裏10 12句註釈
- 第8回 項目 発表(5) 内容 「松にばかり」の巻二折裏13 三折表1句註釈
- 第9回 項目 発表(6) 内容 「松にばかり」の巻三折表2 4句註釈
- 第10回 項目 発表(7) 内容 「松にばかり」の巻三折表5 7句註釈
- 第11回 項目 発表(8) 内容 「松にばかり」の巻三折表8 10句註釈
- 第12回 項目 発表(9) 内容 「松にばかり」の巻三折表11 13句註釈
- 第13回 項目 発表(10) 内容 「松にばかり」の巻三折表14 裏2句註釈
- 第14回 項目 発表(11) 内容 「松にばかり」の巻三折裏3 5句註釈
- 第15回 項目 発表(12) 内容 「松にばかり」の巻三折裏6 8句註釈

成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976年; 当該箇所をプリント配布する。/ 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991年; 新版連句への招待, 乾裕幸・白石梯三, 和泉書院, 1989年; 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

メッセージ 連歌や俳諧の文化は、意外なところでわたしたちの生活に深く根づいています。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、たくさんの再発見があることでしょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。

授業の一般目標 卒業論文執筆のための具体的方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 選定した作家や作品について適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。 3. 設定した論文テーマについて適切に説明することができる。 態度の観点： 1. 論文作成に向けたスケジュールを自ら設定し管理することができる。

授業の計画（全体） 全体を４ステップに分け、提出レポートに基づいた個別面談で行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 1. 卒業論文に向けた心構え 2. 卒業論文提出までのスケジュール確認 3. 各ステップの概要 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目 ステップ (1)-1 内容 レポート (1) 「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (1)
- 第 3 回 項目 ステップ (1)-2 内容 レポート (1) 「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (1)
- 第 4 回 項目 ステップ (1)-3 内容 レポート (1) 「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (1)
- 第 5 回 項目 ステップ (2)-1 内容 レポート (2) 「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (2)
- 第 6 回 項目 ステップ (2)-2 内容 レポート (2) 「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (2)
- 第 7 回 項目 ステップ (2)-3 内容 レポート (2) 「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (2)
- 第 8 回 項目 ステップ (3)-1 内容 レポート (2) 「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (3)
- 第 9 回 項目 ステップ (3)-2 内容 レポート (2) 「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (3)
- 第 10 回 項目 ステップ (3)-3 内容 レポート (3) 「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート (3)
- 第 11 回 項目 ステップ (4)-1 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談 授業外指示 レポート (4)
- 第 12 回 項目 ステップ (4)-2 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談 授業外指示 レポート (4)
- 第 13 回 項目 ステップ (4)-3 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談 授業外指示 レポート (4)
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 主にレポート (1)(2)(3)(4) の内容により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 授業（個別面談）時に個別に指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 卒業論文完成に向け、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。

授業の一般目標 卒業論文の完成を目指す。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：1. 論文テーマについて多角的に考察を進めることができる。2. 論文の構成を自ら設定することができる。 関心・意欲の観点：1. 論文テーマについて適切に説明することができる。2. 論文の構成について適切に説明することができる。 態度の観点：1. 論文テーマについて異見を受容することができる。2. 論文の構成について異見を受容することができる。

授業の計画(全体) 全体を4ステップに分け、ステップ(5)では個別の経過報告、ステップ(6)では各自20分程度の中間発表、ステップ(7)では論文構成についての個別面談、ステップ(8)では論文草稿に基づいた個別面談を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- |      |    |           |    |              |       |               |
|------|----|-----------|----|--------------|-------|---------------|
| 第1回  | 項目 | ステップ(5)-1 | 内容 | 中間発表に向けた個別面談 | 授業外指示 | 夏季休業中の作業経過まとめ |
| 第2回  | 項目 | ステップ(5)-2 | 内容 | 中間発表に向けた個別面談 | 授業外指示 | 夏季休業中の作業経過まとめ |
| 第3回  | 項目 | ステップ(5)-3 | 内容 | 中間発表に向けた個別面談 | 授業外指示 | 夏季休業中の作業経過まとめ |
| 第4回  | 項目 | ステップ(6)   | 内容 | 中間発表会        | 授業外指示 | 口頭発表の準備       |
| 第5回  | 項目 | ステップ(7)-1 | 内容 | 論文構成に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文構成試案        |
| 第6回  | 項目 | ステップ(7)-2 | 内容 | 論文構成に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文構成試案        |
| 第7回  | 項目 | ステップ(7)-3 | 内容 | 論文構成に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文構成試案        |
| 第8回  | 項目 | ステップ(8)-1 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第9回  | 項目 | ステップ(8)-2 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第10回 | 項目 | ステップ(8)-3 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第11回 | 項目 | ステップ(8)-4 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第12回 | 項目 | ステップ(8)-5 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第13回 | 項目 | ステップ(8)-6 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第14回 | 項目 | ステップ(8)-7 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |
| 第15回 | 項目 | ステップ(8)-8 | 内容 | 論文草稿に基づく個別面談 | 授業外指示 | 論文草稿          |

成績評価方法(総合) 主に中間発表と論文草稿により評価する。試験は行わない。

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：授業(個別面談)時に個別に指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室=人文508 / 電話=933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化学科 中国語文化論コース

開設科目	中国語学概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 中国語学に関して最低限踏まえておくべきことがらを講義します。中国語学の分野で卒論を書くことを考えている学生は、できれば二年生のうちに必ず受講してください。中国文学、言語学などに関心を寄せる広範な学生の受講も歓迎します。

授業の一般目標 (1) 言語学の考え方を認識し、言語生活を言語学的に反省する態度と手法を身に付ける。(2) 中国語を外国語として見る態度を確立する。(3) 現代中国の言語状況を知る。(4) 現代中国語の背後にある歴史のあらましを知る。(5) 調音音声学の初歩を学び、これを現代中国語の音声の理解に応用することができる。(6) 中国の文字の歴史と構造を知り、文字と言語の関係について正しく理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中国が他民族多言語の国であることを理解している。(2) 中国語の歴史区分と方言区分について簡単に説明できる。(3) 国際音声字母で表記された現代中国語の音声を自分の口で再現できる。(4) 中国語の音節構造について簡単に説明できる。(5) 漢字の歴史段階、書体、字書史について簡単に説明できる。(6) 中国の文字規範化の歴史と現状について簡単に説明できる。思考・判断の観点：(1) 中国語を言語学的に分析する基本的姿勢を認識し、発音と文字については運用もできる。(2) 言語と文字の違いがわかる。(3) 中国語を母語たる日本語と比べ、似たところと違うところについて指摘することができる。関心・意欲の観点：(1) 授業で習ったことを自らの学習上の問題と結びつけることができる。(2) 教科書や、それに対する教員のコメントを検証し、批判することができる。態度の観点：2/3 以上出席する。

授業の計画(全体) 教科書の「序」から第3章までを講読する。受講者は毎回、授業の内容と関連した小レポートを提出し、学期末には授業の内容と関連したレポートを提出する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序 内容 中国語を言語学的に扱うということ
- 第 2 回 項目 第 1 章 中国と中国語(1) 1.1 内容 多言語国家・中国
- 第 3 回 項目 第 1 章 中国と中国語(2) 1.2, 1.3 内容 中国語の歴史区分と地理区分
- 第 4 回 項目 第 1 章 中国と中国語(3) 1.4 内容 日本語と中国語
- 第 5 回 項目 第 2 章 中国語の音声(1) 2.1~2.4 内容 音声学の基礎(1)
- 第 6 回 項目 第 2 章 中国語の音声(2) 2.1~2.4 内容 音声学の基礎(2)
- 第 7 回 項目 第 2 章 中国語の音声(3) 2.5, 2.6, 2.9, 2.10 内容 日中母音比較
- 第 8 回 項目 第 2 章 中国語の音声(4) 2.5, 2.7 内容 日中子音比較
- 第 9 回 項目 第 2 章 中国語の音声(5) 2.8, 2.11~2.14 内容 声調・音節・四呼
- 第 10 回 項目 第 2 章 中国語の音声(6) 2.15 内容 変調・軽声・児化
- 第 11 回 項目 第 3 章 中国語の文字(1) 3.1, 3.2 内容 漢字の起源と変遷
- 第 12 回 項目 第 3 章 中国語の文字(2) 3.3 内容 漢字の仕組み、字書
- 第 13 回 項目 第 3 章 中国語の文字(3) 3.4 内容 文字改革、現代における漢字の生態
- 第 14 回 項目 第 3 章 中国語の文字(4) 3.4 内容 第 13 週の続き；総まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 毎回の小レポート(20%)と学期末レポート(80%)とによって評価をする。出席が授業回数の2/3に満たない者は、たとえレポートを提出しても成績評価の対象とはしない(単位を与えない)。ただし出席そのものは成績評価の対象ではないので、全部の回に出席してもレポートの評価いかににより単位を与えない場合がある。

教科書・参考書 教科書：中国語学概論，王占華、一木達彦、苞山武義，駿河台出版社，2004年 / 参考書：教科書各章の「参考文献」の他、授業中に示すもの。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00



開設科目	中国語学概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 中国語学に関して最低限踏まえておくべきことがらを講義します。中国語学の分野で卒論を書くことを考えている学生は、できれば二年生のうちに必ず受講してください。中国文学、言語学などに関心を寄せる広範な学生の受講も歓迎します。

授業の一般目標 (1) 言語学の考え方を認識し、言語生活を言語学的に反省する態度と手法を身に付ける。(2) 中国語を外国語として見る態度を確立する。(3) 中国語の文法・語彙・表現の特質について初歩的な知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中国語の語彙と文法の研究方法の基本的手法について理解する。(2) 中国語の品詞分類、文法関係の分類、文の分類について簡単に説明できる。(3) 中国語の語彙の特色について、例を挙げながら簡単に説明できる。(4) 日本語と比べての中国語の特徴を、文法・語彙・表現の点において理解する。 思考・判断の観点：中国語の語彙と文法の特徴について、なぜそうであるのかを、文字と発音の特徴とも関連付けて考えることができる。 関心・意欲の観点：(1) 授業で習ったことを自らの学習上の問題と結びつけることができる。(2) 教科書や、それに対する教員のコメントを検証し、批判することができる。 態度の観点：2/3 以上出席する。

授業の計画(全体) 教科書の第4章から第6章までを講読する。受講者は毎回、授業の内容と関連した小レポートを提出し、学期末には授業の内容と関連したレポートを提出する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 4 章 中国語の文法(1)
- 第 2 回 項目 第 4 章 中国語の文法(2)
- 第 3 回 項目 第 4 章 中国語の文法(3)
- 第 4 回 項目 第 4 章 中国語の文法(4)
- 第 5 回 項目 第 4 章 中国語の文法(5)
- 第 6 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(1)
- 第 7 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(2)
- 第 8 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(3)
- 第 9 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(4)
- 第 10 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(5)
- 第 11 回 項目 復習
- 第 12 回 項目 第 6 章 中国語の表現(1)
- 第 13 回 項目 第 6 章 中国語の表現(2)
- 第 14 回 項目 第 6 章 中国語の表現(3)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 毎回の小レポート(20%)と学期末レポート(80%)とによって評価をする。出席が授業回数の2/3に満たない者は、たとえレポートを提出しても成績評価の対象とはしない(単位を与えない)。ただし出席そのものは成績評価の対象ではないので、全部の回に出席してもレポートの評価いかんにより単位を与えない場合がありうる。

教科書・参考書 教科書：中国語学概論, 王占華、一木達彦、苞山武義, 駿河台出版社, 2004年 / 参考書：参考書備考：教科書各章の「参考文献」の他、授業中に示すもの。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語の音韻学に関する知識を、わかりやすく解説する。直音・反切など中国の伝統的な表音法、古代の韻書や韻図を見て字音を求める方法などを、実際に作業をしながら学んでいく。 / 検索キーワード 中国語 音韻

授業の一般目標 中国語の音韻学に関する基礎知識を学び、漢字の発音について一層深い理解ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国の伝統的な発音表示法を知る。中国語の音韻に関する基本的術語が理解できる。韻書や韻図などの仕組みが理解できる。思考・判断の観点：中国の伝統的な方法で表示された字音がわかる。韻書等で字を引くことができる。関心・意欲の観点：漢字の発音や中国語音韻学について関心を持ち、調査・考察することができる。

授業の計画（全体）中国語の音韻学に関する基礎知識を、簡単な序説から始めて順々に解説していく。理解を深めるために、反切の実例から表示された音を求めたり、韻書や韻図で字を調べたりなど、授業中に適宜作業を織り交ぜていくつもりである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序説（1）内容 中国の目録学について
- 第 2 回 項目 序説（2）内容 「小学」について
- 第 3 回 項目 中国の伝統的表音法（1）内容 漢字について
- 第 4 回 項目 中国の伝統的表音法（2）内容 中国語の音節構造と表音法
- 第 5 回 項目 中国の伝統的表音法（3）内容 反切以前の表音法
- 第 6 回 項目 中国の伝統的表音法（4）内容 反切の読み方
- 第 7 回 項目 韻書（1）内容 韻書の始まり
- 第 8 回 項目 韻書（2）内容 韻書を引く
- 第 9 回 項目 韻書（3）内容 漢詩の押韻について
- 第 10 回 項目 等韻（1）内容 等韻学の始まり
- 第 11 回 項目 等韻（2）内容 韻図のしくみ
- 第 12 回 項目 等韻（3）内容 韻図のしくみ
- 第 13 回 項目 発音を調べる（1）内容 漢字の中古音を調べる
- 第 14 回 項目 発音を調べる（2）内容 漢字の中古音を調べる
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合）期末に課すレポートの成績を主とし、授業への参加度も加味して評価する。全体の3分の1以上欠席した者は成績評価の対象としない。

教科書・参考書 教科書：授業中にプリントを配布する。 / 参考書：音韻のはなし、李思敬、光生館、1987年；中国文化叢書1言語、牛島徳次ほか、大修館書店、1967年；辞書の発明、大島正二、三省堂、1997年；中国語語音史、佐藤昭、白帝社、2002年；中国語で書かれた参考文献については、『中国語学習ハンドブック』等を参照のこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 同じ担当者による前期開設の「中国語学特殊講義」の内容に引き続き、中国語音韻学の基本知識を講義する。本講義では、漢詩(近体詩)の韻律(平仄のきまり)からはじめて、『中原音韻』など、中国語の近世音を反映する韻書について、宋代頃から特に盛んになった上古音(『詩経』の頃の音韻)の研究についての概略を述べる。 / 検索キーワード 中国語 音韻

授業の一般目標 中国語音韻学に関して基礎的知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 唐代以降の中国語音韻学史についてその概略を知っている。 関心・意欲の観点： 中国語の音韻やその研究史について関心を持ち、自主的な学習・考察ができる。

授業の計画(全体) 前期の授業に引き続き、中国語の音韻学について、その時代・研究資料等に関する基礎的な知識を順次紹介していく。まず、近体詩の平仄の説明から初めて、近世音を反映する韻書についてや、『詩経』の押韻や形声文字の構造についての基本的知識を持ってもらい、合わせて、漢字の近世音や上古音を調べることでできる辞典などを紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序説 内容 前期のまとめ
- 第 2 回 項目 平仄(1) 内容 漢詩の平仄について
- 第 3 回 項目 平仄(2) 内容 漢字の平仄を調べる
- 第 4 回 項目 近世音(1) 内容 『中原音韻』について
- 第 5 回 項目 近世音(2) 内容 『中原音韻』の音系
- 第 6 回 項目 近世音(3) 内容 『中原音韻』の声調
- 第 7 回 項目 近世音(4) 内容 『中原音韻』以後の音韻変化について
- 第 8 回 項目 復習とまとめ
- 第 9 回 項目 上古音(1) 内容 『詩経』の押韻について
- 第 10 回 項目 上古音(2) 内容 形声文字について
- 第 11 回 項目 上古音(3) 内容 古音学の始まり
- 第 12 回 項目 上古音(4) 内容 清代の古音学
- 第 13 回 項目 上古音(5) 内容 漢字の上古音の調べ方
- 第 14 回 項目 復習とまとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 学期末のレポートを主とし、授業への参加度を加味して評価する。欠席が全体の3分の1を越える者は成績評価の対象としない。

教科書・参考書 教科書： 授業中にプリントを配布する。 / 参考書： 音韻のはなし, 李思敬, 光生館, 1987年; 説文入門, 頼惟勤・説文会, 大修館書店, 1983年; 中国語音韻論, 藤堂明保, 光生館, 1980年

メッセージ 前期の同教員による同名の授業と内容的には一貫しています。前期の進行状況によって、内容が部分的に変更する可能性があります。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	竹越 孝				

授業の概要 標準語という概念がなく、ピンインや声調符号もなかった時代に、外国人はどうやって中国語会話を学んだのだろうか。この授業では、中国の元・明・清時代に相当する時期に、李氏朝鮮王朝(1392-1910)で編纂・刊行された中国語会話教科書類を素材として、当時外交・貿易上の必要性から中国語を学んだ外国人はどのようにして話し言葉としての中国語を習得したか、そしてまた彼らが学んだ中国語とはどのようなものであったか、という問題を論じる。

授業の一般目標 朝鮮半島における中国語教育史を概観することを通じて、東アジアの諸民族が中国語をどのように捉え、どのように学んできたかが理解できる。また、そこに反映した近世中国語の諸特徴とその通時的変化について考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1) 現代中国語の前段階としての「近世中国語」という概念を理解することができる。 2) 朝鮮半島において中国語会話教科書が必要とされる歴史的背景について理解することができる。 3) 李氏朝鮮王朝期における中国語会話教科書類の構成としくみについて理解することができる。 思考・判断の観点： 1) 中国語会話教科書類の改訂状況から近世中国語の音韻的・文法的变化について考察することができる。 2) 中国語会話教科書類に反映された近世中国語の諸特徴について考察することができる。 3) 広く塞外文献が近世中国語研究において持つ意義を実感することができる。

授業の計画(全体) 朝鮮半島における中国語教育史とその近世中国語史上における意義を概観することを目的として、以下のようなトピックを取り上げる。なお、必要に応じてハングルの転写練習を行うが、朝鮮語に関する予備知識は必要としない。 1. はじめに 現代中国語ができるまで 2. かつて中国語を学んだ人々 3. 朝鮮半島と中国大陸 4. 司訳院の中国語会話教科書 5. 『老乞大』と『朴通事』 6. ハングルによる中国語音表記法 7. 改訂に反映した音韻の変化 8. 改訂に反映した文法の変化 9. 朝鮮資料の中の中国語 10. おわりに 外国人の学んだ中国語

成績評価方法(総合) 平常点及びレポートによる。授業への出席を 50%、授業において指示したレポートを 50%として評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。教材はプリントを配布する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

備考 集中授業

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。 / 検索キーワード 中国語 漢語 方言

授業の一般目標 (1) 中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。 技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。

授業の計画(全体) この授業は、受講者が共同して、テキストの日本語訳を完成させることを目指す。授業では、その回の発表担当者を事前に決める。発表担当者は、発表日までの間に、テキストの担当部分を日本語に訳しておく。授業において、担当者は自分の作ってきた訳をプリントして授業参加者に配り、担当部分を一文ずつ中国語で音読したあと、該当箇所の日本語訳について説明していく。発表担当者以外の受講者は発表について質問し、あるいは意見を述べ、あるいはより良い日本語訳を提案する。授業が終わった後、発表者は授業の場に出た意見や提案を反映して訳を訂正してこれをレポートとし、教員に提出する(これが成績評価の主な対象となる)。

成績評価方法(総合) レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。 / 検索キーワード 漢語 方言 普通話

授業の一般目標 (1) 中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。  
2. 中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。 技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。

授業の計画(全体) この授業は、受講者が共同して、テキストの日本語訳を完成させることを目指す。授業では、その回の発表担当者を事前に決める。発表担当者は、発表日までの間に、テキストの担当部分を日本語に訳しておく。授業において、担当者は自分の作ってきた訳をプリントして授業参加者に配り、担当部分を一文ずつ中国語で音読したあと、該当箇所の日本語訳について説明していく。発表担当者以外の受講者は発表について質問し、あるいは意見を述べ、あるいはより良い日本語訳を提案する。授業が終わった後、発表者は授業の場に出た意見や提案を反映して訳を訂正してこれをレポートとし、教員に提出する(これが成績評価の主な対象となる)。

成績評価方法(総合) レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。日本人が中級程度の中国語の読解と文法を学ぶために編集された教科書、或いは中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国語で書かれた教科書を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。 / 検索キーワード 中国語 文法

授業の一般目標 中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。 関心・意欲の観点：中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 中国語文法の特徴や特色ある表現について述べた教科書を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国語文法について学ぶ。受講者には、毎回の学習部分の音読・翻訳・練習問題への解答等を課す。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：初回の授業で受講者と相談の上、教科書を決定します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 前期の授業に引き続き、中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。中級の閲読用テキスト或いは中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国で編集された教科書を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。 / 検索キーワード 中国語 文法

授業の一般目標 中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。 関心・意欲の観点：中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 中国語文法の特徴や特色ある表現について述べた現代中国の学者の著作を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国語文法について学ぶ。受講者には、毎回の講読部分の音読・翻訳・練習問題への解答等を課す。講読文献は、前期の授業に引き続いた内容とする。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：初回授業で、使用テキストを決定します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00



開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 受講者は、各自、中国語学に関する研究テーマを1つ選び、調査研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。 / 検索キーワード 中国語学 研究発表

授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。 思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。 関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・考察を行う姿勢が身に付いている。 態度の観点：1.常に少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・考察を進める。2.他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。 技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

授業の計画(全体) 第1回目の授業で、おのおのの研究テーマを持ち寄り、研究発表の順番を決める。第2回までにテーマを確定し、順次研究発表・討論を行う。学期末に総まとめのレポートを課す。

成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と学期末のレポートにより評価する。また、授業への参加度として、他の受講者の研究発表に対して行った発言、毎回の研究進捗報告を評価に加える。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 受講者は、各自、前学期に選んだ研究テーマについて、引き続き調査・研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。/ 検索キーワード 中国語学 研究発表

授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、学習・調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。 思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。 関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・研究を行う姿勢が身に付いている。 態度の観点：1. 常時少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・研究を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。 技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

授業の計画(全体) 第1回目は、各自の研究についてこれまでの進捗を確認し、第2回より、順次、研究発表と討論を進める。

成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と、他の受講者の発表に対する発言、及び毎回の研究進捗報告により評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。

授業の一般目標 卒論執筆に向けて、テーマを選び、先行研究文献の検索・収集・消化を行う。その過程で、問題を見つけ、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。思考・判断の観点：1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。関心・意欲の観点：1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。態度の観点：1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。技能・表現の観点：1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。

授業の計画(全体) (1) 中国語学の領域において研究テーマを決定する。(2) テーマの研究資料を決定する。(3) 研究の進捗状況について発表資料(レジюме)を作成し、発表と討論を行う。(4) 期末に、テーマと関連したレポートを提出する。

成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジюмеと口頭発表 (2) 討論への参加態度 (3) 学期末レポート による。

メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。

授業の一般目標 前期に決定したテーマに沿って、引き続き先行研究文献の検索・収集・消化を行うとともに、研究資料を分析し、検討する。その過程で得られた成果につき、他の受講者や担当教員を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。思考・判断の観点：1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。関心・意欲の観点：1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。態度の観点：1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。技能・表現の観点：1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況について発表資料(レジュメ)を作成し、発表と討論を行う。

成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表 (2) 討論への参加態度による。

メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 中国古代から清朝まで( 民国以前 )の文学について概観する。 中国文学は「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画( 全体 ) 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。

成績評価方法( 総合 ) 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

開設科目	中国文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 「中国文学史 I」に引き続き，中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して，基本的知識を得，個々の作品の読解を通じて，中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら，宋詞，近世の演劇・小説，元・明・清の文学等について言及する予定。

成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論，岩城秀夫，朋友書店

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。/ 検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 包拯の伝記 内容 宋史を読む。
- 第 2 回 項目 南宋時代の包拯 伝説 内容 新編醉翁談録を読む。
- 第 3 回 項目 元時代の包拯伝説 内容 元曲選を読む。
- 第 4 回 項目 明時代の包拯伝説 (1) 内容 説唱詞話を読む。
- 第 5 回 項目 明時代の包拯伝説 (2) 内容 百家公案を読む。
- 第 6 回 項目 明時代の包拯伝説 (3) 内容 龍図公案を読む。
- 第 7 回 項目 清時代の包拯伝説 (1) 内容 石派書を読む。
- 第 8 回 項目 清時代の包拯伝説 (2) 内容 龍図耳録を読む。
- 第 9 回 項目 現代の包拯伝説 (1) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 10 回 項目 現代の包拯伝説 (2) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 11 回 項目 包拯の経典 内容 包公明聖經を読む。
- 第 12 回 項目 包拯の祠廟 内容 広東・陳州の包公廟を紹介する。
- 第 13 回 項目 包拯の祠廟 内容 浙江の包公廟を紹介する。
- 第 14 回 項目 包拯の祠廟 内容 湖南・江西の包公廟を紹介する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 包拯伝説の伝播についてまとめる。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開，阿部泰記著，汲古書院，2004 年；中国の公案小説，莊司格一著，研文出版，1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）



開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野澤 俊敬				

**授業の概要** 21 世紀に入って国境を越えた人的交流がさらに増大しつつある今日、それにもなつて異文化摩擦も日常的に起こっている。その異文化摩擦を引き起こしている原因のひとつが、外国人＝異文化を持つ他者に対するステレオタイプの決めつけである。近年、特に中国との人的交流が急速に拡大しているが、中国においても、日本においても、相手についてのステレオタイプの理解に起因するトラブルが後を絶たない。隣国の中国の人々の目に日本人はどのように映っているのだろうか。また、我々日本人は中国人についてどのようなイメージを抱いているのであろうか。昨年 4 月に中国各地で起こった「反日デモ」や日本における「反中」観や「嫌中」感の増大の背景としては、そうした相手に対する偏った見方が双方に広まりつつあるということが考えられる。この講義では、1930 年代から今日に至るまでの中国映画と日本映画の中から、日本人が登場する中国映画と中国人が登場する日本映画を時代順に並行して取り上げ、それぞれの日本人像と中国人像の典型的な描かれ方を紹介する。そこにステレオタイプの描写が認められる場合は、当時の歴史背景、政治情勢、社会状況、教育内容などについて様々な角度から分析し、そのステレオタイプが形成された原因を追究する。そして、そのステレオタイプの理解が現在にまで影響を及ぼしている場合は、それを是正する方策を探り、21 世紀における日本と中国の望ましい共生のあり方を展望してみたい。/ 検索キーワード 映画、異文化理解、ステレオタイプ、日中関係

**授業の一般目標** (1) 隣国である日本と中国の間で、相手の国民・民族に対するイメージがどのようなかを知り、そこに偏見や誤解が認められる場合に、その原因を時代背景や社会状況などから考える。(2) 日本人として、同時代を生きる中国人といかなる関係を築いてゆくかについて、自分自身の問題として考える。(3) グローバル時代における異文化理解の重要性を考える。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点： 1 . 中国映画に描かれた日本人像と日本映画に描かれた中国人像を通して、時代背景と社会状況などを知り、日中関係の歴史についての理解を深める。 思考・判断の観点： 1 . それぞれの国の映画になぜステレオタイプの描写が生まれて定着していったのかを様々な角度から考察する。 関心・意欲の観点： 1 . 隣国である中国に対する関心を強め、さらに広く深く知ろうとする意欲をもつ。 態度の観点： 1 . 日本と中国の間の誤解や摩擦に対して、相手の立場からも問題を考えることを通して、客観的かつ公平な物の見方を身につける。

**授業の計画(全体)** 1920 年代後半から現在に至るまでに作られた中国映画と日本映画の中から、日本人が登場する中国映画と中国人が登場する日本映画を選び、特徴的な描き方や典型的な場面を紹介する。講義は講師による映像資料とそれに関連する文献資料の提示、分析を中心に進められるが、受講者にも意見を求め、部分的に討論形式もとりいれて行う。2、3 回ごとに感想や疑問を短いレポートにして提出してもらう。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 無声映画時代の中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 2 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 3 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 4 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 5 回 項目 1920 年代から 1937 年までの日本映画 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 6 回 項目 日中戦争時代の中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 7 回 項目 日中戦争時代の日本映画 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 8 回 項目 満州映画 内容 満州映画の中の中国人と日本人
- 第 9 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 10 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 11 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 12 回 項目 国交回復時期から 80 年代 内容 中国映画に描かれた日本人

第 13 回 項目 国交回復時期から 80 年代 内容 日本映画に描かれた中国人

第 14 回 項目 90 年代から現在 内容 中国映画に描かれた日本人

第 15 回 項目 90 年代から現在 内容 日本映画に描かれた中国人

成績評価方法 (総合) (1) 2 , 3 回ごとに提出させる短いレポートを評価の対象とする。(2) 討論における意見を評価の対象とする。(3) 最後に全体を通してのまとめと自分で作品と課題を選んだレポートを提出させる。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：アジア映画に見る日本 I, 門間貴志, 社会評論社, 1995 年 ; 外国映画にみるアジア・太平洋戦争, 柚木浩, 三一書房, 1995 年 ; < 鬼子 > たちの肖像, 武田雅哉, 中公新書, 2005 年 ; 中国映画の 100 年, 佐藤忠男, 二玄社, 2006 年 ; スクリーンの中の中国・台湾・香港, 戸張東夫, 丸善ブックス, 1996 年

メッセージ 講義は受講生に感想や意見を求めつつ進めてゆきます。受講生には自分の考えを積極的に述べるよう期待します。

連絡先・オフィスアワー nozawa@imc.hokudai.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。 / 検索キーワード 卒論作成

授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。  
 関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

成績評価方法（総合） 授業での発表を評価する。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。 / 検索キーワード 卒論作成

授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。  
 関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

成績評価方法（総合） 授業での発表を評価する。



開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 本授業は卒業論文指導。

授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、進捗状況の報告を課す。

成績評価方法（総合） 報告内容により判断する。

開設科目	中国文学演習（４年生）	区分	演習	学年	４年生
対象学生		単位	２単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 本授業は卒業論文指導。

授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究をすすめ、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

授業の計画（全体） 前期に引き続き、各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、研究の進捗状況の報告を課す。

成績評価方法（総合） 報告内容により判断する。

開設科目	中国語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

授業の概要 本授業は初級中国語を終了、もしくはそれに準ずるレベルの学生を対象とするクラスで、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかも知れないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。/ 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 第一回 【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価など説明する レベル確認の練習をして、その後テキスト、授業計画、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバス、など説明、レベル確認の練習をする
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回 内容 口述試験

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間小テストを行う。4、最後に試験を実施する。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業ガイダンス時に小テストをして、学生全般のレベルなどによって教科書を決める。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した、その教科書を流暢に読める能力は最低限度必要である。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟3F 田研究室 tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00~18:00

開設科目	中国語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

授業の概要 前期に続けて通年のクラスである。発音、語彙、文法などの整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかもしれないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。 / 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法できる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分に理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 後期授業が開始 内容 前期の内容に続ける
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回 内容 口述試験

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間テストを行う。4、最後に口述試験を実施する。

教科書・参考書 教科書：前期の教科書と同じ。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した、その教科書を流暢に読める能力は最低限度必要である。前期中国語演習(会話)も履修するのが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟3F 田研究室 tian@yamaguchi-uac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 ~ 18:00

開設科目	中国語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田 梅				

授業の概要 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、作文で正確の表現能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、文型を身につけて、訳文、作文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 第一回【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価などを説明する レベル確認の練習をして、それによってテキスト、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバスなどを説明とレベル確認の練習をする。
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回 内容 前期筆記試験

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書は一回目受講生の中国語レベルの練習チェックによって決める。

メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。 受動的ではなく、積極的に学習意欲を持つことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟 3 F 田研究室 tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 18:00

開設科目	中国語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田 梅				

授業の概要 前期に引き続き、自分の感情や考えを正しく表現できるように一層の実力アップを目指す。  
(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、句型を身につけて、訳文、作文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 内容 前期の内容に続ける(シラバスを説明する)。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 後期の筆記試験をする

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習(作文)も履修した者が望ましい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟3F 田研究室 tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 18:00

開設科目	中国語演習(時事中国語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林 宇萍				

授業の概要 中国の現代生活に関して概説し、中国語の応用能力を向上させる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、勉強の仕方、シラバスの説明、成績評価の方法など。
- 第 2 回 項目 第一課 内容 世界海拔最高的鐵路
- 第 3 回 項目 第二課 内容 中国前衛芸術之窺見
- 第 4 回 項目 第三課 内容 文革：40 年后的回憶
- 第 5 回 項目 第四課 内容 微軟在中国
- 第 6 回 項目 第五課 内容 中国大学之現状 1
- 第 7 回 項目 第五課 内容 中国大学之現状 2
- 第 8 回 項目 第六課 内容 大城市花絮 1
- 第 9 回 項目 第六課 内容 大城市花絮 2
- 第 10 回 項目 第七課 内容 中国的日本人博客
- 第 11 回 項目 第八課 内容 快到奧運了...
- 第 12 回 項目 第九課 内容 四菜一湯... 1
- 第 13 回 項目 第九課 内容 四菜一湯... 2
- 第 14 回 項目 第十課 内容 一花難表全中国 1
- 第 15 回 項目 第十課 内容 一花難表全中国 2

教科書・参考書 教科書：セレクト 10 時事中国語, , 朝日出版社, 2007 年

開設科目	中国事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林 宇萍				

授業の概要 中国の風俗・習慣などについて概説する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法など。
- 第 2 回 項目 中国の国土と人口 内容 面積・人口、行政区域、民族など。
- 第 3 回 項目 中国人の姓名 1 内容 『百家姓』
- 第 4 回 項目 中国人の姓名 2 内容 姓名の歴史、文化内函
- 第 5 回 項目 中国人の食事 内容 八大菜系
- 第 6 回 項目 中国のお茶 内容 種類と名産
- 第 7 回 項目 中国のお酒 内容 種類と名産
- 第 8 回 項目 中国の節日 1 内容 伝統節日
- 第 9 回 項目 中国の節日 2 内容 法定節日
- 第 10 回 項目 中国の演劇 1 内容 京劇
- 第 11 回 項目 中国の演劇 2 内容 地方劇
- 第 12 回 項目 中国人の倫理・道徳 内容 伝統美德
- 第 13 回 項目 中国の絵画と書法
- 第 14 回 項目 中国の名所・旧跡 内容 七つの都、楼台園林、文化遺産
- 第 15 回 項目 中国の医学 内容 漢方と養生

教科書・参考書 参考書：中国節日, 韋黎明, 五洲伝播出版社, 2005 年；中国文化への誘い, 桂小蘭等, 郁文堂, 2007 年



言語文化学科 英米語文化論コース

開設科目	現代英米語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語学・言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。同時に、英文法の基本的かつ重要なトピックスを厳選したサブテキストを用いて、英文法の要点を今一度学ぶ時間にもしたい(授業のはじめの20分をこれに充てる)。

授業の一般目標 英語学研究(そして英語教員になるため)に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。また、英語のネイティブスピーカーの「感覚」を理解しながら、英語の運用に欠かせない英文法のエッセンスをしっかりと掴む。思考・判断の観点: ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。関心・意欲の観点: 英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。態度の観点: 「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。技能・表現の観点: 本文の英文読解や付属のCDの聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Why Study English Linguistics 内容 英語言語学とはどのような分野であり、どのような研究がなされてきたのかを紹介する。授業外指示 Comprehension Check と Exercises をやる。サブテキストを1課ずつ読む。
- 第 2 回 項目 How English Has Changed over the Centuries / サブテキスト第1課 内容 英語の歴史を解説する。 / 前置詞について 授業外指示 "
- 第 3 回 項目 How Words Are Made: Morphology / サブテキスト第2課 内容 語がどのようにして作られるのかを考える。 / 冠詞について 授業外指示 "
- 第 4 回 項目 How Words Mean: Semantics I / サブテキスト第3課 内容 語の意味について考える。 / 指示詞について 授業外指示 "
- 第 5 回 項目 How English Phrases Are Formed: Syntax I / サブテキスト第4課 内容 文を形作る規則について考える。 / 現在完了について 授業外指示 "
- 第 6 回 項目 How English Sentences Are Formed: Syntax II / サブテキスト第5課 内容 " / 進行形について 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 How Sentences Mean: Semantics II / サブテキスト第6課 内容 文の意味について考える。 / -ing について 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 How to Communicate with Other People: Pragmatics / サブテキスト第7課 内容 会話の原則について考える。 / 未来表現について 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 The Sounds of English: Phonetics and Phonology / サブテキスト第8課 内容 英語の音声・音韻的特徴を捉える。 / 助動詞について 授業外指示 "
- 第 10 回 項目 Regional Varieties of English: Sociolinguistics I / サブテキスト第9課 内容 英語の方言について考える。 / 丁寧・婉曲表現について 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 English in Society: Sociolinguistics II / サブテキスト第10課 内容 " / 仮定法について 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 How English Is Acquired: Psycholinguistics / サブテキスト第11課 内容 子供の言語習得について考える。 / 動詞・英単語について 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired: Applied Linguistics / サブテキスト第12課 内容 外国語としての英語の習得について考える。 / 文型について 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 まとめ1 内容 教科書の分かりにくかった箇所を補足する。 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 まとめ2 内容 " 授業外指示 "

成績評価方法 (総合) 毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。また、サブテキストに関連した簡単なテストを随時行う。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ期末評点から減点する。

教科書・参考書 教科書： First Steps in English Linguistics, 影山太郎他, くろしお出版, 2004 年； <サブテキスト> ハートで感じる英文法, 大西泰斗, ポール・マクベイ, 日本放送出版協会, 2005 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代英米語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えうるのかを考える時間にもしたい。

授業の一般目標 日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個別性と普遍性を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。 思考・判断の観点：知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。 関心・意欲の観点：広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。 態度の観点：「語とそのアクセント（発音）は暗記するもの」という考え方を捨て去る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英語音声学の基礎（1） 内容 英語の母音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 配布したプリントの図と同じように調音できるようにする。
- 第 2 回 項目 英語音声学の基礎（2） 内容 英語の子音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 "
- 第 3 回 項目 英語音声学の基礎（3） 内容 英語のつづり字と発音の関係について解説する。授業外指示 配布資料の課題を解く。
- 第 4 回 項目 日英語の分節音韻論 内容 母音や子音の体系を解説する。授業外指示 教科書第 1 章を読んでおく。
- 第 5 回 項目 " 内容 母音や子音の変化の法則を説明する。授業外指示 "
- 第 6 回 項目 " 内容 母音や子音の変化に関わる制約について論じる。授業外指示 "
- 第 7 回 項目 日英語の語形成 内容 可能な語を生み出すメカニズムを説明する。授業外指示 "
- 第 8 回 項目 日英語の音節構造 内容 日英語の音節構造について解説する。授業外指示 教科書第 2 章を読んでおく。
- 第 9 回 項目 " 内容 日英語の音節構造の真の違いについて論じる。授業外指示 "
- 第 10 回 項目 日英語の韻律 内容 リズム等の問題を取り上げる。また、韻律が生み出す言語文化について論じる。授業外指示 教科書第 3 章を読んでおく。
- 第 11 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの相違について説明する。授業外指示 教科書第 4 章を読んでおく。
- 第 12 回 項目 " 内容 日英語のアクセントの共通性について論じる。授業外指示 "
- 第 13 回 項目 文強勢について 内容 英語の文のアクセントについて解説する。授業外指示 配布プリントを読んでおく。
- 第 14 回 項目 方言による発音の違いについて 内容 イギリス英語、アメリカ英語、オーストラリア英語の発音の特徴を解説する。授業外指示 "
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき期末試験から 5 点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：音韻構造とアクセント，窪園晴夫・太田聡，研究社，1998 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語を学び始めたときから誰もが感じる英語に関する素朴な疑問を歴史的に解き明かす。例えば、「規則変化のほかに不規則変化があるのはなぜか」「keep,deepのようにeが二つならイーと読むのに、kept, depthのように1つならエであるのはなぜか」など、最初に疑問点を列挙して、半年後にはそれが説明できるようにする。英語を話す民族の動向をビデオ教材を通じて理解する。 / 検索キーワード 英語史

授業の一般目標 現代英語に関する疑問を共有し、それらを歴史的に説明できるようになる。英語の成立から、現代英語までの概略を把握する。英語を話す民族の動向に関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語とその言語を話す民族の歴史の概略を把握する。現代英語に対して感じる疑問点を歴史的に説明できる。 関心・意欲の観点：英語に対する素朴な疑問点を再確認し、それを歴史的に解明する意欲を持つ。 態度の観点：英語の発達の背景を知り、国際的な視点と態度を身につける。

授業の計画（全体） 学生と教員から出された「英語に関する素朴な疑問」への歴史的な説明をする。テキストを用いた講義に適宜ビデオ教材を交えて進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 英語に関する素朴な疑問について
- 第 2 回 項目 英語の外史
- 第 3 回 項目 借入語
- 第 4 回 項目 発音の変化
- 第 5 回 項目 屈折の単純化
- 第 6 回 項目 屈折の単純化
- 第 7 回 項目 屈折の単純化
- 第 8 回 項目 屈折の単純化
- 第 9 回 項目 統語法の発達
- 第 10 回 項目 統語法の発達
- 第 11 回 項目 統語法の発達
- 第 12 回 項目 統語法の発達
- 第 13 回 項目 統語法の発達
- 第 14 回 項目 質疑応答
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験によって評価する。また、欠席は、原則として2回を超えると欠格とする。

教科書・参考書 教科書：『英語史入門』, 安藤貞雄, 開拓社, 2002年; 教科書は、文栄堂(大学前)で販売予定。

開設科目	英語生成文法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

授業の概要 生成文法と呼ばれる文法理論の基本的考え方を概説する。高校までに習った学習英文法は、受動文では目的語が主語位置に移動し、WH 疑問文では WH 疑問詞が文頭に移動することを教えてくれる。しかしながら、それは何故かという疑問に対して学習英文法は何も答えてくれない。このような問いに答えることにより、ことばの仕組みを明らかにしようと試みる文法理論が生成文法である。授業では、生成文法の枠組みにおいて、学習英文法では教えてくれない英語の特徴を考察する。 / 検索キーワード 英語、生成文法、ことばの仕組み、文法理論

授業の一般目標 生成文法における言語分析を通して、英語についての理解を深め、また、科学的思考法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の主要な構文の特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

授業の計画（全体） 先ず、生成文法の枠組みを概説し、その後、その枠組みを使って英語を分析していく。取り上げるトピックは、主語・助動詞倒置、否定文、時制、モダリティ、アスペクト、動詞の意味、受動文等々である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価法について説明する
- 第 2 回 項目 文法の枠組み (1) 内容 文には抽象的構造が存在することについて説明する。
- 第 3 回 項目 文法の枠組み (2) 内容 英語の主語・助動詞倒置現象について説明する。
- 第 4 回 項目 文法の枠組み (3) 内容 英語の否定文について説明する。
- 第 5 回 項目 文法の枠組み (4) 内容 文の基本的構造を決定する規則 X' 理論について説明する。
- 第 6 回 項目 文法の枠組み (5) 内容 CP, IP, DP 構造について説明する。
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 テスト返却・解説
- 第 9 回 項目 時と時制 内容 時制の統語特性と意味解釈について説明する、
- 第 10 回 項目 ムードとモダリティ 内容 法助動詞と命令文について説明する。
- 第 11 回 項目 アスペクト 内容 動詞の意味分類について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞のクラスと交替現象 内容 自動詞の分類、使役文、二重目的語文について説明する。
- 第 13 回 項目 名詞句移動 内容 受動文と繰り上げ文について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）の結果に基づいて評価する。

教科書・参考書 教科書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年; プリントも随時配布する。

連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 現代英語に関する、時制とアスペクトに関するトピックを扱う。

授業の一般目標 日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時制とアスペクトに関する基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。 関心・意欲の観点：一見するとありふれた用例について、疑問を持ち探求できる。 技能・表現の観点：日本語で書かれた専門文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で用例を用いて簡潔に説明できる。

授業の計画（全体）日本語で書かれたテキストを用いる。未来時制と進行形を主として取り上げる予定であるが、授業時に次週の予定指示するので、必ず予習をし疑問点を整理して授業に臨むこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明と、進行形についての講義

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験の成績と授業時の質問レポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書： テンスとアスペクトの語法, 柏野 健次, 開拓社, 1999 年

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 生成文法の主に統語理論の発展(標準理論 G B 理論 ミニマリスト・プログラム)について解説する。

授業の一般目標 生成文法研究の展開を理解し、高度な専門論文も読みこなすための基礎力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点: 生成統語理論に基づいて、英語の主要構文の基本的分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点: ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特徴などにも関心を寄せる。

授業の計画(全体) 1. 生成文法理論の目標、2. 統語論の基礎(いわゆる標準理論)、3. G B 理論、4. ミニマリスト・プログラム、といった4つのテーマやトピックを扱う。

成績評価方法(総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で主に評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書: 生成文法の新展開, 中村捷・金子義明・菊池朗, 研究社, 2001年 / 参考書: 英語の構文, 田中智之・寺田寛, 英潮社, 2004年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 長い言語研究の流れの中に生成文法を位置づけ、音韻論・形態論・統語論・意味論・言語獲得の基本概念を、主に日本語のデータをもとに、丁寧に解説する。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。また、日本語の分析を通じて、生成文法理論にどのような貢献ができるのかを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、日本語と英語の基本的な分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。

授業の計画（全体） 1．ことばの本質、2．ことばの獲得、3．音としてのことば、4．語彙と辞書、5．文の仕組み、6．語の意味と文の意味、といった6つのテーマについて論じる。

成績評価方法（総合）各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書：生成言語学入門, 井上和子・原田かず子・阿部泰明, 大修館, 1999年 / 参考書：チョムスキー小事典, 今井邦彦編, 大修館書店, 1986年；日本語文法小事典, 井上和子編, 大修館, 1989年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西岡 宣明				

授業の概要 生成文法の枠組みに基づき、英語(あるいは言語一般)の中にある規則性を明らかにする。具体的には、英語の否定文とそれに関わる諸現象に焦点をあて、生成文法の基本的専門用語についての説明を加えながら、どのような原理が働いているのか、いかに分析すべきであるのかを解説する。

授業の一般目標 英語の文法現象・事実を再確認する。そして、それらがいかに一般的な原理によって捉えられるのかを理解し、分析の方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の文法規則と事実を確認する。 思考・判断の観点：論理的な分析の方法を理解する。 関心・意欲の観点：異なる現象の背後にある一般性を理解する。

授業の計画(全体) 1. 英語の構造、2. 英語否定文の構造、3. 否定現象とその分析、4. 日本語の構造と否定文の構造、5. 英語の多重 wh 疑問文のテーマについて生成文法の枠組みでの先行研究の紹介と批判、代案について論じる。

成績評価方法(総合) 試験あるいはレポートにより評価する。また、出席と授業への取り組み方も重視する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年; 西岡宣明著『英語否定文の統語論研究 素性照合と介在効果』2007 年、くろしお出版、中村捷、金子義明、菊地朗著『生成文法の新展開』2001 年、研究社

備考 集中授業

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語学・言語学（特に生成音韻論）の基本文献を読む。

授業の一般目標 英文で書かれた専門文献を正確に読み解けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門用語、専門論文的表現を理解し、身につける。 思考・判断の観点：専門論文の精読を通して、内容理解のみならず、そこに含まれる矛盾点や問題点にも気づくようにする。 関心・意欲の観点：専門用語等は、単に英和辞典で訳を見るだけでなく、専門の用語辞典等で内容を調べるようにする。

授業の計画（全体） まず、日本語で書かれた文献を基に、2, 3 回にわたって生成音韻論の基本的概念等の解説を行う。そしてその後、生成音韻論の代表的な英文論文を、演習形式で読みこなしていく。

成績評価方法（総合） 授業時の発表内容・態度や訳の正確さ、宿題の課題の出来具合、出席状況などで総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(文法と意味)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。

授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

授業の計画(全体) 1回に5ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方。教材とする論文紹介。 授業外指示 授業の進捗に合わせて毎回指示します。

第2回 項目 演習 内容 論文の内容について、受講生を順に指名しながら解説・演習を行う

第3回 内容 以下同様

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

成績評価方法(総合) 期末試験が90パーセント、授業時の演習10パーセントの割合で評価します。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(形態と音声)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語と日本語の派生や複合といった語形成、および、それに伴うアクセントの変化などについて考える。

授業の一般目標 ただなんとなく暗記しているように思える語の形(つづり字)や発音・アクセントの中に、どのような法則が隠れているのかを発見する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 語形成と音韻の相互作用を理解する。 思考・判断の観点: 可能な語形と不可能な語形、アクセントの配置、などを予測・説明できるようになる。 関心・意欲の観点: アクセントや語形成の法則を自らも解明しようとする。 技能・表現の観点: 理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それをわかりやすく指摘・発表できるようになる。

授業の計画(全体) まず、英語と日本語の派生語に関するトピックス(例えば、「～する人」を表す英語の接尾辞には-er, -or, -ist などがあるが、どのように使い分けるのか、など)を取り上げる。次に、英語と日本語の複合語に関するトピックス(例えば、どのような場合に或る複合語のアクセントが標準的な複合語アクセントパターンから外れるのか、など)を取り上げる。

成績評価方法(総合) 授業内での発表や小テスト、および、課題レポートの出来具合などによって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書: 適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	アメリカ文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 17 世紀初頭から 19 世紀中頃までのアメリカ文学の流れを概説する。アメリカ文学の時代背景、文化にとどまらず、世界文学の歴史とも照らし合わせ、世界におけるアメリカ文学の位置づけについても解説する。

授業の一般目標 アメリカ文学についての基礎的な知識を得る。アメリカ文学の作家と作品に対する興味を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ文学の主要な作家と作品、さらに文学の基本的な用語について説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ文学の作家・作品の多様性を通して、アメリカの文化、そして文学というものについて考える。 関心・意欲の観点：アメリカ文学の様々な作家と作品に興味を持つ。授業で扱わない作品についても積極的に読む。

授業の計画（全体） 指定テキストに沿って講義を進めるが、テキストに記述されている内容全てに言及するわけではない。また、テキストの内容のみでは不十分だと思われる部分では、そのつど補足すべき点に言及する。重要と思われる作品については、その作品からの引用など、参考資料を配布し、より深くその作品と作者の魅力に迫りたい。

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書： An Outline of American Literature., Peter B. High, Longman

開設科目	アメリカ文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 アメリカ文学史 I の続き。19 世紀中頃から 20 世紀前半までのアメリカ文学の流れを概説する。アメリカ文学の時代背景、文化にとどまらず、世界文学の歴史とも照らし合わせ、世界におけるアメリカ文学の位置づけについても解説する。

授業の一般目標 アメリカ文学についての基礎的な知識を得る。アメリカ文学の作家と作品に対する興味を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ文学の主要な作家と作品、さらに文学の基本的な用語について説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ文学の作家・作品の多様性を通して、アメリカの文化、そして文学というものについて考える。 関心・意欲の観点：アメリカ文学の様々な作家と作品に興味を持つ。授業で扱わない作品についても積極的に読む。

授業の計画（全体） 指定テキストに沿って講義を進めるが、テキストに記述されている内容全てに言及するわけではない。また、テキストの内容のみでは不十分だと思われる部分では、そのつど補足すべき点に言及する。重要と思われる作品については、その作品からの引用など、参考資料を配布し、より深くその作品と作者の魅力に迫りたい。テキストには載っていない現代の作家の、現在の活動などについても触れる。

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：An Outline of American Literature., Peter B. High, Longman

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 前後期を通して、イギリス 19 世紀に活躍した小説家 George Eliot についての講義を行う。前期は主として作家活動の前半期に書かれた作品群について考察する。 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 George Eliot の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 19 世紀イギリスの社会的・文学的背景、及びその中における George Eliot の位置について導入的な解説を行った後、前半期の諸作品について各々数回程度で講義する。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：配布資料を用いる。 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 予め配布された各種資料には目を通してから授業に臨むこと。



開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 前後期を通して、イギリス 19 世紀に活躍した小説家 George Eliot についての講義を行う。後期は主として作家活動の後半期に書かれた作品群について考察する。 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 George Eliot の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 前期に引き続き、George Eliot の後半期の諸作品について各々数回程度で講義する。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：配布資料を用いる。 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 予め配布された各種資料には目を通してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 英語文学作品を訳読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。アメリカ 20 世紀作家たち (Charles Baxter, Alice Adams, Raymond Carver) の短編小説を読みこなす。 / 検索キーワード 短編 アメリカ小説

授業の一般目標 大意把握的な速読では培えない、正確な英語読解力を養成する。英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。

授業の計画 (全体) 15 週間で、3 つの短編小説を輪番形式で読み上げる。全部で約 50 ページ。 発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。

成績評価方法 (総合) 当番時の発表の出来具合 + 筆記試験 + 授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。

教科書・参考書 教科書： 最新アメリカ珠玉短篇集, 岩山太次郎 他編, 開文社出版, 1992 年 ; 大学生協にて購入。 / 参考書： 英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること (電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので)

メッセージ まずは構文理解と文法知識の再確認を優先します。作品鑑賞は学期末試験で。

連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 英語文学作品を訳読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。イギリス系 19 世紀末から 20 世紀初頭の女性作家たち (Mary Lamb, Katherine Mansfield, Elizabeth Gaskell) の短編小説を読みこなす。 / 検索キーワード 短編 英国系小説

授業の一般目標 大意把握的な速読では培えない、正確な英語読解力を養成する。英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点：作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点：自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。

授業の計画(全体) 15 週間で、4 つの短編小説を輪番形式で読み上げる。全部で約 60 ページ。 発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。

成績評価方法(総合) 当番時の発表の出来具合 + 筆記試験 + 授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。

教科書・参考書 教科書：女流短篇珠玉集, 青木庸效編, 開文社出版, 1974 年; 大学生協にて購入。 / 参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること(電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので)

メッセージ まずは構文理解と文法知識の再確認を優先します。作品鑑賞は学期末試験で。

連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 F. Scott Fitzgerald の小説 The Great Gatsby(1925) を読む。

授業の一般目標 日本でもよく知られる作品であるが、その真の魅力を堪能するためには作者フィッツジェラルドの細やかな文章一つ一つを丁寧に読み取る必要がある。この授業ではそのような細やかな読みを通して、この作品を隅々まで理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文構造、語の意味を正確に把握し、正しく文章を読むことができる。 思考・判断の観点： 一つ一つの表現にこめられた作者の意図を読み解くような、創造性・想像性ある読みを試みる。 関心・意欲の観点： 小説を細かく読むことの楽しみを知る。

授業の計画（全体） 受講者のテキスト音読、日本語訳という形式ですすめる。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Great Gatsby, F.Scott Fitzgerald, Oxford Univ Press

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 F. Scott Fitzgerald の小説 The Great Gatsby(1925) を読む。

授業の一般目標 日本でもよく知られる作品であるが、その真の魅力を堪能するためには作者フィッツジェラルドの細やかな文章一つ一つを丁寧に読み取る必要がある。この授業ではそのような細やかな読みを通して、この作品を隅々まで理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文構造、語の意味を正確に把握し、正しく文章を読むことができる。 思考・判断の観点： 一つ一つの表現にこめられた作者の意図を読み解くような、創造性・想像性ある読みを試みる。 関心・意欲の観点： 小説を細かく読むことの楽しみを知る。

授業の計画（全体） 受講者のテキスト音読、日本語訳という形式ですすめる。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、授業態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Great Gatsby, F. Scott Fitzgerald, Oxford Univ Press

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 輪番形式で発表担当者を定め、学生の予習発表を基に英米文学を読む演習を行います。イギリス現代作家マーガレット・ドラブルの作品を使用します。

授業の一般目標 英語による文学を批評的に鑑賞する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英文の構造や、談話状況などを正しく把握する。 思考・判断の観点： 作家の洞察を読み、現代の私たちの問題と比較して考察する。 態度の観点： 他人の発表を受け身で聞かず、積極的に討論に持ち込む。 技能・表現の観点： 輪番発表時に、効果的な言語表現で持論を説明する。

授業の計画（全体） 日本人大学生向けの注釈がついた版で、1 回 10～14 ページ読み進めます。

成績評価方法（総合） 5 回以上の欠席は自動的に不可評定となります。当番時の発表内容評価が 70 %、討論への参加・貢献度が 30 %。期末の筆記試験やレポートは実施しません。

教科書・参考書 教科書： The Millstone, Margaret Drabble, 英潮社ペンギン, 1977 年； 生協で購入。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 輪番形式で発表担当者を定め、学生の予習発表を基に英米文学を読む演習を行います。イギリス現代作家ミュリエル・スパークの作品を使用します。

授業の一般目標 英語による文学を批評的に鑑賞する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英文の構造や、談話状況などを正しく把握する。 思考・判断の観点： 作家の洞察を読み、現代の私たちの問題と比較して考察する。 態度の観点： 他人の発表を受け身で聞かず、積極的に討論に持ち込む。 技能・表現の観点： 輪番発表時に、効果的な言語表現で持論を説明する。

授業の計画（全体） ペーパーバック版で、1回10ページ弱読み進めます。

成績評価方法（総合） 5回以上の欠席は自動的に不可評定となります。当番時の発表内容評価が70%、討論への参加・貢献度が30%。期末の筆記試験やレポートは実施しません。

教科書・参考書 教科書： The Driver's Seat, Muriel Spark, New Directions, 1994年；生協で購入。

開設科目	英米文学演習(小説)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19世紀イギリスの小説家 Anthony Trollope の『The Warden』を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Anthony Trollope、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Anthony Trollope の作家像及び19世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画(全体) 前期はテキストの3分の2まで読み進める予定である。最初はスローペースで読み始め、徐々にスピードを上げていく。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法(総合) (1) 試験は学期末に1回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『The Warden』, Anthony Trollope, Penguin, 1984年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。



開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Anthony Trollope の *The Warden* を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Anthony Trollope、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Anthony Trollope の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 後期の約 3 分の 2 ほどでテキストの残り 3 分の 1 を読了し、その後でこの作品に関する論文を読む。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： *The Warden*, Anthony Trollope, Penguin, 1984 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習(劇)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田中 晉				

授業の概要 シェイクスピアの四大悲劇の一つ『マクベス』を読む。緊密な構成、力強い筆致のうちに緊迫した展開を示す本作品を精読し、すぐれた詩文の妙味を感得する。/ 検索キーワード シェイクスピア、四大悲劇、マクベス、バーナムの森

授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピア詩劇の特質を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。 思考・判断の観点：名将でありながら野望ゆえに王を殺害したマクベスと、マクベス夫人の心理の軌跡を通して、シェイクスピアの人間洞察の深さを学ぶ。 関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。

授業の計画(全体) 前期は第1幕、2幕、3幕3場までを読む。

成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。

教科書・参考書 教科書：Macbeth, Shakespeare, 研究社；研究社小英文叢書 Macbeth(中島文雄注釈)を使用する。山口大学生協(大学会館内)で販売する。/ 参考書：辞書やその他の文献は授業において言及する。ビデオ教材も併用する。

開設科目	英米文学演習(劇)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中晋				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード シェイクスピア、四大悲劇、マクベス、パーナムの森

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画(全体) 後期は第3幕4場から最終幕5幕まで読了する。

成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席、受講態度)を加味する。

教科書・参考書 教科書：Macbeth, Shakespeare, 研究社；研究社小英文叢書 Macbeth(中島文雄注釈)を使用する。山口大学生協ブックセンター(大学会館内)で販売する。 / 参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。ビデオ教材も併用する。

開設科目	英語演習(会話)(英米語2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p><b>授業の概要</b> 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.</p> <p><b>授業の一般目標</b> This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p><b>授業の計画(全体)</b> (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Youth Culture (3) Unit 2-Country and City Life (4) Unit 3-Public Figures and Celebrity (5) Unit 4-Environmental Concerns (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Early Memories (8) Unit 6-Technology (9) Unit 7-Environmental Issues (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Education (12) Unit 9-Personal Values (13) Unit 10-Society (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p><b>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 %. Attitude and Participation: 20 %. Presentations: 20 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Quick Smart English Intermediate, Ken Wilson &amp; Mary Tomalin, MacMillan Language House, 2005 年</p> <p><b>メッセージ</b> Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p><b>連絡先・オフィスアワー</b> ca72@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(英米語2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p><b>授業の概要</b> 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.</p> <p><b>授業の一般目標</b> This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p><b>授業の計画(全体)</b> (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Advertising (3) Unit 2-Animal Rights (4) Unit 3-Art and Artists (5) Unit 4-Beauty (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Beliefs (8) Unit 6-Crime and Punishment (9) Unit 7-Discipline (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Family (12) Unit 9-Fashion (13) Unit 10-Film and TV (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p><b>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Ideas &amp; Issues Intermediate, Olivia Johnston &amp; Mark Farrell, MacMillan Language House, 2003 年</p> <p><b>メッセージ</b> Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p><b>連絡先・オフィスアワー</b> ca72@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(英米語3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p><b>授業の概要</b> 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.</p> <p><b>授業の一般目標</b> This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p><b>授業の計画(全体)</b> (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Getting Ahead (3) Unit 2-Modern Survival (4) Unit 3-Coincidences (5) Unit 4-Friends (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Small Talk (8) Unit 6-True Love (9) Unit 7-Discipline (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-That's Funny (12) Unit 9-A Perfect Weekend (13) Unit 10-Just the Job (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p><b>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Language to Go Upper Intermediate, Antonia Clare &amp; J.J. Wilson, Longman, 2002 年</p> <p><b>メッセージ</b> Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p><b>連絡先・オフィスアワー</b> ca72@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(英米語3年生)	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				
<p><b>授業の概要</b> 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.</p> <p><b>授業の一般目標</b> This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.</p> <p><b>授業の計画(全体)</b> (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Feelings (3) Unit 2-Picture Gallery (4) Unit 3-Love is Blind (5) Unit 4-Desert Dilemma (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-The Murder of the Earl of Hereford (8) Unit 6-The Jewels Are Missing! (9) Unit 7-Slow Business (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Making a Living (12) Unit 9-Hot Lines! (13) Unit 10-Progress? (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.</p> <p><b>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.</p> <p>第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。</p> <p>第 3 回</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: React Interact: Situations for Communication 3rd Edition, Donald R.H. Byrd &amp; Isis C. Clemente, Longman, 2001 年</p> <p><b>メッセージ</b> Bring your dictionary and textbook to every class.</p> <p><b>連絡先・オフィスアワー</b> ca72@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語演習(会話)(他コース)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

**授業の計画(全体)** (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Youth Culture (3) Unit 2-Country and City Life (4) Unit 3-Public Figures and Celebrity (5) Unit 4-Environmental Concerns (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Early Memories (8) Unit 6-Technology (9) Unit 7-Environmental Issues (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Education (12) Unit 9-Personal Values (13) Unit 10-Society (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法(総合)** Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

**教科書・参考書** 教科書: Quick Smart English Intermediate, Ken Wilson & Mary Tomalin, MacMillan Language House, 2005 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	英語演習(会話)(他コース)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

**授業の計画(全体)** (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Advertising (3) Unit 2-Animal Rights (4) Unit 3-Art and Artists (5) Unit 4-Beauty (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5-Beliefs (8) Unit 6-Crime and Punishment (9) Unit 7-Discipline (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8-Family (12) Unit 9-Fashion (13) Unit 10-Film and TV (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法(総合)** Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

**教科書・参考書** 教科書: Ideas & Issues Intermediate, Olivia Johnston & Mark Farrell, MacMillan Language House, 2003 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

**授業の計画(全体)** (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1- British English vs. American English (3) Unit 2-Ideas About Beauty (4) Unit 3-Movie Ratings (5) Unit 4-Creativity in Music (6) Review Activities. (7) Unit 5-The Tragedy of Echo and Narcissus (8) Unit 6-I Have A Dream (9) Unit 7-Confucius and His Writings (10) Review Activities. (11) Unit 8-Fast Food and Teen Workers (12) Unit 9-Changing Archeology (13) Unit 10-Freud and the Meaning of Dreams (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法(総合)** Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書: College Reading Workshop 2nd Edition, Casey Malarcher, Compass Publishing, 2005 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

**授業の計画(全体)** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1– Introducing the Paragraph (3) Unit 2–Journal Writing (4) Unit 3–Narrating (5) Unit 4–Preparing to Write (6) Review Activities (7) Unit 5–Describing (8) Unit 6–Using Language Effectively (9) Unit 7– Analyzing Reasons (Causes) (10) Review Activities (11) Unit 8–Using Language Effectively (12) Unit 9–Analyzing Processes (13) Unit 10–Using Language Effectively (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法(総合)** Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書: Developing Composition Skills: Rhetoric and Grammar 2nd Edition, Mary K. Ruetten, Thomson Heinle, 2003 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語演習（時事英語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will improve their listening skills by listening to current news stories, and watching short, current news videos on the BBC website. 2) Students will learn and practice new study techniques. 3) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of current news topics. 5) Students will work together in groups to complete discussion activities. 6) Students will improve their English presentation skills. 7) Students will also improve their reading by reading current news articles. / 検索キーワード Speaking, Listening, Current Events, News Stories, Opinions.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their speaking and listening skills, and to increase their vocabulary on a variety of current news topics. There will also be reading assignments for homework.

**授業の計画（全体）** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–Immigration Debate (3) Unit 2–Trade Goals (4) Unit 3–Foreign Aid (5) Unit 4–Safe Water (6) Unit 5–World Population Growth (7) Unit 6–Historic Uncle Tom’s Cabin Saved (8) Unit 7–America’s Changing Family (9) Unit 8–Populations Aging Worldwide (10) Unit 9–Safety for Kids on the Net (11) Unit 10–Indian Tradition and the Internet (12) Unit 11–Biofuels: An Alternative to Gasoline (13) Unit 12–Who Was Sacagawea? (14) Unit 13–Video Games (15) Final Written Exam.

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法（総合）** Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書： CNN English Express 10: October 2008, CNN News Network, TimeWarner, 2008 年； Issues Now in the News, Adam Worcester, Compass Publishing, 2006 年

**メッセージ** Bring your dictionary to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in groups to complete discussion activities. 2) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 3) Students will increase their vocabulary and knowledge related to the society and culture of English-speaking countries. 4) Students will improve their reading by reading about the society and culture of English-speaking countries. 5) Students will learn and practice new study techniques. 6) Students will improve their writing by writing short reports. / 検索キーワード Speaking, Listening, Reading, Writing, English-Speaking Countries, Society, Culture.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to learn more about daily life, society, and culture in English-speaking countries. This course includes speaking, listening, reading, and writing practice.

**授業の計画 (全体)** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– New York I (3) Unit 2–New York II (4) Unit 3–Boston (5) Unit 4–Small Towns (6) Unit 5–Yellowstone (7) Unit 6–Las Vegas (8) Unit 7–Los Angeles (9) Unit 8–Seattle (10) Unit 9–Maui (11) Unit 10–Street Performers (12) Unit 11–The American Dream (13) Unit 12–The Future (14) Unit 13–Work (15) Final Written Exam.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activity. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法 (総合)** Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書 : Experience America, Todd Rucynski & Scott Berlin, Kinseido, 2006 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三, 太田聡				

**授業の概要** 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。

**授業の一般目標** 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。他人の発表を聞いて、内容をまとめることができる。 **思考・判断の観点：** 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点：** 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点：** 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点：** 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。

**授業の計画（全体）** 事前に調整したスケジュール通りに実施する。ただし、教育実習等の関係で変更になることがある。

**成績評価方法（総合）** 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解、資料作成、プレゼンテーションを評価する。

**メッセージ** ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。  
<http://iwabe.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/oral.htm>

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三, 太田聡				

**授業の概要** 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。

**授業の一般目標** 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。他人の発表を聞いて、内容をまとめることができる。 **思考・判断の観点：** 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点：** 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点：** 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点：** 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。正しい英語でレポートを書くことができる。

**授業の計画（全体）** 前期末までに後期のスケジュール決定し、それに基づいてオーラルレポートを行う。資料も同時に配付する。

**成績評価方法（総合）** 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解力、資料作成、プレゼンテーションを評価する。期末の英文レポートは卒業論文に準ずるものとし、レポートした論文内容からの発展性と、英文表現力を評価する。

**メッセージ** ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記の URL を参照のこと。  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

言語文化学科 独仏語文化論コース



開設科目	現代ドイツ語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語とはどのような言語なのか、どのような特徴を持っているのかといったことについて、他のヨーロッパの言語と比較しつつ、様々な点から論じていく。ドイツ語の知識は必要としない。ドイツ語以外の初習外国語を履修している（あるいは履修した）学生でも理解できるように説明していく。

授業の一般目標 ドイツ語とはどのような言語なのかについてある程度理解していると同時に、ドイツ語学あるいは言語学に興味を持っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語とはどのような言語なのかについて、ある程度理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語学、あるいは言語学に興味を持っている。

授業の計画（全体） まずドイツ語の発音と綴りについて概略を説明した後、ドイツ語の文法の様々な特徴について解説していく。

成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。

開設科目	現代ドイツ語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語とはどのような言語なのか、どのような特徴を持っているのかといったことについて、他のヨーロッパの言語と比較しつつ、様々な点から論じていく。ドイツ語の知識は必要としない。ドイツ語以外の初習外国語を履修している（あるいは履修した）学生でも理解できるように説明していく。

授業の一般目標 ドイツ語とはどのような言語なのかある程度理解していると同時に、ドイツ語学あるいは言語学に興味を持っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語とはどのような言語なのかについて、ある程度理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語学、あるいは言語学に興味を持っている。

授業の計画（全体） できるだけ前期の授業とは違ったテーマをとりあげていく。前期の授業を受講していなかった学生がいる場合には、ドイツ語の発音と綴りについてまず簡単に説明する。

成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。

開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツの社会変化を言葉、特に新語という観点から分析して行きます。 / 検索キーワード 社会変化 言語変化 ドイツ語

授業の一般目標 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する理解を深め、ドイツ語の新語の造語法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．現代ドイツの政治・経済・社会などに対する知識を深める。

2．ドイツ語の新語の造語法を学ぶ。 思考・判断の観点： 1．現代ドイツの社会変化が言葉にどのように反映されているかを考察する。 2．ドイツ語の発想法を知る。 関心・意欲の観点： 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する関心を深める。

授業の計画(全体) Gesellschaft fuer deutsche Sprache(ドイツ語協会)が毎年発表する「今年のことば」を採り上げ、その背景にあるドイツの社会変化を解説します。そしてそれらのキーワードの成り立ちを分析します。

成績評価方法(総合) 授業内レポート(20%) + 学期末レポート(50%) + 授業への積極的な参加度(30%)で評価します。出席率が8割に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料を配付します。 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 日本人とドイツ人との間の異文化間コミュニケーションに関する諸問題を論じます。 / 検索  
キーワード 異文化間コミュニケーション 相互理解 誤解

授業の一般目標 日独異文化間コミュニケーションに関する知識を見につけ、異文化理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化とコミュニケーションに関する知識を習得する。 思考・判断の観点： 1 . 日独異文化間コミュニケーションにおいて、どのような問題が生じるか考察する。 2 . 問題が生じた場合の対処法を検討する。 関心・意欲の観点：文化と価値観の多様性に対する関心を深める。

授業の計画（全体） 異文化間コミュニケーションの基礎概念について解説した後、日独異文化間コミュニケーションで生じる諸問題とその背景を説明し、どうすれば異文化間コミュニケーション能力を養うことができるかを考察する。

成績評価方法（総合） 授業内レポート（20%）+ 学期末レポート（50%）+ 授業への積極的な参加度（30%）で評価します。出席率が8割に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料を配付します。 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。 / 検索キーワード ドイツ語学 専門文献

授業の一般目標 将来ドイツ語学に関する卒業論文を書く可能性がある学生を対象に、ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつけることを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学の専門的知識を習得する。 思考・判断の観点：論の展開の仕方を学ぶ。 関心・意欲の観点：広く言語現象への関心を深める。

授業の計画（全体） 毎回担当者を決めて、担当箇所の概要を説明させた後に、質疑応答の時間を設け、理解をより一層深める。

成績評価方法（総合） 授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用します。 / 参考書：授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語で書かれたドイツ語学の専門書を読む。具体的なテキストは、受講者の顔ぶれを見てから決める。

授業の一般目標 ドイツ語学に関する知識を深めるとともに、ドイツ語で書かれた専門文献を一人で読みこなせるだけのドイツ語読解力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語学に関する知識が深まっている。 関心・意欲の観点：ドイツ語研究への関心がより高まっている。 態度の観点：わからないことは徹底的に調べる習慣が身についている。

授業の計画（全体） テキストの難易度や、学生のドイツ語力により一時間にどのくらい進めるか分からないが、最初の内はゆっくりと進み、慣れてきたら次第に読む分量を増やしていく。

成績評価方法（総合） 演習とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：コピーを用いる

開設科目	ドイツ文学史 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

授業の概要 ドイツ近代文学史は、小説を中心に講述する。ヨーロッパ全体的な文学や文化像を少しでも概観できるように時代の芸術的・思想的な流れを表現していく作品を紹介していく。

授業の一般目標 小説という近代文学の代表的ジャンルは、語りの技法を深めながら、代々の人間の社会的・芸術的・感情的な世界を表現していく。文学の時代性や表現力などを把握し、文学の基礎的な知識を身に付けることが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文学を理解する 関心・意欲の観点：ドイツ文学への関心を持って、講義外も作品の読書に取り組む 技能・表現の観点：講義内容や課題に対して、文章・口頭表現ができる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の説明、評価について
- 第 2 回 項目 小説の歴史（ 1 ）
- 第 3 回 項目 小説の歴史（ 2 ）
- 第 4 回 項目 グリンメルスハウゼン作『阿呆物語』
- 第 5 回 項目 J.G. シュナーベル著『南海の孤島フェルゼンブルク』
- 第 6 回 項目 ゲーテ作『若きウェルテルの悩み』（ 1 ）
- 第 7 回 項目 ゲーテ作『若きウェルテルの悩み』（ 2 ）
- 第 8 回 項目 教養小説（ 1 ）
- 第 9 回 項目 教養小説（ 2 ）
- 第 10 回 項目 フォンターネ作『エフィー・ブリスト』（ 1 ）
- 第 11 回 項目 フォンターネ作『エフィー・ブリスト』映画(1974/独)
- 第 12 回 項目 アルフレート・デーブリン作『ベルリン・アレクサンダー広場』
- 第 13 回 項目 戦後・現代の小説（ 1 ）
- 第 14 回 項目 戦後・現代の小説（ 2 ）
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：資料を配布する

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour： 月曜日 7・8 時  
限（ 16 : 00 ~ 17 : 40 ）

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 「愚者の歴史」について講義する。

授業の一般目標 「愚者」といっても、それは今日的な意味ではなく、ヨーロッパの十八世紀末における視点からそう見えた人々のことを指す。彼ら「愚者」は黒魔術師、錬金術師、祓魔師(エクソルツィスト)(手相)占い師、異端の思想家・哲学者であったりする。講義ではこれら「愚者」の生涯をひとつひとつ取り上げて紹介する。彼らの生涯を辿ることで、啓蒙の世紀に葬られて暗闇に埋没した、隠されたヨーロッパの思想と文化を明るみに出す。我々が彼らの精神世界に立ち入ってみれば、我々の精神世界もまたひとつの「愚者」の歴史であると知るに至るだろう。

成績評価方法 (総合) レポート発表による。



開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	新本 史斉				

授業の概要 「翻訳論」から読む現代日本文学、現代ドイツ文学 <翻訳>とはいったいいかなる行為なのでしょう？わたしたちは、日々、授業で、仕事で、現に翻訳を行っていながら、そもそもそこで自分が何をしているかについて、反省的思考を働かせることはほとんどないのではないのでしょうか。この講義では、人間のおこなうあらゆる行為の中でももっとも複雑なものといってよい<翻訳>という行為について 「原文と同一の内容を他の言語において再現すること」という辞書での楽天的定義とはまったく異なった視点から 考え直し、その上で、<翻訳> = 「複数の言語体系の差異を身をもって経験すること」が、いかに新たな思考可能性・表現可能性を近代文学・現代文学にもたらしてきたかについて、現代日本文学、現代ドイツ文学の中から具体的な作品を取り上げながら考えていきたいと思います。

授業の一般目標 「原作の代用品」、「こなれた日本語 = 名訳」といった固定観念から遠く離れた場所で、<翻訳>という行為に秘められている可能性についていっしょに考えていきましょう。

授業の計画(全体) 1 「翻訳」とは何か? 2 「翻訳」と近代国民言語の関係 3 「翻訳」と近代日本語の関係 4 間から立ち上がる言葉 I 「外国語文学」としての日本文学(李良枝、リービ英雄など) 5 間から立ち上がる言葉 II 「外国語文学」としてのヨーロッパ文学(多和田葉子、パウエル・ツェランなど)

成績評価方法(総合) 授業への参加(発言・レスポンス・ペーパーの提出など) 50% レポート 50%

メッセージ 資料は授業で配布します。

備考 集中授業

開設科目	ドイツ文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Hintereeder-Emde, Franz				

**授業の概要** ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化と密接に絡み合っている。総体的な理解には文学の材料になる文化的要素の知識や全体的な視野が欠かせない。ドイツ文化を、様々な側面において勉強していく。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解である。 / 検索キーワード ヨーロッパ文化、ドイツ語圏文学、異文化理解

**授業の一般目標** ドイツ語圏の歴史を始め、日常文化や文学の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の資料も含めて、できるだけドイツ語で授業を進める。ドイツ文化に関連した研究文献などを読み、定期的に授業で発表や紹介をしてもらう。資料の分析や発表の技術にも重点を置く。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解すること。

**関心・意欲の観点:** 積極的な参加、自発的な勉強、アイデアを持って、授業に取り組むこと。 **技能・表現の観点:** ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

**授業の計画 (全体)** 演習は次の分野にわたるが、順番や内容には、演習の展開や進み方によって変更がある。文学・絵画・思想に写るドイツの歴史、主に (1) 第二ドイツ帝国の設立前後、(2) 第1・第2次世界大戦の背景、(3) 戦後ドイツからドイツ再統一まで

**成績評価方法 (総合)** 1. 授業での発表 (纏め方、メディアの適切な使い方、資料の提示) (40%) 2. 授業内外のドイツ語のレポート (ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力) (40%) 3. 授業への参加、貢献 (関心をもって、積極的な態度) (20%)

**教科書・参考書** 教科書: 資料は適宜に紹介、又は配分する。 / 参考書: 授業で紹介する。

**メッセージ** 異文化理解には、自分の文化への関心も欠かせない。ノートパソコンを授業で使う。

**連絡先・オフィスアワー** tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 月曜日 7・8 時 限 (16:00~17:40)

開設科目	ドイツ文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereeder-Emde, Franz				

**授業の概要** ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化と密接に絡み合っている。総体的な理解には文学の材料になる文化的要素の知識や全体的な視野が欠かせない。ドイツ文化を、様々な側面において勉強していく。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解である。 / 検索キーワード ヨーロッパ文化、ドイツ語圏文学、異文化理解

**授業の一般目標** ドイツ語圏の歴史を始め、日常文化や文学の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の資料も含めて、できるだけドイツ語で授業を進める。ドイツ文化に関連した研究文献などを読み、定期的に授業で発表や紹介をしてもらう。資料の分析や発表の技術にも重点を置く。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解すること。

**思考・判断の観点:** 資料を文化的背景に関連づけて理解できること。 **関心・意欲の観点:** 積極的な参加、自発的な勉強、アイデアを持って、授業に取り組むこと。 **技能・表現の観点:** ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

**授業の計画(全体)** 受講者が関心を寄せているテーマについて、資料収集・分析し、そして授業で発表する。発表者はプレゼンテーションやレジュメを作成し、発表後は参加者と討論する。

**教科書・参考書** 教科書: 資料は適宜に紹介、又は配分する。 / 参考書: 授業で紹介する。

**連絡先・オフィスアワー** tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 月曜日 7・8 時 限 (16:00~17:40)

開設科目	ドイツ文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ゲーテ『大コフタ』を読む。 / 検索キーワード カリオストロ、フリーメーソン、招霊術、フランス革命、近代。

授業の一般目標 ドイツ語の基礎を確認しつつ、文学作品を読む楽しみを学ぶ。

授業の計画(全体) 前年度の続きから読む。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

教科書・参考書 教科書: Reclam 文庫のコピーを配布する。 / 参考書: 参考書備考: 博友社『大独和辞典』

開設科目	ドイツ文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ヨーロッパ文学の古典的作品を日本語で読む。

授業の一般目標 ヨーロッパ文学の古典的作品を批評し鑑賞する力を養う。

授業の計画(全体) 学生は文学作品を読んで、興味ある点、思考を促される点、疑問点、感動した点などをまとめて授業時に発表し、その内容をゼミの参加者で討議・検討する。 課題として予定している作品は、ホメロス『イリアス』ソポクレス『オイディプス王』『ニーベルンゲンの歌』ダンテ『神曲』シェイクスピア『ハムレット』ミルトン『失樂園』モリエール『守銭奴』ゲーテ『若きウエルテルの悩み』ノヴァーリス『青い花』スタンダール『赤と黒』ニーチェ『ツァラトウストラはこう言った』イプセン『人形の家』ムージル『三人の女』リルケ『オルフォイスに捧げるソネット』

成績評価方法(総合) プレゼンテーションと期末レポートによる。

開設科目	ドイツ文学講読(小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語で書かれた小説を、原文で読んでいきます。

授業の一般目標 ドイツ語で書かれた小説の講読を通し、ドイツ語で書かれた小説の講読を通し、ドイツ語読解力の向上を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語読解力の向上 関心・意欲の観点：ドイツ語やドイツ文学に関し、より興味をいただく。 態度の観点：きちんと下調べをする。

授業の計画(全体) 短い作品を1つ読み終える予定でいます。

成績評価方法(総合) 演習点と期末テストの総合点で評価します。

教科書・参考書 教科書：死人に口なし, A. Schnitzler, 東洋出版

メッセージ 辞書を丹念に引き、しっかりと下調べをして下さい。

開設科目	ドイツ文学講読(詩・戯曲)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ゲーテ『大コフタ』を読む。 / 検索キーワード カリオストロ、フリーメーソン、招霊術、フランス革命、近代。

授業の一般目標 ドイツ語の基礎を確認しつつ、文学作品を読む楽しみを学ぶ。

授業の計画(全体) 前年度の続きから読む。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

教科書・参考書 教科書: Reclam 文庫のコピーを配布する。 / 参考書: 参考書備考: 博友社『大独和辞典』

開設科目	ドイツ語演習(会話)(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	DobraFelicitas				
<p>授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。ドイツ後劇はフリ-コミュニケーションのためにします。コミュニケーションの間口だけ使いません。しかし体を使います。そして気持ちを入れます。</p> <p>授業の到達目標 / 技能・表現の観点： ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Goro will nach Deutschland fahren [Sie auch ?] Reisevorbereitungen 授業外指示 Print Ihre Gepaeckliste ティスカッション： Was brauchen Sie? Was brauchen Sie nicht? 復習： 話法の助動詞 ”muessen” ”duerfen” ”koennen”</p> <p>第2回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Schluesselsatze [keysentences] Sketch + Video 2~4 ペ - ジ 授業外指示 Fragen zum Text Goros Gepaeckliste 3 ペ - ジ</p> <p>第3回 項目 テキスト Lektion 1 内容 Sketch/ Video (問題の話し / そして問題を討論する) 5 ペ - ジ 接続法 ”sollte” 授業外指示 聞き取り 6 ペ - ジ 自分でスケッチを書く 4~6 ペ - ジ / 二人の友だちは話します。 テ - マ : 旅行の準備</p> <p>第4回 項目 テキスト Lektion 2 内容 テ - マ : Anmeldung zum Sprachkurs ”doch” テ - マ : Was tun Sie, wenn Sie einen Deutschen nicht verstehen? 7~8 ペ - ジ Schluesselsaetze 8 ペ - ジ 授業外指示 練習 : 3 : 9 ペ - ジ</p> <p>第5回 項目 テキスト Lektion 2 内容 Sketch/ Video 10 ペ - ジ 授業外指示 Fragen zum Sketch : 9 ペ - ジ 練習 : Anwendung 5 と 11 ペ - ジ 聞き取り + 質問 12 ペ - ジ</p> <p>第6回 項目 テキスト Lektion 3 内容 Im Studenten- wohnheim (寮で) : 13 ペジ 家具 / 部屋 / 物 授業外指示 寮のこの話し 14~15 ペ - ジ</p> <p>第7回 項目 テキスト Lektion 3 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 15~16 ペ - ジ 授業外指示 自分でスケッチを書く 16~17 ペ - ジ 練習 : 17~18 ペ - ジ 聞き取り : 18 ペ - ジ ペーパーテストの準備 Wortbildung</p> <p>第8回 項目 ペーパーテスト Lektion 1 bis 3</p> <p>第9回 項目 テキスト Lektion 4 内容 Wie waere es, wenn...19 ペ - ジ Schluesselsaetze 授業外指示 練習 : 21 ペ - ジ 約束を相談する 21 ペ - ジ</p> <p>第10回 項目 テキスト Lektion 4 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 21~22 ペ - ジ 授業外指示 約束を相談する 22~23 ペ - ジ 24 ペ - ジ 友だちを招待する 友だちとおもしろいプランのことで話す 24 ペ - ジ 問題を討論する 25 ペ - ジ</p> <p>第11回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Japanische Feste Schluesselsaetze 28 ペ - ジ 授業外指示 練習 : Sprache in der Praxis 28~29 ペ - ジ</p> <p>第12回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 29~30 ペ - ジ 授業外指示 三人でスケッチで出てください。 練習 : 31 ペ - ジ Obon 聞き取り : 32 ペ - ジ 聞き取り</p> <p>第13回 項目 テキスト Lektion 5 内容 Bestellen und bezahlen im Restaurant (im Biergarten) 33 ペ - ジ Schluesselsaetze 34 ペ - ジ 授業外指示 Wortbildung : 形容詞 34 ペ - ジ 注文すると払う 35 ペ - ジ 聞き取り 35 ペ - ジ Sketchuebung 37 ペ - ジ 練習 : 37 ペ - ジ</p>					



- 第 14 回 項目 テキスト Lektion 6 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 35~36 ペ - ジ 授業外指示  
Wortschatzuebung 37 ペ - ジ ペ - パ - テストの準備 / 会話テストの準備
- 第 15 回 項目 テキスト Lektion 6 内容 Julias Tagebuch コリアの日記 38 ペ - ジ 授業外指示 聞き取り  
38 ペ - ジ 会話テストの練習

成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 (ペーパーテスト・会話テスト) [ 30 % ] 宿題 [ 10 % ] 授業中の  
態度 [ 20 % ] 演習 [ 30 % ] 出席 [ 10 % ] で評価します。

教科書・参考書 教科書 : Modelle 3 (CD) + Lehrervideotape, Fumiya HIRATAKA/ Andreas RIESS-  
LAND/ Ikumi WARAGAI/ Goro Christoph KIMURA, Sanshusha, 2006 年 ; CD 付き / モデル 3 / 問  
題発見のドイツ語 / 平高史也 / アンドレアスリ - スラント / 木村護郎クリストフ / 藁谷郁美 / 東京 : 三  
修社、2 0 0 6 ISBN4-384-13077-5 C1084 2800 円

連絡先・オフィスアワー 山口吉田研究室 E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー - : 水曜日 :  
1 2 : 0 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時

開設科目	ドイツ語演習(会話)(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	DobraFelicitas				
<p>授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。</p> <p>授業の到達目標 / 技能・表現の観点：ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト Lektion 7 内容 Der oeffentliche Verkehr (交通) in Deutschland 39ペ - ジ 命令文 Schluesselsaetze 40ペ - ジ 授業外指示 Wortschatz 動詞 - 名詞 復習：比べる(形容詞) 40ペ - ジ 分利動詞 41ペ - ジ</p> <p>第2回 項目 テキスト Lektion 7 内容 Sketch? Video Sketchuebung 42~43ペ - ジ 授業外指示 練習：43ペ - ジ 難しいことは何ですか。どきどき趣味がトラブルになります。ドイツと日本を比べる。会話パ - トナ - が前に分かりましたこともう一度説明する。カメラ / 電話 / ... を説明するボタンを使う 43ペ - ジ 聞き取り 44ペ - ジ 宿題：Dialogを書く 42ペ - ジ</p> <p>第3回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Mein Rucksack ist gestohlen worden 復習：受動態 45~48ペ - ジ Schluesselsaetze 46ペ - ジ 授業外指示 練習：受動態 物を捜す 49ペ - ジ</p> <p>第4回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 46~48ペ - ジ 授業外指示 Sketchを書く、演技をする 50~51ペ - ジ</p> <p>第5回 項目 テキスト Lektion 8 内容 Aus Goros Tagebuch Aus Inges Tagebuch 護郎の日記 インゲの日記 52ペ - ジ 授業外指示 聞き取り 52ペ - ジ 宿題：あなたたちにはもうトラブルがありましたか。</p> <p>第6回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Kennen Sie Bamberg? (Staedte in Japan?) 53~54ペ - ジ Schluesselsaetze 授業外指示 練習：54~55ペ - ジ</p> <p>第7回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 55~56ペ - ジ 授業外指示 読む：質問：答え 57ペ - ジ</p> <p>第8回 項目 テキスト Lektion 9 内容 Mir gefaellt ... Gebaeude, Bilder, ... 私は好きな建物、え 57ペ - ジ Berlin ベルリンの歴史 授業外指示 練習：動詞をえらぶ 58ペ - ジ 宿題：作文をかく 57ペ - ジ</p> <p>第9回 項目 テキスト Lektion 10 内容 "sagen"/"sprechen"/ "erklaren"/"behaupten"/"meinen" 接続法1 「レポ - トで」 59~61ペ - ジ Schluesselsaetze 60ペ - ジ 授業外指示 練習："sagen"/"sprechen"/ "erklaren"/"behaupten"/ 59~61ペ - ジ 接続法1：63ペ - ジ</p> <p>第10回 項目 テキスト Lektion 10 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 61~62ペ - ジ 授業外指示 メッセージとインタビューを比べる 63~64ペ - ジ</p> <p>第11回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Seine Meinung sagen 65~70ペ - ジ 授業外指示 "doch"/"ja"/"denn"/ "einfach"/ 65~66ペ - ジ</p> <p>第12回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Schluesselsaetze 66ペ - ジ 授業外指示 討論する：67ペ - ジ</p> <p>第13回 項目 テキスト Lektion 11 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 67~68ペ - ジ 授業外指示 Wie finden Sie das? 69ペ - ジ Eine Meinung 70ペ - ジ レポ - トと会話テストの準備</p> <p>第14回 項目 テキスト Lektion 12 内容 Umwelt (環境) Schluesselsaetze 72ペ - ジ 話法助動詞「受動態で」71~75ペ - ジ 授業外指示 会話テストの準備</p>					

第 15 回 項目 テキスト Lektion 12 内容 Sketch/ Video Sketchuebung 73 ~ 74 ペ - ジ 授業外指示 練習 :  
"seit"/"in" + 3 格 - Jahrtausend-en - Jahrhundert-en - kurz-em - lang-em - d-em 19. Jh. -  
heute - gestern - vorgestern / d-en achtziger Jahr-en ... ----- m/ cm/mm/kg/m2  
1/3 - 3/4 - 1/2 会話テストの準備

成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 ( 30 % )、宿題 ( 10 % )、授業態度 ( 20 % )、演習 ( 30 % )、出席  
( 10 % ) で評価します。

教科書・参考書 教科書 : Modelle 3/ CD + Lehrervideo, Fumiya HIRATAKA/ Andreas RIESSLAND/  
Ikumi WARAGAI/ Goro Christoph KIMURA, Sanshusha, 2006 年 ; CD 付きモデル / 平高史也 /  
アンドレアス リ - スランド / 藁谷郁美 / 木村護郎クリストフ / 東京 : 三修社、2006 ISBN4-  
384-1377-5 C1084 2.800 円

連絡先・オフィスアワー E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp 山口吉田研究室 水曜日 12 : 30 ~ 13 :  
30

開設科目	ドイツ語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語の初級文法で学んだ事項を組み合わせ、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねていきます。 / 検索キーワード ドイツ語 文法 独作文

授業の一般目標 ドイツ語の文章を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。  
 思考・判断の観点：日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的にみれるようになる。 関心・意欲の観点：自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。 技能・表現の観点：ドイツ語の文を作成する能力を養う。

授業の計画(全体) 教科書に沿って練習問題を解きながら、質疑に答え、必要に応じて追加説明して行きます。

成績評価方法(総合) 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：はじめての独作文, 小林俊明, 同学社, 2008年 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定である。教科書は、受講者のドイツ語力を勘案して決める。

授業の一般目標 ドイツ語作文力の向上。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初級文法をしっかり身に付けている。 技能・表現の観点：きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。

授業の計画(全体) 独作文の教科書を1冊すべてやり終える予定。またレポートも2~3回課す予定。

成績評価方法(総合) 授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。

教科書・参考書 教科書：日本の出版社から出ている独作文の教科書を用いるが、どの教科書にするかは受講者の顔ぶれを見てから決定する。

開設科目	ドイツ語演習(時事ドイツ語・ドイツ事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

**授業の概要** ドイツ語圏やヨーロッパのアクチュアルなテーマを取り上げて、ドイツ語の実力を身につける。分野毎の語彙を口頭練習やレポート作成により広げながら、より深く認識させていく。できるだけ積極的にクリエイティブに言葉と取り組んでいきたいと思う。

**授業の一般目標** ドイツやヨーロッパ文化圏の現代事情を多様な情報を通じて理解できること。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** ドイツやヨーロッパの現代事情を把握できること。 **関心・意欲の観点:** 言葉や文化への感性を高めること。 **技能・表現の観点:** ドイツ語の資料を収集や分析し、読解できること。

**授業の計画(全体)** アクチュアルな資料を読みながら、できればドイツ語でディスカッションして、ドイツ語圏の事情についての知識を増やし、ドイツ語の実力を鍛える。

**成績評価方法(総合)** 定期的な参加の上に積極的に授業に取り組む姿勢と授業中の意見や質問をすること(20%)、選んだトピックについての発表(30%)やレポート(50%)による。

**教科書・参考書** 教科書: 資料はコピーで配布する

**連絡先・オフィスアワー** tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 月曜日 7・8 時 限(16:00~17:40)

開設科目	フランス語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。

授業の一般目標 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を理解する。とくに、近代フランス語が正確に読めるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代フランス語が成立するまでの流れを把握する。思考・判断の観点：古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を指摘できる。関心・意欲の観点：文献の講読に参加する。技能・表現の観点：文献の読解ができる。

授業の計画（全体）半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を把握していきますが、とくに近代フランス語に関しては、文献を読みます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インド・ヨーロッパ祖語
- 第 2 回 項目 ラテン語
- 第 3 回 項目 ラテン語
- 第 4 回 項目 ラテン語からフランス語へ
- 第 5 回 項目 古フランス語
- 第 6 回 項目 古フランス語
- 第 7 回 項目 古フランス語
- 第 8 回 項目 中期フランス語
- 第 9 回 項目 中期フランス語
- 第 10 回 項目 中期フランス語
- 第 11 回 項目 近代フランス語
- 第 12 回 項目 近代フランス語
- 第 13 回 項目 近代フランス語
- 第 14 回 項目 現代フランス語
- 第 15 回 項目 現代フランス語

成績評価方法（総合）授業への参加：20-40 % レポート：60-80 %

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 フランス語の様々な構文について機能的・認知的観点から分析していきます。

授業の一般目標 フランス語の様々な構文の形式と意味の連関を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：能動文と受動文と再帰構文やジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を説明できる。 思考・判断の観点：構文の制約を説明できる。

授業の計画（全体）能動文と受動文と再帰構文およびジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を捉え、ジェロンディフ構文と現在分詞構文の制約について解明する。

成績評価方法（総合）レポート：70％ 授業態度や授業への参加度：30％

教科書・参考書 教科書：コピーを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30



開設科目	フランス語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 今年度は , Pour une theories des formes semantiques を読んでいきます .

授業の一般目標 フランス語で書かれた論文を読むことによって , フランス語学の知識を深めるだけでなく , 論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます .

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 論文を正確に読むことができる . 思考・判断の観点 : 多義性について説明できる . 態度の観点 : 講読に参加できる .

授業の計画 ( 全体 ) 前期のテキストは次のとおりです . Cadio,P et Visetti, Y. (2001): Pour une theories des formes semantiques.

成績評価方法 ( 総合 ) レポート : 60 % 授業態度や授業への参加度 : 40 %

教科書・参考書 教科書 : テキストのコピーを配布します .

メッセージ 毎回予習してくる事。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 今年度は , Pour une theories des formes semantiques. を読んでいきます .

授業の一般目標 フランス語で書かれた論文を読むことによって , フランス語学の知識を深めるだけでなく , 論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます .

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 論文を正確に読める . 思考・判断の観点 : 多義性について説明できる . 態度の観点 : 講読に参加できる .

授業の計画 ( 全体 ) 後期のテキストは次のとおりです . Cadio,P et Visetti, Y. (2001): Pour une theories des formes semantiques.

成績評価方法 ( 総合 ) レポート : 60 % 授業態度や授業への参加度 : 40 %

教科書・参考書 教科書 : テキストのコピーを配布します .

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 中世初期から 18 世紀までのフランス文学の生成発展およびジャンルの変転を時代背景を踏まえて講述します。文学史上に残る作品を万遍なく取り上げるのではなく、現代的視点と好みにより減り張りをつけます。

授業の一般目標 様々な文学作品に目を開かれるだけでなく、文学の成立する時代背景や状況への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ジャンルの盛衰の根拠と個々の作品の特質への理解を深める。

関心・意欲の観点：現代では忘れられているような文学作品にも関心を向けて、魅力を発見する。

授業の計画（全体） まずフランスという国の成り立ちと文学の誕生から説き起こし、時代の流れに沿って、武勲詩、中世騎士道恋愛物語、ファブリオー、抒情詩、古典劇、エッセイ、書簡体小説、哲学的コント等の特色を述べ、併せてそれぞれの代表的な作品のさわりを紹介する。時間が許せば、19 世紀の小説の勃興へのプレリュードも含める。

成績評価方法（総合） 講義内容を踏まえ、関連する作品を選んで読んでもらった上でレポートを提出してもらう。 従って、レポート 100%

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 講義題目を、「『星の王子さま』読解のこころみ」とし、サン＝テグジュペリの永遠のベストセラーである、童話『星の王子さま』の分析・読解をおこなう。作品を、二つの角度から、すなわち、王子さまの内側と外側からとらえ、王子さまの彷徨と探求の物語および〈ぼく〉の出会いの物語として読みすすめる。そして前者を愛の修業という視点から分析し、後者を愛の福音という視座から読解し、王子さまが誰であるのか、誰でありうるのか、を考察する。愛の修業と福音という観点に立つことによって、『星の王子さま』の総合的かつ統一的な読書を目指す。／検索キーワード 愛、invisible なもの。

授業の一般目標 不朽の名作『星の王子さま』の鑑賞のしかたを学ぶことができれば幸いである。また。この授業では、ひとつの文学作品をとりあげ、それを具体的に分析・読解していくのであるが、その作業をとおして、ひろく文学作品を論じることとは何か、文学研究とは何か、について学ぶことができれば幸いである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：『星の王子さま』の深遠な世界を知り、かいま見ることができる。

思考・判断の観点：先行研究を紹介しつつ、授業担当者の解釈を示すので、思考力・判断力を養うことができる。 関心・意欲の観点：サン＝テグジュペリの作品世界に関心をもつことができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、まず、『星の王子さま』を、王子さまの彷徨と探求の物語ととらえ、愛の修業という角度から読解し、つぎに、〈ぼく〉の出会いの物語として、愛の福音という観点から分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論。王子さまの出発。内容 導入部の検討
- 第 2 回 項目 王子さまの出発 内容 旅立ちまでの経緯
- 第 3 回 項目 星めぐり 内容 大人批判
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 星の住人たちの孤独
- 第 7 回 項目 同上 内容 王子さまの孤独
- 第 8 回 項目 地球での王子さま 内容 王子さまの孤独の深化
- 第 9 回 項目 同上 内容 キツネの教え
- 第 10 回 項目 同上 内容 王子さまの変貌
- 第 11 回 項目 王子さまとの出会い 内容 〈ぼく〉の孤立と孤独。王子さまと〈ぼく〉との類縁性
- 第 12 回 項目 同上 内容 王子さまと〈ぼく〉とのへだたり。出会いの意味
- 第 13 回 項目 王子さまとは誰か 内容 王子さまの夢幻性
- 第 14 回 項目 同上 内容 王子さまの死
- 第 15 回 項目 同上および結論 内容 聖書とのつながり

成績評価方法（総合） テストまたはレポート（70%）と平常点（30%）との総合。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー 613 研究室、月曜日 14:30～16:00。

開設科目	フランス文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 シャルル・ペローとヤコブ・グリムの『LE PETIT CHAPERON ROUGE』をフランス語で読み、その異同を比較しながらその背景を探る。次いで、Vladimir Propp の Morphologie du conte のさわりの箇所を拾い読みし、物語の形態論について考察する。

授業の一般目標 現代フランス語とは幾分異なる十七世紀の古いフランス語表現を学ぶ。想像力を養うとともに批評的論考をたどる論理的思考力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 想像力によって情景を思い描き心理を読み取る。背景を知る。  
 思考・判断の観点： 研究書を読み考える

成績評価方法 (総合) 定期試験 70% 平素の授業参加度、発表内容 30% の割合で総合評価

教科書・参考書 教科書： LE PETIT CHAPERON ROUGE, 日比野 雅彦 編注, 早美出版社, 2007 年 ; Morphologie du conte, Vladimir Propp, Points, 1970 年 ; 教科書 (2) はプリント配布

開設科目	フランス文学講読(小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 別離をテーマにして編まれた名作アンソロジーを読む。Marcel Pagnol,Alphonse Daudet,Fromentin,Gustave Flaubert,Gide などの作品が抜粋で収録されている。一通り読み終えたら、その中のメリメの小説『カルメン』を原典で読む。オペラ『カルメン』への変貌も視野に入れる。

授業の一般目標 文語に馴染み、動詞の法や時制に習熟する。様々な時代、状況、風土から生まれた文学作品の豊かさに触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語で書かれた様々な作品の文意や内容を理解する。関心・意欲の観点：異なった時代や世界に対して想像力を働かせる。技能・表現の観点：洗練された表現を身に付ける。

成績評価方法(総合) 定期試験70% 平素の訳読の出来映え 30% の割合で総合評価

教科書・参考書 教科書：La Separation 別離, 池澤 克夫 編, 第三書房, 2007年 / 参考書：メリメの『カルメン』はどのように作られているか, 末松 壽, 九州大学出版会, 2003年

開設科目	フランス文学講読(エッセイ・批評)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 『悪の花』『パリの憂鬱』などの作品によって知られる、19世紀フランスの詩人シャルル・ボードレーンについて書かれた論文を読む。論文は日本人によって書かれたものなので平易である。ボードレーンの世界をかいま見、詩あるいは文学作品の鑑賞の仕方を学ぶことができれば幸いである。

授業の一般目標 論文のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ボードレーンの生涯と作品について学ぶ。 思考・判断の観点: 論文のフランス語を読むことで、論理的な思考力を養成する。また文学作品の分析力を身につける。

授業の計画(全体) 教科書は、ボードレーンの4編の作品を論じているが、「貧乏人の死」を論じた部分を前半の7週で読み進み、「敵」について書かれた論文を、後半の7週で読む予定にしている。

成績評価方法(総合) 平常点と試験の点数との総合で評価するが、受講者が少人数なので、平常点を重視する。平常点を50%、試験の点数を50%の割合で評価することを考えている。

教科書・参考書 教科書: ボードレーンによるエチュード, 阿部良雄, 佐藤東洋麿, 朝日出版社, 1995年 / 参考書: 授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的・意欲的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分~16時00分。

開設科目	フランス語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシール				

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと(文化、歴史、音楽、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。

授業の計画(全体) 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供します。

成績評価方法(総合) 一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 自作のプリント



開設科目	フランス語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシール				

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしている。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと(文化、歴史、雑学)などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。

授業の計画(全体) 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。

成績評価方法(総合) 一回の会話定期考査と平均点(授業態度、出席状況など)を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 自作プリント

開設科目	フランス語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 フランス語の初級で学んだ基本的な文法的知識を踏まえて、フランス語の文章を作成する訓練をおこなう。比較的平易な教科書を用いるが、そのほかに、ディクテをしたり、自由作文を書いてもらったりする。

授業の一般目標 フランス語の作文能力の向上を目指す。また、簡単な言い回しを覚えることで、会話への道を開くことを、目標とする。さらに、和文仏訳の練習をしながら、初級文法の復習をしたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の文の構造および文法事項にかんする知識、日本語にたいする正確な理解を深める。 関心・意欲の観点：自分が思っていることをフランス語で表現するという積極的な意欲を養う。 態度の観点：よりきちんとした、確かなフランス語の文章を作成する能力を養う。

授業の計画(全体) 教科書に沿って、練習問題を解いていく。内容は、「…している」「複合過去と半過去」「主語の選択」「受身の表現」「関係代名詞」などからなるが、一回の授業につき、10問程度、解いていくことを目標とする。

成績評価方法(総合) 期末試験の点数(50%)と平常点(50%)との総合で評価する。

教科書・参考書 教科書：仏作文のキー・ポイント, 戸部松美, 三修社, 1998年; プリントを配布する。 / 参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的参加を望む。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

開設科目	フランス語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 動詞を軸に、文型、話法、語法、慣用表現を中心にした仏作文の練習をする。

授業の一般目標 日本語の文を出発点に、直訳のフランス語文に移し変えるのではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語の文を作る練習をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：動詞の法、時制および話法の理解 思考・判断の観点：異なった視点による物事の把握 技能・表現の観点：正確な表現の実現

授業の計画(全体) フランス語で条件法、接続法を使う文の作文、間接話法の文を作る練習をする。次のステップとして或るトピックに基づいた短文を綴って貰う。

成績評価方法(総合) 授業での課題50% レポート50%

教科書・参考書 教科書：中級仏作文, 小林路易, 白水社, 2004年; 適宜プリント配布 / 参考書：はじめての仏作文, 村松 剛, 朝日出版, 2007年

開設科目	フランス語演習(時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 比較的平易なフランス語で書かれたテキストを教科書として用い、最新の社会背景や文化問題など、フランスで起こった様々な時事問題を学ぶ。現代のフランス事情を知り、現代フランスがかかえている問題について考える。

授業の一般目標 時事フランス語の読解力の養成をめざす。初級文法の徹底的な復習もおこなうので、文法的知識の習得も目指す。現代フランス事情への関心を高めることをも目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時事フランス語の読解力の向上。 思考・判断の観点：異文化に触れることにより、相対的・批判的な視点を持つこと。 関心・意欲の観点：日本人の価値観とは異なった価値観への関心を持つこと。

授業の計画(全体) 教科書は20課から成り、各課には練習問題が付されている。しかし練習問題は省き、本文のみを読み進めることにする。1回の授業につき、1課進むことを目標にし、14課から15課まで読むことにしたい。

成績評価方法(総合) 平常点と試験の点数との総合で評価するが、受講者が少人数なので、平常点に重きを置きたい。平常点を50%、試験の点数を50%の割合で評価したい。

教科書・参考書 教科書：ヴァリエテ・フランセーズ2008, クリスチャン・ボームルー, 朝日出版社, 2008年

メッセージ 毎回の予習が望まれる。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

開設科目	フランス語演習(時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 社会学的な見地からパリについて書かれた文献を読んでいく。

授業の一般目標 パリおよびフランスの様々な側面を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：パリの歴史と現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。

思考・判断の観点：相対的・複眼的な視点を持てるようになる。 態度の観点：毎回予習して来ること。

授業の計画(全体) Sociologie de Paris を読んでいく。また、ビデオやパソコンを使って、現在フランスが抱えている様々な問題を取り上げ、パリおよびフランスについて見識を高めていく。

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文612, オフィスアワー：木曜日 15:00-16:30

言語文化学科 言語情報論コース

開設科目	言語学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 『言語学とは?』というテーマで講義を行う。1年次生には、先ずもって「言語学とは何を学ぶ学問か」が理解できないと思う。従って、本講義では言語学が扱う対象について具体例を挙げながら説明し、言語学が明らかにしようとしているものは何かについてアプローチしていく。具体的には、英語には複数形として [s],[z],[iz] があるが、これらがどのような規則に基づいて使い分けられているのか、また「君と会った」と「君にあった」は、どのように異なるのかなどの考察を通して、「言語学」が求めるものについて明らかにする。/ 検索キーワード 音韻, 統語, 意味, 言語能力

授業の一般目標 言語学概論は一年次から受講可能である。従って一番の目標は、受講者に対して言語への興味を喚起することである。そのために受講者に身近な言語現象を講義の対象にする。これらの現象を通して、「言語構造」を探っていく。つまり、現象の背後に見え隠れする言語という抽象的な仕組みを明らかにすることを講義の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：説明を聞いて理解できること。 思考・判断の観点：理解するために自分で考えることができるか、また自分で問題を見付けることができるか。 関心・意欲の観点：身近な現象に興味を持てるか。 態度の観点：自ら考えようとしているか。 技能・表現の観点：理解したこと、考えたことを文章化できること。

授業の計画(全体) テキスト『言語学とは?』(自家版)に沿って講義を進めていく。先ず音韻論的な現象に目をむけ(材料は、英語, 日本語)次に、単語の部分と全体の関係、曖昧文、形式名詞「こと」と「の」の違い、助詞「と」と「に」の違いについて検討する。最後に、このような仕組みを持つ言語とそれを作り出している人間の頭脳との関わりについて考察する。

成績評価方法(総合) 定期試験 80%、宿題・授業外レポート 20%。

メッセージ 講義をよく聴くこと。言語学は受身的態度では理解できない。

連絡先・オフィスアワー Office: Jinbun 617, e-mail: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会言語学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田寛人				

授業の概要 1870年代から1945年に至る時期における日本人に対する朝鮮語教育の歴史を詳細に紹介する。そして、それを材料にしながら、(1)社会言語学研究の観点から言語権の問題(少数言語を維持する権利、および大言語を習得する権利)について考える。(2)日本語教育史研究の成果にもとづいて、日本人が朝鮮人に日本語を教えることの意味を考える。(3)朝鮮近代史研究の成果にもとづいて、植民地近代の問題(「収奪論」と「施恵論」)について考える。(4)朝鮮語教育史研究の成果にもとづいて、日本人が朝鮮語を学ぶことの意味を考える。

授業の一般目標 社会言語学的な観点から、「言語とは何か」について理解を深める。言語を教えること/学ぶこと背景にあるイデオロギーなどについて理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 講義の内容を理解する 思考・判断の観点: 講義の内容を自分自身の経験や知識と結びつけて考える 関心・意欲の観点: 講義内容に対する質問や感想を述べることによって関心・意欲を高める 態度の観点: 講義を聞く 技能・表現の観点: 理解し、考えた内容を文章で表現し伝える

授業の計画(全体) 国家と言語の関係を理解し、社会言語学的な観点から、日本人に対する朝鮮語教育史の実態を詳細に検討していく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 講義の方法と内容、評価の方法など
- 第2回 項目 この言語を日本語で何と呼ぶか 内容 国家と言語の関係について考える
- 第3回 項目 この言語を朝鮮語で何と呼ぶか 内容 翻訳の不可能性と、翻訳の意味
- 第4回 項目 朝鮮語教育機関の設置と廃止(1) 内容 日本人の朝鮮語観。現代の朝鮮語教育と、戦前の朝鮮語教育との関連
- 第5回 項目 朝鮮語教育機関の設置と廃止(2) 内容 植民地化によって「外国語」ではなくなる朝鮮語
- 第6回 項目 朝鮮語教師 内容 朝鮮語を教えていた朝鮮人教師、日本人教師の経歴や教育の実態
- 第7回 項目 朝鮮語学習書 内容 戦前に発行された朝鮮語の学習書や辞書の発行状況や内容の特徴
- 第8回 項目 日本語教育(1) 内容 「国語」としての日本語、「方言」としての朝鮮語
- 第9回 項目 日本語教育(2) 内容 「強制的」か「自主的」か
- 第10回 項目 1930年朝鮮国勢調査の語学力に関する調査結果 内容 朝鮮人の日本語運用能力と、日本人の朝鮮語運用能力の比較
- 第11回 項目 日本人教員に対する朝鮮語教育 内容 朝鮮人児童の初等教育機関で教えていた日本人教員に対する朝鮮語教育
- 第12回 項目 日本人警察官に対する朝鮮語教育 内容 支配と言語能力の関係
- 第13回 項目 朝鮮語奨励試験 内容 国家主導による言語学習奨励の実態
- 第14回 項目 日本人金融組合理事に対する朝鮮語教育 内容 朝鮮語を話す日本人に対する、朝鮮人の意識
- 第15回 項目 まとめ 内容 全体を通じて理解すべき問題点の整理

成績評価方法(総合) 毎回の講義終了後に、質問や感想などを中心とした短いレポートを作成させて、講義に対する理解度を確認する。期末試験によって、講義内容が理解できているか、講義内容と自分自身の経験や知識とを結びつけて考えることができるか、そのことを正確に伝えることができるか、を評価する。

備考 集中授業



開設科目	心理言語学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	茂呂 雄二				

授業の概要 日本語の談話分析についての授業である。談話は私たちの生活のことばであり、生活実践に欠かせないコミュニケーションメディアである。この授業では、日本語の談話使用とそれを媒介にして成り立つ知的なプロセスの理解を、実際の談話やテキストデータを分析する手法とともにまなぶ。

授業の一般目標 日本語談話分析の手法をとおして、談話の機能と、談話を操る人間尾情報処理機構について学ぶことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語談話の構造、それを操る人間の情報処理機構の社会的な特性を学ぶ。 思考・判断の観点：談話の構造と機能を理解して、人の日常生活について適格に理解できるようにする。 関心・意欲の観点：談話資料の文字化、解釈作業を通じて、人々の社会的な振る舞いと園認知構造に対して、深い理解をもつ。 態度の観点：談話資料への解釈を続けることで、粘り強い解釈作業ができるようになる。 技能・表現の観点：談話資料の解釈結果を他の学生に提示し理解を得て、わかりやすい表現を学ぶ。

授業の計画（全体） 原則、初日に詳しく説明する。なお、初日の1時限目は必ず参加することが望ましい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 談話分析とは何か 内容 談話分析の概要
- 第 2 回 項目 社会文化的アプローチとは 内容 談話分析の基本的な間上げ方を理解する
- 第 3 回 項目 社会文化的アプローチとは
- 第 4 回 項目 相互行為分析 内容 相互行為分析系について理解する
- 第 5 回 項目 相互行為分析
- 第 6 回 項目 相互行為分析
- 第 7 回 項目 文字化の方法 内容 談話資料作成技術を学ぶ
- 第 8 回 項目 文字化の方法
- 第 9 回 項目 グラウンデッドセオリーアプローチ 内容 分析手法について学ぶ
- 第 10 回 項目 グラウンデッドセオリーアプローチ
- 第 11 回 項目 グラウンデッドセオリーアプローチ
- 第 12 回 項目 トランザクション分析 内容 内容分析について学ぶ
- 第 13 回 項目 トランザクション分析
- 第 14 回 項目 トランザクション分析
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席及びレポート等を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：対話と知, 茂呂雄二, 新曜社, 1997 年 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

メッセージ 討論と発表の時間を設けますので、積極的に自分の考えを述べてください。

備考 集中授業

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 形態論に関する講義を行う。文は、単語を有意味な順序に配列することによって、構成される。形態論においても、同様のことが言える。一般に複雑な単語は、複数の要素が規則的に配列されることによって造られる。その規則をデータから導き出すことが形態論の重要な仕事である。前期は、形態論についての説明、さらに形態論全体の考え方について講義する。 / 検索キーワード 形態論, 形態素, 単語, 複合名詞

授業の一般目標 単語の形態的特徴, 単語形成における規則についての理解。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教科書を読んで理解できること。 思考・判断の観点: 科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 関心・意欲の観点: 日本語だけでなく、英語をはじめとするその他の言語の単語構造にまで興味が広がるように。 技能・表現の観点: 考えた事を第三者に分かるように文章化する。

授業の計画(全体) 先ず形態論について、教科書を中心に講義をすすめる。教科書には参照文献、練習問題も付いているので、受講生には練習問題に取り組むこと、関連する文献を読むことも要求される。

成績評価方法(総合) 学期末試験を中心にする(70%)。授業外レポートと授業への参加状況(30%)。

教科書・参考書 教科書: 形態論と意味, 影山太郎, くろしお出版, 1999 年

メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話しを聞き、その時間の中で内容が理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 後期は、「肩叩き」「人助け」のように「名詞+動詞連用形」の形を持つ複合名詞について考察する。焦点となるのは、動詞連用形の中に組み込まれる第1項の名詞の性格である。これらの名詞には文法的に共通の特徴が認められることを明らかにする。 / 検索キーワード 名詞+動詞連用形, 複合名詞, 語構成, 語形成

授業の一般目標 データの提示能力と分析能力の向上を図る。その結果をどう整理して論文化するかを訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストを読んで、理解できること。 思考・判断の観点：科学的に考察できること。 関心・意欲の観点：日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 態度の観点：積極的に授業に参加し、自分自身の見解を述べること。

授業の計画(全体) 授業の内容について理解が得られたかどうかを確認しながら、次に進んでいく。講義で使う論文を講義前に読んでくることが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。講義はこの目的を果たすために、受講生の学習態度、理解度などを見ながら行う。

成績評価方法(総合) 内容についてのレポートを2回程提出してもらう(30%)。更に学期末試験を行う(70%)。

教科書・参考書 教科書：Hirano, Takanori 2002 Compound nouns of the type NVn in Japanese. Gengo Kenkyu 121, 19-48.

メッセージ 予習をしてもらうことが前提。内容をその講義の中で理解すること。理解しにくいところは質問すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp, Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には現在様々な言語が話されています。その数はなんと 6000 を超えています。したがって母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、できるだけ多くの言語を対象に研究する言語類型論という分野の文献を読むことで、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら考察を加えていきます。前期は「語順」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。 3 . 語順の基本的な考え方について理解する。

授業の計画(全体) (1) 印欧語における統語構造の変遷ー比較・類型論的考察 (2) 日本語の類型論的位置づけー特に語順の特徴を中心にー (3) 語順のタイプと線状化の原理 (4) 語順の分布と語順の変化

成績評価方法(総合) 出席点。課題。レポート。

教科書・参考書 教科書：世界言語への視座, 松本克己, 三省堂, 2006 年

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー fl566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には現在様々な言語が話されています。その数はなんと 6000 を超えています。したがって母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、できるだけ多くの言語を対象に研究する言語類型論という分野の文献を読むことで、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら考察を加えていきます。後期は様々な言語現象を説明するために必要となる「動詞分類」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。 3 . 動詞分類について理解する。

授業の計画(全体) (1) 自動詞と他動詞(能動詞と所動詞) (2) 動作動詞と状態動詞 (3) 継続動詞と瞬間動詞 (4) 達成動詞と行為動詞

成績評価方法(総合) 出席点。課題。レポート。

教科書・参考書 教科書：世界言語への視座, 松本克己, 三省堂, 2006 年； 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー fl566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和田学				

授業の概要 言語学は、人間の言語を科学的に解明することを目指す分野です。この講義では、言語学が何を対象とするか、どのような議論の方法を採るかについて講義します。

授業の一般目標 現代言語学が何を、どのように解明する分野か概要を理解します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の対象、議論の方法を学びます。 思考・判断の観点：講義における課題に基づいて、自分で議論を組み立てます。 態度の観点：出席、課題の不提出は欠格事項とします。

授業の計画（全体） 主に、日本語の事例を中心に言語学の目的と方法論について講義をします。また、講義に関連した課題を毎回レポートとして課します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 言語学は何をする学問か
- 第 2 回 項目 言語理論の特徴 内容 観察の理論依存性
- 第 3 回 項目 言語理論の特徴 内容 観察の理論依存性
- 第 4 回 項目 言語理論の特徴 内容 パズル解きとしての言語研究
- 第 5 回 項目 言語理論の特徴 内容 パズル解きとしての言語研究
- 第 6 回 項目 言語理論の特徴 内容 妥当性の 3 段階
- 第 7 回 項目 言語理論の特徴 内容 妥当性の 3 段階
- 第 8 回 項目 言語理論の特徴 内容 言語の再構の例から学ぶこと
- 第 9 回 項目 言語学におけるデータ 内容 抽象的構造
- 第 10 回 項目 言語学におけるデータ 内容 抽象的構造
- 第 11 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データの意味
- 第 12 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データの意味
- 第 13 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データ収集の問題点
- 第 14 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データ収集の問題点
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合） 言語学が科学であるというのとはどういうことかが理解できているか、定期試験で測ります。レポートの課題で「思考・判断」を、また出席、課題の提出で「態度」を測ります。

教科書・参考書 参考書：言語学の方法, 郡司隆男・坂本勉, 岩波書店, 1999 年

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	和田学				

授業の概要 この授業では日本語を題材に、文の構造にどのような要素があるか、また、それらが相互にどのように関連しているかを学びます。

授業の一般目標 この授業を通じて、文の分析に必要な基礎概念を学びます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文の分析にどのような基礎概念が必要で、なぜそれらが必要かを学びます。 思考・判断の観点：授業の内容に即してレポートを適宜課します。 態度の観点：出席、宿題の不提出は欠格事項となります。

授業の計画（全体）日本語の例を中心に、文の分析に必要な基礎概念を学ぶ。適宜レポートを課す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 文法とは何か
- 第 2 回 項目 言語表現における構造
- 第 3 回 項目 文の基本構造
- 第 4 回 項目 単文と複文
- 第 5 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 格
- 第 6 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 ヴォイス
- 第 7 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 テンス
- 第 8 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 アスペクト
- 第 9 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 モダリティ
- 第 10 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 演述文、情意表出文
- 第 11 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 訴え文、疑問文
- 第 12 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 感嘆文
- 第 13 回 項目 対照言語学的観点 内容 格、ヴォイスについて
- 第 14 回 項目 対象言語学的観点 内容 モダリティについて
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合）定期試験とレポートの内容で成績を評価する。欠席、レポートの不提出は欠格事項。

教科書・参考書 参考書：文法, 益岡隆志、仁田義雄、郡司隆男、金水敏, 岩波書店, 1997 年

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	江口正				

**授業の概要** 現代日本語（方言も含む）の副詞節の分析を題材に、統語論・意味論の研究手法を学びます。副詞節の研究のためには、述語の諸性質（テンス・アスペクト・ムード・視点など）をはじめ、主語の問題、命題間の論理的諸関係、副詞的修飾の意味論的諸問題など、文法研究で扱われる問題の多くが関わります。本講義では例を示したり各自で例文を考えてもらったりしながら文法的な分析の実際を知り、グループ作業を通してその基礎技術を身につけてもらうことを目標とします。

**授業の一般目標** 本講義の基本的な目標は、文法分析に必要な例文の収集・整理および作例の作成ができるようになることです。文法研究においては、まず基礎事実の確認のため、用例を収集し整理することが必要です。特に用例の整理のためにはさまざまな文法的な観点が必要になりますので、その観点を学んでもらうのが第一の目標です。整理の段階で何らかの規則性が見つかったら、次にそれを一般化するために例文（特に非文）を自ら作り、その規則性の是非を示すことができるようになる必要があります。文法的な性質を明らかにできるような例文を作れるようになることが第二の目標です。

**授業の計画（全体）** まず初めに文法研究の基本的な目標を明らかにし、講義で扱う従属節／副詞節についての概説をします。（1～2時間程度）次に文法的な分析のための基本的な観点を紹介します。（3時間程度）分析の道具が揃ったら副詞節を個別に取り上げてゆき、実際に分析を加えていきます。それぞれの分析結果は小レポートとして毎日提出してもらいます。

**成績評価方法（総合）** 毎日講義が終わった後に、その日の作業と考察の記録をまとめ、小レポートとして提出してもらいます。これを主たる評価の対象とします。（70％）授業は講義をしながらもときどきグループ作業をしてもらいますので、出席およびグループ作業でのグループへの貢献度も評価の対象とします。（30％）

**備考** 集中授業



開設科目	言語学演習（音声と音韻）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 実験音声学の授業です。この授業では、音声分析ソフトを使って通常の言語研究の方法では捉えにくい音声特徴を分析し、体系化することを試みます。なお、題材として今年度は「関西弁」などの方言の生データを取り扱います。

授業の一般目標 音声分析ソフトを使って、音響データを取り扱えるようになる。方言のアクセントやイントネーションをパターンを分析できるようになる。

授業の計画（全体）(1) 音声分析ソフトの使い方をマスターし、音声を録音して分析する。(2) グループに分かれてパワーポイントを使って発表する。

成績評価方法（総合）出席点。発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：『日本語音声学入門改訂版』，斉藤純男，三省堂，2006 年

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（音声と音韻）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 実験音声学の授業です。この授業では、音声分析ソフトを使って通常の言語研究の方法では捉えにくい音声特徴を分析し、体系化することを試みます。なお、題材として今年度は「関西弁」などの方言の生データを取り扱います。

授業の一般目標 1．音声分析ソフトを使って、音響データを取り扱えるようになる。 2．方言のアクセントやイントネーションを分析できるようになる。

授業の計画（全体）(1) 音声分析ソフトの使い方をマスターし、音声を録音して分析する。(2) グループに分かれてパワーポイントを使って発表する。

成績評価方法（総合）出席点。発表。レポート。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 柴谷・影山・田守『言語の構造 - 意味・統語篇』を教科書にして、音声学・音韻論を除く言語学全般について具体例を交えながら学習する。この学期は、意味論とは何か、意味の分解、語と語の関係 I: 単語のグループ的な関係、語と語の関係 II: 単語のグループを文になるように並べる関係、文と情報、語用論：言葉の使い方、を演習によって理解する。 / 検索キーワード 意味論、統語論、語用論

授業の一般目標 1. 具体例を見ながら、説明を理解すること。2. 練習問題を自分で解く。3. 言語学の他の分野にも関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：統語論、意味論、語用論における基礎的知識。 思考・判断の観点：言語の意味、文の本質、話し手・聞き手のコミュニケーションについて問題を掘下げる能力。 関心・意欲の観点：言語構造の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。 態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をして来るということを意味する。

授業の計画(全体) 音声学・音韻論を除く言語学全般について具体例を交えながら学習する。この学期は、意味論とは何か、意味の分解、語と語の関係 I: 単語のグループ的な関係、語と語の関係 II: 単語のグループを文になるように並べる関係、文と情報、語用論：言葉の使い方

成績評価方法(総合) 試験50%、演習内容とレポート50%。

教科書・参考書 教科書：言語の構造 - 意味・統語篇, 柴谷・影山・田守, くろしお, 1982年

メッセージ 理解するためには、演習の部分を毎回最低2回は読むつもりで。

連絡先・オフィスアワー Mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 柴谷・影山・田守『言語と構造 - 意味・統語篇』を使って主に統語論を学習する。この学期は次のことに焦点を置き、演習形式で授業を進める。統語論とは何か、文の構造、表層構造と深層構造、統語現象 I, 統語現象 II, である。難しいと思われるところは省略している。/ 検索キーワード 文、階層関係、協調の原理

授業の一般目標 1. 説明を理解する。2. 練習問題を自分で解く。3. 興味の範囲を広げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 言語学における統語論、文の形成と理解。 思考・判断の観点: 文には意味を正しく伝えるための構造があることを、テキストの説明と練習問題によって理解する。内容を理解した上で、文の構造の分析へと進むことが大切。まず自分で考えること。 関心・意欲の観点: 統語論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。 態度の観点: 授業に参加するということは、同時に予習をして来るということである。

授業の計画(全体) この学期は、次のことについて学習する。統語論とは何か、文の構造、表層構造と深層構造、統語現象 I, 統語現象 II。

成績評価方法(総合) 試験50%、演習内容50%。

教科書・参考書 教科書: 言語の構造, 柴谷・影山・田守, くろしお, 1982年

メッセージ 必ず予習をすること。

連絡先・オフィスアワー Mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 617

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 ここでは、とりたて助詞「は」について取扱う。この学期では、久野 氏の『日本文法研究』を使って、「は」の働きについて理解する。とりたて助詞「は」と並行して、「が」の機能についても学ぶ。  
 / 検索キーワード は, が, 主題, 対照, 中立叙述, 総記

授業の一般目標 「は」には、発話される状況によって二つの意味があることを理解する。そしてそのときの条件について吟味する。「は」の二つの意味、つまり「主題の意味」と「対照の意味」がどのような文脈において発現するかを考える。また、同時に「が」についても考察する。「は」の働き、「が」の働きについて言語学的に理解することが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書の内容の理解。 思考・判断の観点：なぜそうなるのかを考える。

授業の計画(全体) 教科書は日本語で書かれているが、英語版もある。必要な章を読みこなし、理解できたかを確認しながら、更に次の章へと進んでいく。もし理解できないところがあれば、英語版を参照しながら授業を進める。最初は「が」の働きについて、その後「は」の働きについて、久野氏の説明に基づいて理解を深める。

成績評価方法(総合) 試験70%、レポート30%。

教科書・参考書 教科書：日本文法研究, 久野 , 大修館, 1973年

メッセージ 必ず予習をしてこること。そして、発表できるように準備すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Jinbun 6F, 617

開設科目	言語学演習(意味と統語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 この学期では、前期に引き続き、「は」の働きについて考察する。前期で得た知識に基づいて、「は」の「主題的意味」と「対照的意味」について、「この二つの意味がどのようにして導き出されるのか」を検討する。結論としては、主題的意味が基本であり、その根底には、前景化という「とりたて」機能が備わっている。この機能に、どのような条件が加われば対照的意味が発現するのかを探求する。/ 検索キーワード は、主題, 対照, 総記。

授業の一般目標 「は」の意味を解明するためには、どう考えればよいのか。言語学的な考え方に基づいた解答を期待する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：内容の理解。 思考・判断の観点：内容を理解するために言語学的に考察する。 態度の観点：日頃の予習と復習を重視する。

授業の計画(全体) 拙論の「八の主題的意味と対照的意味」(未発表)をテキストにする。受講生に対して、これを読みながら内容を理解するように、また内容について十分考察できるように仕向けていく。

成績評価方法(総合) 試験100%。

メッセージ 予習、復習を必ず。こちらも受講生に分かりやすいように、工夫する。

連絡先・オフィスアワー e-mail:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office:人文 617 研究室

開設科目	言語学演習(言語理論)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 3年生・4年生対象のゼミ演習です。4年生の卒業論文テーマを題材にして、論文指導を行います。

授業の一般目標 1. 卒業論文のテーマを探す。 2. TeXによる論文作成術をマスターする。 3. パワーポイントを使った発表方法に慣れる。

授業の計画(全体) 毎回4年生が順番に自分の研究テーマについてパワーポイントを使って発表し、全員で討論する。3年生は授業を通して自分の卒論テーマを考える。

メッセージ ゼミ生は特別な事情がない限り、必ず履修してください。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習(言語理論)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 3年生・4年生対象のゼミ演習です。4年生の卒業論文テーマを題材にして、論文指導を行います。後期はグループ毎に分かれて、卒論テーマについて話し合います。

授業の一般目標 1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。

授業の計画(全体) 集めたデータをどう処理するのか、論文の構成をどうするのか、実践的に勉強していきます。

メッセージ ゼミ生は特別な事情がない限り、必ず履修してください。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	個別言語演習(アメリカ・ヨーロッパ地域)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

**授業の一般目標** ウェールズ語の基礎勉強(初心者向け)を行う。

**授業の計画(全体)** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

**成績評価方法(総合)** テストを判断資料とし、総合的に判断する。

**教科書・参考書** 教科書：テキストを使わずに、入門書、字引、プリント等を配布する。文法に関するテキスト 水谷 宏(著)「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis(著)「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。  
/ 参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介する。

開設科目	個別言語演習(アメリカ・ヨーロッパ地域)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** 「ウェールズ語」Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にするが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

**授業の一般目標** ウェールズ語(中級程度)を勉強する。

**授業の計画(全体)** 「ウェールズ語」Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にするが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

**成績評価方法(総合)** テスト及びレポートで判定します。

**教科書・参考書** 教科書：文法に関するテキスト 水谷 宏(著)「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト 「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis (著)「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。 / 参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介します。

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語があります。日本語や皆さんがよく知っているヨーロッパやアジアの言語とは全く異なる言語構造をしている言語もあります。この授業ではエチオピアで話されている主要言語の言語特徴を解説することを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけが独立して存在しているわけではありません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強です。

授業の一般目標 言語の多様性について理解を深める。エチオピアの文化を理解する。言語と文化の関係について理解を深める。

授業の計画（全体） エチオピアの主要言語を取り上げ、その音、文法、語彙などを勉強していきます。

教科書・参考書 教科書：適宜資料（文字・音声）を配付します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語があります。日本語や皆さんがよく知っているヨーロッパやアジアの言語とは全く異なる言語構造をしている言語もあります。この授業ではエチオピアで話されている主要言語の言語特徴を解説することを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけが独立して存在しているわけではありません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強です。

授業の一般目標 言語の多様性について理解を深める。エチオピアの文化を理解する。言語と文化の関係について理解を深める。

授業の計画（全体） エチオピアの主要言語を取り上げ、その音、文法、語彙などを勉強していきます。

教科書・参考書 教科書：適宜資料（文字・音声）を配付します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** This course is an Introduction to Formal Semantics, the analysis of linguistic meaning. What aspects of the meaning of natural language sentences are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for use by computer. How can linguistic meaning be used with other information stored in a computer?

**授業の一般目標** An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.

**授業の計画 (全体)** In this first term, the course will survey the field, and look at how a representation of meaning can be produced automatically from natural language input and then used to get information from databases.

**成績評価方法 (総合)** Written examination

**教科書・参考書** 教科書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治著, サイエンス社, 2000年; 吉村賢治(著)「自然言語処理の基礎」サイエンス社 2000年 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

**メッセージ** 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This continues last term's course on Semantics for Computational Linguistics ( 中級程度 )

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.

授業の計画 ( 全体 ) This second term of the course will concentrate on more detailed analyses of particular areas of meaning, including tense, quantification, word meaning, and discourse coherence.

成績評価方法 ( 総合 ) Written examination

教科書・参考書 教科書：吉村賢治 ( 著 ) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 / 参考書：Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年；吉村賢治 ( 著 ) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** 初心者向けのプログラミングの授業。基礎からプログラミングを学ぶ。A beginners' course in computer programming using the programming language Prolog. Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data. Running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the data. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in syntax and semantics.

**授業の一般目標** 「プロログ」というプログラミング言語で、プログラミングを基礎から応用までを学ぶ。

**授業の計画(全体)** Week by week we will introduce the basic techniques of Prolog programming and practice using them.

**成績評価方法(総合)** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

**教科書・参考書** 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog入門」(授業で配布します。)/ 参考書：松田紀之(著)「PROLOGを楽しむ」オーム社 平成5年中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミングII」岩波新書 1992 古川康一(著)「Prolog入門」オーム社 1986 黒川利明(著)「Prologのソフトウェア作法」岩波新書 1989

**メッセージ** 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 プロログプログラミング (中級) Advanced programming in Prolog プロログで自然言語処理を応用する (NOT for beginners)

授業の一般目標 自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画 (全体) プロログで自然言語処理を応用する Natural language programming in Prolog. Three projects: (1) analysis and translation of English and Japanese numbers (2) holding a conversation with the computer in English (3) translation between English and Japanese.

成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書: 岡田朋子 (著) 「Introduction to Prolog Prolog 入門」 (授業で配布します。) / 参考書: 松田紀之 (著) 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀 (著) 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一 (著) 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明 (著) 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。



開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 言語研究をする上で、言語の地理的分布という観点はとても大切です。たとえば言語や方言が変化する場合、隣接している言語や方言からの外的要因は無視できません。この授業では、従来扱いが難しかった言語地図をパソコン上で共有できるソフトを使って、デジタル言語地図を作り、そこにデータを入力して分析することを通して、言語接触や言語特徴の解析を行うことを目的とします。

授業の一般目標 1 . 言語接触について理解を深める。 2 . 言語・方言のデータベースを作る練習をする。 3 . ソフトを使って分析する。

授業の計画(全体) (1) GIS(地理情報システム)のソフトの使い方をマスターする。(2) 言語(あるいは方言)毎の言語データベースを構築する。(3) GIS ソフトを使って、分析する。

成績評価方法(総合) 出席。発表。レポート。

メッセージ ノートパソコンを使います。少人数で行います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 言語研究をする上で、言語の地理的分布という観点はとても大切です。たとえば言語や方言が変化する場合、隣接している言語や方言からの外的要因は無視できません。この授業では、従来扱いが難しかった言語地図をパソコン上で共有できるソフトを使って、デジタル言語地図を作り、そこにデータを入力して分析することを通して、言語接触や言語特徴の解析を行うことを目的とします。

授業の一般目標 1. 言語接触について理解を深める。 2. 言語・方言のデータベースを作る練習をする。 3. ソフトを使って分析する。

授業の計画(全体) (1) GIS(地理情報システム)のソフトの使い方をマスターする。(2) 言語(あるいは方言)毎の言語データベースを構築する。(3) GIS ソフトを使って、分析する。

成績評価方法(総合) 出席。発表。レポート。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Ernst S. Boyd				

**授業の概要** COURSE CONTENTS (topics will depend on student interest) Using PROLOG as a database The simplest use of PROLOG is as database. It requires no programming at all. PROLOG list processing functions PROLOG like LISP is primarily a list processing language. List processing is especially important for artificial intelligence and doing advanced problems easily. Generating natural language sentences Using a simple generative grammar and a small dictionary of some nouns, verbs .. natural language sentences can be easily generated Generating sentences in two languages To make equivalent sentences in two languages requires only a small change to the dictionary. Generating sentences together with situations Similar to generating a second language, a representation of a situation or scene to go with a sentence can be easily formed. For example positions of a few blocks. Translation between languages When the sentence in one language is given the second can be formed using the input sentence as a restriction. The sentence generation program can be used almost as is for this. Performing commands on a scene Performing commands involves constructing before and after scenes together with the commands ordering the change. This can be used with any combination of the before scene, the after scene, or the command sentence known from the start.

**メッセージ** 現代科学技術の基本となるコンピュータ言語を楽しく勉強しましょう！

# 言語文化学科 各コース共通科目

開設科目	文学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	合山 究				

授業の概要 次の四つの項目について講じる。(1)文学・思想・人間・社会を捉える基本としての「対」的思考法 \* 儒家と道家の思想的相違を中心として (2)風土から見た文学研究 \* 中国の自然風土とその文化的特徴 \* 東西文化の風土的考察 (3)女性観・恋愛観の種々相 \* 節婦烈女の生き方 \* スタンダールの恋愛論 \* 『源氏物語』と『紅樓夢』 (4) 中国文人論 \* 中国文人の世界 \* 漱石、鴎外などに与えた中国文人の生き方 \* エマソン、ソローの自然観と中国文人の自然観

授業の一般目標 文学研究や人間研究について、広い視野に立って考える力を養う。そのためにはまず、人生観、人間観、世界観の基本観点である「対」的思考法を身につける必要がある。それを踏まえた上で、上記「概要」の(2)(3)(4)に挙げた具体的問題について、比較文化的視点から掘り下げて考察し、文学研究の醍醐味を味わう。

授業の計画(全体) 上記の「授業の概要」に挙げた通りに、順次講義する。

成績評価方法(総合) 出席とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する / 参考書：プリントを配布する

備考 集中授業

# 人文学部 各学科共通科目

開設科目	法学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	道廣 泰倫				

授業の概要 まず、法とは何であるかという法の基礎理論を学び、次いで法体系の各法である憲法、行政法、刑法、訴訟法、民法、商法、労働法、社会保障法および国際法を概論的に学ぶ。

授業の一般目標 学生諸君が、一般社会人として必要な法的知識と法的なものの考え方を身につけて、法的に対応できる社会人・職業人となることを目標とする。

授業の計画（全体） 授業中にて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 法と他の社会規範との比較
- 第 2 回 項目 法による社会秩序の維持と正義の実現
- 第 3 回 項目 権利と義務から成る法律関係
- 第 4 回 項目 公法、私法および社会法による法の分類
- 第 5 回 項目 憲法 内容 基本的人権、国の統治機構
- 第 6 回 項目 行政法 内容 国の行政、地方自治体の行政
- 第 7 回 項目 刑法 内容 犯罪の成立要件
- 第 8 回 項目 訴訟法 内容 民事訴訟、刑事訴訟
- 第 9 回 項目 民法 内容 物権、債権、親族、相続
- 第 10 回 項目 商法（会社法） 内容 株式会社、合名会社、合資会社、合同会社
- 第 11 回 項目 労働法 内容 個別的労働関係、団体的労働関係
- 第 12 回 項目 社会保障法 内容 児童福祉、高齢者福祉
- 第 13 回 項目 国際法 内容 国際紛争の平和的解決
- 第 14 回 項目 法の解釈の方法 内容 文理解釈、論理解釈
- 第 15 回 項目 前期末試験

成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

教科書・参考書 教科書：現代法学（第 2 版）、道廣泰倫、法律文化社、2002 年

開設科目	現代法（国際法を含む。）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	道廣 泰倫				

授業の概要 法は古代法から中世法、近代法および現代法へと発展してきているので、まず古代法、中世法および近代法の特徴について学び、次いで、とくに近代法との関係で、現代法の特徴を各法の基本原理をとおして学ぶ。

授業の一般目標 近代法の体系は私法と公法から成っていたが、現代法の体系は、さらに社会法が追加されている。なぜそうなったのかを理解することを目標とする。

授業の計画（全体） 授業中にて説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古代法の特徴 内容 ハムラビ法典、ローマ法
- 第 2 回 項目 中世法の特徴 内容 教会法、都市法、封建法
- 第 3 回 項目 近代法の特徴 内容 私法、公法
- 第 4 回 項目 日本国憲法の基本原理 内容 民主主義、自由主義、平等主義、福祉主義、平和主義
- 第 5 回 項目 行政法の基本原理 内容 法治主義
- 第 6 回 項目 刑法の基本原理 内容 罪刑法定主義
- 第 7 回 項目 財産法の基本原理 内容 契約自由の原則、過失責任の原則、所有権絶対の原則
- 第 8 回 項目 家族法の基本原理 内容 個人の尊厳と両性の本質的平等
- 第 9 回 項目 商行為法の基本原理 内容 迅速な商取引の決済
- 第 10 回 項目 会社法の基本原理 内容 株主平等の原則
- 第 11 回 項目 社会保障法の基本原理 内容 生存権の保障
- 第 12 回 項目 訴訟法の基本原理 内容 当事者主義
- 第 13 回 項目 国際法の基本原理 内容 国際平和
- 第 14 回 項目 現代法の特徴 内容 社会法の登場
- 第 15 回 項目 前期末試験

成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

教科書・参考書 教科書：現代法学（第 2 版）、道廣泰倫、法律文化社、2002 年



開設科目	人文地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川村 博忠				

授業の概要 16世紀中頃日本人がはじめて西洋人と接触して以来、長い鎖国の時代を経て、19世紀後半に門戸を開くまで約300年間における日本人の海外知識の進展過程を世界地理書の著述および世界地図の刊行などを主軸にして考える。/ 検索キーワード 鎖国 坤輿万国全図 新井白石 山村戈助 高橋景保

授業の一般目標 鎖国という情報の閉ざされた環境のもと、ときには封建社会の迫害を受けながらも世界知識の摂取に尽力して近世における世界地理学(興地学)の発展に寄与した近世日本人の知識潮流の系列を理解したい。

授業の計画(全体) 授業中において説明する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 近世以前日本人の世界観
- 第2回 項目 三国世界観からの脱却
- 第3回 項目 朱印船時代の海外知識
- 第4回 項目 長崎で萌芽した續地理学
- 第5回 項目 新井白石の世界地理研究
- 第6回 項目 漢訳西洋知識の受容
- 第7回 項目 経世論の北方への関心の高まり
- 第8回 項目 蘭学の興隆と新しい世界観の勃興
- 第9回 項目 地動説の登場
- 第10回 項目 世界地誌と地図の飛躍的進展
- 第11回 項目 蘭学の公学化と幕府の思想統制
- 第12回 項目 洋学への転換と方図の出現
- 第13回 項目 幕末遣外使節の西洋体験
- 第14回 項目 東洋系世界図の変容と通俗版世界図の流布
- 第15回 項目 明治啓蒙期における地理学

成績評価方法(総合) 期末試験と出席状況によって評価する。出席は特に重視する。

教科書・参考書 教科書：近世日本の世界像, 川村博忠著, ぺりかん社, 2003年 / 参考書：参考書に関しては、授業で紹介する。

メッセージ 受講中は私語を慎んで欲しい。受講にはできるだけ「世界地図」を持参されたい。

開設科目	自然地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	貞方 昇				

授業の概要 日本列島の現景観が、いかに人間の営みと密接に結びついて作られてきたかを理解することを目指す。すなわち、日本人が縄文時代以来、古代、中世などの歴史時代を経て今日に至るまで、自然の諸条件をどのように利用して、私たちが今日見るような日本の土地 景観を作り上げてきたかを学ぶ。  
 / 検索キーワード 日本列島、自然環境、土地環境、景観

授業の一般目標 日本列島の現景観が、以下に人間の営みとともに歴史的に作られてきたかを理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに：自然 と土地環境
- 第 2 回 項目 I . 日本列島の 土地環境基盤と 人間生活への意 義 1 . 島孤とし ての特徴 ( 日本列島の自 然条件 1 )
- 第 3 回 項目 2 . 地球環境 変動のもとでの 日本列島 ( 日本列島の自 然条件 2 )
- 第 4 回 項目 II . 新石器時代 の日本列島と人 間生活 1 . 縄文期遺 跡立地と土地環 境
- 第 5 回 項目 2 . 全国各地 の水田遺構と土 地環境
- 第 6 回 項目 III . 古代の土地 環境利用とその 変貌 1 . 古墳群の 立地と土地環境 の変化
- 第 7 回 項目 2 . 条里制土 地割と土地環境 変化 3 . ため池と 環境利用
- 第 8 回 項目 IV . 中世の土地 環境利用とその 変貌 1 . 辺境の開 墾と土地環境変 化
- 第 9 回 項目 2 . 戦国大名 の土地開発と環 境変化
- 第 10 回 項目 V . 近世の土地 環境利用とその 変貌 1 . 大規模河 川改修と土地環 境変化
- 第 11 回 項目 2 . 新田開発 の推移と土地環 境変化
- 第 12 回 項目 3 . 鉱物採取 と土地環境変化
- 第 13 回 項目 VI . 近・現代の 土地環境利用と その変貌 1 . 大規模農 地・宅地造成と 土地環境変化  
2 . 大規模土 石(砂利・陶土) 採取と土地環 境変化
- 第 14 回 項目 3 . 掘り込み 式港湾と土地環 境変化 4 . 大規模地 形改変の量的評 価と土地環境変 貌の意義
- 第 15 回 項目 まとめ：日本列 島の土地環境と は

成績評価方法(総合) 授業時の課題、地図作業、期末試験をあわせて評価する。

教科書・参考書 教科書：授業時にプリント・地図類を配付する。 / 参考書：土地に刻まれた歴史(岩波新書), 古島敏雄, 岩波書店, 1967 年; 中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌, 貞方 昇, 溪水社, 1996 年; 古代の環境と考古学, 日下雅義編, 古今書院, 1995 年; 歴史地理調査ハンドブック, 有菌正一郎他, 古今書院, 2001 年; 地形環境と歴史景観, 日下雅義編, 古今書院, 2004 年

連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00 ~ 13:00

開設科目	地誌	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井 宏志				

授業の概要 国際化の進んだ現在、日本は世界中の国々と国際関係をもち、日常的に交流するようになった。偏見なしに豊かな交流を行うには、これらの国々の自然、政治、経済、文化、社会など総合地誌として正確な理解が必要である。ここでは、正確な情報の得にくい途上国の地誌を中心に学ぶ。/ 検索キーワード 総合地誌、地誌情報、国際交流、途上国

授業の一般目標 途上国の地誌を学び、正確な情報を理解し、わが国や私達の果たすべき役割を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各国の地誌情報を分析し、理解する。 思考・判断の観点：各国の現状と将来について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点：途上国について関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常の情報の中で途上国を主体的に考えることができる。

授業の計画（全体） 外国地誌の学び方の難しさをパラオ共和国を例にとり学ぶ。その後、アジアの国々、ラテンアメリカの国々、アフリカの国々について学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地誌入門（1） 内容 外国を理解することの難しさ 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 2 回 項目 地誌入門（2） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 3 回 項目 地誌入門（3） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 4 回 項目 アジア 内容 アジアの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 5 回 項目 フィリピン（1） 内容 フィリピンの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 6 回 項目 フィリピン（2） 内容 フィリピンの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 7 回 項目 タイ 内容 タイの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 8 回 項目 ラテンアメリカ 内容 ラテンアメリカの特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 9 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 10 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 11 回 項目 パラグアイ（1） 内容 パラグアイの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 12 回 項目 パラグアイ（2） 内容 パラグアイの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 13 回 項目 アフリカ 内容 アフリカの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 14 回 項目 エジプト 内容 エジプトの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント
- 第 15 回 項目 コートジボワール 内容 コートジボワールの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント

成績評価方法（総合） 出席状況を重視する。

教科書・参考書 教科書：毎時間プリントを配布。/ 参考書：授業中に指示します。

メッセージ 各国の人々と各国の地球上の位置が頭に浮かぶように

連絡先・オフィスアワー 082 - 878 - 8112

開設科目	政治史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 主に 1931 年の満州事変から 1945 年の日本敗戦までの 15 年間にわたり続けられたアジア太平洋戦争史を中心にして講義を勧める。 / 検索キーワード 戦争責任 過去の克服 歴史とは何か

授業の一般目標 政治史だけでなく、社会史・文化史などにも触れながら、この時代を対象とする歴史認識をどのように形成していくかを考える。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の概要説明
- 第 2 回 項目 満州事変への道 ( 1 )
- 第 3 回 項目 満州事変への道 ( 2 )
- 第 4 回 項目 日中戦争の背景 ( 1 )
- 第 5 回 項目 日中戦争の背景 ( 2 )
- 第 6 回 項目 軍部政権と政党政治 ( 1 )
- 第 7 回 項目 軍部政権と政党政治 ( 2 )
- 第 8 回 項目 国家総動員体制の確立
- 第 9 回 項目 大政翼賛会の成立
- 第 10 回 項目 日米英戦争の原因 ( 1 )
- 第 11 回 項目 日米英戦争の原因 ( 2 )
- 第 12 回 項目 戦局の展開と帰結
- 第 13 回 項目 日本の敗戦過程 ( 1 )
- 第 14 回 項目 日本の敗戦過程 ( 2 )
- 第 15 回 項目 全体の総括
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 適時レポートの提出を求める。最終試験は論述試験を課す。

教科書・参考書 教科書：近代日本の政軍関係，瀧瀬厚，大学教育社，1987 年；『日本陸軍の総力戦政策』，瀧瀬厚，大学教育出版，1999 年；『侵略戦争』，瀧瀬厚，筑摩書房，1999 年 / 参考書：日本近代史概説，瀧瀬厚他，弘文堂，2003 年；近代日本政軍関係史の研究，瀧瀬厚，岩波書店，2005 年；侵略戦争，瀧瀬厚，筑摩書房，1999 年；文民統制，瀧瀬厚，岩波書店，2005 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制，瀧瀬厚，凱風社，2006 年；聖断虚構と昭和天皇，瀧瀬厚，新日本出版社，2006 年；憲兵政治，瀧瀬厚，新日本出版社，2008 年

メッセージ 歴史学アプローチからする現代の読み解きを

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.1:00-2:30(Thursday) TEL/933-5278

開設科目	ギリシア語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	筒井 明子				

授業の概要 西洋文化の基底としてのギリシア語はキリスト教、中世を経て、近現代に迄、脈々と続いています。英語の theory は「観想」を意味するテオリアから、また psychology は「魂」を意味するプシュケーに由来しています。この例からも分かる通り、一度ギリシア語に触れておくと意外な場面で、学習の成果が現れて、先々で役に立つことがあります。古典語としてのギリシア語は西洋文化の深層部分で作用しているのです。 / 検索キーワード 西洋思想文化の源流

授業の一般目標 前期 ギリシア語初歩の基礎的な知識を獲得する。 後期 ギリシア語の基礎的な文法力を応用できるようにする。

授業の計画(全体) 前期 ギリシア語の音読、筆記を踏まえて、初級の知識を身につける。最初の内には作文も課す。 授業の進度は適宜変更する。 後期 前半期での基礎的知識の応用力をつけると共に、構文把握力を身につける。 授業の内容、進み方は適宜変更する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号
- 第 3 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 4 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 5 回 項目 動詞変化・現在直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 6 回 項目 名詞変化・第一変化(A - 変化(1)) 内容 作文もする
- 第 7 回 項目 名詞変化(A - 変化(2)) 内容 作文もする
- 第 8 回 項目 未来直説法・能動相 < BR > A - 変化(3) 内容 作文もする
- 第 9 回 項目 A - 変化(4) < BR > 未完了過去・直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 10 回 項目 名詞第二変化 < BR > 形容詞 内容 作文もする
- 第 11 回 項目 前置詞 < BR > アオリスト直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 12 回 項目 現在完了及び過去完了・直説法・能動相 < BR > 指示代名詞及び強意代名詞 内容 作文もする
- 第 13 回 項目 直説法・能動相・本時称の人称語尾 < BR > 直説法・能動相・副時称の人称語尾
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」の現在直説法 < BR > 疑問代名詞及び不定代名詞
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 現在・未来過去及び未来直説法・中動相
- 第 17 回 項目 アオリスト、現在完了・過去完了及び未来完了のの通訳法中動相 < BR > 再帰代名詞、相互代名詞及び所有代名詞
- 第 18 回 項目 第 2 アオリスト直接法能動相及び中動相 < BR > 直接受動相・同士の主要部分
- 第 19 回 項目 第 3 変化の名詞一(1) < BR > 能相欠動詞、約音動詞(1)
- 第 20 回 項目 第 3 変化の名(2) < BR > 約音動詞(2)
- 第 21 回 項目 黙音幹動詞の完了諸形・直接法中受動相 < BR > 第 3 変化の形容詞(1)
- 第 22 回 項目 流音幹動詞のアオリスト、未来現在完了、過去完了の直説法能動及び中動相 < BR > 第 3 変化の名詞(3)
- 第 23 回 項目 接続法能動相 < BR > 接続中動及び受動相
- 第 24 回 項目 母音交替 < BR > 条件文
- 第 25 回 項目 約音動詞の接続法 < BR > 不定法(1)
- 第 26 回 項目 不定法(2) < BR > 第 3 変化の名詞(4)
- 第 27 回 項目 関係代名詞 < BR > 希球法能動相

第 28 回 項目 希球法中動及び受動相 < BR > 第 3 変化の形容詞 ( 2 )

第 29 回 項目 約音動詞の希球法 < BR > 第 3 変化の名詞 ( 5 )

第 30 回 項目 年度末試験

成績評価方法 (総合) 年間を通して、ギリシア語の基礎的文法力を理解できているか。年間を通して、ギリシア語の基礎的構文把握力が身についているか。作文、訳、試験、テキストの練習問題を訳させ、最終試験の結果を見て判断する。主として平素の努力を重視する。

教科書・参考書 教科書：ギリシア語入門 (改訂版), 田中美知太郎、松平千秋 (共著), 岩波書店 / 参考書：A Greek-English Lexicon Oxford intermediate, ; 参考書は希望者のみ

開設科目	ラテン語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	筒井 明子				

授業の概要 ラテン語は近現代のロマンス語の元であり、且つ英語などにも多大な影響を与えた言葉です。英語の語源を探っていくとそこにラテン語が介在していることがしばしばあります。またこの授業では触れませんが、病理学や化学などの専門用語としてその名残をとどめています。この様にラテン語は、一度学習すると将来に向けての様々な選択肢ができる可能性を秘めた言葉なのです。 / 検索キーワード 西洋思想文化の源流

授業の一般目標 前期 ラテン語の中級程度の文法力を身につける。後期 普通のラテン語が難なく読め、ラテン語が様々な語学に与えている影響を理解する。 中・上級者向けの構文把握力を身につける。

授業の計画(全体) 前期 ラテン語の基礎的文法力を身につける。 授業の進度は適宜変更する。後期 ラテン語の構文を理解できるようにする。応用問題を適宜レポートして課す。 授業の進度は適宜変更する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 2 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 3 回 項目 動詞変化(第 1、第 2 変化動詞)
- 第 4 回 項目 名詞変化(第 1 変化名詞)
- 第 5 回 項目 名詞変化(第二変化名詞) < BR > 形容詞変化
- 第 6 回 項目 前置詞 < BR > 動詞変化(第 3、第 4 変化動詞)
- 第 7 回 項目 人称代名詞 < BR > 未完了過去・直説法・能動相
- 第 8 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(1)) < BR > 未来・直説法・能動相
- 第 9 回 項目 指示代名詞 < BR > 第 3 変化・形容詞変化
- 第 10 回 項目 完了・直説法・能動相 < BR > 名詞変化(第 3 変化名詞(2))
- 第 11 回 項目 関係代名詞 < BR > 過去完了・未来完了・直説法
- 第 12 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(3)) < BR > 疑問文
- 第 13 回 項目 命令法・能動相 < BR > 名詞変化(第 3 変化名詞(4))
- 第 14 回 項目 受動相・直接法・現在・未完了過去・未来 < BR > 形容詞変化(第 3 変化形容詞(2))
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 副詞 < BR > 受動相・完了系時称
- 第 17 回 項目 形容詞と副詞の比較級と最上級
- 第 18 回 項目 名詞変化・第 4 変化名詞 < BR > 形容詞・副詞の不規則比較級・最上級
- 第 19 回 項目 命令法・受動相 < BR > 名詞変化・第 5 名詞変化
- 第 20 回 項目 分詞 < BR > 不規則動詞
- 第 21 回 項目 数詞 < BR > 絶対的奪格
- 第 22 回 項目 不定法(1) < BR > 不定法(2)
- 第 23 回 項目 接続法・現在 < BR > 非人格動詞及び非人称用表現
- 第 24 回 項目 接続詞の形容詞不定代名詞 < BR > 接続法・未完了過去 Supinum
- 第 25 回 項目 Gerundium Gerundivum
- 第 26 回 項目 接続法・完了・過去完了 < BR > ギリシア系名詞の変化
- 第 27 回 項目 接続詞と従属文 < BR > 名詞的な目的文
- 第 28 回 項目 副詞的な目的文 < BR > 傾向・結果文
- 第 29 回 項目 間接疑問文 < BR > 比較文
- 第 30 回 項目 年度末試験



成績評価方法 (総合) 前期 ラテン語の基礎的变化を身につけて、問題を訳させる。主として平素の努力を重視する。後期 テキストの練習問題を音読して、訳出する。後期末に最終試験を行う。主として平素の努力を重視する。

教科書・参考書 教科書：新ラテン文法, 松平千秋・国松吉之助(共著), 東洋出版 / 参考書：羅和辞典(改訂新版), 田中秀央編, 研究社, 1966年; (希望者のみ)

開設科目	書道	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	佐貫 陸子				

授業の概要 本授業では実用書から芸術書まで応じられる書技を演習し、審美眼を養い、素質教育(一人一人の素質を高める)の有効な一手段として活用出来るようにする。/ 検索キーワード 書く。

授業の一般目標 漢字五体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)と仮名の美を学ぶ。特に楷書・行書は指導者レベルまで書写能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 書体の変遷と筆法を理解する。 思考・判断の観点: 文字をデフォルメし、運筆のリズムを工夫して自分なりの表現を試みる。 関心・意欲の観点: 1年もしくは半年、1つの古典を追求してみる。 態度の観点: ふだんから創作に役立つ詩文(詩、短歌、俳句、小説、歌詞)を理解しておく。 技能・表現の観点: 行書での部首の書き方を修得し、手本書きに応用する。

授業の計画(全体) 前期は漢字五体の基本を中心に実力を養い、後期は仮名の基本、漢字、仮名交じり書を学び、指導者として、自分で手本が書けるように技能を身につける。後期15週については前期授業中に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文房四宝、行書の基本事項 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 項目 行書の基本
- 第 3 回 項目 行書(蔵鋒について)
- 第 4 回 項目 行書(呉昌碩から学ぶ)
- 第 5 回 項目 行書(呉昌碩から学ぶ)
- 第 6 回 項目 行書(王羲之) 授業外指示 行書の古典の中から一つを選び、一年間それを追究して欲しい
- 第 7 回 項目 篆書(基本点画) < BR > 篆刻(印稿)
- 第 8 回 項目 篆刻(印稿) < BR > 行書(空海の書)
- 第 9 回 項目 篆刻(印稿・布字) < BR > 行書(空海の書)
- 第 10 回 項目 篆刻(運刀)
- 第 11 回 項目 隸書(基本点画) < BR > 篆刻(運刀)
- 第 12 回 項目 草書
- 第 13 回 項目 楷書(背勢)
- 第 14 回 項目 楷書(向勢)
- 第 15 回 項目 楷書(方筆)

教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。教材はプリントを配布する。/ 参考書: 講義の中で適宜紹介する。

メッセージ 根気が大切です。上手、下手ではなく、懸命な努力が魅力あるものに変えていくことを考えなおさなくては意味がありません。安易に書いても進歩しません。書を通じて何ものかを掴んでくれることを期待します。 通年なので、油断しないで頑張ってください。 書道ノートを作成し、毎回の講義内容を記録、整理しておくこと。

連絡先・オフィスアワー 0 8 3 6 - 5 8 - 5 2 3 6

開設科目	生涯学習概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北川健				

授業の概要 生涯学習体系の論理と意義、その導入と体系化の経緯、進展状況などを概観する。また生涯学習の公的支援を前提に、それに必要な知識・方法、社会教育の基本を学ぶ。 / 検索キーワード 生涯学習支援

授業の一般目標 (1)生涯学習の論理と意義を理解する。(2)生涯学習体系の導入と展開を知る。(3)生涯学習展開の日本の特質を承知する。(4)生涯学習支援に必要な基本知識を備える。(5)社会教育の基本を知り、これに則した判断を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生涯学習の基本的な事項について説明できる。 思考・判断の観点：生涯学習の理念や体系に則した思考と判断ができる。 関心・意欲の観点：生涯学習の支援にみずから関心と意欲を培う。 態度の観点：生涯学習の意義を理解し、学習支援の姿勢を持つ。 技能・表現の観点：生涯学習支援の基本に則して能力を発揮できる。

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真も用いる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習論の登場と意義
- 第 2 回 項目 生涯学習導入政策の展開
- 第 3 回 項目 生涯学習振興法の特質
- 第 4 回 項目 生涯学習体系の地域的編成
- 第 5 回 項目 大学での生涯学習対応
- 第 6 回 項目 日本のリカレント教育
- 第 7 回 項目 学習機会提供の拡大
- 第 8 回 項目 日本型生涯学習の特質
- 第 9 回 項目 生涯各期の学習傾向と課題
- 第 10 回 項目 学習支援の基本と方法
- 第 11 回 項目 参加体験学習と学習ボランティア
- 第 12 回 項目 社会教育と社会教育法 1
- 第 13 回 項目 社会教育と社会教育法 2
- 第 14 回 項目 生涯学習批判論からの指摘
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。(2) 時に課題を出して自主レポート提出の機会を設けることもある。(3) 期末試験の成績を基本に、(1)(2)を斟酌して総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書：別途指示

開設科目	博物館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 学芸員資格を目指す学生のために博物館の歴史、政策、仕事を概説する。市民参加型博物館の意味を理解し、自ら活動するための方向性を把握する。また、展示の基本的考え方を学ぶ。 / 検索キーワード 博物館・学芸員・展示・博物館法・文化財保護法

授業の一般目標 博物館は資料を収集・保管・展示し、一般の人々への利用に供し、調査研究するところと考え、具体的な内容について人文系博物館を中心に示していきます。大は国立の博物館のシステム、小さいところでは市町村立、私立の博物館・資料館のシステムまで様々ありますが、具体的事例を示しながら学芸員の役割について明らかにします。各博物館や文部科学省のホームページにアクセスしながらより理解を深めたいと思います。最終レポートとして展示の課題を課します。そのための方法を授業内で学びます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博物館に関する基本的項目の説明ができる。 思考・判断の観点：法律、制度の基本を理解し行動や判断の基本とすることができる。 関心・意欲の観点：博物館活動の社会的役割を理解し、自らの専門との関連性を認識することができる。 態度の観点：学芸員社会的役割を理解し自らの行動と結びつけることができる。 技能・表現の観点：自らの企画を的確に表現できる。 展示企画の考えと方法を理解する。

授業の計画(全体) 次の5つの側面から講義を行う(1)博物館の歴史、(2)博物館に関する政策と法律、(3)博物館の機能、(4)博物館の仕事、学芸員の仕事、(5)博物館での企画と展示

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館とは何か 内容 授業全体のガイダンス。博物館の仕事の流れを示す。
- 第 2 回 項目 博物館の法律 内容 博物館法を読む。
- 第 3 回 項目 博物館の歴史 1 内容 ヨーロッパ・アメリカの博物館史 授業外指示 インターネットで博物館の検索を予習として行う。
- 第 4 回 項目 博物館の歴史 2 内容 日本の博物館前史
- 第 5 回 項目 博物館の歴史 3 内容 日本の博物館-明治から現代まで
- 第 6 回 項目 行政の中の博物館 1 内容 社会教育施設として 授業外指示 文部科学省・文化庁のホームページ検索の宿題
- 第 7 回 項目 行政の中の博物館 2 内容 博物館関連予算(国と地方公共団体)
- 第 8 回 項目 文化財保護法と博物館 内容 文化財保護法を読む
- 第 9 回 項目 地域振興と博物館 内容 伝産法、新農業基本法他との関連について
- 第 10 回 項目 学校教育と博物館 内容 小中学校総合科目と学芸員の協力関係について 授業外指示 インターネットでの総合科目事例の検索の宿題
- 第 11 回 項目 展示企画とデザイン 内容 学芸員に必要な企画力について 授業外指示 博物館のホームページデザインの分析宿題
- 第 12 回 項目 博物館における情報管理 内容 情報のデジタル化と資料データの基本的扱い方
- 第 13 回 項目 博物館の事例紹介 内容 北海道開拓記念館・国立民族学博物館・萩博物館他
- 第 14 回 項目 博物館の新しい方向 内容 市民参加型博物館・エコミュージアム
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

成績評価方法(総合) 出席を重視する。中間と期末の2回のレポートを予定。この評点と出席によって総合的評価をする。出席率 70 % 以下は評価の対象とならない。

教科書・参考書 教科書：博物館学概論, 中村たかを編, 源流社, 1996 年 / 参考書：テーマに沿ってその都度紹介する。文献コピーを配布する。

メッセージ これからは学芸員に専門的能力とともに企画力、表現力、情報処理能力が求められています。積極的な授業態度を期待します。宿題でインターネット検索を行うので、情報コンセント接続に慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	博物館学各論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡辺一雄				

授業の概要 学芸員資格取得に必要な必修科目のひとつである「博物館資料論」を中心に講義する。「博物館資料論」は、博物館資料の収集・整理保管・展示等に関する知識・技術の習得を図るもので、講義では、併せて、博物館資料としての文化財を取りあげ、文化財保護のしくみやその取り扱いについてもふれる。 / 検索キーワード 学芸員 博物館 文化財

授業の一般目標 博物館資料の取り扱いに関する知識・技術の習得を図る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館と学芸員 内容 授業のガイダンス 博物館と学芸員に関する復習
- 第 2 回 項目 博物館資料とは 内容 博物館資料の定義と意義
- 第 3 回 項目 収集と整理・保管 内容 資料の収集方針と取得 資料の記録 整理と収蔵
- 第 4 回 項目 保存 内容 展示室・収蔵庫の保存 環境
- 第 5 回 項目 修復 内容 伝統的修復技術と保存科学
- 第 6 回 項目 活用 I 内容 展示の意義と種類
- 第 7 回 項目 活用 II 内容 展示以外の活用
- 第 8 回 項目 調査・研究 内容 博物館における調査研究活動の意義
- 第 9 回 項目 博物館と情報 内容 情報機器・情報環境
- 第 10 回 項目 考古資料 内容 考古資料の特質と取り扱い
- 第 11 回 項目 民俗資料 内容 民俗資料の特質と取り扱い
- 第 12 回 項目 文書 内容 文書資料の特質と取り扱い
- 第 13 回 項目 文化財保護のしくみ I 内容 文化財の種類 文化財保護のしくみ
- 第 14 回 項目 文化財保護のしくみ II 内容 博物館と文化財
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 期末試験および授業態度(出席など)で評価する。

教科書・参考書 教科書：使用しない。毎週、資料を配付する。 / 参考書：授業中に紹介する。

連絡先・オフィスアワー watanabe@baiko.ac.jp

開設科目	博物館学各論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北川健				

授業の概要 博物館「経営論」の立場から、(1) 教育普及活動、(2) 組織・職員、(3) マネジメント論、(4) 行財政制度、(5) 情報化について、その基本と課題を学習し、それぞれの実際の状況と動向をOHP映像で概観する。

授業の一般目標 (1) 博物館「経営論」「情報論」登場の意義を理解する。(2) 博物館教育の普及進展について理解する。(3) 博物館の経営形態とそのマネジメントを知る。(4) 外国博物館の社会的基盤についても知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：博物館の経営や情報の基本的事項について知っている。思考・判断の観点：博物館について経営論や情報論と関連づけて考えることができる。関心・意欲の観点：博物館関係の情報や動向に関心を持ち、博物館への問題意識を持つ。態度の観点：展覧会を観覧したり、博物館でのボランティアも体験したりしている。技能・表現の観点：センスある短文やイラスト表現を伴った広報案などが企画できる。

授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりにして、実際的な認識を図るため、OHPによる投影写真を多用する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館に見る博物館の公理
- 第 2 回 項目 科目「博物館経営論」の登場
- 第 3 回 項目 学芸員の実務業務と業務環境
- 第 4 回 項目 博物館の事業化と学芸員編成
- 第 5 回 項目 博物館での教育部門の前面化
- 第 6 回 項目 マネジメント論とマーケティング論
- 第 7 回 項目 企業体博物館に見る経営戦略
- 第 8 回 項目 アメリカの博物館の経営基盤
- 第 9 回 項目 公立博物館の運営と行財政制度
- 第 10 回 項目 公立財団博物館の矛盾と問題
- 第 11 回 項目 独立行政法人と第三セクター方式
- 第 12 回 項目 民営化新方式と指定管理者制度
- 第 13 回 項目 博物館情報と博物館の情報化
- 第 14 回 項目 博物館メディア論と博物館の絶対要件
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 毎回小テストを行うことで、出席確認をするとともに理解度を把握する。(2) 時に「課題」を出し、「自主レポート」を提出する機会を与えることがある。(3) 期末テストを行い、その成績に即して、また(1)(2)を斟酌して評価する。

教科書・参考書 教科書：使用しない / 参考書：別途紹介

開設科目	図書館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	加藤 宏文				

授業の概要 新しい「学習指導要領」が示され、「生きる力」としての真の「学力」が、改めて問い直されようとしている。中で、その中核には、「総合的な時間」の設定に代表される「問題解決的学習」への指向が、顕著である。たとえば、環境問題・国際理解・福祉などを、学習者の主体的な活動を通して達成することが求められている。これらは、図書館、とりわけ学校図書館が他館とのネットワークのもと、「司書」の専門性を保証することを抜きには、考えられない。「学校図書館」に「司書」の孕み持つ問題を考え合っていく。／検索キーワード 学校図書館・司書

授業の一般目標 「情報化社会」における光と影とを総合的に認識することを前提にして、「教育改革」の混迷の中で、学校経営や教育課程の改変が、学校図書館の本質に、どのような影響を与えようとしているのかを、まず理解する。その上で、「図書館の自由に関する宣言」、「学校図書館法」、「倫理綱領」等を踏まえて、「司書」の捉える具体的な問題点を整理し、学習者が主体的に展望を持つことを求める。

授業の計画（全体） 1「情報化社会」の意義について、考慮する。 2. 学校図書館司書教諭の諸問題について、考察する。 3「図書館の自由に関する宣言」の精神を認識する。 4「情報化社会」におけるプライバシーについて、認識する。 5. 多文化社会の中での「図書館」の意義役割について認識する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「情報化社会」の光と影とを見据える。
- 第 2 回 項目 「教育改革」の中の学校経営を考える。
- 第 3 回 項目 「司書」を通して学校経営を考える。
- 第 4 回 項目 教育過程の変遷と学校図書館との関係を考える。
- 第 5 回 項目 「図書館の自由に関する宣言」は、「学校図書館法」に何を求めているのか。
- 第 6 回 項目 「学校図書館」経営の原点は、どこにあるのか。
- 第 7 回 項目 「学校図書館」経営の実際を考える。
- 第 8 回 項目 「学校図書館」にとって、ネット・ワークとは何か。
- 第 9 回 項目 情報公開とプライバシーとは、どう関わるのか。
- 第 10 回 項目 学校文化の創造拠点として、「学校図書館」は、何をなすべきか。
- 第 11 回 項目 国際化社会に生きる「学校図書館」とは何か。
- 第 12 回 項目 学校で、どのような「司書」になるのか。
- 第 13 回 項目 演習（ 1 ）
- 第 14 回 項目 演習（ 2 ）
- 第 15 回 項目 試験

教科書・参考書 教科書：特に使用しない。／参考書：講義の中で、随時紹介していく。

メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半3次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は許可しない。



開設科目	図書館資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	加藤 宏文				

授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは、分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」(資料)にとり囲まれている。これらを収集・提供する側に立って、図書館には、どのような変革が求められているのか。その組織化を前提として、収集および提供には、どのような問題が生じつつあるのか。「IT革命」の実際を吟味する中で、人と人との関係から考察をする。 / 検索キーワード 資料・コレクション

授業の一般目標 資料(情報)の歴史的なあり方を大観した上で、収集の実際に即してその構築の仕方、評価のあり方を理解する。その上で、提供とのかかわりにおいて、「図書館の自由」は現在、どのような現実に直面しているかをも吟味し、出版・流通界の激変にも対応できる理念と方法とを獲得する。

授業の計画(全体) 1. 図書館にとって「資料」とは何であるのかを認識する。 2. 「資料」の類型とその収集の方法について、認識する。 3. 「資料」の収集・提供の自由について、認識する。 4. 特に学校図書館にとっての「資料」の収集提供について考察する。 5. 出版・流通界の変革の中での「資料」について考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館には、どんな仕事があるのか。
- 第 2 回 項目 情報は、どのように記録されてきたのか。
- 第 3 回 項目 資料には、どのような類型があるのか。
- 第 4 回 項目 資料の類型には、どのような特質があるのか。
- 第 5 回 項目 資料には、どのような収集法があるのか。
- 第 6 回 項目 コレクションは、どのように構築されるのか。
- 第 7 回 項目 コレクションには、どのような問題が生起するのか。
- 第 8 回 項目 コレクションは、どのように評価されつづけるのか。
- 第 9 回 項目 収集・提供に、「自由」はどのように関わるのか。
- 第 10 回 項目 収集・提供の「自由」は、どのような事例を生んできたのか。
- 第 11 回 項目 出版・流通界の変革は、収集・提供にどのような影響を与えているのか。
- 第 12 回 項目 学校図書館は、どのように収集・提供をしているのか。
- 第 13 回 項目 学校図書館は、どのような収集・提供を求めているのか。
- 第 14 回 項目 情報化・国際化は、収集と・提供との間に何をもたらしているのか。
- 第 15 回 項目 図書館で、何を使命として務めるのか。

教科書・参考書 教科書：特に使用しない。 / 参考書：講義の中で、随時紹介していく。

メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求め、「評価」を重ね、後半、数次に亘り、論述を求める。 遅刻者の入室は、許可しない。

開設科目	生涯学習施設経営論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大森 善一				

授業の概要 生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。

授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 図書館政策をまず行政面から解説し、図書館経営にかかわった実務経験に基き人事、組織、予算、事業計画等について解説する。また、図書館の経営とは教育機関としての特性に基づくサービスを果たすための諸条件とは何か。その諸条件の整備から生まれる成果が、どのように地域社会にもたらすかを明らかにしようとする試みが大切である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館経営の視点 内容 図書館経営とは何か図書館が教育機関としての専門性
- 第 3 回 項目 図書館と地方自治体 内容 行政組織の中における図書館
- 第 4 回 項目 地方自治体法規と図書館 内容 法令・条例・規則
- 第 5 回 項目 予算の編成と執行 内容 図書館予算の編成方法とその適正な予算執行
- 第 6 回 項目 図書館施設・設備の充実と物品管理 内容 施設の維持、物品の管理図書館資料の管理
- 第 7 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順 また、除籍方法
- 第 8 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順 また、除籍方法
- 第 9 回 項目 図書館経営における館長の職責 内容 館長の役割と経営方針職員体制の確立
- 第 10 回 項目 職員の研修 内容 専門職としての位置づけ図書館職員の職責 < BR > 図書館ボランティアとのかかわり
- 第 11 回 項目 図書館サービスの評価と計画 内容 図書館サービスの現状分析図書館サービスの計画と実行
- 第 12 回 項目 図書館サービス計画の実行と評価 内容 計画実現のための条件づくり自己学習
- 第 13 回 項目 教育機関施設 内容 図書館、美術館、博物館、民族資料館等行政と地方議会とのかかわり
- 第 14 回 項目 図書館とコンピューター 内容 図書館ネットワークの構築
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：図書館経営論, 竹内紀吉, 東京書籍

開設科目	資料特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北川 健				

授業の概要 図書館など公的な資料保存施設での近世文献資料の取扱い業務を前提に、書誌学や古文書学の初歩を学ぶとともに、主として和本の読み方の基本を練習する。読み方は変体仮名を主範囲とし、『女（おんな）大学』を読み始められる程度までを目標とする。

授業の一般目標 1 近世文献資料についての公的保存の役割を理解する。 2 近世文献資料にかかわる書誌学の初歩知識を学ぶ。 3 近世文献資料にかかわる古文書学の初歩知識を学ぶ。 4 近世文献資料の読み方について初歩練習をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：和本や古文書の基本的な事項について説明できる。 思考・判断の観点：和本や古文書について基本的な扱い方があることをわきまえる。 関心・意欲の観点：近世文献資料の内容を少しでも理解しようと初歩的にも取り組むことができる。 態度の観点：近世文献資料の意義を理解し、これらを大切に扱おうとする態度をもつ。 技能・表現の観点：変体仮名の基礎的な読み方ができる。

授業の計画（全体） 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真や VTR も用いる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近世文献資料保存施設の法的根拠と機能
- 第 2 回 項目 近世文献資料取扱い業務の実際
- 第 3 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式（1）
- 第 4 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式（2）
- 第 5 回 項目 古文書学による古文書の見方の基本
- 第 6 回 項目 変体仮名の字源と読み方の基本（1）
- 第 7 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（1）
- 第 8 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（2）
- 第 9 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（3）
- 第 10 回 項目 御家流による草書体漢字の読み方
- 第 11 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（1）
- 第 12 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（2）
- 第 13 回 項目 貝原益軒『女大学』の一部を読む
- 第 14 回 項目 近世の歴史的用語と用字の読み方
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合）（1）毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。（2）時に課題を出して自主レポート提出の機会を与えることがある。（3）期末試験の成績を基本に（1）（2）を斟酌して総合的に評価する。 評価割合備考：期末試験は100～95%、小テストは場合により5%、出席は小テスト成績に含む。

教科書・参考書 参考書：別途指示。

開設科目	図書館サービス論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大森 善一				

授業の概要 利用者と直接関わる図書館サービスの意義、その役割と活動状況の認識、資料の選択・収集・整理・提供のシステム等、図書館サービスの充実を図るため、その専門的な知識の習得について解説する。

授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 利用者と図書館の接点から解説し、図書館サービスの意義、利用者対象別等、具体的に説明し、図書館の最大の使命である図書館サービスの重要性について解説する。また、図書館に対する社会の要請も時代によって変化し、新しいサービスが生まれる。これら地域社会のニーズによって図書館サービスを充実させることが大切である。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館サービスの意義 内容 図書館の社会的な機能 図書館サービスの内容と種類
- 第 3 回 項目 図書館サービスと図書館資料 内容 図書館資料の種類 各種資料の特徴とサービス
- 第 4 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 5 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 6 回 項目 図書館資料の提供 内容 資料提供の意義 読書案内、予約、リクエスト、レファレンスサービスの重要性
- 第 7 回 項目 貸出と閲覧 内容 貸出の意義 閲覧とは何か 利用環境の整備
- 第 8 回 項目 複写サービスと著作権法 内容 複写サービスの意義 著作権法第 31 条にかかわる問題点
- 第 9 回 項目 利用者対象別と図書館サービス 内容 図書館と生涯学習とのかわり 児童、一般人、高齢者、障害者へのサービス
- 第 10 回 項目 図書館サービスと著作権 内容 貸出と著作権の問題 視聴覚資料と著作権の問題
- 第 11 回 項目 教育、文化活動 内容 広報活動、集会事業
- 第 12 回 項目 図書館の相互協力 内容 図書館間の協力のあり方とその必要性
- 第 13 回 項目 図書館サービスの課題 内容 サービス変化の要因 生涯学習に適応したサービス
- 第 14 回 項目 図書館サービスと職員(司書)の意欲 内容 司書としてのプライド
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：図書館サービス論, 前園主計編著, 東京書籍

開設科目	資料組織概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	加藤 宏文				

授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」にとりまかされている。この混迷の中で、地域や民族の独自性を尊重しつつ、かつグローバルな価値を追求するためには、「情報」にどう対処するか、その具体的なスタンスや方法が、厳しく問われている。図書館における収集と提供の「自由」を活かすための資料の「組織」法の具体を考え合う。 / 検索キーワード 資料・組織

授業の一般目標 資料が「組織」されなければならない理由を理解した上で、その制御の具体的なあり方に触れ、標準化のもたらす長短を考察する。さらに、具体的に各人の主題意識を確認した上で、「組織」の実態に迫りつつ、検索・分類・キーワード・件名などの関係を吟味し、その改善方法を獲得し合う。

授業の計画(全体) 1. 情報化・国際化の中で「資料」とは何なのかを認識する。 2. 「資料」を「組織」することの意義を認識する。 3. 「書誌」による標準化がもたらす限界を認識する。 4. 「主題」によるアクセスへの対応の実際について実践する。 5. 自らの学習・研究生活の中で、「資料」「組織」の方法を改革する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報化・国際化社会において、「資料」とは何か。
- 第 2 回 項目 「資料」は、なぜ「組織」されるようになったのか。
- 第 3 回 項目 情報化技術は、「組織」化に何をもたらしたのか。
- 第 4 回 項目 「書誌」を制御する。
- 第 5 回 項目 「制御」の国際標準化は、何をもたらしたのか。
- 第 6 回 項目 「目録」は、どのように改善されてきたのか。
- 第 7 回 項目 情報化・国際化社会の中で、主題意識を確かにする。
- 第 8 回 項目 主題で情報を制御できるのか。
- 第 9 回 項目 情報を分類する。
- 第 10 回 項目 「分類」には、どんな工夫があるのか。
- 第 11 回 項目 主題検索・分類目録・キーワード・件名目録の関係を、吟味する。
- 第 12 回 項目 「シソーラス」は、専門分野をどう整理するのか。
- 第 13 回 項目 「非統制語」観は、どんな問題を提起するのか。
- 第 14 回 項目 データベースをネットワークに生かす。
- 第 15 回 項目 「資料」を「組織」したら、何が可能になるのか。

メッセージ 随時、「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつつ、「評価」を重ね、後半数時に亘って、「組織」の実際を工夫することを求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	情報サービス概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大森 善一				

授業の概要 図書館業務推進の中で資料提供、情報サービスは重要な領域に値する。特に図書館における情報サービスの意義、方法、情報源について学習する。またレファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

授業の一般目標 図書館司書として自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

授業の計画(全体) 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス等についても総合的に解説する。また参考図書を選択収集、検索の知識と資料提供の実際を解説する。レファレンスサービスとは何かを明らかにし、その業務内容、情報源の種類もあわせて解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 情報サービスの意義 内容 情報サービスの内容とその必要性
- 第 3 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報サービスと図書館とのかかわり
- 第 4 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報の利用< BR > 情報ニーズの種類< BR > 書誌サービス
- 第 5 回 項目 図書館におけるレファレンスサービス 内容 直接サービスと間接サービス< BR > レファレンスサービスの業務内容
- 第 6 回 項目 情報源とレファレンス・コレクション 内容 情報源とその種類< BR > 館内・外の情報源  
レファレンスブックの選択収集
- 第 7 回 項目 レファレンス質問とレファレンスプロセス 内容 レファレンス質問の内容< BR > 質問者と応答者のかかわり方
- 第 8 回 項目 質問の受付と内容の確認 内容 質問受付票への記録< BR > 口頭、電話、文書
- 第 9 回 項目 探索方略と質問の分析 内容 探索方略の意義と検討及び方式
- 第 10 回 項目 探索の手順と情報源の入手 内容 探索の一般的な手順< BR > 未解決の処理方法
- 第 11 回 項目 回答の提供と事後処理 内容 回答の適切さ< BR > 回答サービス後の事務処理
- 第 12 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 レファレンスブックからの情報源の検索< BR > 総記、哲学、宗教、歴史、社会科学、自然科学
- 第 13 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 工学、技術、産業、芸術、スポーツ、語学、文学
- 第 14 回 項目 図書館間の情報サービス相互利用の活用 内容 図書館間の情報入手により質問者への回答
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

教科書・参考書 教科書：問題解決のためのレファレンスサービス, 長沢雅男, 日本図書館協会

開設科目	情報機器論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	杉井 学				

授業の概要 コンピュータおよびマルチメディア機器の仕組みをはじめ、それら機器を IT 社会で活用するために必要なセキュリティやモラル、マナーなどについても解説する。また、学芸員やデジタルアーキビストに必要とされるさまざまな情報機器（ハードウェア）、およびそれらに不可欠なソフトウェア（マルチメディアファイルなど）技術についても理解を深め、Web システムや e-Learning システムの事例を見ながら、さまざまな情報機器を活用したマルチメディア情報の利活用について考える。

授業の一般目標 IT 技術を安全に使いこなす知識と技術を身につけ、身近な課題の解決策を IT 技術の中から模索できる能力を習得する。また、近年の情報機器に関する幅広い知識を習得し、より実践的で応用分野に利用される IT 技術について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： コンピュータや情報システム、携帯電話、IC カードなど現代の情報機器の仕組みと実用例、また IT 社会で守るべき基本的セキュリティ、モラル、マナー、法律などを理解する。 思考・判断の観点： 近年の情報機器を用いたマルチメディア技術から、新たな通信方法やプレゼンテーション機能の創造など IT 技術を組み合わせた課題実現のための思考力・想像力を習得する。

関心・意欲の観点： めまぐるしく発展し進化する情報機器について、自ら調査し仕組みを理解しようとし、また理解できる基礎知識を習得する。 技能・表現の観点： 獲得した知識と技術を持って、自らの持つ研究課題の解決に情報機器の適応を考え、活用できるようになる。

授業の計画（全体） コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、情報システムの仕組みなどインフラ環境や情報機器の基盤技術を解説し、これを使った IT 社会の現状と必要なセキュリティ、モラル、マナーなどについて解説する。その後、情報システム活用の具体的事例などを紹介し、課題解決のための IT 技術活用方法を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 IT 社会とは 内容 コンピュータおよびネットワーク、マルチメディア機器の歴史と現状
- 第 2 回 項目 コンピュータの仕組み 内容 コンピュータの構造とそれぞれの働き
- 第 3 回 項目 インターネットの仕組み 内容 インターネットの構造とデータ通信方法
- 第 4 回 項目 WWW システム 内容 Web システムの構造とその応用
- 第 5 回 項目 電子メール配送システム 内容 電子メール配送システムの構造
- 第 6 回 項目 情報機器の具体例 内容 電話や地デジ、IC カード、ゲーム機などの具体的な情報機器について解説
- 第 7 回 項目 デジタルデータとアナログデータ 内容 デジタルデータとアナログデータの違いについて解説
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 情報セキュリティ 内容 情報セキュリティとは何か。なぜ、情報が漏洩するのかなどについて解説
- 第 10 回 項目 情報モラルとマナー 内容 IT 基本法、著作権法および法律規制以外のモラルやマナーについて解説
- 第 11 回 項目 WWW の活用 内容 Web ページを活用した情報発信の方法を解説
- 第 12 回 項目 インターネットの活用 内容 検索エンジン、オンラインショッピング、IP 電話、セカンドライフなどネットワークを用いたシステムを見ながら、インターネットの活用方法を考える
- 第 13 回 項目 情報伝達とメディア選択 内容 情報の伝達、特に広報活動に必要なメディアの活用について解説
- 第 14 回 項目 総括 内容 IT 技術を使った課題解決について具体例を解説しながら考察
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 中間・期末試験の結果と授業で課す課題を総合的に評価する。期末試験には、身近な課題の設定、IT 技術を用いた課題解決方法、結果などをまとめたレポート提出を加える。

教科書・参考書 教科書：講義で用いるスライド資料の電子ファイルを教科書とする。/ 参考書：入門マルチメディア「ITで変わるライフスタイル」, 監修 西原清一, CG-ARTS 協会, 2006 年

メッセージ コンピュータを始めとするマルチメディア機器やネットワークなどを、理論だけではなく「どう使うべきか」「どう使えるのか」を考えながら、学芸員やデジタルアーキビストに必要な知識と技能を深める講義にしたいと思います。



開設科目	レファレンスサービス演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松本 敬吉				

授業の概要 レファレンスサービスは、図書館利用者の情報要求に応じ、適切な情報ないし情報源を提供、あるいはそれらの入手方法について指導・援助するサービスです。本講では、主要な参考図書やデータベースの実際を解説します。また、附属図書館所蔵のそれらを利用し、参考質問の回答演習を行います。有用なホームページ・データベースの実際も学習し、参考書誌の作成演習も行います。/ 検索キーワード 情報リテラシー、参考業務、参考図書、情報検索、インターネット検索

授業の一般目標 1. 各種レファレンス・ツール(電子情報を含む)を知り、その活用方法を理解する。 2. 参考質問(例題)に回答し、レファレンスツールの理解を深める。 3. 参考書誌を作成する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館のレファレンスサービスについて
- 第 2 回 項目 主要参考図書の解説
- 第 3 回 項目 主要図書館のホームページの実際
- 第 4 回 項目 主要データベースの実際
- 第 5 回 項目 インターネット検索の実際
- 第 6 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 7 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 8 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 9 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 10 回 項目 課題演習(レポート作成)
- 第 11 回 項目 参考業務の実際
- 第 12 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 13 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 14 回 項目 レファレンス三題漸
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 成績評価方法 - 定期試験、宿題/授業外レポート

教科書・参考書 教科書: 新版情報源としてのレファレンスブックス, 長澤雅男、石黒祐子共著, 日本図書館協会 / 参考書: 大学生と図書館(第3版), 日本図書館研究会編, 日本図書館研究会; 情報と文献の検索 第3版, 長澤雅男, 丸善; チャート識情報アクセスガイド, 大串夏身著, 青弓社

メッセージ あなたが興味をもつ主題について、あるいはその主題の周辺について、先人が調査研究を行い、情報を発信しています。それらを把握した上で更に発展させるために情報リテラシーを高めてください。研究の重複はできるだけ避けたいものです。司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとられることを希望します。ただ、情報化社会、特に大学においては「情報」に関する知識は必須です。卒業後の人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

開設科目	情報検索演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田 孝子				

授業の概要 コンピュータやネットワーク技術、情報記録媒体の発展は、図書館活動に多大な影響を与えています。また、従来の検索方式に加えて CD-ROM による検索、通信回線利用のオンライン検索、インターネット利用による情報検索と多様化してきています。このような現状の中で、多くの情報からの的確な情報を探し出すテクニックである「情報検索」が最近とみに重要視されてきました。この授業では、「情報を検索する」意味やその手段を学んでいきます。そして、図書館業務の中での「情報検索の役割」がどのような位置にあるのかを学んでいきたいと思っています。/ 検索キーワード 知的活動、情報検索、検索技術、コンピュータ、ネットワーク

授業の一般目標 情報検索では、キーワードの設定が非常に重要です。そのキーワードについての基礎知識と効率的な使い方を学ぶことを目標としています。また、調べるコツのようなものを習得する。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 この授業のガイ < BR > ダンス（授業の < BR > 方針、授業支援 < BR > システムの使い < BR > 方）授業外指示 受講登録を行う < BR > ので、第 1 週目 < BR > に欠席の者は履 < BR > 修できません。
- 第 2 回 項目 情報検索の必要性
- 第 3 回 項目 インターネットでの情報検索
- 第 4 回 項目 情報の分類と種類
- 第 5 回 項目 データベースの基礎知識
- 第 6 回 項目 テスト（第 2 週から第 5 週までの内容）
- 第 7 回 項目 キーワードの概念
- 第 8 回 項目 キーワードの概念
- 第 9 回 項目 検索に要する技術
- 第 10 回 項目 検索に要する技術
- 第 11 回 項目 テスト（第 7 週から第 10 週までの内容）
- 第 12 回 項目 検索結果のまとめ方
- 第 13 回 項目 図書や雑誌の探し方
- 第 14 回 項目 図書や雑誌の探し方
- 第 15 回 項目 総合テスト

成績評価方法（総合） テスト：80% 演習：10% 出席：10%

教科書・参考書 教科書：Web 上で提供 / 参考書：授業内で指示

メッセージ この授業は、単元の区切りごとにテストを行います。情報処理に関する基礎知識を必須としていますので、必ず操作に関する基礎知識をマスターしておいてください。出席管理、小テスト、レポート提出管理等は全てコンピュータで行います。質問や連絡したいことがあったら、授業内で利用する授業支援システムを使用して下さい。

連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの「質問」コーナーを使ってください。

開設科目	資料組織演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松本敬吉				

授業の概要 前期に資料目録法演習を、後期に資料分類法演習を行います。 資料目録演習法では主として「日本目録規則」に基づいて、各種の図書館資料についてそれぞれの記述・標目・配列を演習します。資料分類法演習では「日本十進分類法」に基づいて、分類体系・補助表・分類規程を理解し、分類記号付与作業を演習します。「書架配架法」や「主題牽引法」(件名目録法、シソーラス)についても解説します。 / 検索キーワード 資料目録法、資料分類法、件名目録法、シソーラス

授業の一般目標 1. 日本目録規則(記述・標目・配列)を理解・修得する。 2. 日本十進分類法を理解し修得する。 3. 主題検索法を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本目録規則
- 第 2 回 項目 記述に関する総則
- 第 3 回 項目 タイトルと責任表示の記述
- 第 4 回 項目 版、資料の特性、出版・頒布、形態等の記述
- 第 5 回 項目 シリーズ、注記、標準番号等の記述
- 第 6 回 項目 標目総則およびタイトル標目
- 第 7 回 項目 著者標目、件名標目、分類標目
- 第 8 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 9 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 10 回 項目 和書の目録作成演習
- 第 11 回 項目 洋書の目録作成演習
- 第 12 回 項目 逐次刊行物の目録作成演習
- 第 13 回 項目 目録の機械化
- 第 14 回 項目 排列
- 第 15 回 項目 定期試験
- 第 16 回 項目 NDC の構成
- 第 17 回 項目 形式区分
- 第 18 回 項目 地理区分、海洋区分
- 第 19 回 項目 言語区分、言語共通区分、文学共通区分
- 第 20 回 項目 一般分類規定
- 第 21 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 22 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 23 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 24 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 25 回 項目 特殊分類規定(自然科学)
- 第 26 回 項目 特殊分類規定(産業、総記)
- 第 27 回 項目 図書館記号法・別置法
- 第 28 回 項目 件名目録法
- 第 29 回 項目 シソーラス
- 第 30 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 定期試験、宿題・授業外レポート

教科書・参考書 教科書：日本十進分類法(新訂9版), 日本図書館協会分類委員会編, 日本図書館協会; 基本件名標目表(第4版), 日本図書館協会件名標目委員会編, 日本図書館協会; 資料組織演習, 吉田憲一著, 日本図書館協会; 日本目録規則(1987年版改訂3版), 日本図書館協会分類委員会編, 日本図書館協

会；「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」は図書館の「三種の神器」です。特に「日本十進分類法」講義時に使用しますので必ず入手してください。 / 参考書：資料組織法(第5版), 志保田務、高鷲忠美共著, 第一法規；和書目録法入門(図書館員選書:8), 柴田正美編, 日本図書館協会；英米目録規則(第2版・日本語版), , 日本図書館協会

メッセージ 司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとらえることを希望します。ただ、情報社会、特に大学において「情報」に関する知識は必須です。人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

開設科目	専門資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松岡 孝史				

授業の概要 人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野における知識の構造と情報・資料との関係についての理解を深めるために、それぞれの分野の情報・資料の特性と代表的な資料について解説する。

授業内容も、専門資料論の基礎部分と各分野の情報・資料論とで構成し、各分野毎に情報・資料の種類と特性を説明し、一次資料・二次資料を紹介する。/ 検索キーワード 専門資料 学術情報 一次資料 二次資料

授業の一般目標 情報技術が進展している現在、専門資料に関する断片的な知識を積み重ねるだけでなく、専門資料の背景を構造的、組織的に理解することが重要である。また、自らの専攻する分野を意識して、その分野における研究領域や研究対象を把握し、研究方法、プロセスを習得することによって、他の分野の特性と専門資料についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各分野の専門資料・情報についての特性と種類を理解する。思考・判断の観点：各分野の専門資料・情報へのアクセス・利用を的確に実施する。関心・意欲の観点：各分野の専門資料・情報の背景や構造への関心が深い。態度の観点：授業外学習への取り組みにより、授業内容への理解を深める。

授業の計画（全体） 専門資料論の導入部分で、情報リテラシー、学術情報、専門資料の構造等の背景を説明した後、電子環境下での情報検索について解説する。その後、分野別専門資料・情報の特性並びにアクセスと利用について詳述し、毎回指示する授業外学習の課題によって授業内容の理解を促す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 専門資料の概要 生涯学習と情報リテラシー 内容 オリエンテーション 情報源としての図書館 専門資料とは何か 授業外指示 大学図書館でアクセスできる資料・情報の特長
- 第 2 回 項目 1 専門資料の概要 学術情報とは何か 内容 学術情報の構造と利用 専門資料の書誌 授業外指示 県立図書館でアクセスできる資料・情報の特長
- 第 3 回 項目 2 学術情報と情報検索 内容 データベース 電子ジャーナル インターネット 授業外指示 国会図書館のデジタル情報を利用
- 第 4 回 項目 3 分野別資料の特性 人文科学 内容 人文科学の諸分野 資料の種類と特性 授業外指示 人文科学諸分野を学協会、研究機関により把握
- 第 5 回 項目 3 分野別資料の特性 社会科学 内容 社会科学の諸分野 資料の種類と特性 授業外指示 社会科学諸分野を学協会、研究機関により把握
- 第 6 回 項目 3 分野別資料の特性 自然科学・技術 内容 自然科学・技術の諸分野 資料の種類と特性 授業外指示 自然科学・技術諸分野を学協会、研究機関により把握
- 第 7 回 項目 4 分野別専門資料と情報 人文科学（1） 内容 主要な一次資料と二次資料 授業外指示 特定テーマの一次資料と二次資料の書誌作成
- 第 8 回 項目 4 分野別専門資料と情報 人文科学（2） 内容 資料・情報へのアクセスと利用 授業外指示 特定テーマのパスファインダー作成
- 第 9 回 項目 4 分野別専門資料と情報 社会科学（1） 内容 主要な一次資料と二次資料 授業外指示 特定テーマの一次資料と二次資料の書誌作成
- 第 10 回 項目 4 分野別専門資料と情報 社会科学（2） 内容 資料・情報へのアクセスと利用 授業外指示 特定テーマのパスファインダー作成
- 第 11 回 項目 4 分野別専門資料と情報 自然科学・技術（1） 内容 主要な一次資料と二次資料 授業外指示 特定テーマの一次資料と二次資料の書誌作成
- 第 12 回 項目 4 分野別専門資料と情報 自然科学・技術（2） 内容 資料・情報へのアクセスと利用 授業外指示 特定テーマのパスファインダーの作成

第 13 回 項目 5 法令、判例、政治、行政に関する情報 内容 主要な資料と情報の特性 授業外指示 特定テーマのパスファインダーの作成

第 14 回 項目 6 経済、ビジネス、統計、地域に関する情報 内容 主要な資料と情報の特性 授業外指示 特定テーマのパスファインダーの作成

第 15 回 項目 7 専門資料とメディア の多様化 内容 図書館における専門資料と情報サービスの今後

成績評価方法 (総合) 授業内レポート、授業外レポートにより授業成果を評価するとともに、授業態度、出席状況も評価の対象として総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：専門資料論, 三浦逸雄、野末俊比古, 日本図書館協会, 2005 年

開設科目	図書及び図書館史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松岡 孝史				

授業の概要 図書館をとりまく時代環境が変化する中で、その時代にふさわしい図書館のあり方を考えるとき、歴史的な視点を欠くことができない。そこでこの授業では、図書以外の記録メディアにも論究しながら、日本の近現代期の公共図書館を主に取り上げることとし、外国あるいは近代以前の日本の図書館の歩みについても概観できる構成とする。 / 検索キーワード 図書館史

授業の一般目標 日本の近現代期の公共図書館の歴史について理解する。歴史をたどることにより、図書館の理念を探り、これからの図書館がどうあるべきかについて考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本の公共図書館の歴史について総合的に説明できる。思考・判断の観点：現代の図書館のあり方について、歴史的な背景を踏まえて考察できる。関心・意欲の観点：図書・情報と図書館の歴史についての関心が深まる。態度の観点：図書・情報と図書館への関わり方が強まる。

授業の計画（全体）はじめに、記録・メディアについて概観した後、図書館の起源から世界の図書館の歴史までの概要を解説する。その後、この授業の中心となる日本の図書館について、前近代から現代の図書館に至るまでの歩みをたどり、時代の中でのこれからの図書館のあり方について考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 図書の歴史 内容 オリエンテーション コミュニケーションとメディア 授業外指示 記録メディアについて
- 第 2 回 項目 1 図書の歴史 内容 記録メディアの歴史 文字・印刷・電子媒体 授業外指示 文字について
- 第 3 回 項目 2 図書館史 外国篇（1） 内容 図書館の起源 アメリカ図書館史 授業外指示 公共図書館の起源について
- 第 4 回 項目 2 図書館史 外国篇（2） 内容 ヨーロッパの図書館史 授業外指示 の図書館について
- 第 5 回 項目 2 図書館史 外国篇（3） 内容 アジアの図書館史 授業外指示 図書館学の五法則について
- 第 6 回 項目 3 日本図書館史 戦前篇（1） 内容 前近代から近代へ 授業外指示 文庫について
- 第 7 回 項目 3 日本図書館史 戦前篇（2） 内容 明治・大正期 授業外指示 佐野友三郎について
- 第 8 回 項目 3 日本図書館史 戦前篇（3） 内容 昭和前期・戦時下 授業外指示 戦時下の読書指導について
- 第 9 回 項目 3 日本図書館史 現代の図書館（1） 内容 戦後の図書館 1950年代 授業外指示 図書館法成立について
- 第 10 回 項目 3 日本図書館史 現代の図書館（2） 内容 中小レポート 市民の図書館 授業外指示 中小レポートについて
- 第 11 回 項目 3 日本図書館史 現代の図書館（3） 内容 1970年代 図書館づくり運動 授業外指示 図書館振興政策について
- 第 12 回 項目 4 図書館の今日的課題 内容 図書館の自由 図書館職員 授業外指示 図書館の自由について
- 第 13 回 項目 4 図書館の今日的課題 内容 図書館政策の推移 授業外指示 政策の変遷について
- 第 14 回 項目 4 図書館の今日的課題 内容 これからの図書館のあり方 授業外指示 進むべき方向について
- 第 15 回 項目 5 まとめ 内容 全体のまとめ 授業内レポート

成績評価方法（総合） 授業内レポート、授業外レポートにより授業成果を評価するとともに、授業態度、出席状況を加味して総合評価する。

教科書・参考書 教科書： 図書及び図書館史, 小黒浩司編著, 日本図書館協会, 2000 年

## 教職に関する科目



開設科目	教職概論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。/ 検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 教師－生徒関係
- 第 3 回 項目 教科等の指導
- 第 4 回 項目 子どもの学ぶ意欲を伸ばす
- 第 5 回 項目 学級経営と教師
- 第 6 回 項目 生徒指導
- 第 7 回 項目 家庭・地域社会と学校
- 第 8 回 項目 教師の問題行動とメンタルヘルス
- 第 9 回 項目 学校の管理・運営と教師(1)
- 第 10 回 項目 学校の管理・運営と教師(2)
- 第 11 回 項目 教員の身分と服務(1)
- 第 12 回 項目 教員の身分と服務(2)
- 第 13 回 項目 教師の資質向上
- 第 14 回 項目 学校像の再構築
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福石賢一				

授業の概要 授業は、第1部 現代の子どもたちと学校、第2部 教育の諸概念・思想、第3部 近代公教育の成立、第4部 現代日本の教育課題、第5部 教育学と教師から構成される。主として教育の歴史を紐解きながら、人はなぜ学び、なぜ教育するのかという教育についての普遍的問いについて考えていく。 / 検索キーワード 教育の目的 学ぶ目的 教育の課題 教育学と教職

授業の一般目標 教育の思想・歴史に関する基本的な知識を習得しつつ、教育に関する様々な論点について考えていくことで学校教育の目的について深く認識し、教職への見通しを具体化させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 教育学に関する基本的な知識を習得する。 思考・判断の観点： 議論を通して、現代の教育が抱える問題について客観的・論理的に考える習慣を身に付ける。 態度の観点： 講義にはすべて出席する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 オリエンテーション
- 第2回 項目 現代の子どもたちと学校 内容 現代の子どもたちと学校
- 第3回 項目 教育の諸概念・思想 内容 教育はいつ始まったか
- 第4回 項目 教育の諸概念・思想 内容 「教育」という言葉と概念
- 第5回 項目 教育の諸概念・思想 内容 主要な教育思想について
- 第6回 項目 近代公教育の成立 内容 公教育とは何か
- 第7回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：フランス
- 第8回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：イギリス
- 第9回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：日本（1）
- 第10回 項目 近代公教育の成立 内容 近代公教育の成立：日本（2）
- 第11回 項目 現代日本の教育課題 内容 現代日本の教育課題（1）
- 第12回 項目 現代日本の教育課題 内容 現代日本の教育課題（2）
- 第13回 項目 教育学と教師 内容 教育学の歴史
- 第14回 項目 教育学と教師 内容 現代の教育学と教師
- 第15回 項目 テスト 内容 テスト

成績評価方法（総合） 出席点、授業態度、最終テストにより総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。 / 参考書： プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 講義の後。

備考 集中授業

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

**授業の概要** 教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目的を倫理学に、教育の方法を心理学に求める」としている。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを作成させ、考察した内容(ノートレポート)を1週間後に提出することになる。このレポートは提出して1週間後に返却する。/検索キーワード 教育、心理学、発達、家庭教育、学習、人格、学級経営、教育評価

**授業の一般目標** (1) 受講者が、教職を目指すものとして教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応を志向する契機となることを目指す。また、教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握した上で、教師の立場から適切な判断や支援ができる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文章表現できる。

**授業の計画(全体)** 教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、評価の種類と方法について、順に、各テーマを1～3回に分けて説明する。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学、教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第2回 項目 教育心理学研究法
- 第3回 項目 被教育者の発達 内容 発達段階
- 第4回 項目 家庭教育 内容 親子関係、学校教育
- 第5回 項目 学習 内容 学習の原理、条件づけ
- 第6回 項目 学習 内容 学習の原理(VTR)、動機づけ
- 第7回 項目 学習 内容 授業理論
- 第8回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第9回 項目 人格 内容 適応と防御機制、心理検査の種類
- 第10回 項目 人格 内容 スクールカウンセラー(VTR)
- 第11回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第12回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第13回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第14回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第15回 項目 討論

**成績評価方法(総合)** (1) 所定以上の出席状況(欠格条件) (2) ノートレポート、(3) 定期テスト結果。これらを資料として評価する。

**教科書・参考書** 教科書：心理学からみた教育の世界、藤土圭三(監)、北大路書房 / 参考書：心理学辞典、中島義明ほか、有斐閣、1999年；適宜、補助資料を配布する。

**連絡先・オフィスアワー** E-mail: tasaki@frontier-u.jp

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉田 香奈				

授業の概要 教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令・規則について解説する。生涯学習の概念について概説した後、学校教育の制度、教育を受ける権利の保障、教育課程の編成、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員の職務、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。 / 検索キーワード 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

授業の一般目標 教育に関する基本的な法規を理解し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教育に関する基本的な法規を理解する 思考・判断の観点：教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 シラバス、教科書第 1 章
- 第 2 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 3 回 項目 学校教育と法規 内容 教科書第 2 章
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（1） 内容 教科書第 3 章
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系（2） 内容 教科書第 3 章
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規（1） 内容 教科書第 4 章
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規（2） 内容 教科書第 4 章
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（1） 内容 教科書第 5 章
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規（2） 内容 教科書第 5 章
- 第 10 回 項目 教育職員の職務と法規（1） 内容 教科書第 6 章
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規（2） 内容 教科書第 6 章
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規（1） 内容 教科書第 7 章
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規（2） 内容 教科書第 7 章
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 内容 教科書第 8 章
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003年 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 教科書を必ず購入すること。

連絡先・オフィスアワー 大学教育センター吉田（共通教育棟 3 階） Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp、  
オフィスアワー：火曜日 14:00-16:00

開設科目	教育方法学(教育課程,情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸光城				

授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程

授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点: 本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点: 学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。 態度の観点: 将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目「教育」とはな < BR > にか 内容 林竹二「授業巡 < BR > 礼」の視聴
- 第 2 回 項目 学校教育作用の < BR > 構造 内容「教授」と「教 < BR > 育」のバランス < BR > と協同
- 第 3 回 項目 高等学校教育課 < BR > 程の基本
- 第 4 回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」 < BR > の基本と実例
- 第 5 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 I 内容 一斉授業
- 第 6 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 II 内容 小集団指導
- 第 7 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 III 内容 個別指導
- 第 8 回 項目 授業形態と指導 < BR > 方法 IV 内容 録画授業の視聴
- 第 9 回 項目「総合的な学習 < BR > の時間」の意 < BR > 義、実践事例
- 第 10 回 項目 教育機器の活用
- 第 11 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 I 内容 デューイの問題 < BR > 解決思考論
- 第 12 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 II 内容 デューイの教育 < BR > 方法論
- 第 13 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 III 内容 ブルーナーの教 < BR > 育方法論
- 第 14 回 項目 現代教育方法理 < BR > 論 IV 内容 ブルーナーの教 < BR > 育課程論、学習 < BR > 意欲論
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート(数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験

教科書・参考書 教科書: なし / 参考書: 随時紹介する

メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。

連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)

開設科目	国語科教育法 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

授業の概要 新学習指導要領の特徴・問題点について学んだ後、明治期以降の中等教育における国語科教育の歴史を概観し、今日の国語科教育が抱える諸問題を、教育制度・教科書史・教育理論等から検討していく。 / 検索キーワード 国語科教育・近代国語教育史

授業の一般目標 国語科教育の諸問題を、史的観点を加えて多角的に考察・判断する幅広い視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：学習指導要領や国語科教育の歴史について、あらましを説明することができる。 思考・判断の観点：現代の国語科教育が抱える問題の所在を指摘し、史的認識に裏付けられた広い視点から問題解決にあたることができる。 関心・意欲の観点：国語科教育の諸問題に強い関心をもち、課題の改善について意欲的に考察をめぐらすことができる。 態度の観点：国語科の諸問題について、多角的な角度から検討を加えることができる。 技能・表現の観点：問題点を的確に指摘し、自分の見解を明快に表現することができる。

授業の計画（全体）（１）授業は毎回プリントを配布し、参考文献等についてはその都度紹介する。（２）毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 シラバスの説明 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある。
- 第 2 回 項目 新学習指導要領の解説（１）内容 特徴と問題点 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 同上（２）内容 同上（２） 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 P I S A 型読解力について 内容 フィンランド・メソッドについて 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 近代国語科教育の黎明期（１）内容 明治期における国語科教育 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 同上（２）内容 同上 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 大正期の国語科教育（１）内容 児童中心主義教育の普及 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 同上（２）内容 自由主義教育と古典教育 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 昭和戦前・戦中期の国語科教育（１）内容 国語科教育の深まりと綴り方運動 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 同上（２）内容 皇国思想と戦時下の国語科教育 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 昭和戦後期の国語科教育（１）内容 新教育制度と学習指導要領の変遷 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 同上（２）内容 戦後の古典教育 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 国語科の今日的課題（１）内容 国語科教育の新しい流れ 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 同上（２）内容 新しい学力観と国語科教育
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。（１）学期末試験（２）毎時の課題シート（３）出席状況

教科書・参考書 教科書：使用しない。毎回プリントを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育法 II	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岸本憲一郎				

授業の概要 中等教育における国語科教育の歴史を概説し、国語科教育の今日的課題について、教育制度・教科書・教育理論等から検証してゆく。 / 検索キーワード 国語科教育

授業の一般目標 近代国語科教育の歩みを知り、現代の国語科教育が抱える課題解決の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近代国語教育史についてあらましを説明できる。 思考・判断の観点：現代の国語科教育が抱える問題の所在を指摘し、指摘認識に裏付けられた広い視点から問題解決にあたることができる。。 関心・意欲の観点：近代国語科教育の歴史について関心を深め、今日の課題について考察する意欲をもつ。 態度の観点：国語科教育の諸問題について、多角的視点から検討を加えることができる。 技能・表現の観点：考察した結果を高等や文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業内容の説明
- 第 2 回 項目 国語科教育の内容と目標 内容 国語科教育の内容と目標概説
- 第 3 回 項目 近代国語科教育の黎明期 (1) 内容 明治期の国語科教育 (1)
- 第 4 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 5 回 項目 児童中心主義と国語科教育 (1) 内容 大正期の国語科教育 (1)
- 第 6 回 項目 同 (2) 内容 同 (2)
- 第 7 回 項目 国家主義と国語科教育の充実 内容 昭和戦前期の国語科教育
- 第 8 回 項目 皇国思想と国語科教育 内容 戦時中の国語科教育
- 第 9 回 項目 戦後の国語科教育 ( 1 ) 内容 戦後の新生・国語科教育 ( 1 )
- 第 10 回 項目 同 ( 2 ) 内容 学習指導要領の流れ ( 2 )
- 第 11 回 項目 同 ( 3 ) 内容 同 ( 3 )
- 第 12 回 項目 国語科教育の現状と問題点 ( 1 ) 内容 言語教育と文学教育
- 第 13 回 項目 同 ( 2 ) 内容 読解指導と作文指導
- 第 14 回 項目 同 ( 3 ) 内容 今日の課題について
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。

メッセージ 主体的な問題意識をもって授業に参加してください。

連絡先・オフィスアワー mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国語科教育法 III	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岸本憲一良				

授業の概要 国語科の領域「書くこと」の指導を中心に、その歴史の変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身につける。 / 検索キーワード 国語科教育、「書くこと」の指導、授業構想

授業の一般目標 「書くこと」の指導における歴史の変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「書くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点を説明することができる。 思考・判断の観点：「書くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：意欲的に「書くこと」の授業を構想することができる。 態度の観点：グループ協議に積極的に参加することができる。 技能・表現の観点：開発した学習材をもとに学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

授業の計画（全体） (1) 授業は毎回プリントを配布し、参考文献についてはその都度紹介する。(2) 毎時、課題についてのシートを提出してもらうとともに、作成した指導案を提出してもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 国語科における「書くこと」 内容 シラバス説明、「書くこと」の目標、指導事項等 授業外指示 次時に向けて課題を出すことがある
- 第 2 回 項目 「書くこと」の指導について 1 内容 歴史の変遷と様々な方法、今日的課題 授業外指示 同上
- 第 3 回 項目 「書くこと」の指導について 2 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 4 回 項目 「書くこと」の指導について 3 内容 同上 授業外指示 同上
- 第 5 回 項目 「書くこと」の授業構想 1 内容 指導に当たって留意すべきこと 授業外指示 同上
- 第 6 回 項目 「書くこと」の授業構想 2 内容 学習指導案の作成に向けて 授業外指示 同上
- 第 7 回 項目 「書くこと」の授業構想 3 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 8 回 項目 「書くこと」の授業構想 4 内容 学習指導案の作成 授業外指示 同上
- 第 9 回 項目 学習指導案の検討 1 授業外指示 同上
- 第 10 回 項目 学習指導案の検討 2 授業外指示 同上
- 第 11 回 項目 模擬授業 1 授業外指示 同上
- 第 12 回 項目 模擬授業 2 授業外指示 同上
- 第 13 回 項目 模擬授業 3 授業外指示 同上
- 第 14 回 項目 模擬授業 4 授業外指示 同上
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合）以下の点を総合的に判断して評価する。(1) 学期末試験 (2) 毎時の課題シート (3) 学習指導案 (4) 出席状況

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。資料プリントを用意する。 / 参考書：授業の中で、随時紹介する。



開設科目	社会科教育学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 学校教育において「社会科」はなぜ必要なのか。「社会科」でこそ可能な学習とは何か。このような社会科の本質論にかかわる課題をいくつか取り上げ、各自が「学習指導要領案を作成する」ことを通して検討する。この検討を通して受講者個々人が日本の社会科 50 年の歩みを批判的に継承した自分なりの「社会科」指導観を創造できるようにしたい。

授業の一般目標 1. 社会科という教科の成り立ちに関して説明できる。 2. 社会科に関するカリキュラム的な発想を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 以下の概念を理解している ・総合社会科 分化社会科 ・認識形成 態度形成 思考・判断の観点： 学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる 態度の観点： 毎回の授業に出席している。 技能・表現の観点： カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 いま社会科で何が問題か 内容 学校社会科教育 をとりまく状況
- 第 2 回 項目 社会科で教える 内容は誰が決めているか 内容 社会科における「内容」の概念
- 第 3 回 項目 社会科の「内容」をめぐって 何が問題になってきたか 内容 「総合的」な社会の学びか、「分科的」な社会の学びか
- 第 4 回 項目 社会科は子どもが「どう」なることをめざすのか 内容 社会科において「目標」とは何か
- 第 5 回 項目 社会科は子どもに、何をどのように「わからせて」いるか 内容 社会科の認識原理は何か
- 第 6 回 項目 社会科は「積み上げる」教科か、「ひっくり返す」教科か 内容 社会科のカリキュラム構成原理
- 第 7 回 項目 小学校の社会科はどのように構成されるべきか 内容 小学校児童にとって「社会」とはどういうものなのか
- 第 8 回 項目 中学校「地理的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「地理的分野」の内容はこれでよいか
- 第 9 回 項目 中学校「歴史的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「社会科歴史」の存在とその意味
- 第 10 回 項目 中学校「公民的分野」はどのように構成されるべきか 内容 「公民的分野」の成立根拠
- 第 11 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（1） 内容 新しい学習指導要領をめぐる論点と課題の整理
- 第 12 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（2） 内容 「代案」となる学習指導要領の構想発表・検討（1）
- 第 13 回 項目 社会科の学習指導要領（私案）を作ろう（3） 内容 「代案」となる学習指導要領の構想発表・検討（2）
- 第 14 回 項目 社会科で身につける「学力」とはどのようなものか 内容 社会科評価論の現状と課題
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

教科書・参考書 教科書： 特に定めない 随時資料配付 / 参考書： 社会科重要語 300 の基礎知識（重要語 300 の基礎知識；4）、森分孝治、片上宗二編集、明治図書出版、2000 年；社会科教育学ハンドブック：新しい視座への基礎知識、社会認識教育学会編、明治図書出版、1994 年；『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2000 社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当  
学生に連絡

開設科目	中等地理歴史教育論 I	区分	講義と演習	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

授業の概要 現行の中学校・高等学校の地理歴史教育のカリキュラムを概観し、特に争点となるポイントを取り上げて論究する。後半は小グループで任意の題材を 1 つ取り上げ、単元構成、指導計画、テスト問題作成などを行い、発表・検討する。

授業の一般目標 1 . 中等地理・歴史授業における学習指導の分析力と実践力を養う。 2 . さまざまな地理・歴史授業の事例や互いの発表資料に対して教科教育としての分析を行い、それを踏まえて単元と授業を構想できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：以下の概念を理解している。・社会科歴史 社会科地理・内容構成・単元構成・教材構成 思考・判断の観点：地理・歴史に関する授業計画や授業実践、評価問題に対し、授業構成論の観点から論評することができる。 態度の観点：毎回の授業に出席している 技能・表現の観点：地理・歴史に関する内容研究を踏まえて単元計画、授業計画、評価計画をたてることのできる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地理・歴史教育概論 (1) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (1) - 中学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 2 回 項目 地理・歴史教育概論 (2) 内容 現行の中等地理・歴史はどうなっているか (2) - 高等学校の地理・歴史で何が問題か -
- 第 3 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (1) 内容 教育実習における地理・歴史授業の分析
- 第 4 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (2) 内容 地理・歴史授業のための教材研究と内容構成
- 第 5 回 項目 地理・歴史教育の授業づくり (3) 内容 教材研究と単元計画
- 第 6 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (1) 内容 単元計画の検討 ( 1 )
- 第 7 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (2) 内容 単元計画の検討 ( 2 )
- 第 8 回 項目 地理・歴史単元構成演習 (3) 内容 単元計画の検討 ( 3 )
- 第 9 回 項目 地理・歴史授業における学習指導 内容 学習指導案の書式と構成
- 第 10 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (1) 内容 学習指導案の検討 ( 1 )
- 第 11 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (2) 内容 学習指導案の検討 ( 2 )
- 第 12 回 項目 地理・歴史学習指導論演習 (3) 内容 学習指導案の検討 ( 3 )
- 第 13 回 項目 地理・歴史教育における評価 (1) 内容 地理・歴史授業とテスト問題
- 第 14 回 項目 地理・歴史教育における評価 (2) 内容 地理・歴史のテスト問題の検討
- 第 15 回 項目 レポート課題の作成

成績評価方法 (総合) 出席点、授業内小レポート、最終レポートで総合評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めない。 / 参考書：社会認識教育学会『中学校社会科教育』学術図書出版社、1996 社会認識教育学会『地理歴史科教育』学術図書出版社、1996

メッセージ 一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：教育学部 472 研究室, Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・該当学生に連絡

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題を取りあげ、9.11以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。/ 検索キーワード 平和教育 国際平和 日本の役割 憲法9条 自衛隊

授業の一般目標 1. 9.11以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。2. 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 20～40% 受講者の発表（プレゼンテーション）や授業内での制作作業（作品） = 40～60%

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	英語科教育学概論	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、以後の発展科目への基盤となるような、英語科教育学の諸領域における 基礎的な事項や用語を概説する。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英語科教育学における基礎的な事項や用語について幅広い知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語科教育学における基礎的な事項や用語について簡単に説明できる。 思考・判断の観点： 1. 授業内で扱った内容を自分なりに整理することができる。 関心・意欲の観点： 1. 自身の英語学習経験と照らし合わせながら、英語科教育学の扱う各領域への関心を高める。

授業の計画(全体) プリントと教科書の該当箇所を参照しながら授業をすすめる。詳しくは授業計画(授業単位)を参照。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総論・英語科教育学の守備範囲 内容 英語科教育学の扱う諸領域について説明する。
- 第 2 回 項目 日本の英語教育史 内容 江戸末期、明治、大正、昭和期及び現在の英語教育について簡単に歴史を追う。特に戦後については学習指導要領の変遷を解説する。
- 第 3 回 項目 英語教育目的論 内容 主に実用論と教養論の系譜を追って説明する。
- 第 4 回 項目 カリキュラム・シラバス 内容 カリキュラム・シラバスの概念やシラバスの種類について説明する。
- 第 5 回 項目 言語習得理論 内容 言語習得観とそれに基づく仮説について解説する。
- 第 6 回 項目 コミュニケーションをめぐる考察 内容 コミュニケーションとコミュニケーション能力の捉え方について説明する。
- 第 7 回 項目 各種教授法 内容 様々な教授法の特徴について解説する。
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 筆記試験
- 第 9 回 項目 学習者論 内容 年齢、適性、動機づけなどの学習者要因を説明する。
- 第 10 回 項目 授業の構成と展開 内容 典型的な授業の流れと留意点について説明する。
- 第 11 回 項目 発音、語彙、文法の指導 内容 発音、語彙、文法の指導とその留意点について解説する。
- 第 12 回 項目 リスニングの指導、スピーキングの指導 内容 リスニングの指導、スピーキングの指導とその留意点について解説する。
- 第 13 回 項目 リーディングの指導、ライティングの指導 内容 リーディングの指導、ライティングの指導とその留意点について解説する。
- 第 14 回 項目 評価論 内容 評価やテストの捉え方について説明する。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 筆記試験

成績評価方法(総合) (1) 定期試験の成績、(2) 授業内レポート、(3) 期末レポートで評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『新しい英語科教育法 - 理論と実践のインターフェイス - 』, 青木昭六(編著), 現代教育社, 2002年 / 参考書：授業内で紹介する。

メッセージ この授業の目的は英語教育に関する専門用語等の基礎的な知識を獲得することです。学習内容がとても多いので心の準備をして臨んでください。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	実践英語科教育学	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語の授業の構成（指導課程）や教材研究の方法について学習する。授業案の作成についても扱う予定である（実地指導講師担当）。模擬授業を実際に体験することにより、指導方法についても一定の知識と技能を得ることを目標とする。また、この授業を通し、教育実習の研究課題を得ることもねらいとしている。

授業の一般目標 英語の授業の構成（指導過程）を理解すること。教材研究の方法を習得すること。授業案の作成ができるようになること。模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を得ること。教育実習の研究課題を得ること。

授業の計画（全体） 新出単語や新出構文の導入（文法説明を含む）などのテーマを取り上げ、英語の授業の構成（指導過程）を理解する。また、教材研究の方法についても学習し、授業案の作成ができるようにする。さらに、模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を獲得する。教育実習の研究課題を得ることもこの授業を通して達成したいねらいである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 単語の提示
- 第 2 回 項目 新出構文の導入
- 第 3 回 項目 場面や場面の重要性、発問の仕方
- 第 4 回 項目 模擬授業
- 第 5 回 項目 模擬授業
- 第 6 回 項目 中学校の指導例
- 第 7 回 項目 高等学校の指導例
- 第 8 回 項目 タスク
- 第 9 回 項目 発音の指導
- 第 10 回 項目 リーディングの指導
- 第 11 回 項目 ライティングの指導
- 第 12 回 項目 発音模擬指導
- 第 13 回 項目 オーラル インタラクション： 生徒から反応を引き出す
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

成績評価方法（総合） 発表、レポート、テストの成績によって評価する。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002年

連絡先・オフィスアワー <http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/xoops/>

開設科目	英語科教育学 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 実践英語科教育法と並行履修することにより、( また、模擬授業を体験することにより ) 英語の教師としての留意点や教授法について学ぶ。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学ぶ。

授業の一般目標 発問やフィードバックについての知識を持つ。教授法に関する知識を持つ。4 技能の指導に関する基本的な知識と技能を持つ。教具や教育メディアの利用技術についての知識と技能を持つ。指導要領に関する知識を持つ。

授業の計画 ( 全体 ) 実践英語科教育法と並行履修することにより、英語の教師としての留意点や教授法について学習を行う。具体的には、発問、フィードバック、教授法、4 技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学習する。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教授案 ( 挨拶、REVIEW、導入、文法的説明 )
- 第 2 回 項目 コミュニケーション活動
- 第 3 回 項目 発問及びリーディング
- 第 4 回 項目 中学校の指導例 1
- 第 5 回 項目 中学校の指導例 2
- 第 6 回 項目 リスニングの指導
- 第 7 回 項目 絵本の導入
- 第 8 回 項目 教授法 ( 1 ) 文法訳読法、直接教授法、オーラルメソッド、オーラルアプローチ
- 第 9 回 項目 教授法 ( 2 ) サイレント・ウェイ、全身反応学習、コミュニケーションアプローチ、タスクの考え方 内容 学生による模擬授業
- 第 10 回 項目 教授法 ( 3 ) : 第 2 言語習得理論と外国語指導 ナチュラル・アプローチ 内容 学生による模擬授業
- 第 11 回 項目 教育メディア、教具などについて
- 第 12 回 項目 クラスルーム・イングリッシュなど
- 第 13 回 項目 指導要領と求められるコミュニケーション能力
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 調整週

教科書・参考書 参考書 : 『英語科教育法の構築と展開』, 青木昭六 ( 編著 ), 現在教育社, 2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/xoops/>

開設科目	英語科教育学 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

授業の概要 英語教育学概論、実践英語科教育法、英語科教育学 I の履修をベースに主として、各種指導法、指導技術、言語材料、言語技能、評価論の中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の一般目標 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、言語習得、スピーキングなどの評価方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の計画（全体） 文法の指導、語彙指導、4 技能の指導方法、語用論的視点からの指導、言語習得、スピーキングなどの評価・テスト方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文法の指導（ 1 ）
- 第 2 回 項目 文法の指導（ 2 ）
- 第 3 回 項目 文法の指導（ 3 ）
- 第 4 回 項目 スピーキングの評価
- 第 5 回 項目 言語テストと評価
- 第 6 回 項目 英語の語彙指導（コロケーションを含む）
- 第 7 回 項目 スローラーナーの指導
- 第 8 回 項目 動機付け（英語を楽しく学ぶには？）ゲーム、その他の工夫
- 第 9 回 項目 第二言語習得、対照分析、エラー分析、中間言語、化石化、エラー訂正
- 第 10 回 項目 テスティングと統計処理（エクセルを用いて）
- 第 11 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 12 回 項目 リスニングの指導（模擬授業）
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 発表とテストの成績によって評価を行う。

教科書・参考書 参考書：『英語科教育法の構築と展開』，青木昭六（編著），現在教育社，2002 年

連絡先・オフィスアワー <http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/xoops/>



開設科目	英語科教育学 III	区分	講義と演習	学年	4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

授業の概要 本授業では、英語教育学概論、英語科教育学 I、II などの履修をベースに、教師論、学習者論、指導法、教材論などについて扱う。 / 検索キーワード 英語教育、英語教授・学習

授業の一般目標 英文の専門書を読むことを通して、英語学習指導についての知識を深めるとともに、教育実習での経験などを踏まえながら幅広い省察の視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 英語学習指導のあり方とその留意点について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について考え、自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点： 1. 様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について関心を高める。 態度の観点： 1. 他者との率直な意見交換と省察を通して、理解を深めようとする。

授業の計画（全体） 授業は、教科書と補助プリントを用い、その内容に関するディスカッション・演習を含む形式で進行する。受講者には教科書の内容に関するプレゼンテーションを課す予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 優れた教師とは何か
- 第 2 回 項目 学習者の様々な特徴
- 第 3 回 項目 指導と学習の展開方法
- 第 4 回 項目 指導と学習の捉え方
- 第 5 回 項目 言語の指導法（一般）
- 第 6 回 項目 リスニングの指導法
- 第 7 回 項目 スピーキングの指導法
- 第 8 回 項目 リーディングの指導法
- 第 9 回 項目 ライティングの指導法
- 第 10 回 項目 教科書の使い方
- 第 11 回 項目 授業計画の立て方
- 第 12 回 項目 様々な場面への対処法
- 第 13 回 項目 調整週
- 第 14 回 項目 調整週
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 定期試験の成績、プレゼンテーションの内容、レポート（ないしは小テスト）、ディスカッション・演習への取り組みなどを総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： How to Teach English, Jeremy Harmer, Longman, 1998 年；教科書は変わることがあります。指示があるまで購入しないでください。 / 参考書： 授業内で紹介する。

メッセージ この授業では英語教育に関する専門書を英語で読む機会を提供します。

連絡先・オフィスアワー nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	中国語科教育法 I	区分	講義	学年	3
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 教科書に沿って、中国語教師として心得ておくべき基本的知識について、国内で利用可能な中国語教材等を紹介しつつ、講義する。最後に、受講者一人一人が、学習上疑問が生じやすい発音・文法上のトピックを選んで、研究結果を発表する。/ 検索キーワード 中国語、規範化、教材、発音、文法、教育

授業の一般目標 中国語教育者として知っておくべき教材や文法に関する知識の概略を身につけ、疑問点を自分で解決する能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本・中国における中国語教育のこれまでの流れについて理解する。現代中国語の規範化について要点を理解する。現行の中国語教材の特徴について理解する。現代中国語の発音と文法上の特徴について要点を理解する。 関心・意欲の観点：中国語教育実践に関する問題意識を持ち、教育法を工夫することができる。 技能・表現の観点：疑問・関心を持ったテーマについて、自主的に研究し、研究結果について効果的な口頭報告をすることができる。

授業の計画（全体）教科書に沿って、現代中国語の規範化と中国語教育の流れについて、順次講義する。最後に、受講者各人に、現代中国語の発音や文法上の特徴について、自由にテーマを選んで、研究結果を順番に口頭発表してもらおうと共に、中国語教育に関し自由なテーマを選んでレポートを書いてもらう。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国語とはどんな言語か
- 第 2 回 項目 日本人と中国語
- 第 3 回 項目 中国語教育の流れ
- 第 4 回 項目 中国語の規範化
- 第 5 回 項目 簡体字とピンイン
- 第 6 回 項目 ピンインの正書法
- 第 7 回 項目 発音の学習内容
- 第 8 回 項目 文法の学習内容
- 第 9 回 項目 文法の学習内容
- 第 10 回 項目 語彙の学習内容
- 第 11 回 項目 リスニング・作文の教材について
- 第 12 回 項目 検定試験について
- 第 13 回 項目 研究発表 (1)
- 第 14 回 項目 研究発表 (2)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合）授業への参加度と、研究発表とにより知識・理解と技能・表現上の目標到達度を評価する。また、レポートにより、関心・意欲の観点について評価を行う。評価割合はそれぞれ 70 %、30 % とする。なお出席が 3 分の 2 に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中国語の教え方・学び方, 輿水優, 富山房, 2005 年；各自文栄堂（大学前店）で購入しておいください。/ 参考書：中国語の語法の話, 輿水優, 光生館, 1985 年；その他、授業中に随時紹介します。

メッセージ 教育実習などにも役立つよう、発音やヒアリングなど技能の向上もめざすつもりで参加してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 Tel.933-5250 オフィスアワー月曜日 12:50-16:00

開設科目	道徳教育	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

授業の概要 道徳の語源と意味について学習し、西欧における道徳観の変遷について哲学的歴史的な観点から理解する。また、シュプランガーの倫理教育思想を道徳教育と関連させながら学習し、人間としての生き方について考察する。さらに、道徳教育の目的・内容・方法と「道徳の時間」の展開の仕方や指導方法を学び、実践的指導力を養う。 / 検索キーワード 道徳、道徳観、シュプランガー、道徳教育、道徳の時間

授業の一般目標 1. 道徳の語源と意味について理解し、道徳の本質的な意味について考察する。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解する。 3. シュプランガーの教育の3つの概念や6つの価値類型を道徳教育と関連させながら理解し、人間としての生き方について考察する。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解する。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解し、実践的指導力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. シュプランガーの教育の3つの概念と6つの価値類型について理解できる。 4. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。 5. 「道徳の時間」の展開や指導方法を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 道徳の本質的な意味やシュプランガーの教育理論と関連させながら、人間としてのよりよい生き方について考えることができる。 2. 日常生活の中で、状況に応じて適切な判断をすることができる。 関心・意欲の観点： 1. 道徳教育や心の教育への関心や意欲を高めることができる。 態度の観点： 1. 日常生活の中で、適正な思考や判断に基づいた態度や行動をとることができる。 技能・表現の観点： 1. 「道徳の時間」の指導方法や、そのための技能と技術を身につけることができる。

授業の計画(全体) 道徳についての本質的な意味を哲学的、歴史的な観点から考察した上で、道徳教育の目的・内容・方法について学び、「道徳の時間」の展開方法や指導方法を理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 道徳の語源と意味 内容 ギリシア語、ラテン語、ドイツ語等から道徳の意味を探る。
- 第 2 回 項目 道徳律と道徳性 内容 外面的道徳と内面的道徳、モラルとエートス
- 第 3 回 項目 道徳観の変遷(1) 内容 ソクラテスとアリストテレス
- 第 4 回 項目 道徳観の変遷(2) 内容 1. アウグスティヌスとトマスアキナス 2. カント
- 第 5 回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念と道徳 内容 1. 発達の援助 2. 文化財の伝達 3. 良心の覚醒
- 第 6 回 項目 シュプランガーの6つの価値類型と道徳 内容 理論的価値、経済的価値、審美的価値、権力的価値、社会的価値、宗教的価値
- 第 7 回 項目 道徳教育の目的(1) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第 8 回 項目 道徳教育の目的(2) 内容 学習指導要領における道徳教育の目的
- 第 9 回 項目 道徳教育の内容(1) 内容 1. 主として自分とのかかわりに関すること 2. 主として他人とのかかわりに関すること 2.
- 第 10 回 項目 道徳教育の内容(2) 内容 1. 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること 2. 主として集団や社会とのかかわりに関すること
- 第 11 回 項目 道徳教育の方法 内容 問答法、ディベート、役割演技、ドラマ化等による方法
- 第 12 回 項目 「道徳の時間」の展開(1) 内容 「気づく - 捉える - 深める - 見つめる - 生かす」という「道徳の時間」の展開について説明する。
- 第 13 回 項目 「道徳の時間」の展開(2) 内容 具体的な「道徳の時間」の指導案を提示して説明する。
- 第 14 回 項目 学習指導案の書き方 内容 実際に「道徳の時間」の指導案を書かせる。
- 第 15 回 項目 評価 内容 筆記試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書： 道徳と心の教育 (MINERVA 教職講座 ; 7), ”山崎英則, 西村正登編著”, ミネルヴァ書房, 2001 年 ; 道徳と心の教育、山 英則 . 西村正登編著、ミネルヴァ書房、2001 年 / 参考書： 使用しない。

メッセージ 道徳の本質を哲学的歴史的な観点から理解すると同時に、道徳教育に関する実践的な指導力が身につくように努めて下さい。理論面と実践面の両面から道徳教育にアプローチしていきます。

連絡先・オフィスアワー masaton @ yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室 オフィスアワー 金曜日 11 : 50 ~ 12 : 50

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉山直子				

授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、教育の機能・構造について、学ぶ。そして、その中の訓育について理解を深め、学校教育における特別活動の目標・内容・方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学校教育における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」の指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第2回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす。
- 第3回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について、様々な領域で考えてみる。
- 第4回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どものたちの環境を知る。
- 第5回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。 授業外指示 意見を出すための情報収集
- 第6回 項目 教育の構造<BR>(1) 内容 教育に関する歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする。
- 第7回 項目 教育の構造<BR>(2) 内容 陶冶と訓育
- 第8回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す。
- 第9回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第10回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考えてみる。
- 第11回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす。
- 第12回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第13回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団遊び、討議などについて思い起こす。
- 第14回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方
- 第15回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記の書物は、主に第2章で使用。第1章・第3章はプリントを配布。 / 参考書：プリントを資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。/ 検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよいらうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。 思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくかが、結局子どもの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるか、また支援していくかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 小学校編 -
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 中学校編 -
- 第 7 回 項目 現代の子どもにおける「キレル」ということ
- 第 8 回 項目 スクールカウンセリングの実際 - 高等学校編 -
- 第 9 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査
- 第 14 回 項目 教育相談における心理療法 1 - 来談者中心療法と精神分析療法 -
- 第 15 回 項目 教育相談における心理療法 2 - ブリーフセラピーや認知行動療法を中心に -

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00



開設科目	総合演習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 「総合演習」は教職免許に必要な科目である。本年度は、「時代のなかの人間、文学、思想、社会」という包括的なテーマのもとに、7人の教員がオムニバス形式で講義あるいは演習形式の授業をする。/検索キーワード 児童文学、市民活動、伝統的な暮らし、遺物、さんせう太夫、小右記、視聴覚資料

授業の一般目標 異なる分野の教員が提示する様々な学問的・経験的アプローチに接する中で、問題を自ら見出し、自ら解決する能力の向上を目指す。

授業の計画(全体) 本授業は、教員免許の取得を目指す学生のための授業で、今年度は「時代のなかの人間、文学、思想、社会」というテーマで7名の教員が各自の授業内容を2回で講義する。文学、歴史学、社会学、倫理・思想史の観点で講義をする。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 児童文学を読む(1) 内容 絵本の世界 授業外指示 岸本憲一良(教育学部) 授業記録 9月29日
- 第2回 項目 児童文学を読む(2) 内容 民話、物語の世界 授業外指示 岸本憲一良(教育学部) 授業記録 10月6日
- 第3回 項目 「市民活動の時代」に向けて(1) 内容 市民活動とは何か、市民活動時代の社会背景 授業外指示 横田尚俊(人文学部) 授業記録 10月20日
- 第4回 項目 「市民活動の時代」に向けて(2) 内容 市民活動の社会的意義と課題 授業外指示 横田尚俊(人文学部) 授業記録 10月27日
- 第5回 項目 山口の伝統的暮らしを理解する(1) 内容 住まいとすまい方を理解する 授業外指示 坪郷英彦(人文学部) 授業記録 11月10日
- 第6回 項目 山口の伝統的暮らしを理解する(2) 内容 祭とその役割を理解する 授業外指示 坪郷英彦(人文学部) 授業記録 11月17日
- 第7回 項目 遺物を見る(1) 内容 土器 授業外指示 中村友博(人文学部) 授業記録 12月1日
- 第8回 項目 遺物を見る(2) 内容 石器 授業外指示 中村友博(人文学部) 授業記録 12月8日
- 第9回 項目 「さんせう太夫」を読む(1) 内容 その不思議な世界 授業外指示 豊澤一(人文学部) 授業記録 12月15日
- 第10回 項目 「さんせう太夫」を読む(2) 内容 中世神道とのかかわり 授業外指示 豊澤一(人文学部) 授業記録 12月22日
- 第11回 項目 『小右記』の世界(1) 内容 平安貴族の日々 授業外指示 橋本義則(人文学部) 授業記録 1月15日
- 第12回 項目 『小右記』の世界(2) 内容 藤原実資という人物 授業外指示 橋本義則(人文学部) 授業記録 1月19日
- 第13回 項目 視聴覚資料の活用(1) 内容 視聴覚資料活用の効果 授業外指示 藤川哲(人文学部) 授業記録 1月21日
- 第14回 項目 視聴覚資料の活用(2) 内容 視聴覚資料の作成法 授業外指示 藤川哲(人文学部) 授業記録 1月26日
- 第15回 項目 課題レポート提出

成績評価方法(総合) 各教員による評価を集計して総合的に評価する。全教員に共通しているのは、出席率の重視で、その他は各教員の裁量に任される。各教員の評価方法は(レポート、小テスト、授業への参加度など)について、それぞれの授業の中で説明する。

メッセージ オムニバス形式の授業から、時代のニーズや教師として必要な観点を学んで欲しい。

連絡先・オフィスアワー マネージャーは、人文学部 藤川哲（研究室 417 室） メールアドレス：  
fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは、水曜 13～14 時

開設科目	事前・事後指導	区分	講義と演習	学年	その他
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

授業の概要 中学校・高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするため、教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は、次の通り。事前指導：授業の参観、教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議

授業の一般目標 1 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

授業の計画(全体) 事前指導として、学習指導、生徒指導、授業参観等に関する中学校・高等学校教員による講義、教科に分かれての授業参観、教科別指導等を行う。事後指導は実習後に実習生によるレポート作成、体験発表等を行う。

成績評価方法(総合) 出席状況及びレポート等によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(中)	区分	実習	学年	その他
対象学生		単位	4単位	開設期	その他
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための教育実習を中学校において行う。中学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。 3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校・県内公立中学校において、実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を、あわせて行い、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(高)	区分	実習	学年	3年生-4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

授業の概要 中学校教諭免許・高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校・高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許・小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許・高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標 1.教育の理論と実践との一体化をはかる。 2.教育活動全般にわたる認識を深める。 3.生徒に対する理解を深める。 4.教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 附属中学校において実地授業を行う(ただし、情報の高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習は、出身校等、高等学校において行う)。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、中等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

人文社会学科 哲学・思想コース

開設科目	哲学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。 / 検索キーワード 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神

授業の一般目標 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋哲学の基本問題を理解する。 思考・判断の観点：哲学的な思考ができるようになる。

授業の計画（全体） 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。

成績評価方法（総合） 試験による。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。 /  
 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点：その問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）心の哲学、特に、「私」に心的状態を付与する場合と、「他者」に付与する場合に一見した違いの解釈について考察する。

成績評価方法（総合）レポートもしくは試験による。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上枝美典				

授業の概要 英米系分析的宗教哲学入門。キリスト教を代表とする西洋的有神論を主として分析哲学の視点から批判的に考察する。全知と人間の自由の問題、神の存在論証、信仰と理性の問題など。

授業の一般目標 西洋的有神論の基本的な議論を理解し、宗教について自ら考えていくための基礎を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西洋的有神論および無神論の基本的な議論を理解する。 思考・判断の観点：簡単な論理学の知識を具体的な問題に適用できるようになる。 関心・意欲の観点：宗教を歴史文化の一部として捉えるための距離感を獲得する。

授業の計画（全体） 別に指定する教科書の全十二章を、一回に一章のペースで論じる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 序章 内容 受講に関する一般的な注意。宗教哲学についての概説
- 第 2 回 項目 論理実証主義の宗教批判 内容 科学と宗教の関係について
- 第 3 回 項目 宗教の心理学的解釈 内容 フロイトの宗教批判について
- 第 4 回 項目 悪の問題の論理構造 内容 悪の存在に基づく無神論について
- 第 5 回 項目 自由意志による弁護 内容 悪の問題に対する伝統的な弁護論について
- 第 6 回 項目 神の基本性質 内容 西洋的有神論における神の基本性質と自由の関係について
- 第 7 回 項目 自由と責任 内容 全知全能と人間の自由について
- 第 8 回 項目 宇宙論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（1）
- 第 9 回 項目 目的論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（2）
- 第 10 回 項目 存在論的論証 内容 代表的な神の存在論証について（3）
- 第 11 回 項目 信仰の倫理 内容 クリフォードによる信仰の倫理的問題点の指摘
- 第 12 回 項目 信仰という選択 内容 ジェイムズによる信仰の弁護
- 第 13 回 項目 合理性の行方 内容 信仰を現代認識論の観点から再評価する
- 第 14 回 項目 有神論と無神論 内容 ドーキンスなどの無神論について
- 第 15 回 項目 終章 内容 宗教哲学の将来へ向けて

成績評価方法（総合） レポート 7 割、出席 3 割。

教科書・参考書 教科書：「神」という謎（第二版）、上枝美典、世界思想社、2007 年

備考 集中授業

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。 / 検索キーワード 哲学

授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。

授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。

成績評価方法（総合） レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 取り上げた哲学的議論を理解する。 思考・判断の観点： 取り上げた問題について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体） 前期は、主に日本語訳をもちいて学生がテキストを分担してレジユメを作成、発表した後、ディスカッションを行います。

成績評価方法（総合） 授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

授業の概要 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。 / 検索キーワード 古代ギリシア哲学

授業の一般目標 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：取り上げた二次文献の議論を理解する。 思考・判断の観点：取り上げた文献について哲学的考察を加える。

授業の計画（全体）各自が二次文献を一つ（ないし複数）担当し、要約を作成して授業中に発表する。

成績評価方法（総合）授業中の発表、あるいは、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	青山 拓央				

授業の概要 因果性と可能性についての哲学的問題を扱います。テキストはデイヴィッド・ルイスの翻訳書や、『言語哲学大全』第二巻・第三巻などを予定していますが、出席者と相談の上、より短い論文を読む場合もあります。小論文(レポート)執筆のための、論理的なアドバイスも行ないます。

授業の一般目標 因果性と可能性について、現代哲学の諸説を学ぶとともに、自分自身の問題意識を文章化することを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 因果性と可能性についての哲学的問題を、解説・検討します。

思考・判断の観点： 既存の学説を参考に、自分自身の考えをまとめ、レポート化します。 関心・意欲の観点： 活発なディスカッションへの参加を期待します。

授業の計画(全体) 講義の半分は関連分野の研究解説に当て、残りの半分では、ディスカッションを通して、新たな問題の検討を試みる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方
- 第 2 回 項目 因果性の哲学 概説 1 内容 導入
- 第 3 回 項目 因果性の哲学 概説 2 内容 ヒューム的問題
- 第 4 回 項目 因果性の哲学 概説 3 内容 デイヴィッド・ルイス以後
- 第 5 回 項目 レポート指導 1 内容 論証についての解説
- 第 6 回 項目 可能性の哲学 概説 1 内容 導入
- 第 7 回 項目 可能性の哲学 概説 2 内容 クリプキとルイス
- 第 8 回 項目 可能性の哲学 概説 3 内容 九鬼の偶然論
- 第 9 回 項目 レポート指導 2 内容 具体的なトピック
- 第 10 回 項目 発展的問題 1 内容 決定論
- 第 11 回 項目 発展的問題 2 内容 自由意志
- 第 12 回 項目 発展的問題 3 内容 時間論
- 第 13 回 項目 レポート指導 3 内容 提出レポートの最終チェック
- 第 14 回 項目 補足 内容 レポート回収
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 提出レポートをもとに評価を行ないます。レポートの具体的な作成方法については、授業中に説明します。ディスカッションへの参加意欲も評価の参考材料とします。

教科書・参考書 参考書： 講義中に紹介します。

開設科目	倫理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 「善と悪」「正義」「幸福」「社会契約」「自由」等に関する西洋倫理思想史上の諸見解を批判的に検討しつつ、「倫理」をめぐる私たちの思考のうちに潜む謎を、謎として浮上させる。

授業の一般目標 「善悪」「幸福」「自由」をめぐる私たちの理解の根本前提をあらためて問いなおす。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 西洋倫理思想史に関する基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「倫理」の基盤に関する原理的な思考をみずから展開する。

授業の計画（全体） 教科書を批判的に読解していく。

成績評価方法（総合） 期末試験および授業内レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書： 倫理とは何か 猫のインジヒトの挑戦, 永井 均, 産業図書, 2003 年

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 毎週水曜日 12:50 ~ 14:20

開設科目	西洋倫理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 近代の西洋倫理学史における重要テキストのひとつカント『道徳形而上学の基礎づけ』(1785年)を読む。

授業の一般目標 理性の理念としての「道徳法則」に基づいて、自由、人格、義務等の諸概念を整理しながら、私たちの誰もが従うべき「定言命法」を定式化しようとするカントの考察を、テキストに即して紹介し、その要諦を解釈していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 自由、人格、義務等の諸概念に関するカントの考察の要点を理解する。 2 「定言命法」とは何かを理解する。 思考・判断の観点： 1 「道徳法則」なるものの可能性について批判的に考察する。 2 . 倫理にとって「理性」あるいは「ratio」とは何なのか、批判的に考察する。

授業の計画(全体) 課題テキストの重要部分を紹介しながら、カント的考察の道筋を再構成し、ありうべき解釈を遂行していく。

成績評価方法(総合) 期末レポートによって評価する。

教科書・参考書 参考書：『道徳形而上学原論』, カント, 岩波文庫, 1976年; 『プロレゴメナ、人倫の形而上学の基礎づけ』, カント, 中公クラシックス, 2005年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20



開設科目	西洋倫理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上野修				

授業の概要 17世紀最大の哲学者のひとりスピノザ (Baruch/Benedictus de Spinoza 1632-1677) の倫理思想について講義します。上野修『スピノザの世界 神あるいは自然』(講談社現代新書)をテキストとして用います。原典の邦訳を横に置いておくといいでしょう。『知性改善論』、『エチカ』はいずれも岩波文庫に入っています。

授業の一般目標 1. スピノザの倫理学・哲学の内容を理解すること。 2. スピノザの思想から生き方のヒントを得ること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. スピノザの思想の諸要点を理解できるようになること。 2. スピノザの考え方について人に話せるようになること。 思考・判断の観点: 1. 例示されるスピノザの文章を実際に読み、難読テキストの読解能力を養う。 2. スピノザの思想を実例として、事物を愛する実践能力を養う。

授業の計画(全体) 1. スピノザの企て(『知性改善論』) 2. 神あるいは自然(『エチカ』第一部) 3. 精神の起源(『エチカ』第二部) 4. 自由(『エチカ』第三部から第五部)

成績評価方法(総合) 授業終了後のレポートによる。

教科書・参考書 教科書: 『スピノザの世界 神あるいは自然』, 上野修, 講談社現代新書, 2005年 / 参考書: 『エチカ 倫理学(上)』, スピノザ, 岩波文庫, 1975年; 『エチカ 倫理学(下)』, スピノザ, 岩波文庫, 1975年; 『知性改善論』, スピノザ, 岩波文庫, 2000年

備考 集中授業

開設科目	西洋倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ヘーゲルの『精神現象学』を読む。ドイツ語原文および英訳ならびに各種の日本語訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討し、読み進める。

授業の一般目標 ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：“Phaenomenologie des Geistes”，G.W.Hegel, Suhrkamp, 1986年；『精神の現象学』，ヘーゲル(金子武蔵訳)，岩波書店，2002年；『精神現象学』，G.W.F.ヘーゲル(櫻山欽四郎訳)，平凡社，1997年 / 参考書：『ヘーゲルの精神現象学』，金子武蔵，筑摩書房，1996年；『ヘーゲル「精神現象学」入門』，加藤尚武編，有斐閣，1996年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ヘーゲルの『精神現象学』を読む。ドイツ語原文および各種の日本語訳ならびに英訳を参照しつつ、その一字一句の意味を検討し、読み進める。

授業の一般目標 ヘーゲル『精神現象学』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。

授業の計画(全体) 毎回、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：“Phaenomenologie des Geistes”，G.W.Hegel, Suhrkamp, 1986年；『精神の現象学』，ヘーゲル(金子武蔵訳)，岩波書店，2002年；『精神現象学』，G.W.F.ヘーゲル(櫻山欽四郎訳)，平凡社，1997年 / 参考書：『ヘーゲルの精神現象学』，金子武蔵，筑摩書房，1996年；『ヘーゲル「精神現象学」入門』，加藤尚武編，有斐閣，1996年

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ベルクソンの『創造的進化』を読む。

授業の一般目標 ベルクソン『創造的進化』の精密な読解を通じ、人間がどのような生き物である（または、あり得る）のか、を、原理的に考察するための指針を得る。

授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法（総合） 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：『創造的進化』，ベルクソン，白水社，2001年；原書（フランス語）のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

授業の概要 ベルクソンの『創造的進化』を読む。

授業の一般目標 ベルクソン『創造的進化』の精密な読解を通じ、人間がどのような生き物である(または、あり得る)のか、を、原理的に考察するための指針を得る。

授業の計画(全体) 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所(あるいは課題)についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。

成績評価方法(総合) 授業内での発表報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書:『創造的進化』, ベルクソン, 白水社, 2001年; 原書(フランス語)のコピーを適宜配布する。

メッセージ 教科書の予習が必須です。

連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	中国哲学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木 智見				

**授業の概要** まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。/ 検索キーワード 古代中国、四書五経、諸子百家、考古学、神話学、甲骨文、金文、木簡、

**授業の一般目標** 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的文脈に即して理解できるようにする。ただし、今年度は文献資料の分析・紹介に重点を置く。

**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：中国古代について全般的な知識を獲得する。漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ、**思考・判断の観点**：中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ **関心・意欲の観点**：いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化があったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。

**授業の計画（全体）** 新石器時代に関しては神話ならびに考古学、夏殷周については甲骨金文、春秋戦国については木竹簡、秦漢以降については帛書といった新出土史料を詳しく解説して時代状況を明らかにしたうえで、経書や諸子などの文献史料の内容を解釈・説明する。

**成績評価方法（総合）** 基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する。

**教科書・参考書** 教科書：プリント配布 / 参考書：先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001年；中国考古の重要発見, 高木智見, 日本エディタースクール, 2003年；伝統中国の歴史人類学, 高木智見, 知泉書館, 2005年；講義の中で指示

**メッセージ** 原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。

**連絡先・オフィスアワー** 人文学部5階 火曜日16時から17時

開設科目	中国思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の戦争の具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。画像石などの図像資料を多用することによって、この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。 / 検索キーワード 古代中国、国家共同体、君主、戦争、武器、図像

授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する。 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。

授業の計画（全体） 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。

成績評価方法（総合） レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 特になし / 参考書： 先秦の社会と思想, 高木智見, 創文社, 2001 年 ; 授業の中で指示する

メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 火曜日16時から17時

開設科目	中国思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 前期に同じ



開設科目	中国思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。前期の授業科目は、国家形成期における大型環濠・城郭集落から周、秦、漢、唐時代の都城建設に至るまで、史的な考察に焦点をしばり、中国古代都城の特質を考える。 / 検索キーワード 陰陽死生 都城と陵墓 景観と方位 宇宙観 天・地・人・神

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体） ・本授業は、古代中国における都城と陵墓の考古学資料を時代順に整理・紹介し、文献考察や史料批判を加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に描き出すとともに、それぞれの時代特徴と思想的な背景を認識し、古代中国人の世界観と創造力を探求しようとするものである。

成績評価方法（総合） レポート提出：問題意識、思考力、文章力を見て総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：特になし、授業時に指示する。 / 参考書：授業時のプリント配布 楊寬『中国古代制度史研究』上海古籍出版社、1993

開設科目	中国思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	黄 晓芬				

授業の概要 古代中国における都城と陵墓の造営は、明確な思想的背景をもち、自然景観との調和を注意深くはかり、計画性の高い設計に基づいたものである。本授業は、考古学資料を素材に文献の考察に加えて、陰陽死生を表象する二つの神聖空間を具体的に解析し、古代中国人の世界観と創造力を探究しようとするものである。後期の授業科目は膨大な古代陵墓の発掘資料を総合的に考察・分析し、中国葬送儀礼の伝統と変革を史的展開を探り、中国人の他界観を考える。 / 検索キーワード 陰陽死生 宇宙観 天・地・人・神 都城と陵墓 景観と方位

授業の一般目標 中国思想史の面白さと奥深さを認識することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国思想史の基礎知識と概念を伝授し、モノ（遺跡・遺物）を通して理解することができる。 思考・判断の観点：人間の思想と社会を深く理解するため、歴史的感覚が不可欠であることを説明することができる。 関心・意欲の観点：現代における新旧の社会問題を考える時、なにかよいヒントを提供することができる。 技能・表現の観点：問題意識や物事の洞察力などを少しずつ身につけることができる。

授業の計画（全体） 本授業は、まず、考古学発掘資料に基づき、中国古代陵墓の地上・地下の構造、副葬品の組成や装飾墳墓の特徴について、時期列に整理・考察し、中国古代陵墓の伝統と変遷を明らかにする。続いて、文献資料の考察を加えて、古代中国人の死生観を探究しようとするものである。

成績評価方法（総合） 前期と同じ

教科書・参考書 教科書：前期と同じ / 参考書：授業時のプリント配布 楊寬『中国古代陵寝制度史研究』上海古籍出版社、1985年 黄晓芬『中国古代葬制の伝統と変革』勉誠社、2000年

開設科目	中国思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田 哲之				

授業の概要 上海博物館蔵戦国楚竹書(上博楚簡)は、上海博物館が1994年に香港の文物市場から購入した竹簡1200余簡からなる80余種の出土古文献の総称である。授業ではその中から儒家系文献を取り上げ、竹簡の復原や分析の方法などについて講述する。/ 検索キーワード 上海博物館蔵戦国楚竹書・戦国楚簡・孔子・論語

授業の一般目標 中国思想史研究における出土古文献の意義を理解し、戦国楚簡研究の方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 戦国楚簡の字体や形制について、基礎的な知識を習得する。

授業の計画(全体) 上博楚簡の概要を紹介し、儒家系文献を中心に検討を加える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 出土古文献研究の意義
- 第2回 項目 上博楚簡の概要(1)
- 第3回 項目 上博楚簡の概要(2)
- 第4回 項目 上博楚簡の釈読と復原(1)
- 第5回 項目 上博楚簡の釈読と復原(2)
- 第6回 項目 上博楚簡の釈読と復原(3)
- 第7回 項目 『中弓』における説話の変容(1)
- 第8回 項目 『中弓』における説話の変容(2)
- 第9回 項目 『中弓』における説話の変容(3)
- 第10回 項目 『中弓』における説話の変容(4)
- 第11回 項目 『弟子問』の文献的性格(1)
- 第12回 項目 『弟子問』の文献的性格(2)
- 第13回 項目 『弟子問』の文献的性格(3)
- 第14回 項目 『弟子問』の文献的性格(4)
- 第15回 項目 出土古文献研究の課題

成績評価方法(総合) 中国思想史研究において出土古文献を扱うための基礎的知識の習得。

教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: 文字の発見が歴史をゆるがす, 福田哲之, 二玄社, 2003年; 諸子百家 再発見, 浅野裕一・湯浅邦弘編, 岩波書店, 2004年; 竹簡が語る古代中国思想, 浅野裕一編, 汲古書院, 2005年; 古代思想史と郭店楚簡, 浅野裕一編, 汲古書院, 2005年; 上博楚簡研究, 湯浅邦弘編, 汲古書院, 2007年

備考 集中授業

開設科目	中国思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 司馬遷の『史記』を精読する。昨年に引き続き、孔子世家を読む。テキストは瀧川亀太郎の『史記会注考証』を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。 / 検索キーワード 史記、孔子 春秋時代 歴史、思想 人物

授業の一般目標 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得したい。 思考・判断の観点： 一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。 関心・意欲の観点： いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画(全体) 史記の原文、歴代の注釈を順に読み進めていく。史記の原史料とかつての日本人が行った訓読読みの資料を配布して、毎週、議論しながら少しずつ読み進めていく。進度は、原史料に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。一字の解釈で2時間使うことも考えられる。

成績評価方法(総合) 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする

教科書・参考書 教科書： テキストはプリントを配布します / 参考書： 授業の中で指示

メッセージ 古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜15時から16時

開設科目	中国思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード 前期に同じ

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画（全体） 前期に同じ

成績評価方法（総合） 前期に同じ

教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ

メッセージ 前期に同じ

連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 火曜日15時から16時

開設科目	中国思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	黄 曉芬				

授業の概要 適当な中国思想史の文献を選び、たび重ねて読むことにする。例えば、1993 年湖南省荊門市で発見された『郭店楚墓竹簡』には、『礼記』緇衣篇や『五行』と類似する内容など、儒家系史料が豊富に含まれている。それらを伝世の儒家系文献とを精読・対照することによって、戦国時代における儒家思想の位置について考える。 / 検索キーワード 漢字・漢語・中国文化

授業の一般目標 中国思想史の文献を繰り返し精読し、史料の読み解く力を少しずつ身につけることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 古代漢語の語彙と文法を習得し、史料解読の方法を少しずつ身に付けることができる。 思考・判断の観点： 古典の面白さを理解することができる。

授業の計画（全体） 適当な中国思想史の文献を選び、たび重ねて読解する。中国思想文化史において、習得すべきさまざまな事柄（漢字・文法・文体・文化知識）を古典の読む練習を通じて整理・説明していく。

成績評価方法（総合） レポート提出：古典の読解力、文章の表現力を見て総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

開設科目	中国思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

授業の概要 中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。 / 検索キーワード 中国語、思想、歴史、文学

授業の一般目標 中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。やさしく書かれたテキストを用いる予定であるが、ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得する 思考・判断の観点： 中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。 関心・意欲の観点： 中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

授業の計画（全体） 中国語の論文を順に読み進めていく。資料を配布して、毎週、議論しながら、なるべく多くの文章を丁寧に読み進めていく。ただし進度は、文章に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。

成績評価方法（総合） 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する

教科書・参考書 教科書： プリント配布

メッセージ 読む文章は、受講生と話し合っ決めて決めるつもりですが、第一候補は疑古派の研究法に関する文章を考えています。

連絡先・オフィスアワー 人文5階 高木研究室 火曜日15時から16時

開設科目	日本倫理思想史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 古代・中世日本仏教思想史 - 昨年度は「神」を核に、古代日本における倫理思想を学びました。今年度は「仏法」を核として、古代・中世日本における倫理思想を学びます。テキストに沿って伝来・土着・成熟の諸相を追いながら、「神」と異なるもう一つの原理としての「仏法」とは何であったか、考えていきます。 / 検索キーワード 日本仏教史

授業の一般目標 仏教史の流れに即して、古代・中世日本倫理思想の一端に触れること。

授業の計画(全体) 基本的にテキストの叙述に沿って進みます。受講者には、あらかじめテキストの該当箇所に目を通して授業に臨むこと、授業の終わりに小レポートを書いて提出することが課せられます。なお、週単位の授業計画については初回授業時にお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的なことがらについての知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書: 『日本倫理思想史』(第二刷), 佐藤正英, 東京大学出版会, 2004年; 山口大学生協ブックセンターにて販売。定価 2,730 円。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室



開設科目	日本倫理思想史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤 一				

授業の概要 近世の倫理思想 近世日本の倫理思想の諸相を概観します。指定教科書にしたがって、「武士の思想」「儒学の思想」「国学の思想」「庶民の思想」等を対象とします。/ 検索キーワード 日本近世の倫理思想

授業の一般目標 日本の過去の倫理思想を理解します。そのことによって自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

授業の計画(全体) 指定教科書の叙述にしたがって進めます。受講者は、予め、該当箇所を読んできてください。内容は、『三河物語』と『葉隠』、「朱子学の移入」「陽明学派」「古学の勃興」「国学の成立」「本居宣長」「近松門左衛門」「西川如見」「石田梅岩」等です。

成績評価方法(総合) 各授業時間の最後に 10 分程度を費やして、授業内レポートを課します(40 点)。期末試験を実施します(60 点) レポート提出に替えることもあります。

教科書・参考書 教科書：『日本倫理思想史』, 佐藤正英, 東京大学出版会, 2003 年 / 参考書：『日本文化の歴史』, 尾藤正英, 岩波新書, 2000 年; 適宜、複写資料を配付します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50~14:20

開設科目	日本思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

**授業の概要** 荻生徂徠の思想 前年度後期に続き、荻生徂徠(1666～1728)の思想を考察します。徂徠は近世儒学思想の高峰、分水嶺です。儒学の政治的側面をクローズアップしましたので、「日本のマキャベリ」と言われることもあります。儒学者ですので、マキャベリほどあられもないことは言いません。また、漢文だけではなく和文の著作もあって、当時の世態・人情を活写しています。徂徠を考察していると、現代の問題が見えてきます。 / 検索キーワード 荻生徂徠、近世儒学思想、古文辞学

**授業の一般目標** 徂徠の思想を理解します。そのことによって、徂徠の思想と自らの思想とを比較し、以て自己の考え方、ものの感じ方をとらえかえし、自己認識を深めます。

**授業の計画(全体)** 徂徠の『答問書』、『政談』、『学則』、『辨道』、『辨名』、『論語徴』等を考察します。

**成績評価方法(総合)** 学期末にレポートを課します(100%)。

**教科書・参考書** 教科書：使用しません(適宜、複写資料を配付します)。 / 参考書：『近世日本社会と儒教』, 黒住真, ペリかん社, 2003年 『複数性の日本思想』, 黒住真, ペリかん社, 2006年 他は授業の際に、適宜、紹介します。

**メッセージ** 徂徠ははじめてという学生諸君にもわかるように、学期初めは概要を解説します。

**連絡先・オフィスアワー** 研究室:人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 - 中世日本における世界観・人間観の一側面 - 昨年度は神道説話集をもとに、中世日本の「神」観念の一端を扱いました。今年度は、同じ中世でも「仏法」に関わる思想を探り上げます。はじめに、古代以来、仏・菩薩・天・人間・神がどのような存在として捉えられていたか、それぞれの時間的在りように焦点をあて、教説よりむしろ物語を通して得られた実感的理解を探ります。次いで、平安末期以降、動乱の世という現実にあふれた仏法的知性が、世界と人間の営為の全体をどのように捉えていったか、見ていきます。難解といわれるテキストですが、『愚管抄』をできるだけゆっくり読み、必要に応じて他のテキストを参照したいと思います。

授業の一般目標 まず、仏法における人間観・超越観について基本的知識をもつこと。さらに、中世の具体的な現実と出会う中で、世界と人為の全体を捉えるどのような見方が生まれたか、テキストに即して理解すること。

授業の計画(全体) 毎回何かしらテキストを読み、テキストに即して考えます。はじめ数週は仏教説話集や経典を、のち『愚管抄』や『平家物語』の抜粋を探り上げる予定です。テキストは前週に予め配付し予習してきていただく場合もあれば、当日配付する場合があります。毎授業時間の終了時に課す小レポートでは、理解した(もしくは理解しきれなかった)当日の授業内容について、まとめを書いていただきます。なお、週単位の授業計画については初回授業時にお知らせします。

成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます)。(2) 期末試験(基本的な知識と理解を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

教科書・参考書 教科書: プリントを配付します。/ 参考書: 『愚管抄を読む』講談社学術文庫 1381, 大隅和雄, 講談社, 1999年; 『慈円 北畠親房』中公バックス 日本の名著 9(現在品切中), 永原慶二編, 中央公論新社, 1983年; 他の参考文献については授業中に随時紹介します。

メッセージ 『愚管抄』については、注のみで現代語訳のないテキストを用います。しばしば晦渋といわれる文章でもあり、できるだけゆっくり読み進めますが、自発性と根気をもって取り組んでくださることを期待します。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4階 410 研究室

開設科目	日本思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

**授業の概要** 近世日本思想文献を読む 近世日本思想の基本的文献を何冊か読みます。はじめに、昨年度に読む余裕がなかった山本常朝『葉隠』の聞書一、二を読みます。その他には、大道寺友山『武道初心集』、西川如見『町人囊』、荻生徂徠『徂來先生答問書』、貝原益軒『大疑録』等を予定しています(後期の予定も含まれます)。文献の選択については、受講者からの希望も考慮します。/ 検索キーワード 近世日本思想、葉隠

**授業の一般目標** 文献を内在的に読む姿勢を養います。相手の見解が自らの見解と異なるとき、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度を身につけることが目標です。

**授業の計画(全体)** まず、『葉隠』を6～8回で読む予定です。他については、受講者の希望を考慮します。

**成績評価方法(総合)** 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

**教科書・参考書** 教科書：テキストは、初回の授業の際に指示します。/ 参考書：講義の際に、適宜、紹介します。

**メッセージ** 文献を内在的に読む姿勢を、くれぐれもお忘れなきよう。相手の見解が自らの見解と異なるとき、批判を先立てずに、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度は、生活の基本ではないでしょうか。

**連絡先・オフィスアワー** 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20  
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 近世日本思想文献を読む 前期から引き続き近世日本思想の基本的文献を何冊か読みます。前期を参照してください。後期からの参加でも、すこしも差し支えはありません。文献の選択については、受講者からの希望も考慮します。 / 検索キーワード 近世日本思想

授業の一般目標 前期を参照してください。

授業の計画(全体) 前期を参照してください。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書：前期を参照してください。 / 参考書：講義の際に、適宜、紹介します。

メッセージ 文献を内在的に読む姿勢を、くれぐれもお忘れなきよう。相手の見解が自らの見解と異なるとき、批判を先立てずに、ともかく、先ず、相手が何を言おうとしているかを考える態度は、生活の基本ではないでしょうか。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20  
toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

**授業の概要** 『宝物集』を読む 平康頼編，鎌倉時代成立の仏教説話集『宝物集』を読みます。全体は、清涼寺釈迦堂に参籠する人々が、一夜、この世の宝とは何かをさまざまに論じ、仏法こそ宝との結論に至るまで、また、とある僧が六道の苦相を描き、成仏の十二の方法を示す語り、から構成されます。参籠者と僧との対話は、鬼界が島流罪から帰還・上洛した男によって傍聴・筆録されるという体裁です。仏法の術語、歴史的人物等の固有名詞、和歌や漢詩など多く含む文章は、はじめは読むのにちょっと難儀するかもしれませんが。注(現代語訳はありません)を参照しながら、一回あたりの分量は少なめに、ゆっくり慣れていきたいと思えます。前期は全七巻のうち、巻第四途中までを扱う予定です。/検索キーワード 宝物集

**授業の一般目標** 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

**授業の計画(全体)** 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします(あるいは、授業前に提出していただき、議論の材料として用いるかもしれませんが)。

**授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 04/9 導入
- 第 2 回 項目 04/16 pp.03-14 内容 「釈迦像の由来」まで
- 第 3 回 項目 04/23 pp.14-23 内容 「玉は宝にあらず」まで
- 第 4 回 項目 04/30 pp.23-38 内容 「子は宝にあらず」まで
- 第 5 回 項目 05/07 pp.38-49 内容 巻第一終わりまで
- 第 6 回 項目 05/14 pp.51-66 内容 「飛花落葉」まで
- 第 7 回 項目 05/21 p.66-75 内容 「修羅道」まで
- 第 8 回 項目 05/28 pp.75-91 内容 「死苦」まで
- 第 9 回 項目 06/04 pp.91-106 内容 巻第二終わりまで
- 第 10 回 項目 06/11 pp.107-132 内容 「愛別離苦」まで
- 第 11 回 項目 06/18 pp.132-140 内容 「求不得苦」まで
- 第 12 回 項目 06/25 pp.140-148 内容 巻第三終わりまで
- 第 13 回 項目 07/09 pp.149-160 内容 「道心おこし難し」まで
- 第 14 回 項目 07/16 pp.160-168 内容 「出家の功德」まで
- 第 15 回 項目 期末レポート

**成績評価方法(総合)** (1) 授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

**教科書・参考書** 教科書: 『宝物集 閑居友 比良山古人霊託』(新日本古典文学大系 40), 小泉弘ほか校注, 岩波書店, 1993 年; 大学生協ブックセンターにて販売。定価 4,515 円。

**メッセージ** 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想史講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 『宝物集』を読む 前期に引き続き、平康頼編、鎌倉時代成立の仏教説話集『宝物集』を読みます。前期シラバスを参照して下さい。後期は巻第四途中から巻第七を扱い、読了後は同じ教科書所収の他の作品を読む予定です。/ 検索キーワード 宝物集

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします(あるいは、授業前に提出していただき、議論の材料として用いるかもしれません)。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 10/01 導入
- 第 2 回 項目 10/08 pp.168-191 内容 巻第四終わりまで
- 第 3 回 項目 10/15 pp.193-212 の 2 行目 内容 「持戒」前半
- 第 4 回 項目 10/22 pp.212 の 3 行目-231 内容 「持戒」後半
- 第 5 回 項目 10/29 pp.231-253 内容 巻第五終わりまで
- 第 6 回 項目 11/05 pp.255-273 内容 「刹利居士の懺悔」まで
- 第 7 回 項目 11/12 pp.273-289 内容 「真如実相観」まで
- 第 8 回 項目 11/19 pp.289-305 内容 巻第六終わりまで
- 第 9 回 項目 11/26 pp.307-321 内容 「善知識」まで
- 第 10 回 項目 12/03 pp.321-331 内容 「法華経」まで
- 第 11 回 項目 12/10 p.332-352 内容 巻第七終わりまで
- 第 12 回 項目 12/17 内容 『閑居友』上巻 1～10
- 第 13 回 項目 12/24 内容 『閑居友』上巻 11～21
- 第 14 回 項目 01/14 内容 『閑居友』下巻 1～11
- 第 15 回 項目 期末レポート

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『宝物集 閑居友 比良山古人霊託』(新日本古典文学大系 40)、小泉弘ほか校注、岩波書店、1993年; 大学生協ブックセンターにて販売。定価 4,515 円。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい(テキストを入手し、予習の上授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 「卒業論文執筆のための演習」 日本思想を卒業論文のテーマとする3、4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポート相互に批評します。

授業の一般目標 論文執筆の作法を身につけることを目指します。日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、他者にかかれたより柔軟な態度を涵養することを目指します。

授業の計画(全体) 論文執筆作法、また研究作法の書物を数冊読みます。受講生は、自らのテーマについての研究成果を発表します。他の受講生は、その成果発表に質問をします。

成績評価方法(総合) 各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。その成果を文章化する期末レポートを課します。

教科書・参考書 教科書：未定。過去には、ウンベルト・エーコ『論文作法 調査・研究・執筆の技術と手順』(而立書房、1991) 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001)等々を読みました。/ 参考書：参考文献リストを配付します。

メッセージ テキストを内在的に理解するのが基本です。

連絡先・オフィスアワー 大抵の時間は研究室にいますので、いつでもどうぞ。



開設科目	日本思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 前期を参照

授業の一般目標 前期を参照

授業の計画(全体) 前期を参照

成績評価方法(総合) 前期を参照

教科書・参考書 教科書：前期を参照 / 参考書：前期を参照

連絡先・オフィスアワー 前期を参照

開設科目	日本思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

授業の概要 井原西鶴を読む 元禄の頃の井原西鶴の『西鶴置土産』『武道伝来記』等を読み、近世の人間観、世界観を探ります。 / 検索キーワード 井原西鶴

授業の一般目標 先入見を超え、テキストに内在的に読む姿勢を養います。

授業の計画(全体) 『西鶴置土産』から取りかかります。

成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。

教科書・参考書 教科書：初回の授業の際に指示します。 / 参考書：初回の授業の際に文献紹介をします。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想, 精密な推論, 広い視野, 有機的な関心, 明晰な文章, 等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中にお知らせします。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 卒業論文演習 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を課します。時には受講生同士、期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねること。柔軟な発想, 精密な推論, 広い視野, 有機的な関心, 明晰な文章, 等々を獲得すること。

授業の計画(全体) 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

成績評価方法(総合) (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート(3000字程度)。

教科書・参考書 教科書: 受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中にお知らせします。 / 参考書: 参考文献リストは授業中に配付します。

メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

授業の概要 『古事記』を読む 昨年度、日本倫理思想史の授業で『古事記』上巻前半を扱いました。『古事記』について、誰でもその挿話のいくつかは知っているものの、通読したことのある方、全体像を思い描くことのできる方は多くないようでした。この授業では半期で上・中・下巻を通読し、大まかではあってもテキスト全容を知り、その思想について基本的理解をもてるようになるよう、めざします。

授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

授業の計画(全体) 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことを用紙に記し、授業後に提出することとします(ただし、受講者数によっては方法を変更するかもしれません)。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 09/30 導入
- 第 2 回 項目 10/07 上巻 内容 pp.17-38
- 第 3 回 項目 10/14 同上 内容 pp.38-58
- 第 4 回 項目 10/21 同上 内容 pp.58-78
- 第 5 回 項目 10/28 同上 内容 pp.78-96
- 第 6 回 項目 11/04 同上 内容 pp.96-107
- 第 7 回 項目 11/11 中巻 内容 pp.108-128
- 第 8 回 項目 11/18 同上 内容 pp.128-147
- 第 9 回 項目 11/25 同上 内容 pp.147-165
- 第 10 回 項目 12/02 同上 内容 pp.165-183
- 第 11 回 項目 12/09 同上 内容 pp.183-203
- 第 12 回 項目 12/16 下巻 内容 pp.204-225
- 第 13 回 項目 01/13 同上 内容 pp.225-245
- 第 14 回 項目 01/20 同上 内容 pp.245-271
- 第 15 回 項目 期末レポート

成績評価方法(総合) (1) 授業内の報告(テキストの精読, 自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢, および論理的な思考と文章表現を求めます)。(2) 宿題とそれをふまえての授業参加。(3) 期末レポート(ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

教科書・参考書 教科書: 『古事記』新潮日本古典集成, 西宮一民校注, 新潮社, 1979年; 山口大学生協ブックセンターにて販売。3,570円。/ 参考書: 『古事記注釈』全8巻、ちくま学芸文庫, 西郷信綱, 筑摩書房, 2007年; 『古事記』新編日本古典文学全集1, 山口佳紀、神野志隆光訳, 小学館, 1997年; 『古事記日本書紀必携』別冊国文学(現在品切中), 神野志隆光編, 學燈社, 1996年; 『日本神話がわかる。』(アエラムック72), 朝日新聞社, 2001年; 他の参考文献は随時授業中に紹介します。

メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを確定し、報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい(テキストについて確認し、予習用紙等を受け取り、予習をして授業に臨んで下さい)。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	宗教学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 前期の宗教学概論は、「現代世界における宗教の実態と変容」をテーマとする。テキスト資料にある宗教の事例をもとに、宗教的な現象と表象の「理解」を試みる。個々の事例を、宗教学における古典理論と現代的な枠組みの両方から捉え、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて体系的・本質的に考察する。 / 検索キーワード 宗教、世界宗教、民間信仰、民俗宗教、アニミズム、自然崇拜、自然宗教、創唱宗教、聖俗

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と宗教現象全般について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行いが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教を見る視点と枠組み
- 第 2 回 項目 現代ヨーロッパの宗教（1）
- 第 3 回 項目 現代ヨーロッパの宗教（2）
- 第 4 回 項目 現代アメリカの宗教
- 第 5 回 項目 現代インドの宗教
- 第 6 回 項目 現代中国の宗教（1）
- 第 7 回 項目 現代中国の宗教（2）
- 第 8 回 項目 現代タイの宗教
- 第 9 回 項目 現代インドネシアの宗教
- 第 10 回 項目 現代日本の宗教（1）
- 第 11 回 項目 現代日本の宗教（2）
- 第 12 回 項目 現代イスラム教
- 第 13 回 項目 現代ロシアの宗教
- 第 14 回 項目 現代ラテン・アメリカの宗教
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は10回を単位取得の条件とする。 2．レポートを4回課す（4月、5月、6月、7月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第5回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：世界の諸宗教 II, ニニアン・スマート, 教文館, 2002年；上記の教科書を用いるが、状況次第では、部分的なコピーまたはPDFファイルを配布することもある。 / 参考書：必要に応じて授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホーム  
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部  
413号室

開設科目	宗教学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 後期の宗教学概論「宗教学の古典理論と現代的応用」をテーマとする。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて体系的・本質的に考察する。／検索キーワード 宗教、世界宗教、民間信仰、民俗宗教、アニミズム、自然崇拜、自然宗教、創唱宗教、トーテミズム、自殺、ウェーバー、デュルケーム、ユング、聖俗、カリスマ、無意識、ヌミノーズ、ヌーメン、ヒエロファニー、元型、祖型、呪術、シャーマニズム

授業の一般目標 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と宗教現象全般について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と呪術（1）
- 第 2 回 項目 宗教と呪術（2）
- 第 3 回 項目 シャーマニズム
- 第 4 回 項目 宗教経験
- 第 5 回 項目 宗教心理（1）
- 第 6 回 項目 宗教心理（2）
- 第 7 回 項目 社会現象として見る宗教（デュルケーム宗教論）その 1
- 第 8 回 項目 社会現象として見る宗教（デュルケーム宗教論）その 2
- 第 9 回 項目 聖なるものとして見る宗教（エリアーデ宗教論）その 1
- 第 10 回 項目 聖なるものとして見る宗教（エリアーデ宗教論）その 2
- 第 11 回 項目 社会的行為として見る宗教（ウェーバー宗教論）その 1
- 第 12 回 項目 社会的行為として見る宗教（ウェーバー宗教論）その 2
- 第 13 回 項目 マルクス宗教論
- 第 14 回 項目 アニミズムからアニメ
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．レポートを 4 回課す（10 月、11 月、12 月、1 月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第 5 回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。



連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホーム  
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部  
413号室

開設科目	宗教学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 前期の宗教学特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、男性の力を上回る神妃や女神が常に伴うのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？ / 検索キーワード 宗教、女性、ジェンダー、女神

授業の一般目標 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教とは何か？」および「宗教と女性の関係とは？」という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教とジェンダーにまつわる現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。思考・判断の観点：個々の宗教とジェンダー現象について、一定の視点から分析できるようになること。関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。技能・表現の観点：宗教とジェンダー現象に関する記述力を養うこと。その他の観点：宗教とジェンダー現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教とジェンダー現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い（ときには関連の映像を用いながら）、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と女性（およびジェンダーと性差）の課題。
- 第 2 回 項目 女子割礼
- 第 3 回 項目 優生学と不妊手術
- 第 4 回 項目 中世の魔女狩りに見る「宗教と女性」問題
- 第 5 回 項目 「女性的宗教」の起源（女神崇拜、母なる大地、など）
- 第 6 回 項目 日本における女性シャーマン
- 第 7 回 項目 柳田国男による日本の「宗教と女性」
- 第 8 回 項目 現代日本における社会と生活から見る「宗教と女性」
- 第 9 回 項目 日本の新宗教に見る「宗教と女性」
- 第 10 回 項目 「女性性の表現」と「現代組織」の問題
- 第 11 回 項目 女性の聖性に介入する科学（人工授精、代理母・代理出産、デザイナーベビー、など）その 1
- 第 12 回 項目 女性の聖性に介入する科学（人工授精、代理母・代理出産、デザイナーベビー、など）その 2
- 第 13 回 項目 現代映画に見る女性性（女性の聖性）とジェンダー問題
- 第 14 回 項目 「宗教と女性」について総括する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1．出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2．レポートを 4 回課す（4 月、5 月、6 月、7 月）。 3．学期末の試験期間中に最終回（第 5 回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学と「宗教学から見たジェンダー問題」に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413号室

開設科目	宗教学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

授業の概要 後期の宗教学特殊講義は「宗教と芸術」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象には芸術の要素が含まれ、またおよそすべての芸術には宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教も芸術も、人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないのか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教と芸術はどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教と芸術はどこへ、どのように、なぜ変容するのか？ / 検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、造形、デザイン、アボリジニ、バリ、ケルト、イコン、演劇、アニメ、放浪芸、様式、文脈

授業の一般目標 「宗教と芸術」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野から見た「宗教」と「芸術」とは何か、という課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教と芸術現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教と芸術現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教と芸術現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教と芸術現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教と芸術現象を捉える感性を磨くこと。

授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教と芸術現象を捉える論理的思考のみならず、感性とイメージの面を重視する。毎回の授業は講義方式で行い、関連の映像を用いながら、板書して解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション、宗教と芸術の課題
- 第 2 回 項目 宗教と芸術の結晶としての祭り
- 第 3 回 項目 宗教と芸術における「様式」と「文脈」
- 第 4 回 項目 アボリジニの宗教と芸術
- 第 5 回 項目 造形芸術における宗教性（1）
- 第 6 回 項目 造形芸術における宗教性（2）
- 第 7 回 項目 ロシア正教会におけるイコン
- 第 8 回 項目 デザイン芸術における宗教性
- 第 9 回 項目 ケルトの宗教と芸術
- 第 10 回 項目 バリの宗教と芸術
- 第 11 回 項目 ジャワのワヤン劇における宗教性
- 第 12 回 項目 歌舞伎における宗教性
- 第 13 回 項目 演劇と宗教、放浪芸における宗教性
- 第 14 回 項目 現代アニメの宗教性
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

成績評価方法（総合） 1 . 出席は10回を単位取得の条件とする。 2 . レポートを4回課す（10月、11月、12月、1月） 3 . 学期末の試験期間中に最終回（第5回）のレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：用いない。 / 参考書：参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する。

メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学と「宗教学から見た芸術」に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール: [djumali@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:djumali@yamaguchi-u.ac.jp) / ホーム  
ページ: <http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部  
413号室

開設科目	宗教学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川瀬 貴也				

授業の概要 現代社会はいわゆる既成宗教の力が衰退したといわれて久しいが、実は「心理療法( psychotherapy )」や「精神分析 psychoanalysis ( 的な知 )」にその「面影」が見て取れる。この講義では、いわゆる「宗教」と心理学/精神分析の類似点、相違点、その歴史的淵源などを調べつつ、現在の我々を囲む「心理学化する社会」をリフレクシヴに考察する端緒としていきたい。/ 検索キーワード 宗教、心理学、精神分析、セラピー、癒し、

授業の一般目標 近代～現代社会における「宗教」と「精神分析( 的な知 )」のありかたを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業で取り扱う概念や思想的できごとの把握。

授業の計画( 全体 ) この講義では、宗教が担っていた役割がだんだん心理療法・精神分析に委譲されてきたという視点から、それぞれの相違点・類似点、その歴史的淵源などを調べつつ、現在の我々を囲繞する「心理療法 = 宗教」融合的な世界観を考察していきたい。また、一方で「マインド・コントロール」と呼ばれるものが「宗教( カルト )」を説明する際に用いられている。心理学的な見地からの「宗教」の意味付けについても考察していきたいと思っている。

授業計画( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 精神分析前史
- 第 2 回 項目 メスメリズム
- 第 3 回 項目 フロイト
- 第 4 回 項目 ユング
- 第 5 回 項目 集合的無意識と神話
- 第 6 回 項目 司牧型権力
- 第 7 回 項目 認知的不協和理論
- 第 8 回 項目 マインドコントロール
- 第 9 回 項目 トラウマ理論
- 第 10 回 項目 癒し・ヒーリング
- 第 11 回 項目 スピリチュアリティ
- 第 12 回 項目 セラピー文化
- 第 13 回 項目 「カルト」問題
- 第 14 回 項目 心理療法と「宗教」
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 ( 総合 ) 期末レポート

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する / 参考書： 『西欧精神医学背景史』, 中井久夫, みすず書房, 1999 年

連絡先・オフィスアワー t-kawase@kpu.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	宗教学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** この授業で扱う資料は、映像資料である。内容は、日常生活の諸側面（都会の暮らし、農村・漁村の暮らし、現代の教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、科学と倫理の問題、新宗教の教団、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など）に及ぶ。取り上げる時代と地域は、主に現代日本である。こうした資料に対し、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か？」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。／検索キーワード 宗教、宗教学、聖性、聖俗

**授業の一般目標** 宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避免的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということ、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えられるようになること。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画（全体）** 毎回の授業は、（１）一人の発表者によるプレゼンテーション（２０分～３０分）と、（２）ディスカッションしながらの講師による解説、からなる。資料はDVDの媒体として、発表者には一週間前に渡し、他の参加者は、演習室（人文４１２号室）に共同視聴用のDVDを一枚おいておくので、時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習すること。なお、（１）のプレゼンテーションは、淡々と活字のレジメを読み上げる方式になってはいけない。文字通り、演出しながら（板書やパワーポイントを含む）話題を説明（披露）すること。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 宗教を見る視点と枠組み
- 第 2 回 項目 第 1 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 3 回 項目 第 2 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 4 回 項目 第 3 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 5 回 項目 第 4 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 6 回 項目 第 5 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 7 回 項目 第 6 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 8 回 項目 第 7 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 9 回 項目 第 8 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 10 回 項目 第 9 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 11 回 項目 第 10 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 12 回 項目 第 11 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 13 回 項目 第 12 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 14 回 項目 総括 内容 全体を振り返って、個々の解釈・読み・分析を通して、宗教を理解する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

**成績評価方法（総合）** 1．一人の参加者が行うプレゼンテーションは1回または2回とする（評価の5割を占める）。 2．ディスカッションには積極的に参加すること（評価の2割を占める）。 2．最終レポートを学期末の試験期間中に提出する（評価の3割を占める）。 3．出席は10回を単位取得の条件とする。

教科書・参考書 教科書：上記の通りの映像資料が教科書となる。 / 参考書：必要な場合に適宜コピーを配布する。

メッセージ 授業の解説はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室



開設科目	宗教学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** この授業で扱う資料は、映像資料である。内容は、日常生活の諸側面（都会の暮らし、農村・漁村の暮らし、現代の教育・学校の問題、女性・ジェンダー問題、科学と倫理の問題、新宗教の教団、絵画・舞踊・演劇・お笑い、スポーツ・格闘技・レジャー、など）に及ぶ。取り上げる時代と地域は、主に現代日本である。こうした資料に対し、宗教学的な「解釈」「読み」「分析」を行い、「宗教とは何か？」という究極的な課題に対して、その本質とメカニズムを、動的に、また自らの生活に顧みて共感しながら、一定の理解を試みる。／検索キーワード 宗教、宗教学、聖性、聖俗

**授業の一般目標** 宗教が人間と社会の生活にいかに深く浸透し、不可避免的に伴うものであり、また根源的な役割を果たしているということ、一定の分析的な体系と枠組みをもって捉えられるようになること。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学のアプローチと枠組みを身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画（全体）** 毎回の授業は、（１）一人の発表者によるプレゼンテーション（２０分～３０分）と、（２）ディスカッションしながらの講師による解説、からなる。資料はDVDの媒体として、発表者には一週間前に渡し、他の参加者は、演習室（人文４１２号室）に共同視聴用のDVDを一枚おいておくので、時間を選んで当日までその部屋で視聴して予習すること。なお、（１）のプレゼンテーションは、淡々と活字のレジメを読み上げる方式になってはいけない。文字通り、演出しながら（板書やパワーポイントを含む）話題を説明（披露）すること。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 宗教を見る視点と枠組み
- 第 2 回 項目 第 1 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 3 回 項目 第 2 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 4 回 項目 第 3 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 文化と共同体に関するテーマ
- 第 5 回 項目 第 4 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 6 回 項目 第 5 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 7 回 項目 第 6 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 スポーツ・格闘技・レジャーに関するテーマ
- 第 8 回 項目 第 7 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 9 回 項目 第 8 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 10 回 項目 第 9 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 社会問題に関するテーマ
- 第 11 回 項目 第 10 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 12 回 項目 第 11 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 13 回 項目 第 12 回プレゼンテーションとディスカッション 内容 芸術に関するテーマ
- 第 14 回 項目 総括 内容 全体を振り返って、個々の解釈・読み・分析を通して、宗教を理解する
- 第 15 回 項目 試験またはレポート

**成績評価方法（総合）** 1．一人の参加者が行うプレゼンテーションは1回または2回とする（評価の5割を占める）。 2．ディスカッションには積極的に参加すること（評価の2割を占める）。 2．最終レポートを学期末の試験期間中に提出する（評価の3割を占める）。 3．出席は10回を単位取得の条件とする。

教科書・参考書 教科書：上記の通りの映像資料が教科書となる。 / 参考書：必要な場合に適宜コピーを配布する。

メッセージ 授業の解説はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。ただし研究実習として、個別テーマのほかに、全員の共通テーマを定める。個別テーマは共通テーマの一環となってもよい。共通テーマは参加者と相談して決めるが、およそ山口県内の宗教現象や信仰文化・伝統に関することを取りあげる。調査の実施方法に関しても、参加者と相談して決める。一つの選択は、各自が独自で行う方式である。もう一つの選択は、夏休み期間中に参加者全員が県内の一定の地域を拠点とする場所に調査に出向き、周辺地域で行われるさまざまな宗教現象(祭り、神楽、放浪芸、年間行事、例祭、個々の宗教意識等)を観察・記録する、という方式である。個別テーマにしても共通テーマにしても、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、調査の準備段階からデータ収集とプレゼンテーションの段階まで、教員が関わって指導する。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

**授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点：日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教現象を研究・調査するスキルを身につけ、それを記述・表現する力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画(全体)** 授業は全14回行う。方式は参加者と個別テーマ・共通テーマを話し合ってから決める。

**成績評価方法(総合)** 1.出席は10回を単位取得の条件とする。 2.プレゼンテーションは各参加者に2回行ってもらう予定である(初回と2回目の間に一ヶ月以上の期間をあける)。 3.プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する(毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する)。 4.学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

**教科書・参考書** 教科書：用いない。 / 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する。

**メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる(大歓迎)。

**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	宗教学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

**授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。 / 検索キーワード 宗教、宗教学

**授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点：** 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

**関心・意欲の観点：** 日常生活における身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点：** 宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点：** 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点：** 宗教現象を捉える感性を磨くこと。

**授業の計画（全体）** 授業は全 14 回行い、毎回の授業では、二つのプレゼンテーションを行う。

**成績評価方法（総合）** 1 . 出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2 . プレゼンテーションは各参加者に 2 回行ってもらう予定である（初回と 2 回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。 3 . プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3 回に一度の発言を期待する）。 4 . 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。

**教科書・参考書** 教科書：用いない。 / 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する。

**メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）

**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	美学・美術史概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 芸術について考えるための基本的な概念を毎週一つまたは二つ取り上げて説明します。

授業の一般目標 美学の基礎概念について、その歴史的背景を含めて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：美学の基礎概念について、その歴史的背景を含めて説明できるようにする。 思考・判断の観点：美学の基礎概念を用いて、個々の芸術作品の特徴を指摘できるようにする。

授業の計画（全体） 芸術について考えるための基本的な概念を毎週一つまたは二つ取り上げて説明します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 美
- 第 2 回 項目 芸術 / 美術 / アート
- 第 3 回 項目 趣味 / キッチン
- 第 4 回 項目 表現 / 解釈
- 第 5 回 項目 模倣 / 創造
- 第 6 回 項目 著作権 / 独創性
- 第 7 回 項目 古典主義 / ロマン主義
- 第 8 回 項目 ゴシック / バロック
- 第 9 回 項目 モダン / ポストモダン
- 第 10 回 項目 作品 / パフォーマンス
- 第 11 回 項目 自然美 / 環境
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末試験と、授業への出席によって評価します。

教科書・参考書 教科書：美学辞典, 佐々木健一, 東京大学出版会, 1995 年

開設科目	美学・美術史概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 「西欧美術史学」の歴史について概説します。日本の美術史学も西欧美術史学の発展とともに多様に展開してきました。地球時代に日本の大学で美術史を学ぶことの意義を、受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。/ 検索キーワード 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム

授業の一般目標 1. 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。2. 西欧美術史学を相対化して捉える視点を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：西欧美術史学で使用される専門用語のいくつかについて説明ができる。思考・判断の観点：西欧美術史学の古典的な著作を読むにあたり、今日的で批評的な視点で読解し、有用性と問題点をそれぞれ指摘することができる。関心・意欲の観点：自ら美術作品の鑑賞体験と幅広い読書体験とを養うことに努める。

授業の計画（全体）美術史について全般的な見取り図を得るため、最初、西洋美術の流れ、日本近現代美術の流れ、をそれぞれ概括したのち、講義の後半で西欧美術史学の歴史をたどる、という手順で講義を進めます。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 西洋美術史（一）内容 古代・中世
- 第 3 回 項目 西洋美術史（二）内容 ルネサンス
- 第 4 回 項目 西洋美術史（三）内容 近現代
- 第 5 回 項目 日本近現代美術史（一）内容 戦前
- 第 6 回 項目 日本近現代美術史（二）内容 戦後
- 第 7 回 項目 西欧美術史学の歴史（一）内容 列伝史
- 第 8 回 項目 西欧美術史学の歴史（二）内容 様式史
- 第 9 回 項目 西欧美術史学の歴史（三）内容 イコノロジー
- 第 10 回 項目 西欧美術史学の歴史（四）内容 芸術心理学
- 第 11 回 項目 西欧美術史学の歴史（五）内容 芸術社会学
- 第 12 回 項目 西欧美術史学の歴史（六）内容 新しい美術史
- 第 13 回 項目 西欧美術史学とポストコロニアリズム
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合）期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書備考：教科書の指定はありません。ウェブサイト（<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>）から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。/ 参考書：西洋美術史ハンドブック、高階秀爾ほか編、新書館、1997年；カラー版西洋美術史、高階秀爾監修、美術出版社、1990年；美術史学の歴史、ウッド・クルターマン、中央公論美術出版、1996年；美の思索家たち、高階秀爾、青土社、1993年；美術史を語る言葉 22の理論と実践、ロバート・S・ネルソンほか編、ブリュッケ、2002年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美学・美術史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

**授業の概要** この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に 1990 年代以降の地球規模化をめぐる今後の課題について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で考察します。 / 検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバル化、ビエンナーレ

**授業の一般目標** (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 地球時代の現代美術に対する問題意識をもつ。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。 **思考・判断の観点：** 国際美術展の地球規模化について肯定的な側面と課題とを指摘できる。 **関心・意欲の観点：** 自ら国際美術展を見に出かける。あるいは、インターネット上の関連サイト、新聞、雑誌で国際美術展に関する情報を収集する。

**授業の計画 (全体)** 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観し、中盤は毎回 1 つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行います。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展における地球規模化の問題について紹介します。

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際美術展の歴史 (一) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 3 回 項目 国際美術展の歴史 (二) 内容 日本参加の経緯
- 第 4 回 項目 国際美術展の歴史 (三) 内容 日本の開催事例
- 第 5 回 項目 事例研究 (一) 内容 シンガポール・ビエンナーレ
- 第 6 回 項目 事例研究 (二) 内容 サンパウロ・ビエンナーレ
- 第 7 回 項目 事例研究 (三) 内容 ドクメンタ
- 第 8 回 項目 事例研究 (四) 内容 ヴェネツィア・ビエンナーレ
- 第 9 回 項目 中間まとめ 内容 二〇〇八年開催の国際美術展
- 第 10 回 項目 地球規模化する国際美術展 (一) 内容 開催数の増加
- 第 11 回 項目 地球規模化する国際美術展 (二) 内容 地球規模化を主題とする現代美術
- 第 12 回 項目 地球規模化する国際美術展 (三) 内容 展覧会企画者の役割
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回
- 第 15 回

**成績評価方法 (総合)** 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

**教科書・参考書** 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト (<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html>) から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流、石井元章著，“ブリュッケ、星雲社（発売）”，1999 年；『12 人の挑戦 大観から日比野まで』，茨城新聞社，2002 年；ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本参加の 40 年，国際交流基金ほか，1995 年；アートマネージメント，伊東正伸ほか，武蔵野美術大学出版局，2003 年；アートが知りたい，岡部あおみ編，武蔵野美術大学出版局，2005 年；記録集 横浜会議 2004 「なぜ、国際展か？」，BankART1929，2005 年

**メッセージ** 特殊講義ですので、普通講義よりも専門的な内容になります。国際美術展は講師が専攻している研究課題です。最新の知見をご紹介しますが、その反面講義中に出てくる言葉は耳慣れないものが多くなるでしょう。今年度は、2006 年に調査したシンガポールやサンパウロ、2007 年夏開催のカッセル (ドイツ) やヴェネツィアの国際美術展を紹介します。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 に  
て水曜日午後



開設科目	美学・美術史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 この講義では、2008 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。 / 検索キーワード 展覧会企画、学芸員、現代美術、近代美術、近代以前の美術、日本美術、欧米美術、アジア美術、非欧米圏の美術

授業の一般目標 (1) 幅広い分野の作品に親しむ。(2) 各展覧会の企画趣旨について理解する。(3) 美術展や美術館の制度と背景について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 基礎的な美術史の用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。(2) 企画展、常設展、公募展、巡回展、回顧展、テーマ展などの展覧会を区別できる。 思考・判断の観点：展覧会の企画趣旨を読み解き、それに対する自らの考えを述べることができる。 関心・意欲の観点：(1) 県内・国内で開催されている展覧会情報を集めて、心の琴線に触れた展覧会は見に行く。(2) 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪ねる。

授業の計画(全体) 企画趣旨についての解説や作品画像の上映によって、毎週1つずつ展覧会を紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 展覧会紹介 1
- 第 3 回 項目 展覧会紹介 2
- 第 4 回 項目 展覧会紹介 3
- 第 5 回 項目 展覧会紹介 4
- 第 6 回 項目 展覧会紹介 5
- 第 7 回 項目 展覧会紹介 6
- 第 8 回 項目 展覧会紹介 7
- 第 9 回 項目 展覧会紹介 8
- 第 10 回 項目 展覧会紹介 9
- 第 11 回 項目 展覧会紹介 10
- 第 12 回 項目 展覧会紹介 11
- 第 13 回 項目 展覧会紹介 12
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 期末試験の成績を基礎として、中間レポートの提出の有無や出席点などを加えて総合的に評価します。詳しくは講義最初のオリエンテーションで説明します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。ウェブサイト( <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/fujikawa/index.html> )から画像などを見ることができます。必要に応じてプリントを配布します。 / 参考書：五感で恋する名画鑑賞術, 西岡文彦, 講談社, 2003 年; なぜ、これがアートなの?, アメリア・アレナス, 淡交社, 1998 年; なにも見ていない, ダニエル・アラス, 白水社, 2002 年; 現代美術館学, 並木誠士ほか編, 昭和堂, 1998 年; 増補版 美の裏方, 朝日新聞マリオン編集部編, ペリかん社, 1993 年

メッセージ 美術展を見るのが楽しくなります。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: [fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp) オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美学・美術史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 概論では美学の基礎概念を扱うが、特殊講義では毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業の一般目標 代表的な美学者について、その主な学説を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な美学者について、その主な学説を説明することができる。

思考・判断の観点： 代表的な美学者の学説を比較し、その特徴を指摘することができる。 技能・表現の観点： 古代から現代までの美学的著作に触れ、それらを理解するだけでなく、それを踏まえて自ら

思索し、表現できる。

授業の計画（全体） 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 西洋古代の美学者（1） 内容 プラトン
- 第 2 回 項目 西洋古代の美学者（2） 内容 アリストテレス
- 第 3 回 項目 西洋近世の美学者（1） 内容 ヒュームとバーク
- 第 4 回 項目 西洋近世の美学者（2） 内容 ヴィンケルマンとレッシング
- 第 5 回 項目 西洋近世の美学者（3） 内容 デイドロとルソー
- 第 6 回 項目 西洋近代の美学者（1） 内容 カント
- 第 7 回 項目 西洋近代の美学者（2） 内容 シェリングとドイツ・ロマン主義
- 第 8 回 項目 西洋近代の美学者（3） 内容 ヘーゲル
- 第 9 回 項目 現代美学の先駆者（1） 内容 ニーチェ
- 第 10 回 項目 現代美学の先駆者（2） 内容 ハイデガー
- 第 11 回 項目 現代美学の先駆者（3） 内容 ベンヤミン
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末の試験

教科書・参考書 教科書：適宜コピーを配付する / 参考書：美の変貌, 当津武彦(編), 世界思想社, 1988 年

開設科目	美学・美術史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 概論では美学の基礎概念を扱うが、特殊講義では毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業の一般目標 代表的な美学者について、その主な学説を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 代表的な美学者について、その主な学説を説明することができる。

思考・判断の観点： 代表的な美学者の学説を比較し、その特徴を指摘することができる。 技能・表現の観点： 古代から現代までの美学的著作に触れ、それらを理解するだけでなく、それを踏まえて自ら

思索し、表現できる。

授業の計画（全体） 毎回一人ないし二人ずつ、古代から現代までの代表的な美学者を取り上げて、美学の歴史を概観する。特に 19 世紀後半以降の美学者に重点を置く。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 西洋現代の美学者（1） 内容 アドルノと批判理論
- 第 2 回 項目 西洋現代の美学者（2） 内容 バルトと構造主義
- 第 3 回 項目 西洋現代の美学者（3） 内容 デリダと脱構築
- 第 4 回 項目 西洋現代の美学者（4） 内容 ダントーと分析美学
- 第 5 回 項目 古代日本の美学者 内容 未定
- 第 6 回 項目 中世日本の美学者 内容 未定
- 第 7 回 項目 近世日本の美学者 内容 未定
- 第 8 回 項目 近代日本の美学者（1） 内容 未定
- 第 9 回 項目 近代日本の美学者（2） 内容 未定
- 第 10 回 項目 近代日本の美学者（3） 内容 未定
- 第 11 回 項目 現代日本の美学者 内容 未定
- 第 12 回 項目 まとめ
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 学期末の試験。

教科書・参考書 教科書： 適宜コピーを配付する。 / 参考書： 美の変貌, 当津武彦（編）, 世界思想社, 1988 年

開設科目	美学・美術史講読	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 美学・美術史研究室の学生を対象としています。ブログサイトの立ち上げと、インターネットを活用した研究資料の収集を経て、ウィキペディアへの書き込みを目標とした実習です。/ 検索キーワード ブログ、ウィキ、インターネット、OCR

授業の一般目標 インターネットを活用して、自分の研究テーマに関する考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ブログ、ウィキ、タブブラウザ、メーリングリスト、ポータルサイト、PDF、HTML、OCR などインターネット関連の用語が理解でき、研究に活用できる。 思考・判断の観点：自らの研究課題に対する考察を深める。 関心・意欲の観点：ブログによる研究日誌を定期的に更新する。 技能・表現の観点：(1) インターネットを活用した研究資料の収集ができる。(2) ウィキペディア上の関連項目への貢献。

授業の計画(全体) 各自ブログサイトを立ち上げてもらいます。その後、Firefox の導入方法、検索サイトや作品画像の入手方法等を解説しながら、各自の研究テーマについて資料の収集作業を行ってもらいます。最終的には、ウィキペディア上の自分が貢献できる項目に対する書き込み結果を印刷したものを提出してもらいます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1 内容 ブログサイトの立ち上げ
- 第 3 回 項目 実習指導 2 内容 Firefox の導入
- 第 4 回 項目 実習指導 3 内容 検索サイトの活用
- 第 5 回 項目 実習指導 4 内容 電子図書館の活用(一)
- 第 6 回 項目 実習指導 5 内容 電子図書館の活用(二)
- 第 7 回 項目 実習指導 6 内容 PDF の収集
- 第 8 回 項目 中間発表 内容 友人のブログへのコメント記入
- 第 9 回 項目 実習指導 7 内容 スキャナーの利用法
- 第 10 回 項目 実習指導 8 内容 OCR の利用法
- 第 11 回 項目 実習指導 9 内容 ウィキペディアの活用
- 第 12 回 項目 実習指導 10 内容 資料収集・調査研究
- 第 13 回 項目 実習指導 11 内容 ウィキペディアへの書き込み
- 第 14 回 項目 最終発表
- 第 15 回

成績評価方法(総合) ブログの更新頻度、内容、活用の工夫、ウィキペディアへの書き込み内容などをともに総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：特に指定はありません。/ 参考書：ウェブ進化論, 梅田望夫, 筑摩書房, 2006 年; 「手帳ブログ」のススメ, 大橋悦夫, 翔泳社, 2006 年; ウィキペディア 完全活用ガイド, 吉沢英明, マックス, 2006 年

メッセージ できるだけ毎日、自分の研究課題について考えをめぐらせ、少しずつでも先へと理解を進めること。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美学・美術史講読	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

**授業の概要** 美学・美術史研究室の学生を対象としています。ブログサイトの立ち上げと、インターネットを活用した研究資料の収集を経て、ウィキペディアへの書き込みを目標とした実習です。/ 検索キーワード ブログ、ウィキ、インターネット、OCR

**授業の一般目標** インターネットを活用して、自分の研究テーマに関する考察を深める。

**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： ブログ、ウィキ、タブブラウザ、メーリングリスト、ポータルサイト、PDF、HTML、OCR などインターネット関連の用語が理解でき、研究に活用できる。 **思考・判断の観点**： 自らの研究課題に対する考察を深める。 **関心・意欲の観点**： ブログによる研究日誌を定期的に更新する。 **技能・表現の観点**： (1) インターネットを活用した研究資料の収集ができる。(2) インターネット用タブブラウザ Firefox が活用できる。(3) ウィキペディア上の関連項目への書き込みを通して知的貢献ができる。

**授業の計画(全体)** 各自ブログサイトを立ち上げてもらいます。その後、Firefox の導入方法、検索サイトや作品画像の入手方法を解説しながら、各自の研究テーマについて資料の収集作業を行ってもらいます。最終的には、ウィキペディア上の自分が貢献できる項目に対する書き込み結果を印刷したものを提出してもらいます。以上の作業を前期で履修済みの学生については、発展学習を指示します。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 実習指導 1 内容 画像の整理=Photoshop Album Mini の活用法
- 第 3 回 項目 実習指導 2 内容 画像のリサイズ=J Trim の活用法
- 第 4 回 項目 実習指導 3 内容 スライドの作成=Power Point の活用法
- 第 5 回 項目 実習指導 4 内容 以下、発展学習
- 第 6 回 項目 実習指導 5
- 第 7 回 項目 実習指導 6
- 第 8 回 項目 中間発表
- 第 9 回 項目 実習指導 7
- 第 10 回 項目 実習指導 8
- 第 11 回 項目 実習指導 9
- 第 12 回 項目 実習指導 10
- 第 13 回 項目 実習指導 11
- 第 14 回 項目 最終発表
- 第 15 回

**成績評価方法(総合)** ブログの更新頻度、内容、活用の工夫、ウィキペディアへの書き込み内容などをともに総合的に評価します。

**教科書・参考書** 教科書：教科書の指定はありません。山口大学美学・美術史研究室のブログ( <http://blog.sonet.ne.jp/art-groove/> ) から先輩方のブログへのリンクをたどって参考にしてください。 / 参考書：ウェブ進化論, 梅田望夫, 筑摩書房, 2006 年 ; 「手帳ブログ」のススメ, 大橋悦夫, 翔泳社, 2006 年 ; ウィキペディア 完全活用ガイド, 吉沢英明, マックス, 2006 年

**メッセージ** できるだけ毎日、自分の研究課題について考えをめぐらせ、少しずつでも先へと理解を進めること。

**連絡先・オフィスアワー** 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美学・美術史講読	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

成績評価方法 (総合) プレゼンテーションと学期末の課題

開設科目	美学・美術史講読	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

成績評価方法 (総合) 授業中のプレゼンテーションと学期末の課題

開設科目	美学・美術史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 (1) 自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。(2) 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。 思考・判断の観点：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。 関心・意欲の観点：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。

授業の計画(全体) 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週2人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 研究発表 6
- 第 8 回 項目 研究発表 7
- 第 9 回 項目 研究発表 8
- 第 10 回 項目 研究発表 9
- 第 11 回 項目 研究発表 10
- 第 12 回 項目 研究発表 11
- 第 13 回 項目 研究発表 12
- 第 14 回 項目 研究発表 13
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 研究発表、他の発表者への質問・意見、討議への参加、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。 / 参考書：各自の研究テーマに応じて紹介・指示します。

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後



開設科目	美学・美術史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。 / 検索キーワード 研究発表、討議

授業の一般目標 (1) 自分の考えを持ち、それを人にわかりやすく発表できる。(2) 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究テーマについて幅広く知識を身につける。 思考・判断の観点：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマを位置づける。 関心・意欲の観点：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、研究の進行過程を文章で記録する。

授業の計画(全体) 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週2人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究発表 1
- 第 3 回 項目 研究発表 2
- 第 4 回 項目 研究発表 3
- 第 5 回 項目 研究発表 4
- 第 6 回 項目 研究発表 5
- 第 7 回 項目 研究発表 6
- 第 8 回 項目 研究発表 7
- 第 9 回 項目 研究発表 8
- 第 10 回 項目 研究発表 9
- 第 11 回 項目 研究発表 10
- 第 12 回 項目 研究発表 11
- 第 13 回 項目 研究発表 12
- 第 14 回 項目 研究発表 13
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 研究発表、他の発表者への質問・意見、討議への参加、期末レポートなどにより総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はありません。 / 参考書：各自の研究テーマに応じて紹介・指示します。

メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先: fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美学・美術史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 均				

授業の概要 受講者による報告と討論による演習であり、卒業論文執筆のための準備。

授業の一般目標 研究主題を決める、研究計画をたてる、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる、限られた時間で研究成果をプレゼンテーションする、論文を執筆する、といった研究のための基本的な技術を習得する。また、報告者と他の受講者で建設的な議論ができるよう訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究主題についての知識を身につける。思考・判断の観点：自らの研究主題について、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる。他の受講者の報告と自らの研究の関係を明確にする。関心・意欲の観点：自分の研究主題について、十分に先行研究を参照すると同時に、独自の議論を展開するように努める。態度の観点：質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論が形成されるよう貢献する。技能・表現の観点：プレゼンテーションの基本的な技術を実践できるようになる。論文の書き方を習得する。

授業の計画（全体） 受講者の関心のある主題を踏まえて、第一回の授業で計画を決める。

成績評価方法（総合） 自らの研究報告、議論への参加、学期末レポートによって評価する。

開設科目	美学・美術史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中 均				

授業の概要 受講者による報告と討論による演習であり、卒業論文執筆のための準備。

授業の一般目標 研究主題を決める、研究計画をたてる、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる、限られた時間で研究成果をプレゼンテーションする、論文を執筆する、といった研究のための基本的な技術を習得する。また、報告者と他の受講者で建設的な議論をできるよう訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自らの研究主題についての知識を身につける。思考・判断の観点：自らの研究主題について、収集した資料・調査に基づいて議論を組み立てる。他の受講者の報告と自らの研究の関係を明確にする。関心・意欲の観点：自分の研究主題について、十分に先行研究を参照すると同時に、独自の議論を展開する。態度の観点：質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論が形成されるよう貢献する。技能・表現の観点：プレゼンテーションの基本的な技術を実践できるようになる。論文の書き方を習得する。

授業の計画（全体）受講者の関心のある主題を踏まえて、第一回の授業で計画を決める。

成績評価方法（総合）自らの研究報告、議論への参加、学期末レポートによって評価する。

人文社会学科 歴史学コース

開設科目	日本史概論 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史の概論を講義する。日本近世の中世や近代との論理的対比、日本近世社会の歴史的特色・特質、政治・経済・社会のあり方などを、萩藩に具体例をとりながら講義を行う。 / 検索キーワード 日本近世史・歴史学

授業の一般目標 日本近世社会について、基本的な知識を得る。日本近世社会について、大まかに説明できるようになる。歴史学の方法について、基本的な知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：歴史学の方法を知ることによって、歴史の見方を学ぶ。日本近世史についての基本的知識を得る。 技能・表現の観点：得た知識を書くことが出来る。

授業の計画（全体） 日本近世史について、骨格の部分から説明し、ついで具体的な分野に及んでいく。

成績評価方法（総合） 期末試験の内容を評価する。授業内容の要点を正確に理解しているか、それを適切に表現できているか、を評価する。

連絡先・オフィスアワー 月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本史概論 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀬藤厚				

授業の概要 日本史のなかでも特に近現代史の分野は、直接的に私たちの現在の生活や社会の有り様の背景となる分野です。つまり、現在を生きる私たちは、実は近現代史と一括される「歴史」という現在の延長にあるのです。そうした歴史観念を踏まえつつ、日本史を学ぶことの不可欠性に留意しながら、特に明治国家成立からアジア太平洋戦争終了期までを中心に講義をします。 / 検索キーワード 戦争 近代化 日本とアジア

授業の一般目標 個々の歴史事実は、言うならば歴史の点に過ぎません。歴史事実の集積として歴史という面があるのです。歴史事実を繋ぐ歴史過程の把握こそ、本授業の目標としたいと思います。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 歴史事実への関心が、次の歴史事実の関心へとステップアップする知識・理解を深めることで、歴史が単なる過去の事実の羅列ではないことを学習していきます。 思考・判断の観点： 歴史と自己との距離をどう縮めていくか考え抜いて貰いたい。私たちは歴史の人間であり、歴史的存在であることを思考することが重要です。

授業の計画(全体) 特に日本近現代史を講義領域とします。授業計画としては、I) 明治近代国家の生成と展開、II) 台湾出兵・日清・日露戦争と帝国日本の成立、III) 第一次世界大戦と大正デモクラシー、 ) 満州事変から日中全面戦争へ、V) 日中戦争の延長としての日英米戦争、 ) 日本の敗戦と国体護持の六つに区分して講義を進めていきます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 I) 明治近代国家の生成と展開 (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 (3)
- 第 4 回 項目 II) 台湾出兵、日清・日露戦争と帝国日本の成立 (1)
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 III) 第一次世界大戦と大正デモクラシー (1)
- 第 8 回 項目 同上 (2)
- 第 9 回 項目 同上 (3)
- 第 10 回 項目 ) 満州事変から日中全面戦争へ (1)
- 第 11 回 項目 同上 (2)
- 第 12 回 項目 V) 日中戦争の延長としての日英米戦争 (1)
- 第 13 回 項目 同上 (2)
- 第 14 回 項目 ) 日本の敗戦と国体護持 (1)
- 第 15 回 項目 同上 (2)

成績評価方法(総合) 基本的には論述試験となりますが、毎回授業後に講義メモを提出して貰います。また、課題レポートを課すこともあります。これらの成果を総合的に判断して成績評価をします。

教科書・参考書 教科書：日清・日露戦争, 原田敬一, 岩波書店・新書, 2007 年; アジア・太平洋戦争, 吉田裕, 岩波書店・新書, 2007 年; 侵略戦争 歴史事実と歴史認識, 瀬藤厚, 筑摩書房・新書, 1999 年 / 参考書：日本近代史概説, 瀬藤厚他, 三省堂, 2003 年

メッセージ 歴史を通して私たちの現在を問い直す

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel.083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	古文書・古記録 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

**授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

**思考・判断の観点：** 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点：** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰録時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

**成績評価方法(総合)** 1 , 学期末試験期間に試験を実施する。 2 . 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

**教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。 / 参考書：なし。

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。 / 検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

**授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

**思考・判断の観点：** 様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点：** 古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。 2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

**成績評価方法(総合)** 1 , 学期末試験期間に試験を実施する。 2 . 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

**教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。 / 参考書：なし

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	古文書・古記録 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 (1) 中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。(2) 中世の古文書について、内容解釈力を養う。(3) 中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世のくずし字をある程度判読できる。(2) 中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点：古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講者が読解を分担して原稿を事前に作成し、それに基づいて検討する。検討後は、各自で復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する（片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける）。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) 『くずし字用例辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥6,090) (2) 『くずし字解読辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥2,310) いずれかの購入が望ましい。(1) のひき方は、漢和辞書に近い。(2) は、一筆目の形からひくことができる。私見では(1) がおすすめ。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）、日本史関係辞書（例えば『角川日本史辞典』など）、日本史年表（例えば歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

授業の一般目標 (1) 中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。(2) 中世の古文書について、内容解釈力を養う。(3) 中世の文書様式の基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世のくずし字をある程度判読できる。(2) 中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点：古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。

授業の計画（全体） 受講者が読解を分担して原稿を事前に作成し、それに基づいて検討する。検討後は、各自で復習を重ねる。

成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち1通目と2通目は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題する（片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける）。3通目は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。 / 参考書：(1) 『くずし字用例辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥6,090) (2) 『くずし字解読辞典』, 児玉幸多, 東京堂出版 (税込み ¥2,310) いずれかの購入が望ましい。(1) のひき方は、漢和辞書に近い。(2) は、一筆目の形からひくことができる。私見では(1) がおすすめ。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）、日本史関係辞書（例えば『角川日本史辞典』など）、日本史年表（例えば歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 近世史料を原本で読解する醍醐味を味わう。

授業の計画(全体) 最初の3コマくらいは、平仮名のくずし字に慣れる。4コマ目から毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで積文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: くずし字解読辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; くずし字解読辞典(毛筆版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1999年; くずし字用例辞典(新装;普及版), 児玉幸多編, 東京堂出版, 1993年; 古文書解読辞典を各自持つこと。例えば、児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版) 同編『くずし字用例辞典』など。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み

開設科目	古文書・古記録 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。 / 検索キーワード 古文書、くずし字、史料

授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。

授業の計画(全体) 毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。前期よりも少し難度の高い史料の写真版を用いる。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで釈文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

成績評価方法(総合) 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり(41箇所間違いがあれば不可とする)がある。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配布する。 / 参考書: 古文書読解辞典を各自持つこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	古文書・古記録 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二・橋本義則・真木隆行・額瀨厚				

授業の概要 史料調査・現地調査を実地に体験する授業である。

授業の一般目標 現地・原史料にあたる醍醐味を味わう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 情報収集の一端を知る。調査の仕方を学ぶ。

授業の計画（全体） 史跡調査、史料調査など現地で集中的に行う。

成績評価方法（総合） レポートを提出し、その内容によって評価する。参加点も加味する。

備考 集中授業

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 「萩藩前期の藩財政と山代紙」について講義を行う。まず、17世紀前半期と後半期の萩藩財政について、概要を説明する。ついで、17世紀萩藩財政のなかでの山代紙の位置づけを行い、当該期の山代紙制を藩財政の観点から具体的に明らかにしていく。/検索キーワード 萩藩、藩財政、山代紙

授業の一般目標 1. 藩財政の構造的理解を目指す。 2. 藩財政の主要要素の理解と相互の連関把握を目指す。 3. 藩内主要産業の一つである山代紙の具体的理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 藩財政の主要要素である、生産・年貢・流通・物価・江戸出費・家臣団の再生産などを具体的に理解する。 2. 山代紙制を前期藩財政の観点から理解する。 思考・判断の観点： 1. 藩財政の主要要素間の連関をどのようにしたら捉えることができるか、考える。 技能・表現の観点： 1. 授業内容を正確に理解し、書くことができる。

授業の計画(全体) 17世紀前半期と後半期の藩財政の概要を説明し、かつ主要要素とその連関の仕方を解明する。ついで藩財政のなかでの山代紙の位置づけを行い、各論に入って行く。

成績評価方法(総合) 学期末に試験にかえてレポートを提出し、その内容によって評価する。

教科書・参考書 参考書：史料レジュメを適宜配布する。

連絡先・オフィスアワー 月曜と金曜の昼休み。

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 戦後日本社会の急激な変容は、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当て、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。 / 検索キーワード 戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容

授業の一般目標 (1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。(2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。

思考・判断の観点: 1. 戦争や平和が国家による恣意的な判断によってのみ結果されるものではなく、そこに民衆の意識が介在していることが指摘できる。2. 戦争や平和の内実を決定するものは、民衆自身であることが自覚できる。 関心・意欲の観点: 1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。2. 21世紀が再び戦争の時代であるとする認識を持つ。 態度の観点: 1. 既存の歴史認識や社会認識の有り様に疑問を持つ。2. 他者との言語や文章を媒体とするコミュニケーションに関心を持つ。

授業の計画(全体) 戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、瀧瀬厚著『侵略戦争 歴史事実と歴史認識』(筑摩書房、1999年刊)など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本人の戦争観の変容(1) 内容 1) 戦争観の転換を迫る者 2) 日本人の戦争観の実際 3) 時代と戦争観の変容 授業外指示 テキスト『侵略戦争』の精読と配布レジュメによる事前学習(以下、毎回同様の指示をする)
- 第 2 回 項目 日本人の戦争観の変容(2) 内容 4) 戦争観の形成と政治的文化的状況 5) 戦争認識を阻害するもの
- 第 3 回 項目 時代の変容と戦争認識の変容 内容 1) 1950年代の特色 2) 風化の政治的時代的背景と原因
- 第 4 回 項目 アジア太平洋戦争の総括をめぐって 内容 1) 「太平洋戦争の呼称をめぐって」 2) 解放戦争論の登場
- 第 5 回 項目 戦後の戦争と日本人 内容 1) 朝鮮戦争論 2) ベトナム戦争論
- 第 6 回 項目 日本再軍備をめぐる国論の動き 内容 1) 戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2) 日米安保の受容過程
- 第 7 回 項目 戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 内容 1) 戦争責任論 2) 過去の克服
- 第 8 回 項目 軍隊慰安婦問題への反応 内容 1) いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2) アジア民衆の対日批判
- 第 9 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(1) 内容 1) 教科書問題 2) 歴史修正主義グループの意味
- 第 10 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(2) 内容 3) 歴史修正主義批判の展開 4) 教科書問題への世論の動き
- 第 11 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観(1) 内容 1) 戦後日本人の戦争観の変容から現代の戦争への視点を探る

- 第 12 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観( 2 ) 内容 2 ) 現代の戦争観を通して保守化・右傾化する日本人の政治歴史意識の実際を検証する
- 第 13 回 項目 総括と補論( 1 ) 内容 1 ) 歴史は乗り越えられないのか～歴史の克服と清算の問題に触れて～
- 第 14 回 項目 総括と補論( 2 ) 内容 2 ) 歴史創造の主体と客体という問題
- 第 15 回 項目 総括と補論( 3 ) 内容 3 ) 社会科学は何処まで政治から自由であるのか
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法(総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

教科書・参考書 教科書：『侵略戦争』, 纈纈 厚, 筑摩書房, 1999 年；有事体制論, 纈纈 厚, インパクト出版会, 2004 年；現代の戦争, 纈纈厚他, 岩波書店, 2003 年；戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年；文民統制 自衛隊はどこに行くのか, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年 / 参考書：検証・新ガイドライン安保体制, 纈纈厚, インパクト出版会, 1998 年；周辺事態法, 纈纈厚, 社会評論社, 2000 年；現代政治の課題, 纈纈厚, 北樹出版, 2001 年；有事法制とは何か, 纈纈厚, インパクト出版会, 2002 年；有事法制の罫にだまされるな, 纈纈厚, 凱風社, 2002 年；いまに問う 憲法 9 条と日本の臨戦体制, 纈纈厚, 凱風社, 2006 年

メッセージ 現代社会に内在する矛盾をどこまで指摘可能か思考せよ

連絡先・オフィスアワー 纈纈厚 koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM 1:00-2:30



開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に宮都に関わる様々な観点から述べることにする。/ 検索キーワード 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

**授業の一般目標** 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。思考・判断の観点：授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。関心・意欲の観点：歴史及び歴史学への興味・関心をいただく。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画（全体）** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしてその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることにする。

**成績評価方法（総合）** 1．学期末にレポートを提出する。2．レポートの分量と内容については別途指示する。

**教科書・参考書** 参考書：授業中に適宜指摘する。

**メッセージ** 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また受講のためにノートパソコンが必携である。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「葬」について話しました。本年度は引き続き「葬」について、特に墓と墓地の問題について宮都毎に話します。 / 検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

授業の一般目標 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。

思考・判断の観点：史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。

関心・意欲の観点：古代貴族社会に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画(全体) 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した 8 世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず 8 世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

成績評価方法(総合) 1 . 学期末にレポートを提出する。 2 . レポートの分量と内容については別途指示する。

教科書・参考書 参考書：授業中に適宜指摘する。

メッセージ 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また受講のためにノートパソコンが必携である。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー：一応、月・木の 5 時 40 分～ 6 時 40 分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 講義題目「中世の大内氏権力と寺社(仮)」 室町戦国期の大内氏は、山口を本拠とし、中国地方の西部から九州地方の北部にわたる諸国の守護となって、一大勢力を誇った。こうした守護権力は、分国内外の寺社とどのように関係したか。やがて戦乱が激しくなると、それらの関係はどのように変化したか。これらの問題について、史料を読みすすめながら検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) 序論 中世の政治権力と宗教、(1)大内氏の氏寺氏神と菩提寺群、(2)大内氏とその分国内寺社、(3)大内氏と周防国国衙領、(4)15世紀後半における大内氏と寺社、(5)16世紀における大内氏と寺社、むすびにかえて

成績評価方法(総合) 出席状況、授業内コメント票の記入内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 講義題目「治承寿永の内乱と寺社勢力(仮)」前年度は、平安時代末期における寺社勢力の動向に関して、保元の乱以降、鹿ヶ谷事件までの時期を中心に検討した。そこで今年度はこれにひきつづき、「治承寿永の内乱」(いわゆる源平合戦)の時期における寺社勢力の動向について検討したい。

授業の一般目標 (1) 当該問題について理解を深める。(2) 歴史学の研究方法の一端を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な事実関係や諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容、これらを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。

関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

授業の計画(全体) 序論、(1) 以仁王の乱と寺社勢力、(2) 福原遷都と寺社勢力、(3) 平氏政権による大寺院焼討ち、(4) 源義仲と寺社勢力、(5) 源頼朝と寺社勢力、むすびにかえて、

成績評価方法(総合) 出席状況、授業内コメント票の記入内容、定期試験、以上から総合的見地に立って評価する。

教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤田達生				

授業の概要 【日本中・近世移行期の国家と権力】 室町幕府崩壊期から江戸幕府成立期までの国家の変容を論じ、通説的見解を再検討する。 / 検索キーワード 天下思想・本能寺の変・惣無事令・幕藩体制

授業の一般目標 【歴史学研究の意義について議論する】 織田信長・豊臣秀吉・徳川家康のめざした国家像を良質の史料をもとに検討しながら、歴史学研究の魅力を感じとる。

授業の計画(全体) 国家統合と地域分権をテーマとする。具体的には、(1) 信長の天下思想の意義 (2) 秀吉の「惣無事令」批判 (3) 「藩」成立論 について論じる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 織田信長論 室町幕府・守護体制と環伊勢海地域( 1 )
- 第 2 回 項目 織田信長論 - 思想家として( 2 )
- 第 3 回 項目 織田信長論 - 思想家として( 3 )
- 第 4 回 項目 織田信長論 - 本能寺の変( 4 )
- 第 5 回 項目 室町幕府 - 本能寺の変( 5 )
- 第 6 回 項目 豊臣秀吉論 秀吉神話( 1 )
- 第 7 回 項目 豊臣秀吉論 秀吉神話( 2 )
- 第 8 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判( 3 )
- 第 9 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判( 4 )
- 第 10 回 項目 豊臣秀吉論 「惣無事令」批判( 5 )
- 第 11 回 項目 幕藩体制成立史論 幕府成立過程( 1 )
- 第 12 回 項目 幕藩体制成立史論 幕府成立過程( 2 )
- 第 13 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義( 3 )
- 第 14 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義( 4 )
- 第 15 回 項目 幕藩体制成立史論 「藩」の歴史的意義( 5 )

成績評価方法(総合) 出席と試験とで評価する。

教科書・参考書 教科書：『江戸時代の設計者』、藤田達生、講談社、2006年；『秀吉神話をくつがえす』、藤田達生、講談社、2007年 / 参考書：『日本中・近世移行期の地域構造』、藤田達生、校倉書房、2000年；『日本近世国家成立史の研究』、藤田達生、校倉書房、2001年

メッセージ あらかじめ教科書を読んでいただきたい。

備考 集中授業

開設科目	日本史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	水本 邦彦				

授業の概要 日本近世史のうち社会経済史の集中講義を行う(予定)。

授業の一般目標 日本近世社会の特質を具体的に理解する。

成績評価方法(総合) 試験によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。 / 検索キーワード 史料講読、法制史料、萩藩

授業の一般目標 1．萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世の法制について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。 / 検索キーワード 萩藩、政治史史料、史料講読

授業の一般目標 1．萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2．近世政治史の課題について理解を深める。 思考・判断の観点： 1．近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。

授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。

成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。

教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。



開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 日本近現代史関係の資料を読み解く力を養成します。そのなかには、手紙や日記など個人が残した資料をも含みます。そのためには、その人物の歴史的立場への関心が不可欠です。 / 検索キーワード 歴史と事実 歴史と資料 歴史と体験

授業の一般目標 出席者が順番に声を出して資料を購読する機会を用意します。正しい読み方と内容理解が伴って初めて、資料が何を語りかけてくるか理解できるはずです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 場合によっては漢和辞典など必携となります。漢字の知識を増やす良い機会となるでしょう。 思考・判断の観点： 資料の背後に隠された意味や、行間に潜む内容を掘り出すには、絶え間ない注意力・思考力が求められます。 関心・意欲の観点： 歴史事象や人物の思想や行動へのトータルな関心と知的好奇心が必要です。そのために様々な工夫を凝らしながら、資料にアクセスできる技量をも身につけます。

授業の計画(全体) 日本近現代史関係の最も必要とされる基本資料を精選して読んでいきます。最初は、『西園寺公と政局』や『山県有朋意見書』などを通読していきます。後半は、少し的を絞って、特定の資料や個人の手紙文などの読解も予定しています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『山県有朋意見書』(原書房刊)を読む(1)
- 第 2 回 項目 同上(2)
- 第 3 回 項目 同上(3)
- 第 4 回 項目 同上(4)
- 第 5 回 項目 同上5
- 第 6 回 項目 『西園寺公と政局』を読む(1)
- 第 7 回 項目 同上(2)
- 第 8 回 項目 同上(3)
- 第 9 回 項目 同上(4)
- 第 10 回 項目 同上(5)
- 第 11 回 項目 外交資料を読む(1)
- 第 12 回 項目 同上(2)
- 第 13 回 項目 同上(3)
- 第 14 回 項目 田中義一文書を読む(1)
- 第 15 回 項目 同上(2)

成績評価方法(総合) 原則として出席者各人による音読を求めますので、その内容も重要な評価点となります。ペーパー形式による習熟度も評価の対象とします。

教科書・参考書 参考書： 外交資料 日本の膨張と侵略, 山田朗編, 日本出版社, 1997 年; 日本近代史概説, 纈纈厚他, 三省堂, 2003 年

メッセージ 歴史に刻まれた事実を資料で掘り出してみよう

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel.083.933.5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 基本的に前期の継続とします。 / 検索キーワード 歴史認識 近代化 戦争

授業の一般目標 基本的に前期の継続とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ

授業の計画（全体） 前期と同じ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 田中義一文書 (1) (前期の継続)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 3
- 第 4 回 項目 宇垣一成関係文書 (1)
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 (4)
- 第 8 回 項目 木戸幸一関係文書 (1)
- 第 9 回 項目 同上 (2)
- 第 10 回 項目 同上 (3)
- 第 11 回 項目 日本近代史資料読解の方法と意義 (1)
- 第 12 回 項目 同上 (2)
- 第 13 回 項目 同上 (3)
- 第 14 回 項目 同上 (4)
- 第 15 回 項目 同上 (5)

成績評価方法（総合） 前期と同じ

メッセージ 歴史は未来を語る

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel 083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書に関する自由記述コメント：/ 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。/ 検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（14）概要：『勘仲記』の輪読をおこなう。前年度にひきつづき、弘安6（1283）11月条以降の記事を検討する予定。『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象とし、輪読をおこなってきた。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 (1) 史料の読解力を養う。(2) 日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。(3) 関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世の史料を読解できる。(2) 中世の史料を読解するために必要な知識を得る。思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。関心・意欲の観点：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。技能・表現の観点：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画（全体）受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法（総合）定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。 / 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトを活用すれば、史料中の語を検索することが可能である。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む(15) 概要：前期にひきつづき、『勘仲記』の輪読をおこなう。『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象とし、輪読をおこなってきた。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

授業の一般目標 (1) 史料の読解力を養う。(2) 日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。(3) 関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中世の史料を読解できる。(2) 中世の史料を読解するために必要な知識を得る。思考・判断の観点：より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。関心・意欲の観点：関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。技能・表現の観点：漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。

授業の計画(全体) 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

成績評価方法(総合) 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。/ 参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトを活用すれば、史料中の語を検索することが可能である。

メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点: 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した評価を行う。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。/ 検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習

授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 時代背景についての理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点: 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を培う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点: 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。

成績評価方法(総合) 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味する。

教科書・参考書 教科書: なし。適宜レジュメを配布する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。



開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧瀬厚				

授業の概要 日本近現代史研究の歴史研究全体の中に占める位置につき、最初何回に分けて説明する。

授業の一般目標 何よりも日本近現代史への関心を引き出すために、比較的アクセスしやすい資料や文献を紹介する。また、先行研究の紹介を内容別、テーマ別に説明する。これを参考にしつつ、歴史資料や文献への親近感を持てるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：歴史は知識・理解が全てではなく、歴史を論ずるうえでの初歩的な前提である。しかし、多領域にわたる歴史分野において最低限の知識・理解の力は不可欠であり、その点を留意しながら基礎的な歴史用語や歴史事実の確認を行っていく。思考・判断の観点：歴史的な思考・判断の力の養成は、歴史論文の叙述において必要不可欠である。それをどう身につけていくのかについて充分留意しながら、文献・資料を通して訓練していく。

授業の計画（全体）当初何回は「研究状況の現段階」と題して説明を行い、研究テーマ探しの一助とする。その後、出席者各人が研究テーマを可能な限り早期に設定し、関連する文献や資料の収集・リストアップなど鋭意進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本近現代史研究の現状について (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 以下、順次各人の報告（適時小講義の時間も入れていく）
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）各人が行う研究成果報告及び提出されたレジュメ、さらには報告への質疑応答の内容などで評価する。

教科書・参考書 参考書：十五年戦争小史、江口圭一、青木書店、1986 年

メッセージ 君は歴史に何を語らせるのか

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel 083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纈纈厚				

授業の概要 日本近現代史の歴史過程を通して、出席者各人が研究テーマを設定し、順次研究報告を行う。  
最初の何回は現在における研究状況を先行研究を紹介しながら説明し、テーマ設定のための参考とする。  
/ 検索キーワード 歴史認識 歴史事実 歴史過程

授業の一般目標 自ら資料を収集・読解していくなかで歴史研究の大切さと、その有用性を認識できるようにすること。そのために、資料への接近方法をあらゆる角度から説明し、それに対応しながら歴史論文の叙述方法を習得していくことに心がける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 歴史の知識や理解は、歴史叙述の第一歩に過ぎないことを踏まえながら、資料や文献から、どこまで知識・理解が獲得されるか、常に自問しながら学んでいく。 思考・判断の観点： 資料や文献から獲得された知識・理解は、絶え間ない思考と判断の力によって、初めて血肉化される。その点で知識・理解 思考・判断という相互補完性を特に強く意識して欲しい。 関心・意欲の観点： 思考・判断はあくまで歴史への関心・意欲、そして、歴史から学び取ろうとする動機が不可欠である。その点で関心・意欲が深まるための工夫や智恵をも配慮しつつ、演習を創っていく。

授業の計画（全体） 原則として出席者の研究テーマに従い、順次報告を行っていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 日本近現代史研究の現状と先行研究の説明 (1)

第 2 回 項目 同上 (2)

第 3 回 項目 以下、順次出席者の研究報告

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 報告内容、特にレジュメの提出を求めます。最終的には歴史論文の執筆へとステップアップしていきますが、その成果を主な評価対象とする。

教科書・参考書 参考書： 近代日本政軍関係の研究, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年

メッセージ 歴史を学び、時代を語る

連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Tel 083-933-5278 Office Hour PM1:00-2:30(Thursday)

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。 思考・判断の観点：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点：卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点：卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語(書き言葉)で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画(全体)** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

**成績評価方法(総合)** 1 . 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2 . レポートの分量については別途指示する。

**教科書・参考書** 教科書：なし / 参考書：なし

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト(ワード)を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。 / 検索キーワード 卒業論文

**授業の一般目標** よりよい卒業論文の作成を目指す。

**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：卒業論文作成に必要な日本古代史に関するより高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点**：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点**：1, 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。2, 先学の研究を十分に咀嚼して自らの問題設定との関係を明確に把握できる力をつける。 **態度の観点**：卒業論文の作成を通じて、学問上の常識や通説を疑い、かつそれを明確に指摘しうる姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

**成績評価方法（総合）** 1．学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2．レポートの分量については別途指示する。

**教科書・参考書** 教科書：なし / 参考書：なし

**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・火の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての専門家意識を育む。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には事前連絡を要する(但し緊急事態の場合は事後承諾)。連絡先の電話や E-mail は研究室名簿参照。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

授業の概要 日本中世史を専攻する3回生と4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。

授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 関係史料や先行研究について把握する。(2) 関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての専門家意識を育む。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

授業の計画(全体) 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

成績評価方法(総合) 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

メッセージ いい卒業論文を読ませてください。

連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席すべき所用がある場合には事前連絡を要する(但し緊急事態の場合は事後承諾)。連絡先の電話や E-mail は研究室名簿参照。

開設科目	東洋史概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 日本人たちは、中華料理を食べたことはあっても、古代の中国人がどんな生活を送っていたかということについてはあまり知らないように思われます。わたくしは、秦の始皇帝と漢の武帝時代における人々の衣(服装)・食(料理)・住(住宅)・行(交通)を中心として古代中国人の生活史を紹介したいと計画しています。 / 検索キーワード 秦漢・衣・食・住・行

授業の一般目標 本講義は、王朝と中国古代社会との関係という論題から論じ、漢民族・漢文化の成立史における王莽の新朝は重要な一環として紹介する。伝統的な歴史学者のなかには新朝の存在を認めず、不評判する考えに反し、具体的な史例によって客観的な歴史観の特徴を説明できる目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国古代における帝国に関する知識を説明できる。 思考・判断の観点：人間の社会・王朝・歴史との間にある関係の重要性を指摘できる。 関心・意欲の観点：受講生は社会改革への関心を一層喚起するのを寄与できる。 態度の観点：討論の参加でき、質問の応答を協調できる。

授業の計画(全体) 15コマの授業によって、衣(服装)・食(料理)・住(住宅)・行(交通)という古代中国人の生活史を紹介します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 鴻門の会から見た飲食生活
- 第 2 回 項目 「折角」にした服装のファッション
- 第 3 回 項目 穴居と巢居のどちらか住みやすい
- 第 4 回 項目 新幹線の開通と駅伝
- 第 5 回 項目 「秦磚漢瓦」で作られた都市
- 第 6 回 項目 「奇貨可居」と市場管理の風景
- 第 7 回 項目 「月令」による農業生産
- 第 8 回 項目 昼寝と「房中術」の人体衛生
- 第 9 回 項目 なぜ離婚率高かったか
- 第 10 回 項目 辺境地方での一日生活
- 第 11 回 項目 死んだらどうなるのか
- 第 12 回 項目 海と砂漠のシルクロード
- 第 13 回 項目 古代気候の温室化
- 第 14 回 項目 まとめ 漢水・漢字・漢文化
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 出席(30%) + 試験(70%)

開設科目	東洋史概論 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 中国明清時代の社会・経済の歴史について概説する。 / 検索キーワード 銀経済、社会の集団化、流動化、社会経済史

授業の一般目標 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。 思考・判断の観点： 歴史の動きについて、社会・経済的要因という層位から思考する。 関心・意欲の観点： 歴史の動きの表層の奥にある要因に関心を持つ。

授業の計画（全体） 明清時代の歴史について、社会・経済的要因を中心に概説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 アジア・東アジア・中国 内容 ・歴史を考える場を設定する。 ・明清時代の社会経済史を検討する意義を明らかにする。
- 第 2 回 項目 明清時代の政治史 内容 明清時代の大まかな政治史について講義し、まかな時間的な流れを理解させる。
- 第 3 回 項目 明初の社会 内容 明初、里甲制が文字どおりに実施されていた「固い」社会を検討する。
- 第 4 回 項目 銀経済の進展 内容 明代発展しつつあった銀経済を検討し、「固い」社会の溶解を理解させる。
- 第 5 回 項目 賦・役銀納化の進展 1 内容 里甲制の変質から十段法・門銀・丁銀まで税役徴収・納入の銀納化について講義する。
- 第 6 回 項目 賦・役銀納化の進展 2 内容 一条鞭法・地丁銀制の施行まで、税役徴収・納入の銀納化について講義する。
- 第 7 回 項目 商工業の発展 1 内容 銀経済の結果でもあり要因でもある商工業の発展、とくに手工業の発展について講義する。
- 第 8 回 項目 商工業の発展 2 内容 流通経済の発展と商人の集団化について検討する。
- 第 9 回 項目 郷紳支配の拡大 内容 流動化した新しい社会の地域エリートとしての郷紳と、それを支えた社会のあり方を検討する。
- 第 10 回 項目 予備日 内容 授業の進捗状況に応じて弾力的に（質問等も）
- 第 11 回 項目 人口の増大と開発 内容 清代の人口爆発とそれを支えた山区の開発について検討する。
- 第 12 回 項目 移住と宗族 内容 開発の結果ひきおこされる移住と、その単位となる宗族形成の活発化について検討する。
- 第 13 回 項目 民衆反乱 内容 社会的弱者の集団化と蜂起、社会の軍事化について検討する。
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 社会の流動化と集団化
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 小論文形式による試験

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書： なし。授業の都度プリントを配布する。 / 参考書： 世界の歴史 12 明清と李朝の時代、岸本美緒、宮嶋博史、中央公論新社、1998 年； 中国の歴史 9 海と帝国、上田信、講談社、2005 年； 中国民衆叛乱史（東洋文庫）3・4、谷川道雄、森正夫編、平凡社、1978 年； 明清社会経済史研究、小山正明、東京大学出版会、1992 年； 中国の社会、ロイド・E. イーストマン著；上田信、深尾葉子訳、平凡社、1994 年； 明清交替と江南社会： 17 世紀中国の秩序問題、岸本美緒著、東京大学出版会、1999 年 東アジアの「近世」、岸本美緒、山川出版社、1998 年 清朝中期史研究、鈴木中正、愛知大学国際問題研究所、1952 年 明清社会経済史研究、百瀬弘、研文出版、1980 年 移住民の秩序、山田賢、名古屋大学出版会、1995 年 その他、著書・論文多数。授業中に紹介する。



連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 室、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年前の甲骨文の発見と等しい価値を有し、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代( BC.220 ~ AD.220 )の出土文字資料 簡牘が大量に発見されたのは、中国歴史学上に画期的な時代をもたらしました。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところ文字史料が発見されていません。これとは違い、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介しようとするものです。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明するという目標です。

成績評価方法 (総合) レポート + 宿題 + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年；龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容は、受講生にある程度の中国語能力を要求するので、本講義において受講生の中国語の読解レベルが一層高くなることを目指しております。

開設科目	東洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代( BC.220 ~ AD.220 ) の出土文字資料 簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る「禁苑」について紹介したいものである。 / 検索キーワード 秦漢・簡牘・禁苑

授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

成績評価方法 (総合) レポート + 出席。

教科書・参考書 教科書：睡虎地秦墓竹簡, 睡虎地秦墓整理小組, 文物出版社, 1978 年; 龍崗秦簡, 中国文物研究所, 中華書局, 2001 年

メッセージ 本講義の内容によって、受講生にはある程度の中国語能力を要求されているので、受講生の中国語の読解レベルは一層高くなることを目指しております。

開設科目	東洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 前年度に引き続き清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という定点から見た商品流通について明らかにする。今年度は長江中流域を中心とする。/ 検索キーワード 常関、徴税報告、商品流通、米、内陸 沿岸間の商品流通、内陸地域の発展

授業の一般目標 (1) 清代の商品流通について一応の知識を得る。(2) 清代における長江の中流域の発展について知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 清代の商品流通について一応の知識を得る。清代における長江の中流域の発展について知識を得る。 思考・判断の観点: 清代中後期における長江流域の発展について史料に基づいて考える。

授業の計画(全体) 長江中流域を中心して清代常関をめぐる商品流通を分析し、常関という定点から見た商品流通について検討していく。

成績評価方法(総合) 学期末に提出するレポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書: なし。授業中にプリントを配布する。/ 参考書: 清代史の研究, 安部健夫, 創文社, 1971年; 清代中国の物価と経済変動, 岸本美緒, 研文出版, 1997年; 清代の市場構造と経済政策, 山本進, 名古屋大学出版会, 2002年; 明清時代の商人と国家, 山本進, 研文出版, 2002年; その他、参考論文については授業中に紹介する。

メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部 517、内線 5229、E-mail: stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森川哲雄				

授業の概要 「14～18世紀のモンゴル史の諸問題」モンゴル帝国崩壊後、18世紀までのモンゴリアを中心とした政治、歴史、文化について講義する。/ 検索キーワード モンゴル帝国、大元、チベット仏教、夷俗記、モンゴル年代記

授業の一般目標 アジアの東部地域の歴史を考察するときには一般的に中国を中心にして記すことが多いが、それと隣接しながら全く価値観の異なる世界であり、また、世界史の上でも大きな意義を持ったモンゴル世界の歴史的意味について理解をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前近代のモンゴリアの様々な様相について理解を得る。 思考・判断の観点：多様な価値観を持つ世界が存在することを理解する。

授業の計画(全体) モンゴル帝国崩壊後、18世紀までのモンゴリアを中心とした政治、歴史、文化について講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 世界史におけるモンゴル帝国の意義
- 第 2 回 項目 モンゴル帝国継承国家論(1) 内容 モンゴル帝国崩壊後の中央ユーラシア世界の歴史(14～17世紀)
- 第 3 回 項目 モンゴル帝国継承国家論(2) 内容 中央ユーラシア世界の歴史(18～20世紀)
- 第 4 回 項目 「大元」の継承(1) 内容 14～17世紀のモンゴル政権と「大元」の問題(1)
- 第 5 回 項目 「大元」の継承(2) 内容 14～17世紀のモンゴル政権と「大元」の問題(2)
- 第 6 回 項目 チベット仏教とモンゴル文化 内容 チベット仏教の再流入とモンゴルの文化について
- 第 7 回 項目 17世紀のモンゴル人の生活 内容 肖大亨『夷俗記』の記述
- 第 8 回 項目 17世紀のモンゴル人の風俗 内容 肖大亨『夷俗記』の記述
- 第 9 回 項目 清朝のモンゴル支配(1) 内容 17～18世紀のモンゴリアの再編
- 第 10 回 項目 清朝のモンゴル支配(2) 内容 清朝のモンゴル支配の浸透
- 第 11 回 項目 モンゴル年代記(1) 内容 モンゴル年代記の概要
- 第 12 回 項目 モンゴル年代記(2) 内容 モンゴル年代記の内容
- 第 13 回 項目 モンゴルから見た中華世界(1) 内容 「北アジア世界」の位置
- 第 14 回 項目 モンゴルから見た中華世界(2) 内容 モンゴル人は中華世界をどのように認識していたか
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の内容をまとめる。

成績評価方法(総合) 授業終了後にレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：授業中にプリントを配布する。/ 参考書：ロシアとアジア草原, 佐口透, 吉川弘文館, 1966年; 世界史の誕生, 岡田英弘, 筑摩書房, 1992年; 世界史歴史大系 中国史4 明・清, 神田信夫編, 山川出版社, 1999年; 中央ユーラシア史, 小松久男編, 山川出版社, 2000年; モンゴルの歴史, 宮脇淳子, 刀水書房, 2002年; モンゴル年代記, 森川哲雄, 白帝社, 2007年 他

備考 集中授業

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。

授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。

成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教官はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が史料を読み、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 漢口叢談校釈, 范カイ著・江浦ら校釈, 湖北人民出版社, 1990 年； テキストのコピーを配布する。 / 参考書： 乾隆漢陽府志, 陶士 等, , 1747 年； 乾隆漢陽県志, 劉嗣孔等, , 1748 年； 光緒漢陽県志, 濮文昶等, , 1884 年； 民国夏口県志, 侯祖ヨ等, , 1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また 予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。



連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス  
アワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 漢口とは、明清時代、長江中流域において一大経済中心地となった大市場町である。『漢口叢談』は、塩商人であった范カイがその漢口について 1823 年ごろ著した筆記（随筆）である。この書は清朝中期における漢口という大商業都市について貴重な史料を提供している。この書を読むことによって当時の一都市における経済活動・文化活動について考察する。具体的には本書の点校本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていくという形式で授業を進めていく。／検索キーワード 『漢口叢談』、漢口鎮、市鎮、長江中流域、士大夫と商人

授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代地域社会の基本的な視点について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 清代の地域社会および史料読解に必要な知識をもつ。 思考・判断の観点： 史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。 関心・意欲の観点： 原史料に関心を持つ。 態度の観点： 原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。 技能・表現の観点： 漢文史料を読解する技能をもつ。

授業の計画（全体） 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教員はそれに解説を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期試験の答え合わせと史料解題 内容 前期試験の答え合わせおよび解説 『漢口叢談』とその著者范カイについて説明する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が担当部分について発表し、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

成績評価方法（総合） 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 漢口叢談校釈, 范カイ著・江浦ら校釈, 湖北人民出版社, 1990 年； テキストのコピーを配布する。 / 参考書： 乾隆漢陽府志, 陶士 等, , 1747 年； 乾隆漢陽県志, 劉嗣孔等, , 1748 年； 光緒漢陽県識, 濮文昶等, , 1884 年； 民国夏口県志, 侯祖ヨ等, , 1920 年

メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業は その能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻し ようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。 上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途 脱落は厳に慎むこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィス  
アワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

開設科目	東洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木(竹)簡より、代表的な書類(法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など)を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。

成績評価方法(総合) レポート。

開設科目	東洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 担当教員が受講学生に適当なテキストを選び、それを学生が中心になって読み進めることを契機として当時の社会に関する問題について議論・検討していく。具体的な読解史料は受講予定学生との相談によって決める。/ 検索キーワード 史料、読解、検討、議論、社会像

授業の一般目標 中国近世史料の基礎的な読解力、史料解釈の方法を会得し、当時の社会について考える力を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国近世の史料に関する基礎的な知識を獲得する。中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：中国近世の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。 態度の観点：史料から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：中国近世史料を扱う基礎的な技能を獲得する。

授業の計画（全体） 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 読解する史料について解説する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布する。/ 参考書：参考史料、参考文献については授業中において適宜指定する。

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

授業の概要 担当教員が受講学生に適当なテキストを選び、それを学生が中心になって読み進めることを契機として当時の社会に関する問題について議論・検討していく。具体的な読解史料は受講予定学生との相談によって決める。/ 検索キーワード 史料、読解、検討、議論、社会像

授業の一般目標 中国近世史料の基礎的な読解力、史料解釈の方法を会得し、当時の社会について考える力を涵養する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国近世の史料に関する基礎的な知識を獲得する。中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。 思考・判断の観点：中国近世の社会の性質、社会と国家の関係について考える。 関心・意欲の観点：中国近世の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。 態度の観点：史料から社会を見通す態度をもつ。 技能・表現の観点：中国近世史料を扱う基礎的技能を獲得する。

授業の計画（全体） 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 読解する史料について解説する。
- 第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布する。/ 参考書：参考史料、参考文献については授業中において適宜指定する。

メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋史概論 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 今年の西洋史概説では、黒人、インディアン、ラティーノ、女性、アジア系の歴史に重きをおきながら、1年を通して建国期からクリントン政権期までのアメリカ社会を考察する。

授業の一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ史・アメリカ文化の特徴を説明できる 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける 関心・意欲の観点：歴史、わけてもマイノリティの歴史に興味をもつ 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (1) 内容 ヒップホップの歴史と現代アメリカ社会
- 第 3 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (2) 内容 映画 Tupac Ressurrection 鑑賞
- 第 4 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (3) 内容 黒人社会の分極化
- 第 5 回 項目 小レポート批評会 授業外指示 小レポート提出
- 第 6 回 項目 植民地期のアメリカと独立革命 内容 アメリカ合衆国憲法の史的意義
- 第 7 回 項目 比較奴隷制史とアンテベラム南部 内容 南北戦争以前の南部社会
- 第 8 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問メモを提出
- 第 9 回 項目 南北戦争
- 第 10 回 項目 南部再建期 内容 南北戦争の「戦後処理」
- 第 11 回 項目 理解度確認 授業外指示 質問メモを提出
- 第 12 回 項目 『金ぴか時代のアメリカ』 内容 東南欧系移民の歴史と労働運動
- 第 13 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 内容 黒人運動指導者のヴィジョンとその対立
- 第 14 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 (2) 内容 ディベート
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) (1) 小レポートを求めるときがある (2) 授業末にレポートの提出を求める

教科書・参考書 参考書：参考文献については、授業中適宜指示する。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分



開設科目	西洋史概論 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	川上 耕平				

授業の概要 本講義は、第二次世界大戦以降のアメリカ政治・外交を素材として、現代史への興味を深めていくことを目的とするが、必要に応じて、政治学や国際関係といった社会科学の知見を援用することも考えている。講義の進め方としては、戦後のアメリカ史を時系列的に漏れなく詳述するのではなく（もちろん基本的な歴史的流れが理解できるように配慮する）特定のトピックに限定してそれを重点的かつ多角的に論じていくスタイルをとる。特に、史料公開の進展とともに通説的な見解が徐々に訂正されている領域もあるので、できるだけ新しい学説や見方を紹介する。

授業の一般目標 「西洋史」という名の講義であるが、年号やこまごまとした用語を暗記するのではなく、マクロな流れや構造を把握することにつとめてほしい。その意味で、歴史学における「社会科学」的な思考を重視していきたいが、「社会科学」ということばに対して明確なイメージをもてない学生には、高根正昭『創造の方法学』（講談社現代新書、1979年）のような本を一読することを薦めておく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：戦後アメリカの政治・外交を知ることによって、現代史の基本的視座を獲得する。 思考・判断の観点：歴史に限らず、ある現象の原因をさぐるという「問い」の基本的構造を、「変数」「仮説」「命題」といった社会科学的な用語で考えられるようになってほしい。 態度の観点：授業中の私語については、退室を命じるなど厳格な措置をとることもあるので、そのつもりで講義にのぞむこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 開講にあたって 内容 スケジュール、テキストの説明、および「社会科学」としての国際関係論の典型的事例として、K. ウォルツの方法論（およびその批判）などを紹介する。
- 第 2 回 項目 冷戦の起源（1） 第二次大戦の終結と米ソ対立 内容 戦時中は同盟国であった米ソが、戦後なぜ対立するようになったのか。第二次大戦、太平洋戦争に遡って「冷戦の起源」がどこにあったのかを考える。
- 第 3 回 項目 冷戦の起源（2） 戦後国際秩序の形成 内容 主に戦後国際経済の展開に重点を置き、IMF-GATT 体制について「埋め込まれた自由主義」という視点から考える。
- 第 4 回 項目 ヨーロッパにおける冷戦の展開 内容 「二重の封じ込め」、「招かれた帝国」といったキーワードから、主に戦後のドイツの処遇をめぐる問題や NATO の結成を中心に検討する。
- 第 5 回 項目 アジアにおける冷戦の展開（1） 朝鮮戦争 内容 アジア冷戦の軸は米中対立であったが、その契機となった朝鮮戦争について、ソ連側の史料公開で明らかになった最近の研究などから考える。
- 第 6 回 項目 アジアにおける冷戦の展開（2） 日本：占領から講和・独立へ 内容 講和条約によって独立した日本に、なぜそのまま米軍基地が置かれることになったのか。「吉田ドクトリン」をキーワードに検討する。
- 第 7 回 項目 アジアにおける冷戦の展開（3） ベトナム戦争 内容 東南アジアにおけるドミノ化を警戒するアメリカの懸念が引き金となったベトナム戦争について検討する。
- 第 8 回 項目 冷戦の変容（1） キューバ危機 内容 核兵器が人類に及ぼすインパクトを世界に知らしめ、後に核管理の重要性を認識させることになったキューバ危機について検討する。
- 第 9 回 項目 冷戦の変容（2） 中ソ対立と多極化 内容 一枚岩とみられていた東側陣営内部の対立や、西側同盟国フランスのゴーズムについて検討する。
- 第 10 回 項目 冷戦の変容（3） 米中和解 内容 米中接近について最近の研究をふまえて説明するが、この動きを理解する上で日本の動向が重要であるため、沖縄返還や日中国交回復にも言及する。
- 第 11 回 項目 補論・「ホテル・カリフォルニア」と 1970 年代のアメリカ 内容 イーグルスのヒット曲「ホテル・カリフォルニア」（1976年）における歌詞を通じて、アメリカ社会の変容を検討する。授業外指示 事前に課題の提出を要求する。

- 第12回 項目「新冷戦」の時代 内容 ソ連のアフガニスタン侵攻によって再び対立が顕著となった米ソの関係について、軍拡競争などの面から検討する。
- 第13回 項目 冷戦の終焉 内容 ゴルバチョフ大統領という個人の理念が冷戦構造を変化させた過程を、東欧革命、ドイツ統一などを通じて検討する。
- 第14回 項目 冷戦後の世界(1) 湾岸戦争 内容 冷戦期におけるアメリカと中東の関係を検討しながら、湾岸戦争が勃発した背景を検討する。
- 第15回 項目 冷戦後の世界(2) 9.11テロとイラク戦争 内容 9.11テロ事件以降顕著となったアメリカ＝「帝国」論と、グローバリゼーションの関係について考察する。

成績評価方法(総合) 詳細は講義の冒頭で説明をするが、全講義終了後の試験、課題提出、出席点を含めて総合的に評価する。なお、出席回数が不足している場合、受験を認めないこともある。

教科書・参考書 教科書：アメリカの世界戦略, 菅英輝, 中央公論新社, 2008年 / 参考書：アメリカの政治・外交に関する良書は多いので、講義でそのつど紹介していく。

メッセージ 現代史については、すでにある程度の知識を身につけている学生も多いと思われるが、そうした従来の通説的な理解を相対化するような講義にしていきたい。なお、講義の情報量が多いため、スケジュールどおりに進まない可能性もある。

備考 集中授業

開設科目	西洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。

授業の一般目標 専制正治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まり、まもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の一般目標の点について知識を持ち、理解する。 思考・判断の観点： 授業の一般目標の点について、自分で深く考える。 関心・意欲の観点： ロシアとヨーロッパの歴史について強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 1
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 2
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 1 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 2 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 3 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリストたち
- 第 11 回 項目 スラブ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェン「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴開放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100点。無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点。

教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。 こうした 問題を考えてみたい。

授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観 点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィ キ
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1 9 0 5 年革命
- 第 7 回 項目 1 9 1 7 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 1 0 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主 義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主 義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回

## 第 30 回

成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。遅刻マイナス 2 点。

教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 1960年代の社会政治運動の諸相に関して、史料をもとに考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。/ 検索キーワード アメリカ、黒人。社会運動

授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係 内容 アメリカ黒人社会の現状の概説
- 第 3 回 項目 「長い公民権運動論」の考察 内容 公民権運動に関する史学史論の整理
- 第 4 回 項目 南部公民権運動 (1) 内容 南部公民権運動に関する概説
- 第 5 回 項目 南部公民権運動 (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 6 回 項目 南部公民権運動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 7 回 項目 ブラック・ナショナリズム (1) 内容 ブラックナショナリズムの概説 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 8 回 項目 ブラック・ナショナリズム (2) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 9 回 項目 ブラック・ナショナリズム (3) 内容 史料に基づいた考察
- 第 10 回 項目 冷戦と公民権運動 内容 冷戦構造がアメリカ内政に及ぼした影響の解説
- 第 11 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (1) 内容 都市暴動解釈の歴史の概説
- 第 12 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (2) 内容 デトロイト都市研究史概説
- 第 13 回 項目 黒人の運動と都市暴動 (3) 内容 史料に基づいた考察 授業外指示 予習として史料を読んてくる
- 第 14 回 項目 60年代を歴史化すること 内容 前期の講義のまとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

教科書・参考書 教科書：'Takin' to the Streets, Alexander Boom and Wini Breines, Oxford University Press, 2003 年；教科書販売場所：大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	近藤 淳子				

授業の概要 20 世紀のアメリカ外交史を考察する。建国時のアメリカ外交の基本方針は経済を主体とするもので軍事的要因を否定するものであった。だが、第 2 次世界大戦後のアメリカは軍事大国となり、21 世紀はアメリカ主導の戦争が展開されている。この授業では、20 世紀の国際環境の中でアメリカが軍事大国化した経済・政治。文化的背景について調べていく。/ 検索キーワード 外交、戦争と平和、国際関係。

授業の一般目標 アメリカ外交史を通してアメリカ人の戦争と平和に対する価値観、及び 20 世紀の国際関係についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 外交の理念と実践に深くかかわる軍事・経済・政治的要因だけでなく文化的価値観を理解する力を養う。 思考・判断の観点： 歴史的事実に立脚した歴史解釈を形成していく力を身につける。 関心・意欲の観点： 現在の国際紛争に関心を持つことの重要性に対する認識を深める。 態度の観点： プレゼンテーションを準備し実践することによって自己の歴史解釈を表現する力を身につける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アメリカ外交の特質 内容 アメリカの外交の仕組みと外交理念の特長について学ぶ。 授業外指示 権力政治と道義外交について調べる。
- 第 2 回 項目 アメリカの建国から大国へ 内容 アメリカの伝統的外交理念の確立から経済大国としてアメリカが国際社会に台頭するまでの歴史の変遷を学ぶ。 授業外指示 米西戦争、シオドア・ルーズヴェルト大統領の力の外交を調べる。
- 第 3 回 項目 第一次世界大戦とウィルソン外交 内容 国際連盟の設立へ導いたウィルソンの世界観とは何かを考察すれ。 授業外指示 ウィルソンの「14 か条の平和原則」とパリ講和会議について調べる。
- 第 4 回 項目 戦間期の国際関係とアメリカの外交思想 内容 戦間期の平和思想について考察する。また、満州事変をめぐるアジア情勢がアメリカ外交に与えた影響について学ぶ。 授業外指示 ワシントン軍縮会議、スティムソン・ドクトリンについて調べる。
- 第 5 回 項目 日米戦争 内容 日米両国の戦争に対する価値観の違いについて学ぶ。 授業外指示 日米交渉、ブレトンウッズ体制、国際連合について調べる。
- 第 6 回 項目 原爆外交 内容 原爆製造から投下までのアメリカの決断と、戦後の核実験が国際世論に与える影響について考察する。 授業外指示 広島・長崎への原爆投下の原因と結果について調べる。
- 第 7 回 項目 冷戦とトルーマン外交 内容 冷戦の起源について考察し、アジアの冷戦に朝鮮戦争が持つ意義について学ぶ。 授業外指示 憂鬱 録 茲 砲 弔 い 督 瓦 戮 襦
- 第 8 回 項目 アイゼンハワー外交 内容 米ソ関係を基軸とする冷戦構造の確立について学ぶ。 授業外指示 大量報復戦略、核抑止論について調べる。
- 第 9 回 項目 キューバ危機とケネディ外交 内容 アメリカとキューバの関係を中心に核兵器使用の可能性について考察する。 授業外指示 キューバ・ミサイル危機、部分的核実験停止条約について調べる。
- 第 10 回 項目 ベトナム戦争のジョンソン外交 内容 ベトナム戦争に敗北したアメリカが抱える諸問題、とくにアメリカ人の反戦運動について考察する。 授業外指示 ベトナム戦争とイラク戦争を比較し、その相違点を調べる。
- 第 11 回 項目 ニクソン外交と米中関係 内容 キッシンジャー外交を主軸として米中国交回復を果たした米中両国の外交方針について学ぶ。 授業外指示 キッシンジャー外交と周恩来外交について調べる。
- 第 12 回 項目 カーターの人権外交 内容 ハードパワーが支配する国際社会の中で人権外交や道義外交は実践可能なのかをカーター外交を通して考察する。 授業外指示 イラン革命と米大使館人質事件について調べる。

- 第 13 回 項目 レーガンの力の外交 内容 「悪の帝国」論を掲げてパワーポリティクスを実践したレーガン大統領の外交を学ぶ。授業外指示 冷戦の終結をもたらしたものは何かを調べる。
- 第 14 回 項目 プレゼンテーション(1) 内容 各人が選んだ課題についてプレゼンテーションする。
- 第 15 回 項目 プレゼンテーション(2) 内容 各人が選んだ課題についてプレゼンテーションする。

教科書・参考書 教科書：未定、

連絡先・オフィスアワー メールアドレス：kondo@fis.ypu.jp



開設科目	西洋史特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	南川高志				

**授業の概要** 講義テーマ「地中海のローマ帝国と森のローマ帝国 西洋古代世界の新たな解釈の試み」  
**概要**「よく知られているように、ローマ帝国は古代イタリアの一都市国家から出発して、地中海周辺地域を中心に巨大な帝国を築き、長く統治した。しかし、古代ギリシア人と異なり、ローマ人は故地イタリアや地中海を離れて内陸部にも進出し、今日のイギリスやドイツにまで支配領域を広げた。そこには、地中海周辺の「海のローマ帝国」「イタリアのローマ帝国」とは性格を異にする「森のローマ帝国」が形成されたのである。この講義では、一般に知られている地中海周辺のローマ帝国の社会や文化について論じるだけでなく、帝国境界に存在した「森のローマ帝国」にも力点を置いて、ローマ帝国の性格や歴史的意義について検討する。イギリスやドイツに残る遺跡・遺物の写真などを紹介し、あるいはまた古代人の書き残した記録を日本語訳で紹介しつつ、具体的にローマ帝国に接近することを試みる。

**授業の一般目標** この講義では、まずは古代のローマ帝国の実態を受講生が正確に理解し、それを通じて西洋史の古代の実相とローマ帝国の歴史的意義を明確に認識することが目標である。しかし、それに留まらず、古代の世界帝国ローマを、「未開の土地に文明をもたらす帝国」として長らく解釈してきた欧米の学界や欧米の思潮についても、19～20世紀のヨーロッパの歩みと関連させて理解することを目標としたい。

**授業の計画（全体）** 本講義は、15時限の集中講義として実施します。

**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 「ローマ帝国」とは何か 内容 帝国の統治構造と社会の仕組み
- 第 2 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 1） 内容 日常生活：住居と衣服
- 第 3 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 2） 内容 日常生活：食事と娯楽
- 第 4 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 3） 内容 日常生活：娯楽
- 第 5 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 4） 内容 教育と娯楽（1）
- 第 6 回 項目 地中海のローマ帝国（生活と文化その 5） 内容 教育と娯楽（2）
- 第 7 回 項目 森のローマ帝国（その 1） 内容 帝国中核地域と辺境属州の関係
- 第 8 回 項目 森のローマ帝国（その 2） 内容 ブリテン島の場合（1）
- 第 9 回 項目 森のローマ帝国（その 3） 内容 ブリテン島の場合（2）
- 第 10 回 項目 森のローマ帝国（その 4） 内容 ブリテン島の場合（3）
- 第 11 回 項目 森のローマ帝国（その 5） 内容 ブリテン島の場合（4）
- 第 12 回 項目 森のローマ帝国（その 6） 内容 ガリア、ゲルマニアの場合（その 1）
- 第 13 回 項目 森のローマ帝国（その 7） 内容 ガリア、ゲルマニアの場合（その 2）
- 第 14 回 項目 ローマ史研究の歩みと解釈の変遷 内容 近現代ヨーロッパの歩みとローマ帝国解釈の変容
- 第 15 回 項目 講義のまとめと筆記試験 内容 講義全体のまとめと修得度の調査

**成績評価方法（総合）** 授業の最終回で、講義全体のまとめをした後、講義内容に即した筆記試験をおこないます。

**教科書・参考書** 教科書：教科書は使いませんが、古代ローマ人の残した記録の日本語訳したものや地図などをプリントで配布します。／参考書：海のかなたのローマ帝国, 南川高志, 岩波書店, 2003 年；古代のイギリス, P・サルウェイ, 岩波書店, 2005 年；参考書は、上にかかげた 2 冊以外にも授業中随時紹介します。必ずしも購入する必要はありません。

**メッセージ** 受講にあたって、西洋史に関する特別の知識は必要ありません。はるかに時を隔てた古代世界と、私たちが生きている 21 世紀の現代とが、全く無関係ではないということを認識できる柔軟な頭脳と、異なる価値観の世界を理解できる瑞々しい感性の持ち主を期待しています。

**備考** 集中授業

開設科目	西洋史学講読(英語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 アメリカ史関係の論文や学術書の書評誌 *Reviews in American History* に掲載されたものの中から、授業参加者の研究関心に適した英語論文を選択し、精読を行う。/ 検索キーワード 英語、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 論文の主な論点を早くつかめるようになる。 思考・判断の観点: 論文の構造、論理を理解できるようになる

授業の計画(全体) できれば前期・後期通年での受講が望ましい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakクシヨN 内容 授業の進行方法に関するガイダンス
- 第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)
- 第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)
- 第 4 回 項目 論文読解 (1)
- 第 5 回 項目 論文読解 (2)
- 第 6 回 項目 論文読解 (3)
- 第 7 回 項目 論文読解 (4)
- 第 8 回 項目 論文読解 (5)
- 第 9 回 項目 論文読解 (6)
- 第 10 回 項目 論文読解 (7)
- 第 11 回 項目 論文読解 (8)
- 第 12 回 項目 論文読解 (9)
- 第 13 回 項目 史料読解 (1)
- 第 14 回 項目 史料読解 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。

教科書・参考書 教科書: 翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997年; 教科書販売場所: 大学生協

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 学生諸君はおそらくドイツ語を学び始めたばかりであろうから、史料ではなく、一般的なドイツの歴史書を読んでいく。テキストは宗教改革前夜のドイツを概観した Heinrich Pleticha(Hrsg.): Deutsche Geschichte. Bd.5. Das aufgehende Mittelalter.1378-1517(Gutersloh, 1987) である。

授業の一般目標 ドイツ語文献読解力の向上を第一の目標としている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) ドイツ語読解力を高める。(2) 14世紀末から16世紀初めまでのドイツの歴史の大筋を理解する。

授業の計画(全体) テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験(独和辞典持込可)を行なう。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点とする。遅刻マイナス2点)。

教科書・参考書 教科書: 上記のとおり。 / 参考書: 適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 前期と同じ。

授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。

成績評価方法(総合) 試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点)。

教科書・参考書 教科書： 前期と同じ(続き) / 参考書： 適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読(フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。

授業の一般目標 辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。これが第1の目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) フランス語の読解能力を高める。(2) ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。

授業の計画(全体) テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験(仏和辞典持込可)を行なう。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席は一回につきマイナス5点。遅刻はマイナス2点)

教科書・参考書 教科書: 上記のとおり。 / 参考書: 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階409、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail;amak@yamaguchi-ac.jp)

開設科目	西洋史学講読(フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 前期と同じ。

授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。

成績評価方法(総合) 期末試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点)。

教科書・参考書 教科書： 前期と同じ(続き) / 参考書： 適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室(TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。

授業の一般目標 学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 毎回1人または2人の学生に発表してもらう。期末試験は実施しないが、最後に各自のそれまでの研究のまとめと今後の展望を記したレポートを提出してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。遅刻マイナス2点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部4階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

授業の概要 前期と同じ。

授業の一般目標 前期と同じ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。  
 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。

授業の計画（全体） 前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。

成績評価方法（総合） 3年生：平常点 90 点。レポート 10 点。 4年生：平常点 100 点。 無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。 遅刻マイナス 2 点。

連絡先・オフィスアワー 人文学部 4 階、尼川研究室（TEL:933-5227;E-mail:amak@yamaguchi-u.ac.jp）



開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

授業の概要 3, 4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告を行う。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する/検索キーワード ゼミ、アメリカ史

授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 早く良い先行研究を見つける方法を会得し、良い「問い」のたてかたを学ぶ (3) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 日本語論文を読む
- 第 3 回 項目 日本語論文を読む
- 第 4 回 項目 日本語論文を読む
- 第 5 回 項目 日本語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 英語論文を読む
- 第 10 回 項目 英語論文を読む
- 第 11 回 項目 英語論文を読む
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

成績評価方法(総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	考古学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。 / 検索キーワード  
考古学

授業の一般目標 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。

授業の計画(全体) 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期には考古学の発達史や研究法を中心に解説する。後期には日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。

成績評価方法(総合) 定期試験 80%。 授業外レポート 20%

教科書・参考書 教科書: 使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書: 講義の中で文献を紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー: 水曜日 5・6 時限

開設科目	考古学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。 / 検索キーワード  
考古学

授業の一般目標 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。

授業の計画（全体） 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期には考古学の発達史や研究法を中心に解説する。後期には日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。 <留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。

成績評価方法（総合） 定期試験 80% 授業外レポート 20%

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。 / 参考書：講義の中で文献を紹介する。

連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日 5・6 時限

開設科目	考古学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 弥生時代の祭祀：弥生時代の人は世界をどのように見ていたのでしょうか。この講義は、弥生時代の祭祀具や宗教遺跡を紹介しながら、弥生時代の人間の観念を理解しようとするものである。まずそのためには、どのような遺跡や遺物に弥生人の超自然観が込められているのか、決定しなくてはならない。しかしこれが実に難しい課題であって、例えば非実用品一つとっても、様々な理解の仕方があるが、弥生時代になると、民俗的な風習から「類推」できる遺物も少なくない。そこで、講義ではむしろそうした民俗事例との関連を紹介しながら、どうしたら考古資料から当時の人間の超自然観に接近できるのかを考えてみよう。 / 検索キーワード 銅鐸・銅剣・銅矛・銅戈・埋納址・農耕儀礼・葬送儀礼・シャーマニズム

授業の一般目標 1. 考古学では特殊な遺物である弥生時代の呪術具にどのようなものがあるのか理解する。 2. 弥生時代に特徴的な祭祀遺跡は、どのようなものであるのか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学の専門用語を修得する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。 思考・判断の観点：具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるというのは、どういうことなのか、根本をまず理解する。 関心・意欲の観点：多様な遺跡・遺物の形態に興味をもつ。 技能・表現の観点：遺跡・遺物の資料提示の仕方を学ぶ。 その他の観点：遺跡の発掘報告書が読みこなせるようになる。

授業の計画（全体）具体的な遺跡や遺物を紹介しながら、その解釈について講義する。特にこの授業では、一般的ではない見解も導入するから、推論の妥当性が主題となる。戦後、著しく研究が進展した武器形木製品の理解に関しては詳細に検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 宗教と呪術 内容 はじめに
- 第 2 回 項目 民俗学・民族学 内容 宗教学への寄与
- 第 3 回 項目 弥生時代の石棒・土偶 内容 縄文時代の信仰の衰退
- 第 4 回 項目 人面土器 内容 再葬墓
- 第 5 回 項目 井戸の祭祀 内容 埋葬法
- 第 6 回 項目 鳥形木製品 内容 シャーマニズム
- 第 7 回 項目 銅剣 内容 副葬品
- 第 8 回 項目 平形銅剣 内容 埋納品
- 第 9 回 項目 銅矛 内容 分布論
- 第 10 回 項目 銅戈 内容 大阪湾型銅戈
- 第 11 回 項目 銅鐸 内容 起源
- 第 12 回 項目 銅鐸 内容 埋納址
- 第 13 回 項目 武器形木製品 内容 分布と形態
- 第 14 回 項目 武器形木製品 内容 古墳時代との関連
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合）授業は専門的な分野であるから、成績は主に受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただき、判定することにする。個々の観点のうち、独創性を含めて得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力の見られないものは評価しない。ただし、受講生が多い場合は、試験によって判定する。

教科書・参考書 参考書：授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	考古学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

授業の概要 授業は、講義と演習を取り混ぜた授業スタイルにより構成する。縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ（考古資料および地域）は、毎年・開講学期毎に異なる。/ 検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期は、第1に遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置く。これをベースとして、特定地域や個別遺跡の具体的状況を受講生とともに課題設定して解明してゆく。受講生は、実際の考古資料を、報告書に掲載されている実測図によって実際に取り扱うことで、経験的に考古資料操作の方法を学ぶ。後期は、前期に整理した基本的な事項を基礎として、山口県や福岡県西部地域、あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの日本列島各地の具体的状況へと視野を拡大する。<留意点> 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。講義と演習を取り混ぜた授業スタイルを採用し、受講生の理解のために必要であれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、授業時間内には受講生に頻繁に意見を求めるので、自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 20%，宿題・授業外レポート 60%，授業中の発表・資料操作の成果 20%。

教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。/ 参考書：石器入門事典 - 先土器 - - - 縄文 - ，加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助，柏書房，1991年；倭人と鉄の考古学，村上恭通，青木書店，1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器，北条芳隆・禰宜田佳男 監修，小学館，2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	考古学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森下 章司				

授業の概要 鏡と古墳時代： 銅鏡の研究は、古墳の編年、政治史復元、信仰や祭祀の研究に大きな役割を果たしてきた。これまでの研究成果について、銅鏡の用語や分類、研究方法について基本的な事柄を紹介するとともに、考古資料を用いた歴史研究の道筋についても考える。 / 検索キーワード 古墳 銅鏡 三角縁神獣鏡 分類研究 型式学的研究方法

授業の一般目標 銅鏡及び古墳時代にかんする考古学的な研究成果について、基本的な知識を身につける。銅鏡を中心とした考古資料に対するアプローチの方法を考えてみる。考古資料を用いた歴史の研究方法について、批判的に吸収・会得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 銅鏡・古墳時代研究について、基本的な成果を説明できる。 思考・判断の観点： 考古学的な研究方法について、その原理や問題点を自分なりに説明・応用できる。 関心・意欲の観点： 身近な古墳・考古資料について、授業で得た知識・方法を用いて検討する力をもつ。 態度の観点： 古墳時代に関する調査結果の報道、著作、論文に関心をもつ。 技能・表現の観点： 理解した内容を文章・絵などで適切に表現できる。

授業の計画(全体) 1 古墳とは(具体例にもとづく紹介) 2 銅鏡とは(用語、特徴) 3 銅鏡の分類 4 銅鏡の研究(文様 銘文 製作技術 編年 製作者 科学分析) 5 小林行雄の研究(伝世鏡論 同範鏡論 同型鏡) 6 三角縁神獣鏡をめぐって 7 銅鏡と古墳研究(古墳編年 実年代比定 政治史研究 対外交渉) 8 銅鏡と考古学研究の問題点(分類 型式学的研究 社会復元の方法) 9 銅鏡研究の新展開 レジюме・資料・ビデオ・その他教材を利用する。

成績評価方法(総合) 授業内容の区切りごとに小レポートを提出(兼出席調査; 40%) 授業終了後にレポート(60%) 質問・意見など積極的な参加態度も評価する。

教科書・参考書 参考書：古鏡(改訂版), 小林行雄, 学生者, 2000年; 三角縁神獣鏡の時代, 岡村秀典, 吉川弘文館, 1999年

備考 集中授業

開設科目	考古学演習(基礎)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

授業の概要 遺跡論：考古学を一言で言うならば、遺跡の研究ということに尽きる。遺跡の实在から考えを出発するためには、まず遺跡そのものを知らなくてはならない。この授業は、考古学がどうして遺跡を知り得たのか、また遺跡の何を知り得たのかを、課題として取り上げる。一応、下の表のような計画を持っているが、受講生の希望によっては一つの遺跡を深く追跡することもありうる。/ 検索キーワード 発掘調査報告書

授業の一般目標 1. 遺跡の発掘によって、何が明らかになったか、理解する。 2. 発掘調査はどのように遂行するのか、自分なりに理解する。 3. 考古学における表現方法の特性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：考古学の専門用語を習得する。考古学の用語は難解であるから、まず独特の言葉を覚える。 思考・判断の観点：具体を抽象化することを学ぶ。同じものであるということは、どういうことなのか、根本をまず理解する。 関心・意欲の観点：多様な遺跡・遺物の形態に興味を持つ。 技能・表現の観点：遺物の提示法を修得する。 その他の観点：発掘報告書が読みこなせる。

授業の計画(全体) 遺跡を知る上では様々な方法がある。まずその方法を知ること。次に遺跡を報告する仕方について学ぶ。報告の仕方によって報告の内容が理解できるばあい、またそうでないばあいがある。報告書の作成方針を理解し、よい報告とは何かを習得する。 受講生は課題となる報告書を読み、その内容を理解し、疑問点を指摘しながら、擬似的な発掘体験をする。ただし、受講生の希望によっては、できるだけ一つの遺跡の発掘調査に焦点をあてながら進行することもある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 考古学の表示方法
- 第 2 回 項目 報告書 内容 遺跡の内容
- 第 3 回 項目 大森貝塚 内容 地図がない欠点
- 第 4 回 項目 岩宿遺跡 内容 発見の感動
- 第 5 回 項目 丹生遺跡 内容 石器の理解
- 第 6 回 項目 福井洞窟遺跡 内容 最古の土器
- 第 7 回 項目 吉胡貝塚 内容 型式と層位
- 第 8 回 項目 登呂遺跡 内容 知識の宝庫
- 第 9 回 項目 唐古遺跡 内容 基準となる報告
- 第 10 回 項目 池田茶臼山古墳 内容 構造の記述
- 第 11 回 項目 桜井茶臼山古墳 内容 墳丘の観察と測量
- 第 12 回 項目 三塚遺跡 内容 豪族の居館
- 第 13 回 項目 ドイツの報告書 内容 地図と分布図
- 第 14 回 項目 フランスの報告書 内容 遺物の分類
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 授業は専門的な分野であるから、成績は主に受講生の独自の分野の研究(ただし考古学に限定)をレポートとして提出していただく。下のような個々の観点のうち、得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力のないものは評価しない。

教科書・参考書 参考書：授業中に言及する。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40



開設科目	考古学演習(基礎)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

**授業の概要** 授業は、講義と演習を取り混ぜた授業スタイルにより構成する。縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記の総合的テーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別のテーマ(考古資料および地域)は、毎年・開講学期毎に異なる。/検索キーワード 考古学,石器,鉄器,弥生時代,生産と流通

**授業の一般目標** 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法,すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点: A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。 思考・判断の観点: A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。 B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法,すなわち考古学の方法論を,自分の選んだ考古学的題材に適用できる。 関心・意欲の観点: A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

**授業の計画(全体)** 【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ,石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で,集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し,製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期は,第1に遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置く。これをベースとして,特定地域や個別遺跡の具体的状況を受講生とともに課題設定して解明してゆく。受講生は,実際の考古資料を,報告書に掲載されている実測図によって実際に取り扱うことで,経験的に考古資料操作の方法を学ぶ。後期は,前期に整理した基本的な事項を基礎として,山口県や福岡県西部地域,あるいは九州全域から瀬戸内・山陰地域などの日本列島各地の具体的状況へと視野を拡大する。<留意点> 開講期の設定は半期だが,講義の編成は実質的に通年であるため,通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので,後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。講義と演習を取り混ぜた授業スタイルを採用し,受講生の理解のために必要であれば,遺物実測図の並べ替えといった,作業を伴うような時間を設定する。また,授業時間内には受講生に頻繁に意見を求めるので,自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので,受講生は考古学概説の単位を取得するか,同等の知識を習得しておくこと。

**成績評価方法(総合)** 小テスト・授業内レポート 20%,宿題・授業外レポート 60%,授業中の発表・資料操作の成果 20%。

**教科書・参考書** 教科書: 使用しない。講義プリントを配布する。/参考書: 石器入門事典 - 先土器 - - - 縄文 -, 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助, 柏書房, 1991年; 倭人と鉄の考古学, 村上恭通, 青木書店, 1998年; 考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器, 北条芳隆・禰宜田佳男 監修, 小学館, 2002年; ここにあげたものは,特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

**メッセージ** 石器や鉄器などの,個別の遺物について詳細に解説する場合や,あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には,講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ,あるいは意図のわかりにくいところなどは,講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

連絡先・オフィスアワー E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp , オフィスアワー : 水曜日 7・8 時限

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

授業の概要 この授業では、野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量器械の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法の実技を修得する。ただし雨天のばあいは室内作業を実習する。 / 検索キーワード 発掘調査法

授業の一般目標 1. 発掘調査に必要な測量ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 測量の原理を理解する。 思考・判断の観点： 状況に応じた測量法を修得する。 関心・意欲の観点： 実技・作業の身のこなし方に興味をもつ。 態度の観点： \*危険回避行動を身につける。 \*チームワークを修得する。 技能・表現の観点： 線画の表現法を学ぶ。

授業の計画(全体) 考古学のうち、測量分野は座学、独学ができない実践分野で、特に発掘担当者を志望する者はこの実習で教える骨格測量の原理を理解していなければならない。要するに、だれも教えてくれないが、専門職に就けば、知って得する内容を初心者に教えます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 測距 内容 スチール・テープの扱い方
- 第 2 回 項目 測距 内容 レベルによる標高計測
- 第 3 回 項目 測角 内容 トランシユットの扱い方
- 第 4 回 項目 測角 内容 三脚の据え方
- 第 5 回 項目 測角 内容 副尺の読み方
- 第 6 回 項目 測角 内容 上下のネジの操作法
- 第 7 回 項目 測角 内容 内外角による多角測量
- 第 8 回 項目 測角 内容 方位角による多角測量
- 第 9 回 項目 計算法 内容 図根点の作図
- 第 10 回 項目 地形測量 内容 平板の据え方
- 第 11 回 項目 地形測量 内容 等高線の求め方
- 第 12 回 項目 作図 内容 図面の整合法
- 第 13 回 項目 測角 内容 三角法
- 第 14 回 項目 細部測量 内容 やり方の設置
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技が出来るか出来ないかであって、器用・不器用、上手・下手は、個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員出来るようになってほしいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。

教科書・参考書 教科書： 測量学の図書はあるが、測量実技は図書からは学べないので、基本動作を体で覚えること。 / 参考書： 特になし。

メッセージ 考古学専攻の3年生に限る。また、授業前に全員そろって機材を用意しておくこと。さらに授業中には、交通事故などに注意すること。

連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー月曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

**授業の概要** 考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ（遺構・遺物）である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。 / 検索キーワード 考古学, 石器, 土器, 発掘調査, 資料調査, 実習, 実測

**授業の一般目標** 1. 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 2. 実物の資料化（実物から二次資料への変換）のための技術の初歩を習得する。 3. 二次資料（実測図・写真・拓本）に込められた情報を判読する技術を習得する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。 **思考・判断の観点：** A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。 **技能・表現の観点：** A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。

**授業の計画（全体）【考古遺物の資料化】** 1. ガイダンス \_\_\_\_ A. 道具の解説 2. 遺物洗浄 3. 接合・復元 4. 遺物実測 \_\_\_\_ A. 石器 \_\_\_\_ B. 土器 \_\_\_\_ C. 瓦 5. 拓本 6. 写真 7. 報告書作成 \_\_\_\_ A. DTP全般 8. 考古情報処理 \_\_\_\_ A. 考古学におけるパソコン利用 /// \*上記は、カリキュラムの概要であるが、資料・天候などの都合のため、上記の順で授業が進行するわけではない。

**成績評価方法（総合）** 宿題・授業外レポート 50%，受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 50%。基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。欠席4回で良。5回で可。7回で不可。また決められた課題を提出しないと評価が著しく低下する。

**教科書・参考書** 参考書：授業の中で紹介する。

**メッセージ** 考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。

**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

人文社会学科 社会学コース

開設科目	社会学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、現代社会学の礎を築いたともいえる M. ウェーバーや E. デュルケムの学説や、産業化・近代化、脱工業化と消費社会化、グローバル化と階層構造の変容（階層格差の拡大）といった現代産業社会の構造と変動について、詳しい資料を配付しながら説明する。／検索キーワード 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会、グローバル化

授業の一般目標 (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。(3) 現代社会が抱える諸問題に関心を向ける。

授業の計画(全体) 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。ほぼ隔週で、授業中に(10分程度で)ごく簡単なレポートを書いてもらう予定である(そのために特に準備をしておく必要はありませんので、安心してください)。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展(2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展(3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層(2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 グローバル化のなかの現代社会
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 社会学講義, 富永健一, 中央公論新社, 1995年 / 参考書: 社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997年; 現代社会学講義, 佐藤慶幸, 有斐閣, 1999年; 社会学(第4版), A. ギデンズ, 而立書房, 2004年; はじめて学ぶ社会学, 土井文博ほか, ミネルヴァ書房, 2007年; できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

メッセージ 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。特に1年生の人にとっては、少し難しい内容が含まれているかもしれませんが、これから謎を少しずつ解き明かしていくつもりで、どうかひるまずに受講してください。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学とは何か、社会学の方法としての社会調査とは何かを、現代社会の社会問題を考えながら学んでいく。

授業の一般目標 社会学とはどのような学問であるか、社会学の基礎知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会学、社会調査の知識を身につける 思考・判断の観点：社会的ものの味方ができる 関心・意欲の観点：社会問題に関心を持つ 態度の観点：社会に対して関心を持つ

授業の計画（全体）社会学と社会学の方法としての社会調査の概要を、身近な社会である、家族や地域社会から全体社会を考えながら学んでいく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る 家族の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 6 回 項目 現代家族の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 7 回 項目 統計調査にみる地域社会の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 8 回 項目 都市社会のモノグラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 9 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナースァイティ） 内容 参与観察の実際
- 第 10 回 項目 現代都市の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 11 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 12 回 項目 社会移動と生活構造 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 生活意識と生活問題 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査

成績評価方法（総合）授業の進捗段階ごとに行う小レポートと、出席、試験を総合的にみて評価する。

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 地域社会を、多様な主体から構成されるネットワーク型社会としてとらえ、具体的には、企業と地域社会の共存共栄の可能性について考察する。 / 検索キーワード 企業の社会的責任 (CSR)、企業の社会貢献活動、ステークホルダー、NPO、アートNPO、地域社会、まちづくり

授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動と、それに呼応し、連携した市民の活動の実態分析から、現代社会の仕組みと問題点を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業組織の社会貢献活動についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：地域社会に立地する企業と市民活動に目を向ける 態度の観点：身近な地域社会の実態を知る

授業の計画 (全体) 企業の社会的活動と地域社会における市民活動を、具体的な事例をみながら理解し、地域社会と企業の望ましい共存のあり方を探る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近代産業社会と社会学の成立
- 第 2 回 項目 近代化と企業活動
- 第 3 回 項目 企業組織と企業家の経営理念
- 第 4 回 項目 企業の社会貢献活動
- 第 5 回 項目 企業メセナ活動の現況
- 第 6 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 7 回 項目 企業組織とNPOの連携
- 第 8 回 項目 ステークホルダーとしての地域社会
- 第 9 回 項目 山口県における企業活動の現況
- 第 10 回 項目 山口県における企業の社会貢献活動 (1)
- 第 11 回 項目 山口県における企業の社会貢献活動 (2)
- 第 12 回 項目 防府市における企業の社会貢献活動
- 第 13 回 項目 防府市民の企業評価
- 第 14 回 項目 企業組織と地域社会 (1)
- 第 15 回 項目 企業組織と地域社会 (2)

成績評価方法 (総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ、三浦典子、ミネルヴァ書房、2004年；その他適宜紹介する

メッセージ できれば前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 現代社会における、企業の社会貢献活動と地域活性化・まちづくりを事例として取り上げ、企業組織とコミュニティの共存可能性について考察する / 検索キーワード 企業の社会貢活動、企業メセナ、企業市民性、まちづくり、NPO, アートNPO, 地域活性化、ネットワーク型社会

授業の一般目標 まちづくりに対する企業の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地域社会における企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：企業活動の光と陰について考える 関心・意欲の観点：企業の社会貢献活動やまちづくりについて関心を持つ 態度の観点：身近なまちづくりに目を向け、地域社会への参加意欲を高める

授業の計画(全体) 地域社会の活性化に対する企業の関わりを、企業の社会社会的責任や社会貢献活動に視点を置いて明らかにし、企業組織と地域社会との共存の可能性を探る

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業の社会的責任と社会貢献活動
- 第 2 回 項目 企業とステークホルダー
- 第 3 回 項目 企業家の社会貢献(1)
- 第 4 回 項目 企業家の社会貢献(2)
- 第 5 回 項目 企業メセナ活動
- 第 6 回 項目 地域メセナの活動と展開
- 第 7 回 項目 企業メセナとまちづくり(1)
- 第 8 回 項目 企業メセナとまちづくり(2)
- 第 9 回 項目 企業メセナとまちづくり(3)
- 第 10 回 項目 文化によるまちづくり
- 第 11 回 項目 地域活性化への企業の貢献(1)
- 第 12 回 項目 地域活性化への企業の貢献(2)
- 第 13 回 項目 市民活動とグラウンドワーク
- 第 14 回 項目 ネットワーク型社会を考える(1)
- 第 15 回 項目 ネットワーク型社会を考え(2)

成績評価方法(総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004年; その他適宜紹介する

メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	コミュニティ論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 「都市と貧困」をテーマに、近現代都市における貧困、階層格差の問題と、都市下層の生活実態や共同性の位相、さらには都市下層社会の変容について、社会学的な調査記録や調査データに依拠しながら、概観していく。 / 検索キーワード 都市下層、スラム、シカゴ学派、社会調査、社会事業、寄せ場、ホームレス

授業の一般目標 (1) 近現代の欧米や日本における都市化を、都市下層社会の変容という視点から見つめ直すことによって、都市化過程の重層的な理解を促す。(2) 現代社会における階層格差のありようを、社会学的なデータに基づいて理解し、都市問題、社会問題に対する関心を深める。

授業の計画(全体) 都市と貧困との関係、および都市下層社会の諸相、都市下層調査の変遷などを概観する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 都市と貧困
- 第 3 回 項目 イギリス産業都市における貧困
- 第 4 回 項目 同上(続き)
- 第 5 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフに見る都市下層社会
- 第 6 回 項目 同上(続き)
- 第 7 回 項目 近代日本の都市下層(1) 内容 貧民窟調査の記録
- 第 8 回 項目 同上(2) 内容 「細民調査」と「月島調査」
- 第 9 回 項目 同上(3) 内容 草間八十雄と都市下層調査
- 第 10 回 項目 同上(4) 内容 社会事業の展開
- 第 11 回 項目 現代日本の都市下層(1) 内容 「バタヤ社会」の形成と消滅
- 第 12 回 項目 同上(2) 内容 都市化と新興宗教
- 第 13 回 項目 同上(3) 内容 寄せ場とホームレス
- 第 14 回 項目 同上(4) 内容 ホームレス、ワーキングプアと現代の貧困
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 定期試験(論述式) 50% 出席 40% 小レポート・授業参加度 10%

教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。 / 参考書: シカゴ社会学の研究, 宝月誠ほか, 恒星社厚生閣, 1997年; 日本の下層社会, 横山源之助, 岩波書店(文庫), 1985年; 月島調査(復刻版), 内務省衛生局, 光生館, 1970年; ホームレス自立支援システムの研究, 麦倉哲, 第一書林, 2006年; 現代の貧困, 岩田正美, 筑摩書房(新書), 2007年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学の理論や研究方法を学び、現代社会が抱える諸問題について、テキストに基づき、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 / 検索キーワード 近代化、都市化、官僚制化、グローバル化、都市コミュニティ、企業組織、現代家族

授業の一般目標 現代社会の構造と変動を、都市社会に視点を置いて理解する。そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会の研究に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会の現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画（全体） テキストや参考文献を分担して、レポートし、その研究課題について議論していく

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究テーマ中間 報告
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 社会学研究の方法と現代社会の問題を考える する

成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書： 適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 / 検索キーワード 近代化、都市化、社会変動、現代社会 社会問題

授業の一般目標 現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代社会に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会と社会問題に関する現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

授業の計画(全体) 参考文献についてレポートし、研究課題について議論していく

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究課題中間報告会
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 現代社会と社会 変動を総括 する

成績評価方法(総合) 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：適宜紹介する

メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 グローバル化の中で生じている地域社会の変容と諸問題を取りあげ、その現状を分析する。地域社会学の研究成果をとりまとめた文献を読みながら、受講生による報告、討論によって授業を進めていく。並行して、4年生には各自の卒論テーマに基づく報告をしてもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。/ 検索キーワード グローバル化、ネットワーク社会、世界都市、移動、地域社会、地場産業、災害、ローカルガバナンス、卒業論文

授業の一般目標 (1) グローバル化というマクロ社会変動の特質について理解を深める。(2) グローバル化のもとで生じている欧米やアジア、日本の地域社会の変動、および地域の諸問題について、地域社会学の視点から理解する。(3) 卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する(4年生)

授業の計画(全体) 以下のテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。4年生には、各自の卒論のテーマに基づく研究成果を披露してもらう。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方について
- 第 2 回 項目 ポストモダンとしての地域社会
- 第 3 回 項目 世界システムと世界都市の論理
- 第 4 回 項目 ネットワーク社会とメディア公共圏
- 第 5 回 項目 世界の移動と定住の諸過程
- 第 6 回 項目 トランスナショナルリズムの展開をもたらす地域社会
- 第 7 回 項目 移動と生活・潜在能力の発達
- 第 8 回 項目 グローバリゼーションとイタリア地域社会の非営利協同事業組織の展開
- 第 9 回 項目 グローバリゼーションと日本の地場産業
- 第 10 回 項目 地域形成主体としての女性
- 第 11 回 項目 地域形成主体としての「弱者」
- 第 12 回 項目 「災害(多発)社会」と人間生活の再生
- 第 13 回 項目 地域生活、ローカルガバナンス、公共性
- 第 14 回 項目 いくつものもうひとつの地域社会へ
- 第 15 回 項目 課題レポート

成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業参加度 40% 課題レポート(必須) 20%

教科書・参考書 教科書: グローバリゼーション/ポスト・モダンと地域社会(地域社会学講座2), 古城利明、新原道信、広田康生, 東信堂, 2006年 / 参考書: 地域社会学の視座と方法(地域社会学講座1), 似田貝香門ほか, 東信堂, 2006年; 地域社会の政策とガバナンス(地域社会学講座3), 岩崎信彦、矢澤澄子ほか, 東信堂, 2006年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する

メッセージ 初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

**授業の概要** 21 世紀の日本は、大地震をはじめとする自然災害が多発する時代に入ったと言われている。この演習では、災害社会学の入門書（テキスト）を読みながら、災害に強い地域社会とはどのような社会であり、そのような社会を形成するためには何が必要なのかという点について考察を加える。内外の災害事例から、特に災害後の地域社会の復旧・復興過程および地域再生のプロセスに焦点を合わせ、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業を進めていく。また、3 年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告もしてもらう。／検索キーワード 災害、被災コミュニティ、復旧・復興、震災復興、火山噴火、戦災復興、水害からの復興、大火からの復興、都市計画、生活再建

**授業の一般目標**（1）災害社会学の基本的な視点、概念、考え方を理解する。（2）災害後における地域社会の復旧・復興過程の特質と問題点・課題について、具体的な災害事例を参照しながら、理解を深める。（3）各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。

**授業の計画（全体）** 以下のいずれかのテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。併せて、3 年生には、来年度における卒業論文の作成を視野に入れて、各自の研究テーマに基づく報告をしてもらう予定である。

**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 被災地コミュニティにおける復興とは
- 第 3 回 項目 復旧・復興の諸類型
- 第 4 回 項目 近現代における被災地復興
- 第 5 回 項目 生活再建をめぐる現代史的展開と課題
- 第 6 回 項目 震災復興（関東大震災と復興計画）
- 第 7 回 項目 震災復興（都市の復興と新たなコミュニティの形成）
- 第 8 回 項目 震災復興（阪神・淡路大震災と都市インナーエリアの震災復興）
- 第 9 回 項目 火山噴火災害と復旧・復興
- 第 10 回 項目 戦災復興
- 第 11 回 項目 水害からの復興
- 第 12 回 項目 大火からの復興
- 第 13 回 項目 各自の研究テーマにかかわる報告
- 第 14 回 項目 各自の研究テーマにかかわる報告
- 第 15 回 項目 課題レポート

**成績評価方法（総合）** 出席 40 % 報告・授業への参加度 40 % 課題レポート（必須） 20 %

**教科書・参考書** 教科書：復興コミュニティ論入門，浦野正樹・大矢根淳ほか，弘文堂，2007 年；災害社会学入門，大矢根淳、浦野正樹ほか，弘文堂，2007 年 / 参考書：災害危機管理論入門，吉井博明、田中淳ほか，弘文堂，2008 年；参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

**メッセージ** 初回の授業で、テキストの入手方法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

**連絡先・オフィスアワー メール・アドレス** n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

授業の概要 社会学的社会調査の計画と実査をふまえ、各自で調査調査結果の分析ができるようにする。そのために調査方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。 / 検索キーワード 社会調査、統計的調査、事例調査、調査票作成、フィールド調査

授業の一般目標 問題意識を明確にし、社会調査の計画をし、調査票の作成、聞き取り調査、調査結果の分析をし、レポートを作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：社会調査の概要について理解する 思考・判断の観点：仮説の検証の方法の有効性を考える 関心・意欲の観点：社会現象を切り取る方法に関心を持つ 技能・表現の観点：社会調査の実践の技術を身につける

授業の計画（全体） 仮説を設定し、それにふさわしい社会調査の方法を決定し、調査の対象を設定し、社会調査を実践する。調査結果の利用を考えながら、調査結果の集計、整理を行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会調査の設計 1 内容 問題の決定と調査方法の検討
- 第 2 回 項目 社会調査の対象 内容 具体的な調査対象の決定
- 第 3 回 項目 社会調査の方法 の 1 内容 先行研究を検討
- 第 4 回 項目 社会調査の方法 2 内容 先行研究の検討 から仮説を設定し調査方法を確定する
- 第 5 回 項目 社会調査の計画 1 内容 調査方法の検討
- 第 6 回 項目 社会調査の計画 2 内容 調査項目の検討
- 第 7 回 項目 社会調査の計画 3 内容 調査項目の作成
- 第 8 回 項目 社会調査の計画 4 内容 調査対象の決定
- 第 9 回 項目 社会調査の実施 1 内容 フィールド調査 の計画
- 第 10 回 項目 社会調査の実施 2 内容 フィールド調査 の実施
- 第 11 回 項目 社会調査の実施 3 内容 フィールド調査 の実施
- 第 12 回 項目 社会調査の実施 4 内容 フィールド調査 の総括
- 第 13 回 項目 調査結果の集約 1 内容 データ処理の方法を学ぶ
- 第 14 回 項目 調査結果の集約 2 内容 データ処理
- 第 15 回 項目 調査結果の集約 3 内容 調査結果のまとめ

成績評価方法（総合） 出席と、社会調査実習への参加、調査結果を取りまとめたレポートを総合的に評価する

教科書・参考書 参考書：社会調査へのアプローチ：論理と方法 (Minerva text library ; 10), 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999 年; 大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 1999 年

メッセージ 出席と実習への参加を義務とする

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。取り上げるテーマは、「環境問題と住民活動」、「災害と地域社会」、「市民活動と地域社会」、「まちづくりとコミュニティ再生」のいずれかを予定している。調査手法としては、主に聞き取り調査を採用する予定である（テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もありうる）。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、聞き取り調査、調査項目、調査票

授業の一般目標 社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。

授業の計画（全体） 社会調査の一連の過程を実践する。受講生各自で分担して調査データを分析し、調査報告書の形にまとめる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 調査テーマの設定と確認 / 調査スケジュールの検討
- 第 3 回 項目 調査テーマに関する資料収集、事前学習
- 第 4 回 項目 調査テーマに関する資料収集、調査方法の検討、調査倫理について
- 第 5 回 項目 調査項目の検討と抽出
- 第 6 回 項目 調査票の作成
- 第 7 回 項目 調査票の設計と再検討
- 第 8 回 項目 調査スケジュールの検討及びラポール、調査マナーの確認
- 第 9 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 10 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 11 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 12 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 13 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 14 回 項目 調査データの分析 / 報告書目次（案）と執筆分担の決定
- 第 15 回 項目 調査データの分析 / 報告書の執筆

成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査のプロセス・作業への参加） 50 % 授業内での発表 20 % 調査レポート 30 %

教科書・参考書 教科書：テキストは特に使用しない。 / 参考書：社会学小辞典，浜嶋朗ほか，有斐閣，1997年；社会調査へのアプローチ（第2版），大谷信介ほか，ミネルヴァ書房，2005年；「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス，好井裕明，光文社，2006年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

メッセージ 調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室



開設科目	社会心理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。 / 検索キーワード 社会心理学 コミュニケーション ケータイ

授業の一般目標 1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学入門
- 第 2 回 項目 社会心理学の誕生
- 第 3 回 項目 社会心理学の課題
- 第 4 回 項目 ケータイから学ぶということ
- 第 5 回 項目 メディア変容へのアプローチ
- 第 6 回 項目 都市空間とケータイ
- 第 7 回 項目 ケータイ・コミュニケーションの特性
- 第 8 回 項目 中間考察
- 第 9 回 項目 ケータイに映る「わたし」
- 第 10 回 項目 ケータイ利用から見えるジェンダー
- 第 11 回 項目 ケータイの流行学
- 第 12 回 項目 ケータイとうわさ
- 第 13 回 項目 モバイル社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 青少年とケータイ
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	社会心理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。 / 検索キーワード 調査設計、仮説構成、質問文、標本調査、調査技法

授業の一般目標 (1) 社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。(2) 社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識・技法を修得する

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学と調査(1) 内容 社会心理学と社会調査、社会調査はなぜ必要か
- 第 2 回 項目 現代社会と社会調査 内容 現代社会における調査の位置、政策形成と調査
- 第 3 回 項目 社会調査が抱える諸問題 内容 社会調査の現状、情報開示、プライバシー保護
- 第 4 回 項目 調査のための資料の探索 内容 情報の探し方、研究するための情報の入手、情報ソース(図書館、大学、マスコミ、政府など) 統計の所在源、主要な官庁統計
- 第 5 回 項目 社会調査の基本(1) 内容 何のための社会調査か、記述と説明、概念構成と概念操作、概念の働き、操作概念
- 第 6 回 項目 社会調査の基本(2) 内容 変数とは、概念の変数化、従属変数、独立変数、媒介変数、問題意識と仮説
- 第 7 回 項目 尺度化とその種類 内容 測定の方法、尺度の種類、内的尺度と外的尺度、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度
- 第 8 回 項目 調査票の作り方(1) 内容 調査の種類、質問紙調査票、質問文の作成、質問文の種類、ワーディングの問題、作成の注意事項
- 第 9 回 項目 調査票の作り方(2) 内容 選択肢の作り方、自由回答、質問文の流れ、制限回答法の長所と短所
- 第 10 回 項目 調査票を作成する 内容 簡単な調査票の作成、ワークショップ形式で作成する。
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 内容 作成した調査票の発表と講評
- 第 12 回 項目 サンプリングの仕方(1) 内容 サンプリングの歴史、全数調査と標本調査、調査対象の定義、サンプリングの種類、単純無作為抽出法
- 第 13 回 項目 サンプリングの仕方(2) 内容 新しいサンプリング法、標本数の決め方、サンプリングの台帳の利用方法
- 第 14 回 項目 調査票調査とデータ化 内容 調査の流れ、調査法の種類とその長短、データ化の前に必要な作業
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 補足と全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ：論理と方法, 大谷信介 [ほか] 編著, ミネルヴァ書房, 1999年; 社会調査へのアプローチ：論理と方法, 大谷信介 [ほか], ミネルヴァ書房, 2005年; 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編『社会調査へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)1999年

メッセージ 社会心理学的な調査法の知識を学ぶことばかりでなく、主体的に自分で考える姿勢を身につけてください。

連絡先・オフィスアワー 人文学部辻研究室(309室)

開設科目	コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 現在、青少年における「規範意識の低下」が声高に叫ばれている。しかし、この指摘は、はたして本当だろうか？この授業では、規範をめぐるコミュニケーションや道德意識の形成プロセスに焦点を当てながら、社会と個人のダイナミックな関係について考察を深めていく。/ 検索キーワード コミュニケーション、メディア、道德意識

授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーション・モデル(モノ・メタファー)の限界を認識する。 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する。 3. 道德意識の生成と変容に関して、新しいコミュニケーション論の視点から再構築を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 コミュニケーションと規範 内容 講義概略
- 第 4 回 項目 道德意識研究の貧困 内容 調査研究におけるトリック
- 第 5 回 項目 道德的社会化論1 内容 フロイトとデュルケム
- 第 6 回 項目 道德的社会化論2 内容 ミードとピアジェ
- 第 7 回 項目 道德的社会化論3 内容 エリクソンとコールバーグ
- 第 8 回 項目 コールバーグ=ギリガン論争1
- 第 9 回 項目 コールバーグ=ギリガン論争2
- 第 10 回 項目 類縁化アプローチ1
- 第 11 回 項目 類縁化アプローチ2
- 第 12 回 項目 道德意識の3位相1
- 第 13 回 項目 道德意識の3位相2
- 第 14 回 項目 まとめ1
- 第 15 回 項目 まとめ2

成績評価方法(総合) 授業外レポート40点と学期末試験60点の総合点によって評価する。

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 私たち人間は、時間のなかで毎日の正確をおくっている。この指針には時計の時間が大きな働きをしている。しかし、時計の時間は、天文的な時間に基づいているわけであるが、それとは別に一年の中で決められた祝祭日、休日、日々の労働時間などさまざまな社会的な時間が存在し、この社会的時間のなかでわれわれ人間は生活している。この講義では、社会学において社会的時間の構成や作用などを研究してきた文献を通して時間の社会学の歴史を学び、さらに現在の社会において社会的時間をどのように利用していけばよいかを考えてみたい。/ 検索キーワード 社会的時間、リズム、スピード、生活時間、時間的規則性

授業の一般目標 1) 社会的時間の種類とその成り立ち、働きを理解する。2) デュルケームやマートンなど時間を社会学的研究してきた学者たちの時間社会学の理論と研究成果を学ぶ。3) 現在において社会的時間をどのように利用していけばよいかの考え方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な社会的時間の知識や時間の社会学の知識を学び、理解することができる。思考・判断の観点：社会的に存在する社会的時間現象などを自分自身で考え、それがもつ構造面と機能面を考え、どのような意義があるか判断できる。関心・意欲の観点：社会現象の中での社会的な出来事への関心をもつことができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代社会と社会的時間 内容 現代社会の変化を時間という視点で捉え、時間学的課題を考える。
- 第 3 回 項目 デュルケームの時間の社会学(1) 内容 『宗教生活の原初形態』における社会的時間
- 第 4 回 項目 デュルケームの時間の社会学(2) 内容 デュルケームの社会学の中で時間の視点の位置を考える
- 第 5 回 項目 ソローキンの時間の社会学(1) 内容 ソローキンにとって時間とは何であったか。彼の社会学の中で考える。
- 第 6 回 項目 ソローキンの時間の社会学(2) 内容 移動論と社会的時間論
- 第 7 回 項目 アルヴァックスの時間の社会学 内容 集合的記憶とは何か
- 第 8 回 項目 ギュルヴィッチの時間の社会学 内容 多面的な社会的時間の存在
- 第 9 回 項目 マートンの時間の社会学 内容 社会的に期待される持続性とは何か、マートンにとって時間とは何か。
- 第 10 回 項目 ムーアの時間の社会学 内容 社会生活の時間と時間整序
- 第 11 回 項目 ゼルバベルの時間の社会学 内容 時間的規則性、かくれたリズム
- 第 12 回 項目 エリアスの時間の社会学 内容 時間決定と時間体験
- 第 13 回 項目 蔵内数太の時間の社会学 内容 前集団、現集団、後集団
- 第 14 回 項目 時間の社会学の課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

教科書・参考書 参考書：自殺論(中公文庫)、デュルケーム著；宮島喬訳、中央公論社、1985年；社会学論と社会構造、ロバート.K. マートン [著]；森東吾 [ほか] 訳、みすず書房、1961年；宗教生活の原初形態、デュルケーム、岩波書店、1975年

メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

連絡先・オフィスアワー 辻研究室(309室)

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

**授業の概要** 現代の社会は、グローバル化や情報化等の進行により、産業社会構造そのものが大きく変化して、人間の時間意識の変化を余儀なくされている。現代社会は、社会的時間レベルで見ると、車やパソコンのモデルチェンジにみられるように、生産と消費のスピードがますます加速化しており、人間はそれに適応しなければならないが、実際にはそのなかでますますストレスを背負い、その結果いろいろな病理現象を生みつつある。その一方現代社会は、成熟社会や高齢社会になるにつれ、青年期や高齢期の時間帯が長期化して、青年の中には大人になることを「延長化」し、高齢者は平均寿命の伸びによって高齢期の「延長化」を迎えて、いままで経験しなかったを抱えている。この講義では、現代社会が抱える問題を「時間社会学」のレベルから迫り、今後、時間の視点から現代社会が直面する問題、人間の時間意識の問題について今後どのような方向づけが必要かを考えてみたい。／検索キーワード 時間意識、社会的時間、社会的速度、タイミング、持続性、時間政策

**授業の一般目標** (1) 現代社会の変化を時間学のレベルから研究する視点を学ぶ。(2) 青年期と高齢期の対照的な時間帯に共通する時間の長期化を通して現代人が直面する問題が何なのかを学ぶ。(3) 時間して視点からの時間政策の方策について考える姿勢を学ぶ。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：現代社会の時間学的見方に関する知識を学び、時間学のアプローチについて理解することができる。思考・判断の観点：自ら進んで社会的時間や現代社会における時間的思考や判断が出来ること。関心・意欲の観点：生活の中で社会的時間に関心を持ち、その現象的理解とともに問題点を意欲的に取り組むことができる。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 講義の狙い 内容 今期の授業の狙いを概説する
- 第 2 回 項目 現代社会の時間論的課題 か 内容 情報化、高齢化、グローバル化、社会的時間の変化と課題
- 第 3 回 項目 時間意識の近代化 内容 機械時計の登場と「時は金なり」
- 第 4 回 項目 現代社会と時間意識 内容 パーチャルの時間感覚
- 第 5 回 項目 若者の時間感覚 内容 モラトリアムの長期化：フリーター、ニート問題と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の時間感覚 内容 生涯現役と長寿化の課題
- 第 7 回 項目 東アジアの時間と時間感覚 内容 直線的時間と円環的時間、文化的時間の問題
- 第 8 回 項目 生活時間の変化 内容 生活時間調査の分析
- 第 9 回 項目 労働時間の変化 内容 ワークライフバランスを求めて
- 第 10 回 項目 社会的時間とタイミング 内容 時機とは何か
- 第 11 回 項目 社会的速度と時間意識 内容 スピードとストレス
- 第 12 回 項目 社会的持続性と時間 内容 人間にとって持続性とは何か
- 第 13 回 項目 時間とコミュニティ 内容 時間によるコミュニティの安定
- 第 14 回 項目 時間政策の課題 内容 新たな政策課題としての時間政策
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

**教科書・参考書** 参考書：辻 正二『高齢者ラベリングの社会学』恒星社厚生閣 2000年 総務庁編『高齢社会白書』平成18年版

**メッセージ** 授業は、資料を使って進行しますが、参考書は最低2冊以上は読むようにしてください。

**連絡先・オフィスアワー** 辻研究室（309室）

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐々木 武夫				

授業の概要 企業経営の環境や、生産技術・熟練などの変化に対応して、経営組織や職業意識がどのように変化していったのかを考えてみる。現在、雇用の安定と人材育成とを特徴とする日本的経営が、雇用の流動化と評価・選択を特徴とする成果主義管理へと移行しつつある。この変化を歴史的に検討してみたい。また、若い世代が選択と評価にもとづくこの変化をどのように考えているのかについても言及してみたい。歴史的あるいは比較社会論の視点から日本的経営論の変化とその背景を考えてみたい。

授業の一般目標 1．職業意識や職業文化の比較により日本社会の特徴を考える。 2．現代の産業構造変化や職業構造の変化を整理する。 3．日本的経営から成果主義管理への変化を考える。

授業の計画(全体) 全体として4つの部分から構成される。一つは日本の工業化と社会変動の特徴。アジアとの比較でも考えてみる。アベグレンの研究を整理してみる。二つは、工業化と経営秩序についての間宏、津田真澂の研究から日本的経営論の特徴を考える。三つめは、能力主義管理の特徴を検討したい。高度経済成長期から石油危機・安定成長期までの変化。トヨタ生産システムの成立。四つめは、グローバル化と平成不況期に提唱された成果主義の現在までの動向とその特徴を検討してみたい

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の目的
- 第 2 回 項目 工業化と社会変動の特徴(1) 内容 近代化論
- 第 3 回 項目 工業化と社会変動の特徴(2) 内容 アベグレン
- 第 4 回 項目 工業化と社会変動の特徴(3) 内容 職業集団 商家同族・松島静雄の研究
- 第 5 回 項目 日本の経営論の特徴(1) 内容 間宏の研究
- 第 6 回 項目 日本の経営論の特徴(2) 内容 津田真澂の研究
- 第 7 回 項目 日本の経営論の特徴(3) 内容 岩田龍子の研究
- 第 8 回 項目 中間のまとめ 内容 日本の経営, < BR > 安定と競争、企業内人生
- 第 9 回 項目 能力主義管理の特徴(1) 内容 経済成長から石油危機へ
- 第 10 回 項目 能力主義管理の特徴(2) 内容 間と津田の研究
- 第 11 回 項目 能力主義管理の特徴(3) 内容 熊沢誠の研究
- 第 12 回 項目 成果主義管理(1) 内容 三つのルーツ
- 第 13 回 項目 能力主義管理(2) 内容 仕事評価、選択性と公正性
- 第 14 回 項目 能力主義管理(3) 内容 問題点と課題
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体のまとめ

教科書・参考書 教科書：最初の時間に資料配付/参考書：最初の時間に指摘

備考 集中授業

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。 / 検索キーワード マートン、アノミー、ラベリング、構築主義

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

教科書・参考書 教科書：アウトサイダーズ, ベッカー, 新泉社, 1993年; 社会理論と社会構造, マートン,

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。3年生は自分の問題意識の研究領域を発見し、それを深めていくことが課題になります。4年生は卒論の最後の仕上げの研究発表となります。3年生は4年生の卒論研究の問題関心や完成に向けてのプロセスを知ることができますし、4年生は3年生の研究への関与をすることによって自分の研究への広がりをもつことができます。

授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。



開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 1990年代は、バブル経済崩壊後の構造的な長期不況の時期に当たり、しばしば「失われた10年」と呼ばれている。また、この時期には、＜青少年＞や＜若者＞に対するネガティブな言説が流布し、社会問題として取り上げられるようになった。＜ニート＞、＜ゆとり＞、＜就職氷河期＞、＜出会い系＞、＜いきなり型非行＞、＜心の闇＞など、数え上げればきりがない。しかし、その当時の青少年の実態はどうだったのだろうか？ 仙台高校生調査をもとに、マスコミ言説と実際の社会問題とのギャップを浮き彫りにしていく。こうしたテキストの精読と実際の調査データの分析を通じて、卒論執筆に必要な能力の習得を目指す。／検索キーワード 失われた時代、社会構築主義、計量的分析

授業の一般目標 1. 経験的研究をめぐる方法論的問題について把握する。 2. 教育問題をめぐる言説に対する社会構築主義の観点を学ぶ 3. 教育をめぐる政治的・道徳的争点を経験的知見から捉え返す。 4. 近代社会における教育システムの機能と変容を考察する。 5. 卒論執筆のための能力を養成する。

授業の計画(全体) 毎週、教科書の報告2名(1章分)をもとに、全員で議論を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業方法 年間予定 発表・報告方法 討論方法 等々
- 第2回 項目 ガイダンス 内容 辞書 文献検索 テキストの概要
- 第3回 項目 失われた時代 内容 テキスト序章
- 第4回 項目 ゆとり教育 内容 1章
- 第5回 項目 規範意識 内容 2章
- 第6回 項目 進路選択 内容 3章
- 第7回 項目 性別役割意識 内容 4章
- 第8回 項目 社会意識 内容 5章
- 第9回 項目 不公平感 内容 6章
- 第10回 項目 卒論構想発表会 1 内容 卒論構想発表
- 第11回 項目 各人発表
- 第12回 項目 各人発表
- 第13回 項目 各人発表
- 第14回 項目 各人発表
- 第15回 項目 各人発表

教科書・参考書 教科書：失われた時代の高校生の意識, 海野道郎, 有斐閣, 2008年 / 参考書：「若者の性」白書, 日本性教育協会編, 小学館, 2007年 ; 社会統計学, 片瀬一男, 放送大学教育振興会, 2007年

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。 / 検索キーワード 卒論

授業の一般目標 卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ

授業の計画(全体) 毎週4年生1名、3年生2名の報告を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画、卒論 執筆計画について
- 第 2 回 項目 先行研究および 卒論経過報告 内容 発表と討議
- 第 3 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 4 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 5 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 6 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 7 回 項目 中間報告会
- 第 8 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 9 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 10 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 11 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 12 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 13 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 14 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 15 回 項目 最終報告会

開設科目	社会心理学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

授業の概要 社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。 / 検索キーワード フィールドワーク、質的調査と量的調査、質問紙法、サンプリング、抽出法

授業の一般目標 (1) 社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。(2) 調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の狙いと今後の予定のガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ体験(何を調べるかを探す)
- 第 3 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 4 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 5 回 項目 問題意識から仮説構成へ
- 第 6 回 項目 調査票の作成(1)
- 第 7 回 項目 調査票の作成(2)
- 第 8 回 項目 調査票の作成(3)
- 第 9 回 項目 調査地の選定
- 第 10 回 項目 サンプリング及び対象者の選定
- 第 11 回 項目 調査の準備
- 第 12 回 項目 調査の実施1
- 第 13 回 項目 調査の実施2
- 第 14 回 項目 調査の実施3
- 第 15 回 項目 調査の実施4

開設科目	社会心理学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 量的な社会調査を念頭に、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程を一通り体験的に学習することで、学生が自ら調査を企画し、実施していく能力とその際に必要な倫理観とを養う。とくにこの後期の授業においては、具体的なデータの入力から加工、集計・分析、報告のプロセスに学習の重点を置くことで、有意義な調査企画・調査票作成が可能になるようにフィードバックしていく学習を目指す。 / 検索キーワード 青少年、道徳意識、類縁化作用

授業の一般目標 1 . 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2 . 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3 . 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。

授業の計画(全体) 授業はいくつかのグループごとに分かれて、毎週、発表・議論する形で進めていく。また統計ソフト SPSS やエクセルの基本的操作についても学ぶ。具体的な授業内容としては、(1) 量的調査全体の流れ、(2) 先行研究の検討、(3) 調査倫理・マナーの学習、(4) 調査データの加工と処理、(5) クロス集計、(6) エラボレーション、(7) 多変量解析、(8) プレゼンテーションの技法、(9) 報告書の作成方法などを含む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査の全体像と実習スケジュールの確認
- 第 2 回 項目 調査倫理と先行研究の検討
- 第 3 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 4 回 項目 先行研究の検討とエクセル活用
- 第 5 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 6 回 項目 SPSS によるデータ加工と基礎集計
- 第 7 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 8 回 項目 クロス集計とエラボレーション
- 第 9 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 10 回 項目 SPSS による重回帰分析
- 第 11 回 項目 SPSS による因子分析
- 第 12 回 項目 SPSS によるパス解析
- 第 13 回 項目 各人の担当箇所 についての報告 書作成
- 第 14 回 項目 報告書の各班ご との担当部分の 編集、完成
- 第 15 回 項目 報告書編集全体 調整

成績評価方法(総合) 授業参加・プレゼン 40 点と期末レポート 60 点の総合点によって評価する。

教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年

開設科目	社会調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

授業の概要 社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。/ 検索キーワード 測定水準 クロス集計 相関係数

授業の一般目標 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：相関係数と回帰分析の論理と手順を理解する。 思考・判断の観点：エラボレーションによって関連性を検討することができる。 関心・意欲の観点：常識的な因果関係を疑うとともに、新しい因果関係を構想し、積極的にテストする。 態度の観点：社会調査によるデータ収集や処理・分析に対する倫理観を養う。

授業の計画(全体) 社会調査におけるデータの特性や問題について学んだ上で、記述から説明へと分析技法を学んでいく。その際、計算や出力の意味を理解できるように、できるだけ電卓計算で行う課題を課す。偏回帰係数や部分相関係数を用いたエラボレーションの能力を身につけ、多変量解析へと進む学習の基礎を作るのが本講義の到達点である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 調査はどのように行われるか 授業外指示 テキスト学習課題 1
- 第 2 回 項目 調査データをどう分析するか 授業外指示 テキスト学習課題 2
- 第 3 回 項目 度数分布表を作成する 授業外指示 テキスト学習課題 3
- 第 4 回 項目 度数分布を記述する 授業外指示 テキスト学習課題 4
- 第 5 回 項目 クロス表を作成する 授業外指示 テキスト学習課題 5
- 第 6 回 項目 クロス表を分析する：カイ二乗検定 授業外指示 テキスト学習課題 6
- 第 7 回 項目 2 の平均の差を検定する (1)：正規分布 授業外指示 テキスト学習課題 7
- 第 8 回 項目 2 の平均の差を検定する (2)：t 検定 授業外指示 テキスト学習課題 8
- 第 9 回 項目 複数の平均の差を検定する：分散分析 授業外指示 テキスト学習課題 9
- 第 10 回 項目 2 つの連続変数間関係を推定する (1)：回帰分析の基礎 授業外指示 テキスト学習課題 10
- 第 11 回 項目 2 つの連続変数間関係を推定する (2)：回帰分析の応用 授業外指示 テキスト学習課題 11
- 第 12 回 項目 離散変数間の連関を測定する：相関係数 授業外指示 テキスト学習課題 12
- 第 13 回 項目 多重クロス表を分析する (1)：エラボレーション 授業外指示 テキスト学習課題 13
- 第 14 回 項目 多重クロス表を分析する (2)：エラボレーション 授業外指示 テキスト学習課題 14
- 第 15 回 項目 講義のまとめ：調査報告書・論文の読み方～社会調査の哲学と調査データの読み書きをめぐる倫理 授業外指示 テスト勉強

成績評価方法(総合) 毎週の課題 40 点と期末試験 60 点の総合点による評価。

教科書・参考書 教科書：社会統計学, 片瀬一男他, 放送大学教育振興会, 2007 年 / 参考書：社会統計学, ボーンシュテット & ノーキ, ハーベスト社, 1990 年; 「社会調査」のウソ, 谷岡一郎, 文藝春秋, 2000 年  
メッセージ ルートとメモリー機能のついた電卓を用意すること(関数電卓である必要はない)。数学が苦手でも、四則演算さえできれば、この授業はマスターできます。

開設科目	質的調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

授業の概要 社会調査のうち、質的調査 (qualitative survey) によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法 (分析方法) などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大きいと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。 / 検索キーワード 社会調査、質的調査、事例調査、生活史記録、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析

授業の一般目標 社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。

授業の計画 (全体) 質的調査の特徴、技法を概観していく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン - 授業の目的・内容と進め方について -
- 第 2 回 項目 1 質的調査とは何か 内容 社会調査における質的調査の位置づけ、質的調査の利用法、質的データの素材
- 第 3 回 項目 1 質的調査とは何か (続き) 内容 質的調査の技法、質的調査のメリットと留意点、調査倫理について
- 第 4 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 内容 聞き取り調査の技法と手順
- 第 5 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 1 : 災害調査の事例から
- 第 6 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 7 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 8 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 9 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 2 : 生活史データの収集と分析
- 第 10 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 11 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)
- 第 12 回 項目 3 参与観察の方法
- 第 13 回 項目 3 参与観察の方法 (続き) 4 ドキュメント分析の方法
- 第 14 回 項目 4 ドキュメント分析の方法 (続き)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 授業への出席および参加度 40 % 定期試験 30 % 授業内小レポート及び課題レポート 30 %

教科書・参考書 教科書 : 社会調査へのアプローチ (第 2 版), 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 2005 年 / 参考書 : ライフヒストリーを学ぶ人のために, 谷富夫編, 世界思想社, 1996 年 ; 「あたりまえ」を疑う社会学 質的調査のセンス, 好井裕明, 光文社, 2006 年 ; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	比較社会文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。 / 検索キーワード ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

授業の一般目標 日本社会に生きていると、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。 思考・判断の観点：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える 関心・意欲の観点：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする 態度の観点：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

授業の計画（全体） 基本的に教科書に添って進む。まずことばについて〈われわれ〉が語ってきたこと、をそれぞれの言語的経験に即して議論し、次に言語的近代の成り立ちを考え、それから、言語的近代を超える営みとしての、手話、文学言語、〈国際語〉について考える予定である。なお、内容が多岐にわたっているため、第三章を扱えるかどうかは、授業の進行状況に依拠する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第 2 回 項目 <やさしい言語> <むずかしい> 言語とはどういうことか
- 第 3 回 項目 ことばが<通じる> <通じない> とはどういうことか？
- 第 4 回 項目 ことばが<できる> <できない> とはどういうことか？
- 第 5 回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第 6 回 項目 言語の呼称
- 第 7 回 項目 言語的近代の成り立ちと日本
- 第 8 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程
- 第 9 回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第 10 回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第 11 回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語：手話とろう者について
- 第 12 回 項目 母語以外の言語で執筆する作家たち
- 第 13 回 項目 <国際語> 概念の解体と<国際語> の内実
- 第 14 回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：言語的近代を超えて～<多言語状況>を生きるために～, 山本真弓編著, 明石書店, 2004 年

開設科目	比較社会文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 「民俗学という方法」と題して、明治以降の日本の民俗学発達史に名が残る人々を取り上げ、社会・文化を比較する各人独自の視点を紹介したうえで、民俗の比較を通して日本の社会と文化の歴史や地域性が明らかにできることを具体的資料に基づき解説し、比較のための一方法として、民俗学の方法を学ぶ。 / 検索キーワード 民俗学 人類学 土俗学 民俗 民具 比較法

授業の一般目標 1. 民俗学における比較法について理解する。 2. 文化や社会を理解するうえで、比較という方法がもつ意義を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 日本の民俗学の発展に寄与した人々の業績と特色について説明できる。 2. 民俗学において「比較」がもつ意義について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 社会や文化を互いに比較することと民俗学の方法がどのように関係するか、説明できる。 技能・表現の観点： 1. 学んだ概念・用語を用いて文章が書ける。

授業の計画(全体) (1) 明治以降の日本の民俗学発達史に名が残る人々の業績を、比較する視点を中心に紹介する。(2) 具体的な民俗資料に基づく比較により、日本の社会と文化の歴史や地域性が明らかにできることを説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と進め方の説明
- 第 2 回 項目 民俗学を作った人々(1) 内容 鳥居龍蔵について紹介する
- 第 3 回 項目 民俗学を作った人々(2) 内容 南方熊楠について紹介する
- 第 4 回 項目 民俗学を作った人々(3) 内容 柳田国男について紹介する
- 第 5 回 項目 民俗学を作った人々(4) 内容 折口信夫について紹介する
- 第 6 回 項目 民俗学を作った人々(5) 内容 渋沢敬三について紹介する
- 第 7 回 項目 民俗学を作った人々(6) 内容 宮本常一について紹介する
- 第 8 回 項目 周圏論(1) 内容 方言周圏論について解説する
- 第 9 回 項目 周圏論(2) 内容 民俗周圏論について解説する
- 第 10 回 項目 時間差と地域差の読み方(1) 内容 空間に現れた時間差の解釈について考える
- 第 11 回 項目 時間差と地域差の読み方(2) 内容 空間に現れた時間差の解釈について考える
- 第 12 回 項目 日本の東西差 内容 東西差を見せる民俗について考える
- 第 13 回 項目 比較民俗学 内容 日本内外の民俗比較について考える
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 日本の社会や文化を知るための比較について考える。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験を実施する

成績評価方法(総合) 1. 出席確認は、毎回実施する小テストにより行います。 2. 出席が全体の75%以上ないと、期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は欠届出により認めます。 3. 成績は、小テスト(50%)と期末試験(50%)により評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書は用いない。必要に応じてプリント資料を配付します。 / 参考書：授業中に随時紹介します。紹介された文献は、図書館等で確認してください。

メッセージ 民俗学は文化や社会の事象の比較を通じて、物事を考えます。その方法を紹介して、比較を通じて一定の認識に至る道筋を提示したいと思います。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室。いつでも随時訪ねてください



開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 人口移動によって生じる諸問題、たとえば、移民、難民、ディアスポラ、などについて考える。

授業の一般目標 (1) 自らの社会を相対化すること、(2) 現代という時代(今日の状況)を歴史のなかに置いて考えること、(3) 国際的視野にたつて、現代社会の課題を見つけること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業内容をきちんと理解できているか。歴史(近現代史)の基本的知識を身に付けているか。 思考・判断の観点： 自分の問題として、自分の身近なところから世界的視野にまで広げて問題を捉えることができているか。 関心・意欲の観点： 近現代の諸問題を自ら発見し、取り組もうとすること。 態度の観点： 出席の有無と質問。

授業の計画(全体) 毎回、授業中にグループでディスカッションするという方法を積極的にとり入れる。

成績評価方法(総合) 基本的に学期末試験による。授業中に課したレポートおよび宿題も参考にする。

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

授業の概要 南アジアの歴史を通して、アジア的価値とは何かを考えていく。

授業の一般目標 (1) 従来の「アジア」観を疑い、「アジア」について根本的に考え直すこと。(2) そのために、非アジア(たとえば、ヨーロッパ。たとえば、アフリカ)などにも同時に関心をもつこと。(3) 「アジア」内部の多様性(たとえば、イスラーム世界、たとえばヒンドゥー世界)を認識すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 自らの(あるいは、日本社会全般に蔓延する)諸「外国」諸「地域」への偏見にとらわれずに、授業内容を理解できているか。 思考・判断の観点: 自らが生きる世界(日本社会と日本がその一部をなす西欧近代の価値を絶対とする世界観)と関連づけて講義内容を捉えることができるか。 関心・意欲の観点: わからないところを積極的に自分で調べるなどして、意欲的に取り組んでいるか。

成績評価方法 (総合) 毎回、授業時間中に小レポートを課し、それらと期末試験を総合して評価する。

メッセージ アジア比較社会論の前期の講義を履修していることが望ましい

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥田 敦				

授業の概要 「イスラーム法 (シャリーア・イスラーミーヤ)」について、日本法あるいは西欧法との比較を念頭に置きながら、その一般的な性質、法源、個々の法領域、歴史などを紹介する。イスラーム法は、10 億を越えるとされるイスラーム教徒の法であり、国民国家あるいは主権国家を基本的な構成単位とすることなしに成立する法秩序であって、民族や人種あるいは習慣や伝統の違いを乗り越える仕組みを有している。したがって、イスラーム法についての正しい認識は、世界の 5 ～ 6 人にひとりが属するイスラーム教徒の共同体およびその法のありように対する理解を正すばかりでなく、全地球規模での公益を公平かつ公正に分配することが求められるこれからの国際社会の法を構築を考える上でも欠かすことができない。アラビア語の専門用語の紹介・解説も積極的に行ないながら、現代を代表するムスリム法学者の見解に依拠しつつイスラーム法の世界を概観したい。また、必要に応じて、イスラーム神学の知見やグローバル化時代のイスラーム圏の文化社会についての紹介も行う。

授業の一般目標 「イスラーム法 (シャリーア・イスラーミーヤ)」について、日本法あるいは西欧法との比較を念頭に置きながら、その一般的な性質、法源、個々の法領域、現代的な問題などを、アラビア語の専門用語の紹介・解説も積極的に行ないながら、現代を代表するムスリム法学者の見解に依拠しつつ、概観していく。イスラーム法は、現在 13 億とも 17 億ともされるイスラーム教徒の法である。イスラーム世界の現実を垣間見ればわかるように、この法は十分に守られているとは言えない。しかしながら、シャリーアは、本来的には、国民国家あるいは主権国家を基本的な構成単位とすることなしに成立する法秩序であって、民族や人種あるいは習慣や伝統の違いを乗り越える仕組みを有している。したがって、イスラーム法についての正しい認識は、イスラーム教徒の共同体およびその法が何を目指しているのか明らかにし、彼らの共同体およびその法のありように対する理解を正してくれる。さらに、全地球規模での公益を公平かつ公正に分配することが求められるこれからの国際社会の法を構築を考える上でもシャリーアの正しい理解は不可欠である。シャリーアが何であるのかにとどまらず、シャリーアを学ぶことによって自分たちの法や社会のかかえる問題や然るべき変化の方向性について考える機会になってくれればと思う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イスラーム法への招待 内容 イスラーム法研究の必須性と必要性
- 第 2 回 項目 シャリーアとは (1) 内容 シャリーア・ふいくふ・カーヌーン・フクムの語義とともに立法者をアッラーとする法について
- 第 3 回 項目 イスラーム法の法源論 (1) 内容 法源論の特徴とクルアーンについて
- 第 4 回 項目 イスラーム法の法源論 (2) 内容 クルアーンとスンナについて
- 第 5 回 項目 イジュティハードの必要性 内容 イジュティハードおよびイジュティハード的法源について
- 第 6 回 項目 イスラーム法の目的 内容 法の目的論と「福利」の概念について
- 第 7 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (1) 内容 一般的性質による法の把握。「天啓性」について
- 第 8 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (2) 内容 「倫理性」「現実性」について
- 第 9 回 項目 イスラーム法の一般的特質 (3) 内容 「人道性」「調和性」「包括性」について
- 第 10 回 項目 イスラーム法の諸領域 (1) 内容 イバーダートについて
- 第 11 回 項目 イスラーム法の諸領域 (2) 内容 所有権・契約などについて
- 第 12 回 項目 イスラーム法における人と人権 (1) 内容 イスラームにおける人とは
- 第 13 回 項目 イスラーム法の人と人権 (2) 内容 イスラームにおける人権について
- 第 14 回 項目 イスラーム法におけるジハード 内容 ジハードについて考える
- 第 15 回 項目 イスラーム法の現代的意義 内容 グローバル化時代のシャリーアの在り方について

教科書・参考書 教科書：講義ごとにレジュメを配布します。 / 参考書：イスラームの人権, 奥田敦, 慶應義塾大学出版会, 2005 年

備考 集中授業

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては「技術・技能・職人」を取りあげる。／検索キーワード 文化人類学、生活用具論、自然環境、採集狩猟、農耕、牧畜、諸職

授業の一般目標 人類が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。人類の基本的な自然に対する対応の仕方を理解し、現在の地球環境問題に接する視点と態度を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 技術文化の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 人類は移動手段から解放された前肢を使い様々な用具を作り出しました。そして自然をコントロールすることをはじめ、現在の高度文明社会を作り出したわけです。この授業では、物を作り出す技術、身体性を伴う技能、そしてこれらを専門的に行う職人をテーマに構成し話を進めていきます。技術では基本的生業と用具の機能を説明し、現在の私たちの基本が農耕が始まった時期にすでに作られていたことを理解してもらいます。技能は未開社会の事例を示しながら、大切さを理解してもらいます。職人については日本の諸職から事例を挙げて説明し、技術文化の広がりと内容を理解してもらいます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人類の物質文化研究のアウトライン
- 第 2 回 項目 人類の発生－イマジネーションとロコモーション
- 第 3 回 項目 人類の自然環境への選択と適応
- 第 4 回 項目 採集狩猟と用具
- 第 5 回 項目 農耕と用具
- 第 6 回 項目 牧畜と用具
- 第 7 回 項目 まとめ
- 第 8 回 項目 技術に対する考え方
- 第 9 回 項目 技術と技能に対する考え方
- 第 10 回 項目 未開社会の技術と技能
- 第 11 回 項目 漂泊の民を意味する諸職
- 第 12 回 項目 近世の職人（鍛冶）
- 第 13 回 項目 近世の職人（木地師）
- 第 14 回 項目 近代の職人（屋根師）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。出席が 70 % に満たない場合は評価の対象になりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書：その都度紹介します。

メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

連絡先・オフィスアワー Email： hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー木曜日 12：00～14：00

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。今年のテーマとしては都市を取りあげる。/ 検索キーワード 文化人類学、都市人類学、民俗学、建築学

授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。ものを通して現代社会を分析するための目標と方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。

授業の計画（全体） 都市は様々な側面から研究されてきました。この授業では文化人類学、民俗学の側面から語られる都市、建築学で語られる都市を取りあげ、まずその視点を紹介することから始めます。どのような展開になるか暗中模索ですが、都市の中の建物と建物とのネガティブな空間としてみられていた、街路に注目する視点とか、新しい都市の中に形成されるエスニックコミュニティに対する視点とかの意味を根底に考えながら話を構成していきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス
- 第 2 回 項目 人類の発生と都市
- 第 3 回 項目 歴史的な都市
- 第 4 回 項目 近代の都市
- 第 5 回 項目 都市人類学の視点
- 第 6 回 項目 都市民俗学の視点
- 第 7 回 項目 建築学の視点
- 第 8 回 項目 街路の持つ機能 1
- 第 9 回 項目 街路の持つ機能 2
- 第 10 回 項目 まとめ
- 第 11 回 項目 都市のエスニックコミュニティ 1
- 第 12 回 項目 都市のエスニックコミュニティ 2
- 第 13 回 項目 都市の祭の機能 1
- 第 14 回 項目 都市の祭の機能 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。出席率が 70 % 以下の場合は評価対象となりません。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。 / 参考書：大都市の死と生, J・ジェイコブス, 鹿島出版会, 2003 年

メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。都市空間に対する眼が開かれます。

連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようについて考えることをめざしています。この授業では、「民俗学から見た高度成長」と題して、現在の日本社会の形成に大きな影響を与えた「高度成長」について、民俗をはじめとする諸資料を手がかりにして読み取り、「高度成長とは何であったのか」を考えます。 / 検索キーワード 民俗学 民俗 高度成長

授業の一般目標 1. 高度成長とは、どのように定義されるものか、理解する。 2. 民俗から現代社会を理解する方法について、考える。 3. 民俗または民俗学から見れば、現代社会はどのような社会と捉えられるか、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 高度成長の具体相について説明できる。 思考・判断の観点： 1. 民俗や民俗学の方法に即して、「高度成長」現象はどのように理解されるか、説明できる。 2. 「高度成長」問題の検討に民俗や民俗学はどのように有効であるのか、説明できる。 技能・表現の観点： 1. 学んだ概念・用語を用いて文章が書ける。

授業の計画(全体) (1) 高度成長とは従来どのように説明されているかを理解する。(2) 高度成長に伴い変化した暮らしぶりを具体的に知る。(3) 高度成長の時代の出来事と高度成長時代を象徴するモノを具体的に知ることを通じてこの時代のありようを分析する。(4) 「高度成長」が現代の日本に及ぼしている文化的社会的影響について、民俗学的手法により考察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法について説明する
- 第 2 回 項目 高度成長とは(1) 内容 高度成長の定義について検討する
- 第 3 回 項目 高度成長とは(2) 内容 高度成長以前の日本の姿を紹介する
- 第 4 回 項目 高度成長と暮らしの変化(1) 内容 住宅様式の変化の具合を公団住宅の誕生を軸に見る
- 第 5 回 項目 高度成長と暮らしの変化(2) 内容 生活時間の変化について種々の資料で確認する
- 第 6 回 項目 高度成長と暮らしの変化(3) 内容 都市化に伴い水利用が増大した様相を確認する
- 第 7 回 項目 高度成長と暮らしの変化(4) 内容 開発に伴う海と海岸の変化の様相を見る
- 第 8 回 項目 高度成長時代の出来事(1) 内容 東京オリンピックと新幹線開通の社会的影響を知る。
- 第 9 回 項目 高度成長時代の出来事(2) 内容 地方から都市への集団就職と出稼ぎの様相を知る。
- 第 10 回 項目 高度成長時代の出来事(3) 内容 「公害列島」といわれた状況を知る。
- 第 11 回 項目 高度成長時代のモノ(1) 内容 家電製品(三種の神器)の普及がもった意味を考える。
- 第 12 回 項目 高度成長時代のモノ(2) 内容 クルマの普及とそれが与えた影響を考える。
- 第 13 回 項目 高度成長時代のモノ(3) 内容 身体用具の発達普及とその影響を考える。
- 第 14 回 項目 高度成長とは何だったのか 内容 授業内容全体をまとめて、今の暮らしに与えた高度成長の影響について考察する。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験を実施する。

成績評価方法(総合) 1. 出席は、毎回実施する小テストで確認します。 2. 出席は、75%なければ期末試験の受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。 3. 成績は、毎回の小テスト(50%)、期末試験(50%)により評価します。

教科書・参考書 教科書：用いない。必要に応じてプリント資料を配布します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。紹介された文献は、図書館等で確認してください。

メッセージ 今から30年以上前の高度成長時代は、戦後日本の一大転換期でした。農山漁村と都市の双方で見られた急激な変化の様相を具体的に知り省みることで、今の日本とその未来を考える参考にしてください。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210室。必要に応じていつでも随時訪ねください。



開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、「民俗学から見える過疎地の未来像」と題して、(1)高度成長時代の結果として現われた「過疎地」のその後の30年を振り返り、(2)現状を探り、また(3)これまで国や自治体が取り組んできた過疎対策を振り返り検証したうえで、(4)民俗学者宮本常一の実践活動を中心とした民俗学における「過疎」問題の検討状況を踏まえて、「過疎地の未来像」をどう描くか、考えます。/ 検索キーワード 民俗 民俗学 過疎

授業の一般目標 1 「過疎」に関する定義と具体的事実を広く知る。 2 民俗または民俗学から見れば、「過疎」問題はどのように分析されるか、理解する。 3 「過疎地の未来像」を描くうえで、どのようなことが必要になるのか、考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 「過疎」の定義について説明できる。 思考・判断の観点： 1 民俗や民俗学の方法を通じて、「過疎」現象はどのように理解されるか、説明できる。 2 「過疎」問題の検討に民俗や民俗学はどのように有効であるのか、説明できる。 技能・表現の観点： 1 学んだ概念・用語を用いて文章が書ける。

授業の計画(全体) (1)高度成長時代の結果として現われた「過疎地」のその後の30年間を振り返る。(2)過疎地の現状を資料により具体的に探る。(3)これまで国や自治体が取り組んできた過疎対策を振り返り検証する。(4)民俗学者宮本常一の実践活動を中心とした民俗学における「過疎」問題の検討状況を踏まえて、「過疎地の未来像」をどう描くか、考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨(問題設定)と授業方法について説明する 明
- 第 2 回 項目 過疎と現代社会(1) 内容 「過疎」の従来の定義を紹介し、高度成長と過疎との関係について歴史を振り返り解説する
- 第 3 回 項目 過疎と現代社会(2) 内容 過疎問題を分析する視点として「家と村」の関係について解説する
- 第 4 回 項目 過疎地の現状(1) 内容 福島県会津地方の A 山村の現状を見る
- 第 5 回 項目 過疎地の現状(2) 内容 福島県会津地方の B 山村の現状を A 山村の場合と比較対照する
- 第 6 回 項目 過疎地の現状(3) 内容 九州山地の C 山村の現状を見る
- 第 7 回 項目 過疎地の現状(4) 内容 四国山地の D 山村の現状を見る
- 第 8 回 項目 過疎地の現状(5) 内容 山口県の離島の現状を見る
- 第 9 回 項目 過疎地の現状(6) 内容 山口県の山間地農村の現状を見る
- 第 10 回 項目 過疎対策の歩み(1) 内容 過疎法と国の取組を知る
- 第 11 回 項目 過疎対策の歩み(2) 内容 各地の自治体等の取組を知る
- 第 12 回 項目 宮本常一の実践(1) 内容 産業振興に取り組んだ実践活動の内容と特色を具体的に知る
- 第 13 回 項目 宮本常一の実践(2) 内容 文化振興に取り組んだ実践活動の内容と特色を具体的に知る
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 地域をはかるモノサシをどう作るか、価値転換の必要性と可能性について考える。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験を実施

成績評価方法(総合) 1 出席確認は、毎回実施する小テストにより行います。 2 出席が全体の75%以上ないと、期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。) 3 成績は、小テスト(50%)と期末試験(50%)により評価します

教科書・参考書 教科書：用いない。必要に応じてプリント資料を配布します。/ 参考書：授業中に適宜紹介します。紹介された文献は、図書館等で確認してください。

メッセージ 過疎は、地方社会の現象として現われているために地方の問題と思われがちですが、そうではなく、都市社会また日本全体の問題でもあること、すなわちみんなに係わる問題だと捉えられるようになってほしいと思っています。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210号室。必要なときはいつでも随時訪ねください。

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野地恒有				

授業の概要 現代の日本にみられるさまざまな民俗事例を提示することにより、現代における日本・地域における民俗的世界の多様な姿を学び、その具体的な理解を目指す。とくに、海と島をキーワードとして、日本文化の海洋的な性格について論じる。また、民俗学の基本的な考え方、研究法、調査法などについても概説する。

授業の計画(全体) 海と島という自然を相手にくり広げられる生活の姿を、ほぼ毎回ひとつの地域の事例を映像(VHS教材)とOHCを用いて提示して、その事例について民俗学的に説明するとともに、そこから引き出される文化的な問題(とくに海洋的性格)を論じていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 海から見た民俗学という考え方・履修上の注意・授業と試験との関係
- 第 2 回 項目 海の祭り 1 内容 鳥羽市神島のゲーター祭
- 第 3 回 項目 海の祭り 2 内容 能登半島の漂着神
- 第 4 回 項目 海と社会関係 内容 鳥羽市答志島の若者宿
- 第 5 回 項目 ハレと魚食 内容 婚姻儀礼とノシ
- 第 6 回 項目 海と日本文化 1 (小まとめ)
- 第 7 回 項目 海の生活との比較 1 内容 アイヌと鮭の儀礼
- 第 8 回 項目 海の生活との比較 2 内容 宮崎県のイノシシ狩り 1
- 第 9 回 項目 海の生活との比較 3 内容 宮崎県のイノシシ狩り 2
- 第 10 回 項目 海の生活との比較 4 内容 福島県の木地師 1
- 第 11 回 項目 海の生活との比較 5 内容 福島県の木地師 2
- 第 12 回 項目 海の技術 1 内容 伝統的な漁撈技術 1
- 第 13 回 項目 海の技術 2 内容 伝統的な漁撈技術 2
- 第 14 回 項目 海と日本文化 2 (その海洋的性格)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 授業の最後に実施する筆記試験により評価する。

備考 集中授業

開設科目	文化人類学演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。文化人類学の基本的文献を講読していきます。今回は「狩猟民」エルマン・サーヴィス著(現代文化人類学2)をとりあげます。/検索キーワード 人類 採集狩猟 社会組織 物質文化

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ひとともの基本的関係について説明できる。 思考・判断の観点: 文化相対主義の立場に立った、異文化理解と判断ができる。 関心・意欲の観点: 人々の日常を客観的な目で観察し、記録し、分からない原理は文献によって考える。この連関を繰り返す姿勢が身に付く。 態度の観点: 自らの考えを簡潔にまとめ、発表することができる。他の人との議論の中で自分の意見をまとめることができる。 技能・表現の観点: 講読した内容を的確に要約し、人に伝えるための効果的なプレゼンテーションができる。自分の考えをまとめ人に伝えることができる。

授業の計画(全体) 「狩猟民」エルマン・サーヴィス著(現代文化人類学2)をテキストとして使います。この本は人類の発展の中で最初の段階について書かれたもので、分かりやすく書かれています。学生中心に本を読み進める形で授業を行います。人類の社会組織、物質文化の基本がこの段階で作られたのであり、私たちの暮らしを考えると、以外とその遺産が顔を覗かせます。人類学の入門書をそばに置きながら、授業を進めます。

成績評価方法(総合) 出席を重視します。輪読の発表ではコンピュータによる分かりやすい表示方法を義務づけます。

教科書・参考書 教科書: プリントを配布してテキストとします。/参考書: 適宜紹介します。また、関連資料を配付します。

メッセージ 各自の発表はプレゼンテーションソフトを用い、コンピュータを使用して行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

開設科目	文化人類学演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。 / 検索キーワード 文化人類学 文化的ひと ひとともの 物質文化

授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。

思考・判断の観点：各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。 関心・意欲の観点：自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。 態度の観点：自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。 技能・表現の観点：効果的な発表手法の基本を理解する。

授業の計画(全体) 前半は物質文化に関する代表的論文を取り上げ輪読していきます。後半は各自の卒論に関連する文献を読み発表し、テーマを絞っていく時間に充てます。

成績評価方法(総合) 出席と授業への積極的態度によって評価します。

教科書・参考書 教科書：講読資料はコピーを作成し配布します。 / 参考書：講読論文に関連する文献、卒論に関連する文献は適宜アドバイスします。

メッセージ 卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。

連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00~12:00

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。民俗学の特定テーマを編集したテキストを、受講者と相談のうえ決める。受講者は順次、担当した文章の内容を整理して発表する。受講者はその内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来る。 / 検索キーワード 民俗学 民俗

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を知る。 2. 民俗学のテーマを編集した文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について説明できる。 思考・判断の観点: 1. 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。 態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。 技能・表現の観点: 1. 構成や表現を工夫した分かりやすいレジユメを用意することができる。 2. 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 2. レジユメを用意して発表を行う。 3. 発表内容に対して、受講生全体で意見等を述べ合い、教員も参加して討論する。 4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定し、レポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨や内容説明をする
- 第 2 回 項目 文献の選定 内容 読むべきテキストを検討し決定する
- 第 3 回 項目 文献の講読(1) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 4 回 項目 文献の講読(2) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 5 回 項目 文献の講読(3) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 6 回 項目 文献の講読(4) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 7 回 項目 文献の講読(5) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 8 回 項目 中間まとめ 内容 読んだ各文献をまとめてテーマに対する理解を深める
- 第 9 回 項目 文献の講読(6) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 10 回 項目 文献の講読(7) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 11 回 項目 文献の講読(8) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 12 回 項目 文献の講読(9) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 13 回 項目 文献の講読(10) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 14 回 項目 全体まとめ(1) 内容 テーマの民俗学的位置づけについて考える
- 第 15 回 項目 全体まとめ(2) 内容 レポートの課題を考える

成績評価方法(総合) 次の観点に留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。 1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。 4. 出席は80%以上ないと、レポートの提出ができません。

教科書・参考書 教科書: 受講生全員の希望を聞きながら決める。 / 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 必要があればいつでも研究室を訪ねてください

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗学の基本的問題を理解し、民俗学に対する自らの関心を深め強める一助とする。(1) 民俗学の特定テーマを編集したテキストを、受講者と相談のうえ決める。受講者は順次、担当した文章の内容を整理して発表する。受講者はその内容について討論をしながら理解を深める。テキストは毎回、全員が読んで来る。(2) 3年生の受講者は、自分の関心のある独自のテーマについて調べて発表をする。/ 検索キーワード 民俗学 民俗

授業の一般目標 1. 民俗学の扱う領域・課題を知る。2. 民俗学の新古典とも称すべき文献を読むことで、民俗学の思考法を理解する。3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間(友人)関係を築く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗学の基本的概念や対象について説明できる。思考・判断の観点: 1. 民俗学上の特定テーマを基本的概念や用語を用いて説明できる。態度の観点: 1. 他者の発表をよく聞いて、積極的に発言することができる。技能・表現の観点: 1. 構成や表現を工夫した分かりやすいレジュメを用意することができる。2. 民俗学の概念や用語を用いて、民俗学的内容を論じた文章が作成できる。

授業の計画(全体) 1. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。2. レジュメを用意して発表を行う。3. 発表内容に対して、受講生全体で意見等を述べ合い、教員も参加して討論する。4. 学習や討論を経て、各自が適宜なテーマを設定し、レポートを作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨や内容説明をする
- 第 2 回 項目 文献の選定 内容 読むべきテキストを検討し決定する
- 第 3 回 項目 文献の講読(1) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 4 回 項目 文献の講読(2) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 5 回 項目 文献の講読(3) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 6 回 項目 文献の講読(4) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 7 回 項目 文献の講読(5) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 8 回 項目 文献の講読(6) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 9 回 項目 文献の講読(7) 内容 分担して文献を読み発表し話し合う
- 第 10 回 項目 まとめ(1) 内容 各自の発表に基づきテーマについてのまとめをする
- 第 11 回 項目 まとめ(2) 内容 レポートの課題を考える
- 第 12 回 項目 3年生による独自テーマの発表(1) 内容 準備をした内容を発表し意見を述べ合う
- 第 13 回 項目 3年生による独自テーマの発表(2) 内容 準備をした内容を発表し意見を述べ合う
- 第 14 回 項目 3年生による独自テーマの発表(3) 内容 準備をした内容を発表し意見を述べ合う
- 第 15 回 項目 全体まとめ 内容 受講者各自の意見を述べ合い、テーマに関するまとめをする

成績評価方法(総合) 次の観点到留意して、授業への取組姿勢、発表内容、レポートの内容を総合的に評価する。1. 出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。4. 出席は80%以上ないと、レポートの提出ができません。

教科書・参考書 教科書: 受講者全員の希望を聞きながら決める。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。

メッセージ 授業時間外の予習と復習が大事です。自ら知る、探るという精神をぜひ発揮してください。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 必要があればいつでも研究室を訪ねてください

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

授業の概要 民俗調査を実施するためのテーマと調査項目を用意するとともに、聞き書きや写真撮影法、地図の見方読み方、民具の作図法など、民俗資料を収集する技法を習得することを目的にします。先行文献を参考にして、調査対象地域を決めるとともに、調査対象に関する予備知識を蓄積します。そのうえで、自らの関心にに基づき、調査テーマを決定し、調査項目等の作成を進めて、夏季休暇中に3泊4日程度の現地調査を実施します。/ 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 民俗調査の手順を理解する。 思考・判断の観点: 1. 民俗調査で得られるデータの質について考察する。 関心・意欲の観点: 1. 知りたいと思うテーマを明確に設定する。 2. テーマに接近するための方法をよく考え、準備する。 態度の観点: 1. 調査実施計画の立案に積極的に参加する。 2. 自らの興味を調査の場へ発展させる。 技能・表現の観点: 1. 聞きたいこと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる。

授業の計画(全体) 1. 山口県内の民俗誌・民俗調査報告書を読んで、山口県内の民俗の存在状況を把握する。 2. 関心の持てるおおよそのテーマを各自で検討する。 3. 各自の関心を持つテーマに関する調査上のポイントを整理して発表し、受講生全体の共通知識とする。 4. 各自のテーマに即した調査項目や聞き書きに用いる質問項目、必要に応じてアンケート用紙などの作成を行う。 5. フィールド・ノート の作成法、写真の撮影法、地図の読み方・利用のしかたを解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業担当者による説明 内容 民俗調査実習のねらいとスケジュールの説明
- 第 2 回 項目 調査対象地域の設定(1) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を紹介する。
- 第 3 回 項目 調査対象地域の設定(2) 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を整理して発表する。授業外指示 民俗調査報告書を読んでまとめる。探しておく。
- 第 4 回 項目 調査対象地域の設定(3) 内容 各自の発表を踏まえつつ意見交換をして対象地域を決定する。授業外指示 対象地域を検討しておく。
- 第 5 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(1) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 6 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(2) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 7 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(3) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考え、決定する。授業外指示 決まらない場合は、第8回までに決める。
- 第 8 回 項目 調査項目の作成 内容 各自のテーマに応じた調査項目を作成する。授業外指示 完成しない場合は、第9回までに完成させる。
- 第 9 回 項目 質問文案・調査票の作成(1) 内容 各自のテーマ・調査項目に即して必要になる質問文案・調査票を作成する。授業外指示 進捗状況に応じて、第10回に完成するように作業を行なう。
- 第 10 回 項目 質問文案・調査票の作成(2) 内容 質問文案・調査票を全体で検討し、修正等を行い完成させる。授業外指示 完成しない場合は、第11回までに完成させる。
- 第 11 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(1) 内容 フィールドノートの役割・活用法・作成要領、調査データの整理法を説明する。
- 第 12 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(2) 内容 写真撮影法と整理法を解説し、実習する。
- 第 13 回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ(3) 内容 地図の利用法・略測図の作成法、民具の作図法などを説明し、実習する。



第 14 回 項目 調査項目票の完成 内容 調査項目票を完成させるとともに、調査で実際に試みる方法と調査結果報告の構成（目次）案をまとめる。授業外指示 調査項目票を完成させる。

第 15 回 項目 調査方法と調査結果報告構成案の発表 内容 作成した調査項目票に基づき、実際に試みる調査方法と調査結果報告の構成案（目次案）を各自が順次発表し、全員で検討のうえ実地調査の準備を整える。授業外指示 調査方法と調査結果報告構成案の準備をしておく。

成績評価方法（総合） 1．調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2．各作業が確実に実行できたか。

教科書・参考書 教科書：とくに用いない。適宜，必要な資料をプリントして配布する。 / 参考書：新版 民俗調査ハンドブック, 上野和男 他編, 吉川弘文館, 1987 年；適宜紹介する。

メッセージ 好奇心を形にする授業です。

連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 いつでも随時訪ねてください

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

授業の概要 民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。 / 検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

授業の一般目標 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。 思考・判断の観点: 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。 関心・意欲の観点: 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。 態度の観点: 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。 技能・表現の観点: コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。

授業の計画(全体) 夏休み期間中に行う調査で得たデータをまとめ、報告書にまとめるまでを行います。授業は大きく(1)データの共有化、(2)報告文の作成とデータの図表化、(3)報告書作りのための編集作業の3つに分かれます。(1)では聞き取りデータのカード化からエクセルへの入力までを学びます。(2)では文章表現方法とデータを図又は表の形でまとめ表現する方法を学びます。(3)ではコンピュータの編集ソフトを使い、データの入力とレイアウトの方法について学びます。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 民俗調査実習の目標とスケジュールの説明 内容 スケジュール表に沿った説明 授業外指示 コンピュータ等 授業外学習のための機器の確認
- 第 2 回 項目 フィールドデータの処理 内容 調査データのカード化とグルーピングの方法、エクセルへの入力及び検索方法を理解し作業を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 3 回 項目 データ処理のためのコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 テキスト・画像データを扱うソフトの操作を行う。 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 4 回 項目 プレゼンテーション技法の理解 内容 経過発表に使うプレゼンテーションソフトの操作 授業外指示 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 5 回 項目 報告内容の企画 内容 個別データの集約化と、これを活用して各自の報告内容の企画を立てる
- 第 6 回 項目 報告テーマとその要旨の発表(1) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備
- 第 7 回 項目 報告文テーマとその要旨の発表(2) 内容 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。
- 第 8 回 項目 報告文作成のための補足調査の実施 内容 報告文テーマとその要旨の発表で指摘された疑問点を解決するための現地調査を行う。 授業外指示 事前に各自の調査計画を立て、インフォマントへの事前確認を行う。
- 第 9 回 項目 補足調査データのまとめ 内容 補足調査の結果報告と情報交換を行う。 授業外指示 調査データのエクセルへの追加入力を行う。

- 第10回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(1) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第11回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(2) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第12回 項目 報告書編集のためのフォーマット作成 内容 個別に編集ソフトへの入力を行うためのレイアウト等のフォーマットを作成する。授業外指示 報告文の作成
- 第13回 項目 画像処理・編集・作図作表用のコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 画像・図表のデジタルデータを作成する。編集用ソフトへの画像・図表の入力を行う。授業外指示 報告文の作成
- 第14回 項目 報告書個別編集 内容 各自の報告文を編集する。授業外指示 各自の報告文を完成させる。
- 第15回 項目 報告書編集全体調整 内容 基本フォーマットを確認し、調整を行う。目次に沿って表題、ページ入力を行う。

成績評価方法(総合) 様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の中間報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。

教科書・参考書 参考書：各自がまとめる報告分野にそって適宜指示する。

メッセージ 授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12:00~14:00

言語文化学科 日本語学・日本文学コース

開設科目	日本語学 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 語彙 ~ 日本語の「語彙」について考察する。

授業の一般目標 日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「語彙」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対しての取り組みを判断する。

授業の計画（全体） 日本語学の諸分野のうち、「語彙」に関する問題について取り扱う。 語彙とは  
 語彙量 理解語彙と使用語彙 基本語彙と基礎語彙 語種による語彙の類別 和語 漢語  
 洋語 語構成による語彙の類別 位相 など

成績評価方法（総合） 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年

開設科目	日本語学 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語および日本文化に関する諸問題をペアワークまたはグループ討議を通して検討する。特に日本語の表記として漢字家族、単語家族など、朗読などを通した日本語の音声などに着目する。/ 検索キーワード 日本語、日本文化、異文化

授業の一般目標 自分一人の考えに閉じこもらずに、他者との意見交換を通して、柔軟な考え方を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語および日本文化に関する知識・理解を深める。表記、語彙拡大、音声表現などに関心を持つ。思考・判断の観点：ステレオ・タイプの考え方を脱して、適切な判断ができるようにする。関心・意欲の観点：日本語・日本文化に関する関心だけでなく、異文化に関する関心を持つようにする。異文化を理解しようとする意欲を育てる。態度の観点：積極的に授業に参加し、自分の意見を恥ずかしがらずに伝えるようにする。技能・表現の観点：簡潔に授業内容にかんする感想・意見・質問をまとめることができる。その他の観点：対人関係を自らすすんでつくることができるようにする。二人一組、三人一組で設定された問題について検討する。

授業の計画(全体) 構成的グループ・エンカウンターの手法を用いて、日本語と日本文化に関する諸問題をテーマごとにディスカッションする。参加体験型の授業を実施する。

成績評価方法(総合) 出席と小レポート、課題を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 木曜、午前 10 時 30 分～12 時

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴の理解を深める。 / 検索キーワード 音韻変化、音節構造の特徴、日本語音韻史

授業の一般目標 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 思考・判断の観点：日本語の特徴を分析・理解する。 関心・意欲の観点：日本語の意義・価値について再認識する。

授業の計画（全体）音韻史の資料、音韻変化の分類、日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば、ア行のeとヤ行のje、ア行のoとワ行のwo、ア行のiとワ行のwi、ア行のeとワ行のwe、八行音の音価など。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 2 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 3 回 項目 日本語音韻史の基礎資料
- 第 4 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 5 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 6 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 7 回 項目 上代日本語の音韻
- 第 8 回 項目 中古～近世の音韻（1）
- 第 9 回 項目 中古～近世の音韻（1）
- 第 10 回 項目 中古～近世の音韻（2）
- 第 11 回 項目 中古～近世の音韻（2）
- 第 12 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 13 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 14 回 項目 中古～近世の音韻（3）
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席。

教科書・参考書 教科書：使用せず。適宜プリントを配布する。 / 参考書：音韻史・文字史（講座国語史；2）、中田祝夫編、大修館書店、1972年；中田祝夫『講座国語史2音韻史』（大修館書店）

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（083-933-5249） オフィスアワー火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴についての理解を深める。 / 検索キーワード 音韻変化, 音節構造の特徴, 日本語音韻史

授業の一般目標 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 思考・判断の観点：日本語の特徴を分析・理解する。 関心・意欲の観点：日本語の意義・価値について再認識する。

授業の計画(全体) 音韻史の資料, 音韻変化の分類, 日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば, 八行転呼, 上代特殊仮名遣い, 濁音の確立, 夕行音の音価, サ行音の音価, 拗音と連声, 音便現象など。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中古～近世の音韻(4)
- 第 2 回 項目 中古～近世の音韻(4)
- 第 3 回 項目 中古～近世の音韻(5)
- 第 4 回 項目 中古～近世の音韻(5)
- 第 5 回 項目 中古～近世の音韻(6)
- 第 6 回 項目 中古～近世の音韻(6)
- 第 7 回 項目 中古～近世の音韻(7)
- 第 8 回 項目 中古～近世の音韻(7)
- 第 9 回 項目 中古～近世の音韻(8)
- 第 10 回 項目 中古～近世の音韻(8)
- 第 11 回 項目 中古～近世の音韻(9)
- 第 12 回 項目 中古～近世の音韻(9)
- 第 13 回 項目 中古～近世の音韻(10)
- 第 14 回 項目 中古～近世の音韻(10)
- 第 15 回 項目 後期筆記試験

成績評価方法(総合) 定期試験, 質問カード, 出席

教科書・参考書 教科書：使用しない。適宜プリントを配布する。 / 参考書：音韻史・文字史(講座国語史; 2), 中田祝夫編, 大修館書店, 1972年; 中田祝夫『講座国語史2音韻史』(大修館書店)

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249), オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30



開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。 / 検索キーワード 方言の意義、方言の変化、方言の働き

授業の一般目標 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語方言の意義、特徴、変化の姿と分布の意味について理解を深める。 思考・判断の観点：日本語方言についての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語方言の特徴・意義、変化を再認識する。

授業の計画（全体） 方言の概念規定、方言の意義、方言変化、その働きなどについて述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 ことばの差
- 第 3 回 項目 方言とは何か
- 第 4 回 項目 方言とは何か
- 第 5 回 項目 方言の意義
- 第 6 回 項目 方言の意義
- 第 7 回 項目 方言の意義
- 第 8 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 9 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 10 回 項目 方言の変化を生む要因
- 第 11 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 12 回 項目 文献の中にあらわれる方言
- 第 13 回 項目 分権の中にあらわれる方言
- 第 14 回 項目 方言分布の解釈
- 第 15 回 項目 前期筆記試験

成績評価方法（総合） 定期試験、質問カードの内容、出席

メッセージ 日本語の方言はかけがえのないことば。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249） オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

**授業の概要** 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り

**授業の一般目標** 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。思考・判断の観点：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。関心・意欲の観点：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。態度の観点：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。技能・表現の観点：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

**授業の計画** (全体) 上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

**成績評価方法** (総合) 主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。

**教科書・参考書** 教科書：未定 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 國分康孝ほか, 図書文化, 1999年; エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part 2, 國分康孝ほか, 図書文化, 2001年

**メッセージ** 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り、分かち合い

授業の一般目標 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。思考・判断の観点：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、る言葉について、その意味・用法を考える。関心・意欲の観点：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。態度の観点：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。技能・表現の観点：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

授業の計画(全体) 上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。

成績評価方法(総合) 出席、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part2, 林伸一, 図書文化, 2001年 / 参考書：未定

メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現 ( 1 ) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身につけるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画 ( 全体 ) 待遇表現とは 待遇表現の種類 敬語と待遇表現 人称代名詞 人物の呼称 現代敬語の性格 敬語の持つ効果 敬語の分類 など

成績評価方法 ( 総合 ) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 待遇表現 (2) ~ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。 思考・判断の観点：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点：授業に対する取り組みを判断する。

授業の計画(全体) 美化語の用法と形式 丁寧語の用法と形式 尊敬語の用法と形式 謙譲語の用法と形式 丁寧語の用法と形式 準敬語とは 問題となる敬語表現 など

成績評価方法(総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

教科書・参考書 教科書：特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	米川 明彦				

授業の概要 集団語について先行研究、定義、種類、各集団のことば、造語法、カテゴリー分類、言語意識などから考察し、論じる。また、集団語に関連する俗語、隠語について論じる。 / 検索キーワード 集団語、隠語、俗語

授業の一般目標 1、日本語の位相・多様性を知る。2、ことばの使用の目的と表現について考える。3、日本語研究の方法を学ぶ。4、学生自ら調査・研究するきっかけを与える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 集団語とは何か、ことばは何のためにあるのかなどを知り、理解する。 思考・判断の観点： 集団とことばの関係、言語意識と造語法の関係などを考える。 関心・意欲の観点： いろいろな集団のことばに関心を持ち、調査・研究する意欲を養う。

授業の計画(全体) 上記の目標達成のために講義しつつ、学生に発言を求める。以下に項目と内容を示す。集中講義なので、各週とあるのは、各コマのことである。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語の現状 内容 各種の言語使用調査結果から現状を知る
- 第 2 回 項目 ことばの乱れとは 内容 ことばの「乱れ」の基準は何か考える
- 第 3 回 項目 俗語とは 内容 俗語とは何か分類と種類を述べる
- 第 4 回 項目 俗語とは 内容 俗語の働き、意義、言語意識について考える
- 第 5 回 項目 隠語とは 内容 隠語とは何か、分類と種類を述べる
- 第 6 回 項目 集団語とは 内容 集団語とは何か、先行研究、定義、種類を述べる
- 第 7 回 項目 集団語とは 内容 集団語研究の位置づけとテーマを述べる
- 第 8 回 項目 社会的集団のことば 内容 百貨店、落語家、医療関係者など社会的集団のことばを個別に取りあげる
- 第 9 回 項目 反社会集団のことば 内容 ヤクザ、不良、スリ、泥棒など反社会的集団のことばを個別に取りあげる
- 第 10 回 項目 キャンパス集団のことば 内容 大学などキャンパスに集る集団のことばを取りあげる
- 第 11 回 項目 若者語 内容 若者語の歴史、特徴、背景、造語法を取りあげる
- 第 12 回 項目 意味分類から見た集団語 内容 意味分類から各集団語の特徴を考える
- 第 13 回 項目 造語法から見た集団語 内容 造語法から各集団語の特徴を考える
- 第 14 回 項目 手話 内容 もうひとつの日本の言語である手話の歴史、ろう者の歴史、手話の特徴を述べる
- 第 15 回 項目 「伝え合う」から「通じ合う」へ 内容 コミュニケーションの根底にある相手を理解し、相手から理解されたい「通じ合う心」について述べる

成績評価方法(総合) 出席とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：これも日本語！あれも日本語？，米川明彦，NHK 出版，2006 年 / 参考書：現代若者ことば考，米川明彦，丸善ライブラリー，1996 年；若者ことば辞典，米川明彦，東京堂出版，1997 年；若者語を科学する，米川明彦，明治書院，1998 年；集団語辞典，米川明彦，東京堂出版，2000 年；日本俗語大辞典，米川明彦，東京堂出版，2003 年

メッセージ 集団語・若者語を科学しよう！

連絡先・オフィスアワー 人文学部林伸一研究室 hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 教科書割引購入申込先(7 月 20 日締め切り) 携帯 090 - 6415 - 8203

備考 集中授業

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 万葉集の巻六～十二所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。 / 検索キーワード 万葉仮名、訓読、古辞書、注釈書

授業の一般目標 古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟する。 思考・判断の観点：古辞書の記述と類例とを対照させそれらを分析しながら、万葉仮名で表記された歌謡本文のあるべき訓読を考察する。 関心・意欲の観点：各歌の歌謡本文における万葉仮名表記の意図を考える。

授業の計画（全体） 万葉集の巻八～十二所収の歌の訓読に関して、受講者各自が、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとに相違のある箇所を探し、その当否を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入（資料の扱いの指導）
- 第 2 回 項目 これ以降、万葉集巻六～十二から各人 1 課題を取り上げレポートする（1）
- 第 3 回 項目 学生のレポート（2）
- 第 4 回 項目 学生のレポート（3）
- 第 5 回 項目 学生のレポート（4）
- 第 6 回 項目 学生のレポート（5）
- 第 7 回 項目 学生のレポート（6）
- 第 8 回 項目 学生のレポート（7）
- 第 9 回 項目 学生のレポート（8）
- 第 10 回 項目 学生のレポート（9）
- 第 11 回 項目 学生のレポート（10）
- 第 12 回 項目 学生のレポート（11）
- 第 13 回 項目 学生のレポート（12）
- 第 14 回 項目 学生のレポート（13）
- 第 15 回 項目 学生のレポート（14）

成績評価方法（総合） 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：万葉集 本文篇、佐竹昭広 [ほか] 共著、塙書房、1982 年；万葉集 本文篇、佐竹昭広 [ほか] 共著、塙書房、1982 年

メッセージ 万葉歌人が詠んだ万葉集歌の仮名の訓にたどり着きましょう。その手だてを学んでください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階 (933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 前半は前期の継続。後半は『日本言語地図』に見られる方言地図（作成日時の付されていない）の分布を資料として、その分布形成の過程（語彙史）つまり、語彙の相対的な新旧の解明を試みる。／検索キーワード 葉集、方言地図、分布解釈

授業の一般目標 方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横の平面上に分布している。その方言分布の解釈することで、日本語・方言の語史を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語の歴史に関心を寄せ、日本語の再発見につなげる。 思考・判断の観点：方言地図の分布をみてそれを分析・解釈する能力を身につける。 関心・意欲の観点：自国の言語への関心を高める。

授業の計画（全体）各自が担当する地図を持ち寄り一人が一枚の地図を読む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 万葉集の学生レポート（ 1 ）
- 第 2 回 項目 万葉集の学生レポート（ 2 ）
- 第 3 回 項目 万葉集の学生レポート（ 3 ）
- 第 4 回 項目 万葉集の学生レポート（ 4 ）
- 第 5 回 項目 万葉集の学生レポート（ 5 ）
- 第 6 回 項目 万葉集の学生レポート（ 6 ）
- 第 7 回 項目 万葉集の学生レポート（ 7 ）
- 第 8 回 項目 万葉集の学生レポート（ 8 ）
- 第 9 回 項目 方言地図の解釈（ 1 ）
- 第 10 回 項目 方言地図の解釈（ 2 ）
- 第 11 回 項目 方言地図の解釈（ 3 ）
- 第 12 回 項目 方言地図の解釈（ 4 ）
- 第 13 回 項目 方言地図の解釈（ 5 ）
- 第 14 回 項目 方言地図の解釈（ 6 ）
- 第 15 回 項目 方言地図の解釈（ 7 ）

成績評価方法（総合）質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：日本言語地図（日文研究室所蔵）、国立国語研究所、大蔵省印刷局；国立国語研究所編『日本言語地図』（人文学部日本語文化論コース研究室所蔵）

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 5 階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00～14:30



開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。 / 検索キーワード 日本語教育、異文化理解、発表力、表現力

授業の一般目標 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。 2、すでに発表された論文でも批判的に読む。 3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。 4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用のしかたを学ぶ 2、参考文献の提示のしかたを学ぶ 思考・判断の観点： 1、先行研究を基に自論を展開できるようにする 2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む 関心・意欲の観点： 1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる 2、振り返りを意欲的に実行する 態度の観点： 1、まじめに課題に取り組む態度を養う。 2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。 技能・表現の観点： 1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する

授業の計画（全体） 上記の目標達成のために対話的に授業を進めていく。分担者が発表し、参加者が検討を加えていく。

成績評価方法（総合） 出席と発表、レポートを重視し、テストはしない。

教科書・参考書 教科書：プリント配布

メッセージ 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 木曜、3-4 時限目、人文棟 2 階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。 / 検索キーワード 自己理解、他者理解、異文化理解

授業の一般目標 1、異文化とは何かを考える。 2、自分とは何かを考える。 3、イメージとステレオタイプについて考える。 4、人と出会うということについて考える。 5、人とコミュニケーションすることについて考える。 6、非言語コミュニケーションについて考える。 7、価値観の相違を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する 2、ジョハリの窓について知識と理解を深める 思考・判断の観点： 1、ステレオタイプを崩していく 2、出会いと人生のドラマ 関心・意欲の観点： 1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲 2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲 態度の観点： 1、価値観が違う者への態度 2、多文化共生社会への態度 技能・表現の観点： 1、自己開示、自己表現、自己主張能力 2、質問力

授業の計画（全体） 上記目標を達成するために対話的な授業を行なう。テーマごとの発表をし、内容について検討する。

成績評価方法（総合） 出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 参考書：多文化共生時代の日本語教育，縫部義憲，瀝々社，2002年；多文化共生のコミュニケーション，徳井厚子，アルク，2002年

メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6415 - 8203

開設科目	日本語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 古文の文法 ~ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で講読する。

授業の一般目標 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体） テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：古文の文法，馬淵和夫，武蔵野書院，1963年；テキストは現在絶版のため、プリント配布。

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 漢文訓読資料としての、研究室に複製が所蔵されている『呂后本紀第九』(史記)を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、平安中期を中心とした日本語

授業の一般目標 平安時代の漢文訓読資料を訓読することによって、当時の口語の一端に触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢文訓読におけるヲコト点の意義を理解する。 思考・判断の観点：漢文訓読資料によってヲコト点を用いた訓読を解説する。 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史を考える。

授業の計画(全体) 『呂后本紀第九』(史記)の本文を一人数行宛て読み1課題を報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テキスト、資料の説明
- 第 2 回 項目 学生のレポート(1)
- 第 3 回 項目 学生のレポート(2)
- 第 4 回 項目 学生のレポート(3)
- 第 5 回 項目 学生のレポート(4)
- 第 6 回 項目 学生のレポート(5)
- 第 7 回 項目 学生のレポート(6)
- 第 8 回 項目 学生のレポート(7)
- 第 9 回 項目 学生のレポート(8)
- 第 10 回 項目 学生のレポート(9)
- 第 11 回 項目 学生のレポート(10)
- 第 12 回 項目 学生のレポート(11)
- 第 13 回 項目 学生のレポート(12)
- 第 14 回 項目 学生のレポート(13)
- 第 15 回 項目 学生のレポート(14)

成績評価方法(総合) 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：『呂后本紀第九』(史記)の複製本(受講生にお願い：丁寧に扱ってください)

メッセージ 漢字一字一字の読みを明らかにする手だてを一緒に学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

授業の概要 漢文訓読資料として、研究室所蔵の複製本『呂后本紀第九』(史記)を読む。 / 検索キーワード ヲコト点、漢文訓読、中世前期の日本語

授業の一般目標 平安時代の漢文訓読資料を訓読することによって、当時の口語の一端に触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：漢文訓読におけるヲコト点の意義を理解する。 思考・判断の観点：漢文訓読資料によってヲコト点を用いた訓読を解読する。 関心・意欲の観点：自国の言語の歴史について考える。

授業の計画(全体) 『呂后本紀第九』(史記)の本文を一人数行宛て読み1課題を報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 学生のレポート(1)
- 第 2 回 項目 学生のレポート(2)
- 第 3 回 項目 学生のレポート(3)
- 第 4 回 項目 学生のレポート(4)
- 第 5 回 項目 学生のレポート(5)
- 第 6 回 項目 学生のレポート(6)
- 第 7 回 項目 学生のレポート(7)
- 第 8 回 項目 学生のレポート(8)
- 第 9 回 項目 学生のレポート(9)
- 第 10 回 項目 学生のレポート(10)
- 第 11 回 項目 学生のレポート(11)
- 第 12 回 項目 学生のレポート(12)
- 第 13 回 項目 学生のレポート(13)
- 第 14 回 項目 学生のレポート(14)
- 第 15 回 項目 学生のレポート(15)

成績評価方法(総合) 質問票、出席、レポートの内容

教科書・参考書 教科書：『呂后本紀第九』(史記)の複製本(受講生にお願い：丁寧に扱ってください)

メッセージ 漢字一字一字の読みを明らかにする手だてを一緒に学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(083-933-5249) オフィスアワー火曜日 13:00~14:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。 / 検索キーワード 文章力、質問力、表現力

授業の一般目標 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用の仕方 2、図や表のタイトルのつけかた 3、参考文献の示し方 思考・判断の観点： 1、一般論と具体例を区別する 2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える 3、説得力のある文章を考える 関心・意欲の観点： 1、自分の関心・意欲を明確にする 2、前向きに困難に対処する 3、目標を立てて動機付けする 態度の観点： 1、積極的に授業に参加する 2、わからないことをそのままにしないで調べる 3、不明な点は質問する 技能・表現の観点： 1、口頭での発表力をつける 2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける 3、コンピューターを使いこなす

授業の計画（全体） 上記の目標達成のため、授業を対話的に進める

成績評価方法（総合） 授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：質問力：話し上手はここがちがう、齋藤孝著、筑摩書房、2003年；齋藤孝（2003）『質問力』筑摩書房

メッセージ 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日：11時～12時 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。 / 検索キーワード 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力

授業の一般目標 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。 2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。 3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。 4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。 5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ 態度の観点：前期に同じ 技能・表現の観点：前期に同じ

授業の計画（全体）上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。

成績評価方法（総合）前期に同じ

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 興味、関心を形にする。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 平安後期物語の語法・語彙 ~ 平安後期物語『堤中納言物語』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体）当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。

成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：堤中納言物語，塚原鉄雄，武蔵野書院；教科書は生協で取り扱う。 / 参考書：堤中納言物語（日本古典文学大系 13），寺本直彦，岩波書店，1957 年；堤中納言物語（新潮日本古典集成 56），塚原鉄雄，新潮社，1983 年；堤中納言物語（日本古典文学全集 10），稲賀敬二，小学館，1972 年；堤中納言物語（新日本古典文学大系），大槻修，岩波書店，1992 年



開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

授業の概要 ~ 中世日記文学の語法・語彙 ~ 中世成立の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

授業の一般目標 中世日記文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。 技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

授業の計画（全体）当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、平安時代成立の日記文学作品や、中世の他ジャンルの作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。

成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

教科書・参考書 教科書：とはずがたり<四>，伊地知鉄男編，笠間書院，1972年；教科書は生協で取り扱う。 / 参考書：とはずがたり（新日本古典文学大系），三角洋一編，岩波書店，1994年；とはずがたり（新潮日本古典集成），福田秀一編，新潮社，1988年；とはずがたり（新編日本古典文学全集），久保田淳編，小学館，1999年；とはずがたり総索引，辻村敏樹編，笠間書院，1992年

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【古典文学研究の方法論】日本古典文学研究のために必要な基礎知識を講述します。前期は、その方法論編として、トピックに即した主要論文を具体的に紹介しつつ、特に、中世 近世文学研究のための方法論を学びます。

授業の一般目標 古典文学研究のための方法論を理解し、基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 古典文学研究の主要な方法論を理解する。 2. 古典文学研究の基礎知識を習得する。

授業の計画（全体） 「研究史と現在」「作家論と作品論」「ジャンルとスタイル」「成立と伝来」の4つのトピックに沿いながら講述する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業概要の紹介・評価について
- 第 2 回 項目 研究史と現在 (1) 内容 研究史の出発点・研究史を把握するためのツール集
- 第 3 回 項目 研究史と現在 (2) 内容 『奥の細道』の場合 (1)
- 第 4 回 項目 研究史と現在 (3) 内容 『奥の細道』の場合 (2)
- 第 5 回 項目 作家論と作品論 (1) 内容 作家論の方法と意義 (1)
- 第 6 回 項目 作家論と作品論 (2) 内容 作家論の方法と意義 (2)
- 第 7 回 項目 作家論と作品論 (3) 内容 作品論の方法と意義 (1)
- 第 8 回 項目 作家論と作品論 (4) 内容 作品論の方法と意義 (2)
- 第 9 回 項目 ジャンルとスタイル
- 第 10 回 項目 成立と伝来 (1) 内容 伝本とは何か
- 第 11 回 項目 成立と伝来 (2) 内容 原典復元の方法と意義 (1)
- 第 12 回 項目 成立と伝来 (3) 内容 原典復元の方法と意義 (2)
- 第 13 回 項目 成立と伝来 (4) 内容 異文生成の理由 (1)
- 第 14 回 項目 成立と伝来 (5) 内容 異文生成の理由 (2)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 授業内容に即した論述式期末試験により評価する。ただし、4回の無断欠席で期末試験受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。毎時プリントを配布する。 / 参考書： 授業中に随時紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【古典文学研究のテクニック】日本古典文学研究のために必要な基礎知識を講述します。後期は、テクニックの習得編として、書誌学とくずし字解読の基本を実践的に学びます。

授業の一般目標 古典文学研究のための基本テクニックを習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 書誌学の基本を理解する。2. さまざまな字母から派生した変体仮名の諸体を理解する。 技能・表現の観点：変体仮名を中心としたくずし字を解読できるようになる。

授業の計画（全体） 「本をかたちづくるもの」「くずし字解読」の2つのトピックに沿って進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 内容 授業概要の紹介・評価について
- 第 2 回 項目 本をかたちづくるもの (1) 内容 書物の装丁
- 第 3 回 項目 本をかたちづくるもの (2) 内容 書物の大きさ
- 第 4 回 項目 本をかたちづくるもの 内容 版本の歴史と各部
- 第 5 回 項目 くずし字解読 (1) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (1)
- 第 6 回 項目 くずし字解読 (2) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (2)
- 第 7 回 項目 くずし字解読 (3) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (3)
- 第 8 回 項目 くずし字解読 (4) 内容 変体仮名編 字母と諸体 (4)
- 第 9 回 項目 くずし字解読チェックテスト
- 第 10 回 項目 くずし字解読 (5) 内容 主要漢字編 (1) 敬語・動詞
- 第 11 回 項目 くずし字解読 (6) 内容 主要漢字編 (2) 名詞・その他
- 第 12 回 項目 くずし字解読 (7) 内容 総合演習 (1)
- 第 13 回 項目 くずし字解読 (8) 内容 総合演習 (2)
- 第 14 回 項目 くずし字解読 (9) 内容 総合演習 (3)
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 期末試験 (80%) およびくずし字解読チェックテスト (20%) により評価する。ただし、4 回の無断欠席で期末試験受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書：仮名手引, 神戸平安文学会編, 和泉書院, 1981 年 / 参考書：授業中に随時紹介する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学状況について講義する。この時期は、和歌・物語・日記といった異なる文学形態の作品が生み出され、それぞれにおいて個性ある表現世界が展開している。それら平安文学作品の概要と特質について講義する。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 日本文学史において中古と区分される作品群について概要と特質を理解し、その歴史的展開に関する知識を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 日本古典文学作品について概要と特質を説明できる。 2. 日本古典文学作品の歴史的展開について説明できる。

授業の計画（全体） 10世紀前半までの仮名文字による王朝文学の展開について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文学史の問題 内容 「王朝」の語義
- 第 2 回 項目 神話・伝承の世界 内容 古事記・日本書記・風土記
- 第 3 回 項目 歌謡から歌へ 内容 万葉集
- 第 4 回 項目 仮名ことばの文学 (1) 内容 古今和歌集
- 第 5 回 項目 仮名ことばの文学 (2) 内容 古今和歌集
- 第 6 回 項目 女性仮託の表現 内容 土佐日記
- 第 7 回 項目 物語文学の出現 (1) 内容 竹取物語
- 第 8 回 項目 物語文学の出現 (2) 内容 竹取物語
- 第 9 回 項目 歌物語の展開 (1) 内容 伊勢物語
- 第 10 回 項目 歌物語の展開 (2) 内容 伊勢物語
- 第 11 回 項目 歌物語の展開 (3) 内容 大和物語
- 第 12 回 項目 歌物語の展開 (4) 内容 大和物語
- 第 13 回 項目 女流日記文学の創始 (1) 内容 蜻蛉日記
- 第 14 回 項目 女流日記文学の創始 (2) 内容 蜻蛉日記
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：竹取物語伊勢物語必携，鈴木日出男・編，學燈社，1988年；別冊国文学『王朝女流日記必携』，秋山虔・編，學燈社，1986年；別冊国文学『王朝物語必携』，藤井貞和・編，學燈社，1987年；別冊国文学『古典文学史必携』，久保田淳・編，學燈社，1992年；別冊国文学『古典文学基礎知識必携』，小町谷照彦・編，學燈社，1991年

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学状況について講義する。この時期は、和歌・物語・日記といった異なる文学形態の作品が生み出され、それぞれにおいて個性ある表現世界が展開している。それら平安文学作品の概要と特質について講義する。 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 日本文学史において中古と区分される作品群について概要と特質を理解し、その歴史的展開に関する知識を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 日本古典文学作品について概要と特質を説明できる。 2. 日本古典文学作品の歴史的展開について説明できる。

授業の計画（全体） 10世紀後半から11世紀前半までの仮名文字による王朝文学の展開について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 伝奇的な作り物語の展開 (1) 内容 うつほ物語
- 第 2 回 項目 伝奇的な作り物語の展開 (2) 内容 落窪物語
- 第 3 回 項目 文学史の問題 内容 「一条朝」という環境
- 第 4 回 項目 物語文学の達成 (1) 内容 源氏物語
- 第 5 回 項目 物語文学の達成 (2) 内容 源氏物語
- 第 6 回 項目 随筆文学の誕生 (1) 内容 枕草子
- 第 7 回 項目 随筆文学の誕生 (2) 内容 枕草子
- 第 8 回 項目 女流日記文学の展開 (1) 内容 和泉式部日記
- 第 9 回 項目 女流日記文学の展開 (2) 内容 和泉式部日記
- 第 10 回 項目 女流日記文学の展開 (3) 内容 紫式部日記
- 第 11 回 項目 女流日記文学の展開 (4) 内容 紫式部日記
- 第 12 回 項目 女流日記文学の展開 (5) 内容 更級日記
- 第 13 回 項目 歴史物語の登場 (1) 内容 栄花物語
- 第 14 回 項目 歴史物語の登場 (2) 内容 大鏡
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：別冊国文学『王朝女流日記必携』、秋山虔・編、學燈社、1986年；別冊国文学『王朝物語必携』、藤井貞和・編、學燈社、1987年；別冊国文学『古典文学基礎知識必携』、小町谷照彦・編、學燈社、1991年；別冊国文学『古典文学史必携』、久保田淳・編、學燈社、1992年

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 今回私は、講義タイトルを「《最初の夫の死ぬ物語》外伝」と命名し、2001年に上梓した『村上春樹と《最初の夫の死ぬ物語》』のその後を講述したいと思います。以前からこの場で断っていますが、シラバスの入力と実際の講義の間には、タイムラグがあります。昨年は8ヶ月、今年の場合は10ヶ月です。内容的に時事的な問題を取り込む必要がある以上、以下提示する講義内容は、あくまでも予定であることはいうまでもありません。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》とは何か？( 1 )
- 第 3 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》とは何か？( 2 )
- 第 4 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》とは何か？( 3 )
- 第 5 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－韓流篇( 1 )－
- 第 6 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－韓流篇( 2 )－
- 第 7 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－韓流篇( 3 )－
- 第 8 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－華流篇( 1 )－
- 第 9 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－華流篇( 2 )－
- 第 10 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－米国篇( 1 )－
- 第 11 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－米国篇( 2 )－
- 第 12 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》外伝－米国篇( 3 )－
- 第 13 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》から《最初の？の死ぬ物語》へ( 1 )
- 第 14 回 項目 《最初の夫の死ぬ物語》から《最初の？の死ぬ物語》へ( 2 )
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配布します。／参考書：適宜、紹介します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画（全体）『源氏物語』の「桐壺」巻から「花宴」巻にかけて、主要な場面を取り上げ、それらについてどのような研究がなされてきたかを紹介していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「桐壺」巻の分析（1）
- 第 3 回 項目 「桐壺」巻の分析（2）
- 第 4 回 項目 「帚木」巻の分析（1）
- 第 5 回 項目 「帚木」巻の分析（2）
- 第 6 回 項目 「夕顔」巻の分析（1）
- 第 7 回 項目 「夕顔」巻の分析（2）
- 第 8 回 項目 「夕顔」巻の分析（3）
- 第 9 回 項目 「若紫」巻の分析（1）
- 第 10 回 項目 「若紫」巻の分析（2）
- 第 11 回 項目 「若紫」巻の分析（3）
- 第 12 回 項目 「未摘花」巻の分析
- 第 13 回 項目 「紅葉賀」巻の分析
- 第 14 回 項目 「花宴」巻の分析（1）
- 第 15 回 項目 「花宴」巻の分析（2）

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。 / 参考書：新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年 ; 新編日本古典文学全集 源氏物語 全六冊, 阿部秋生ほか, 小学館, 1998 年 ; 源氏物語 全 10 冊, 玉上琢弥・訳注, 角川文庫ソフィア, 1997 年 ; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年 ; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編集, 勉誠出版, 2005 年 ; 源氏物語事典, 林田孝和ほか, 大和書房, 2002 年

メッセージ 出席状況 80 %未満の者は欠格とする。授業開始後 15 分を過ぎてからの入室は出席として認めない。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要【連歌師の紀行文 宗因『肥後道記』を読む】昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因の紀行文の嚆矢『肥後道記』をとりあげ、その本文を精読する。『肥後道記』は、『土佐日記』『平家物語』『源氏物語』などの古典を豊富に引用している。その古典引用のあり方を子細に検討することを通して、『肥後道記』の主題に迫りたい。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、紀行文、肥後道記、西山宗因

授業の一般目標 1. 連歌師 / 俳諧師の文章の型と主題を理解する。2. 近世文学における古典引用の意味を理解する。3. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連歌師 / 俳諧師の文章を精読することができる。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。

授業の計画(全体) (1)問題提起 『肥後道記』の先行研究とその問題 (2)『肥後道記』と『土佐日記』 (3)『肥後道記』と『平家物語』 (4)『肥後道記』と『源氏物語』 (5)総括と展望 『肥後道記』の文学性と政治性

成績評価方法(総合) 主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

授業の概要 中世を代表する軍記物語『平家物語』を取り上げて、その文学的特質を解説する。半期という短い期間なので、著名な章段を取り上げて、その読解をもとに『平家物語』の文学的特質を考察していくことにする。また、本文に関係する資料も可能な限り取り上げて、中世の文学研究に必要な基礎資料に関する解説もあわせて行いたい。取り上げる章段は、以下の予定。(祇園精舎、月見、忠度都落、横笛) / 検索キーワード 平家物語 読み本系諸本 語り本系諸本 琵琶法師 平忠度

授業の一般目標 『平家物語』の特質を知ることが第一の目標とする。また、中世文学研究に必要な基礎知識の獲得も第二の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 『平家物語』の特質に関する理解を深める。 『平家物語』研究の現状と課題について理解を深める。 中世文学研究の基礎資料に関する知識を深める。 思考・判断の観点： 『平家物語』の本文を読み解く。 歴史資料を読み解く。 関心・意欲の観点： 『平家物語』に関する興味を深める。 同時代の他の資料への関心を深める。 態度の観点： 注釈の施されていない資料を積極的に読もうとする。 技能・表現の観点： 自分の調査・考察したことを的確に文章で表現する。

授業の計画(全体) 資料プリントを使いながら、口頭での解説を中心とした講義形式で授業を進める。ただし、一方通行の授業にならないように、講義中に各自の意見を紙に書いて提出してもらい、次週にそれをもとに授業を進めたりもする。積極的に授業に参加してもらいたい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義概要の説明
- 第 2 回 項目 講義で使う資料の説明
- 第 3 回 項目 平家物語の成立に関して(一)
- 第 4 回 項目 平家物語の成立に関して(二)
- 第 5 回 項目 平家物語の諸本に関して(一)
- 第 6 回 項目 平家物語の諸本に関して(二)
- 第 7 回 項目 「祇園精舎」の読解
- 第 8 回 項目 「月見」の読解
- 第 9 回 項目 「月見」の問題点
- 第 10 回 項目 「忠度都落」の読解(覚一本)
- 第 11 回 項目 「忠度都落」の読解(延慶本)
- 第 12 回 項目 「忠度都落」の問題点
- 第 13 回 項目 「横笛」の読解
- 第 14 回 項目 「横笛」の問題点
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) レポートによって評価する。なお、出席は3分の2以上出席していることが評価の前提となる。その出席条件を満たした者に関して、レポート内容で成績評価を行う。出席状況を点数化して評価に加点することはしない。なお、講義中の授業への参加態度も、若干の考慮に入れる。

教科書・参考書 教科書：プリントを用いる。 / 参考書：プリントを用いる。

メッセージ 半期という短い期間ですが、『平家物語』の世界に興味を持ってもらえたら幸いです。お互いに楽しく授業を進めましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等は講義の前後に受け付ける。また、開講時にメールアドレスを伝えるので、メールによる質問も受け付ける。

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度は村上春樹の短編集『レキシントンの幽霊』に収められた七つの作品を精読します。

授業の一般目標 本年度の講読は、村上春樹の短編集『レキシントンの幽霊』を精読します。春樹の長篇『ねじまき鳥クロニクル』と相前後して書かれた作品で構成された短編集です。いわゆるデタッチメントからコミットメントへの移行期に書かれた重要な作品集です。その意味を考えながらの熟読玩味を心がけて下さい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家としての村上春樹
- 第 3 回 項目 短編集『レキシントンの幽霊』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『レキシントンの幽霊』精読
- 第 5 回 項目 『緑色の獣』精読
- 第 6 回 項目 『沈黙』精読
- 第 7 回 項目 『氷男』精読
- 第 8 回 項目 『トニー滝谷』精読
- 第 9 回 項目 『七番目の男』精読
- 第 10 回 項目 『めくらやなぎと、眠る女』精読
- 第 11 回 項目 先行研究論文精読
- 第 12 回 項目 先行研究論文精読
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 40 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 40 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：村上春樹『レキシントンの幽霊』(文春文庫) テキストは文栄堂で販売する予定。 / 参考書：追って指示します。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：木曜日午後

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 本年度、後期は三島由紀夫の一連の作品を精読します。衝撃的な死からすでにかなりの時間が経過し、新全集の刊行も終わったのを機に、じっくり読んでみようと思います。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家 三島由紀夫研究
- 第 3 回 項目 『花ざかりの森』精読
- 第 4 回 項目 『詩を書く少年』精読
- 第 5 回 項目 『岬にての物語』精読
- 第 6 回 項目 『真夏の死』精読
- 第 7 回 項目 『憂国』精読
- 第 8 回 項目 『弱法師』精読
- 第 9 回 項目 『春の雪』精読
- 第 10 回 項目 『奔馬』精読
- 第 11 回 項目 『暁の寺』精読
- 第 12 回 項目 『天人五衰』精読
- 第 13 回 項目 映画『春の雪』鑑賞
- 第 14 回 項目 原作小説と映像化作品のあいだに
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合）宿題／授業外レポート＝40％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝40％ 出席＝10％

教科書・参考書 教科書： 短篇の収載が多岐にわたり煩雑ですので、プリント化して配布するか、文庫本で購入していただくか判断に迷っています。追って指示します。／参考書： 追って指示する予定。

メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておくように。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『蜻蛉日記』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『蜻蛉日記』上巻を適宜区切り、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・問題点などを載せた資料を作成し、発表することになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 { 1 } ~ { 3 }
- 第 4 回 項目 { 5 } ~ { 10 }
- 第 5 回 項目 { 11 } ~ { 13 }
- 第 6 回 項目 { 16 } ~ { 20 }
- 第 7 回 項目 { 23 } ~ { 29 }
- 第 8 回 項目 { 31 } ~ { 34 }
- 第 9 回 項目 { 38 } ~ { 40 }
- 第 10 回 項目 { 41 } ~ { 42 }
- 第 11 回 項目 { 49 } ~ { 50 }
- 第 12 回 項目 { 51 } ~ { 54 }
- 第 13 回 項目 { 57 } ~ { 60 }
- 第 14 回 項目 { 61 } ~ { 63 }
- 第 15 回 項目 { 65 } ~ { 66 }

成績評価方法(総合) 発表資料・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：蜻蛉日記1(上巻・中巻), 川村裕子, 角川ソファエア文庫, 2003年 / 参考書：新編日本古典文学全集『土佐日記・蜻蛉日記』, 菊地靖彦・木村正中・伊牟田経久, 小学館, 1995年; 新日本古典文学大系『土佐日記・蜻蛉日記・紫式部日記・更級日記』, 今西祐一郎ほか, 岩波書店, 1989年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『和泉式部日記』の講読 / 検索キーワード 古典文学

授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

授業の計画(全体) 『和泉式部日記』を適宜区切り、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・問題点などを載せた資料を作成して発表することになる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 文献案内
- 第 3 回 項目 「夢よりもはかなき世の中」
- 第 4 回 項目 「はじめてものを思ふあしたは」「あひてもあはで」
- 第 5 回 項目 「まきの戸ぐち」「五月雨のころ」
- 第 6 回 項目 「あかつき起き」
- 第 7 回 項目 「末の松山」
- 第 8 回 項目 「七月のころ」「石山詣で」
- 第 9 回 項目 「霧たる空」「代詠」
- 第 10 回 項目 「手枕の袖」(1)
- 第 11 回 項目 「手枕の袖」(2)「ことの葉ふかく」
- 第 12 回 項目 「山の紅葉」「宿世にまかせて」
- 第 13 回 項目 「うらむらむ心はたゆな」「霜がれのころ」
- 第 14 回 項目 「霜の日雪の日」「この世ならざる契り」
- 第 15 回 項目 「宮邸入り」

成績評価方法(総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：和泉式部日記, 清水文雄, 岩波文庫, 1981 年 / 参考書：新編日本古典文学全集『和泉式部日記・紫式部日記・更級日記・讃岐典侍日記』, 藤岡忠美ほか, 小学館, 1994 年; 新潮日本古典集成『和泉式部日記・和泉式部集』, 野村精一, 新潮社, 1981 年; 王朝女流日記必携, 秋山虔・編, 學燈社, 1989 年; 全講和泉式部日記(改訂版), 円地文子・鈴木一雄, 至文堂, 1985 年

メッセージ 八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【西鶴『世間胸算用』巻一を読む】元禄五(1692)年刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。前期は、巻一の前半二章「問屋の寛闊女」「長刀はむかしの鞘」を精読したい。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画(全体) 初回と第2回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第3回以降は、「問屋の寛闊女」「長刀はむかしの鞘」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 発表資料作成の手引き・発表分担決定
- 第 2 回 項目 『世間胸算用』概説
- 第 3 回 項目 発表(1) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(1)
- 第 4 回 項目 発表(2) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(2)
- 第 5 回 項目 発表(3) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(3)
- 第 6 回 項目 発表(4) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(4)
- 第 7 回 項目 発表(5) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(5)
- 第 8 回 項目 発表(6) 内容 巻一 — 「問屋の寛闊女」輪読(6)
- 第 9 回 項目 発表(7) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(1)
- 第10回 項目 発表(8) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(2)
- 第11回 項目 発表(9) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(3)
- 第12回 項目 発表(10) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(4)
- 第13回 項目 発表(11) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(5)
- 第14回 項目 発表(12) 内容 巻一 二 「長刀はむかしの鞘」輪読(6)
- 第15回 項目 発表予備日

成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書：世間胸算用, 金井寅之助・松原秀江校注, 新潮日本古典集成 81, 1989年; 世間胸算用, 西島孜哉編, 和泉書院, 1998年; 西鶴影印叢刊『世間胸算用』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。新潮日本古典集成については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書：授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【西鶴『世間胸算用』巻一を読む】元禄五(1692)年刊『世間胸算用』は、西鶴生存中最後に出版された小説で、多彩な語り口と緻密な構成によって、その傑作のひとつに数えられる作品である。話の舞台は大晦日、話の形式はオムニバス。最も劇的な一日をやり過ごす町人たちの、したたかで明るく、ほんの少し悲しい姿が、巧みに描き出されている。後期は、巻一の後半二章「伊勢海老は春のもみぢ」「芸鼠の文づかひ」を精読したい。

授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

授業の計画(全体) 初回と第2回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第3回以降は、「伊勢海老は春のもみぢ」「芸鼠の文づかひ」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション 内容 発表資料作成の手引き・発表分担決定
- 第 2 回 項目 『世間胸算用』概説
- 第 3 回 項目 発表(1) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(1)
- 第 4 回 項目 発表(2) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(2)
- 第 5 回 項目 発表(3) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(3)
- 第 6 回 項目 発表(4) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(4)
- 第 7 回 項目 発表(5) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(5)
- 第 8 回 項目 発表(6) 内容 巻一 三「伊勢海老は春のもみぢ」輪読(6)
- 第 9 回 項目 発表(7) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(1)
- 第10回 項目 発表(8) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(2)
- 第11回 項目 発表(9) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(3)
- 第12回 項目 発表(10) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(4)
- 第13回 項目 発表(11) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(5)
- 第14回 項目 発表(12) 内容 巻一 四「芸鼠の文づかひ」輪読(6)
- 第15回 項目 発表(13)

成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書：世間胸算用, 金井寅之助・松原秀江校注, 新潮日本古典集成 81, 1989年; 世間胸算用, 西島孜哉編, 和泉書院, 1998年; 西鶴影印叢刊『世間胸算用』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。新潮日本古典集成については当該箇所をプリント配付する。 / 参考書：授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国文研究室・図書館オリエンテーション
- 第 3 回 項目 作家論 夏目漱石 『それから』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『それから』論
- 第 5 回 項目 作家論 堀 辰雄 『風立ちぬ』の成立と背景
- 第 6 回 項目 『風立ちぬ』論
- 第 7 回 項目 作家論 宮沢賢治 『銀河鉄道の夜』の成立と背景
- 第 8 回 項目 『銀河鉄道の夜』論
- 第 9 回 項目 作家論 太宰 治 『斜陽』の成立と背景
- 第 10 回 項目 『斜陽』論
- 第 11 回 項目 作家論 筒井康隆 2 『時をかける少女』の成立と背景
- 第 12 回 項目 『時をかける少女』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題 / 授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表(プレゼン) や授業内での製作作業(作品) = 30 % 出席 = 10 %

教科書・参考書 教科書：夏目漱石 新潮文庫『それから』、堀辰雄 新潮文庫『風立ちぬ・美しい村』、宮沢賢治 新潮文庫『銀河鉄道の夜』、太宰 治 新潮文庫『斜陽』、筒井康隆 角川文庫『時をかける少女』 / 参考書：適宜、指示します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：追って指示します。



開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 中也記念館見学(あくまでも予定です。)
- 第 3 回 項目 作家論 芥川龍之介 『地獄変』の成立と背景
- 第 4 回 項目 『地獄変』論
- 第 5 回 項目 作家論 川端康成 『伊豆の踊子』の成立と背景
- 第 6 回 項目 『伊豆の踊子』論
- 第 7 回 項目 作家論 谷崎潤一郎 『少将滋幹の母』の成立と背景
- 第 8 回 項目 『少将滋幹の母』論
- 第 9 回 項目 作家論 遠藤周作 『沈黙』の成立と背景
- 第 10 回 項目 『沈黙』論
- 第 11 回 項目 作家論 吉行淳之介 『夕暮まで』の成立と背景
- 第 12 回 項目 『夕暮まで』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 50% 授業態度や授業への参加度 = 10% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30% 出席 = 10%

教科書・参考書 教科書: 芥川龍之介 集英社文庫『地獄変』、川端康成 新潮文庫『伊豆の踊子』、谷崎潤一郎 新潮文庫『少将滋幹の母』、遠藤周作 新潮文庫『沈黙』、吉行淳之介 新潮文庫『夕暮まで』/ 参考書: 適宜指示します。

メッセージ 読書会でとりあげるについては、受講生と相談の上、取り上げる作品を決定します。

連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 追って指示します。

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『源氏物語』の研究 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載した資料を作成し、発表に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの発表 (1)
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表 (2)
- 第 4 回 項目 用例調査の結果報告 (1)
- 第 5 回 項目 用例調査の結果報告 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 8 回 項目 研究発表 (1)
- 第 9 回 項目 研究発表 (2)
- 第 10 回 項目 研究発表 (3)
- 第 11 回 項目 研究発表 (4)
- 第 12 回 項目 研究発表 (5)
- 第 13 回 項目 研究発表 (6)
- 第 14 回 項目 研究発表 (7)
- 第 15 回 項目 研究発表 (8)

成績評価方法 (総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999 年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全 5 冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993 年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005 年; 源氏物語評釈 全 14 冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969 年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第 1 回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

授業の概要 『源氏物語』の研究。 / 検索キーワード 源氏物語

授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。 態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。 技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

授業の計画(全体) 『源氏物語』を対象として、受講者各自が研究課題を見つけ、考察した内容を発表する。受講者は(1)問題の所在、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載した資料を作成し、発表に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究テーマの発表 (1)
- 第 3 回 項目 研究テーマの発表 (2)
- 第 4 回 項目 用例調査の結果報告 (1)
- 第 5 回 項目 用例調査の結果報告 (2)
- 第 6 回 項目 先行研究論文の収集 (1)
- 第 7 回 項目 先行研究論文の収集 (2)
- 第 8 回 項目 研究発表 (1)
- 第 9 回 項目 研究発表 (2)
- 第 10 回 項目 研究発表 (3)
- 第 11 回 項目 研究発表 (4)
- 第 12 回 項目 研究発表 (5)
- 第 13 回 項目 研究発表 (6)
- 第 14 回 項目 研究発表 (7)
- 第 15 回 項目 研究発表 (8)

成績評価方法 (総合) 資料の完成度・発表内容・レポートによる。

教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年 / 参考書：新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』, 柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎, 岩波書店, 1999 年; 新・源氏物語必携, 秋山虔, 學燈社, 1997 年; 源氏物語事典, 林田孝和・原岡文子ほか, 大和書房, 2002 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄・監修, 至文堂, 2005 年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全 5 冊, 柳井滋・室伏信助ほか, 岩波書店, 1993 年; 人物で読む源氏物語, 上原作和・編, 勉誠出版, 2005 年; 源氏物語評釈 全 14 冊, 玉上琢弥, 角川書店, 1969 年

メッセージ 『源氏物語』の「何について」考察したいのか、各自あらかじめ考えてきたうえで第 1 回目の授業に臨んでください。八割以上出席すること。

連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【『大坂独吟集』素玄独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、上巻所収の素玄独吟「松にばかり」百韻の前半二折表（にのおりおもて）までをとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。 / 検索キーワード 『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸 = 俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。2. 意欲的に実作に参加し連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第 3 回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第 4 回以降は、参加者全員が 3 句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回	項目	イントロダクション・概説（1）	内容	『大坂独吟集』概説・発表分担決定
第 2 回	項目	概説（2）	内容	連句のルール（1）
第 3 回	項目	概説（3）	内容	連句のルール（2） 発表資料作成の手引き
第 4 回	項目	発表（1）	内容	「松にばかり」の巻初折表 1 3 句註釈
第 5 回	項目	発表（2）	内容	「松にばかり」の巻初折表 4 6 句註釈
第 6 回	項目	発表（3）	内容	「松にばかり」の巻初折表 7 裏 1 句註釈
第 7 回	項目	発表（4）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 2 4 句註釈
第 8 回	項目	発表（5）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 5 7 句註釈
第 9 回	項目	発表（6）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 8 10 句註釈
第 10 回	項目	発表（7）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 11 13 句註釈
第 11 回	項目	発表（8）	内容	「松にばかり」の巻初折裏 14 二折表 2 句註釈
第 12 回	項目	発表（9）	内容	「松にばかり」の巻二折表 3 5 句註釈
第 13 回	項目	発表（10）	内容	「松にばかり」の巻二折表 6 8 句註釈
第 14 回	項目	発表（11）	内容	「松にばかり」の巻二折表 9 11 句註釈
第 15 回	項目	発表（12）	内容	「松にばかり」の巻二折表 12 14 句註釈

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。 / 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石梯三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

メッセージ 連歌や俳諧の文化は、意外なところでわたしたちの生活に深く根づいています。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、たくさんの再発見があることでしょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

授業の概要 【『大坂独吟集』素玄独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、上巻所収の素玄独吟「松にばかり」百韻の二折裏（にのおりうら）以降をとりあげる。連句と評語がおりなす、師弟のコラボレーションにも注目しよう。また、実作にもチャレンジして、連歌・俳諧の精神や作法を実践的に習得しよう。／検索キーワード 『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因

授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸 = 俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。2. 意欲的に実作に参加し連歌・俳諧の精神や作法を実践的に会得することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- |        |    |                 |    |                           |
|--------|----|-----------------|----|---------------------------|
| 第 1 回  | 項目 | イントロダクション・概説（1） | 内容 | 『大坂独吟集』概説・発表分担決定          |
| 第 2 回  | 項目 | 概説（2）           | 内容 | 連句のルール（1）                 |
| 第 3 回  | 項目 | 概説（3）           | 内容 | 連句のルール（2） 発表資料作成の手引き      |
| 第 4 回  | 項目 | 発表（1）           | 内容 | 「松にばかり」の巻二折裏 1 3 句註釈      |
| 第 5 回  | 項目 | 発表（2）           | 内容 | 「松にばかり」の巻二折裏 4 6 句註釈      |
| 第 6 回  | 項目 | 発表（3）           | 内容 | 「松にばかり」の巻二折裏 7 9 句註釈      |
| 第 7 回  | 項目 | 発表（4）           | 内容 | 「松にばかり」の巻二折裏 10 12 句註釈    |
| 第 8 回  | 項目 | 発表（5）           | 内容 | 「松にばかり」の巻二折裏 13 三折表 1 句註釈 |
| 第 9 回  | 項目 | 発表（6）           | 内容 | 「松にばかり」の巻三折表 2 4 句註釈      |
| 第 10 回 | 項目 | 発表（7）           | 内容 | 「松にばかり」の巻三折表 5 7 句註釈      |
| 第 11 回 | 項目 | 発表（8）           | 内容 | 「松にばかり」の巻三折表 8 10 句註釈     |
| 第 12 回 | 項目 | 発表（9）           | 内容 | 「松にばかり」の巻三折表 11 13 句註釈    |
| 第 13 回 | 項目 | 発表（10）          | 内容 | 「松にばかり」の巻三折表 14 裏 2 句註釈   |
| 第 14 回 | 項目 | 発表（11）          | 内容 | 「松にばかり」の巻三折裏 3 5 句註釈      |
| 第 15 回 | 項目 | 発表（12）          | 内容 | 「松にばかり」の巻三折裏 6 8 句註釈      |

成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。 / 参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石梯三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

メッセージ 連歌や俳諧の文化は、意外なところでわたしたちの生活に深く根づいています。多くの方にとっては未知の分野でしょうが、たくさんの再発見があることでしょう。

連絡先・オフィスアワー 研究室 = 人文 508 / 電話 = 933-5257 / E-mail = ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化学科 中国語学・中国文学コース



開設科目	中国語学概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 中国語学に関して最低限踏まえておくべきことがらを講義します。中国語学の分野で卒論を書くことを考えている学生は、できれば二年生のうちに必ず受講してください。中国文学、言語学などに関心を寄せる広範な学生の受講も歓迎します。

授業の一般目標 (1) 言語学の考え方を認識し、言語生活を言語学的に反省する態度と手法を身に付ける。(2) 中国語を外国語として見る態度を確立する。(3) 現代中国の言語状況を知る。(4) 現代中国語の背後にある歴史のあらましを知る。(5) 調音音声学の初歩を学び、これを現代中国語の音声の理解に応用することができる。(6) 中国の文字の歴史と構造を知り、文字と言語の関係について正しく理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中国が他民族多言語の国であることを理解している。(2) 中国語の歴史区分と方言区分について簡単に説明できる。(3) 国際音声字母で表記された現代中国語の音声を自分の口で再現できる。(4) 中国語の音節構造について簡単に説明できる。(5) 漢字の歴史段階、書体、字書史について簡単に説明できる。(6) 中国の文字規範化の歴史と現状について簡単に説明できる。思考・判断の観点：(1) 中国語を言語学的に分析する基本的姿勢を認識し、発音と文字については運用もできる。(2) 言語と文字の違いがわかる。(3) 中国語を母語たる日本語と比べ、似たところと違うところについて指摘することができる。関心・意欲の観点：(1) 授業で習ったことを自らの学習上の問題と結びつけることができる。(2) 教科書や、それに対する教員のコメントを検証し、批判することができる。態度の観点：2/3 以上出席する。

授業の計画(全体) 教科書の「序」から第3章までを講読する。受講者は毎回、授業の内容と関連した小レポートを提出し、学期末には授業の内容と関連したレポートを提出する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序 内容 中国語を言語学的に扱うということ
- 第 2 回 項目 第 1 章 中国と中国語(1) 1.1 内容 多言語国家・中国
- 第 3 回 項目 第 1 章 中国と中国語(2) 1.2, 1.3 内容 中国語の歴史区分と地理区分
- 第 4 回 項目 第 1 章 中国と中国語(3) 1.4 内容 日本語と中国語
- 第 5 回 項目 第 2 章 中国語の音声(1) 2.1~2.4 内容 音声学の基礎(1)
- 第 6 回 項目 第 2 章 中国語の音声(2) 2.1~2.4 内容 音声学の基礎(2)
- 第 7 回 項目 第 2 章 中国語の音声(3) 2.5, 2.6, 2.9, 2.10 内容 日中母音比較
- 第 8 回 項目 第 2 章 中国語の音声(4) 2.5, 2.7 内容 日中子音比較
- 第 9 回 項目 第 2 章 中国語の音声(5) 2.8, 2.11~2.14 内容 声調・音節・四呼
- 第 10 回 項目 第 2 章 中国語の音声(6) 2.15 内容 変調・軽声・児化
- 第 11 回 項目 第 3 章 中国語の文字(1) 3.1, 3.2 内容 漢字の起源と変遷
- 第 12 回 項目 第 3 章 中国語の文字(2) 3.3 内容 漢字の仕組み、字書
- 第 13 回 項目 第 3 章 中国語の文字(3) 3.4 内容 文字改革、現代における漢字の生態
- 第 14 回 項目 第 3 章 中国語の文字(4) 3.4 内容 第 13 週の続き；総まとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 毎回の小レポート(20%)と学期末レポート(80%)とによって評価をする。出席が授業回数の2/3に満たない者は、たとえレポートを提出しても成績評価の対象とはしない(単位を与えない)。ただし出席そのものは成績評価の対象ではないので、全部の回に出席してもレポートの評価いかににより単位を与えない場合がある。

教科書・参考書 教科書：中国語学概論，王占華、一木達彦、苞山武義，駿河台出版社，2004年 / 参考書：教科書各章の「参考文献」の他、授業中に示すもの。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 中国語学に関して最低限踏まえておくべきことがらを講義します。中国語学の分野で卒論を書くことを考えている学生は、できれば二年生のうちに必ず受講してください。中国文学、言語学などに関心を寄せる広範な学生の受講も歓迎します。

授業の一般目標 (1) 言語学の考え方を認識し、言語生活を言語学的に反省する態度と手法を身に付ける。(2) 中国語を外国語として見る態度を確立する。(3) 中国語の文法・語彙・表現の特質について初歩的な知識を得る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 中国語の語彙と文法の研究方法の基本的手法について理解する。(2) 中国語の品詞分類、文法関係の分類、文の分類について簡単に説明できる。(3) 中国語の語彙の特色について、例を挙げながら簡単に説明できる。(4) 日本語と比べての中国語の特徴を、文法・語彙・表現の点において理解する。 思考・判断の観点：中国語の語彙と文法の特徴について、なぜそうであるのかを、文字と発音の特徴とも関連付けて考えることができる。 関心・意欲の観点：(1) 授業で習ったことを自らの学習上の問題と結びつけることができる。(2) 教科書や、それに対する教員のコメントを検証し、批判することができる。 態度の観点：2/3 以上出席する。

授業の計画(全体) 教科書の第4章から第6章までを講読する。受講者は毎回、授業の内容と関連した小レポートを提出し、学期末には授業の内容と関連したレポートを提出する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 4 章 中国語の文法(1)
- 第 2 回 項目 第 4 章 中国語の文法(2)
- 第 3 回 項目 第 4 章 中国語の文法(3)
- 第 4 回 項目 第 4 章 中国語の文法(4)
- 第 5 回 項目 第 4 章 中国語の文法(5)
- 第 6 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(1)
- 第 7 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(2)
- 第 8 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(3)
- 第 9 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(4)
- 第 10 回 項目 第 5 章 中国語の語彙(5)
- 第 11 回 項目 復習
- 第 12 回 項目 第 6 章 中国語の表現(1)
- 第 13 回 項目 第 6 章 中国語の表現(2)
- 第 14 回 項目 第 6 章 中国語の表現(3)
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 毎回の小レポート(20%)と学期末レポート(80%)とによって評価をする。出席が授業回数の2/3に満たない者は、たとえレポートを提出しても成績評価の対象とはしない(単位を与えない)。ただし出席そのものは成績評価の対象ではないので、全部の回に出席してもレポートの評価いかんにより単位を与えない場合がありうる。

教科書・参考書 教科書：中国語学概論, 王占華、一木達彦、苞山武義, 駿河台出版社, 2004年 / 参考書：参考書備考：教科書各章の「参考文献」の他、授業中に示すもの。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語の音韻学に関する知識を、わかりやすく解説する。直音・反切など中国の伝統的な表音法、古代の韻書や韻図を見て字音を求める方法などを、実際に作業をしながら学んでいく。 / 検索キーワード 中国語 音韻

授業の一般目標 中国語の音韻学に関する基礎知識を学び、漢字の発音について一層深い理解ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国の伝統的な発音表示法を知る。中国語の音韻に関する基本的術語が理解できる。韻書や韻図などの仕組みが理解できる。思考・判断の観点：中国の伝統的な方法で表示された字音がわかる。韻書等で字を引くことができる。関心・意欲の観点：漢字の発音や中国語音韻学について関心を持ち、調査・考察することができる。

授業の計画（全体）中国語の音韻学に関する基礎知識を、簡単な序説から始めて順々に解説していく。理解を深めるために、反切の実例から表示された音を求めたり、韻書や韻図で字を調べたりなど、授業中に適宜作業を織り交ぜていくつもりである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序説（1）内容 中国の目録学について
- 第 2 回 項目 序説（2）内容 「小学」について
- 第 3 回 項目 中国の伝統的表音法（1）内容 漢字について
- 第 4 回 項目 中国の伝統的表音法（2）内容 中国語の音節構造と表音法
- 第 5 回 項目 中国の伝統的表音法（3）内容 反切以前の表音法
- 第 6 回 項目 中国の伝統的表音法（4）内容 反切の読み方
- 第 7 回 項目 韻書（1）内容 韻書の始まり
- 第 8 回 項目 韻書（2）内容 韻書を引く
- 第 9 回 項目 韻書（3）内容 漢詩の押韻について
- 第 10 回 項目 等韻（1）内容 等韻学の始まり
- 第 11 回 項目 等韻（2）内容 韻図のしくみ
- 第 12 回 項目 等韻（3）内容 韻図のしくみ
- 第 13 回 項目 発音を調べる（1）内容 漢字の中古音を調べる
- 第 14 回 項目 発音を調べる（2）内容 漢字の中古音を調べる
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合）期末に課すレポートの成績を主とし、授業への参加度も加味して評価する。全体の3分の1以上欠席した者は成績評価の対象としない。

教科書・参考書 教科書：授業中にプリントを配布する。 / 参考書：音韻のはなし、李思敬、光生館、1987年；中国文化叢書1言語、牛島徳次ほか、大修館書店、1967年；辞書の発明、大島正二、三省堂、1997年；中国語語音史、佐藤昭、白帝社、2002年；中国語で書かれた参考文献については、『中国語学習ハンドブック』等を参照のこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 同じ担当者による前期開設の「中国語学特殊講義」の内容に引き続き、中国語音韻学の基本知識を講義する。本講義では、漢詩(近体詩)の韻律(平仄のきまり)からはじめて、『中原音韻』など、中国語の近世音を反映する韻書について、宋代頃から特に盛んになった上古音(『詩経』の頃の音韻)の研究についての概略を述べる。 / 検索キーワード 中国語 音韻

授業の一般目標 中国語音韻学に関して基礎的知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 唐代以降の中国語音韻学史についてその概略を知っている。 関心・意欲の観点： 中国語の音韻やその研究史について関心を持ち、自主的な学習・考察ができる。

授業の計画(全体) 前期の授業に引き続き、中国語の音韻学について、その時代・研究資料等に関する基礎的な知識を順次紹介していく。まず、近体詩の平仄の説明から初めて、近世音を反映する韻書についてや、『詩経』の押韻や形声文字の構造についての基本的知識を持ってもらい、合わせて、漢字の近世音や上古音を調べることのできる辞典などを紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序説 内容 前期のまとめ
- 第 2 回 項目 平仄(1) 内容 漢詩の平仄について
- 第 3 回 項目 平仄(2) 内容 漢字の平仄を調べる
- 第 4 回 項目 近世音(1) 内容 『中原音韻』について
- 第 5 回 項目 近世音(2) 内容 『中原音韻』の音系
- 第 6 回 項目 近世音(3) 内容 『中原音韻』の声調
- 第 7 回 項目 近世音(4) 内容 『中原音韻』以後の音韻変化について
- 第 8 回 項目 復習とまとめ
- 第 9 回 項目 上古音(1) 内容 『詩経』の押韻について
- 第 10 回 項目 上古音(2) 内容 形声文字について
- 第 11 回 項目 上古音(3) 内容 古音学の始まり
- 第 12 回 項目 上古音(4) 内容 清代の古音学
- 第 13 回 項目 上古音(5) 内容 漢字の上古音の調べ方
- 第 14 回 項目 復習とまとめ
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 学期末のレポートを主とし、授業への参加度を加味して評価する。欠席が全体の3分の1を越える者は成績評価の対象としない。

教科書・参考書 教科書： 授業中にプリントを配布する。 / 参考書： 音韻のはなし, 李思敬, 光生館, 1987年; 説文入門, 頼惟勤・説文会, 大修館書店, 1983年; 中国語音韻論, 藤堂明保, 光生館, 1980年

メッセージ 前期の同教員による同名の授業と内容的には一貫しています。前期の進行状況によって、内容が部分的に変更する可能性があります。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	竹越 孝				

授業の概要 標準語という概念がなく、ピンインや声調符号もなかった時代に、外国人はどうやって中国語会話を学んだのだろうか。この授業では、中国の元・明・清時代に相当する時期に、李氏朝鮮王朝(1392-1910)で編纂・刊行された中国語会話教科書類を素材として、当時外交・貿易上の必要性から中国語を学んだ外国人はどのようにして話し言葉としての中国語を習得したか、そしてまた彼らが学んだ中国語とはどのようなものであったか、という問題を論じる。

授業の一般目標 朝鮮半島における中国語教育史を概観することを通じて、東アジアの諸民族が中国語をどのように捉え、どのように学んできたかが理解できる。また、そこに反映した近世中国語の諸特徴とその通時的变化について考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1) 現代中国語の前段階としての「近世中国語」という概念を理解することができる。 2) 朝鮮半島において中国語会話教科書が必要とされる歴史的背景について理解することができる。 3) 李氏朝鮮王朝期における中国語会話教科書類の構成としくみについて理解することができる。 思考・判断の観点： 1) 中国語会話教科書類の改訂状況から近世中国語の音韻的・文法的变化について考察することができる。 2) 中国語会話教科書類に反映された近世中国語の諸特徴について考察することができる。 3) 広く塞外文献が近世中国語研究において持つ意義を実感することができる。

授業の計画(全体) 朝鮮半島における中国語教育史とその近世中国語史上における意義を概観することを目的として、以下のようなトピックを取り上げる。なお、必要に応じてハングルの転写練習を行うが、朝鮮語に関する予備知識は必要としない。 1. はじめに 現代中国語ができるまで 2. かつて中国語を学んだ人々 3. 朝鮮半島と中国大陸 4. 司訳院の中国語会話教科書 5. 『老乞大』と『朴通事』 6. ハングルによる中国語音表記法 7. 改訂に反映した音韻の変化 8. 改訂に反映した文法の変化 9. 朝鮮資料の中の中国語 10. おわりに 外国人の学んだ中国語

成績評価方法(総合) 平常点及びレポートによる。授業への出席を 50%、授業において指示したレポートを 50%として評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。教材はプリントを配布する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

備考 集中授業

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。 / 検索キーワード 中国語 漢語 方言

授業の一般目標 (1) 中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。 技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。

授業の計画(全体) この授業は、受講者が共同して、テキストの日本語訳を完成させることを目指す。授業では、その回の発表担当者を事前に決める。発表担当者は、発表日までの間に、テキストの担当部分を日本語に訳しておく。授業において、担当者は自分の作ってきた訳をプリントして授業参加者に配り、担当部分を一文ずつ中国語で音読したあと、該当箇所の日本語訳について説明していく。発表担当者以外の受講者は発表について質問し、あるいは意見を述べ、あるいはより良い日本語訳を提案する。授業が終わった後、発表者は授業の場に出た意見や提案を反映して訳を訂正してこれをレポートとし、教員に提出する(これが成績評価の主な対象となる)。

成績評価方法(総合) レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

授業の概要 周振鶴、游汝傑著「方言与中国文化」を読む。 / 検索キーワード 漢語 方言 普通話

授業の一般目標 (1) 中国語の方言の形成史と、その文化的背景について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 中国語の方言の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 中国語の方言の成立に文化的諸要素がどのように関わったかを説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。 技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を的確に日本語に訳すことができる。

授業の計画(全体) この授業は、受講者が共同して、テキストの日本語訳を完成させることを目指す。授業では、その回の発表担当者を事前に決める。発表担当者は、発表日までの間に、テキストの担当部分を日本語に訳しておく。授業において、担当者は自分の作ってきた訳をプリントして授業参加者に配り、担当部分を一文ずつ中国語で音読したあと、該当箇所の日本語訳について説明していく。発表担当者以外の受講者は発表について質問し、あるいは意見を述べ、あるいはより良い日本語訳を提案する。授業が終わった後、発表者は授業の場に出た意見や提案を反映して訳を訂正してこれをレポートとし、教員に提出する(これが成績評価の主な対象となる)。

成績評価方法(総合) レポート(上記「授業計画」を参照)の提出を課する。いわゆる出席点はない。全体の2/3以上出席しない学生には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：講師が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文研究棟 516 室 研究室に行けば必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00



開設科目	中国語学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

授業の概要 中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。日本人が中級程度の中国語の読解と文法を学ぶために編集された教科書、或いは中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国語で書かれた教科書を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。 / 検索キーワード 中国語 文法

授業の一般目標 中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。 関心・意欲の観点：中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 中国語文法の特徴や特色ある表現について述べた教科書を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国語文法について学ぶ。受講者には、毎回の学習部分の音読・翻訳・練習問題への解答等を課す。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：初回の授業で受講者と相談の上、教科書を決定します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

授業の概要 前期の授業に引き続き、中国語の文法と特徴ある表現について文献を読解しつつ学ぶ。中級の閲読用テキスト或いは中国語を学ぶ外国人を対象に現代中国で編集された教科書を選んで講読し、中国語文法に関する知識を身につけるとともに、現代中国語の読解能力を高める。 / 検索キーワード 中国語 文法

授業の一般目標 中国語の文法及び特徴的表現形式について一定の理解を得させ、あわせて現代中国語で書かれた語学関係の文献の読解能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国語文法の特徴及び特徴ある表現形式のいくつかを知る。初級レベルでは学ばない現代中国語の表現形式のいくつかをマスターする。 思考・判断の観点：現代中国語の文章が読解できる。 関心・意欲の観点：中国語文法について関心を持ち、自主的に学習できる。

授業の計画(全体) 中国語文法の特徴や特色ある表現について述べた現代中国の学者の著作を講読し、適宜補足説明を加えることにより、中国語文法について学ぶ。受講者には、毎回の講読部分の音読・翻訳・練習問題への解答等を課す。講読文献は、前期の授業に引き続いた内容とする。

成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：初回授業で、使用テキストを決定します。 / 参考書：授業中に適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 中国古代から清朝まで( 民国以前 )の文学について概観する。 中国文学は「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画( 全体 ) 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。

成績評価方法 (総合) 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

開設科目	中国文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 「中国文学史 I」に引き続き，中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。

授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して，基本的知識を得，個々の作品の読解を通じて，中国文化に対する理解を深めること。

授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら，宋詞，近世の演劇・小説，元・明・清の文学等について言及する予定。

成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。

教科書・参考書 教科書：中国文学概論，岩城秀夫，朋友書店

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拝の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。/ 検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 包拯の伝記 内容 宋史を読む。
- 第 2 回 項目 南宋時代の包拯 伝説 内容 新編醉翁談録を読む。
- 第 3 回 項目 元時代の包拯伝説 内容 元曲選を読む。
- 第 4 回 項目 明時代の包拯伝説 (1) 内容 説唱詞話を読む。
- 第 5 回 項目 明時代の包拯伝説 (2) 内容 百家公案を読む。
- 第 6 回 項目 明時代の包拯伝説 (3) 内容 龍図公案を読む。
- 第 7 回 項目 清時代の包拯伝説 (1) 内容 石派書を読む。
- 第 8 回 項目 清時代の包拯伝説 (2) 内容 龍図耳録を読む。
- 第 9 回 項目 現代の包拯伝説 (1) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 10 回 項目 現代の包拯伝説 (2) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 11 回 項目 包拯の経典 内容 包公明聖經を読む。
- 第 12 回 項目 包拯の祠廟 内容 広東・陳州の包公廟を紹介する。
- 第 13 回 項目 包拯の祠廟 内容 浙江の包公廟を紹介する。
- 第 14 回 項目 包拯の祠廟 内容 湖南・江西の包公廟を紹介する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 包拯伝説の伝播についてまとめる。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開，阿部泰記著，汲古書院，2004 年；中国の公案小説，莊司格一著，研文出版，1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

教科書・参考書 参考書：包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年；中国の公案小説, 莊司格一著, 研文出版, 1988 年；阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野澤 俊敬				

**授業の概要** 21 世紀に入って国境を越えた人的交流がさらに増大しつつある今日、それにもなつて異文化摩擦も日常的に起こっている。その異文化摩擦を引き起こしている原因のひとつが、外国人＝異文化を持つ他者に対するステレオタイプの決めつけである。近年、特に中国との人的交流が急速に拡大しているが、中国においても、日本においても、相手についてのステレオタイプの理解に起因するトラブルが後を絶たない。隣国の中国の人々の目に日本人はどのように映っているのだろうか。また、我々日本人は中国人についてどのようなイメージを抱いているのであろうか。昨年 4 月に中国各地で起こった「反日デモ」や日本における「反中」観や「嫌中」感の増大の背景としては、そうした相手に対する偏った見方が双方に広まりつつあるということが考えられる。この講義では、1930 年代から今日に至るまでの中国映画と日本映画の中から、日本人が登場する中国映画と中国人が登場する日本映画を時代順に並行して取り上げ、それぞれの日本人像と中国人像の典型的な描かれ方を紹介する。そこにステレオタイプの描写が認められる場合は、当時の歴史背景、政治情勢、社会状況、教育内容などについて様々な角度から分析し、そのステレオタイプが形成された原因を追究する。そして、そのステレオタイプの理解が現在にまで影響を及ぼしている場合は、それを是正する方策を探り、21 世紀における日本と中国の望ましい共生のあり方を展望してみたい。/ 検索キーワード 映画、異文化理解、ステレオタイプ、日中関係

**授業の一般目標** (1) 隣国である日本と中国の間で、相手の国民・民族に対するイメージがどのようなかを知り、そこに偏見や誤解が認められる場合に、その原因を時代背景や社会状況などから考える。(2) 日本人として、同時代を生きる中国人といかなる関係を築いてゆくかについて、自分自身の問題として考える。(3) グローバル時代における異文化理解の重要性を考える。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点： 1 . 中国映画に描かれた日本人像と日本映画に描かれた中国人像を通して、時代背景と社会状況などを知り、日中関係の歴史についての理解を深める。 思考・判断の観点： 1 . それぞれの国の映画になぜステレオタイプの描写が生まれて定着していったのかを様々な角度から考察する。 関心・意欲の観点： 1 . 隣国である中国に対する関心を強め、さらに広く深く知ろうとする意欲をもつ。 態度の観点： 1 . 日本と中国の間の誤解や摩擦に対して、相手の立場からも問題を考えることを通して、客観的かつ公平な物の見方を身につける。

**授業の計画** (全体) 1920 年代後半から現在に至るまでに作られた中国映画と日本映画の中から、日本人が登場する中国映画と中国人が登場する日本映画を選び、特徴的な描き方や典型的な場面を紹介する。講義は講師による映像資料とそれに関連する文献資料の提示、分析を中心に進められるが、受講者にも意見を求め、部分的に討論形式もとりいれて行う。2、3 回ごとに感想や疑問を短いレポートにして提出してもらう。

**授業計画** (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 無声映画時代の中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 2 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 3 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 4 回 項目 1920 年代から 1937 年までの中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 5 回 項目 1920 年代から 1937 年までの日本映画 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 6 回 項目 日中戦争時代の中国映画 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 7 回 項目 日中戦争時代の日本映画 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 8 回 項目 満州映画 内容 満州映画の中の中国人と日本人
- 第 9 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 10 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 中国映画に描かれた日本人
- 第 11 回 項目 戦後から日中国交正常化まで 内容 日本映画に描かれた中国人
- 第 12 回 項目 国交回復時期から 80 年代 内容 中国映画に描かれた日本人

第13回 項目 国交回復時期から80年代 内容 日本映画に描かれた中国人

第14回 項目 90年代から現在 内容 中国映画に描かれた日本人

第15回 項目 90年代から現在 内容 日本映画に描かれた中国人

成績評価方法(総合) (1) 2, 3回ごとに提出させる短いレポートを評価の対象とする。(2) 討論における意見を評価の対象とする。(3) 最後に全体を通してのまとめと自分で作品と課題を選んだレポートを提出させる。

教科書・参考書 教科書: プリントを配布する。/ 参考書: アジア映画に見る日本 I, 門間貴志, 社会評論社, 1995年; 外国映画にみるアジア・太平洋戦争, 柚木浩, 三一書房, 1995年; <鬼子>たちの肖像, 武田雅哉, 中公新書, 2005年; 中国映画の100年, 佐藤忠男, 二玄社, 2006年; スクリーンの中の中国・台湾・香港, 戸張東夫, 丸善ブックス, 1996年

メッセージ 講義は受講生に感想や意見を求めつつ進めてゆきます。受講生には自分の考えを積極的に述べるよう期待します。

連絡先・オフィスアワー nozawa@imc.hokudai.ac.jp

備考 集中授業



開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。

授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。

授業の計画（全体） 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。

教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。/ 検索キーワード 物語、語り物、演劇

授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。

授業の計画(全体) 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。

成績評価方法(総合) 予習による評価。ノート提出。

教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。/ 参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

授業の概要 本授業は初級中国語を終了、もしくはそれに準ずるレベルの学生を対象とするクラスで、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかも知れないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。/ 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 第一回 【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価など説明する レベル確認の練習をして、その後テキスト、授業計画、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバス、など説明、レベル確認の練習をする
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回 内容 口述試験

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間小テストを行う。4、最後に試験を実施する。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業ガイダンス時に小テストをして、学生全般のレベルなどによって教科書を決める。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した、その教科書を流暢に読める能力は最低限度必要である。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟3F 田研究室 tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00~18:00

開設科目	中国語演習(会話)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

授業の概要 前期に続けて通年のクラスである。発音、語彙、文法などの整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかもしれないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。 / 検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法できる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分に理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 後期授業が開始 内容 前期の内容に続ける
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回 内容 口述試験

成績評価方法(総合) 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間テストを行う。4、最後に口述試験を実施する。

教科書・参考書 教科書：前期の教科書と同じ。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した、その教科書を流暢に読める能力は最低限度必要である。前期中国語演習(会話)も履修するのが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟3F 田研究室 tian@yamaguchi-uac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 ~ 18:00

開設科目	中国語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田 梅				

授業の概要 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、作文で正確の表現能力を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、文型を身につけて、訳文、作文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 第一回【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価などを説明する レベル確認の練習をして、それによってテキスト、参考書を決める。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバスなどを説明とレベル確認の練習をする。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 前期筆記試験

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教科書は一回目受講生の中国語レベルの練習チェックによって決める。

メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。 受動的ではなく、積極的に学習意欲を持つことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟 3 F 田研究室 tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 18:00

開設科目	中国語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田 梅				

授業の概要 前期に引き続き、自分の感情や考えを正しく表現できるように一層の実力アップを目指す。  
(授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。) / 検索キーワード 中国語、短文、作文

授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：慣用語、句型を身につけて、訳文、作文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

授業の計画(全体) 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 内容 前期の内容に続ける(シラバスを説明する)。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 後期の筆記試験をする

成績評価方法(総合) 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習(作文)も履修した者が望ましい。

連絡先・オフィスアワー 共通教育棟3F 田研究室 tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・火曜日 16:00 18:00



開設科目	中国語演習(時事中国語)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林 宇萍				

授業の概要 中国の現代生活に関して概説し、中国語の応用能力を向上させる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、勉強の仕方、シラバスの説明、成績評価の方法など。
- 第 2 回 項目 第一課 内容 世界海拔最高の鉄路
- 第 3 回 項目 第二課 内容 中国前衛芸術之窺見
- 第 4 回 項目 第三課 内容 文革：40 年后的回憶
- 第 5 回 項目 第四課 内容 微軟在中国
- 第 6 回 項目 第五課 内容 中国大学之現状 1
- 第 7 回 項目 第五課 内容 中国大学之現状 2
- 第 8 回 項目 第六課 内容 大城市花絮 1
- 第 9 回 項目 第六課 内容 大城市花絮 2
- 第 10 回 項目 第七課 内容 中国的日本人博客
- 第 11 回 項目 第八課 内容 快到奧運了...
- 第 12 回 項目 第九課 内容 四菜一湯... 1
- 第 13 回 項目 第九課 内容 四菜一湯... 2
- 第 14 回 項目 第十課 内容 一花難表全中国 1
- 第 15 回 項目 第十課 内容 一花難表全中国 2

教科書・参考書 教科書：セレクト 10 時事中国語, , 朝日出版社, 2007 年

開設科目	中国事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林 宇萍				

授業の概要 中国の風俗・習慣などについて概説する。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法など。
- 第 2 回 項目 中国の国土と人口 内容 面積・人口、行政区域、民族など。
- 第 3 回 項目 中国人の姓名 1 内容 『百家姓』
- 第 4 回 項目 中国人の姓名 2 内容 姓名の歴史、文化内涵
- 第 5 回 項目 中国人の食事 内容 八大菜系
- 第 6 回 項目 中国のお茶 内容 種類と名産
- 第 7 回 項目 中国のお酒 内容 種類と名産
- 第 8 回 項目 中国の節日 1 内容 伝統節日
- 第 9 回 項目 中国の節日 2 内容 法定節日
- 第 10 回 項目 中国の演劇 1 内容 京劇
- 第 11 回 項目 中国の演劇 2 内容 地方劇
- 第 12 回 項目 中国人の倫理・道徳 内容 伝統美德
- 第 13 回 項目 中国の絵画と書法
- 第 14 回 項目 中国の名所・旧跡 内容 七つの都、樓台園林、文化遺産
- 第 15 回 項目 中国の医学 内容 漢方と養生

教科書・参考書 参考書：中国節日, 韋黎明, 五洲伝播出版社, 2005 年；中国文化への誘い, 桂小蘭等, 郁文堂, 2007 年

言語文化学科 アジア言語学コース

開設科目	言語学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 『言語学とは?』というテーマで講義を行う。1年次生には、先ずもって「言語学とは何を学ぶ学問か」が理解できないと思う。従って、本講義では言語学が扱う対象について具体例を挙げながら説明し、言語学が明らかにしようとしているものは何かについてアプローチしていく。具体的には、英語には複数形として [s],[z],[iz] があるが、これらがどのような規則に基づいて使い分けられているのか、また「君と会った」と「君にあった」は、どのように異なるのかなどの考察を通して、「言語学」が求めるものについて明らかにする。/ 検索キーワード 音韻, 統語, 意味, 言語能力

授業の一般目標 言語学概論は一年次から受講可能である。従って一番の目標は、受講者に対して言語への興味を喚起することである。そのために受講者に身近な言語現象を講義の対象にする。これらの現象を通して、「言語構造」を探っていく。つまり、現象の背後に見え隠れする言語という抽象的な仕組みを明らかにすることを講義の目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：説明を聞いて理解できること。 思考・判断の観点：理解するために自分で考えることができるか、また自分で問題を見付けることができるか。 関心・意欲の観点：身近な現象に興味を持てるか。 態度の観点：自ら考えようとしているか。 技能・表現の観点：理解したこと、考えたことを文章化できること。

授業の計画(全体) テキスト『言語学とは?』(自家版)に沿って講義を進めていく。先ず音韻論的な現象に目をむけ(材料は、英語, 日本語)次に、単語の部分と全体の関係、曖昧文、形式名詞「こと」と「の」の違い、助詞「と」と「に」の違いについて検討する。最後に、このような仕組みを持つ言語とそれを作り出している人間の頭脳との関わりについて考察する。

成績評価方法(総合) 定期試験 80%、宿題・授業外レポート 20%。

メッセージ 講義をよく聴くこと。言語学は受身的態度では理解できない。

連絡先・オフィスアワー Office: Jinbun 617, e-mail: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 形態論に関する講義を行う。文は、単語を有意味な順序に配列することによって、構成される。形態論においても、同様のことが言える。一般に複雑な単語は、複数の要素が規則的に配列されることによって造られる。その規則をデータから導き出すことが形態論の重要な仕事である。前期は、形態論についての説明、さらに形態論全体の考え方について講義する。 / 検索キーワード 形態論, 形態素, 単語, 複合名詞

授業の一般目標 単語の形態的特徴, 単語形成における規則についての理解。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教科書を読んで理解できること。 思考・判断の観点: 科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 関心・意欲の観点: 日本語だけでなく、英語をはじめとするその他の言語の単語構造にまで興味が広がるように。 技能・表現の観点: 考えた事を第三者に分かるように文章化する。

授業の計画(全体) 先ず形態論について、教科書を中心に講義をすすめる。教科書には参照文献、練習問題も付いているので、受講生には練習問題に取り組むこと、関連する文献を読むことも要求される。

成績評価方法(総合) 学期末試験を中心にする(70%)。授業外レポートと授業への参加状況(30%)。

教科書・参考書 教科書: 形態論と意味, 影山太郎, くろしお出版, 1999 年

メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話しを聞き、その時間の中で内容が理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 後期は、「肩叩き」「人助け」のように「名詞+動詞連用形」の形を持つ複合名詞について考察する。焦点となるのは、動詞連用形の中に組み込まれる第1項の名詞の性格である。これらの名詞には文法的に共通の特徴が認められることを明らかにする。 / 検索キーワード 名詞+動詞連用形, 複合名詞, 語構成, 語形成

授業の一般目標 データの提示能力と分析能力の向上を図る。その結果をどう整理して論文化するかを訓練する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: テキストを読んで、理解できること。 思考・判断の観点: 科学的に考察できること。 関心・意欲の観点: 日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 態度の観点: 積極的に授業に参加し、自分自身の見解を述べること。

授業の計画(全体) 授業の内容について理解が得られたかどうかを確認しながら、次に進んでいく。講義で使う論文を講義前に読んでおくことが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。講義はこの目的を果たすために、受講生の学習態度、理解度などを見ながら行う。

成績評価方法(総合) 内容についてのレポートを2回程提出してもらう(30%)。更に学期末試験を行う(70%)。

教科書・参考書 教科書: Hirano, Takanori 2002 Compound nouns of the type NVn in Japanese. Gengo Kenkyu 121, 19-48.

メッセージ 予習をしていくことが前提。内容をその講義の中で理解すること。理解しにくいところは質問すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp, Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和田学				

授業の概要 言語学は、人間の言語を科学的に解明することを目指す分野です。この講義では、言語学が何を対象とするか、どのような議論の方法を採るかについて講義します。

授業の一般目標 現代言語学が何を、どのように解明する分野か概要を理解します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学の対象、議論の方法を学びます。 思考・判断の観点：講義における課題に基づいて、自分で議論を組み立てます。 態度の観点：出席、課題の不提出は欠格事項とします。

授業の計画（全体） 主に、日本語の事例を中心に言語学の目的と方法論について講義をします。また、講義に関連した課題を毎回レポートとして課します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 言語学は何をする学問か
- 第 2 回 項目 言語理論の特徴 内容 観察の理論依存性
- 第 3 回 項目 言語理論の特徴 内容 観察の理論依存性
- 第 4 回 項目 言語理論の特徴 内容 パズル解きとしての言語研究
- 第 5 回 項目 言語理論の特徴 内容 パズル解きとしての言語研究
- 第 6 回 項目 言語理論の特徴 内容 妥当性の 3 段階
- 第 7 回 項目 言語理論の特徴 内容 妥当性の 3 段階
- 第 8 回 項目 言語理論の特徴 内容 言語の再構の例から学ぶこと
- 第 9 回 項目 言語学におけるデータ 内容 抽象的構造
- 第 10 回 項目 言語学におけるデータ 内容 抽象的構造
- 第 11 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データの意味
- 第 12 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データの意味
- 第 13 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データ収集の問題点
- 第 14 回 項目 言語学におけるデータ 内容 データ収集の問題点
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合） 言語学が科学であるというのとはどういうことかが理解できているか、定期試験で測ります。レポートの課題で「思考・判断」を、また出席、課題の提出で「態度」を測ります。

教科書・参考書 参考書：言語学の方法, 郡司隆男・坂本勉, 岩波書店, 1999 年

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	和田学				

授業の概要 この授業では日本語を題材に、文の構造にどのような要素があるか、また、それらが相互にどのように関連しているかを学びます。

授業の一般目標 この授業を通じて、文の分析に必要な基礎概念を学びます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文の分析にどのような基礎概念が必要で、なぜそれが必要かを学びます。 思考・判断の観点：授業の内容に即してレポートを適宜課します。 態度の観点：出席、宿題の不提出は欠格事項となります。

授業の計画（全体）日本語の例を中心に、文の分析に必要な基礎概念を学ぶ。適宜レポートを課す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入 内容 文法とは何か
- 第 2 回 項目 言語表現における構造
- 第 3 回 項目 文の基本構造
- 第 4 回 項目 単文と複文
- 第 5 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 格
- 第 6 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 ヴォイス
- 第 7 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 テンス
- 第 8 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 アスペクト
- 第 9 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 モダリティ
- 第 10 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 演述文、情意表出文
- 第 11 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 訴え文、疑問文
- 第 12 回 項目 述語成分と補足成分における基礎概念 内容 感嘆文
- 第 13 回 項目 対照言語学的観点 内容 格、ヴォイスについて
- 第 14 回 項目 対象言語学的観点 内容 モダリティについて
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法（総合）定期試験とレポートの内容で成績を評価する。欠席、レポートの不提出は欠格事項。

教科書・参考書 参考書：文法, 益岡隆志、仁田義雄、郡司隆男、金水敏, 岩波書店, 1997 年



開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田寛人				

授業の概要 1870年代から1945年に至る時期における日本人に対する朝鮮語教育の歴史を詳細に紹介する。そして、それを材料にしながら、(1)社会言語学研究の観点から言語権の問題(少数言語を維持する権利、および大言語を習得する権利)について考える。(2)日本語教育史研究の成果にもとづいて、日本人が朝鮮人に日本語を教えることの意味を考える。(3)朝鮮近代史研究の成果にもとづいて、植民地近代の問題(「収奪論」と「施恵論」)について考える。(4)朝鮮語教育史研究の成果にもとづいて、日本人が朝鮮語を学ぶことの意味を考える。

授業の一般目標 社会言語学的な観点から、「言語とは何か」について理解を深める。言語を教えること/学ぶこと背景にあるイデオロギーなどについて理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 講義の内容を理解する 思考・判断の観点: 講義の内容を自分自身の経験や知識と結びつけて考える 関心・意欲の観点: 講義内容に対する質問や感想を述べることによって関心・意欲を高める 態度の観点: 講義を聞く 技能・表現の観点: 理解し、考えた内容を文章で表現し伝える

授業の計画(全体) 国家と言語の関係を理解し、社会言語学的な観点から、日本人に対する朝鮮語教育史の実態を詳細に検討していく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 講義の方法と内容、評価の方法など
- 第2回 項目 この言語を日本語で何と呼ぶか 内容 国家と言語の関係について考える
- 第3回 項目 この言語を朝鮮語で何と呼ぶか 内容 翻訳の不可能性と、翻訳の意味
- 第4回 項目 朝鮮語教育機関の設置と廃止(1) 内容 日本人の朝鮮語観。現代の朝鮮語教育と、戦前の朝鮮語教育との関連
- 第5回 項目 朝鮮語教育機関の設置と廃止(2) 内容 植民地化によって「外国語」ではなくなる朝鮮語
- 第6回 項目 朝鮮語教師 内容 朝鮮語を教えていた朝鮮人教師、日本人教師の経歴や教育の実態
- 第7回 項目 朝鮮語学習書 内容 戦前に発行された朝鮮語の学習書や辞書の発行状況や内容の特徴
- 第8回 項目 日本語教育(1) 内容 「国語」としての日本語、「方言」としての朝鮮語
- 第9回 項目 日本語教育(2) 内容 「強制的」か「自主的」か
- 第10回 項目 1930年朝鮮国勢調査の語学力に関する調査結果 内容 朝鮮人の日本語運用能力と、日本人の朝鮮語運用能力の比較
- 第11回 項目 日本人教員に対する朝鮮語教育 内容 朝鮮人児童の初等教育機関で教えていた日本人教員に対する朝鮮語教育
- 第12回 項目 日本人警察官に対する朝鮮語教育 内容 支配と言語能力の関係
- 第13回 項目 朝鮮語奨励試験 内容 国家主導による言語学習奨励の実態
- 第14回 項目 日本人金融組合理事に対する朝鮮語教育 内容 朝鮮語を話す日本人に対する、朝鮮人の意識
- 第15回 項目 まとめ 内容 全体を通じて理解すべき問題点の整理

成績評価方法(総合) 毎回の講義終了後に、質問や感想などを中心とした短いレポートを作成させて、講義に対する理解度を確認する。期末試験によって、講義内容が理解できているか、講義内容と自分自身の経験や知識とを結びつけて考えることができるか、そのことを正確に伝えることができるか、を評価する。

備考 集中授業

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	江口正				

**授業の概要** 現代日本語（方言も含む）の副詞節の分析を題材に、統語論・意味論の研究手法を学びます。副詞節の研究のためには、述語の諸性質（テンス・アスペクト・ムード・視点など）をはじめ、主語の問題、命題間の論理的諸関係、副詞的修飾の意味論的諸問題など、文法研究で扱われる問題の多くが関わります。本講義では例を示したり各自で例文を考えてもらったりしながら文法的な分析の実際を知り、グループ作業を通してその基礎技術を身につけてもらうことを目標とします。

**授業の一般目標** 本講義の基本的な目標は、文法分析に必要な例文の収集・整理および作例の作成ができるようになることです。文法研究においては、まず基礎事実の確認のため、用例を収集し整理することが必要です。特に用例の整理のためにはさまざまな文法的な観点が必要になりますので、その観点を学んでもらうのが第一の目標です。整理の段階で何らかの規則性が見つかったら、次にそれを一般化するために例文（特に非文）を自ら作り、その規則性の是非を示すことができるようになる必要があります。文法的な性質を明らかにできるような例文を作れるようになることが第二の目標です。

**授業の計画（全体）** まず初めに文法研究の基本的な目標を明らかにし、講義で扱う従属節／副詞節についての概説をします。（1～2時間程度）次に文法的な分析のための基本的な観点を紹介します。（3時間程度）分析の道具が揃ったら副詞節を個別に取り上げてゆき、実際に分析を加えていきます。それぞれの分析結果は小レポートとして毎日提出してもらいます。

**成績評価方法（総合）** 毎日講義が終わった後に、その日の作業と考察の記録をまとめ、小レポートとして提出してもらいます。これを主たる評価の対象とします。（70％）授業は講義をしながらもときどきグループ作業をしてもらいますので、出席およびグループ作業でのグループへの貢献度も評価の対象とします。（30％）

**備考** 集中授業

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

**授業の概要** 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り

**授業の一般目標** 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。思考・判断の観点：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。関心・意欲の観点：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。態度の観点：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。技能・表現の観点：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

**授業の計画** (全体) 上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

**成績評価方法** (総合) 主に授業内レポートと学期末課題レポートおよび出席により評価する。

**教科書・参考書** 教科書：未定 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 國分康孝ほか, 図書文化, 1999年; エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part 2, 國分康孝ほか, 図書文化, 2001年

**メッセージ** 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性などについても追求する。日本語教師・国語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。/ 検索キーワード 参加、体験、振り返り、分かち合い

授業の一般目標 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。思考・判断の観点：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、る言葉について、その意味・用法を考える。関心・意欲の観点：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。態度の観点：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。技能・表現の観点：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。その他の観点：外国人留学生と日本人学生の交流を促進する

授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。

成績評価方法（総合）出席、レポートを重視し、テストは行なわない。

教科書・参考書 教科書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集 Part2, 林伸一, 図書文化, 2001 年 / 参考書：未定

メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 現代英語に関する、時制とアスペクトに関するトピックを扱う。

授業の一般目標 日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時制とアスペクトに関する基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。 関心・意欲の観点：一見するとありふれた用例について、疑問を持ち探求できる。 技能・表現の観点：日本語で書かれた専門文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で用例を用いて簡潔に説明できる。

授業の計画（全体）日本語で書かれたテキストを用いる。未来時制と進行形を主として取り上げる予定であるが、授業時に次週の予定指示するので、必ず予習をし疑問点を整理して授業に臨むこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明と、進行形についての講義

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験の成績と授業時の質問レポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書： テンスとアスペクトの語法, 柏野 健次, 開拓社, 1999 年

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 長い言語研究の流れの中に生成文法を位置づけ、音韻論・形態論・統語論・意味論・言語獲得の基本概念を、主に日本語のデータをもとに、丁寧に解説する。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。また、日本語の分析を通じて、生成文法理論にどのような貢献ができるのかを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、日本語と英語の基本的な分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。

授業の計画（全体） 1．ことばの本質、2．ことばの獲得、3．音としてのことば、4．語彙と辞書、5．文の仕組み、6．語の意味と文の意味、といった6つのテーマについて論じる。

成績評価方法（総合）各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書：生成言語学入門, 井上和子・原田かず子・阿部泰明, 大修館, 1999年 / 参考書：チョムスキー小事典, 今井邦彦編, 大修館書店, 1986年；日本語文法小事典, 井上和子編, 大修館, 1989年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 柴谷・影山・田守『言語の構造 - 意味・統語篇』を教科書にして、音声学・音韻論を除く言語学全般について具体例を交えながら学習する。この学期は、意味論とは何か、意味の分解、語と語の関係 I: 単語のグループ的な関係、語と語の関係 II: 単語のグループを文になるように並べる関係、文と情報、語用論：言葉の使い方、を演習によって理解する。 / 検索キーワード 意味論、統語論、語用論

授業の一般目標 1. 具体例を見ながら、説明を理解すること。2. 練習問題を自分で解く。3. 言語学の他の分野にも関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：統語論、意味論、語用論における基礎的知識。思考・判断の観点：言語の意味、文の本質、話し手・聞き手のコミュニケーションについて問題を掘下げる能力。関心・意欲の観点：言語構造の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をして来るということを意味する。

授業の計画（全体）音声学・音韻論を除く言語学全般について具体例を交えながら学習する。この学期は、意味論とは何か、意味の分解、語と語の関係 I: 単語のグループ的な関係、語と語の関係 II: 単語のグループを文になるように並べる関係、文と情報、語用論：言葉の使い方

成績評価方法（総合）試験 50%、演習内容とレポート 50%。

教科書・参考書 教科書：言語の構造 - 意味・統語篇, 柴谷・影山・田守, くろしお, 1982 年

メッセージ 理解するためには、演習の部分を毎回最低 2 回は読むつもりで。

連絡先・オフィスアワー Mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 柴谷・影山・田守『言語と構造 - 意味・統語篇』を使って主に統語論を学習する。この学期は次のことに焦点を置き、演習形式で授業を進める。統語論とは何か、文の構造、表層構造と深層構造、統語現象 I, 統語現象 II, である。難しいと思われるところは省略している。/ 検索キーワード 文、階層関係、協調の原理

授業の一般目標 1 . 説明を理解する。 2 . 練習問題を自分で解く。 3 . 興味の範囲を広げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語学における統語論、文の形成と理解。 思考・判断の観点：文には意味を正しく伝えるための構造があることを、テキストの説明と練習問題によって理解する。内容を理解した上で、文の構造の分析へと進むことが大切。まず自分で考えること。 関心・意欲の観点：統語論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。 態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をして来るということである。

授業の計画(全体) この学期は、次のことについて学習する。統語論とは何か、文の構造、表層構造と深層構造、統語現象 I, 統語現象 II。

成績評価方法(総合) 試験 50%、演習内容 50%。

教科書・参考書 教科書：言語の構造, 柴谷・影山・田守, くろしお, 1982 年

メッセージ 必ず予習をすること。

連絡先・オフィスアワー Mail address: hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 617



開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 ここでは、とりたて助詞「は」について取扱う。この学期では、久野 氏の『日本文法研究』を使って、「は」の働きについて理解する。とりたて助詞「は」と並行して、「が」の機能についても学ぶ。  
 / 検索キーワード は, が, 主題, 対照, 中立叙述, 総記

授業の一般目標 「は」には、発話される状況によって二つの意味があることを理解する。そしてそのときの条件について吟味する。「は」の二つの意味、つまり「主題の意味」と「対照的意味」がどのような文脈において発現するかを考える。また、同時に「が」についても考察する。「は」の働き、「が」の働きについて言語学的に理解することが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教科書の内容の理解。 思考・判断の観点：なぜそうなるのかを考える。

授業の計画（全体）教科書は日本語で書かれているが、英語版もある。必要な章を読みこなし、理解できたかを確認しながら、更に次の章へと進んでいく。もし理解できないところがあれば、英語版を参照しながら授業を進める。最初は「が」の働きについて、その後「は」の働きについて、久野氏の説明に基づいて理解を深める。

成績評価方法（総合）試験 70%、レポート 30%。

教科書・参考書 教科書：日本文法研究, 久野 , 大修館, 1973 年

メッセージ 必ず予習をしてくること。そして、発表できるように準備すること。

連絡先・オフィスアワー e-mail:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Jinbun 6F, 617

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

授業の概要 この学期では、前期に引続き、「は」の働きについて考察する。前期で得た知識に基づいて、「は」の「主題的意味」と「対照的意味」について、「この二つの意味がどのようにして導き出されるのか」を検討する。結論としては、主題的意味が基本であり、その根底には、前景化という「とりたて」機能が備わっている。この機能に、どのような条件が加われば対照的意味が発現するのかを探求する。／検索キーワード は、主題, 対照, 総記。

授業の一般目標 「は」の意味を解明するためには、どう考えればよいのか。言語学的な考え方に基づいた解答を期待する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 内容の理解。 思考・判断の観点： 内容を理解するために言語学的に考察する。 態度の観点： 日頃の予習と復習を重視する。

授業の計画（全体） 拙論の「八の主題的意味と対照的意味」(未発表)をテキストにする。受講生に対して、これを読みながら内容を理解するように、また内容について十分考察できるように仕向けていく。

成績評価方法 (総合) 試験 100%。

メッセージ 予習、復習を必ず。こちらも受講生に分かりやすいように、工夫する。

連絡先・オフィスアワー e-mail:hirano01@yamaguchi-u.ac.jp Office:人文 617 研究室

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

授業の概要 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。 / 検索キーワード 文章力、質問力、表現力

授業の一般目標 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、引用の仕方 2、図や表のタイトルのつけかた 3、参考文献の示し方 思考・判断の観点： 1、一般論と具体例を区別する 2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える 3、説得力のある文章を考える 関心・意欲の観点： 1、自分の関心・意欲を明確にする 2、前向きに困難に対処する 3、目標を立てて動機付けする 態度の観点： 1、積極的に授業に参加する 2、わからないことをそのままにしないで調べる 3、不明な点は質問する 技能・表現の観点： 1、口頭での発表力をつける 2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける 3、コンピューターを使いこなす

授業の計画（全体） 上記の目標達成のため、授業を対話的に進める

成績評価方法（総合） 授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：質問力：話し上手はここがちがう、齋藤孝著、筑摩書房、2003年；齋藤孝（2003）『質問力』筑摩書房

メッセージ 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるう。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日：11時～12時 携帯：090-6415-8203

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

授業の概要 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。 / 検索キーワード 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力

授業の一般目標 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。 2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。 3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。 4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。 5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ 態度の観点：前期に同じ 技能・表現の観点：前期に同じ

授業の計画（全体）上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。

成績評価方法（総合）前期に同じ

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布

メッセージ 興味、関心を形にする。

連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。

授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

授業の計画（全体） 1 回に 5 ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方。教材とする論文紹介。 授業外指示 授業の進捗に合わせて毎回指示します。

第 2 回 項目 演習 内容 論文の内容について、受講生を順に指名しながら解説・演習を行う

第 3 回 内容 以下同様

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験が 90 パーセント、授業時の演習 10 パーセントの割合で評価します。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語と日本語の派生や複合といった語形成、および、それに伴うアクセントの変化などについて考える。

授業の一般目標 ただなんとなく暗記しているように思える語の形(つづり字)や発音・アクセントの中に、どのような法則が隠れているのかを発見する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語形成と音韻の相互作用を理解する。 思考・判断の観点：可能な語形と不可能な語形、アクセントの配置、などを予測・説明できるようになる。 関心・意欲の観点：アクセントや語形成の法則を自らも解明しようとする。 技能・表現の観点：理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それをわかりやすく指摘・発表できるようになる。

授業の計画(全体) まず、英語と日本語の派生語に関するトピックス(例えば、「～する人」を表す英語の接尾辞には-er, -or, -ist などがあるが、どのように使い分けるのか、など)を取り上げる。次に、英語と日本語の複合語に関するトピックス(例えば、どのような場合に或る複合語のアクセントが標準的な複合語アクセントパターンから外れるのか、など)を取り上げる。

成績評価方法(総合) 授業内での発表や小テスト、および、課題レポートの出来具合などによって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化学科 英語学・英米文学コース

開設科目	現代英米語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語学・言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。同時に、英文法の基本的かつ重要なトピックスを厳選したサブテキストを用いて、英文法の要点を今一度学ぶ時間にもしたい(授業のはじめの20分をこれに充てる)。

授業の一般目標 英語学研究(そして英語教員になるため)に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。また、英語のネイティブスピーカーの「感覚」を理解しながら、英語の運用に欠かせない英文法のエッセンスをしっかりと掴む。思考・判断の観点: ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。関心・意欲の観点: 英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。態度の観点: 「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。技能・表現の観点: 本文の英文読解や付属のCDの聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Why Study English Linguistics 内容 英語言語学とはどのような分野であり、どのような研究がなされてきたのかを紹介する。授業外指示 Comprehension Check と Exercises をやる。サブテキストを1課ずつ読む。
- 第 2 回 項目 How English Has Changed over the Centuries / サブテキスト第1課 内容 英語の歴史を解説する。 / 前置詞について 授業外指示 "
- 第 3 回 項目 How Words Are Made: Morphology / サブテキスト第2課 内容 語がどのようにして作られるのかを考える。 / 冠詞について 授業外指示 "
- 第 4 回 項目 How Words Mean: Semantics I / サブテキスト第3課 内容 語の意味について考える。 / 指示詞について 授業外指示 "
- 第 5 回 項目 How English Phrases Are Formed: Syntax I / サブテキスト第4課 内容 文を形作る規則について考える。 / 現在完了について 授業外指示 "
- 第 6 回 項目 How English Sentences Are Formed: Syntax II / サブテキスト第5課 内容 " / 進行形について 授業外指示 "
- 第 7 回 項目 How Sentences Mean: Semantics II / サブテキスト第6課 内容 文の意味について考える。 / -ing について 授業外指示 "
- 第 8 回 項目 How to Communicate with Other People: Pragmatics / サブテキスト第7課 内容 会話の原則について考える。 / 未来表現について 授業外指示 "
- 第 9 回 項目 The Sounds of English: Phonetics and Phonology / サブテキスト第8課 内容 英語の音声・音韻的特徴を捉える。 / 助動詞について 授業外指示 "
- 第 10 回 項目 Regional Varieties of English: Sociolinguistics I / サブテキスト第9課 内容 英語の方言について考える。 / 丁寧・婉曲表現について 授業外指示 "
- 第 11 回 項目 English in Society: Sociolinguistics II / サブテキスト第10課 内容 " / 仮定法について 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 How English Is Acquired: Psycholinguistics / サブテキスト第11課 内容 子供の言語習得について考える。 / 動詞・英単語について 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired: Applied Linguistics / サブテキスト第12課 内容 外国語としての英語の習得について考える。 / 文型について 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 まとめ1 内容 教科書の分かりにくかった箇所を補足する。 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 まとめ2 内容 " 授業外指示 "



成績評価方法 (総合) 毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。また、サブテキストに関連した簡単なテストを随時行う。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ期末評点から減点する。

教科書・参考書 教科書： First Steps in English Linguistics, 影山太郎他, くろしお出版, 2004 年； <サブテキスト> ハートで感じる英文法, 大西泰斗, ポール・マクベイ, 日本放送出版協会, 2005 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代英米語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えているのかを考える時間にもしたい。

授業の一般目標 日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個別性と普遍性を考える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。 思考・判断の観点：知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。 関心・意欲の観点：広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。 態度の観点：「語とそのアクセント（発音）は暗記するもの」という考え方を捨て去る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 英語音声学の基礎（1） 内容 英語の母音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 配布したプリントの図と同じように調音できるようにする。
- 第 2 回 項目 英語音声学の基礎（2） 内容 英語の子音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 "
- 第 3 回 項目 英語音声学の基礎（3） 内容 英語のつづり字と発音の関係について解説する。授業外指示 配布資料の課題を解く。
- 第 4 回 項目 日英語の分節音韻論 内容 母音や子音の体系を解説する。授業外指示 教科書第 1 章を読んでおく。
- 第 5 回 項目 " 内容 母音や子音の変化の法則を説明する。授業外指示 "
- 第 6 回 項目 " 内容 母音や子音の変化に関わる制約について論じる。授業外指示 "
- 第 7 回 項目 日英語の語形成 内容 可能な語を生み出すメカニズムを説明する。授業外指示 "
- 第 8 回 項目 日英語の音節構造 内容 日英語の音節構造について解説する。授業外指示 教科書第 2 章を読んでおく。
- 第 9 回 項目 " 内容 日英語の音節構造の真の違いについて論じる。授業外指示 "
- 第 10 回 項目 日英語の韻律 内容 リズム等の問題を取り上げる。また、韻律が生み出す言語文化について論じる。授業外指示 教科書第 3 章を読んでおく。
- 第 11 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの相違について説明する。授業外指示 教科書第 4 章を読んでおく。
- 第 12 回 項目 " 内容 日英語のアクセントの共通性について論じる。授業外指示 "
- 第 13 回 項目 文強勢について 内容 英語の文のアクセントについて解説する。授業外指示 配布プリントを読んでおく。
- 第 14 回 項目 方言による発音の違いについて 内容 イギリス英語、アメリカ英語、オーストラリア英語の発音の特徴を解説する。授業外指示 "
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき期末試験から 5 点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書：音韻構造とアクセント，窪園晴夫・太田聡，研究社，1998 年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語を学び始めたときから誰もが感じる英語に関する素朴な疑問を歴史的に解き明かす。例えば、「規則変化のほかに不規則変化があるのはなぜか」「keep,deep のように e が二つならイーと読むのに、kept, depth のように 1 つならエであるのはなぜか」など、最初に疑問点を列挙して、半年後にはそれが説明できるようにする。英語を話す民族の動向をビデオ教材を通じて理解する。 / 検索キーワード 英語史

授業の一般目標 現代英語に関する疑問を共有し、それらを歴史的に説明できるようになる。英語の成立から、現代英語までの概略を把握する。英語を話す民族の動向に関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語とその言語を話す民族の歴史の概略を把握する。現代英語に対して感じる疑問点を歴史的に説明できる。 関心・意欲の観点：英語に対する素朴な疑問点を再確認し、それを歴史的に解明する意欲を持つ。 態度の観点：英語の発達の背景を知り、国際的な視点と態度を身につける。

授業の計画（全体） 学生と教員から出された「英語に関する素朴な疑問」への歴史的な説明をする。テキストを用いた講義に適宜ビデオ教材を交えて進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 英語に関する素朴な疑問について
- 第 2 回 項目 英語の外史
- 第 3 回 項目 借入語
- 第 4 回 項目 発音の変化
- 第 5 回 項目 屈折の単純化
- 第 6 回 項目 屈折の単純化
- 第 7 回 項目 屈折の単純化
- 第 8 回 項目 屈折の単純化
- 第 9 回 項目 統語法の発達
- 第 10 回 項目 統語法の発達
- 第 11 回 項目 統語法の発達
- 第 12 回 項目 統語法の発達
- 第 13 回 項目 統語法の発達
- 第 14 回 項目 質疑応答
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 期末試験によって評価する。また、欠席は、原則として 2 回を超えると欠格とする。

教科書・参考書 教科書：『英語史入門』, 安藤貞雄, 開拓社, 2002 年 ; 教科書は、文栄堂（大学前）で販売予定。

開設科目	英語生成文法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

**授業の概要** 生成文法と呼ばれる文法理論の基本的考え方を概説する。高校までに習った学習英文法は、受動文では目的語が主語位置に移動し、WH 疑問文では WH 疑問詞が文頭に移動することを教えてくれる。しかしながら、それは何故かという疑問に対して学習英文法は何も答えてくれない。このような問いに答えることにより、ことばの仕組みを明らかにしようと試みる文法理論が生成文法である。授業では、生成文法の枠組みにおいて、学習英文法では教えてくれない英語の特徴を考察する。 / 検索キーワード 英語、生成文法、ことばの仕組み、文法理論

**授業の一般目標** 生成文法における言語分析を通して、英語についての理解を深め、また、科学的思考法を身につける。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：英語の主要な構文の特徴を説明できる。 思考・判断の観点：表面的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

**授業の計画（全体）** 先ず、生成文法の枠組みを概説し、その後、その枠組みを使って英語を分析していく。取り上げるトピックは、主語・助動詞倒置、否定文、時制、モダリティ、アスペクト、動詞の意味、受動文等々である。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価法について説明する
- 第 2 回 項目 文法の枠組み (1) 内容 文には抽象的構造が存在することについて説明する。
- 第 3 回 項目 文法の枠組み (2) 内容 英語の主語・助動詞倒置現象について説明する。
- 第 4 回 項目 文法の枠組み (3) 内容 英語の否定文について説明する。
- 第 5 回 項目 文法の枠組み (4) 内容 文の基本的構造を決定する規則 X' 理論について説明する。
- 第 6 回 項目 文法の枠組み (5) 内容 CP, IP, DP 構造について説明する。
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 テスト返却・解説
- 第 9 回 項目 時と時制 内容 時制の統語特性と意味解釈について説明する、
- 第 10 回 項目 ムードとモダリティ 内容 法助動詞と命令文について説明する。
- 第 11 回 項目 アスペクト 内容 動詞の意味分類について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞のクラスと交替現象 内容 自動詞の分類、使役文、二重目的語文について説明する。
- 第 13 回 項目 名詞句移動 内容 受動文と繰り上げ文について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間試験と期末試験）の結果に基づいて評価する。

**教科書・参考書** 教科書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年；プリントも随時配布する。

**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

**備考** 集中授業

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 現代英語に関する、時制とアスペクトに関するトピックを扱う。

授業の一般目標 日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようにする。問題意識を持って毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時制とアスペクトに関する基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。 関心・意欲の観点：一見するとありふれた用例について、疑問を持ち探求できる。 技能・表現の観点：日本語で書かれた専門文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で用例を用いて簡潔に説明できる。

授業の計画（全体）日本語で書かれたテキストを用いる。未来時制と進行形を主として取り上げる予定であるが、授業時に次週の予定指示するので、必ず予習をし疑問点を整理して授業に臨むこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方の説明と、進行形についての講義

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験の成績と授業時の質問レポートにより評価する。

教科書・参考書 教科書： テンスとアスペクトの語法, 柏野 健次, 開拓社, 1999 年

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 生成文法の主に統語理論の発展(標準理論 G B 理論 ミニマリスト・プログラム)について解説する。

授業の一般目標 生成文法研究の展開を理解し、高度な専門論文も読みこなすための基礎力を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点: 生成統語理論に基づいて、英語の主要構文の基本的分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点: ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特徴などにも関心を寄せる。

授業の計画(全体) 1. 生成文法理論の目標、2. 統語論の基礎(いわゆる標準理論)、3. G B 理論、4. ミニマリスト・プログラム、といった4つのテーマやトピックを扱う。

成績評価方法(総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で主に評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書: 生成文法の新展開, 中村捷・金子義明・菊池朗, 研究社, 2001年 / 参考書: 英語の構文, 田中智之・寺田寛, 英潮社, 2004年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 長い言語研究の流れの中に生成文法を位置づけ、音韻論・形態論・統語論・意味論・言語獲得の基本概念を、主に日本語のデータをもとに、丁寧に解説する。

授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。また、日本語の分析を通じて、生成文法理論にどのような貢献ができるのかを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、日本語と英語の基本的な分析が行えるようになる。 関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。

授業の計画（全体） 1．ことばの本質、2．ことばの獲得、3．音としてのことば、4．語彙と辞書、5．文の仕組み、6．語の意味と文の意味、といった6つのテーマについて論じる。

成績評価方法（総合）各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は1回につき5点減点とする。

教科書・参考書 教科書：生成言語学入門, 井上和子・原田かず子・阿部泰明, 大修館, 1999年 / 参考書：チョムスキー小事典, 今井邦彦編, 大修館書店, 1986年；日本語文法小事典, 井上和子編, 大修館, 1989年

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西岡 宣明				

授業の概要 生成文法の枠組みに基づき、英語(あるいは言語一般)の中にある規則性を明らかにする。具体的には、英語の否定文とそれに関わる諸現象に焦点をあて、生成文法の基本的専門用語についての説明を加えながら、どのような原理が働いているのか、いかに分析すべきであるのかを解説する。

授業の一般目標 英語の文法現象・事実を再確認する。そして、それらがいかに一般的な原理によって捉えられるのかを理解し、分析の方法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語の文法規則と事実を確認する。 思考・判断の観点：論理的な分析の方法を理解する。 関心・意欲の観点：異なる現象の背後にある一般性を理解する。

授業の計画(全体) 1. 英語の構造、2. 英語否定文の構造、3. 否定現象とその分析、4. 日本語の構造と否定文の構造、5. 英語の多重 wh 疑問文のテーマについて生成文法の枠組みでの先行研究の紹介と批判、代案について論じる。

成績評価方法(総合) 試験あるいはレポートにより評価する。また、出席と授業への取り組み方も重視する。

教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年; 西岡宣明著『英語否定文の統語論研究 素性照合と介在効果』2007 年、くろしお出版、中村捷、金子義明、菊地朗著『生成文法の新展開』2001 年、研究社

備考 集中授業



開設科目	英語学演習(文法と意味)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。

授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。さまざまな現象を理論的に整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

授業の計画(全体) 1回に5ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第1回 項目 イントロダクション 内容 授業の進め方。教材とする論文紹介。 授業外指示 授業の進捗に合わせて毎回指示します。

第2回 項目 演習 内容 論文の内容について、受講生を順に指名しながら解説・演習を行う

第3回 内容 以下同様

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

成績評価方法(総合) 期末試験が90パーセント、授業時の演習10パーセントの割合で評価します。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

連絡先・オフィスアワー iwabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習(形態と音声)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語と日本語の派生や複合といった語形成、および、それに伴うアクセントの変化などについて考える。

授業の一般目標 ただなんとなく暗記しているように思える語の形(つづり字)や発音・アクセントの中に、どのような法則が隠れているのかを発見する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 語形成と音韻の相互作用を理解する。 思考・判断の観点: 可能な語形と不可能な語形、アクセントの配置、などを予測・説明できるようになる。 関心・意欲の観点: アクセントや語形成の法則を自らも解明しようとする。 技能・表現の観点: 理論の内容を理解するのみならず、問題点などにも気づき、それをわかりやすく指摘・発表できるようになる。

授業の計画(全体) まず、英語と日本語の派生語に関するトピックス(例えば、「～する人」を表す英語の接尾辞には-er, -or, -ist などがあるが、どのように使い分けるのか、など)を取り上げる。次に、英語と日本語の複合語に関するトピックス(例えば、どのような場合に或る複合語のアクセントが標準的な複合語アクセントパターンから外れるのか、など)を取り上げる。

成績評価方法(総合) 授業内での発表や小テスト、および、課題レポートの出来具合などによって総合的に評価する。出席を重視し、欠席1回につき期末評点から5点ずつ減点する。

教科書・参考書 教科書: 適宜プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

授業の概要 英語学・言語学（特に生成音韻論）の基本文献を読む。

授業の一般目標 英文で書かれた専門文献を正確に読み解けるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門用語、専門論文的表現を理解し、身につける。 思考・判断の観点：専門論文の精読を通して、内容理解のみならず、そこに含まれる矛盾点や問題点にも気づくようにする。 関心・意欲の観点：専門用語等は、単に英和辞典で訳を見るだけでなく、専門の用語辞典等で内容を調べるようにする。

授業の計画（全体） まず、日本語で書かれた文献を基に、2, 3 回にわたって生成音韻論の基本的概念等の解説を行う。そしてその後、生成音韻論の代表的な英文論文を、演習形式で読みこなしていく。

成績評価方法（総合） 授業時の発表内容・態度や訳の正確さ、宿題の課題の出来具合、出席状況などで総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	アメリカ文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 17 世紀初頭から 19 世紀中頃までのアメリカ文学の流れを概説する。アメリカ文学の時代背景、文化にとどまらず、世界文学の歴史とも照らし合わせ、世界におけるアメリカ文学の位置づけについても解説する。

授業の一般目標 アメリカ文学についての基礎的な知識を得る。アメリカ文学の作家と作品に対する興味を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ文学の主要な作家と作品、さらに文学の基本的な用語について説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ文学の作家・作品の多様性を通して、アメリカの文化、そして文学というものについて考える。 関心・意欲の観点：アメリカ文学の様々な作家と作品に興味を持つ。授業で扱わない作品についても積極的に読む。

授業の計画（全体） 指定テキストに沿って講義を進めるが、テキストに記述されている内容全てに言及するわけではない。また、テキストの内容のみでは不十分だと思われる部分では、そのつど補足すべき点に言及する。重要と思われる作品については、その作品からの引用など、参考資料を配布し、より深くその作品と作者の魅力に迫りたい。

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書： An Outline of American Literature., Peter B. High, Longman

開設科目	アメリカ文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾 麻弥				

授業の概要 アメリカ文学史 I の続き。19 世紀中頃から 20 世紀前半までのアメリカ文学の流れを概説する。アメリカ文学の時代背景、文化にとどまらず、世界文学の歴史とも照らし合わせ、世界におけるアメリカ文学の位置づけについても解説する。

授業の一般目標 アメリカ文学についての基礎的な知識を得る。アメリカ文学の作家と作品に対する興味を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ文学の主要な作家と作品、さらに文学の基本的な用語について説明できる。 思考・判断の観点：アメリカ文学の作家・作品の多様性を通して、アメリカの文化、そして文学というものについて考える。 関心・意欲の観点：アメリカ文学の様々な作家と作品に興味を持つ。授業で扱わない作品についても積極的に読む。

授業の計画（全体） 指定テキストに沿って講義を進めるが、テキストに記述されている内容全てに言及するわけではない。また、テキストの内容のみでは不十分だと思われる部分では、そのつど補足すべき点に言及する。重要と思われる作品については、その作品からの引用など、参考資料を配布し、より深くその作品と作者の魅力に迫りたい。テキストには載っていない現代の作家の、現在の活動などについても触れる。

成績評価方法（総合） 期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：An Outline of American Literature., Peter B. High, Longman

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 前後期を通して、イギリス 19 世紀に活躍した小説家 George Eliot についての講義を行う。前期は主として作家活動の前半期に書かれた作品群について考察する。 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 George Eliot の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 19 世紀イギリスの社会的・文学的背景、及びその中における George Eliot の位置について導入的な解説を行った後、前半期の諸作品について各々数回程度で講義する。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：配布資料を用いる。 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 予め配布された各種資料には目を通してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 前後期を通して、イギリス 19 世紀に活躍した小説家 George Eliot についての講義を行う。後期は主として作家活動の後半期に書かれた作品群について考察する。 / 検索キーワード George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 George Eliot の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 前期に引き続き、George Eliot の後半期の諸作品について各々数回程度で講義する。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：配布資料を用いる。 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 予め配布された各種資料には目を通してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 輪番形式で発表担当者を定め、学生の予習発表を基に英米文学を読む演習を行います。イギリス現代作家マーガレット・ドラブルの作品を使用します。

授業の一般目標 英語による文学を批評的に鑑賞する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英文の構造や、談話状況などを正しく把握する。 思考・判断の観点： 作家の洞察を読み、現代の私たちの問題と比較して考察する。 態度の観点： 他人の発表を受け身で聞かず、積極的に討論に持ち込む。 技能・表現の観点： 輪番発表時に、効果的な言語表現で持論を説明する。

授業の計画（全体） 日本人大学生向けの注釈がついた版で、1 回 10～14 ページ読み進めます。

成績評価方法（総合） 5 回以上の欠席は自動的に不可評定となります。当番時の発表内容評価が 70 %、討論への参加・貢献度が 30 %。期末の筆記試験やレポートは実施しません。

教科書・参考書 教科書： The Millstone, Margaret Drabble, 英潮社ペンギン, 1977 年； 生協で購入。



開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 輪番形式で発表担当者を定め、学生の予習発表を基に英米文学を読む演習を行います。イギリス現代作家ミュリエル・スパークの作品を使用します。

授業の一般目標 英語による文学を批評的に鑑賞する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 英文の構造や、談話状況などを正しく把握する。 思考・判断の観点： 作家の洞察を読み、現代の私たちの問題と比較して考察する。 態度の観点： 他人の発表を受け身で聞かず、積極的に討論に持ち込む。 技能・表現の観点： 輪番発表時に、効果的な言語表現で持論を説明する。

授業の計画（全体） ペーパーバック版で、1回10ページ弱読み進めます。

成績評価方法（総合） 5回以上の欠席は自動的に不可評定となります。当番時の発表内容評価が70%、討論への参加・貢献度が30%。期末の筆記試験やレポートは実施しません。

教科書・参考書 教科書： The Driver's Seat, Muriel Spark, New Directions, 1994年；生協で購入。

開設科目	英米文学演習(小説)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19世紀イギリスの小説家 Anthony Trollope の『The Warden』を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Anthony Trollope、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Anthony Trollope の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画(全体) 前期はテキストの 3 分の 2 まで読み進める予定である。最初はスローペースで読み始め、徐々にスピードを上げていく。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法(総合) (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：『The Warden』, Anthony Trollope, Penguin, 1984 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Anthony Trollope の *The Warden* を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。 / 検索キーワード Anthony Trollope、英国小説、ヴィクトリア朝

授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Anthony Trollope の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点：小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。

授業の計画（全体） 後期の約 3 分の 2 ほどでテキストの残り 3 分の 1 を読了し、その後でこの作品に関する論文を読む。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。

成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： *The Warden*, Anthony Trollope, Penguin, 1984 年 / 参考書：授業の中で紹介する。

メッセージ 一年間を通して一人の作家に取り組むため、前後期を通して受講すること。 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習（詩・劇）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中 晉				

授業の概要 シェイクスピアの四大悲劇の一つ『マクベス』を読む。緊密な構成、力強い筆致のうちに緊迫した展開を示す本作品を精読し、すぐれた詩文の妙味を感得する。/ 検索キーワード シェイクスピア、四大悲劇、マクベス、バーナムの森

授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピア詩劇の特質を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。 思考・判断の観点：名将でありながら野望ゆえに王を殺害したマクベスと、マクベス夫人の心理の軌跡を通して、シェイクスピアの人間洞察の深さを学ぶ。 関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。

授業の計画（全体） 前期は第1幕、2幕、3幕3場までを読む。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書：Macbeth, Shakespeare, 研究社；研究社小英文叢書 Macbeth（中島文雄注釈）を使用する。山口大学生協（大学会館内）で販売する。/ 参考書：辞書やその他の文献は授業において言及する。ビデオ教材も併用する。

開設科目	英米文学演習(詩・劇)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中晋				

授業の概要 前期に同じ / 検索キーワード シェイクスピア、四大悲劇、マクベス、バーナムの森

授業の一般目標 前期に同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ

授業の計画(全体) 後期は第3幕4場から最終幕5幕まで読了する。

成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席、受講態度)を加味する。

教科書・参考書 教科書：Macbeth, Shakespeare, 研究社；研究社小英文叢書 Macbeth(中島文雄注釈)を使用する。山口大学生協ブックセンター(大学会館内)で販売する。 / 参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。ビデオ教材も併用する。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 英語文学作品を訳読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。アメリカ 20 世紀作家たち (Charles Baxter, Alice Adams, Raymond Carver) の短編小説を読みこなす。 / 検索キーワード 短編 アメリカ小説

授業の一般目標 大意把握的な速読では培えない、正確な英語読解力を養成する。英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。

授業の計画 (全体) 15 週間で、3 つの短編小説を輪番形式で読み上げる。全部で約 50 ページ。 発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。

成績評価方法 (総合) 当番時の発表の出来具合 + 筆記試験 + 授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。

教科書・参考書 教科書：最新アメリカ珠玉短篇集, 岩山太次郎 他編, 開文社出版, 1992 年; 大学生協にて購入。 / 参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること (電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので)

メッセージ まずは構文理解と文法知識の再確認を優先します。作品鑑賞は学期末試験で。

連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

授業の概要 英語文学作品を訳読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。イギリス系 19 世紀末から 20 世紀初頭の女性作家たち (Mary Lamb, Katherine Mansfield, Elizabeth Gaskell) の短編小説を読みこなす。 / 検索キーワード 短編 英国系小説

授業の一般目標 大意把握的な速読では培えない、正確な英語読解力を養成する。英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。

授業の計画 (全体) 15 週間で、4 つの短編小説を輪番形式で読み上げる。全部で約 60 ページ。 発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。

成績評価方法 (総合) 当番時の発表の出来具合 + 筆記試験 + 授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。

教科書・参考書 教科書： 女流短篇珠玉集, 青木庸效編, 開文社出版, 1974 年 ; 大学生協にて購入。 / 参考書： 英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること (電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので)

メッセージ まずは構文理解と文法知識の再確認を優先します。作品鑑賞は学期末試験で。

連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 F. Scott Fitzgerald の小説 The Great Gatsby(1925) を読む。

授業の一般目標 日本でもよく知られる作品であるが、その真の魅力を堪能するためには作者フィッツジェラルドの細やかな文章一つ一つを丁寧に読み取る必要がある。この授業ではそのような細やかな読みを通して、この作品を隅々まで理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文構造、語の意味を正確に把握し、正しく文章を読むことができる。 思考・判断の観点： 一つ一つの表現にこめられた作者の意図を読み解くような、創造性・想像性ある読みを試みる。 関心・意欲の観点： 小説を細かく読むことの楽しみを知る。

授業の計画（全体） 受講者のテキスト音読、日本語訳という形式ですすめる。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Great Gatsby, F.Scott Fitzgerald, Oxford Univ Press



開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾麻弥				

授業の概要 F. Scott Fitzgerald の小説 The Great Gatsby(1925) を読む。

授業の一般目標 日本でもよく知られる作品であるが、その真の魅力を堪能するためには作者フィッツジェラルドの細やかな文章一つ一つを丁寧に読み取る必要がある。この授業ではそのような細やかな読みを通して、この作品を隅々まで理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 文構造、語の意味を正確に把握し、正しく文章を読むことができる。 思考・判断の観点： 一つ一つの表現にこめられた作者の意図を読み解くような、創造性・想像性ある読みを試みる。 関心・意欲の観点： 小説を細かく読むことの楽しみを知る。

授業の計画（全体） 受講者のテキスト音読、日本語訳という形式ですすめる。

成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、授業態度等）を加味する。

教科書・参考書 教科書： The Great Gatsby, F. Scott Fitzgerald, Oxford Univ Press

開設科目	英会話（英米語2年）	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

**授業の計画（全体）** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–Youth Culture (3) Unit 2–Country and City Life (4) Unit 3–Public Figures and Celebrity (5) Unit 4–Environmental Concerns (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Early Memories (8) Unit 6–Technology (9) Unit 7–Environmental Issues (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Education (12) Unit 9–Personal Values (13) Unit 10–Society (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法（総合）** Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 %. Attitude and Participation: 20 %. Presentations: 20 %.

**教科書・参考書** 教科書：Quick Smart English Intermediate, Ken Wilson & Mary Tomalin, MacMillan Language House, 2005 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英会話（英米語2年）	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

**授業の計画（全体）** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–Advertising (3) Unit 2–Animal Rights (4) Unit 3–Art and Artists (5) Unit 4–Beauty (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Beliefs (8) Unit 6–Crime and Punishment (9) Unit 7–Discipline (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Family (12) Unit 9–Fashion (13) Unit 10–Film and TV (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法（総合）** Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

**教科書・参考書** 教科書： Ideas & Issues Intermediate, Olivia Johnston & Mark Farrell, MacMillan Language House, 2003 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英会話（他コース）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

**授業の計画（全体）** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–Youth Culture (3) Unit 2–Country and City Life (4) Unit 3–Public Figures and Celebrity (5) Unit 4–Environmental Concerns (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Early Memories (8) Unit 6–Technology (9) Unit 7–Environmental Issues (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Education (12) Unit 9–Personal Values (13) Unit 10–Society (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法（総合）** Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

**教科書・参考書** 教科書：Quick Smart English Intermediate, Ken Wilson & Mary Tomalin, MacMillan Language House, 2005 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英会話（他コース）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities. 2) Students will increase their vocabulary on different useful topics. 3) Students will learn and practice new study techniques. 4) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 5) Students will use English to make plans, and to give short presentations. 6) Students will learn how to use word and sentence stress. 7) Students will write and perform role plays in different situations, and use gestures. / 検索キーワード Communication, Role Play, Speaking, Listening.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

**授業の計画（全体）** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1–Advertising (3) Unit 2–Animal Rights (4) Unit 3–Art and Artists (5) Unit 4–Beauty (6) Role Plays/Presentations (7) Unit 5–Beliefs (8) Unit 6–Crime and Punishment (9) Unit 7–Discipline (10) Role Plays/Presentations (11) Unit 8–Family (12) Unit 9–Fashion (13) Unit 10–Film and TV (14) Review of all units. (15) Final Written and Oral Exam.

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法（総合）** Final Written and Oral Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 30 % Attitude and Participation: 20 % Presentations: 20 %

**教科書・参考書** 教科書： Ideas & Issues Intermediate, Olivia Johnston & Mark Farrell, MacMillan Language House, 2003 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英作文	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

**授業の計画 (全体)** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1– British English vs. American English (3) Unit 2–Ideas About Beauty (4) Unit 3–Movie Ratings (5) Unit 4–Creativity in Music (6) Review Activities. (7) Unit 5–The Tragedy of Echo and Narcissus (8) Unit 6–I Have A Dream (9) Unit 7–Confucius and His Writings (10) Review Activities. (11) Unit 8–Fast Food and Teen Workers (12) Unit 9–Changing Archeology (13) Unit 10–Freud and the Meaning of Dreams (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法 (総合)** Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書: College Reading Workshop 2nd Edition, Casey Malarcher, Compass Publishing, 2005 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英作文	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will read many different types of English writing as models for their own writing. 2) Useful writing skills and strategies will be reviewed and practiced. 3) Key grammar points will be reviewed and practiced. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of topics. 5) Students will learn and use new study techniques. 6) Students will also practice some speaking and listening by discussing their writing in pairs and small groups. / 検索キーワード Writing, Reading, Opinions, Communication.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their English writing and reading skills, using a variety of different types of writing.

**授業の計画 (全体)** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Writing Activities. (2) Unit 1– Introducing the Paragraph (3) Unit 2–Journal Writing (4) Unit 3–Narrating (5) Unit 4–Preparing to Write (6) Review Activities (7) Unit 5–Describing (8) Unit 6–Using Language Effectively (9) Unit 7– Analyzing Reasons (Causes) (10) Review Activities (11) Unit 8–Using Language Effectively (12) Unit 9–Analyzing Processes (13) Unit 10–Using Language Effectively (14) Review of all units. (15) Final Written Exam.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Writing Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法 (総合)** Final Written Exam: 20 % of Final Grade. Homework and Reports: 60 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書: Developing Composition Skills: Rhetoric and Grammar 2nd Edition, Mary K. Ruetten, Thomson Heinle, 2003 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	時事英語	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will improve their listening skills by listening to current news stories, and watching short, current news videos on the BBC website. 2) Students will learn and practice new study techniques. 3) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 4) Students will increase their vocabulary on a variety of current news topics. 5) Students will work together in groups to complete discussion activities. 6) Students will improve their English presentation skills. 7) Students will also improve their reading by reading current news articles. / 検索キーワード Speaking, Listening, Current Events, News Stories, Opinions.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to improve their speaking and listening skills, and to increase their vocabulary on a variety of current news topics. There will also be reading assignments for homework.

**授業の計画(全体)** (1) Course Introduction- Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1-Immigration Debate (3) Unit 2-Trade Goals (4) Unit 3-Foreign Aid (5) Unit 4-Safe Water (6) Unit 5-World Population Growth (7) Unit 6-Historic Uncle Tom's Cabin Saved (8) Unit 7-America's Changing Family (9) Unit 8-Populations Aging Worldwide (10) Unit 9-Safety for Kids on the Net (11) Unit 10-Indian Tradition and the Internet (12) Unit 11-Biofuels: An Alternative to Gasoline (13) Unit 12-Who Was Sacagawea? (14) Unit 13-Video Games (15) Final Written Exam.

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activities. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法(総合)** Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書 : CNN English Express 10: October 2008, CNN News Network, TimeWarner, 2008 年 ; Issues Now in the News, Adam Worcester, Compass Publishing, 2006 年

**メッセージ** Bring your dictionary to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	英米事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER				

**授業の概要** 1) Students will work together in groups to complete discussion activities. 2) Students will ask and answer questions, using their own opinions. 3) Students will increase their vocabulary and knowledge related to the society and culture of English-speaking countries. 4) Students will improve their reading by reading about the society and culture of English-speaking countries. 5) Students will learn and practice new study techniques. 6) Students will improve their writing by writing short reports. / 検索キーワード Speaking, Listening, Reading, Writing, English-Speaking Countries, Society, Culture.

**授業の一般目標** This course is for students who wish to learn more about daily life, society, and culture in English-speaking countries. This course includes speaking, listening, reading, and writing practice.

**授業の計画 (全体)** (1) Course Introduction– Study Skills, Warm-up Speaking Activities. (2) Unit 1– New York I (3) Unit 2–New York II (4) Unit 3–Boston (5) Unit 4–Small Towns (6) Unit 5–Yellowstone (7) Unit 6–Las Vegas (8) Unit 7–Los Angeles (9) Unit 8–Seattle (10) Unit 9–Maui (11) Unit 10–Street Performers (12) Unit 11–The American Dream (13) Unit 12–The Future (14) Unit 13–Work (15) Final Written Exam.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Course Introduction. Study Skills. Warm-up Speaking Activity. 授業外指示 Read Unit 1 and check all new vocabulary.

第 2 回 授業外指示 授業の進度に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法 (総合)** Final Written Exam: 30 % of Final Grade. Homework and Reports: 50 % Attitude and Participation: 20 %

**教科書・参考書** 教科書 : Experience America, Todd Rucynski & Scott Berlin, Kinseido, 2006 年

**メッセージ** Bring your dictionary and textbook to every class.

**連絡先・オフィスアワー** ca72@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三, 太田聡				

**授業の概要** 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導(授業時間外)が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。

**授業の一般目標** 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げること。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。他人の発表を聞いて、内容をまとめることができる。 **思考・判断の観点:** 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点:** 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点:** 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点:** 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。

**授業の計画(全体)** 事前に調整したスケジュール通りに実施する。ただし、教育実習等の関係で変更になることがある。

**成績評価方法(総合)** 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解、資料作成、プレゼンテーションを評価する。

**メッセージ** ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。  
<http://iwabe.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/oral.htm>

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三, 太田聡				

**授業の概要** 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。

**授業の一般目標** 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：** 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。他人の発表を聞いて、内容をまとめることができる。 **思考・判断の観点：** 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点：** 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点：** 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点：** 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。正しい英語でレポートを書くことができる。

**授業の計画（全体）** 前期末までに後期のスケジュール決定し、それに基づいてオーラルレポートを行う。資料も同時に配付する。

**成績評価方法（総合）** 2回のオーラルレポートとその事前指導を通じて、論文読解力、資料作成、プレゼンテーションを評価する。期末の英文レポートは卒業論文に準ずるものとし、レポートした論文内容からの発展性と、英文表現力を評価する。

**メッセージ** ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記の URL を参照のこと。  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

言語文化学科 ヨーロッパ言語・文学コース

開設科目	ヨーロッパ言語概説(ドイツ)I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語とはどのような言語なのか、どのような特徴を持っているのかといったことについて、他のヨーロッパの言語と比較しつつ、様々な点から論じていく。ドイツ語の知識は必要としない。ドイツ語以外の初習外国語を履修している(あるいは履修した)学生でも理解できるように説明していく。

授業の一般目標 ドイツ語とはどのような言語なのかについてある程度理解していると同時に、ドイツ語学あるいは言語学に興味を持っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語とはどのような言語なのかについて、ある程度理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語学、あるいは言語学に興味を持っている。

授業の計画(全体) まずドイツ語の発音と綴りについて概略を説明した後、ドイツ語の文法の様々な特徴について解説していく。

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

開設科目	ヨーロッパ言語概説(ドイツ)II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語とはどのような言語なのか、どのような特徴を持っているのかといったことについて、他のヨーロッパの言語と比較しつつ、様々な点から論じていく。ドイツ語の知識は必要としない。ドイツ語以外の初習外国語を履修している(あるいは履修した)学生でも理解できるように説明していく。

授業の一般目標 ドイツ語とはどのような言語なのかある程度理解していると同時に、ドイツ語学あるいは言語学に興味を持っている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語とはどのような言語なのかについて、ある程度理解している。 関心・意欲の観点：ドイツ語学、あるいは言語学に興味を持っている。

授業の計画(全体) できるだけ前期の授業とは違ったテーマをとりあげていく。前期の授業を受講していなかった学生がいる場合には、ドイツ語の発音と綴りについてまず簡単に説明する。

成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。

開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 現代ドイツの社会変化を言葉、特に新語という観点から分析して行きます。 / 検索キーワード 社会変化 言語変化 ドイツ語

授業の一般目標 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する理解を深め、ドイツ語の新語の造語法を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する知識を深める。

2. ドイツ語の新語の造語法を学ぶ。 思考・判断の観点： 1. 現代ドイツの社会変化が言葉にどのように反映されているかを考察する。 2. ドイツ語の発想法を知る。 関心・意欲の観点： 現代ドイツの政治・経済・社会などに対する関心を深める。

授業の計画(全体) Gesellschaft fuer deutsche Sprache(ドイツ語協会)が毎年発表する「今年のことば」を採り上げ、その背景にあるドイツの社会変化を解説します。そしてそれらのキーワードの成り立ちを分析します。

成績評価方法(総合) 授業内レポート(20%) + 学期末レポート(50%) + 授業への積極的な参加度(30%)で評価します。出席率が8割に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料を配付します。 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 日本人とドイツ人との間の異文化間コミュニケーションに関する諸問題を論じます。 / 検索  
キーワード 異文化間コミュニケーション 相互理解 誤解

授業の一般目標 日独異文化間コミュニケーションに関する知識を見につけ、異文化理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化とコミュニケーションに関する知識を習得する。 思考・判断の観点： 1 . 日独異文化間コミュニケーションにおいて、どのような問題が生じるか考察する。 2 . 問題が生じた場合の対処法を検討する。 関心・意欲の観点：文化と価値観の多様性に対する関心を深める。

授業の計画（全体） 異文化間コミュニケーションの基礎概念について解説した後、日独異文化間コミュニケーションで生じる諸問題とその背景を説明し、どうすれば異文化間コミュニケーション能力を養うことができるかを考察する。

成績評価方法（総合） 授業内レポート（20%）+ 学期末レポート（50%）+ 授業への積極的な参加度（30%）で評価します。出席率が8割に満たない場合は失格となります。

教科書・参考書 教科書：授業中に資料を配付します。 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	ヨーロッパ文学入門(ドイツ)IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

授業の概要 ドイツ近代文学史は、小説を中心に講述する。ヨーロッパ全体的な文学や文化像を少しでも概観できるように時代の芸術的・思想的な流れを表現していく作品を紹介していく。

授業の一般目標 小説という近代文学の代表的ジャンルは、語りの技法を深めながら、代々の人間の社会的・芸術的・感情的な世界を表現していく。文学の時代性や表現力などを把握し、文学の基礎的な知識を身に付けることが目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文学を理解する 関心・意欲の観点：ドイツ文学への関心を持って、講義外も作品の読書に取り組む 技能・表現の観点：講義内容や課題に対して、文章・口頭表現ができる

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業の説明、評価について
- 第 2 回 項目 小説の歴史(1)
- 第 3 回 項目 小説の歴史(2)
- 第 4 回 項目 グリンメルスハウゼン作『阿呆物語』
- 第 5 回 項目 J.G. シュナーベル著『南海の孤島フェルゼンブルク』
- 第 6 回 項目 ゲーテ作『若きウェルテルの悩み』(1)
- 第 7 回 項目 ゲーテ作『若きウェルテルの悩み』(2)
- 第 8 回 項目 教養小説(1)
- 第 9 回 項目 教養小説(2)
- 第 10 回 項目 フォンターネ作『エフィー・ブリスト』(1)
- 第 11 回 項目 フォンターネ作『エフィー・ブリスト』映画(1974/独)
- 第 12 回 項目 アルフレート・デーブリン作『ベルリン・アレクサンダー広場』
- 第 13 回 項目 戦後・現代の小説(1)
- 第 14 回 項目 戦後・現代の小説(2)
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 参考書：資料を配布する

連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 月曜日 7・8 時  
限(16:00~17:40)

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 「愚者の歴史」について講義する。

授業の一般目標 「愚者」といっても、それは今日的な意味ではなく、ヨーロッパの十八世紀末における視点からそう見えた人々のことを指す。彼ら「愚者」は黒魔術師、錬金術師、祓魔師(エクソルツィスト)(手相)占い師、異端の思想家・哲学者であったりする。講義ではこれら「愚者」の生涯をひとつひとつ取り上げて紹介する。彼らの生涯を辿ることで、啓蒙の世紀に葬られて暗闇に埋没した、隠されたヨーロッパの思想と文化を明るみに出す。我々が彼らの精神世界に立ち入ってみれば、我々の精神世界もまたひとつの「愚者」の歴史であると知るに至るだろう。

成績評価方法 (総合) レポート発表による。

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	新本 史斉				

授業の概要 「翻訳論」から読む現代日本文学、現代ドイツ文学 <翻訳>とはいったいいかなる行為なのでしょう？わたしたちは、日々、授業で、仕事で、現に翻訳を行っていながら、そもそもそこで自分が何をしているかについて、反省的思考を働かせることはほとんどないのではないのでしょうか。この講義では、人間のおこなうあらゆる行為の中でももっとも複雑なものといってよい<翻訳>という行為について 「原文と同一の内容を他の言語において再現すること」という辞書での楽天的定義とはまったく異なった視点から 考え直し、その上で、<翻訳> = 「複数の言語体系の差異を身をもって経験すること」が、いかに新たな思考可能性・表現可能性を近代文学・現代文学にもたらしてきたかについて、現代日本文学、現代ドイツ文学の中から具体的な作品を取り上げながら考えていきたいと思います。

授業の一般目標 「原作の代用品」、「こなれた日本語 = 名訳」といった固定観念から遠く離れた場所で、<翻訳>という行為に秘められている可能性についていっしょに考えていきましょう。

授業の計画(全体) 1 「翻訳」とは何か? 2 「翻訳」と近代国民言語の関係 3 「翻訳」と近代日本語の関係 4 間から立ち上がる言葉 I 「外国語文学」としての日本文学(李良枝、リービ英雄など) 5 間から立ち上がる言葉 II 「外国語文学」としてのヨーロッパ文学(多和田葉子、パウエル・ツェランなど)

成績評価方法(総合) 授業への参加(発言・レスポンス・ペーパーの提出など) 50% レポート 50%

メッセージ 資料は授業で配布します。

備考 集中授業

開設科目	ドイツ語講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語で書かれた小説を、原文で読んでいきます。

授業の一般目標 ドイツ語で書かれた小説の講読を通し、ドイツ語で書かれた小説の講読を通し、ドイツ語読解力の向上を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語読解力の向上 関心・意欲の観点：ドイツ語やドイツ文学に関し、より興味をいただく。 態度の観点：きちんと下調べをする。

授業の計画（全体） 短い作品を 1 つ読み終える予定でいます。

成績評価方法（総合） 演習点と期末テストの総合点で評価します。

教科書・参考書 教科書：死人に口なし, A. Schnitzler, 東洋出版

メッセージ 辞書を丹念に引き、しっかりと下調べをして下さい。

開設科目	ドイツ語講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

授業の概要 ゲーテ『大コフタ』を読む。 / 検索キーワード カリオストロ、フリーメーソン、招霊術、フランス革命、近代。

授業の一般目標 ドイツ語の基礎を確認しつつ、文学作品を読む楽しみを学ぶ。

授業の計画(全体) 前年度の続きから読む。

成績評価方法(総合) 授業でのプレゼンテーション(朗読、和訳、芝居の世界に対する理解)と期末レポート。

教科書・参考書 教科書: Reclam 文庫のコピーを配布する。 / 参考書: 参考書備考: 博友社『大独和辞典』

開設科目	ドイツ語講読(2年生)	区分	講読	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 基本的には1年次でドイツ語を履修していない学生のためのドイツ語速習コースですが、1年次でドイツ語を学んだ学生も初級文法の復習のために受講して構いません。ただし、受講できるのは2年生のみです。ドイツ語の初歩を市販の入門書を使って一通り学習した後、もしできたら簡単なドイツ語のテキストを読みます。/検索キーワード ドイツ語 初歩 文法 読解

授業の一般目標 ドイツ語の基礎力を養成するとともに、ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に関心を持つこと。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初歩を理解する。 関心・意欲の観点：ドイツ語やドイツ語圏の国々の文化に強い興味を持っている。 態度の観点：自分の力で学び、疑問を解決する態度を身に付ける。 技能・表現の観点：ドイツ語の基本的な表現ができるようになる。

授業の計画(全体) ドイツ語の入門書を用いてドイツ語の初歩を勉強し、もし時間があれば、少し長いドイツ語のテキストを読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、第1課 内容 授業方針の説明、文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第2回 項目 第2課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第3回 項目 第3課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第4回 項目 第4課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第5回 項目 第5課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第6回 項目 第6課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第7回 項目 第7課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第8回 項目 第8課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第9回 項目 第9課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第10回 項目 第10課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第11回 項目 第11課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第12回 項目 第12課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第13回 項目 第13課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第14回 項目 第14課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習
- 第15回 項目 第15課 内容 文法事項の解説と演習 授業外指示 予習、復習

成績評価方法(総合) 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：ドイツ語インフォメーション, 秋田静男(他), 朝日出版社, 2008年 / 参考書：必要に応じて授業で紹介します。

メッセージ 自ら問題意識を持って授業に臨むと、進歩も速いです。授業への積極的な参加を期待しています。なお、共通教育の「ドイツ語中級」の読み替えとする場合は、他の「ドイツ文学購読」を受講してください。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語講読(時事ドイツ語・ドイツ事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

**授業の概要** ドイツ語圏やヨーロッパのアクチュアルなテーマを取り上げて、ドイツ語の実力を身につける。分野毎の語彙を口頭練習やレポート作成により広げながら、より深く認識させていく。できるだけ積極的にクリエイティブに言葉と取り組んでいきたいと思う。

**授業の一般目標** ドイツやヨーロッパ文化圏の現代事情を多様な情報を通じて理解できること。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** ドイツやヨーロッパの現代事情を把握できること。 **関心・意欲の観点:** 言葉や文化への感性を高めること。 **技能・表現の観点:** ドイツ語の資料を収集や分析し、読解できること。

**授業の計画(全体)** アクチュアルな資料を読みながら、できればドイツ語でディスカッションして、ドイツ語圏の事情についての知識を増やし、ドイツ語の実力を鍛える。

**成績評価方法(総合)** 定期的な参加の上に積極的に授業に取り組む姿勢と授業中の意見や質問をすること(20%)、選んだトピックについての発表(30%)やレポート(50%)による。

**教科書・参考書** 教科書: 資料はコピーで配布する

**連絡先・オフィスアワー** tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 月曜日 7・8 時 限(16:00~17:40)

開設科目	ドイツ語会話(2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	DobraFelicitas				

**授業の概要** 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

**授業の一般目標** 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：**教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。**思考・判断の観点：**学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。**関心・意欲の観点：**学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。**技能・表現の観点：**学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。**その他の観点：**本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Lektion 1 内容 聞き取り CD 1 / CD 2 / IX ペ - ジ > テーマ: 聞き取り / 人々の生活 / 仕事 / 趣味 / 勉強 / 家族 / テーマ: 自己紹介 文法: 人称変化 練習: 自己紹介 授業外指示 2 格 練習: 1~5 ペ - ジ とプリント
- 第 2 回 項目 Lektion 1 内容 テ - マ: 数詞 Ordnungszahlen それはだれの物ですか 練習: 自己紹介 文法: 2 格 授業外指示 2 格 練習: 1~5 ペ - ジ とプリント
- 第 3 回 項目 Lektion 1 Lektion 2 の始め 内容 テ - マ: 大学の勉強と休み / 友だち / クラブ 授業外指示 練習: ドイツの学生 とあなたたちの夏休: 6 ペ - ジ
- 第 4 回 項目 Lektion 2 内容 テ - マ: Lebenslauf 大学の勉強と休み / 友だち / クラブ / ドイツの学校 / ドイツの大学 授業外指示 現在完了形 + 過去形 8-9 ペ - ジ 接続詞 "während" "als" "wenn" "weil" + "da" "obwohl" "dass" "ob" 練習: 9-11 ペ - ジ とプリント あなたたちの ライフ子どもの頃 / 学生の頃
- 第 5 回 項目 Lektion 2 Lektion 3 の始め 内容 テ - マ: ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 公共の建物に関する語彙 文法: 定冠詞、序数 授業外指示 お祖父さんのライフ 12 ペ - ジ
- 第 6 回 項目 Lektion 2 内容 テ - マ: ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 授業外指示 復讐 Lektion 1 + 2
- 第 7 回 項目 Lektion 1 と 2 内容 テ - マ: ペ - パ - テスト Lektion 1 と Lektion 2



- 第 8 回 項目 Lektion 3 Lektion 3 内容 テ - マ : 物と物の色 / 物の種類 / よふく / 代名詞の変化 文法 : 動詞の格 支配、前置詞、不定冠詞、否定 冠詞 ( 20-21 ページ ) 人称代名 詞の 1 格と 4 格 授 業外指示 形容詞の変化
- 第 9 回 項目 Lektion 3 内容 テ - マ : 忘れ物 / モデルダやログ + CD 1 1 4 ペ - ジ 授業外指示 練習 : 17 ペ - ジ とプリント
- 第 10 回 項目 Lektion 3 内容 テ - マ : 人びとの洋服と物 ( 色 / 大きさ / 形 : < 1 7 - 1 8 ペ - ジ 授業外指示 Sketch を書いてそして演技をして下さい。
- 第 11 回 項目 Lektion 4 Lektion 5 の始め 内容 テ - マ : ペ - パ - テスト Lektion 3 スタア - ト Lektion 4 テ - マ : 手紙を書く 1 9 + 2 1 ペ - ジ / 比較級 / 最上級 授業外指示 比較級 と 最上 級 手紙を書く 物を比べる 人びとを比べる 練習 : 19 ~ 24 ペ - ジ とプリント
- 第 12 回 項目 Lektion 4 内容 形容詞の比較級 2 格をとる前置詞 練習 2 1 ペ - ジ ~ 2 4 ペ - ジ 授業外指 示 プリント Sketch を書い て、覚えてと 演技して。
- 第 13 回 項目 Lektion 4 と 5 内容 Lektion 4 : テ - マ : ペ - パ - テスト Lektion 4 とスタ - ト Lektion 5 テ - マ : 貴方は朝に何をしますか。風を曳いたかな再帰代名詞 会話テストのアド バイス 授業外指示 会話テストの準備
- 第 14 回 項目 Lektion 5 内容 テ - マ : 天気 / 体 / 病気と体の手入れ / 文法 : 再帰動詞と再帰代名詞 / "es" / 天気 練習 2 7 ペ - ジ 会話テストのアドバイス 授業外指示 会話テストの準備
- 第 15 回 項目 Lektion 5 内容 家族 : 身長、体 Sketch 28 ペ - ジビデオ / 授業外指示 練習 29 ~ 30 ペ - ジ

成績評価方法 (総合) 期末試験 : 筆記テスト ( L.6 ) と会話テスト ( Lektion 1-5 ) ( どちらも定期試験期間 中に 実施 )

教科書・参考書 教科書 : Modelle 2, Andreas Riessland / Ikumi Waragai/Goro Christoph Kimura/Fumiya Hirataka, Sanshusha, 2005 年 ; CD 付き モデル 2 問題発見のドイツ語 / アンド レアス リ - スラント / 藁谷 郁美 / 木村悟郎 クリストフ / 平高 史也 / 東京 : 三修社、2 0 0 5 . ISBN4-384-13076-7 C1084. 2.700 円

連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 山口吉田研究室 オッ フィスアウア - : 水曜日 : 1 2 : 3 0 時 ~ 1 3 : 3 0 時

開設科目	ドイツ語会話(2年生)	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	DobraFelicitas				

**授業の概要** 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

**授業の一般目標** 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点：**教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。**思考・判断の観点：**学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。**関心・意欲の観点：**学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。**技能・表現の観点：**学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。**その他の観点：**本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：書体 / 約束 / 集まりの所を調べる / 来れない理由 / 文法：不定詞と”zu” 再帰代名詞と再帰動詞 4格と3格 ”sich treffen (mit)” ”sich freuen auf” ”jemandem passieren” 授業外指示 会話練習 31 33 ページ
- 第2回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティに何を忘れない方がいいですか。 文法：不定詞と”zu” 授業外指示 会話練習 33 34 ページ
- 第3回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティの準備 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 34(33) ページの会話
- 第4回 項目 Lektion 7 内容 会話テスト Lektion 6 スタート Lektion 7 テーマ：日本 / 日本文化 / 日本語 / 何つもりで日本に行きますか。 文法：不定詞と ”um...zu” ”ohne zu” 授業外指示 何つもりでドイツに行きますか。 39 ページの会話
- 第5回 項目 Lektion 7 内容 テーマ：思いで / 趣味 興味 / 趣味 文法：再帰代名詞と再帰動詞 ”sich interessieren fuer” / ”sich beschaeftigen mit” / ”sich erinnern an” / ”sich kuemmern um” / ”sich freuen auf” / ”sich freuen ueber” 授業外指示 自分のダイヤログを作って下さい。 練習 4 2 ページ
- 第6回 項目 Lektion 8 内容 テーマ：会話テスト Lektion 7 / スタート Lektion 8 : テーマ：大学のキャンパス 色んな建物 / 講義室 / 図書館 / センター / 大学の歴史 文法：受動態 授業外指示 43 ページのボタン と練習

- 第 7 回 項目 Lektion 8 Lektion 8 の始め 内容 テーマ: 大学 受動態に付いての "werden" 未来形の "werden" 何何になるの "werden" 授業外指示 Sketch Sketchuebung 46(45) 47 ページ自分の大学紹介して下さい。
- 第 8 回 項目 Lektion 8 内容 テーマ: "werden" のバリエーション 文法: 分離動詞 (45-47 ページ) 練習: 分離動詞 の会話練習 (ワークシート) (45-47 ページ) 授業外指示 "werden" のバリエーションの会話: 私は何何になりたい。父は私何何をじゃめさせた。明日から必ずドイツ語を勉強します。48 ~ 49 ページの会話練習 / テーマ: 古里
- 第 9 回 項目 Lektion 9 内容 Lektion 8 の会話テストスタート Lektion 9 テーマ: / 愛 / 人びとのことを記述する 文法: 副文 / 関係代名詞 / 名詞になる形容詞 授業外指示 練習 51 ページ
- 第 10 回 項目 Lektion 9 内容 テーマ: 舞姫 (小階森の小説) 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 54(53) ページ 練習 53 ページ
- 第 11 回 項目 Lektion 9 Lektion 9 内容 テーマ: 愛 / 建物 / 所 / 有名な人 Lektion 9 の続き 文法: 復習、所有冠詞 (51-52 ページ) 授業外指示 会話: 貴方のパートナー - 55 ページと 何ですか。(関係代名詞を使って下さい。56 ページ)
- 第 12 回 項目 Lektion 10 内容 テーマ: お願い 文法: 接続法 "koennen" "haben" "sein" "werden" の接続法 授業外指示 クラスの会話パートナー - に何何をお願いして。61 62 ページ
- 第 13 回 項目 Lektion 10 内容 文法: 復習不定詞と "zu" 授業外指示 Sketch Sketchuebung 60 (59) ページ
- 第 14 回 項目 Lektion 11 Lektion 9 Lektion 10 の始め 内容 テスト Lektion 10 スタート Lektion 11 テーマ: もし... Was wuerden sie machen, wenn ...? 文法: 接続法 ペーパー - テストと会話テストのためにアドバイス 授業外指示 練習 63 65 ページ
- 第 15 回 項目 Lektion 11 内容 テーマ: Was wuerden Sie tun, wenn ... 授業外指示 Sketch Sketchuebung 66(65) ページ 練習 67 ページ

成績評価方法 (総合) 定期試験: 筆記試験 (45 分) 会話試験 (定期試験期間中に実施)

教科書・参考書 教科書: Modelle 2, Andreas Riessland, Sanshusha, 2004 年; アンドレアスリ - スランド / 藁谷郁美 / 木村ごろうクリストフ / 平高史也 モデル 2 CD 付き問題発見のドイツ語 三修社: 2005 .ISBN4-384-13076-7 C1084.2700 円

連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) 山口吉田研究室 水曜日 12:30 時 ~ 13:30 時

開設科目	ドイツ語作文	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

授業の概要 ドイツ語の初級文法で学んだ事項を組み合わせ、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねていきます。 / 検索キーワード ドイツ語 文法 独作文

授業の一般目標 ドイツ語の文章を作成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。

思考・判断の観点：日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的にみれるようになる。 関心・意欲

の観点：自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。 技能・表現の観点：ド

イツ語の文を作成する能力を養う。

授業の計画（全体）教科書に沿って練習問題を解きながら、質疑に答え、必要に応じて追加説明して行きます。

成績評価方法（総合）平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。

教科書・参考書 教科書：はじめての独作文, 小林俊明, 同学社, 2008年 / 参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

メッセージ ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。

連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語作文	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

授業の概要 ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。教科書は、受講者のドイツ語力を勘案して決める。

授業の一般目標 ドイツ語作文力の向上。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ドイツ語の初級文法をしっかり身に付けている。 技能・表現の観点：きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。

授業の計画（全体） 独作文の教科書を 1 冊すべてやり終える予定。またレポートも 2～3 回課す予定。

成績評価方法（総合） 授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。

教科書・参考書 教科書：日本の出版社から出ている独作文の教科書を用いるが、どの教科書にするかは受講者の顔ぶれを見てから決定する。

開設科目	フランス語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。

授業の一般目標 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を理解する。とくに、近代フランス語が正確に読めるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代フランス語が成立するまでの流れを把握する。思考・判断の観点：古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を指摘できる。関心・意欲の観点：文献の講読に参加する。技能・表現の観点：文献の読解ができる。

授業の計画（全体）半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を把握していきますが、とくに近代フランス語に関しては、文献を読みます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インド・ヨーロッパ祖語
- 第 2 回 項目 ラテン語
- 第 3 回 項目 ラテン語
- 第 4 回 項目 ラテン語からフランス語へ
- 第 5 回 項目 古フランス語
- 第 6 回 項目 古フランス語
- 第 7 回 項目 古フランス語
- 第 8 回 項目 中期フランス語
- 第 9 回 項目 中期フランス語
- 第 10 回 項目 中期フランス語
- 第 11 回 項目 近代フランス語
- 第 12 回 項目 近代フランス語
- 第 13 回 項目 近代フランス語
- 第 14 回 項目 現代フランス語
- 第 15 回 項目 現代フランス語

成績評価方法（総合）授業への参加：20-40 % レポート：60-80 %

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 フランス語の様々な構文について機能的・認知的観点から分析していきます。

授業の一般目標 フランス語の様々な構文の形式と意味の連関を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：能動文と受動文と再帰構文やジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を説明できる。 思考・判断の観点：構文の制約を説明できる。

授業の計画（全体）能動文と受動文と再帰構文およびジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を捉え、ジェロンディフ構文と現在分詞構文の制約について解明する。

成績評価方法（総合）レポート：70% 授業態度や授業への参加度：30%

教科書・参考書 教科書：コピーを配布します。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 今年度は , Pour une theories des formes semantiques を読んでいきます .

授業の一般目標 フランス語で書かれた論文を読むことによって , フランス語学の知識を深めるだけでなく , 論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます .

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 論文を正確に読むことができる . 思考・判断の観点 : 多義性について説明できる . 態度の観点 : 講読に参加できる .

授業の計画 ( 全体 ) 前期のテキストは次のとおりです . Cadio,P et Visetti, Y. (2001): Pour une theories des formes semantiques.

成績評価方法 ( 総合 ) レポート : 60 % 授業態度や授業への参加度 : 40 %

教科書・参考書 教科書 : テキストのコピーを配布します .

メッセージ 毎回予習してくる事。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30



開設科目	フランス語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 今年度は , Pour une theories des formes semantiques. を読んでいきます .

授業の一般目標 フランス語で書かれた論文を読むことによって , フランス語学の知識を深めるだけでなく , 論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます .

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 論文を正確に読める . 思考・判断の観点 : 多義性について説明できる . 態度の観点 : 講読に参加できる .

授業の計画 ( 全体 ) 後期のテキストは次のとおりです . Cadio,P et Visetti, Y. (2001): Pour une theories des formes semantiques.

成績評価方法 ( 総合 ) レポート : 60 % 授業態度や授業への参加度 : 40 %

教科書・参考書 教科書 : テキストのコピーを配布します .

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	ヨーロッパ文学入門(フランス) II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 中世初期から18世紀までのフランス文学の生成発展およびジャンルの変転を時代背景を踏まえて講述します。文学史上に残る作品を万遍なく取り上げるのではなく、現代的視点と好みにより減り張りをつけます。

授業の一般目標 様々な文学作品に目を開かれるだけでなく、文学の成立する時代背景や状況への理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ジャンルの盛衰の根拠と個々の作品の特質への理解を深める。  
関心・意欲の観点： 現代では忘れられているような文学作品にも関心を向けて、魅力を発見する。

授業の計画(全体) まずフランスという国の成り立ちと文学の誕生から説き起こし、時代の流れに沿って、武勲詩、中世騎士道恋愛物語、ファブリオー、抒情詩、古典劇、エッセイ、書簡体小説、哲学的コント等の特色を述べ、併せてそれぞれの代表的な作品のさわりを紹介する。時間が許せば、19世紀の小説の勃興へのプレリュードも含める。

成績評価方法(総合) 講義内容を踏まえ、関連する作品を選んで読んでもらった上でレポートを提出してもらう。従って、レポート100%

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 講義題目を、「『星の王子さま』読解のこころみ」とし、サン＝テグジュペリの永遠のベストセラーである、童話『星の王子さま』の分析・読解をおこなう。作品を、二つの角度から、すなわち、王子さまの内側と外側からとらえ、王子さまの彷徨と探求の物語および〈ぼく〉の出会いの物語として読みすすめる。そして前者を愛の修業という視点から分析し、後者を愛の福音という視座から読解し、王子さまが誰であるのか、誰でありうるのか、を考察する。愛の修業と福音という観点に立つことによって、『星の王子さま』の総合的かつ統一的な読書を目指す。／検索キーワード 愛、invisible なもの。

授業の一般目標 不朽の名作『星の王子さま』の鑑賞のしかたを学ぶことができれば幸いである。また。この授業では、ひとつの文学作品をとりあげ、それを具体的に分析・読解していくのであるが、その作業をとおして、ひろく文学作品を論じることとは何か、文学研究とは何か、について学ぶことができれば幸いである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：『星の王子さま』の深遠な世界を知り、かいま見ることができる。  
 思考・判断の観点：先行研究を紹介しつつ、授業担当者の解釈を示すので、思考力・判断力を養うことができる。  
 関心・意欲の観点：サン＝テグジュペリの作品世界に関心をもつことができる。

授業の計画（全体） 概要のところでも述べたように、まず、『星の王子さま』を、王子さまの彷徨と探求の物語ととらえ、愛の修業という角度から読解し、つぎに、〈ぼく〉の出会いの物語として、愛の福音という観点から分析する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論。王子さまの出発。内容 導入部の検討
- 第 2 回 項目 王子さまの出発 内容 旅立ちまでの経緯
- 第 3 回 項目 星めぐり 内容 大人批判
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 星の住人たちの孤独
- 第 7 回 項目 同上 内容 王子さまの孤独
- 第 8 回 項目 地球での王子さま 内容 王子さまの孤独の深化
- 第 9 回 項目 同上 内容 キツネの教え
- 第 10 回 項目 同上 内容 王子さまの変貌
- 第 11 回 項目 王子さまとの出会い 内容 〈ぼく〉の孤立と孤独。王子さまと〈ぼく〉との類縁性
- 第 12 回 項目 同上 内容 王子さまと〈ぼく〉とのへだたり。出会いの意味
- 第 13 回 項目 王子さまとは誰か 内容 王子さまの夢幻性
- 第 14 回 項目 同上 内容 王子さまの死
- 第 15 回 項目 同上および結論 内容 聖書とのつながり

成績評価方法（総合） テストまたはレポート（70%）と平常点（30%）との総合。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー 613 研究室、月曜日 14:30～16:00。

開設科目	フランス文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 シャルル・ペローとヤコブ・グリムの『LE PETIT CHAPERON ROUGE』をフランス語で読み、その異同を比較しながらその背景を探る。次いで、Vladimir Propp の Morphologie du conte のさわりの箇所を拾い読みし、物語の形態論について考察する。

授業の一般目標 現代フランス語とは幾分異なる十七世紀の古いフランス語表現を学ぶ。想像力を養うとともに批評的論考をたどる論理的思考力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 想像力によって情景を思い描き心理を読み取る。背景を知る。  
 思考・判断の観点： 研究書を読み考える

成績評価方法 (総合) 定期試験 70% 平素の授業参加度、発表内容 30% の割合で総合評価

教科書・参考書 教科書： LE PETIT CHAPERON ROUGE, 日比野 雅彦 編注, 早美出版社, 2007 年 ; Morphologie du conte, Vladimir Propp, Points, 1970 年 ; 教科書 (2) はプリント配布

開設科目	フランス語講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 『悪の花』『パリの憂鬱』などの作品によって知られる、19世紀フランスの詩人シャルル・ボードレーールについて書かれた論文を読む。論文は日本人によって書かれたものなので平易である。ボードレーールの世界をかいま見、詩あるいは文学作品の鑑賞の仕方を学ぶことができれば幸いである。

授業の一般目標 論文のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ボードレーールの生涯と作品について学ぶ。 思考・判断の観点：論文のフランス語を読むことで、論理的な思考力を養成する。また文学作品の分析力を身につける。

授業の計画(全体) 教科書は、ボードレーールの4編の作品を論じているが、「貧乏人の死」を論じた部分を前半の7週で読み進み、「敵」について書かれた論文を、後半の7週で読む予定にしている。

成績評価方法(総合) 平常点と試験の点数との総合で評価するが、受講者が少人数なので、平常点を重視する。平常点を50%、試験の点数を50%の割合で評価することを考えている。

教科書・参考書 教科書：ボードレーールによるエチュード, 阿部良雄, 佐藤東洋麿, 朝日出版社, 1995年 / 参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的・意欲的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分。

開設科目	フランス語講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 別離をテーマにして編まれた名作アンソロジーを読む。Marcel Pagnol, Alphonse Daudet, Fromentin, Gustave Flaubert, Gide などの作品が抜粋で収録されている。一通り読み終えたら、その中のメリメの小説『カルメン』を原典で読む。オペラ『カルメン』への変貌も視野に入れる。

授業の一般目標 文語に馴染み、動詞の法や時制に習熟する。様々な時代、状況、風土から生まれた文学作品の豊かさに触れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語で書かれた様々な作品の文意や内容を理解する。関心・意欲の観点：異なった時代や世界に対して想像力を働かせる。技能・表現の観点：洗練された表現を身に付ける。

成績評価方法 (総合) 定期試験 70% 平素の訳読の出来映え 30% の割合で総合評価

教科書・参考書 教科書：La Separation 別離, 池澤 克夫 編, 第三書房, 2007 年 / 参考書：メリメの『カルメン』はどのように作られているか, 末松 壽, 九州大学出版会, 2003 年

開設科目	フランス語講読(2年生)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

授業の概要 1年生のときに共通教育の初習外国語としてフランス語を履修しなかった2年生を対象に、フランス語の速習授業を行います。

授業の一般目標 発音の規則を含め、初級文法のあらましを習得し、簡単な発話が可能なこと。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文法規則の体系的な理解 関心・意欲の観点：自主的、規則的な学習 技能・表現の観点：きちんとした正しい発音と発声のフランス語で、応答できる。

授業の計画(全体) テキストは各課が Grammaire, Lecture, Exercices で構成されている。文法の説明の後、練習問題で諸規則を理解し、身に着ける努力をする。また、日常、身の回りで使われる表現を音読や応答練習で覚え、使えるようにする。

成績評価方法(総合) 授業内の課題および発表50% 宿題およびレポート50%

教科書・参考書 教科書：マルチ・フランセ, 森本英夫, 他3名, 朝日出版社, 2007年; 補助教材としてプリント配布

開設科目	フランス語講読(時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 比較的平易なフランス語で書かれたテキストを教科書として用い、最新の社会背景や文化問題など、フランスで起こった様々な時事問題を学ぶ。現代のフランス事情を知り、現代フランスがかかえている問題について考える。

授業の一般目標 時事フランス語の読解力の養成をめざす。初級文法の徹底的な復習もおこなうので、文法的知識の習得も目指す。現代フランス事情への関心を高めることをも目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：時事フランス語の読解力の向上。 思考・判断の観点：異文化に触れることにより、相対的・批判的な視点を持つこと。 関心・意欲の観点：日本人の価値観とは異なった価値観への関心を持つこと。

授業の計画(全体) 教科書は20課から成り、各課には練習問題が付されている。しかし練習問題は省き、本文のみを読み進めることにする。1回の授業につき、1課進むことを目標にし、14課から15課まで読むことにしたい。

成績評価方法(総合) 平常点と試験の点数との総合で評価するが、受講者が少人数なので、平常点に重きを置きたい。平常点を50%、試験の点数を50%の割合で評価したい。

教科書・参考書 教科書：ヴァリエテ・フランセーズ2008, クリスチャン・ボームルー, 朝日出版社, 2008年

メッセージ 毎回の予習が望まれる。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。



開設科目	フランス語講読(時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

授業の概要 社会学的な見地からパリについて書かれた文献を読んでいく。

授業の一般目標 パリおよびフランスの様々な側面を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：パリの歴史と現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。

思考・判断の観点：相対的・複眼的な視点を持てるようになる。 態度の観点：毎回予習して来ること。

授業の計画(全体) Sociologie de Paris を読んでいく。また、ビデオやパソコンを使って、現在フランスが抱えている様々な問題を取り上げ、パリおよびフランスについて見識を高めていく。

成績評価方法(総合) レポート：60% 授業態度や授業への参加度：40%

教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。

メッセージ 毎回予習してくること。

連絡先・オフィスアワー 研究室：人文612, オフィスアワー：木曜日 15:00-16:30

開設科目	フランス語会話	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシール				

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしています。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと（文化、歴史、音楽、雑学）などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。

授業の計画（全体） 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供します。

成績評価方法（総合） 一回の会話定期考査と平均点（授業態度、出席状況など）を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 自作のプリント

開設科目	フランス語会話	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシール				

授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力とを習得することを目標にしている。

授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと（文化、歴史、雑学）などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。

授業の計画（全体） 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。

成績評価方法（総合） 一回の会話定期考査と平均点（授業態度、出席状況など）を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書： 自作プリント

開設科目	フランス語作文	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

授業の概要 フランス語の初級で学んだ基本的な文法的知識を踏まえて、フランス語の文章を作成する訓練をおこなう。比較的平易な教科書を用いるが、そのほかに、ディクテをしたり、自由作文を書いてもらったりする。

授業の一般目標 フランス語の作文能力の向上を目指す。また、簡単な言い回しを覚えることで、会話への道を開くことを、目標とする。さらに、和文仏訳の練習をしながら、初級文法の復習をしたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：フランス語の文の構造および文法事項にかんする知識、日本語にたいする正確な理解を深める。 関心・意欲の観点：自分が思っていることをフランス語で表現するという積極的な意欲を養う。 態度の観点：よりきちんとした、確かなフランス語の文章を作成する能力を養う。

授業の計画（全体）教科書に沿って、練習問題を解いていく。内容は、「…している」「複合過去と半過去」「主語の選択」「受身の表現」「関係代名詞」などからなるが、一回の授業につき、10問程度、解いていくことを目標とする。

成績評価方法（総合） 期末試験の点数（50%）と平常点（50%）との総合で評価する。

教科書・参考書 教科書：仏作文のキー・ポイント、戸部松美、三修社、1998年；プリントを配布する。 / 参考書：授業中、適宜紹介する。

メッセージ 授業への積極的参加を望む。

連絡先・オフィスアワー 613研究室、月曜日14時30分～16時00分まで。

開設科目	フランス語作文	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

授業の概要 動詞を軸に、文型、話法、語法、慣用表現を中心にした仏作文の練習をする。

授業の一般目標 日本語の文を出発点に、直訳のフランス語文に移し変えるのではなく、フランス語の文法規則を踏まえた、自然なフランス語の文を作る練習をする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：動詞の法、時制および話法の理解 思考・判断の観点：異なった視点による物事の把握 技能・表現の観点：正確な表現の実現

授業の計画（全体） フランス語で条件法、接続法を使う文の作文、間接話法の文を作る練習をする。次のステップとして或るトピックに基づいた短文を綴って貰う。

成績評価方法（総合） 授業での課題 50% レポート 50%

教科書・参考書 教科書：中級仏作文, 小林路易, 白水社, 2004年; 適宜プリント配布 / 参考書：はじめての仏作文, 村松 剛, 朝日出版, 2007年

言語文化学科 言語情報学コース

開設科目	一般言語学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 「一般言語学」とは、日本語や英語などの個別言語に特化されることなく、人間の言語一般に当てはまる「ことば」です。この授業では、様々な具体的な言語現象（主に受講生の母語である日本語）を取り上げながら、言語学では言語というものをどのように扱っているかについて、できるだけわかりやすく説明します。皆さんは大なり小なり「ことば」に関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まるでしょうし、今まで間違っていた理解していたことがたくさん見つかるはずです。ことばについての新たな発見の旅をはじめてみませんか？「一般言語学 I」では、言語学の歴史、音のしくみ（音声学および音韻論）、形態のしくみ（形態論）、文法のしくみ（統語論）について、その研究方法について概説します。

授業の一般目標 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。

授業の計画（全体） 言語学の歴史、音声学、音韻論、形態論、統語論。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 言語学の歴史 1
- 第 3 回 項目 言語学の歴史 2
- 第 4 回 項目 一般音声学 1
- 第 5 回 項目 一般音声学 2
- 第 6 回 項目 音韻論 1
- 第 7 回 項目 音韻論 2
- 第 8 回 項目 音韻論 3
- 第 9 回 項目 形態論 1
- 第 10 回 項目 形態論 2
- 第 11 回 項目 形態論 3
- 第 12 回 項目 統語論 1
- 第 13 回 項目 統語論 2
- 第 14 回 項目 統語論 3
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 出席点。課題。期末テスト。

教科書・参考書 教科書：『言語学 第2版』、風間喜代三他、東京大学出版会、2004年 / 参考書：授業中に適宜提示。

メッセージ 毎回ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	一般言語学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 「一般言語学」とは、日本語や英語などの個別言語に特化されることなく、人間の言語一般に当てはまる「ことば」です。この授業では、様々な具体的な言語現象（主に受講生の母語である日本語）を取り上げながら、言語学では言語というものをどのように扱っているかについて、できるだけわかりやすく説明します。皆さんは大なり小なり「ことば」に関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まるでしょうし、今まで間違っていた理解していたことがたくさん見つかるはずで。ことばについての新たな発見の旅をはじめてみませんか？「一般言語学 II」では、語の意味のしくみ（語の意味論）、文の意味のしくみ（文の意味論）、言語のタイプ（言語類型論）、言語の歴史（歴史言語学）について、その研究方法を概説します。

授業の一般目標 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。

授業の計画（全体） 語の意味論、文の意味論、言語類型論、歴史言語学。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 語の意味論 1
- 第 3 回 項目 語の意味論 2
- 第 4 回 項目 語の意味論 3
- 第 5 回 項目 文の意味論 1
- 第 6 回 項目 文の意味論 2
- 第 7 回 項目 文の意味論 3
- 第 8 回 項目 文の意味論 4
- 第 9 回 項目 言語類型論 1
- 第 10 回 項目 言語類型論 2
- 第 11 回 項目 言語類型論 3
- 第 12 回 項目 歴史言語学 1
- 第 13 回 項目 歴史言語学 2
- 第 14 回 項目 歴史言語学 3
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 出席点。課題。期末テスト。

教科書・参考書 教科書：『言語学 第2版』、風間喜代三他、東京大学出版会、2004年 / 参考書：授業中に適宜提示。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	言語類型論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には現在様々な言語が話されています。その数はなんと 6000 を超えています。したがって母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、できるだけ多くの言語を対象に研究する言語類型論という分野の文献を読むことで、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら考察を加えていきます。前期は「語順」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。 3 . 語順の基本的な考え方について理解する。

授業の計画(全体) (1) 印欧語における統語構造の変遷—比較・類型論的考察 (2) 日本語の類型論的位置づけ—特に語順の特徴を中心に— (3) 語順のタイプと線状化の原理 (4) 語順の分布と語順の変化

成績評価方法(総合) 出席点。課題。レポート。

教科書・参考書 教科書：世界言語への視座, 松本克己, 三省堂, 2006 年

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー fl566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語類型論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には現在様々な言語が話されています。その数はなんと 6000 を超えています。したがって母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、できるだけ多くの言語を対象に研究する言語類型論という分野の文献を読むことで、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら考察を加えていきます。後期は様々な言語現象を説明するために必要となる「動詞分類」を取り上げます。

授業の一般目標 1 . 言語の多様性について理解を深める。 2 . 言語の類型化について理解を深める。 3 . 動詞分類について理解する。

授業の計画(全体) (1) 自動詞と他動詞(能動詞と所動詞) (2) 動作動詞と状態動詞 (3) 継続動詞と瞬間動詞 (4) 達成動詞と行為動詞

成績評価方法(総合) 出席点。課題。レポート。

教科書・参考書 教科書：世界言語への視座, 松本克己, 三省堂, 2006 年； 配付資料は適宜用意します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー fl566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** This course is an Introduction to Formal Semantics, the analysis of linguistic meaning. What aspects of the meaning of natural language sentences are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for use by computer. How can linguistic meaning be used with other information stored in a computer?

**授業の一般目標** An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.

**授業の計画(全体)** In this first term, the course will survey the field, and look at how a representation of meaning can be produced automatically from natural language input and then used to get information from databases.

**成績評価方法(総合)** Written examination

**教科書・参考書** 教科書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治著, サイエンス社, 2000年；吉村賢治(著)「自然言語処理の基礎」サイエンス社 2000年 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

**メッセージ** 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 This continues last term's course on Semantics for Computational Linguistics ( 中級程度 )

授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.

授業の計画 ( 全体 ) This second term of the course will concentrate on more detailed analyses of particular areas of meaning, including tense, quantification, word meaning, and discourse coherence.

成績評価方法 ( 総合 ) Written examination

教科書・参考書 教科書：吉村賢治 ( 著 ) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 / 参考書：Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年；吉村賢治 ( 著 ) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 必要に応じてプリントを配布する。

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	茂呂 雄二				

授業の概要 日本語の談話分析似ついでの授業である。談話は私たちの生活のことばであり、生活実践に欠かせないコミュニケーションメディアである。この授業では、日本語の談話使用とそれを媒介にして成り立つ知的なプロセスの理解を、実際の談話やテキストデータを分析する手法とともにまなぶ。

授業の一般目標 日本語談話分析の手法をとおして、談話の機能と、談話を操る人間尾情報処理機構について学ぶことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本語談話の構造、それを操る人間の情報処理機構の社会的な特性を学ぶ。 思考・判断の観点：談話の構造と機能を理解して、人の日常生活似ついでに適格に理解できるようにする。 関心・意欲の観点：談話資料の文字化、解釈作業を通じて、人々の社会的な振る舞いと園認知構造に対して、深い理解をもつ。 態度の観点：談話資料への解釈を続けることで、粘り強い解釈作業ができるようになる。 技能・表現の観点：談話資料の解釈結果を他の学生に提示し理解を得て、わかりやすい表現を学ぶ。

授業の計画（全体） 原則、初日に詳しく説明する。なお、初日の1時限目は必ず参加することが望ましい。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 談話分析とは何か 内容 談話分析の概要
- 第 2 回 項目 社会文化的アプローチとは 内容 談話分析の基本的な間上げ方を理解する
- 第 3 回 項目 社会文化的アプローチとは
- 第 4 回 項目 相互行為分析 内容 相互行為分 s 系について理解する
- 第 5 回 項目 相互行為分析
- 第 6 回 項目 相互行為分析
- 第 7 回 項目 文字化の方法 内容 談話資料作成技術を学ぶ
- 第 8 回 項目 文字化の方法
- 第 9 回 項目 グラウンデッドセオリーアプローチ 内容 分析手法について学ぶ
- 第 10 回 項目 グラウンデッドセオリーアプローチ
- 第 11 回 項目 グラウンデッドセオリーアプローチ
- 第 12 回 項目 トランザクション分析 内容 内容分析について学ぶ
- 第 13 回 項目 トランザクション分析
- 第 14 回 項目 トランザクション分析
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 出席及びレポート等を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：対話と知, 茂呂雄二, 新曜社, 1997 年 / 参考書：授業中に適宜紹介する。

メッセージ 討論と発表の時間を設けますので、積極的に自分の考えを述べてください。

備考 集中授業

開設科目	言語類型論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語や アイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び 比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

**授業の一般目標** ウェールズ語の基礎勉強（初心者向け）を行う。

**授業の計画（全体）** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語や アイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び 比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

**成績評価方法（総合）** テストを判断資料とし、総合的に判断する。

**教科書・参考書** 教科書：テキストを使わずに、入門書、字引、プリント等を配布する。文法に関するテキスト 水谷 宏（著）「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis（著）「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。  
/ 参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介する。

開設科目	言語類型論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

授業の一般目標 ウェールズ語(中級程度)を勉強する。

授業の計画(全体) 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

成績評価方法(総合) テスト及びレポートで判定します。

教科書・参考書 教科書: 文法に関するテキスト 水谷 宏(著)「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト 「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996  
 又は D. Geraint Lewis (著)「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。 / 参考書: 参考文献等は講義中に適宜紹介します。

開設科目	言語類型論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語があります。日本語や皆さんがよく知っているヨーロッパやアジアの言語とは全く異なる言語構造をしている言語もあります。この授業ではエチオピアで話されている主要言語の言語特徴を解説することを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけが独立して存在しているわけではありません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強です。

授業の一般目標 言語の多様性について理解を深める。エチオピアの文化を理解する。言語と文化の関係について理解を深める。

授業の計画(全体) エチオピアの主要言語を取り上げ、その音、文法、語彙などを勉強していきます。

教科書・参考書 教科書：適宜資料(文字・音声)を配付します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	言語類型論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 世界には様々な言語があります。日本語や皆さんがよく知っているヨーロッパやアジアの言語とは全く異なる言語構造をしている言語もあります。この授業ではエチオピアで話されている主要言語の言語特徴を解説することを通して、言語の多様性を理解することを目的とします。また、言語はその話されている地域の文化から言語構造だけが独立して存在しているわけではありません。言語と文化の関係を正しく理解することも言語学の立派な勉強です。

授業の一般目標 言語の多様性について理解を深める。エチオピアの文化を理解する。言語と文化の関係について理解を深める。

授業の計画(全体) エチオピアの主要言語を取り上げ、その音、文法、語彙などを勉強していきます。

教科書・参考書 教科書：適宜資料(文字・音声)を配付します。

メッセージ ノートパソコンを使用します。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語理論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 3年生・4年生対象のゼミ演習です。4年生の卒業論文テーマを題材にして、論文指導を行います。

授業の一般目標 1. 卒業論文のテーマを探す。 2. TeX による論文作成術をマスターする。 3. パワーポイントを使った発表方法に慣れる。

授業の計画(全体) 毎回4年生が順番に自分の研究テーマについてパワーポイントを使って発表し、全員で討論する。3年生は授業を通して自分の卒論テーマを考える。

メッセージ ゼミ生は特別な事情がない限り、必ず履修してください。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語理論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 3年生・4年生対象のゼミ演習です。4年生の卒業論文テーマを題材にして、論文指導を行います。後期はグループ毎に分かれて、卒論テーマについて話し合います。

授業の一般目標 1. 言語データの取り扱い方について学習する。 2. 論文の書き方について学習する。

授業の計画(全体) 集めたデータをどう処理するのか、論文の構成をどうするのか、実践的に勉強していきます。

メッセージ ゼミ生は特別な事情がない限り、必ず履修してください。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

**授業の概要** 初心者向けのプログラミングの授業。基礎からプログラミングを学ぶ。A beginners' course in computer programming using the programming language Prolog. Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data. Running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the data. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in syntax and semantics.

**授業の一般目標** 「プロログ」というプログラミング言語で、プログラミングを基礎から応用までを学ぶ。

**授業の計画(全体)** Week by week we will introduce the basic techniques of Prolog programming and practice using them.

**成績評価方法(総合)** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

**教科書・参考書** 教科書：岡田朋子(著)「Introduction to Prolog Prolog入門」(授業で配布します。)/参考書：松田紀之(著)「PROLOGを楽しむ」オーム社 平成5年中島英之・上田和紀(著)「楽しいプログラミングII」岩波新書 1992 古川康一(著)「Prolog入門」オーム社 1986 黒川利明(著)「Prologのソフトウェア作法」岩波新書 1989

**メッセージ** 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

授業の概要 プロログプログラミング（中級） Advanced programming in Prolog プロログで自然言語処理を応用する (NOT for beginners)

授業の一般目標 自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

授業の計画（全体） プロログで自然言語処理を応用する Natural language programming in Prolog. Three projects: (1) analysis and translation of English and Japanese numbers (2) holding a conversation with the computer in English (3) translation between English and Japanese.

成績評価方法（総合） 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

教科書・参考書 教科書：岡田朋子（著）「Introduction to Prolog Prolog 入門」（授業で配布します。） / 参考書：松田紀之（著）「PROLOGを楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀（著）「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著）「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著）「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 言語研究をする上で、言語の地理的分布という観点はとても大切です。たとえば言語や方言が変化する場合、隣接している言語や方言からの外的要因は無視できません。この授業では、従来扱いが難しかった言語地図をパソコン上で共有できるソフトを使って、デジタル言語地図を作り、そこにデータを入力して分析することを通して、言語接触や言語特徴の解析を行うことを目的とします。

授業の一般目標 1. 言語接触について理解を深める。 2. 言語・方言のデータベースを作る練習をする。 3. ソフトを使って分析する。

授業の計画(全体) (1) GIS(地理情報システム)のソフトの使い方をマスターする。(2) 言語(あるいは方言)毎の言語データベースを構築する。(3) GIS ソフトを使って、分析する。

成績評価方法(総合) 出席。発表。レポート。

メッセージ ノートパソコンを使います。少人数で行います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 言語研究をする上で、言語の地理的分布という観点はとても大切です。たとえば言語や方言が変化する場合、隣接している言語や方言からの外的要因は無視できません。この授業では、従来扱いが難しかった言語地図をパソコン上で共有できるソフトを使って、デジタル言語地図を作り、そこにデータを入力して分析することを通して、言語接触や言語特徴の解析を行うことを目的とします。

授業の一般目標 1 . 言語接触について理解を深める。 2 . 言語・方言のデータベースを作る練習をする。 3 . ソフトを使って分析する。

授業の計画(全体) (1) GIS(地理情報システム)のソフトの使い方をマスターする。(2) 言語(あるいは方言)毎の言語データベースを構築する。(3) GIS ソフトを使って、分析する。

成績評価方法(総合) 出席。発表。レポート。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Ernst S. Boyd				

**授業の概要** COURSE CONTENTS (topics will depend on student interest) Using PROLOG as a database The simplest use of PROLOG is as database. It requires no programming at all. PROLOG list processing functions PROLOG like LISP is primarily a list processing language. List processing is especially important for artificial intelligence and doing advanced problems easily. Generating natural language sentences Using a simple generative grammar and a small dictionary of some nouns, verbs .. natural language sentences can be easily generated Generating sentences in two languages To make equivalent sentences in two languages requires only a small change to the dictionary. Generating sentences together with situations Similar to generating a second language, a representation of a situation or scene to go with a sentence can be easily formed. For example positions of a few blocks. Translation between languages When the sentence in one language is given the second can be formed using the input sentence as a restriction. The sentence generation program can be used almost as is for this. Performing commands on a scene Performing commands involves constructing before and after scenes together with the commands ordering the change. This can be used with any combination of the before scene, the after scene, or the command sentence known from the start.

**メッセージ** 現代科学技術の基本となるコンピュータ言語を楽しく勉強しましょう！



開設科目	フィールド言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

授業の概要 実験音声学の授業です。この授業では、音声分析ソフトを使って通常の言語研究の方法では捉えにくい音声特徴を分析し、体系化することを試みます。なお、題材として今年度は「関西弁」などの方言の生データを取り扱います。

授業の一般目標 音声分析ソフトを使って、音響データを取り扱えるようになる。方言のアクセントやイントネーションをパターンを分析できるようになる。

授業の計画(全体) (1) 音声分析ソフトの使い方をマスターし、音声を録音して分析する。(2) グループに分かれてパワーポイントを使って発表する。

成績評価方法(総合) 出席点。発表。レポート。

教科書・参考書 教科書：『日本語音声学入門改訂版』, 齊藤純男, 三省堂, 2006 年

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー fl566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	フィールド言語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾秀行				

授業の概要 実験音声学の授業です。この授業では、音声分析ソフトを使って通常の言語研究の方法では捉えにくい音声特徴を分析し、体系化することを試みます。なお、題材として今年度は「関西弁」などの方言の生データを取り扱います。

授業の一般目標 1 . 音声分析ソフトを使って、音響データを取り扱えるようになる。 2 . 方言のアクセントやイントネーションを分析できるようになる。

授業の計画(全体) (1) 音声分析ソフトの使い方をマスターし、音声を録音して分析する。(2) グループに分かれてパワーポイントを使って発表する。

成績評価方法(総合) 出席点。発表。レポート。

メッセージ ノートパソコンを使います。

連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp